

平成24年度文学部開講科目

【哲学基礎文化学系】

科目 コード	専修・科目	講義形態	回 生	週 時 間	単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通 (他専修・他学部と共通の科目は、いずれか 1つの科目名を選択して履修登録すること)	頁
5101	001 系共通科目(哲学)	講義	2-4	2	4	通年	金1	伊藤邦武			16
5200	001 系共通科目(西洋古代哲学史)	講義	2-4	2	2	前期	水5	中畑正志	古代	総合人間学部	17
5202	002 系共通科目(西洋古代哲学史)	講義	2-4	2	2	後期	水5	中畑正志	古代	総合人間学部	18
5203	003 系共通科目(西洋中世哲学史)	講義	2-4	2	4	通年	火3	川添信介	中世		19
5205	004 系共通科目(西洋近世哲学史)	講義	2-4	2	4	通年	水3	福谷 茂	近世		20
5301	001 系共通科目(日本哲学史)	講義	2-4	2	4	通年	金5	藤田正勝			21
5401	001 系共通科目(倫理学)	講義	2-4	2	4	通年	金3	水谷雅彦			22
5501	001 系共通科目(宗教学)	講義	2-4	1	4	通年	月5	氣多雅子			23
5601	001 系共通科目(キリスト教学)	講義	2-4	2	4	通年	木1	芦名定道			24
5702	001 系共通科目(美術史学)	講義	2-4	2	4	通年	水3	中村・平川			25
5701	002 系共通科目(美学)	講義	2-4	2	4	通年	水4	吉岡 洋			26
5704	003 系共通科目(美術史学)	講義	2-4	2	4	通年	金1	根立研介			27
5130	002 哲学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水1	伊藤邦武			28
5130	003 哲学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火5	出口康夫			29
5130	004 哲学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火3	西村正秀			30
5140	005 哲学	演習	3-4	2	4	通年	水5	出口康夫			31
5140	006 哲学	演習	3-4	2	4	通年	月4	須藤訓任			32
5140	007 哲学	演習	3-4	2	4	通年	月2	富田恭彦			33
5145	008 哲学	卒論演習	3-4	2	4	通年	金2	伊藤・出口			34
5155	026 哲学・西洋哲学史	講読	2-4	2	4	通年	月2	伊藤・出口・中畑・川添・福谷			35
9990	001 卒業論文(哲学)		4		12			伊藤邦武			
5230	005 西洋哲学史	特殊講義	3-4	2	4	通年	水3	中畑正志	古代		36
5231	006 西洋哲学史	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	金子善彦	古代		37
5233	007 西洋哲学史	特殊講義	3-4	2	4	通年	火4	加藤雅人	中世		38
5234	008 西洋哲学史	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	山内志朗	中世		39
5235	009 西洋哲学史	特殊講義	3-4	2	4	通年	月5	福谷 茂	近世		40
5235	010 西洋哲学史	特殊講義	3-4	2	4	通年	木4木5	上野 修	近世		41
5236	011 西洋哲学史	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	御子柴 善之	近世		42
5240	012 西洋哲学史	演習	3-4	2	4	通年	金2	中畑正志	古代		43
5240	013 西洋哲学史	演習	3-4 (隔)	4	4	通年	木4木5	中畑正志	古代		44
5240	014 西洋哲学史	演習	3-4	2	4	通年	月3	早瀬 篤	古代	西洋古典学 011	45
5242	015 西洋哲学史	演習	3-4	2	4	通年	月4	川添信介	中世		46
5242	016 西洋哲学史	演習	3-4	2	4	通年	金5	川添信介	中世		47
5242	017 西洋哲学史	演習	3-4	2	4	通年	木3	横田蔵人	中世		48
5242	018 西洋哲学史	演習	3-4 (隔)	4	4	通年	木3木4	川添信介	中世		49
5244	019 西洋哲学史	演習	3-4	2	4	通年	火5	福谷 茂	近世		50
5244	020 西洋哲学史	演習	3-4	2	4	通年	水5	福谷 茂	近世		51
5244	021 西洋哲学史	演習	3-4 (隔)	4	4	通年	金4金5	福谷 茂	近世		52
5244	022 西洋哲学史	演習	3-4	2	4	通年	火4	山脇雅夫	近世		53
5250	023 西洋哲学史	講読	2-4	2	4	通年	木3	早瀬 篤	古代		54
5251	024 西洋哲学史	講読	2-4	2	2	前期	水2	チエシユコ, マルティン	古代	◎西洋古典学 012	55
5251	025 西洋哲学史	講読	2-4	2	2	後期	水2	チエシユコ, マルティン	古代	◎西洋古典学 013	56
5155	026 哲学・西洋哲学史	講読	2-4	2	4	通年	月2	伊藤・出口・中畑・川添・福谷	古代		57
9990	002 卒業論文(西洋古代哲学史)		4		12			中畑正志			
9990	003 卒業論文(西洋中世哲学史)		4		12			川添信介			
9990	004 卒業論文(西洋近世哲学史)		4		12			福谷 茂			
5331	002 日本哲学史	特殊講義	3-4	2	2	前期	月4	藤田正勝			58
5331	003 日本哲学史	特殊講義	3-4	2	2	後期	月4	藤田正勝			59
5331	004 日本哲学史	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	田中久文			60
5331	005 日本哲学史	特殊講義	3-4	2	2	後期	火4	高坂史朗			61
5331	006 日本哲学史	特殊講義	3-4	2	2	後期	水5	林 晋		◎情報・史料学 004	62

科目 コード	専修・科目	講義形態	回 生	週 時 間	単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通 (他専修・他学部と共通の科目は、いずれか 1つの科目名を選択して履修登録すること)	頁
5340	007	日本哲学史	演習	3-4	2	4	通年	火2	秋富克哉		64
5340	008	日本哲学史	演習	3-4	2	4	通年	水4	芦名定道	◎キリスト教学 006	65
5340	009	日本哲学史	演習	3-4	2	4	通年	金2	林 晋	◎情報・史科学 012	66
5340	010	日本哲学史	演習	4	(隔)4	4	通年	金3金4	藤田正勝		67
5350	011	日本哲学史	講読	2-4	2	4	通年	木4	水野友晴		68
9990	005	卒業論文(日本哲学史)		4		12			藤田正勝		
5430	002	倫理学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火3	水谷雅彦		69
5430	003	倫理学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月3	亀喜 信		70
5431	004	倫理学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	鈴木 真		71
5440	005	倫理学	演習	3-4	2	4	通年	火4	水谷雅彦		73
5440	006	倫理学	演習	3-4	2	4	通年	金4	水谷雅彦		74
5440	007	倫理学	演習	3-4	2	4	通年	金5	北尾宏之		75
5440	008	倫理学	演習	3-4	2	4	通年	金3	佐藤義之		76
9990	006	卒業論文(倫理学)		4		12			水谷雅彦		
5530	002	宗教学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火4	氣多雅子		77
5530	003	宗教学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水4	杉村靖彦		78
5530	004	宗教学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金2	吉永進一		79
5540	005	宗教学	演習	3-4	2	4	通年	火5	氣多雅子		81
5541	009	宗教学	演習	3-4	2	2	前期	水5	杉村靖彦		82
5541	010	宗教学	演習	3-4	2	2	後期	水5	杉村靖彦		83
5540	007	宗教学	演習II	2-4	(隔)4	4	通年	金3金4	氣多・杉村		84
5550	008	宗教学	講読	3-4	2	4	通年	木4	鶴 真一		85
9990	007	卒業論文(宗教学)		4		12			杉村靖彦他		
5630	002	キリスト教学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水3	芦名定道		86
5630	003	キリスト教学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火5	芦名定道		87
5630	004	キリスト教学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火4	手島勲矢		88
5631	005	キリスト教学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	津田謙治		89
5640	006	キリスト教学	演習	3-4	2	4	通年	水4	芦名定道	日本哲学史 008	90
5641	007	キリスト教学	演習	3-4	2	2	後期	金4	芦名定道		91
5640	008	キリスト教学	演習	3-4	2	4	通年	水5	堀川敏寛		92
8068	125	キリスト教学	語学	3-4	2	2	通年	火3	手島勲矢	ヘブライ語 学部共通科目 西南アジア史学 125	93
9990	008	卒業論文(キリスト教学)		4		12			芦名定道		
5730	004	美学美術史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水2	吉岡 洋		94
5730	005	美学美術史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水3	根立研介		95
5730	006	美学美術史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木2	平川佳世		96
5730	007	美学美術史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金3	中村俊春		97
5730	008	美学美術史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金3	宇佐美文理	◎中国哲学史 002	98
5730	009	美学美術史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月3	篠原資明	◎人間・環境学研究科	99
5730	010	美学美術史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火3	岡田暁生	◎ドイツ語ドイツ文学 007	100
5730	011	美学美術史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木4	安田篤生		101
5731	012	美学美術史学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	伊藤大輔		102
5740	013	美学美術史学	演習I	3-4	2	4	通年	火2	中村・根立・平川		103
5742	014	美学美術史学	演習II	3-4	2	4	通年	水5	中村・平川		104
5742	015	美学美術史学	演習II	3-4	2	4	通年	金2	平川佳世		105
5742	016	美学美術史学	演習II	3-4	2	4	通年	月2	永井隆則		106
5742	017	美学美術史学	演習II	2-4	2	4	通年	木1	杉山卓史		107
5744	018	美学美術史学	演習III	3-4	2	4	通年	金4	中村・根立・吉岡・平川		108
5751	019	美学美術史学	講読	2-4	2	4	通年	木2	田中・高井		109
9990	009	卒業論文(美学美術史学)		4		12			根立研介		
1301	001	系共通科目(国語学)	講義	2-4	2	4	通年	木2	大槻 信		110
1303	002	系共通科目(国文学)	講義	2-4	2	4	通年	金1	金光桂子		111
1401	001	系共通科目(中国語学)	講義	2-4	2	4	通年	水5	木津祐子		112
1403	002	系共通科目(中国文学)	講義	2-4	2	4	通年	火5	緑川英樹		113

科目 コード	専修・科目	講義形態	回 生	週 時 間	単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通 (他専修・他学部と共通の科目は、いずれか 1つの科目名を選択して履修登録すること)	頁	
1501	001	系共通科目(中国哲学史)	講義	2-4	2	4	通年	水2	宇佐美文理		114	
1601	001	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)	講義	1-4	2	4	通年	月3	横地・藤井		115	
1701	002	系共通科目(インド哲学史)	講義	1-4	2	4	通年	水4	Acharya・志田		116	
1801	001	系共通科目(仏教学)	講義	1-4	2	4	通年	月2	宮崎 泉		117	
1330	003	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金3	木田章義		118	
1330	004	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金2	大谷雅夫		119	
1330	005	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水4	須田千里	二十世紀学 005 人間・環境学研究所	総合人間学部	120
1330	006	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月2	岡島昭浩		122	
1330	007	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火2	母利司朗		124	
1330	008	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金4	清水康次	二十世紀学 007		125
1331	009	国語学国文学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	塩村 耕		127	
1340	010	国語学国文学	演習	3-4	2	4	通年	水2	木田章義		128	
1340	011	国語学国文学	演習	3-4	2	4	通年	水3	大谷雅夫		129	
1340	012	国語学国文学	演習	3-4	2	4	通年	金5	大槻 信		130	
1340	013	国語学国文学	演習	3-4	2	4	通年	月4	金光桂子		131	
1340	014	国語学国文学	演習	3-4	2	4	通年	火3	森 眞理子		132	
1345	015	国語学国文学	卒論演習	4	2	4	通年	月1	木田・大谷・大槻・金光		133	
1350	016	国語学国文学	講読	2-4	2	4	通年	木3	中村健史		134	
9990	010	卒業論文(国語学国文学)		4		12			大谷 雅夫他			
1431	003	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	2	前期	月2	平田昌司		136	
1431	004	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	2	後期	月2	平田昌司		137	
1430	005	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月4	木津祐子		138	
1430	006	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金2	緑川英樹		139	
1431	007	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	2	前期	金1	高田時雄		140	
1430	008	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火1	井波陵一	中国哲学史 004	141	
1430	009	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木1	池田 巧		142	
1430	010	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火2	道坂昭廣		143	
1447	011	中国語学中国文学	演習	3-4	2	2	前期	水3	平田昌司		144	
1447	012	中国語学中国文学	演習	3-4	2	2	後期	水3	平田昌司		145	
1442	013	中国語学中国文学	演習	3-4	2	4	通年	木2	木津祐子		146	
1444	014	中国語学中国文学	演習	3-4	2	4	通年	火4	二宮 美那子		147	
1445	015	中国語学中国文学	卒論演習	4	(隔)2	2	通年	水2	平田・木津・緑川		148	
1451	016	中国語学中国文学	講読	2-4	2	2	前期	金5	平田昌司		149	
1451	017	中国語学中国文学	講読	2-4	2	2	後期	金5	平田昌司		150	
1461	018	中国語学中国文学	外国人実習	3-4	2	2	通年	木3	蔡 毅		151	
1471	019	中国語学中国文学	語学	2-4	60	2	通年	集中	平田昌司		152	
9990	011	卒業論文(中国語学中国文学)		4		12			平田昌司他			
1530	002	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	4	通年	金3	宇佐美文理	美学美術史学 008	153	
1530	003	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	4	通年	金4	武田時昌		154	
1530	004	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	4	通年	火1	井波陵一	◎中国語学中国文学 008	155	
1530	005	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	4	通年	火4	船山 徹	◎仏教学 003	156	
1531	006	中国哲学史	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	川原秀城		157	
1540	007	中国哲学史	演習	3-4	2	4	通年	金5	宇佐美文理		158	
1540	008	中国哲学史	演習	3-4	2	4	通年	火2	吉本道雅	◎東洋史学 018	159	
1540	009	中国哲学史	演習	3-4	2	4	通年	月4	麥谷邦夫		160	
1540	010	中国哲学史	演習	3-4	2	4	通年	火3	木下鉄矢		161	
1550	011	中国哲学史	講読	2-4	2	4	通年	火5	金 志玟		162	
9990	012	卒業論文(中国哲学史)		4		12			宇佐美 文理			
1633	003	インド古典学	特殊講義	3-4	2	2	前期	木1	横地優子		163	
1633	004	インド古典学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木2	Diwakar Acharya		164	
1633	005	インド古典学	特殊講義	3-4	2	2	前期	火5	VASUDEVA, Somdev		165	
1633	006	インド古典学	特殊講義	3-4	2	2	後期	火5	SANDERSON Alexis		166	
1632	007	インド古典学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水5	藤井正人		167	

科目 コード	専修・科目	講義形態	回 生	週 時 間	単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通 (他専修・他学部と共通の科目は、いずれか 1つの科目名を選択して履修登録すること)	頁
1632	008 インド古典学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金1	八木 徹			169
1633	009 インド古典学	特殊講義	3-4	2	2	前期	金2	堂山 英次郎			170
1633	010 インド古典学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	張本研吾			171
1643	011 インド古典学	演習	3-4	2	4	通年	火1	横地・Acharya・藤井・VASUDEVA			172
1643	012 インド古典学	演習	3-4	2	4	通年	月5	横地優子			173
1643	013 インド古典学	演習	3-4	2	4	通年	火2	Diwakar Acharya			174
1643	014 インド古典学	演習	3-4	2	4	通年	木5	Diwakar Acharya			176
1643	015 インド古典学	演習	3-4	2	4	通年	水2	VASUDEVA, Somdev			177
1643	016 インド古典学	演習	3-4	2	4	通年	木4	VASUDEVA, Somdev			178
1644	017 インド古典学	演習	2-4	2	2	前期	木3	山口周子		仏教学 009	179
1644	018 インド古典学	演習	2-4	2	2	後期	木3	八木綾子		仏教学 010	180
1653	019 インド古典学	講読	2-4	2	2	前期	月4	横地優子			181
1653	020 インド古典学	講読	2-4	2	2	後期	月4	藤井正人			182
1652	021 インド古典学	講読	3-4	2	4	通年	水3	VASUDEVA, Somdev		仏教学 011	183
1652	022 インド古典学	講読	3-4	2	4	通年	金4	佐藤直実		仏教学 012	184
8046	123 インド古典学	語学	2-4	4	2	前期	月5木5	VASUDEVA, Somdev	サンスクリット(4時間前期コース)	学部共通科目 仏教学 123	185
8046	124 インド古典学	語学	2-4	4	2	後期	月5木5	VASUDEVA, Somdev	サンスクリット(4時間後期コース)	学部共通科目 仏教学 124	186
8062	122 インド古典学	語学	1-4	2	2	通年	火2	横地優子	サンスクリット(2時間コース)	学部共通科目 西南アジア史学 122	187
8091	135 インド古典学	語学	1-4	2	2	通年	金5	小松久恵	現代インド語(ベンディ)	学部共通科目 西南アジア史学 135	188
9990	013 卒業論文(インド古典学)		4		12			横地優子			
1830	002 仏教学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水4	宮崎 泉			189
1830	003 仏教学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火4	船山 徹		中国哲学史 005	190
1830	004 仏教学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金3	室寺義仁			191
1840	005 仏教学	演習	3-4	2	4	通年	火3	宮崎 泉			192
1841	006 仏教学	演習	3-4	2	2	後期	金2	志賀浄邦			193
1841	007 仏教学	演習	3-4	2	2	前期	金2	佐藤直実			194
1840	008 仏教学	演習	3-4	2	4	通年	月3	加納和雄			195
1841	009 仏教学	演習	2-4	2	2	前期	木3	山口周子		◎インド古典学 017	196
1841	010 仏教学	演習	2-4	2	2	後期	木3	八木綾子		◎インド古典学 018	197
1850	011 仏教学	講読I	3-4	2	4	通年	水3	VASUDEVA, Somdev		◎インド古典学 021	198
1852	012 仏教学	講読II	3-4	2	4	通年	金4	佐藤直実		◎インド古典学 022	199
8078	127 仏教学	語学	3-4	2	2	通年	月1	高橋慶治	チベット語(初級)	学部共通科目	200
8079	128 仏教学	語学	2-4	2	2	通年	金3	宮崎 泉	チベット語(中級)	学部共通科目	201
8046	123 仏教学	語学	2-4	4	2	前期	月5木5	VASUDEVA, Somdev	サンスクリット部(4時間前期コース)	学部共通科目 仏教学 123	202
8046	124 仏教学	語学	2-4	4	2	後期	月5木5	VASUDEVA, Somdev	サンスクリット部(4時間後期コース)	学部共通科目 仏教学 124	203
9990	014 卒業論文(仏教学)		4		12			宮崎 泉			
3100	001 系共通科目(西洋古典学)	講義	1-4	2	2	前期	金5	チエシユコ, マルティン			204
3102	002 系共通科目(西洋古典学)	講義	1-4	2	2	後期	金5	チエシユコ, マルティン			205
3202	001 系共通科目(スラブ語学スラブ文学)	講義	1-4	2	2	前期	水5	佐藤昭裕			206
3202	002 系共通科目(スラブ語学スラブ文学)	講義	1-4	2	2	後期	水5	佐藤昭裕			207
3302	001 系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)	講義	1-4	2	2	前期	金2	松村朋彦			208
3302	002 系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)	講義	1-4	2	2	後期	金2	松村朋彦			209
3403	001 系共通科目(英文学)	講義	2-4	2	4	通年	金2	廣田篤彦			210
3401	002 系共通科目(英語学)	講義	1-4	2	4	通年	水4	家入葉子			211
3501	001 系共通科目(アメリカ文学)	講義	2-4	2	4	通年	月3	森 慎一郎			212
3601	001 系共通科目(フランス語学)	講義	2-4	2	4	通年	水2	田口紀子			213
3604	002 系共通科目(フランス文学)	講義	2-4	2	2	前期	木2	永盛克也			214
3604	003 系共通科目(フランス文学)	講義	2-4	2	2	後期	木2	増田 眞			215
3701	001 系共通科目(イタリア語学イタリア文学)	講義	1-4	2	4	通年	火2	天野 恵			216
3902	001 系共通科目(西洋文学入門)	講義	1	2	2	前期	木5	松村・佐藤・佐々木・森・永盛・天野			217
3130	003 西洋古典学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木2	高橋宏幸			218
3130	004 西洋古典学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水3	チエシユコ, マルティン			219
3130	005 西洋古典学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火4	大西英文			220

科目 コード	専修・科目	講義形態	回 生	週 時 間	単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通 (他専修・他学部と共通の科目は、いずれか 1つの科目名を選択して履修登録すること)	頁	
3131	006 西洋古典学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	大芝芳弘			221	
3131	007 西洋古典学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	師尾晶子		◎西洋史学 010	222	
3140	008 西洋古典学	演習	3-4	2	4	通年	月4	高橋宏幸			223	
3140	009 西洋古典学	演習	3-4	2	4	通年	金4	チエシュコ、マルティン			224	
3140	010 西洋古典学	演習	3-4	2	4	通年	火2	山下修一		西洋史学 011	225	
3140	011 西洋古典学	演習	3-4	2	4	通年	月3	早瀬 篤		◎西洋哲学史 014	226	
3151	012 西洋古典学	講読	2-4	2	2	前期	水2	チエシュコ、マルティン		西洋哲学史 024	227	
3151	013 西洋古典学	講読	2-4	2	2	後期	水2	チエシュコ、マルティン		西洋哲学史 025	228	
3151	014 西洋古典学	講読	2-4	2	2	前期	水4	高橋宏幸			229	
3151	015 西洋古典学	講読	2-4	2	2	後期	水4	高橋宏幸			230	
8050	112 西洋古典学	語学	2-4	2	2	通年	金2	堀川 宏	ギリシア語(2時間コース)	学部共通科目	231	
8051	113 西洋古典学	語学	2-4	4	4	通年	月1木1	広川直幸	ギリシア語(4時間コース)	学部共通科目	232	
8052	114 西洋古典学	語学	2-4	2	2	通年	金3	仲川 章	ラテン語(2時間コース)	学部共通科目	233	
8053	115 西洋古典学	語学	2-4	4	4	通年	月5木5	谷 栄一郎	ラテン語(4時間コース)	学部共通科目	234	
9990	015 卒業論文(西洋古典学)		4		12			高橋 宏幸				
3231	003 スラブ語学スラブ文学	特殊講義	3-4	2	2	前期	月2	佐藤昭裕			235	
3231	004 スラブ語学スラブ文学	特殊講義	3-4	2	2	後期	月2	佐藤昭裕			236	
3230	005 スラブ語学スラブ文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木3	服部文昭		◎総合人間学部 ◎人間・環境学研究科	237	
3230	006 スラブ語学スラブ文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月5	松本賢一			238	
3241	007 スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	2	前期	金3	佐藤昭裕			239	
3241	008 スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	2	後期	金3	佐藤昭裕			240	
3241	009 スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	2	前期	月4	佐藤昭裕			241	
3241	010 スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	2	後期	月4	佐藤昭裕			242	
3240	011 スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	4	通年	木5	Grecko, Valerij			243	
3251	012 スラブ語学スラブ文学	講読	2-4	2	2	前期	金2	佐藤昭裕			244	
3251	013 スラブ語学スラブ文学	講読	2-4	2	2	後期	金2	佐藤昭裕			245	
3260	014 スラブ語学スラブ文学	外国人実習	3-4	2	2	通年	木4	Vinogradova Svetlana			246	
8082	130 スラブ語学スラブ文学	語学	1-4	2	2	通年	金4	森田耕司	ポーランド語(初級I)	学部共通科目	247	
8086	131 スラブ語学スラブ文学	語学	1-4	2	2	通年	金5	森田耕司	ポーランド語(中級I)	学部共通科目	248	
8033	132 スラブ語学スラブ文学	語学	1-4	2	2	通年	金3	Bogna Sasaki	ポーランド語(初級II)	学部共通科目	249	
8086	133 スラブ語学スラブ文学	語学	1-4	2	2	通年	金4	Bogna Sasaki	ポーランド語(中級II)	学部共通科目	250	
9990	016 卒業論文(スラブ語学スラブ文学)		4		12			佐藤昭裕				
3331	003 ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	2	前期	月3	尾野照治		人間・環境学研究科 総合人間学部	251	
3330	004 ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月4	奥田敏広		人間・環境学研究科 総合人間学部	252	
3330	005 ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金4	河崎 靖		人間・環境学研究科 総合人間学部	254	
3330	006 ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木3	Dieter Trauden			255	
3330	007 ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火3	岡田暁生		美学・美術史学 010	256	
3341	008 ドイツ語学ドイツ文学	演習I	3-4	2	2	前期	木5	加藤丈雄			257	
3341	009 ドイツ語学ドイツ文学	演習I	3-4	2	2	後期	水5	松村朋彦			258	
3342	010 ドイツ語学ドイツ文学	演習II	3-4	2	4	通年	火2	松村朋彦			259	
3344	011 ドイツ語学ドイツ文学	演習III	3-4	2	4	通年	金5	松村朋彦			260	
3351	012 ドイツ語学ドイツ文学	講読	2-4	2	2	前期	水3	山崎 明日香			261	
3351	013 ドイツ語学ドイツ文学	講読	2-4	2	2	後期	水3	山崎 明日香			262	
3350	014 ドイツ語学ドイツ文学	講読	2-4	2	4	通年	木4	加賀ラビ			263	
3360	015 ドイツ語学ドイツ文学	外国人実習	2-4	2	2	通年	月2	Dieter Trauden			264	
9990	017 卒業論文(ドイツ語学ドイツ文学)		4		12			松村朋彦				
3430	003 英語学英文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火2	佐々木 徹		アメリカ文学 004	265	
3431	004 英語学英文学	特殊講義	2-4	2	2	前期	金5	家入葉子		アメリカ文学 005	266	
3431	005 英語学英文学	特殊講義	3-4	2	2	前期	水4	若島 正		◎アメリカ文学 002	267	
3431	006 英語学英文学	特殊講義	3-4	2	2	後期	火4	森 慎一郎		◎アメリカ文学 003	268	
3431	007 英語学英文学	特殊講義	3-4	2	2	前期	金3	山梨正明		◎言語学 005 心理学 025	アメリカ文学 007 人間・環境学研究科	269
3430	008 英語学英文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木3	水野尚之		◎アメリカ文学 006	人間・環境学研究科	270
3430	009 英語学英文学	特殊講義	2-4	2	4	通年	木4	西村秀夫		アメリカ文学 010	271	

科目 コード	専修・科目	講義形態	回 生	週 時 間	単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通 (他専修・他学部と共通の科目は、いずれか 1つの科目名を選択して履修登録すること)	頁
3430	010 英語学英文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水2	服部典之		アメリカ文学 011	272
3430	011 英語学英文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月2	林 以知郎		◎アメリカ文学 008	274
3430	012 英語学英文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火3	西谷拓哉		◎アメリカ文学 009	275
3430	013 英語学英文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木1	Michael Jamentz		◎アメリカ文学 013	276
3430	014 英語学英文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月3	Gallimore, Daniel		アメリカ文学 014	277
3430	015 英語学英文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木5	Raphaël Lambert		◎アメリカ文学 012	279
3431	016 英語学英文学	特殊講義	2-4	30	2	前期	集中	Mark Campana		アメリカ文学 015	280
3431	017 英語学英文学	特殊講義	2-4	30	2	前期	集中	Ramisch, Heinrich		アメリカ文学 016	281
3431	018 英語学英文学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	木原善彦		◎アメリカ文学 017	283
3431	027 英語学英文学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木3	谷口一美		アメリカ文学 026	284
3430	028 英語学英文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火3	内田充美		アメリカ文学 027	285
3440	019 英語学英文学	演習I	3-4	2	4	通年	月4	廣田篤彦		アメリカ文学 019	286
3440	020 英語学英文学	演習I	3-4	2	4	通年	月5	森 慎一郎		◎アメリカ文学 018	287
3442	021 英語学英文学	演習II	4	2	4	通年	水3	佐々木 徹			288
3450	022 英語学英文学	講読	2-4	2	4	通年	水5	家入葉子		アメリカ文学 022	289
3450	023 英語学英文学	講読	2-4	2	4	通年	木5	若島 正		◎アメリカ文学 021	290
3450	024 英語学英文学	講読	2-4	2	4	通年	水3	桂山康司		アメリカ文学 023	総合人間学部 291
3460	025 英語学英文学	外国人実習	2-4	2	2	通年	木2	Catherine Ludvik		アメリカ文学 025	292
3460	026 英語学英文学	外国人実習	2-4	2	2	通年	金1	Michael Jamentz		◎アメリカ文学 024	293
9990	018 卒業論文(英語学英文学)		4		12			佐々木 徹			
3531	002 アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	2	前期	水4	若島 正		英語学英文学 005	294
3531	003 アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	2	後期	火4	森 慎一郎		英語学英文学 006	295
3530	004 アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火2	佐々木 徹		◎英語学英文学 003	296
3531	005 アメリカ文学	特殊講義	2-4	2	2	前期	金5	家入葉子		◎英語学英文学 004	297
3530	006 アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木3	水野尚之		英語学英文学 008	人間・環境学研究所 298
3531	007 アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	2	前期	金3	山梨正明		◎言語学 005 心理学 025	英語学英文学 007 人間・環境学研究所 299
3530	008 アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月2	林 以知郎		英語学英文学 011	300
3530	009 アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火3	西谷拓哉		英語学英文学 012	301
3530	010 アメリカ文学	特殊講義	2-4	2	4	通年	木4	西村秀夫		◎英語学英文学 009	302
3530	011 アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水2	服部典之		◎英語学英文学 010	303
3530	012 アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木5	Raphaël Lambert		英語学英文学 015	305
3530	013 アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木1	Michael Jamentz		英語学英文学 013	306
3530	014 アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月3	Gallimore, Daniel		◎英語学英文学 014	307
3531	015 アメリカ文学	特殊講義	2-4	30	2	前期	集中	Mark Campana		◎英語学英文学 016	309
3531	016 アメリカ文学	特殊講義	2-4	30	2	前期	集中	Ramisch, Heinrich		◎英語学英文学 017	310
3531	017 アメリカ文学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	木原善彦		英語学英文学 018	312
3531	026 アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木3	谷口一美		◎英語学英文学 027	313
3530	027 アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火3	内田充美		◎英語学英文学 028	314
3540	018 アメリカ文学	演習I	3-4	2	4	通年	月5	森 慎一郎		英語学英文学 020	315
3540	019 アメリカ文学	演習I	3-4	2	4	通年	月4	廣田篤彦		◎英語学英文学 019	316
3542	020 アメリカ文学	演習II	4	2	4	通年	火5	若島 正			317
3550	021 アメリカ文学	講読	2-4	2	4	通年	木5	若島 正		英語学英文学 023	318
3550	022 アメリカ文学	講読	2-4	2	4	通年	水5	家入 葉子		◎英語学英文学 022	319
3550	023 アメリカ文学	講読	2-4	2	4	通年	水3	桂山康司		◎英語学英文学 024	総合人間学部 320
3560	024 アメリカ文学	外国人実習	2-4	2	2	通年	金1	Michael Jamentz		英語学英文学 026	321
3560	025 アメリカ文学	外国人実習	2-4	2	2	通年	木2	Catherine Ludvik		◎英語学英文学 025	322
9990	019 卒業論文(アメリカ文学)		4		12			若島 正			
3630	004 フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水4	田口紀子			323
3630	005 フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金3	増田 眞			324
3631	006 フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	2	前期	月4	永盛克也			325
3631	007 フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	2	後期	月4	永盛克也			326
3631	008 フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	2	前期	木3	エリック・アヴォカ			327
3631	009 フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木3	エリック・アヴォカ			328

科目 コード	専修・科目	講義形態	回 生	週 時 間	単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通 (他専修・他学部と共通の科目は、いずれか 1つの科目名を選択して履修登録すること)	頁
3630	010	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水5	大浦康介		329
3630	011	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木5	王寺賢太	西洋史学 006	330
3630	012	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水3	稲垣直樹	人間・環境学研究科 総合人間学部	331
3630	013	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月3	中畑寛之		333
3631	014	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	吉田典子		334
3640	015	フランス語学フランス文学	演習I	3-4	2	4	通年	月2	増田・永盛		335
3642	016	フランス語学フランス文学	演習II	3-4	2	4	通年	火3	田口紀子		336
3644	017	フランス語学フランス文学	演習	3-4	2	4	通年	火2	増田 眞		337
3645	018	フランス語学フランス文学	演習	3-4	2	2	前期	木4	エリック・アヴオカ		338
3645	019	フランス語学フランス文学	演習	3-4	2	2	後期	木4	エリック・アヴオカ		339
3651	020	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	2	前期	金4	永盛克也		340
3651	021	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	2	後期	金4	永盛克也		341
3651	022	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	2	後期	火2	多賀 茂	総合人間学部	342
3650	023	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	4	通年	金2	久保昭博		343
3651	024	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	2	前期	木3	津森圭一		344
3651	025	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	2	後期	木3	橋本知子		345
3660	026	フランス語学フランス文学	外国人実習	3-4	2	2	通年	火4	エリック・アヴオカ		346
9990	020	卒業論文(フランス語学フランス文学)		4		12			田口紀子他		
3730	002	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金4	天野 恵		347
3730	003	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水3	ダニエラ・シャロム・ヴァーガータ		348
3730	004	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水5	ダニエラ・シャロム・ヴァーガータ		349
3730	005	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火2	村瀬有司		350
3731	006	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	長神 悟		351
3740	007	イタリア語学イタリア文学	演習	3-4	(隔)4	4	通年	木3木4	天野・ヴァーガータ		352
3740	008	イタリア語学イタリア文学	演習	3-4	2	4	通年	金2	天野 恵		353
3740	009	イタリア語学イタリア文学	演習	3-4	2	4	通年	火4	天野 恵		354
3750	010	イタリア語学イタリア文学	講読	2-4	2	4	通年	水4	天野 恵	西洋史学 026 基礎現代文化学系 011	355
3750	011	イタリア語学イタリア文学	講読	2-4	2	4	通年	木5	河合成雄		356
3760	012	イタリア語学イタリア文学	外国人実習	3-4	2	2	通年	火3	ダニエラ・シャロム・ヴァーガータ		357
8054	116	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	2	2	通年	火4	長谷川信弥	スペイン語(初級) 学部共通科目	358
8055	117	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	2	2	通年	火5	長谷川信弥	スペイン語(中級) 学部共通科目	359
8057	118	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	4	4	通年	火3金2	菅野 類	イタリア語(初級4時間コース) 学部共通科目	360
8059	119	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	2	2	通年	火5	ダニエラ・シャロム・ヴァーガータ	イタリア語(中級) 学部共通科目	361
9990	021	卒業論文(イタリア語学イタリア文学)		4		12			天野 恵		
6601	001	系共通科目(日本史学)	講義	2-4	2	4	通年	火2	勝山清次		362
6701	001	系共通科目(東洋史学)	講義	2-4	2	4	通年	水1	杉山正明		363
6801	001	系共通科目(西南アジア史学)	講義	2-4	2	4	通年	火3	井谷綱造		364
6901	001	系共通科目(西洋史学)	講義	2-4	2	4	通年	火1	服部良久		365
7001	***	系共通科目 (考古学)	講義	1-4	2	4	通年		開講せず		
7003	001	系共通科目 (先史学)	講義	1-4	2	4	通年	火1	泉 拓良		366
6630	002	日本史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水1	横田冬彦		367
6630	003	日本史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火3	吉川真司		368
6631	004	日本史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	金4	谷川 穰		369
6630	005	日本史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木3	元木泰雄		370
6630	006	日本史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火4	岩城卓二		371
6630	007	日本史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月3	岩崎奈緒子		372
6630	008	日本史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金2	原田敬一	現代史学 014 二十世紀学 012	373
6630	009	日本史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木4	原田正俊		374
6631	010	日本史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	金4	飯塚一幸	現代史学 012	375
6631	011	日本史学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	橋本義則		376
6630	012	日本史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水2	高木博志	◎現代史学 005	377
6640	013	日本史学	演習I	3-4	2	4	通年	金1	勝山清次		378
6640	014	日本史学	演習I	3-4	2	4	通年	月2	横田冬彦		379

科目 コード	専修・科目	講義形態	回 生	週 時 間	単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通 (他専修・他学部と共通の科目は、いずれか 1つの科目名を選択して履修登録すること)	頁
6640	015 日本史学	演習I	3-4	2	4	通年	水2	吉川真司			380
6640	016 日本史学	演習I	3-4	2	4	通年	月4	谷川 穰			381
6642	017 日本史学	演習II	4	2	4	通年	木1	勝山・横田・吉川・谷川			382
6646	018 日本史学	基礎演習	2-4	2	4	通年	木5	勝山・横田・吉川・谷川			383
6650	019 日本史学	講読	2-4	2	4	通年	水5	吉川真司			384
6650	020 日本史学	講読	2-4	2	4	通年	金3	黒岩康博			385
6651	021 日本史学	講読	2-4	2	2	前期	月4	林 晋	◎基礎現代文化学系 005	西洋史学 022	386
6651	022 日本史学	講読	2-4	2	2	後期	月4	佐藤夏樹	◎基礎現代文化学系 006	西洋史学 023	387
6660	023 日本史学	実習	3-4	4	2	前期	水3水4	勝山・山田			388
6660	024 日本史学	実習	4	4	2	前期	水3水4	勝山・山田			389
6660	025 日本史学	実習	3-4	4	2	後期	水3水4	横田・山田			390
6660	026 日本史学	実習	4	4	2	後期	水3水4	横田・山田			391
9990	022 卒業論文(日本史学)		4		12			勝山清次他			
6730	002 東洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火4	夫馬 進			392
6730	003 東洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月5	杉山正明			393
6730	004 東洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金4	吉本道雅			394
6730	005 東洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月3	中砂明德			395
6730	006 東洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火1	高嶋 航			396
6730	007 東洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金1	松浦 茂	人間・環境学研究所	総合人間学部	397
6730	008 東洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火3	浅原達郎			398
6730	009 東洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月4	岩井茂樹			399
6730	010 東洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金5	富谷 至			400
6730	011 東洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木1	矢木 毅			401
6730	012 東洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木2	辻 正博	人間・環境学研究所	総合人間学部	402
6730	013 東洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金2	木田知生			404
6730	014 東洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金3	佐藤達郎			405
6731	015 東洋史学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	吉澤 誠一郎	現代史学 015		406
6740	016 東洋史学	演習I	3-4	2	4	通年	金3	夫馬 進			407
6742	017 東洋史学	演習II	3-4	2	4	通年	月2	杉山正明			408
6744	018 東洋史学	演習III	3-4	2	4	通年	火2	吉本道雅	中国哲学史 008		409
6746	019 東洋史学	演習IV	3-4	2	4	通年	火5	中砂明德			410
6747	020 東洋史学	演習V	3-4	2	4	通年	火3	高嶋 航			411
6748	021 東洋史学	演習	3-4	2	4	通年	水2	水野直樹	◎現代史学 021	二十世紀学 017	412
6748	022 東洋史学	演習	3-4	2	4	通年	木2	村上 衛	◎現代史学 020	二十世紀学 022	413
6748	026 東洋史学	演習	3-4	2	2	通年	月4	中砂明德			414
6750	023 東洋史学	講読	2-4	2	4	通年	水4	中砂明德			415
6750	024 東洋史学	講読	2-4	2	4	通年	月1	高嶋 航			416
6761	025 東洋史学	実習	3-4	2	2	通年	水3	夫馬・杉山・吉本・中砂・高嶋			417
9990	023 卒業論文(東洋史学)		4		12			夫馬 進他			
6830	002 西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火4	吉田 豊	◎言語学 004		418
6830	003 西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水5	稲葉 穰			419
6830	004 西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木4	谷口淳一			420
6830	005 西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水2	磯貝健一			421
6831	006 西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	水3	川瀬豊子			423
6831	007 西南アジア史学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	菟原 卓			424
6840	008 西南アジア史学	演習I	3-4	2	4	通年	火4	井谷鋼造			425
6842	009 西南アジア史学	演習II	3-4	2	4	通年	月4	井谷鋼造			426
6842	010 西南アジア史学	演習II	3-4	2	4	通年	月3	久保一之			427
6842	011 西南アジア史学	演習II	3-4	2	4	通年	木5	谷口淳一			428
6842	012 西南アジア史学	演習II	3-4	2	4	通年	木1	吉田 豊	◎言語学 015		429
6850	013 西南アジア史学	講読	3-4	2	4	通年	金2	井谷鋼造			430
6850	014 西南アジア史学	講読	3-4	2	4	通年	火5	久保一之			431
6850	015 西南アジア史学	講読	3-4	2	4	通年	月5	東長 靖			432

科目 コード	専修・科目	講義形態	回 生	週 時 間	単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通 (他専修・他学部と共通の科目は、いずれか 1つの科目名を選択して履修登録すること)	頁	
6861	016 西南アジア史学	実習	3-4	2	1	前期	金3	久保一之			433	
6861	017 西南アジア史学	実習	3-4	2	1	後期	水3	井谷鋼造			434	
8080	129 西南アジア史学	語学	2-4	2	2	通年	木2	西尾哲夫	アラブ語(初級)	学部共通科目	435	
8070	126 西南アジア史学	語学	3-4	2	2	通年	水4	森 茂男	イラン語(初級)	学部共通科目	436	
8036	109 西南アジア史学	語学	3-4	2	2	通年	金1	森 若葉	シムール語(初級)	学部共通科目	言語学 109	437
8068	125 西南アジア史学	語学	3-4	2	2	通年	火3	手島勲矢	ヘブライ語	学部共通科目	キリスト教学 125	438
8091	135 西南アジア史学	語学	3-4	2	2	通年	金5	小松久恵	現代インド語(ベンディー)	学部共通科目	インド古典学 135	439
8062	122 西南アジア史学	語学	3-4	2	2	通年	火2	横地優子	サンスクリット(2時間コース)	学部共通科目	インド古典学 122	440
9990	024 卒業論文(西南アジア史学)		4		12			井谷鋼造他				
6930	002 西洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水5	南川高志			441	
6930	003 西洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木1	小山 哲			443	
6930	004 西洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火5	金澤周作			444	
6930	005 西洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木2	伊藤順二		現代史学 010	445	
6930	006 西洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木5	王寺賢太		◎フランス語学フランス文学 011	447	
6930	007 西洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火3	朝治啓三			448	
6930	008 西洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水4	小関 隆		現代史学 013	二十世紀学 014	449
6931	009 西洋史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	月3	森永貴子			450	
6931	010 西洋史学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	師尾晶子		西洋古典学 007	451	
6930	011 西洋史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火2	山下修一		◎西洋古典学 010	452	
6931	012 西洋史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	木4	力久昌幸		◎現代史学 006	二十世紀学 008	453
6931	013 西洋史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木4	力久昌幸		◎現代史学 007	二十世紀学 009	454
6931	014 西洋史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木2	高橋秀寿		◎現代史学 008	二十世紀学 010	455
6940	015 西洋史学	演習I	3-4	2	4	通年	金5	南川高志			456	
6942	016 西洋史学	演習II	3-4	2	4	通年	金5	服部良久			457	
6944	017 西洋史学	演習III	3-4	2	4	通年	金5	小山 哲			458	
6946	018 西洋史学	演習IV	3-4	2	4	通年	金5	金澤周作			459	
6947	019 西洋史学	演習V	4	2	4	通年	金2	服部・南川・小山・金澤			460	
6941	020 西洋史学	演習	2	2	2	前期	水3	服部・南川・小山・金澤	(入門セミナー)		461	
6951	021 西洋史学	講読	2-4	2	4	通年	水2	服部・園屋		基礎現代文化学系 007	462	
6955	022 西洋史学	講読	2-4	2	2	前期	月4	林 晋		◎基礎現代文化学系 005	日本史学 021	463
6955	023 西洋史学	講読	2-4	2	2	後期	月4	佐藤夏樹		◎基礎現代文化学系 006	日本史学 022	464
6953	024 西洋史学	講読	2-4	2	4	通年	月2	伊藤順二		基礎現代文化学系 009	465	
6952	025 西洋史学	講読	2-4	2	4	通年	水1	小山 哲		社会学 018 基礎現代文化学系 008	地理学 018	466
6954	026 西洋史学	講読	2-4	2	4	通年	水4	天野 恵		◎イタリア語学イタリア文学 010	基礎現代文化学系 011	467
6960	027 西洋史学	実習	3-4	2	2	通年	水3	服部・南川・小山・金澤			468	
9990	025 卒業論文(西洋史学)		4		12			服部良久				
7030	002 考古学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月4	上原真人			469	
7030	003 考古学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水4	泉 拓良			470	
7030	004 考古学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火2	吉井秀夫			471	
7030	005 考古学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水3	清水芳裕			472	
7030	006 考古学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月2	岡村秀典			473	
7031	007 考古学	特殊講義	3-4	2	2	前期	木2	山極壽一		理学部	474	
7031	008 考古学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木2	中務真人		理学部	475	
7031	009 考古学	特殊講義	3-4	2	2	前期	金4	杉山淳司			476	
7031	010 考古学	特殊講義	3-4	2	2	後期	金4	矢野健一			478	
7031	011 考古学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	岩永省三			479	
7031	012 考古学	特殊講義	3-4	2	2	後期	火4	小方 登		◎地理学 007	◎総合人間学部	480
7040	013 考古学	演習I	3-4	2	4	通年	月3	上原真人			481	
7042	014 考古学	演習II	3-4	2	4	通年	金2	吉井秀夫			482	
7045	015 考古学	演習III	4	2	4	通年	月1	上原・泉・吉井・阪口			483	
7050	016 考古学	講読	2-4	2	4	通年	水1	富井 眞			484	
7060	017 考古学	実習	2-4	4	4	通年	火3火4	上原・泉・吉井・阪口・千葉・伊藤・富井			485	
9990	026 卒業論文(考古学)		4		12			泉 拓良他				

科目 コード	専修・科目	講義形態	回 生	週 時 間	単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通 (他専修・他学部と共通の科目は、いずれか 1つの科目名を選択して履修登録すること)	頁	
7101	001	系共通科目(心理学)	講義I	2-4	2	4	通年	月3	藤田・櫻井・板倉・蘆田		486	
7105	002	系共通科目(心理学)	講義IIb	3-4	2	2	前期	月2	藤田和生	教育学部	487	
7105	003	系共通科目(心理学)	講義IIc	3-4	2	2	後期	月2	櫻井芳雄	教育学部	488	
7105	004	系共通科目(心理学)	講義IId	3-4	2	2	前期	火2	板倉昭二	教育学部	489	
7105	005	系共通科目(心理学)	講義IIe	3-4	2	2	前期	水3	蘆田 宏	教育学部	490	
7201	001	系共通科目(言語学)	講義I	1-4	2	4	通年	水4	田窪・吉田和・吉田豊		491	
7203	002	系共通科目(言語学)	講義II	1-4	2	4	通年	月3	田窪・吉田和・吉田豊		492	
7301	001	系共通科目(社会学)	講義	2-4	2	4	通年	水2	伊藤公雄	教育学部	493	
7401	001	系共通科目(地理学)	講義	2-4	2	4	通年	火3	小林・石川		494	
7105	006	心理学	講義Ka	2-4	2	2	前期	木1	野村・齊藤・子安	◎教育学部	495	
7105	007	心理学	講義Kb	2-4	2	2	前期	火3	野村理朗	◎教育学部	496	
7105	008	心理学	講義Kc	2-4	2	2	後期	月2	服部雅史	◎教育学部	497	
7131	009	心理学	特殊講義	3-4	2	2	前期	火2	桑原知子	◎教育学部	498	
7131	010	心理学	特殊講義	3-4	2	2	後期	火2	大山泰宏	◎教育学部	499	
7131	011	心理学	特殊講義	3-4	2	2	前期	月1	清水寛之	教育学部	500	
7131	012	心理学	特殊講義	3-4	2	2	前期	火5	越野英哉	教育学部	501	
7131	013	心理学	特殊講義	3-4	2	2	後期	金1	小林哲生	教育学部	502	
7131	014	心理学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	小松英彦	教育学部	503	
7131	015	心理学	特殊講義	3-4	2	2	前期	金4	田中紗織	◎教育学研究科	504	
7131	016	心理学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	足立浩平	◎教育学研究科	505	
7131	017	心理学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	山本淳一	◎教育学研究科	507	
7131	018	心理学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	村田光二	◎教育学研究科	508	
7131	019	心理学	特殊講義	3-4	2	2	前期	水2	杉万俊夫	◎全学共通科目	509	
7131	020	心理学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水2	杉万俊夫	◎全学共通科目	510	
7131	021	心理学	特殊講義	3-4	2	2	前期	水2	齋木 潤	◎全学共通科目	511	
7131	022	心理学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水2	齋木 潤	◎全学共通科目	512	
7131	023	心理学	特殊講義	3-4	2	2	前期	月2	月浦 崇	◎全学共通科目	513	
7131	024	心理学	特殊講義	3-4	2	2	後期	月2	月浦 崇	◎全学共通科目	515	
7131	025	心理学	特殊講義	3-4	2	2	前期	金3	山梨正明	◎言語学 005 アメリカ文学 007	英語学英文学 007 人間・環境学研究科	517
7131	026	心理学	特殊講義	3-4	2	2	後期	金4	浅田・田邊・大塚・勝原・高岡・源・鹿子木	教育学部	518	
7140	027	心理学	演習I	3-4	2	4	通年	月4	藤田・板倉		520	
7140	028	心理学	演習II	4	2	4	通年	月4	櫻井・蘆田		521	
7150	029	心理学	講読	3-4	2	4	通年	木3	源 健宏		522	
7160	030	心理学	実習I	2-4	4	4	通年	火4火5	藤田・櫻井・板倉・蘆田	教育学部(前期のみ共通)	総合人間学部(前期のみ共通)	523
7162	031	心理学	実習II	2-4	2	2	通年	金3	森崎礼子		524	
7164	032	心理学	実習III	3-4	2	2	通年	木2	藤田・櫻井・板倉・蘆田		525	
9990	027	卒業論文(心理学)		4		12			藤田和生			
7230	003	言語学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金2	吉田和彦		526	
7230	004	言語学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火4	吉田 豊	西南アジア史学 002	527	
7231	005	言語学	特殊講義	3-4	2	2	前期	金3	山梨正明	英語学英文学 007 心理学 025	アメリカ文学 007 人間・環境学研究科	528
7230	006	言語学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月4	梶 茂樹		529	
7230	007	言語学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水2	郡司隆男		530	
7230	008	言語学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火3	上田 功		531	
7230	009	言語学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金3	前田広幸		532	
7230	010	言語学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月5	定延利之		534	
7231	011	言語学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	五十嵐 陽介		535	
7231	012	言語学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水4	齋藤治之		536	
7231	013	言語学	特殊講義	3-4	2	2	前期	水3	B.Vine		537	
7242	014	言語学	基礎演習	2-4	2	4	通年	金3	西村周浩		538	
7240	015	言語学	演習	3-4	2	4	通年	木1	吉田 豊	西南アジア史学 012	539	
7240	016	言語学	演習	3-4	2	4	通年	火5	田窪行則		540	
7240	017	言語学	演習	3-4	2	4	通年	木2	笹間史子		542	
7240	019	言語学	演習	3-4	60	4	前期	集中	田窪行則	社会学 044	543	

科目 コード	専修・科目	講義形態	回 生	週 時 間	単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通 (他専修・他学部と共通の科目は、いずれか 1つの科目名を選択して履修登録すること)	頁
7245	018 言語学	卒論演習	4	2	2	後期	水5	田窪・吉田和・吉田豊			544
8094	136 言語学	語学	2-4	2	2	通年	木2	河崎 靖	オランダ語(初級)	学部共通科目	545
8089	134 言語学	語学	2-4	2	2	通年	金2	塩谷茂樹	モンゴル語(初級)	学部共通科目	546
8036	109 言語学	語学	3-4	2	2	通年	金1	森 若葉	シュメール語(初級)	学部共通科目 西南アジア 109	547
8039	110 言語学	語学	2-4	2	1	前期	火3	井戸根 綾子	スワヒリ語(初級)	学部共通科目 ②アジア・アフリカ地域研究研究科	548
8038	111 言語学	語学	2-4	2	1	後期	火3	井戸根 綾子	スワヒリ語(中級)	学部共通科目 アジア・アフリカ地域研究研究科	549
9990	028 卒業論文(言語学)		4		12			吉田 豊他			
7330	002 社会学	特殊講義	2-4	2	4	通年	木5	伊藤公雄			550
7331	003 社会学	特殊講義	3-4	2	2	前期	月4	落合恵美子			551
7331	004 社会学	特殊講義	2-4	2	2	後期	月4	落合恵美子			552
7330	005 社会学	特殊講義	2-4	2	4	通年	火4	田中紀行			553
7331	006 社会学	特殊講義	2-4	2	2	前期	水2	太郎丸 博			554
7331	007 社会学	特殊講義	2-4	2	2	後期	水2	太郎丸 博			555
7330	008 社会学	特殊講義	2-4	2	4	通年	火4	富永茂樹			556
7331	009 社会学	特殊講義	3-4	2	2	前期	金4	高橋由典	◎人間・環境学研究科	総合人間学部	557
7331	010 社会学	特殊講義	3-4	2	2	前期	火3	吉田 純	情報・史科学 005 総合人間学部	◎人間・環境学研究科	558
7331	011 社会学	特殊講義	3-4	2	2	前期	木1	佐藤卓己	二十世紀学 006 ◎教育学部	現代史学 011	559
7331	012 社会学	特殊講義	3-4	2	2	前期	金3	岩井八郎	◎教育学部		561
7331	013 社会学	特殊講義	3-4	2	2	後期	金3	岩井八郎	◎教育学部		562
7330	014 社会学	特殊講義	3-4	4	4	前期	月4水4	新川敏光	◎法学部		563
7331	015 社会学	特殊講義	3-4	2	2	後期	火2	若林直樹	◎経済学部		564
7331	016 社会学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	秋津元輝	◎農学部		566
7330	017 社会学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火2	小野寺 史郎	◎基礎現代文化学系 010	地理学 019	567
7330	018 社会学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水1	小山 哲	◎西洋史学 025 基礎現代文化学系 008	地理学 018	568
7331	019 社会学	特殊講義	2-4	2	2	前期	火2	森本一彦			569
7331	020 社会学	特殊講義	2-4	2	2	前期	火4	安里和晃			570
7331	024 社会学	特殊講義	3-4	2	2	後期	金2	中野康人			571
7331	025 社会学	特殊講義	2-4	2	2	前期	木2	天田城介			572
7331	026 社会学	特殊講義	2-4	(隔)4	2	後期	木4木5	ジャンクラーヌ・ベルト			574
7331	027 社会学	特殊講義	2-4	30	2	前期	集中	内山 節			576
7331	028 社会学	特殊講義	2-4	2	2	後期	木2	立木茂雄			577
7331	029 社会学	特殊講義	2-4	4	2	前期	木3木4	Koikari Mire・Lan Pei-Chia			579
7331	030 社会学	特殊講義	2-4	4	2	後期	木3木4	Korhonen Ari Pekka・Yang Der-Ruey			580
7331	031 社会学	特殊講義	2-4	2	2	前期	木2	伊藤公雄			581
7331	032 社会学	特殊講義	2-4	2	2	後期	木2	伊藤公雄			582
7330	033 社会学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水2	小林致広	◎地理学 002		583
7330	034 社会学	特殊講義	3-4	4	4	後期	水4水5	福間良明	◎二十世紀学 019	現代史学 024	584
7330	035 社会学	特殊講義	3-4	2	4	後期	木1木2	池谷和信	◎地理学 012		585
7331	043 社会学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	ノッター デイビッド	◎教育学研究科		587
7345	036 社会学	卒論演習	4	2	4	通年	金3	伊藤・松田・落合・田中・太郎丸			588
7340	037 社会学	演習I	3-4	2	4	通年	水3	田中紀行			589
7344	038 社会学	演習II	3-4	2	4	通年	金4	松田素二			590
7344	044 社会学	演習II	2-4	60	4	前期	集中	田窪行則	◎言語学 019		591
7350	039 社会学	講読	3-4	2	4	通年	火5	安里和晃	英書講読		592
7361	040 社会学	実習	3-4	2	2	通年	月3	松田素二			593
7361	041 社会学	実習	3-4	2	2	通年	水4	太郎丸 博			594
7330	042 社会学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月2	鶴飼孝造			596
9990	029 卒業論文(社会学)		4		12			伊藤公雄他			
7430	002 地理学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水2	小林致広		社会学 033	598
7430	003 地理学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金1	石川義孝			599
7430	004 地理学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金3	米家泰作			600
7431	005 地理学	特殊講義	3-4	2	2	後期	金2	堤 浩之	◎理学研究科		601
7430	006 地理学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水3	小島泰雄	◎総合人間学部		602

科目 コード	専修・科目	講義形態	回 生	週 時 間	単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通 (他専修・他学部と共通の科目は、いずれか 1つの科目名を選択して履修登録すること)	頁		
7431	007	地理学	特殊講義	3-4	2	2	前期	火4	小方 登	考古学 012	◎総合人間学部	603	
7431	008	地理学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	若林 芳樹			604	
7431	009	地理学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	杉浦 真一郎			605	
7430	010	地理学	特殊講義	3-4	30	4	前期	集中	今里 悟之			606	
7430	011	地理学	特殊講義	3-4	2	4	通年	火2	吉田容子			607	
7430	012	地理学	特殊講義	3-4	4	4	後期	木1木2	池谷和信	社会学 035		608	
7431	013	地理学	特殊講義	3-4	2	2	後期	月2	大住克博			610	
7440	014	地理学	演習I	3-4	2	4	通年	水3	小林・石川・杉浦・米家			611	
7442	015	地理学	演習II	4	2	4	通年	水4	小林・石川・杉浦・米家			612	
7450	016	地理学	講読	2-4	2	4	通年	火4	小林・石川	[英]		613	
7451	017	地理学	講読	3-4	2	4	通年	月1	杉浦和子	[独]		614	
7452	018	地理学	講読	3-4	2	4	通年	水1	小山 哲	[仏]	◎西洋史学 025 基礎現代文化学系 008	社会学 018	615
7453	019	地理学	講読	3-4	2	4	通年	火2	小野寺 史郎	[中]	◎基礎現代文化学系 010	社会学 017	616
7460	020	地理学	実習	2-4	4	4	通年	月3月4	杉浦・米家			617	
9990	030	卒業論文(地理学)		4		12			杉浦和子他				
8203	001	系共通科目(科学史)	講義	2-4	2	4	通年	火2	伊藤和行			618	
8201	002	系共通科目(科学哲学)	講義	2-4	2	4	通年	金3	伊勢田哲治			619	
8502	001	系共通科目(情報・史料学)	講義	2-4	2	2	前期	水5	林 晋			620	
8502	002	系共通科目(情報・史料学)	講義	2-4	2	2	後期	月5	林 晋			621	
8301	001	系共通科目(二十世紀学)	講義	1-4	(隔)4	4	通年	金3金4	杉本淑彦			622	
8403	001	系共通科目(日本現代史)	講義	1-4	2	4	通年	金2	永井 和			623	
8242	001	系共通科目(基礎現代文化学)	基礎演習I	1-4	2	4	通年	火4	矢田部 俊介			624	
8442	002	系共通科目(基礎現代文化学)	基礎演習II	2-4	2	4	通年	火2	(前)小野澤・(後)永井			626	
8543	003	系共通科目(基礎現代文化学)	情報技術演習I	2-4	2	2	後期	木2	林 晋			627	
8544	004	系共通科目(基礎現代文化学)	情報技術演習II	2-4	2	2	前期	木3	喜多千草			628	
8655	005	系共通科目(基礎現代文化学)	講読I	2-4	2	2	前期	月4	林 晋	西洋史学 022	日本史学 021	630	
8655	006	系共通科目(基礎現代文化学)	講読I	2-4	2	2	後期	月4	佐藤夏樹	日本史学 022	西洋史学 023	631	
8651	007	系共通科目(基礎現代文化学)	講読II	2-4	2	4	通年	水2	服部・園屋	◎西洋史学 021		632	
8652	008	系共通科目(基礎現代文化学)	講読III	2-4	2	4	通年	水1	小山 哲	◎西洋史学 025 地理学 018	社会学 018	633	
8653	009	系共通科目(基礎現代文化学)	講読IV	2-4	2	4	通年	月2	伊藤順二	◎西洋史学 024		634	
8654	010	系共通科目(基礎現代文化学)	講読V	2-4	2	4	通年	火2	小野寺 史郎	地理学 019	社会学 017	635	
8660	011	系共通科目(基礎現代文化学)	講読VI	2-4	2	4	通年	水4	天野 恵	◎イタリヤ美術イタリヤ文学 010	西洋史学 026	636	
8231	003	科学哲学科学史	特殊講義	3-4	2	2	前期	月3	伊藤和行			637	
8231	004	科学哲学科学史	特殊講義	2-4	2	2	後期	月3	伊藤和行			638	
8231	005	科学哲学科学史	特殊講義	3-4	2	2	前期	水2	伊勢田哲治			639	
8231	006	科学哲学科学史	特殊講義	2-4	2	2	後期	水2	伊勢田哲治			640	
8231	007	科学哲学科学史	特殊講義	3-4	2	2	前期	木4	白井哲哉			641	
8231	008	科学哲学科学史	特殊講義	3-4	2	2	後期	木4	斎藤 光			642	
8231	009	科学哲学科学史	特殊講義	3-4	2	2	後期	木3	喜多千草	◎情報・史料学 007 現代史学 016	二十世紀学 013	643	
8231	010	科学哲学科学史	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	中戸川孝治	◎情報・史料学 011		644	
8241	011	科学哲学科学史	演習	3-4	2	2	前期	火3	伊藤和行			646	
8241	012	科学哲学科学史	演習	2-4	2	2	後期	火3	伊藤和行			647	
8241	013	科学哲学科学史	演習	3-4	2	2	前期	水3	伊勢田哲治			648	
8241	014	科学哲学科学史	演習	2-4	2	2	後期	水3	伊勢田哲治			649	
8245	015	科学哲学科学史	卒論演習	4	2	4	通年	金4	伊藤・伊勢田			650	
9990	031	卒業論文(科学哲学科学史)		4		12			伊藤和行				
8531	003	情報・史料学	特殊講義	3-4	2	2	前期	月5	林 晋			651	
8531	004	情報・史料学	特殊講義	3-4	2	2	後期	水5	林 晋	日本哲学史 006		652	
8531	005	情報・史料学	特殊講義	3-4	2	2	前期	火3	吉田 純	◎社会学 010 総合人間学部	人間・環境学研究科	654	
8531	006	情報・史料学	特殊講義	3-4	2	2	前期	金4	小田宗兵衛			655	
8531	007	情報・史料学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木3	喜多千草	二十世紀学 013 現代史学 016	科学史・科学哲学 009	656	
8531	008	情報・史料学	特殊講義	3-4	2	2	後期	火3	奥乃 博	◎工学部		657	
8531	009	情報・史料学	特殊講義	3-4	2	2	後期	火5	岡田至弘			659	

科目 コード	専修・科目	講義形態	回 生	週 時 間	単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通 (他専修・他学部と共通の科目は、いずれか 1つの科目名を選択して履修登録すること)	頁
8531	010	情報・史料学	特殊講義	3-4	2	2	前期	木2	師 茂樹		660
8531	011	情報・史料学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	中戸川孝治	科学史・科学哲学 010	661
8540	012	情報・史料学	演習	3-4	2	4	通年	金2	林 晋	日本哲学史 009	663
8540	013	情報・史料学	演習	3-4	2	4	通年	金5	林 晋		664
8545	014	情報・史料学	卒論演習	4	2	4	通年	火1	林 晋		665
9990	032	卒業論文(情報・史料学)		4		12			林 晋		
8330	002	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月3	小野澤 透	◎現代史学 002	666
8330	003	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水4	Brian HAYASHI	◎現代史学 003 総合人間学部	◎人間・環境学研究科 667
8330	004	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月2	石川禎浩	◎現代史学 004	668
8330	005	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水4	須田千里	◎国語学国文学 005 ◎人間・環境学研究科	総合人間学部 669
8330	006	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	前期	木1	佐藤卓己	◎社会学 011 ◎教育学部	現代史学 011 671
8331	007	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金4	清水康次	◎国語学国文学 008	673
8331	008	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	前期	木4	力久昌幸	◎現代史学 006	西洋史学 012 675
8331	009	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木4	力久昌幸	◎現代史学 007	西洋史学 013 676
8331	010	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木2	高橋秀寿	◎現代史学 008	西洋史学 014 677
8331	011	二十世紀学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	梶川伸一	◎現代史学 009	678
8330	012	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金2	原田敬一	◎日本史学 008	現代史学 014 679
8331	013	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木3	喜多千草	◎情報・史料学 007 現代史学 016	科学哲学科学史 009 680
8330	014	二十世紀学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水4	小関 隆	◎西洋史学 008	現代史学 013 681
8341	015	二十世紀学	演習I	3-4	2	2	前期	水4	杉本淑彦		682
8341	016	二十世紀学	演習I	3-4	2	2	後期	水4	杉本淑彦		683
8343	017	二十世紀学	演習II	3-4	2	4	通年	水2	水野直樹	◎現代史学 021	東洋史学 021 684
8344	018	二十世紀学	演習II	2-3	2	2	前期	水3	杉本淑彦	現代史学 023	685
8343	019	二十世紀学	演習II	3-4	4	4	後期	水4水5	福間良明	現代史学 024	社会学 034 686
8344	020	二十世紀学	演習II	3-4	月末4	2	前期	木3・金3・4	山登義明	現代史学 025	687
8344	021	二十世紀学	演習II	3-4	30	2	前期	集中	山登義明	現代史学 026	688
8343	022	二十世紀学	演習II	3-4	2	4	通年	木2	村上 衛	◎現代史学 020	東洋史学 022 689
8344	023	二十世紀学	演習II	3-4	2	2	前期	火4	坂本尚志	現代史学 017	690
8344	024	二十世紀学	演習II	3-4	2	2	後期	金2	吉村和真	現代史学 027	691
8344	025	二十世紀学	演習II	3-4	2	2	後期	木4	山口 誠	現代史学 028	692
8344	026	二十世紀学	演習II	3-4	30	2	前期	集中	Dick STEGEWERNs	現代史学 029	694
8344	028	二十世紀学	演習II	3-4	2	2	後期	金4	坂本尚志	現代史学 030	695
8345	027	二十世紀学	卒論演習	4	(隔)4	4	通年	金3金4	杉本淑彦		696
9990	033	卒業論文(二十世紀学)		4		12			杉本淑彦		
8432	002	現代史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月3	小野澤 透	二十世紀学 002	697
8432	003	現代史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水4	Brian Hayashi	二十世紀学 003	◎人間環境学研究科 698
8432	004	現代史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	月2	石川禎浩	二十世紀学 004	699
8432	005	現代史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水2	高木博志	日本史学 012	700
8433	006	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	木4	力久昌幸	二十世紀学 008	西洋史学 012 701
8433	007	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木4	力久昌幸	二十世紀学 009	西洋史学 013 702
8433	008	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木2	高橋秀寿	二十世紀学 010	西洋史学 014 703
8433	009	現代史学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	梶川伸一	二十世紀学 011	704
8432	010	現代史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	木2	伊藤順二	◎西洋史学 005	705
8433	011	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	木1	佐藤卓己	◎社会学 011 ◎教育学部	二十世紀学 006 706
8433	012	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	金4	飯塚 一幸	◎日本史学 010	708
8432	013	現代史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	水4	小関 隆	◎西洋史学 008	二十世紀学 014 709
8432	014	現代史学	特殊講義	3-4	2	4	通年	金2	原田敬一	◎日本史学 008	二十世紀学 012 710
8433	015	現代史学	特殊講義	3-4	30	2	前期	集中	吉澤 誠一郎	◎東洋史学 015	711
8433	016	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	後期	木3	喜多千草	◎情報・史料学 007 二十世紀学 013	科学史・科学哲学 009 712
8433	017	現代史学	特殊講義	3-4	2	2	前期	火4	坂本尚志	◎二十世紀学 023	713
8446	018	現代史学	卒論演習	4	2	4	通年	金4	永井・小野澤		714
8443	019	現代史学	演習I	3-4	2	4	通年	火3	(前)永井・(後)小野澤		715
8447	020	現代史学	演習II	3-4	2	4	通年	木2	村上 衛	東洋史学 022	二十世紀学 022 716

科目 コード	専修・科目	講義形態	回 生	週 時 間	単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通 (他専修・他学部と共通の科目は、いずれか 1つの科目名を選択して履修登録すること)	頁
8033	132 ポーランド語(初級II)	語学	1-4	2	2	通年	金3	Bogna Sasaki			773
8086	133 ポーランド語(中級II)	語学	1-4	2	2	通年	金4	Bogna Sasaki			774
8089	134 モンゴル語(初級)	語学	2-4	2	2	通年	金2	塩谷茂樹			775
8091	135 現代インド語(ヒンディー)	語学	1-4	2	2	通年	金5	小松久恵			776
8094	136 オランダ語(初級)	語学	2-4	2	2	通年	木2	河崎 靖			777
8099	137 英語	語学	2-4	2	2	通年	水2	服部美樹	教職用		778
8099	138 英語	語学	2-4	2	2	通年	水1	N. リー	教職用		779
8041	139 英語論文作成法	演習	2-4	2	2	前期	火4	大崎紀子			781
8041	140 英語論文作成法	演習	2-4	2	2	後期	火4	大崎紀子			782
8043	141 書道	演習	2-4	2	4	通年	金4	日比野 実	教職用		783

《哲学基礎文化学系》

授業科目名 <英訳>	哲学(講義) Philosophy (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 邦武				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	講義
題目	「心」をめぐる哲学的考察								
【授業の概要・目的】									
われわれは人間の心をどのような角度から、どのようなものとして理解すべきなのか。これは根本的な反省的思考を本来の主題とする哲学において、常に大きな関心が払われてきた中心的テーマである。この講義では、歴史上の主要な心の理論を概観するとともに、21世紀の哲学的思考にふさわしい心の見方について検討する。特に取り上げて検討したいと考えているのは、心と身体、環境との関係を包括的に理解しようとするエコロジカルな心の哲学の可能性である。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり2 - 3週の授業をする予定である。 1. 心の働きのマップ 2. 古代ギリシアの理論(プラトン、アリストテレス) 3. 東洋の魂論 4. 意識を基礎においた精神モデル(デカルト) 5. 心身問題(スピノザ、ライプニッツ) 6. カントの超越論的観念論 7. 物自体としての意志(ショーペンハウアー) 8. プラグマティックな心の理論(ジェイムズ) 9. 進化論的宇宙論と心(ベルクソン) 10. エコロジカルな心のモデル									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートおよび出席状況により評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中にプリントを配布する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業後に質問などあれば研究室で対応する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古代哲学史(講義) History of Western Philosophy (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 中畑 正志				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水5	授業形態	講義
題目	西洋古代哲学史講義								
【授業の概要・目的】									
この講義の目的は西洋古代哲学史について基礎的な知識を提供することにある。今年度の前期には、アリストテレス死後のヘレニズム期の哲学の動向を、エピクロス派、ストア派、懐疑派のそれぞれの教説と相互の論争的關係を中心にたどり、哲学の新たな動向を考察する									
【授業計画と内容】									
以下のような内容が論じられる予定である。									
1 ヘレニズム期の哲学の俯瞰									
2 死は何ものでもない：エピクロス主義									
3 宇宙を貫くロゴス：ストア主義									
4 判断保留という生き方：懐疑主義									
5 論争と体系性									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末の試験									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
内山勝利(編) 『『哲学の歴史 2 帝国と賢者』』(中央公論新社)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古代哲学史(講義) History of Western Philosophy (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 中畑 正志				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水5	授業形態	講義
題目	西洋古代哲学史講義 II								
【授業の概要・目的】									
この講義の目的は西洋古代哲学史について基礎的な知識を提供することにある。今年の後期には、ローマ期および古代後期の哲学の動向をたどり、古典期哲学の変容過程を考察する。									
【授業計画と内容】									
以下のような内容が論じられる予定である。									
1 紀元前後：哲学のターニングポイント									
2 ローマの哲人たち									
3 プラトン主義の形成									
4 アリストテレス哲学の復興									
5 新プラトン主義の支配									
6 哲学の制度化									
【履修要件】									
前期の講義を履修していることがきわめて望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
学期末の試験。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 内山勝利編 『哲学の歴史 2 帝国と賢者』(中央公論新社)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋中世哲学史(講義) History of Western Philosophy (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 川添 信介				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	講義
題目	西洋中世哲学史講義								
【授業の概要・目的】									
西洋中世哲学の歴史の大まかな流れについての知識を得るとともに、主要な哲学者の教説について理解することを目的とする。中世哲学は古代哲学やキリスト教と深く連関しているため、それらとの関係についての歴史的な理解を深めることも目標とされる。									
【授業計画と内容】									
13世紀半ばまでの西洋中世哲学史の歴史をごく大まかに概観したのち、トマス・アクィナスの哲学について多少詳細な解説を加える。その後、14世紀と15世紀の諸潮流についてその特徴点を紹介する。具体的には、次のような内容を含むことになる。 (1)西洋中世哲学とキリスト教の関係 (2)13世紀前半までの概要 (3)トマス・アクィナスの哲学 (4)ドゥンス・スコトゥスと存在の問題 (5)ウィリアム・オッカムと唯名論の問題 (6)神秘主義と自然学									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験（筆記）									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
配布する資料などは以下のサイトに掲載する。 Http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/~skawazoe/ オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋近世哲学史(講義) History of Western Philosophy (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 福谷 茂				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	講義
題目	西洋近世哲学史講義								
【授業の概要・目的】									
<p>本年度は西洋近世哲学史講義の第4年度目としてカント哲学からドイツ観念論の哲学への移行を中心として講義する。具体的にはまずカント哲学の簡単なまとめを行なったのち、フィヒテ、シェリング、ヘーゲルの哲学を順に、また相互の比較を行ないながら講義を進める予定である。この時代はドイツ哲学が一気に哲学史のひのき舞台に躍り出た時代である。これらの哲学の展開と相互関係を辿ることは哲学史研究にとってきわめて重要な研鑽となることであり、また現代思想との関係という点からもあらためて興味が蘇ってきつつある時期である。既存の哲学史記述のパラダイムにとらわれず、哲学史ないし形而上学史の幅広い文脈を踏まえて概観したい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>カントからドイツ観念論への時期の哲学の概説にはいろいろなタイプがありうるが、ここでは形而上学の面を重視した論述を試みる。特に従来注目されていなかったコンテクストを発掘し新しいドイツ観念論像の構築を目指したい。またいくつかの重要なテクストを選び、注解を加えて理解の徹底をはかる時間を設ける予定である。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末試験による									
【教科書】									
加藤尚武編『哲学の歴史 7 カントとドイツ観念論』中央公論社									
【参考書等】									
(参考書)									
福谷 茂『カント哲学試論』知泉書館									
ニコライ・ハルトマン『ドイツ観念論の哲学 第一部 フィヒテ、シェリング、ロマン主義』作品社									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(講義) Japanese Philosophy (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 藤田 正勝				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	講義
題目	日本哲学史講義								
【授業の概要・目的】									
日本哲学史研究の意義について考察するとともに、日本哲学史上論じられてきた主要問題について概観し、検討を加える。									
【授業計画と内容】									
最初に総論として日本哲学史研究の意義および方法について考察する。その後、各論として言葉、経験、自己、他者、身体、技術、美、死等の哲学上の諸問題を取りあげ、西田幾多郎や田辺元、九鬼周造、和辻哲郎、三木清、西谷啓治らの思想を手がかりに、哲学的・哲学的に考察する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートにより評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 藤田正勝 『西田幾多郎 生きることと哲学』(岩波新書) 藤田正勝編 『日本近代思想を学ぶ人のために』(世界思想社)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	倫理学(講義) Ethics (Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 水谷 雅彦						
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	講義
題目	倫理学概論								
【授業の概要・目的】									
倫理学という学問分野について、その基礎から講述し、その基本的な知見を獲得することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
前半においては、現代の倫理学の基本的な理論を概説するとともに、行為とはなにかについて論じる。後期においてはいわゆる応用倫理学の各部門について概説するとともに、いくつかの事例について検討する。ただ、本シラバス執筆時から開講まで4ヶ月以上あるので、講義内容、計画は変更される可能性がある。実際の講義計画は初回の講義時に発表するので出席されたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末試験									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	宗教学(講義) Philosophy of Religion (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 氣多 雅子				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	講義
題目	宗教学講義								
【授業の概要・目的】									
宗教学を中心として、宗教研究がどのような歴史を経て、どのような必然性をもって展開してきたかを明らかにすることを通して、宗教という事象に対する理解と、宗教学の可能性についての理解を深める。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について授業をする予定である。1.宗教という概念（概念の成立、多義性、変容） 2.「宗教学」という言葉とその多義性（成立の経緯、研究の諸分野） 3..近代以前の宗教研究の歴史（神話的思惟と哲学的思惟、キリスト教と神学） 4.近世における宗教的状况の変容（宗教改革、近代科学の成立、理神論の登場） 5.宗教学の成立一（カント哲学の意義） 6.宗教学の成立二（シュライアマッハーの思想） 7.宗教学の展開（ドイツ観念論） 8.宗教批判の進展とニヒリズム（フォイエルバッハ、ニーチェ） 9.否定性をはらんだ宗教学（キェルケゴール、ハイデッガー） 10.日本の宗教学（西田幾多郎、波多野誠一、西谷啓治）									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験（筆記）による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
参考文献だけでなく、宗教・思想・文化についての幅広い読書をするのが望ましい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	キリスト教学(講義) Christian Studies (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 芦名 定道				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木1	授業形態	講義
題目	キリスト教学講義								
【授業の概要・目的】									
キリスト教学の主要問題を概説することによって、キリスト教研究の概要を理解し、キリスト教の本質に迫る。									
【授業計画と内容】									
<p>前期のテーマは、「宗教現象としてのキリスト教」であり、現代宗教学の諸方法を用いて行われるキリスト教研究について、その基礎的な内容（信仰、神・宗教経験、象徴）を体系的に論じる。その後、神話論に基づく比較宗教学や儀礼論、宗教心理学を通じたキリスト教研究へと進む予定である。</p> <p>後期のテーマは、「キリスト教思想史の諸問題」である。本年度は、キリスト教思想史の諸問題の中より、平和思想と取り上げる予定であるが、その前提となる聖書の思想やキリスト教史の内容についても、必要な範囲で、詳しい解説が行われる。</p> <p>講義は一回に一つのテーマを扱う仕方で進められる。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期の内容についてはレポート試験（後期初回授業で提出）を、後期の内容に関しては学年末に筆記試験を行う。詳細は、授業にて説明。									
【教科書】									
講義においては、毎回プリントを配付し、同じものを、KULASIS上にアップする。									
【参考書等】									
（参考書） 授業において配付する資料によって、指示。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。質問は、オフィスアワー（木2・金3）を利用するか、メール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美術史学(講義) Art History (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 平川 佳世 文学研究科 教授 中村 俊春				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	講義
題目	西洋美術史入門								
【授業の概要・目的】									
美術史における諸問題の考察を通じて、研究の基礎となる諸々の方法論や思考法に親しむとともに、西洋美術に関する基礎知識を深めることを目指す。									
【授業計画と内容】									
<p>[前期]は、ルーベンスを中心に17世紀前半のアントウェルペン絵画について論じる。アントウェルペンのルーベンスの工房では、ヴァン・ダイクら多くの若者たちが助手としてその制作を補助したが、彼らは後に独立した画家として活躍した際に、どの程度ルーベンスの画風を引き継ぎ、あるいは、どの程度そこから離れて行ったのか。また、この工房で、質の高いルーベンス作品の複製版画が制作されたことも興味深い。こうしたルーベンス工房の問題に加えて、カトリック圏の対抗宗教改革と美術、古代神話および古代美術の受容と美術愛好家など、アントウェルペン派の絵画をさまざまな観点から考察する。[後期]は、バルトロメウス・スプランゲルを中心に16世紀後半のヨーロッパ美術について論じる。スプランゲルは当代随一の芸術愛好家と謳われた神聖ローマ皇帝ルドルフ2世の宮廷画家を務めた画家であり、技巧を凝らした人物表現と複雑な寓意にあふれた神話画や寓意画によって国際的な名声を博した。後期は、このスプランゲルの作風形成に注目する。風景画家のもとで修業を開始した若きスプランゲルが、人物表現を主体とする物語画家に転向し、やがて大成するまでの過程を分析することで、芸術潮流のみならず、社会的・経済的状况など、芸術家を取り巻く様々な問題について考察する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期と後期それぞれについて、講義内容の理解度を確認する筆記試験(ノート等持ち込み不可)を実施し、これらの総合点により成績評価を行う。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 大学所蔵の関連書籍を適宜参照すること									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
関連作品の展覧会等には自主的に足を運び、実作品を鑑賞する機会を持つことが好ましい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学(講義) Aesthetics (Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 吉岡 洋						
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	講義
題目	美学・芸術学の基本概念								
【授業の概要・目的】									
美学・芸術学にかかわるいくつかの基本概念を、歴史的ならびに現代的文脈に照らして理論的に検討してゆく。それにより、美的経験や芸術作品について語るための言葉を獲得することが目的である。									
【授業計画と内容】									
具体的には、「模倣」「引用」「創造」「感情移入」「解釈」といった諸概念に加えて、私たちがふだん用いている「感覚」「感性」「趣味」「批評」「伝統」「判断」といった一見自明に思える言葉を厳密に考察することによって進める。必要に応じて受講者からも検討すべき概念を追加してもらい、ひとつのテーマ当たり平均2回程度の講義を行う計画であるが、扱うテーマの数やそれにかける回数は講義の進行具合によって変動する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。ここで言う平常点とは出席日数のことではなく、講義中に与える課題等の評価を指す。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業関係の即時的情報については、次のTwitterアカウント： http://twitter.com/yoshioka_office を参照してください。 「オフィスアワー」は特に設けませんが、面談希望の人は下に連絡： hysyk56@me.com 基本的に、水・木・金は大学にすることが多いです。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美術史学(講義) Art History (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 根立 研介				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	講義
題目	東アジアの中の日本美術								
【授業の概要・目的】									
日本美術史を学ぶための基礎知識を身に付けるための概説講義。本年度は、日本美術における対外美術の影響を検討していきたい。こうした試みを行うのは、日本美術が絶えず中国などの対外美術の影響を受けながら展開しており、この種のことを理解せずに、日本美術を語ることは出来ないからである。授業は、毎回テーマを決めて飛鳥時代から江戸時代に至る日本美術の対外受容の様相を概観するが、法隆寺金堂釈迦三尊像などの作例を出来るだけ具体的に検討する。また、これとともに、和様の成立など、従来は対外美術受容と無縁であったと考えられてきた日本の美術様式の問題などについても再考を行いたい。									
【授業計画と内容】									
飛鳥時代から江戸時代（7世紀から19世紀）に至る日本美術の対外受容に関する諸問題を講述する。主要な問題点は以下の通りである。 序論 法隆寺金堂釈迦三尊像 広隆寺菩薩半跏像 高松塚古墳壁画と法隆寺金堂壁画 薬師寺金堂薬師三尊像と正倉院宝物 唐招提寺鑑真像 平安初期の密教美術 清凉寺釈迦如来像の請来和様美術の成立 宋代美術と快慶 宋代美術と運慶 肖像における宋代美術の影響 近世美術における中国と西欧の影響 まとめ									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。（論述の内容について、分析の仕方、使用した史料の取り扱いなどを含め総合的に判断する。レポートが100%）									
【教科書】									
なし。毎回、資料配付を行う。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する なし。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業で取り上げる作例は、京都及び奈良に所在するものが多数ある。実見できるものは限られるが、可能なものについては、実際に作例を見ることを強く希望する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

哲学専修

授業科目名 <英訳>	哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 邦武				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水1	授業形態	特殊講義
題目	医学と哲学								
【授業の概要・目的】									
<p>「生と死」「身体と心」「人生の価値」のなど問題は、哲学の基本問題であるとともに、医学の問題でもある。医学は「人間とは何か」という哲学的問題関心をつねにもたざるをえない。講義では医学的研究にも役立つような哲学の基本問題を、歴史的流れに沿って説明する。本年度は特に、人間の「死」という主題について、東西の古典的哲学はどう考えてきたか、また、現代の科学や哲学はどう考えるかを概観する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、1課題あたり2-3週の授業をする予定である。</p> <p>1. 医学と哲学の密接な関係について 2. 古代ギリシアの死生観（プラトン、アリストテレス） 3. 東洋における死の観念（古代インド、中国） 4. 意識としての人間とその身体（デカルト） 5. 心身問題（ライプニッツ、スピノザ） 6. 知識と信仰、不確実な認識の合理的活用（パスカル） 7. 分析哲学における死の取り扱い 8. 実存主義における死の理解 9. 生命論的世界像（ジェームズ、ベルクソン） 10. エコロジカルな人間論（ギブソン）</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートおよび出席状況によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
質問等あがれば授業後に研究室で対応する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 出口 康夫						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	特殊講義
題目	数理哲学研究								
【授業の概要・目的】									
前年度から引き続き、現代数理哲学における様々なトピック、特に担当教員が進めている科学的实在論、統計学の哲学、東洋思想の非古典論理解釈、カントの数学論などを扱います。									
【授業計画と内容】									
【前期】 「科学的实在論論争」を概観しつつ、担当教員が提唱する「活動实在論」の擁護と展開を目指します。扱われる予定のトピックは以下。一つのトピックについて3～5週の授業を行います。 「観測(不)可能性」「測定ネットワーキング」「理論パッチワーク」「反实在論論駁1：ファン・フラースンの構成的経験論」									
【後期】 前期に引き続き「科学的实在論」を扱います。以下のトピックについて、それぞれ3～5週の授業を行います。 「反实在論論駁2：プラグマティズム」「反实在論論駁3：社会構成主義」「活動实在論」 また前期・後期とも、上記以外の数理哲学に関する様々なトピックを適宜取り上げます。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末レポートと平常点評価(出席回数、授業内での発言等にもとづく)									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 中才・美濃編『知識と实在』(世界思想社)ISBN:978-4-7907-1367-8(本書所収の論文、出口康夫「活動实在論の擁護」を参照します。)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)	担当者氏名	滋賀大学 経済学部 准教授 西村 正秀						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	知覚の哲学								
【授業の概要・目的】									
<p>知覚の哲学は認識論と心の哲学の両領域にまたがる分野であり、哲学における重要な一分野をなしている。本講義では、知覚の哲学における諸問題の中から、知覚経験の本性について理解を深める。具体的には、知覚経験はどのような本性を持っているのかという問題を、(1)知覚経験は表象的か関係的か、(2)知覚経験は概念的か非概念的かという観点から検討する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の課題について、1課題あたり2～3週の授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表象としての知覚経験(1)：知覚内容 2. 表象としての知覚経験(2)：様々な志向説 3. 表象としての知覚経験(3)：志向説の問題点 4. 関係としての知覚経験(1)：様々な選言主義 5. 関係としての知覚経験(2)：選言主義の問題点 6. 知覚における指示 7. 概念の諸理論 8. 非概念主義(Dretske, Evans, Peacocke) 9. 概念主義(McDowell, Brewer) 10. 概念主義論争に対する否定的評価 11. 注意と概念主義論争 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートの成績による。									
【教科書】									
講義で使用する資料・論文などはプリントで配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>担当教員との連絡は主にメールによるものとする。担当教員のメールアドレスについては授業時に指示する。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	哲学(演習) Philosophy (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 出口 康夫						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	演習
題目	現代哲学演習								
【授業の概要・目的】									
現代哲学の文献を読むことで、哲学的な文献の読解力と、文献の読解にもとづいて自らの議論を構築する力、即ち「哲学力」を身につけよう！									
【授業計画と内容】									
【前期】 まずは前年度に引き続き、Ian Hacking, Historical Ontology, 2002 を取り上げます。英語圏とフランス語圏にまたがって活躍するハッキングの「本音」が詰まった論文集です。 次に、David Lewis, On the Plurality of Worlds, 1986 の読解を試みます。「20世紀後半最大の分析形而上学者」の呼び声の高いルイスが（例えばガンダムが一年戦争を繰り広げる）可能世界は、この現実世界と同じ意味で実在する、というトンデモな主張を、（やっかいなことに）極めて魅力的な議論を駆使して展開した問題の書です。									
【後期】 前期に引き続いて「ルイス本」の読解を進めます。それが終わり次第、Sergio Sismond, An Introduction to Science Technology Studies, 2nd ed., 2009 の訳読に移ります。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末レポートと平常点（出席、訳の担当、質問等のパフォーマンスなどにもとづく）									
【教科書】									
David Lewis 『On the Plurality of Worlds』 (Blackwell) ISBN:0631224262 (授業開始時に生協で一括購入します。) Ian Hacking 『Historical Ontology』 (Harvard UP) ISBN:0674016076 Sergio Sismondo 『An Introduction to Science and Technology Studies』 (Wiley-Blackwell) ISBN:1405187654									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	哲学(演習) Philosophy (Seminars)	担当者氏名	大阪大学 大学院文学研究科 教授 須藤 訓任						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	Friedrich Nietzsche, Die fröhliche Wissenschaft を読む								
【授業の概要・目的】									
F・ニーチェ(1844-1900)の『愉快な学(悦ばしき知識)』(1882)の第5書を精読する。同著作はニーチェの中期思想から後期思想への橋渡しとして位置づけられるが、その第5書は1887年になって増補されたものである。ニーチェ後期の重要思想が凝縮されたアフォリズム群である。(昨年度の続き)									
【授業計画と内容】									
今年度においては、とくに以下のトピックに留意して、考察を進めたい。 1. 「ドイツ的」なるものの本質について 2. 科学と誠実性の問題 3. 「芸術家」と「俳優」の問題について 4. ロマン主義の問題 5. 「ディオニュソスの」とはいかなるものか 6. 遠近法主義の問題 7. 「よきヨーロッパ人」とは誰か 8. 「大いなる健康」の問題 授業は毎回担当者を指定し、ドイツ語原文の訳読と思想内容上の問題提起を求め、その提起に基づいてディスカッションを展開するという形で進める。									
【履修要件】									
ドイツ語初等文法を履修済みであること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年度末レポート評価									
【教科書】									
テキストはプリントして配布するが、ニーチェに興味のある人は、どの版でもよいので、原本を入手することが望ましい。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	哲学(演習) Philosophy (Seminars)	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 富田 恭彦						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	演習
題目	George Berkeley の Principles を読む								
【授業の概要・目的】									
George Berkeley 著 A Treatise Concerning the Principles of Human Knowledge を原典で読み、その immaterialism がどのような仕方で John Locke の materialism の論理を基盤としていたかを明らかにする。									
【授業計画と内容】									
George Berkeley の母校であるダブリンのトリニティ・コレッジでは、Locke と親交のあった William Molyneux のすすめにより、Locke の Essay を研究することが奨励されていた。Berkeley は、そうした状況下でトリニティ・コレッジで教育を受けた若者の一人であり、Locke 研究者としての面を、彼はしっかりともっていた。本演習では、Berkeley の Principles を原典で読み、彼が Locke の materialism の論理をどのように利用して自らの immaterialism を構築したかを考察しようとするものである。Principles の最初の部分でどのようにして Berkeley が一挙に自らの immaterialism を展開したか。読み解くために必要な Locke に関する情報を順次確認しながら、その論理の基本を確認する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート提出を条件とした上で、平常点（出席と和訳担当）を基本とする。									
【教科書】									
テキストは初回に配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
できれば、Locke の An Essay Concerning Human Understanding を各自読まれることをお奨めします。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	哲学(卒論演習) Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 邦武 文学研究科 准教授 出口 康夫				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	卒論演習
題目	哲学卒論演習								
【授業の概要・目的】									
三、四回生を対象に卒業論文の作成のしかたを身につける授業。論文作成のための資料の探索や読解を容易にするとともに、テキストの読解と論文執筆のためのさまざまな手法についても実地に訓練する。									
【授業計画と内容】									
前期の授業では、論文のテーマの選択をどうするか、テキストや参考書はどうやって探るか、資料の効率的な活用はどうするか、など論文作成の基本的な技法について学習する。そのために、特に卒論作成に役立つような代表的・正統的な哲学テキストを共同で読んで、その解釈や論文への活用の仕方を習得する。後期は、論文作成途中の実際の成果を各自が持ち寄って、互いに発表しあうとともに、相互に意見を交換することで、哲学のさまざまな問題についての意識を深めると同時に、論文を執筆するという行為を多角的な視点から眺め、理解することを目指す。哲学的文章の論述ということに慣れて、読者が読んだときに自然に理解できるとともに、明快な問題意識を共有し、執筆者の思考の深さを感じ得ることができるような論文を完成させることが最終的な目標である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
演習への出席と熱意ある参加態度を評価する。									
【教科書】									
授業初回到指示する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
必要に応じて授業後に個別に対応する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	哲学・西洋哲学史(講読) Philosophy/History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名		文学研究科	教授	伊藤	邦武
						文学研究科	准教授	出口	康夫
						文学研究科	教授	中畑	正志
						文学研究科	教授	川添	信介
						文学研究科	教授	福谷	茂
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	講読
題目	哲学・西洋哲学史入門								
【授業の概要・目的】									
哲学と西洋哲学史の教員によるリレー講読。哲学のテキストの読み方、議論の仕方などの哲学と西洋哲学史を学ぶための基礎的な力を養う。									
【授業計画と内容】									
哲学と西洋哲学史の教員がそれぞれ特定の入門的テキスト（日本語）をとりあげて、教員による説明と参加者による議論をまじえながら読んでいく。授業の内容と担当は以下の通り（以下の2～6の順序は初回の授業までに決定する予定）。									
1 授業の趣旨と進め方についてのガイダンス（全員）									
2 哲学・西洋哲学史研究の方法と倫理（中畑正志）									
3 哲学入門（伊藤邦武・出口康夫）									
4 古代哲学史入門（中畑正志）									
5 中世哲学史入門（川添信介）									
6 近世哲学史入門（福谷茂）									
7 各専修に分かれての授業									
【履修要件】									
平成20年度以後の哲学・西洋哲学史専修の分属者は必修									
【成績評価の方法・基準】									
初回から各専修に分かれておこなう以前の授業（上記1～6）に8割以上出席することが単位認定の必要条件。そのうえで担当教員の一人に提出されるレポートと授業への積極的参加を総合的に評価する。									
【教科書】									
テキストは初回の授業までに哲学・西洋哲学史専修のHP上で知らせる。									
【参考書等】									
（参考書） 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

西洋哲学史専修

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 中畑 正志				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	自己、自己知、自己意識								
【授業の概要・目的】									
昨年度に引き続いて、理論的分析と歴史的探究の両面から自己および自己知、自己意識をめぐる問題群を考察する。									
【授業計画と内容】									
昨年度に引き続いて、自己および自己知、自己意識などの概念理解をめぐる諸問題を取りあげ、現代の哲学的分析の動向（一人称言明の特異性、自己と意識、自己理解と物語性など）を参照しながら、アリストテレスから古代後期に至るまでの自己にかかわる思考をたどり、自己をめぐる諸問題の歴史的な性格も見届けたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート（詳細については授業で説明する）。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)		担当者氏名	首都大学東京 都市教養学部 准教授 金子 善彦					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	アリストテレス哲学における個体の認識								
【授業の概要・目的】									
<p>「個体（たとえばソクラテス）は、感覚を通じて認識される」。この見方は、知の問題を扱う「分析論」から、魂（心）の本質に迫る「魂論」、さらには人間の生き方を問う「倫理学」の問題領域まで、アリストテレスの哲学全般に幅広く浸透していると言っていよい。ところが、不思議なことに、この見方自体を主題的に扱い、踏み込んだ議論を展開した箇所は、現存する著作集のどこにも見当たらない。そのため、私たちに残されるのは、「個体の認識」ということで果たしてアリストテレスは正確に何を意味していたのかという、根本的な疑問である。</p> <p>本講義では、このような事情を考慮して、アリストテレス哲学のさまざまな場面に点在する「個体の認識」を、その場面場面に即しながら、できるだけ正確に照らし出すことを目的とする。そのことを通じて、アリストテレスの哲学的思考そのものについて理解を深めたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>基本的に講義形式で進めるが、必要に応じて関連テキストのコピーを配布し、一緒に検討するなど、演習の要素も取り入れる。各回の内容は以下の通り（進行状況により一部変更の可能性もある）。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン 第2-5回 『分析論』における個体認識（エパゴーゲー（帰納推論）の問題） 第6-9回 『魂について』における個体認識（個体についての知、付帯的感覚、思惟のはたらきと個体） 第10-11回 アイデア論批判と個体認識（純然たる個体としてのアイデア） 第12-14回 『ニコマコス倫理学』における個体認識（実践的推論と感覚・思惟） 第15回 全体のまとめと結論</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートおよび出席状況により評価するが、授業中の積極的な姿勢も考慮に入れる。なお、レポートのテーマは、最終回に通知する。									
【教科書】									
関連するテキストのコピー（抜粋）や資料を適宜配布する。なお、『西洋思想における「個」の概念』（中川・田子山・金子編、慶応義塾大学出版会、2011年）も時間内に参照するが、コピー（抜粋）を配布するので購入の必要はない。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>必須ではないが、古典ギリシア語の知識があることが望ましい。</p> <p>集中講義のため、特別にオフィスアワーは設けないが、講義の合間に講師控室などで随時質問を受け付ける。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)		担当者氏名	関西大学 外国語学部 教授 加藤 雅人					
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	分析トミズムとエッセの意味論								
【授業の概要・目的】									
「分析トミズム」と称する現代の分析哲学の影響を受けた中世哲学（とくにアキナス）のエッセ (esse)研究と、ジルソン等に代表される歴史的なエッセ研究の両方のアプローチを視野に、後期スコラ哲学におけるエッセの意味の分析を試みる。									
【授業計画と内容】									
以下の諸テーマについて、1テーマあたり2～3週の授業をする予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「分析トミズム」とは？ 2. 「存在は述語ではない」をめぐって 3. 分析トミズムのエッセ解釈 4. 歴史的アプローチによるエッセ解釈 5. エッセの意味の文脈的分類 6. エッセの二区分 7. エッセの意味論と語用論 									
受講者の理解度に応じて、変更される場合がある。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点により評価する。									
【教科書】									
使用しない 資料はコピーして配布する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)		担当者氏名	慶應義塾大学 文学部 教授 山内 志朗					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	イスラーム哲学と西洋中世の存在論								
【授業の概要・目的】									
<p>アヴィセンナの『治癒の書』の代表的な箇所がどのようにラテン語に訳されたかを調べながら、アヴィセンナの存在論の基本的枠組みと、それがどのように誤解されて伝わったかを考察する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>アヴィセンナの『治癒の書』の形而上学の部分のラテン語訳『形而上学』の一部を解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アヴィセンナの存在論 ・ドゥンス・スコトゥスのアヴィセンナ理解 ・アヴィセンナ『形而上学』第1巻ラテン語訳について ・アヴィセンナ『形而上学』第2巻ラテン語訳について ・アヴィセンナ『形而上学』第6巻ラテン語訳について ・「存在」と「もの」をめぐる考察 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート（具体的なテーマについては授業の時に指示する）									
【教科書】									
山内志朗 『普遍論争』（平凡社）ISBN:978-4-582-76630-1									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 福谷 茂				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	特殊講義
題目	17世紀の形而上学								
【授業の概要・目的】									
2004年度から2008年度まで継続された特殊講義（「形而上学」研究）の成果と観点を踏まえた「17世紀の形而上学」研究の第2年度目として、本年度は17世紀の形而上学をより具体的に考察する。伝統的な形而上学のツールに加えて新しい概念や方法が陸続と登場したのが17世紀である。デカルト、マルブランシュ、スピノザ、ライプニッツが交錯し火花を散らす現場で形而上学のポテンシャルを確認したい。									
【授業計画と内容】									
講義の前提として昨年の成果をコンパクトに概観した上で、形而上学の歴史において17世紀がいかなる意味で重要な時期であるのか、という点を論ずる。中心となるのは、スピノザ、ライプニッツ、マルブランシュであるが、彼らは異なる背景と目的をもちながらも共通したタームを用い、共有する問題意識の圏内で濃密なインタラクションを行ないながら思考した。真理、原因、自己原因、世界、可能世界、創造、自由といった概念が切り開く近世形而上学の独自の性格を探求する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末レポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院文学研究科 教授 上野 修				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4,5 隔週	授業形態	特殊講義
題目	十七世紀の哲学 様相の観点から								
【授業の概要・目的】									
デカルト、ホッブズ、スピノザ、ライプニッツを取り上げ、十七世紀の哲学を様相の観点から比較考察します。									
【授業計画と内容】									
「理性の世紀」と言われる西洋十七世紀は激動の時代でした。神とは、人間とは、世界とは何か。相次ぐ内乱や近代科学の台頭を背景に自明性は喪失し、すべてが問い直されねばなりませんでした。この時代の哲学はそれに見合うスケールの大きさがあります。この講義ではデカルト、ホッブズ、スピノザ、そしてライプニッツにスポットを当て、彼らのラジカルな思考を比較し考察します。様相（必然・偶然・可能・不可能）という視点から彼らの哲学を特徴づけ、四人の哲学の位置関係を考えます。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポート（講義との関連を重視し、評価します。）									
【教科書】									
とくにありません。ハンドアウトを出します。									
【参考書等】									
（参考書） 授業時間内に適宜指示します。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)		担当者氏名	早稲田大学 文学学院 教授 御子柴 善之					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	『永遠平和のために』の再検討								
【授業の概要・目的】									
カントの『永遠平和のために』を検討する。このテキストは、<9.11>後、さまざまに取り上げられることが多い。この授業では、特に、その倫理的「背景」に着目しながら検討する。									
【授業計画と内容】									
『永遠平和のために』というテキストには、カント哲学全体の中にその位置を定めづらいという特色があります。すなわち、三批判書はもとより、形而上学にも歴史哲学にも回収できない内容をもっているのです。このような特色が、2001年の<9.11>後の国際情勢の中で、このテキストを読み返すことを可能にしているのでしょうか。この授業では、このテキストの多面性を、一方で、カント哲学全体に結び付けつつ、他方で、今日的なテーマと関連させることで、明らかにしたいと思えます。後者からは、「信頼（回復）」や「連帯（形成）」という、今日の日本社会の倫理的根本問題に対する展望が得られるでしょう。そのための視点として、権利の問題として執筆された『永遠平和のために』を、権利論の基礎にある、カントの批判的倫理学の所説を手がかりに検討します。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート（短いレポートを複数回書いてもらいます。）									
【教科書】									
カント 『永遠平和のために』（岩波文庫）（宇都宮芳明訳）									
【参考書等】									
（参考書） 参考書は、授業中に紹介します。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 中畑 正志				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	アリストテレス『形而上学』を読む								
【授業の概要・目的】									
アリストテレスの『形而上学』を読む。今年度はZ巻8章からはじめる。議論の内容を明確に理解することとともに、アリストテレスを読むとはどのようなことなのかについての認識も深めることを目指す。									
【授業計画と内容】									
今年度は『形而上学』 巻8章から読み始める。 巻はアリストテレスの哲学の中心部分を構成する議論であるが、同時に難解できわめて議論の多いテキストなので、担当者による訳と説明の報告を受けた上で参加者による議論をおこない、問題の明確化と説得的な解釈の追求につとめる。 報告担当者は、担当する週の前半までに担当範囲の翻訳や説明を参加者全員に配布できるように準備すること。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（報告の担当と議論への参加の両方にもとづいて評価する）									
【教科書】									
W. Jaeger 『Aristotelis Metaphysica』 (Oxford Classical Text)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
参加者は、報告担当者から配布された翻訳と説明を、テキストや諸注解を参照して事前に検討しておくこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 中畑 正志				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4,5 隔週	授業形態	演習
題目	古代哲学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
西洋古代哲学にかかわる諸問題について、毎回一人あるいは二人がそれぞれの研究成果を発表し、参加者全員によって検討する。哲学的に重要な問題を平明なかたちで分析し討論する能力を養う。									
【授業計画と内容】									
西洋古代哲学にかかわる諸問題について、毎回一人あるいは二人がそれぞれの研究成果を発表し、参加者全員によって検討する。 話題の選択は自由であるが、発表者には授業参加者が共有できるような明晰な議論が求められる。また発表者は、発表する週の月曜日までに参加者に発表要旨を配布しなければならない。参加者には発表要旨を事前に読み、授業では積極的に議論に参加することが求められる。なお卒業論文提出予定者は、この授業で必ず論文の構想を発表すること。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（発表と議論への積極的な貢献の両方にもとづいて評価する）									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 早瀬 篤				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	演習
題目	プラトン『パイドロス』を読む								
[授業の概要・目的]									
<p>プラトンの『パイドロス』の原典を精読する。古典ギリシャ語文献を日本語に訳読する能力、およびプラトンのテキストを明晰な仕方で分析し、議論する能力を身につけることを目指す。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>プラトンの『パイドロス』を冒頭から丁寧に読んでいく。この対話篇は、イデア論を神話の形で描写するソクラテスの恋(エロース)を主題とするスピーチ、真の技術を獲得するために必要な哲学的方法論など、プラトン哲学の要素が詰まっている。授業では、そのひとつひとつを丹念に読み解いていく。</p> <p>毎時間、3ページ程度のテキストを、事前に担当者を決めずに、参加者全員が少しずつ訳読するという形式をとる(ただし、ギリシャ語に慣れていない学生は、前期は毎回の範囲の最初の部分の訳を担当する)。そして、注釈書や論文を参照しながら、内容についても議論を行う。</p>									
[履修要件]									
<p>必須ではないが、初級ギリシャ語を習得していることが望まれる。</p>									
[成績評価の方法・基準]									
<p>平常点による。</p>									
[教科書]									
<p>J. Burnet 『Platonis Opera』 (Oxford Classical Text) ISBN:9780198145417</p>									
[参考書等]									
<p>(参考書)</p> <p>H. Yunis 『Plato: Phaedrus』 (Cambridge University Press) ISBN:9780521612953 Ch. Rowe 『Plato: Phaedrus』 (Aris&Phillips) ISBN:9780856683145 藤沢令夫 『藤沢令夫著作集IVプラトン『パイドロス』註解』 (岩波書店) ISBN:4000924141</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>授業に参加するためにはかなりの予習が必要である。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 川添 信介				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	演習
題目	トマス・アクィナス『対異教徒大全』精読								
【授業の概要・目的】									
トマス・アクィナス中期の著作である『対異教徒大全』をラテン語原文で精密に理解し、その体系的哲学の全体像についての理解を深めることを目的とする。また、主著『神学大全』の併読も課することによって、2つの体系的著作の異同の意味を考えることも目指す。									
【授業計画と内容】									
本年度は昨年度に引き続き、神論である第1巻末尾から第2巻冒頭部分を丁寧に読解する。具体的なトピックは以下のようなものとなる。									
(1)神における生命と至福の意味(以上第1巻末尾)									
(2)被造物を神との関係で論じることの意味と方法(以下第2巻)									
(3)神の創造作用とはいかなるものであるのか									
【履修要件】									
ラテン語の初級文法を修得していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
マリエッティ版を用いる。必要な場合、コピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
数種の現代語訳を併読することが求められる。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 川添 信介				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	トマス・アキナスの法思想								
【授業の概要・目的】									
<p>中世スコラ哲学において詳細な法論を残したトマス・アキナスの『神学大全』の該当箇所を精読することによって、その法についての考え方、とりわけその自然法思想、自然法と実定法の関係、宗教的法（律法）と自然法の関係などについて、その現代的意義について考察することを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>本年度も昨年度に引き続き『神学大全』第2部の1の法論の部分を精読する。法一般の本質、永遠法、自然法、人定法に関するアキナスの思想を前提として、旧約の律法のうち「道徳的命令」と自然法の関係について考察する。より具体的なトピックとしては、次のようなものが挙げられる。</p> <p>(1)旧法（旧約の律法）とは何か (2)旧法の含む命令の種類 (3)旧法の道徳的命令と自然法の関係</p>									
【履修要件】									
ラテン語の初級文法を修得していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
マリエッティ版を用いる。必要な場合、コピーを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 数種の現代語訳を併読することが求められる。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 横田 蔵人				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3	授業形態	演習
題目	ウィリアム・オッカムの徳論を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>ウィリアム・オッカムの『さまざまな問題集』から、第7問題「徳どうしのつながりはどうなっているのか」をとりあげ、ていねいに読み進める。これによって、中世後期の道徳心理学の概要を学び、あわせて、この時代特有の用語や議論に親しみたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>ウィリアム・オッカムの『さまざまな問題集』から第7問題を中心に精読する。このテキストは、四つの枢要徳のあいだの関係、特に、道徳的な知識をもつことと道徳的な性格をもつこととの関係についての古典的な問題を論じるものである。</p> <p>1.最初に、第6問題第10項「徳と悪徳」から読み始め、オッカムが四つの主要な徳についてどのような理解を抱いていたのかの基本を押さえる。</p> <p>2.次に、トマス・アクィナスの『神学大全』から第1-2部65問題「徳どうしのつながりはどうなっているのか」を読み、問題の歴史的なあらましを学ぶ。</p> <p>3.以上を踏まえて、第7問題をていねいに読んでゆく。必要や学生の要望に応じて、アウグスティヌス、トマス、スコトゥス、オッカムの関連するテキストを平行して読む。</p>									
【履修要件】									
ラテン語初等文法の既習者であること									
【成績評価の方法・基準】									
授業参加度									
【教科書】									
Guillelmus de Ockham, Opera Theologica, t.8, ed. G. I. Etzkorn et al., NY: St. Bonaventura, 1984.									
【参考書等】									
(参考書)									
Rega Wood, Ockham on The Virtues, IN: Perdue University Press, 1997.									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業中に指示する									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 川添 信介				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3,4 隔週	授業形態	演習
題目	中世哲学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
中世哲学史を専攻している学生を中心とした参加者が自分の関心あるテーマについて発表を行い討論を行うことを通じて、中世哲学史のさまざまな領域の論点についての歴史的知識を深め、哲学的分析力を高めることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
隔週の開講とし、1回あたり参加者1名が発表を行い、その後担当教員や他の参加者との討論を行うこととする。発表の内容は参加者が自分で自由に選ぶことができるが、発表内容の梗概を事前に他の参加者に配布することが求められる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とするが、最低1回の発表を行うことが前提となる									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
中世哲学史を専攻している学生は必修とする。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 福谷 茂				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	演習
題目	カント『判断力批判』演習								
【授業の概要・目的】									
『判断力批判』を精読する。『判断力批判』はカントが三批判書の体系化をはかった書であるという点でカント解釈上重視されねばならないだけでなく、近年では社会哲学や政治哲学にとっても重要なテキストになっている。これらの点を総合的に把握するのが目的である。									
【授業計画と内容】									
Philosophische Bibliothekに入っているHeiner Klemme編の新版を読みすすめる。この版に付されたPietro Giordanettiの注釈は新機軸を打ち出したものであり、古典テキストの注解のあり方という点からも学ぶところが多い。参加者はかならずこの版を用意すること。授業のやり方は、毎回一人の訳読担当者とプロトコル担当者を組み合わせ、討論による徹底した検討を重視する。プロトコル作成の回 プロトコル報告の回 訳読担当の回という流れですすむので、参加者は各自3回連続で担当してもらうことになる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
Heiner Klemme編 『Philosophische Bibliothek,507』 (Felix Meiner)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 福谷 茂				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	演習
題目	カント『純粋理性批判』演習								
【授業の概要・目的】									
引き続きカントの主著であり近世哲学の根底でもある『純粋理性批判』を精読する。授業の狙いはカントを通して哲学史の展望を持つこと、および哲学のテキストの読み方を稽古する場とすることである。									
【授業計画と内容】									
昨年度に引き続き、本年度は「超越論的原則論」の「経験的思惟一般の要請」から読む。「超越論的原則論」は自然学の基礎を論じるとともにカントの「経験」概念が具体化される点で『純粋理性批判』全体の山場ともいえるべき位置にある。過去の研究成果の蓄積も膨大なものがあるので、それらに学ぶ作業も要求される。頻繁なクロス・レファランスを行ないながらの読解作業となるので、参加者はかならずPhilosophische Bibliothek版のKritik der reinen Vernunftを用意すること。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による									
【教科書】									
Jens Timmermann編 『Kritik der reinen Vernunft』 (Felix Meiner)									
【参考書等】									
(参考書) 福谷 茂 『『カント哲学試論』』 (知泉書館、2009)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 福谷 茂				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4,5 隔週	授業形態	演習
題目	近世哲学史の諸問題								
[授業の概要・目的]									
研究室在籍者が順番に研究発表をおこない、それに関して全員で討論を行なって論文作成ないし学会発表のためのステップとする。また議論や質問の技術を身につける場ともしたい。西洋近世哲学史専修の三、四回生は必修。									
[授業計画と内容]									
司会者と発表者のほか毎回特定質問者をおき、研究発表に関し疑問点の明確化と改善の方向性を探るために徹底した討論を行なう。教員および研究室在籍者のほかゲストの話聞く回も予定している。卒業論文作成予定者は春の構想発表と秋の中間発表の2回担当しなければならない。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点による(少なくとも一回は発表することが条件)									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	高野山大学 文学部 准教授 山脇 雅夫				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	『精神の現象学』 「良心」論を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>ヘーゲルは、『精神の現象学』の「良心論」で同時代のドイツ哲学を対象としています。この部分を精読することで、ヘーゲルと同時代の思想家たち、とくに初期ロマン主義とのヘーゲルの関係について理解を深めることを目指します。またそこで展開されている、良心と社会的行為との関係についてのヘーゲルの見解を考察します。</p> <p>授業方法は、参加者による訳読・発表を中心にした演習形式です。</p>									
【授業計画と内容】									
『精神の現象学』 「良心」論を精読します。一回につき、1～2ページを参加者が訳読し、それをもとにした検討を行います。ヘーゲル哲学と同時代の思想についての知識もあわせて解説します。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業中の訳読・報告、議論に対する参加によって評価します。									
【教科書】									
G.W.F.Hegel 『Phänomenologie des Geistes』 (Felix Meiner)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(講読) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 早瀬 篤				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3	授業形態	講読
題目	プラトン『プロタゴラス』を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>古典ギリシャ語の辞書・文法書・注釈書を使いながら、プラトンの対話篇『プロタゴラス』を原典で読む。『プロタゴラス』は、プラトン初期の対話篇のひとつで、読みやすいギリシャ語で書かれている。プロメテウスの神話、徳の統一の問題、文芸批評などのさまざまな話題を議論していて、興味深く読めると思われる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>プラトンの『プロタゴラス』を冒頭から丁寧に読んでいく。毎時間、事前に担当者を決めずに、参加者全員が少しずつ訳読するという形式をとる（ただし、ギリシャ語に慣れていない学生は、前期は毎回の範囲の最初の部分の訳を担当する）。最初は1時間で1ページ程度読む予定だが、参加者の様子を見ながら少しずつ分量を増やしていき、最終的には1時間で3ページ前後読み進むことを目指す。</p> <p>授業初回はオリエンテーションで、同対話篇の簡単な紹介、辞書・文法書の指示、下に教科書として挙げたテキスト・注釈のコピー配布を行う。</p>									
【履修要件】									
必須ではないが、初級ギリシャ語を学習していることが望まれる。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による（授業での訳読を見て判断する）。									
【教科書】									
<p>N. Denyer 『Plato: Protagoras』 (Cambridge University Press) ISBN:9780521549691 テキスト・注釈はコピーして配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) Smyth 『Greek Grammar』 (Harvard University Press) ISBN:9780674362505 H. G. Liddell, R. Scott, et al. 『A Greek-English Lexicon』 (Oxford University Press) ISBN: 9780198642268 J. D. Denniston 『The Greek Particles』 (Hackett) ISBN:9780872202993</p>									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>授業に参加するためにはかなりの予習が必要である。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(講読) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 マルティン チェシコ				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水2	授業形態	講読
題目	ギリシア語中級講読 (Platon, Symposium III)								
【授業の概要・目的】									
ギリシア語初級文法習得者対象。プラトーン『饗宴』(200bから)の講読を通して、ギリシア語の読解力を養う。									
【授業計画と内容】									
プラトーンの著作はやや原文が難しいため、中級者対象ではあるが、文法の詳しい説明と、授業ごとの復習を重視し、初級者も中級文法の習得ができるよう目指す。毎週(Stephanusの)1-2頁を読み進める。また、時代的背景や、プラトーン哲学に触れながら、授業を行う。前期から後期まで、一貫して作品を読み進める。									
【履修要件】									
ギリシア語初級文法を習得済みであること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。									
【教科書】									
OCTテキストのコピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
K. Dover 『Plato, Symposium』(Cambridge, 1980)									
C. J. Rowe 『Plato, Symposium』(Aris & Phillips, 1998)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(講読) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 マルティン チェシコ				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水2	授業形態	講読
題目	ギリシア語中級講読 (Platon, Symposium IV)								
【授業の概要・目的】									
ギリシア語初級文法習得者対象。プラトーン『饗宴』の講読を通して、ギリシア語の読解力を養う。									
【授業計画と内容】									
プラトーンの著作はやや原文が難しいため、中級者対象ではあるが、文法の詳しい説明と、授業ごとの復習を重視し、初級者も中級文法の習得ができるよう目指す。毎週(Stephanusの)1-2頁を読み進める。また、時代的背景や、プラトーン哲学に触れながら、授業を行う。前期から後期まで、一貫して作品を読み進める。									
【履修要件】									
ギリシア語初級文法を習得済みであること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。									
【教科書】									
OCTテキストのコピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
K. Dover 『Plato, Symposium』 (Cambridge, 1980)									
C. J. Rowe 『Plato, Symposium』 (Aris & Phillips, 1998)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	哲学・西洋哲学史(講読) Philosophy/History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名		文学研究科	教授	伊藤	邦武
						文学研究科	准教授	出口	康夫
						文学研究科	教授	中畑	正志
						文学研究科	教授	川添	信介
						文学研究科	教授	福谷	茂
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	講読
題目	哲学・西洋哲学史入門								
【授業の概要・目的】									
哲学と西洋哲学史の教員によるリレー講読。哲学のテキストの読み方、議論の仕方などの哲学と西洋哲学史を学ぶための基礎的な力を養う。									
【授業計画と内容】									
哲学と西洋哲学史の教員がそれぞれ特定の入門的テキスト（日本語）をとりあげて、教員による説明と参加者による議論をまじえながら読んでいく。授業の内容と担当は以下の通り（以下の2～6の順序は初回の授業までに決定する予定）。									
1 授業の趣旨と進め方についてのガイダンス（全員）									
2 哲学・西洋哲学史研究の方法と倫理（中畑正志）									
3 哲学入門（伊藤邦武・出口康夫）									
4 古代哲学史入門（中畑正志）									
5 中世哲学史入門（川添信介）									
6 近世哲学史入門（福谷茂）									
7 各専修に分かれての授業									
【履修要件】									
平成20年度以後の哲学・西洋哲学史専修の分属者は必修									
【成績評価の方法・基準】									
初回から各専修に分かれておこなう以前の授業（上記1～6）に8割以上出席することが単位認定の必要条件。そのうえで担当教員の一人に提出されるレポートと授業への積極的参加を総合的に評価する。									
【教科書】									
テキストは初回の授業までに哲学・西洋哲学史専修のHP上で知らせる。									
【参考書等】									
（参考書） 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

日本哲学史専修

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 藤田 正勝				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	田辺元の「種の論理」								
【授業の概要・目的】									
西田幾多郎の後継者でもあり、批判者でもあった田辺元（1885-1962）の独自の哲学、いわゆる「種の論理」の内容と意義について検討する。									
【授業計画と内容】									
田辺元の思索は多岐にわたったが、その中心に位置するのは、1934年以降発表されたいわゆる「種の論理」である。この「種の論理」がどのようにして形成されたのか、それはどのような内容をもつのか、それはどのような意義をもったのか、あるいはその現代的な意義はどこにあるのか等々の問題について、この時期に書かれた田辺の諸論文の読解を通して明らかにしたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートにより評価する。									
【教科書】									
田辺元 『田辺元哲学選 種の論理』（岩波文庫）ISBN:978-4-00-336941-8									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 藤田 正勝				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	経験と言葉、および日本語の論理をめぐって								
[授業の概要・目的]									
経験と言葉との関わりを中心に、言葉（日本語）がどのような意味で哲学の問題になりうるのかを考察したい。									
[授業計画と内容]									
経験と言葉ないし表現との関わり、日本語の論理的構造、日本語で思索する意義など、哲学と言葉との関わりについてさまざまな観点から考察を加えたい。さらに哲学的文献の翻訳の問題についても考えてみたい。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点とレポートにより評価する。									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	日本女子大学 人間社会学部 教授 田中 久文				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	京都学派の諸問題								
【授業の概要・目的】									
京都学派の哲学（西田、田辺、九鬼、和辻、三木、西谷、高山、戸坂ら）を、テーマ別に取り上げ、その現代的意義を探る。									
【授業計画と内容】									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生きる根拠（「絶対無」とニヒリズムの克服） ・ 創造の論理（「ポイエシス」と「構想力」） ・ 他者とどう向き合うか（疎隔と交通） ・ 新たな共同体の原理（「間柄」の倫理と「種」の論理） ・ 多元的な歴史の捉え方（文化相対主義と世界史の哲学） ・ 自然との共生（「自然史」の思想と環境倫理） 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートにより評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	大阪市立大学 大学院文学研究科 教授 高坂 史朗				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	近代日本哲学史と東アジア								
【授業の概要・目的】									
近代日本の哲学史を全体として考察する。また東アジアの比較の中で吟味する。 1. 日本の近代化がどのようになされたか 2. 西周によってPhilosophyが「哲学」と翻訳された意義 3. 明治の時代に西洋哲学がどのように移植されたか 4. 日本の哲学がどのように展開されたか 5. 日本と東アジアとの思想史・哲学史的連関性 以上のことをを明らかにする。									
【授業計画と内容】									
1 西洋近代と東アジア世界 2 西周と「哲学」 3 東アジアと「哲学」 4 三宅雪嶺・井上哲次郎の日本国家 5 清澤満之の精神主義 6 西田幾多郎『善の研究』の成立の意義 7 昭和6年の思想史的意義 8 和辻哲郎の『人間の学としての倫理学』 9 植民地帝国大学に立つ二人の哲学者 10 東アジア間の思想的対話									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートおよび平常評価									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋
---------------	---	-------	--------------

配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水5	授業形態	特殊講義
------	-------	-----	---	-----	----	-----	----	------	------

題目	パーティシペーションの思想
----	---------------

[授業の概要・目的]

田辺元の種の論理における「種と個の関係性」の発想の源泉は、フランスの思想家、リュシアン・レビ＝ブリュールの分有 (participation mystique) の概念と、それに関連するマックス・シェーラーの知識社会学における teilhaben (参加) の概念であったことが、最近の田辺史料研究により明らかになっている。シェーラーとブリュールの親密性をもったパーティシペーションを、田辺は絶対弁証法的葛藤関係に置き換えた。それが種の論理の誕生をもたらしたのである。

これらの社会思想から、約一世紀を経た現在、それに極めて類似した思想がネットの世界を、そして実世界の動かしている。WEB 2.0 の中心概念「パーティシペーション」である。Facebook や Twitter は、すべてこのパーティシペーションの思想を基にしており、それは政治体制にさえ影響を持つまでになっている。

なぜ、そして、どの様に一世紀前の社会思想は、現代のネット・ヴァーチャル社会の思想に「生まれ変わった」のだろうか。それを解明する。

[授業計画と内容]

次の項目を、それぞれ 1 - 2 回講義する。

A. 導入部

- A1. ビル・オライリーの「参加」：集合知、Yahoo知恵袋、SNS、ジャスミン革命...
- A2. 個がネットに飲み込まれ「融即」する時代

B. 20世紀初頭の思想群

- B1. 田辺元の類・種・個 種の論理
- B2. レビ＝ブリュールの participation 融即
- B3. シェーラーの teilhaben 参加と社会哲学

C. 21世紀の「融即」

- C1. ビル・オライリーのWeb2.0の思想と「参加」
- C2. 参加型エンタープライズの登場
- C3. 参加型エンタープライズとネット社会
- C4. 再魔術化の時代のリアリティとしての「融即」

毎回最後の 5 分程度に質問票を書いてもらう時間をとる。次回に、その主なものに答える。

日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く

日本哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・基準】

数回の小レポートを実施し、それにより採点する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

パートBについては、田辺元「種の論理」(岩波文庫)、レビ=ブリュール「未開社会の思惟」(岩波文庫、現在版切れ、古書として手に入る)、シェーラー全集(白水社)などが参考となる。

パートCは、関連する文書の殆どがWEB上の文書や最近の論文である。WEBのものは、適宜URLを紹介する。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

KULASIS以外に講義用のサイトを開設し、講義資料、特にパートCの参考文献などを掲示する。そのサイトのURLは最初の講義の際に伝える。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(演習) Japanese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科 教授 秋富 克哉				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	演習
題目	西田幾多郎『一般者の自覚的体系』を読む								
【授業の概要・目的】									
西田哲学の展開にとって決定的となった「場所」の思想は、『働くものから見るものへ』所収の論考「場所」において明確な一歩をしるす。しかし、それは直ちにこの画期的な思想の確立を意味するものではない。本演習の目的は、論考「場所」の立場を踏まえながら、その後の発展過程を、テキスト読解を通して吟味し考察することである。主に『一般者の自覚的体系』所収の論考を取り上げながら、西田哲学の運動そのものに立ち向かいたい。									
【授業計画と内容】									
前期は、「場所」思想成立の過程を確認するため、純粹経験/自覚との連関を押さえながら、『働くものから見るものへ』所収の「左右田博士に答ふ」から出発し、次いで『一般者の自覚的体系』所収の論考に進む。後期も、引き続き『一般者の自覚的体系』を読み進めていく。取り上げる予定の論考は、「述語的論理主義」「自己自身を見るものの於いてある場所と意識の場所」「叡智的世界」「一般者の自己限定」であるが、進度を踏まえながら適宜調整していきたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートによる。平常点は、年間何度かのプロトコルと報告の担当によるが（回数は出席者の数次第）、原則として毎回しっかり出席することを求める。									
【教科書】									
西田幾多郎『西田幾多郎全集 第4巻、5（旧版）、第3、4巻（新版）』（岩波書店）（テキストはこちらでも準備する。）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
毎時間、プロトコルと報告の担当者は、レジュメの用意が必要である。また、テキストを読んでいることを前提に授業を進めるので、参加者は最低限該当箇所を予習して臨むこと。質問等は、講義後あるいはメール（アドレスは、授業中に指示）で行う。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(演習) Japanese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 芦名 定道				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	演習
題目	日本・アジアのキリスト教 波多野精一(5)								
【授業の概要・目的】									
日本・アジアのキリスト教の歴史を振り返りつつ、その新しい思想的可能性を探ることは、日本におけるキリスト教思想研究にとって重要な意味を有している。今年度取り上げられる波多野精一は近代日本を代表するキリスト教思想家であるが、この演習では、波多野のテキストを精読することを通して、波多野の宗教思想についての理解を深め、キリスト教的宗教哲学の可能性について考える。									
【授業計画と内容】									
本年度は、昨年度まで完了した、波多野宗教哲学三部作（『宗教哲学』『宗教哲学序論』『時と永遠』）それぞれの個別的な内容から、波多野宗教哲学の体系的理解へと考察が進められる。宗教哲学の方法論、体系構成、事実・経験概念、哲学的人間学、宗教類型論といった宗教哲学の基礎に関わる事項、あるいは、神秘主義と擬人観、愛、死、象徴、他者、永遠、創造、救済などの個々のテーマとについて、三部作を縦横に用いた分析を行いたい。それによって、波多野宗教哲学を、トレルチ、ハイデッガー、ティリッヒ、レヴィナス、西田幾多郎らとの本格的な比較が可能になるものと思われる。合わせて、これまでの演習で扱えなかった文献（「西洋宗教思想史（希臘の巻）」）についても精読を行いたい。演習は、テキストの精密な読解に基づいて、関連事項について考察し、波多野研究を参照しつつ進められる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。（受講者には、前期後期に最低一回ずつの発表担当を課するが、その発表内容と、演習への参加度とから総合的に判断する。）									
【教科書】									
テキストはコピーして配付する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
受講者は、毎時間のテキストの予習と演習への積極的参加が求められ、特に前期後期各一回以上の発表担当が課せられる。演習に関わる質問は、オフィスアワー（木2・金3）を利用するか、メール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(演習) Japanese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	田辺元を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>手稿・日記などの一次資料を通して過去の偉大な思索者の思想を読み解く。今年度の対象は、哲学者田辺元の種の論理が誕生した昭和9年の特殊講義「認識の形而上学」の講義準備ノートである。これは田辺の読みにくい筆跡のため、田辺元没後約50年間、哲学の専門家にも読めなかった史料だが、史料分析用ITツールを利用することにより、田辺哲学を理解していない学部学生でも十分解読ができている。演習を通して、まだ誰も読んでいない史料を始めて読むことの面白さを体験してもらう。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>まず史料の背景を説明する講義を行い、その準備のもとで演習を行う。史料読みの演習では、史料のオリジナルではなく、その電子画像を使ひ、難解な崩し字を読むために、歴史史料研究用のツール SMART-GS を使う。出席者の知識や能力に応じて、講義と演習の比重は変化する。史料2枚（原稿用紙2枚）程度を、2名のチームで担当し、1チームが2、3週を担当することを計画しているが、参加者の人数などで変化する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
担当箇所の報告資料と発表の様子で評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
【その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）】									
<p>手稿分析などに史料分析用ソフトウェアSMART-GSを多用する。講義参加者用のノートPCを数台用意しているが、自習などを考慮し自分のPCを持ってくるとよい。データなどは、外付けハードディスクに入れて貸与する。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(演習) Japanese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 藤田 正勝				
配当学年	4回生のみ	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3,4 隔週	授業形態	演習
題目	卒論演習								
【授業の概要・目的】									
卒業論文の作成に向けて、その準備を行う。									
【授業計画と内容】									
卒業論文の作成に必要な事項について学ぶとともに、参加者の発表をもとに日本哲学史上の諸問題について議論し、卒業論文作成の準備を行う。日本哲学史専修4回生以上は必修。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点により評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(講読) Japanese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 水野 友晴				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4	授業形態	講読
題目	西田幾多郎『善の研究』講読								
【授業の概要・目的】									
<p>『善の研究』に代表される初期西田哲学のテキスト群は、西田哲学のみならず近代日本哲学全体の土台をなしているといっても過言ではない。『善の研究』が世に問われて100年、それらにどのような由来があるのか、また、それらを見ることを通してどのような世界貢献と現代社会への応用の可能性が開かれてくるのか、本講義では積極的なディスカッションを通じて以上のことがらを学び、深め、共有する場を提供することを目的とする。</p> <p>また、『善の研究』を正確に読むためには、同時代の哲学に対する基礎的教養を有している必要があるが、本講読では補助教材等を利用してそういった知識を習得することも併せて目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>本講読では『善の研究』を章単位で読み進めてゆくことにする。あらかじめ設定した課題に基づいて参加者が発表を行い、発表後、講評やディスカッションを通じて『善の研究』の背景と思想的意義、さらには発展の可能性などについて考究してゆくことにしたい。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。必要に応じてレポートを課す。									
【教科書】									
西田幾多郎『善の研究』（岩波文庫）（本講読では、岩波文庫版の『善の研究』を底本とするので、必ず入手のこと）									
【参考書等】									
（参考書） 西田幾多郎 / 全注釈小坂国継『善の研究』（講談社学術文庫）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>本講読では、学生による積極的な授業参加を期待している。特に授業中におけるディスカッションへの参加を重視しているので、欠席せず、自らの所信を臆することなく披露するようにしてもらいたい。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

倫理学専修

授業科目名 <英訳>	倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 水谷 雅彦				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	会話の倫理学IV								
【授業の概要・目的】									
熟議や討議ではなく、会話や社交の概念に基づいた倫理学の構築の可能性について探求する。									
【授業計画と内容】									
本年度は会話や社交の概念に基づく倫理学の構築にあたって、それに対する批判的見解をもつであろう理論のいくつかを検討する。例としては、シャンタル・ムフの「闘技民主主義」やジャック・デリダ晩年の「政治哲学」が考えられる。ただ本シラバス執筆時から開講まで3ヶ月以上あるため、担当者のその間の研鑽により、予定が大幅に変更される可能性がある。実際の講義計画は、最初の授業でお話しする。いずれにせよ、昨年度の講義を受講していない者にとっても、なんらかの予備知識を要求するような講義にはしないつもりである。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末レポート。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)	担当者氏名	大阪府立大学 高等教育研究機構 教授 亀喜 信						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	市民という在り方と道徳								
【授業の概要・目的】									
<p>昨年度に引き続き、ハンナ・アレントの思想を手がかりに、公共性と道徳について考える。規範の基礎付けというような問題設定ではなく、道徳や政治といった規範との緊張のうちに生きる人間とはどういう存在なのか、という問題意識で考えていく。</p> <p>途中、適宜アレントなどのテキスト（英語）を読む。テキストはこちらで用意する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のテーマについて授業をする予定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．互恵性 2．共有すること 3．共に在るということ 4．思考と道徳 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>毎回授業の終わりに簡単なレポートを書いてもらう（出席点を兼ねる、40点程度）。それに加えて、1200字程度のレポートを2回課する（60点程度）。</p>									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>ハンナ・アレント 『人間の条件』（ちくま学芸文庫）</p> <p>亀喜 信 『ハンナ・アレント - 伝えることの人間学』（世界思想社）</p> <p>上記のほか、授業中に適宜参考文献を紹介する。</p>									
<p>（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））</p> <p>アレントの『人間の条件』を、翻訳でもいいから、どんどん読むこと。</p>									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)	担当者氏名	南山大学 社会倫理研究所 研究員 鈴木 真						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	情動 (emotions) とその評価								
[授業の概要・目的]									
道徳と情動の関係について考えながら、情動とは何かという問に関する哲学理論と、情動の評価についての議論を概観し、理解を深める。									
[授業計画と内容]									
以下のような課題について検討する予定である（内容を状況に応じて変えるかもしれない）。									
<ol style="list-style-type: none"> 1．情動とは何かという問に関する主要な哲学理論 2．情動に関する経験的知見 3．諸々の情動に共通の本性はあるのか 4．情動、ムード、衝動、生理的反応 5．情動の対象、志向性、fittingness 6．情動の（諸）機能と、情動に関する様々な評価方法 7．道徳と情動：情動主義とその後（Williams' "Morality and the Emotions"） 8．ギバードのプログラム 9．情動に関する認知主義に対する批判 10．マクダウェルとウィギンズの立場とその批判 11．ダームズとジェイコブソン：（1）情動の評価と道徳 12．ダームズとジェイコブソン：（2）Neosentimentalismの擁護 13．虚構に対する情動とその評価 14．道徳的情動、道徳的直観、エンパシー <p>* 上に挙げたトピックの代わりに扱うかもしれないものを下に記しておく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・責任に関するストローソンの反動的態度説 ・情動に対する責任 ・The comparative fittingness of emotions ・良心と情動 									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点とレポート。									
----- 倫理学(特殊講義)(2)へ続く -----									

倫理学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
授業で扱う論文のコピーを入手できるようにする。
解説用のプリントを授業で配布する場合がある。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	倫理学(演習) Ethics (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 水谷 雅彦						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	倫理学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のためのトレーニングを行う。									
【授業計画と内容】									
出席者が自分の研究内容について報告し、討論を行う。報告者は、発表の一週間前にレジюмеを提出すること。他専修の参加も歓迎するが、倫理学専修の大学院生は必修。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
報告と討論への参加によって評価する。但し報告しなかった3回生については平常点による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 特になし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	倫理学(演習) Ethics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 水谷 雅彦				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	演習
題目	応用倫理学演習								
【授業の概要・目的】									
応用倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のためのトレーニングを行う。									
【授業計画と内容】									
生命倫理・環境倫理・ビジネス倫理・工学倫理などの応用倫理学に関する諸問題を検討する。若干の予備的講義の後、毎週出席者による発表と討論を行う。他学部、倫理学専修以外の出席者も歓迎する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
最低一回の発表と毎週の討論の参加によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	倫理学(演習) Ethics (Seminars)	担当者氏名	立命館大学 文学部 教授 北尾 宏之						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	カント倫理学								
【授業の概要・目的】									
カント倫理学の重要著作 Kritik der praktischen Vernunft(『実践理性批判』)の精読。カント倫理学についての知見を深めることを目的とする。あわせてドイツ語テキストの読解力の養成をめざす。									
【授業計画と内容】									
Kant:Kritik der praktischen Vernunftを、Von der Deduktion der Grundsätze der reinen praktischen Vernunft(純粋実践理性の原則の演繹について)の部分から精読する。毎時間、あらかじめ担当者を定めることなく、全員に訳読してもらい、解説を加える。進度は、毎時間1ページ~1ページ半を予定しているが、受講者の語学力も勘案する。ドイツ語未習者については、英語訳の利用も可とする。必要に応じて、カントのその他の著作(たとえば『純粋理性批判』や『道徳形而上学の基礎づけ』など)にあたりたりすることもあるが、まずは上記テキストを詳細に検討する。									
【履修要件】									
今年度はテキストの途中から読み始めることになるので、そこまでの部分を邦訳でもよいからあらかじめ読んでおくことが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(60%)と年度末レポート(40%)									
【教科書】									
Kant 『Kritik der praktischen Vernunft』 テキストの入手方法は初回の授業時に指示する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
毎時間の進度は多くはないが、難解なテキストであるので、それなりの予習時間が必要となるであろう。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	倫理学(演習) Ethics (Seminars)	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 義之						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	演習
題目	レヴィナスを読む								
【授業の概要・目的】									
<p>レヴィナスは倫理の問題を手がかりに、旧来の哲学の根本的革新を企て、思想界に大きな影響を残した。授業では彼の第二の主著とされる1974年のAutrement qu' être ou au-delà de essence. (『存在するとは別の仕方、あるいは存在することの彼方へ』)の仏語原文をテキストとして、彼の思想を理解する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>上記の著作はレヴィナスの思想のひとつの到達点である。前期授業はこの著作の中から「身代わり」等、第一の主著とされる『全体性と無限』の倫理観を先鋭化した主要概念を詳述する箇所を抜粋、熟読することで、彼の特異な倫理思想の大枠の理解を試みたい。</p> <p>後期においては前期の基本的倫理思想の理解をふまえて、彼のこの時期の言語論に焦点を合わせる。言語は彼にとりつねに核心的テーマのひとつであり、学問の可能性自体を問い直すものでもある。具体的には「語ること」・「語られたこと」などの諸概念に関連する箇所を抜粋し熟読する。</p>									
【履修要件】									
仏語原文で読むので、フランス語の最低限の読解力は不可欠である。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
上記著作の一部をプリントで配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

宗教学専修

授業科目名 <英訳>	宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)		担当者氏名	文学研究科 教授 氣多 雅子					
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	西田幾多郎の歴史的世界の思索								
【授業の概要・目的】									
西田幾多郎の場所の思想において、自己と他者の問題、歴史的世界の問題がどのように探究されているかを、理解する。西田の思想の宗教哲学的意義を考察することが最終的な目的である。									
【授業計画と内容】									
『無の自覚的限定』において西田は、絶対無の自覚がそのノエマ的限定において客観界を基礎づける意義をもつことを明らかにしようとする。その考察から出発して、環境が個物を限定し個物が環境を限定するということをめぐる西田の思索をたどって、人格的自己の自己統一が社会という意義をもつと考える西田の立場を考察する。さらに、その立場が後期の著作においてどのような広がりや深まりをもつに至ったかを、具体的テーマに即して考えてゆく。特に注目するテーマは、西田の弁証法論理とはどのようなものであるか、彼の身体の見方はどのような特質をもつか、ということである。これらの考察を通して、西田後期の思想がどのような意義をもち、またどのような課題をもつかを共に考えてゆく。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末のレポートによる。									
【教科書】									
教科書は使用しないが、西田幾多郎のテキストを傍らにおくと、わかりやすいであろう。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 杉村 靖彦				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	身体・社会・歴史 西田・田辺の哲学と現代フランス哲学(2)								
【授業の概要・目的】									
<p>1930年代から40年代にかけて、西田幾多郎と田辺元は、たがいに対する暗黙の批判をばねにしてそれぞれの哲学をダイナミックに展開させたが、両者が共通して目指していたのは、行為的身体性を根本的な形成因として組み込んだ独自の社会哲学・歴史哲学を形成することであった。こうした側面は、戦後の京都学派の宗教哲学では後景に退いてしまったが、現代の思想的状況において再検討に値する豊かな可能性を秘めているように思われる。その点に光を投ずるために、本講義では、身体性・社会性・歴史性の絡み合いを独特の仕方でも考察した20世紀中盤から後半のフランス哲学者たち(コジェーヴ、メルロ＝ポンティ、レヴィナス、デリダ、アンリ等)を経由することによって、西田の「歴史的な身体」論や田辺の「種の論理」を新たな視点から批判的に読み解いてみたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>本講義は昨年度からの続きである。まず最初の2回ほどの授業で、昨年度の考察を要約し、1930年代から社会哲学・歴史哲学的な色合いを濃くしていく西田と田辺の絶対無の哲学が、共に身体の弁証法的性格に立脚しつつ、ポイエーシス(西田)とプラクシス(田辺)を対立軸としていることを確認する。その上で、彼らの思索が同時代の西洋哲学の最前線の問題を共有している様子を、ハイデガーやベンヤミン、コジェーヴや初期レヴィナスなどの思索との突き合わせを通して明らかにしていく。その際、労働や交換、贈与という問題系を参照し、当時の人類学や社会学の理論にも目配りすることによって、西田の歴史的な身体論や田辺の種の論理の中に、上記のフランス哲学者たちの思索との新たな交流可能性を切り開いていきたい。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末のレポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>授業中に紹介する参考文献などを手掛かりに、授業内容から自らの関心につながる問題群を引き出すように心掛けてほしい。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)			担当者氏名	舞鶴工業高等専門学校 吉永 進一 人文科学部門 准教授				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	心身論から見た日本近代思想								
【授業の概要・目的】									
第二次大戦前においては、さまざまな宗教的な傾向を持つ心身技法が盛んに行われた。たとえば、禅を生理学で再解釈したもの、催眠術から生まれたもの、近世養生法の腹式呼吸法を用いるものなどがある。その実践者には多くの知識人も含まれ、とりわけ岡田式静坐法は教師、学生のあいだに広まった。また、その多くには、民衆宗教では生命主義救済観と呼ばれ、近代仏教では汎神論と呼ばれる一元論的な世界観が付随し、心、身、社会を視野に収めていた。この授業では、前期を具体的な心身技法の紹介、後期を近代宗教思想史との関係にあて、日本における宗教的遺産の近代化や変容、同時代に多発した世界的な心身技法の近代化などを論じる。これによって近代思想や近代仏教史の語られてこなかった面をこの講義で明らかにしたい。									
【授業計画と内容】									
前期は具体的な心身技法を紹介し原テキストを順に読んでいく。後期は心身技法の思想史を試みる。									
1 原坦山の生理学的禅 2 川合清丸と腹式呼吸 3 催眠術、脱呪術化と再呪術化 4 桑原俊郎と精神力 5 岡田式静坐法と自発性 6 静坐法と医療 7 太霊道と国家論 8 鎮魂帰神の法 9 お手当て療治と超国家主義 10 汎神論思想 11 仏教の国際化 12 禅と神秘主義 13 大拙とスウェーデンボルグ 14 リシャル夫妻 15 心身技法のグローバル化 (1課題あたり1~2週の授業を予定している)									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期、後期のレポートによって評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する プリントを配付。									
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----									

宗教学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
プリント、電子データなどを利用。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 氣多 雅子				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	演習
題目	M. ハイデッガー 『ニーチェ』を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>昨年に引き続き、ハイデッガーの『ニーチェ』をテキストとして演習を行う。哲学のテキストの読み方を訓練するとともに、ハイデッガーの独自の立場におけるニヒリズムの思想について理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>ハイデッガーは1936～41年に断続的に「ニーチェ講義」を行い、それにいくつか論文を付け加えて1961年にネスケ社から『ニーチェ』全2巻を出版している。その後もハイデッガーが推敲を重ねたことは、全集版の『ニーチェ』全2巻から読み取ることができる。この長い過程は、ハイデッガーにとってニーチェが非常に重要な対決の相手であったことを知らしめる。今年度の演習では第7部「ニヒリズムの存在歴史的規定」を扱い、ハイデッガーがニーチェ解釈を通してニヒリズムをどのような課題として受けとめていったか、その過程で存在歴史という観点をどのように熟成させていったかを読み解いてゆく。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と、年度末のレポートによる。									
【教科書】									
Martin Heidegger, Gesamtausgabe Bd.6-2, Nietzsche II, VII Die seinsgeschichtliche Bestimmung des Nihilismus, Klostermann, Frankfurt am Main. (コピー配布)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 杉村 靖彦						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水5	授業形態	演習
題目	P・リクール 「エマニュエル・レヴィナス、証言の哲学者」(1989) を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>この論文は、リクールの主著『他者としての自己自身』(1990)の前年に発表されたものであり、後期レヴィナスの「証言」概念に的を絞ったレヴィナス論であると同時に、「自己の証し」を軸とする晩年のリクールの「自己の解釈学」の立場を簡潔明確にうち出している。また、レヴィナスだけを論じるのではなく、証言という問題系をめぐってハイデガー、ナベール、レヴィナスの三者の思索がいかなる関係に立つかを整理した上で、リクール自身は自らの立場をナベールの系譜上に位置づけている。リクールの哲学に関心をもつ人だけでなく、ハイデガーの影響を強く受けたフランス哲学者たちが共有する問題構成を理解したい人にとっても、必読の論文である。この授業では、必要な哲学的知識を教師が補いながら、半期で論文全体を通読し、その内容について出席者間で充実した議論が行えるように工夫したい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>最初の授業で、論文全体の構成、およびリクール、レヴィナス、ハイデガー、ナベールについての最小限の予備知識を与えるべく、教師が解説を行う。その後の授業では、訳読および要約の担当者を決め、1回2-3頁ほどのペースで読み進めていく。単なる原典講読にとどまらず、テキストを出席者間での議論と哲学的考察の材料として最大限利用できるように、毎回授業終了時にその回進んだ分の模範訳を配布するなど、さまざまな工夫を試みたい。</p>									
【履修要件】									
<p>第二外国語としてフランス語を履修していることを絶対条件とするわけではないが、フランス語初心者は、できるだけ早いうちに訳読作業を行う上で最低限必要な語学力を身につけるように努めてほしい。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点（担当箇所の訳読・議論への参加）と学期末のレポートによる。</p>									
【教科書】									
<p>Paul Ricoeur, "Emmanuel Lévinas, penseur du témoignage", in Paul Ricoeur, Lectures 3 (Paris, Seuil, 1994). (テキストはコピーして配布する)</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>									
【その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）】									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 杉村 靖彦				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水5	授業形態	演習
題目	シモーヌ・ヴェイユ 『デカルトにおける科学と知覚』 を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>昨年度の演習に引き続いて、ヴェイユが高等師範学校に提出した学位論文『デカルトにおける科学と知覚』(1930)の第二部を読む。箴言のように研ぎ澄まされた晩年のテキストに比べれば、この学生時代の論文は、文章はなお生硬で論述も理路の辿りにくいものである。だが、とくに「もう一人のデカルト」に仮託して独自の思索を展開した第二部は、身体や労働といったモチーフを知覚論や科学論に織り込むことによって、その後の彼女の政治思想・宗教思想へと光を投げかけている。この論文を同時期の幾つかの小論とあわせて精読することによって、ヴェイユ思想全体の哲学的可能性をさまざまな角度から探っていきたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>最初の2回ほどの授業で、このテキストの論構成と昨年読んだ箇所のご略を教師が解説する。その後の授業では、訳読および要約の担当者を決めて、1回2頁程度のペースで精読していく。読んでいく箇所の理解に資すると思われる場合には、ヴェイユの他のテキストや他の思想家たちのテキストを紹介し、授業の材料として取り込んでいきたい。</p>									
【履修要件】									
<p>第二外国語としてフランス語を履修していることを絶対条件とするわけではないが、フランス語初心者には、できるだけ早いうちに訳読作業を行う上で最低限必要な語学力を身につけるように努めてほしい。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点（担当箇所の訳読・議論への参加）と年度末のレポートによる。</p>									
【教科書】									
<p>Simone Weil, "Science et perception dans Descartes", in Simone Weil. Oeuvres complètes I : premiers écrits philosophiques (Gallimard, 1988).</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	宗教学(演習II) Philosophy of Religion (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 杉村 靖彦 文学研究科 教授 氣多 雅子				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3,4 隔週	授業形態	演習
題目	宗教哲学基礎演習								
【授業の概要・目的】									
<p>宗教学に関わる基本文献を教師とチューター役の大学院生の解説を手がかりに読み進めていくことで、概論と専門研究の橋渡しになるような知識と思考法の獲得を目指す。また、3回生以上の参加者は、卒論執筆に向けた研究発表を行う。</p> <p>宗教学専修の学部生を主たる対象とするが、哲学と宗教が触れ合う問題領域に関心をもつ2回生、および他専修学生の参加も歓迎する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>宗教学の基本文献と言えるような著作や論文を数点選び、事前に出席者に読んできてもらう。そして、毎回教師とチューター役の大学院生の解説をもとに、質疑応答と議論を行っていく。また、研究発表の際には、論述の仕方や文献の扱い方なども指導し、論文の書き方を学ぶための機会とする。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（研究発表）と年度末のレポートによる。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>この授業は、宗教学専修の学部生に対しては、卒論指導の役割をも兼ねるものである。必ず出席し、自らの学習に役立ててほしい。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	宗教学(講読) Philosophy of Religion (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 鶴 真一				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4	授業形態	講読
題目	Mackie, The Miracle of Theismを読む								
[授業の概要・目的]									
<p>・この授業は宗教学関連の原典を読むことを目的とするものです。原典に当たる経験を積んでもらうだけでなく、とりわけ宗教哲学における議論や知識を学んでもらうことを企図しています。</p> <p>・テキストとして、マッキーの『有神論の奇蹟』を読み進めていきます。マッキー (John Leslie Mackie, 1917-1981) はオーストラリアの倫理学者として有名ですが、この著書は「神の存在証明」に関する議論を一通り解説した上でマッキーの独自の解釈が平易な英語で記述されており、宗教哲学の入門書として最適なものとなっています。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>・事前に担当者を決め、自分の担当箇所を発表してもらいます。担当者は自分の担当箇所を責任をもって訳出し、質問された場合に回答できるよう内容についても十分に理解しておいてください。</p> <p>・発表内容にもとづいて、読解に関する指摘や考え方について講師から解説を加えます。</p>									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
「出席」「発表内容」「課題提出状況」の三つを総合的に考慮して評価を行います。第一回目の授業で詳しい説明を行うので、必ず出席してください。									
[教科書]									
J.L.Mackie 『The Miracle of Theism - Arguments for and against the Existence of God 』 (Oxford University Press) ISBN:019824682X 注) コピーを配布するので、必ずしも購入する必要はありません。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

キリスト教学専修

授業科目名 <英訳>	キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 芦名 定道				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	キリスト教思想研究入門								
【授業の概要・目的】									
この特殊講義は、すでに系共通科目「キリスト教学講義」を受講し、キリスト教思想研究に関心のある学部生を対象に行われる。キリスト教思想研究を目指す際に身につけておくべき事柄について、またいかなるテーマをどのように取り上げるのかについて、解説を行う。									
【授業計画と内容】									
<p>本講義では、前期後期ともに、まず、10回程度の講義を行い、残り5回の授業において、受講者の研究発表を実施する。キリスト教学専修学部生（研究生も含めて）に対しては、この研究発表によって、卒論指導を行う。</p> <p>今年度は、近現代キリスト教思想の主要なテーマについて考察を行うことによって、現代のキリスト教思想の主要動向の理解をめざしたい。前期は、19世紀から20世紀前半のキリスト教思想から、近代聖書学、自由主義神学（シュライアマハー、リッチェル、ハルナック、トレルチ）、キリスト教社会主義・宗教社会主義、弁証法神学（バルト、ブルトマン）、ティリッヒなどを取り上げる。</p> <p>後期は、20世紀後半以降のキリスト教思想から、解釈学的神学（ポスト・ブルトマン、リクール、ヴァッティモ）、政治神学（シュミット、モルトマン、アガンベン、ジジェク）、解放の神学（ラテン・アメリカの解放の神学、フェミニスト神学、黒人神学、民衆の神学、ピエリス）、科学論の神学（パネンベルク、プロセス神学）、宗教の神学（ヒック）、エコロジー神学などを論じる。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
受講者には、前期と後期に、一回ずつの研究発表が求められる（一部、レポートに代えることも可能）。成績評価は、この研究発表によって総合的に行う。									
【教科書】									
授業中にプリントを配付する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業において配付する資料によって、指示。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。質問は、オフィスアワー（木2・金3）を利用するか、メール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 芦名 定道						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	特殊講義
題目	キリスト教と社会理論の諸問題(3)								
【授業の概要・目的】									
現代世界において宗教は、深刻な対立要因の一つと見なされている。この対立図式自体の問題性は別にしても、キリスト教がこうした文脈で問われていることは否定できない。講義では、キリスト教と社会理論との関係という視点から、この問題領域にアプローチしたい。									
【授業計画と内容】									
<p>本講義は、数年前より開始した「キリスト教と社会理論の諸問題」をテーマとした講義計画（今後5年程度をかけ、体系的な議論を展開することを予定）に位置づけられるものであるが、今年度は、昨年度の講義内容（近現代における宗教哲学の可能性についての考察、聖書学から社会科学への接続の問題）を簡単に確認した上で進められる。前期の講義では、昨年度の議論において残されていた、聖書学から政治思想・政治哲学への展開について、イデオロギーとユートピアという問題を中心に考察を行う（マルクス、マンハイム、ティリッヒ、リクールら）。後期の講義では、「経済と環境」をめぐる諸問題が取り上げた後に、再度、宗教哲学構想を再考する予定である。</p> <p>以上が、本年度の講義内容の中心となるが、時間が許す範囲で、具体的な聖書テキストの解釈に即した考察も行いたい。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。（講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う。）									
【教科書】									
講義では毎回プリントを配付する。									
【参考書等】									
（参考書） 毎回の授業にて配付される資料を参照。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。質問は、オフィスアワー（木2・金3）を利用するか、メール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者氏名	非常勤講師 手島 勲矢						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	ユダヤ思想史研究の基礎 タナッハからスピノザまで								
【授業の概要・目的】									
<p>本講義は、ヘブライ語聖書（タナッハ）を基礎にして展開されるユダヤ思想史の入門的解説である。各時代のユダヤ人の著作あるいは説話や聖書解釈のサンプルに基づき、古代から中世にかけてのユダヤ思想の基本問題、特長となる思想や時代背景などの基礎的知識について講義していく。そのため学生は、ユダヤ思想研究上の諸問題、その基本用語、諸文献の入門的知識などを習得することができる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>1．導入：ユダヤ学の文脈 ユダヤ・アイデンティティと特殊性と普遍性 2．聖書研究の問題 旧約学・新約学とユダヤ学のテキスト観 3．第1神殿時代 思想としての「律法」「預言」「知恵」 4．第2神殿時代 口伝律法と預言の終焉 5．ラビ・ユダヤ教と原始キリスト教の分岐 改宗原理と多数決原理 6．イスラーム哲学とユダヤ知性 サアディア・ガオン、イツハク・ハイスラエリー 7．歴史と伝承と文法 ユダ・ハレヴィ、イブン・エズラ 8．マイモニデスの時代 カバラーと理性の緊張 9．ルネッサンスと宗教改革期のユダヤ思想 科学と言語 10．スピノザとユダヤ思想 受容と反発 *各講は1から3回程度の授業時間を要する。今年度の講義では、特に13世紀から16世紀の展開（ナフマニデス、イツハク・アヴァルバネル、アザリヤ・デロッシなど）に注目する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（期末レポート70％とクイズ30％）で評価。									
【教科書】									
使用しない 適宜プリントを配布。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>基本的に本講義は、聖書解釈とユダヤ思想・哲学の思考の関心に興味を中心をすえている。その中で、ユダヤ教から見たキリスト教についても考える。ユダヤ教とヘブライ語の知識がない受講者を前提としている。講義の計画は、受講者の要望や問題意識に応じて一部修正する場合がある。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者氏名	西南学院大学 国際文化学部 講師 津田 謙治						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	ヘレニズム哲学とキリスト教思想								
【授業の概要・目的】									
<p>ヨーロッパ思想の根幹となって西洋文化を築いてきた根源的な思潮が二つあるといわれる。それはヘレニズム（ギリシア思想）とヘブライズム（ユダヤ・キリスト教思想）である。この両者はその発生の時と所および基本的な思想態度を異にしながらも、古代末期において出会い、以後の西洋の歴史において対立・融合を繰り返して西洋の思想の歴史を織り成してきた。本講義はこの両者の基本的な思想態度の相違をその源泉、すなわちギリシアの文学・思想的文献（プラトン、アリストテレス、ストア主義等）およびユダヤ・キリスト教文献（旧・新約聖書、教父文献等）に遡って考察し、西洋思想の歴史における両者の対立と融合の過程とを古代から中世にわたって跡付ける。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>・本講義では以下に挙げるような課題について扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．ヘレニズム哲学概論 2．キリスト教教父概論 3．個別テーマ「無からの創造」 4．個別テーマ「ロゴス論」 5．個別テーマ「神霊・天使・悪魔」 <p>・また同時に、外国語文献（英語）の講読を行う。テキストはラテン教父に関するもので、次のものを扱う予定である。</p> <p>Hans von Campenhausen, “ The Fathers of the Latin Church ”, translated by Manfred Hoffman, California, 1964.</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>・平常点（授業への取り組み・参加など）・・・ 50点</p> <p>・レポート・・・ 50点</p>									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>J.N.D. ケリー 『初期キリスト教教理史 上 使徒教父からニカイア公会議まで』（一麦出版社）</p> <p>J.N.D. ケリー 『初期キリスト教教理史 下 ニカイア以後と東方世界』（一麦出版社）</p> <p>A.H. アームストロング 『古代哲学史』（みすず書房）</p>									
【その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）】									
<p>・初回の講義では、細かい注意事項を伝えますので、必ず出席してください。</p> <p>・外国語文献講読は、参加者全員で和訳しながら進めていくので、予習を必ずしておくこと。</p> <p>・テキストについては事前もしくは第一回目の講義で配布します。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 芦名 定道				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	演習
題目	日本・アジアのキリスト教 波多野精一(5)								
【授業の概要・目的】									
日本・アジアのキリスト教の歴史を振り返りつつ、その新しい思想的可能性を探ることは、日本におけるキリスト教思想研究にとって重要な意味を有している。今年度取り上げられる波多野精一は近代日本を代表するキリスト教思想家であるが、この演習では、波多野のテキストを精読することを通して、波多野の宗教思想についての理解を深め、キリスト教的宗教哲学の可能性について考える。									
【授業計画と内容】									
本年度は、昨年度まで完了した、波多野宗教哲学三部作（『宗教哲学』『宗教哲学序論』『時と永遠』）それぞれの個別的な内容から、波多野宗教哲学の体系的理解へと考察が進められる。宗教哲学の方法論、体系構成、事実・経験概念、哲学的人間学、宗教類型論といった宗教哲学の基礎に関わる事項、あるいは、神秘主義と擬人観、愛、死、象徴、他者、永遠、創造、救済などの個々のテーマとについて、三部作を縦横に用いた分析を行いたい。それによって、波多野宗教哲学を、トレルチ、ハイデッガー、ティリッヒ、レヴィナス、西田幾多郎らとの本格的な比較が可能になるものと思われる。合わせて、これまでの演習で扱えなかった文献（「西洋宗教思想史（希臘の巻）」）についても精読を行いたい。演習は、テキストの精密な読解に基づいて、関連事項について考察し、波多野研究を参照しつつ進められる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。（受講者には、前期後期に最低一回ずつの発表担当を課するが、その発表内容と、演習への参加度とから総合的に判断する。）									
【教科書】									
テキストはコピーして配付する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
受講者は、毎時間のテキストの予習と演習への積極的参加が求められ、特に前期後期各一回以上の発表担当が課せられる。演習に関わる質問は、オフィスアワー（木2・金3）を利用するか、メール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 芦名 定道						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金4	授業形態	演習
題目	新約聖書とその思想 政治思想の観点より(3)								
[授業の概要・目的]									
<p>新約聖書は、キリスト教思想の基盤であり、キリスト教思想研究を志す者には、聖書原典を読む能力(語学・聖書学・聖書神学など)が求められる。本演習ではギリシャ語原典の講読を通して現代聖書学の基礎の習得を目指す。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>本年度は、多岐にわたる新約聖書の思想の内から、昨年度に引き続き、政治思想に関わるテキストを講読する。特に、使徒言行録とヨハネ黙示録を中心に、聖書テキストに即して思想へと迫ることを試みたい。本演習では、各種の辞書の使用法から、聖書注解書の扱い方といった、聖書テキストを読解する上で必要となる基礎的作業の習熟を目指す。</p> <p>また、新約聖書の政治思想の理解を深めるために、Richard A. Horsley(ed.), Paul and the Roman Imperial Order, Trinity Press, 2004.の講読を並行して行う予定である。受講者には、ギリシャ語原典の読解のほかに、このテキストの読解が求められる。</p>									
[履修要件]									
ギリシャ語初級文法を習得していること(必要があれば、個別的に相談)。									
[成績評価の方法・基準]									
平常点による。(受講者には、数回の発表担当を課するが、その発表内容と、毎回の演習への参加度とから総合的に判断する。)									
[教科書]									
聖書ギリシャ語原典(Nestle-Aland)の関連箇所と、英語(あるいは日本語)テキストのコピーを配付する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>受講者は、毎時間のテキストの予習と演習への積極的参加が求められ、特に数回の発表担当が課せられる。演習に関わる質問は、オフィスアワー(木2・金3)を利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)	担当者氏名	非常勤講師 堀川 敏寛						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	演習
題目	ヘブライ語聖書(旧約聖書)における語義と思想の解釈								
【授業の概要・目的】									
<p>本授業では、マルティン・ブーバーの独語テキストの購読を通して、ヘブライ語聖書(旧約聖書)で使われる語義(主にトーラーから)と、聖書の各書における思想を、それらが書かれた時代背景を参照しながら解釈する。ブーバーの独語テキストを読むと同時に、ヘブライ語聖書原典とその翻訳文を参照する。</p> <p>著作は、主に、ブーバー著作集第2巻『WERKE Zweiter Band -Schriften zur Bibel』に収録されている日本語訳のない小論文を用いる。</p> <p>本授業では、独語テキストの訳出を主に、ヘブライ語や、聖書物語とその歴史に関して、随時、講師による補足講義を行う。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、該当テキストを読む予定である。</p> <p>昨年度の講義では、トーラー(律法)における「燔祭、素祭、祭壇、宿めの香り、感謝と和解の捧げ物、至聖所、不純さ、臨在の幕屋、過越祭、安息日の祈り、免除年」らの語義解釈と、「ヤコブ物語における祝福、アブラムの割礼とサライの出産、ハガルの逃亡、出エジプト3章における神名、モーセのファラオとの交渉に見られる祭司文書の特徴、レビ記における寄留者と隣人、バラムの託宣、サムエル記におけるサウルの選びと失脚、ホセアとエレミヤにおける立ち帰り、黙示思想の時代におけるコヘレトの説いた知恵」らの思想解釈を行った。今年度も語義解釈はトーラーを主に、思想解釈ではネビーイム(預言書)・ケトゥビーム(諸書)らにも広げていきたい。</p>									
【履修要件】									
<p>毎回の課題(テキストの訳)を前もって準備できる受講生のみ履修可能である。聴講のみを目的とする受講生は受け付けない。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価(授業での訳出)									
【教科書】									
Martin Buber 『WERKE Zweiter Band -Schriften zur Bibel』(Verlag Lambert Schneider)(ブーバーのドイツ語著作集第2巻『聖書論文集』1964年)									
【参考書等】									
(参考書)									
Martin Buber and Franz Rosenzweig 『Die Schrift』(Deutsche Bibelgesellschaft)ISBN:3438014912(本書はブーバーとローゼンツヴァイクが独訳したヘブライ語聖書「Die Schrift」である。)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ヘブライ語(語学) Hebrew			担当者氏名	非常勤講師 手島 勲矢				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	古典ヘブライ語初級文法								
【授業の概要・目的】									
<p>聖書テキストおよびラビ文献を声に出して読むことができることを達成目標に初級ヘブライ語文法を概説する。声に出して読めるための基礎情報（文字と母音記号）および言葉の種類と形態認識の能力の獲得を目指す。テキストをベースに文法情報から意味を引き出す解釈基礎の習得にも努力する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前半は、アルファベットと母音記号などのマソラ記号を学ぶことから始めて、名詞、形容詞、前置詞、動詞の分詞形について学ぶ。次に、名詞や前置詞につく人称接尾辞の変化、規則動詞のカル形の人称変化、動詞の態などについて学ぶ。後半は復習から始めて、不規則動詞の形態変化を学びながら、聖書およびユダヤ教文献から選んだテキストをベースにして文法情報を確認しながら解釈の可能性の思考に慣れ親しむ。読解テキストは、創世記、出エジプト記、申命記、ヨシヤ記、詩篇、コヘレト等からのもの数節、またミシュナー・アボット他から選んだ数節。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点評価（前半小テスト(20%)と小クイズ（10%）と後半レポート（70%）の合計）狙いは、アレフベットと母音記号を組み合わせて読める能力、品詞を分類理解できる能力、辞書でテキストの言葉の意味を見つける能力、意味の可能性（複数）を見出す能力などの目標達成度を見るもの。</p>									
【教科書】									
<p>授業中に指示する 補助的プリントを配付する。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>特になし。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

美学美術史学専修

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)		担当者氏名	文学研究科 教授 吉岡 洋					
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	芸術・テクノロジー・言語								
【授業の概要・目的】									
<p>芸術、テクノロジー、言語の相関をめぐって考察する。まずは昨年物故したメディア理論家フリードリヒ・キッター（Friedrich A. Kittler, 1943 - 2011）の批評的実践を手がかりにしつつ、文化的事象を語る際にメディア環境やテクノロジー的条件をどこまで決定的要因と考えるべきかを検討する。その上で、芸術活動および芸術作品について「語る」とはいかなることか、そもそも現代においてそれは可能なのか、可能であるとすればその「言語」はどのようなものであるべきなのかについて考える。過去の規範的な批評言語を振り返りつつ、それが現代の芸術活動や芸術作品に対して持ちうる有効性と限界とを探り、新たな批評言語の可能性を模索することが目的である。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>主として20世紀後半以降の芸術的発展、しばしば「現代美術」「現代アート」等と呼ばれてきた領域、また「コンピュータアート」「テクノロジーアート」「ビデオアート」「メディアアート」等の名で呼ばれてきた領域をめぐって、それらがどのように語られてきたか（あるいは語られてこなかったか）を考察する。その際、過去の美学・芸術学や批評的言説の理解を通して、しばしば特権なものとして語られがちな「現代」「テクノロジー」「メディア」といった観念を相対化するような視野を獲得する必要がある。その上で、「メディア芸術」という問題的概念についても検討する予定である。可能な限り現代美術やメディアアートに関わる展示などにも足を運び、現地においても講義することを試みる。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。ここで言う平常点とは出席日数のことではなく、講義中に与える課題等の評価を指す。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業時に適宜指示する。必要資料はコピー配布する。</p>									
<p>（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））</p> <p>授業関係の即時的情報については、次のTwitterアカウント： http://twitter.com/yoshioka_office を参照してください。 「オフィスアワー」は特に設けませんが、面談希望の人は下に連絡： hysyk56@me.com 基本的に、水・木・金は大学に多いです。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 根立 研介				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	鎌倉時代慶派仏師の諸相								
【授業の概要・目的】									
前期は主に昨年度の授業の「仏師快慶の基礎的研究」を継承して、快慶の法眼時代の事績とその作品研究を行う。これが終了したら、運慶・快慶次世代の慶派仏師の事績とその作品研究についての考察を行う。対象となる仏師は、運慶子息の湛慶、康勝、康弁らと、快慶の弟子の行快等である。これにより、13世紀前半の慶派仏師の活動の様相の把握を試み、彼らの作風変遷や、造像背景などの問題を考察する上での基礎的な作業を行うことにしたい。									
【授業計画と内容】									
快慶の研究については、今年度は二カ年目で法眼時代の作品研究を進めるとともに、長谷寺再興造仏事業などの事績の分析を行う。これが終了したら、湛慶、康勝、康弁ら運慶子息と、快慶弟子の行快らの作品研究と事績を検討する。主な内容は以下の通りであるが、1課題について原則1～3週間の授業をおこなう予定である。 西方院阿弥陀如来像 光台院阿弥陀三尊像 大行寺阿弥陀如来像 大報恩寺十大弟子像 長谷寺再興造仏 雪隠寺毘沙門天像 蓮華王院再興造仏 西園寺阿弥陀如来像をめぐって 法隆寺金堂阿弥陀三尊像 東寺弘法大師像 興福寺天燈鬼竜燈鬼像 阿弥陀寺阿弥陀如来像 大報恩寺釈迦如来像 極楽寺阿弥陀如来像									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。(論述の内容について、分析の仕方、使用した資料の取り扱いなどを含め総合的に判断する。レポートが100%)									
【教科書】									
なし。毎回、資料配付を行う。									
【参考書等】									
(参考書) 水野敬三郎、根立研介ほか編『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代 造像銘記篇 2～8巻』(中央公論美術出版) ISBN:4-8055-1021-8,978-4-8055-1022-3									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
かなりの量の資料を配布するが、これらの読解については相当程度に予習復習が要求される。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 平川 佳世				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	収集室の誕生と発展 絵画芸術との関連に着目して								
【授業の概要・目的】									
西洋における収集室の誕生と発展について、とりわけ、15, 16世紀の絵画芸術との関連を中心に、考察する。									
【授業計画と内容】									
ヨーロッパにおいては、中世後期、宝石や聖遺物、工芸品など貴重な品々を保管する収集室が王侯貴族の館に設置されるようになり、やがて15,16世紀には裕福な市民の間にもこうした習慣が広まることになる。カビネ/キャビネット (cabinet)、ストゥディオオーロ (studiolo、書斎)、ヴンダーカマー (Wunderkammer、驚異の間) 等様々な名前と呼ばれる収集室の誕生と展開、およびその存在がとりわけ15,16世紀の絵画芸術に与えた影響について、現存する関連作品や財産目録の分析等を通じて、考察する。									
【履修要件】									
特になし。芸術や歴史に興味ある人の受講を歓迎します。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と定期試験									
【教科書】									
特になし。適宜、プリントを配布します。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
西洋美術一般について幅広い関心を持ち、展覧会や美術館等で実作品を鑑賞する機会を持つよう、心がけて下さい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 中村 俊春				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	17世紀オランダの風俗画および肖像画研究								
【授業の概要・目的】									
<p>1609年にスペインからの事実上の独立を達成したオランダ共和国は、海運業と貿易等により、「有り余る富embarrasment of riches」とも呼ばれる、未曾有の経済的發展を達成した。ヨーロッパの他の国々とは異なり、君主制を廃した、この新興国では裕福な市民階級が、政治的にも経済的にも国の中心的な存在となり、美術の分野でも彼らの趣味を強く反映した作品が制作された。</p> <p>本講義では、風俗画、肖像画を中心にこの時代のオランダ絵画を取り上げる。それにより、オランダ絵画に関する知識を得るとともに、美術史的な考察方法についての理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>17世紀オランダ絵画の特徴は、その写実性にある。しかし、一見したところ、身の回りの日常生活を描いたように見える風俗画には、実は、さまざまな虚構の要素が組み入れられており、それにより、道徳的な教訓が込められていることが多い。また、肖像画でも、人物の相貌の再現という目的を越えて、人格、社会的役割、身分、家族観などのさまざまな価値観が表現されている。</p> <p>本講義では、風俗画、および肖像画の代表的な作品を、それぞれ15点、計30点取り上げて、毎回の講義でそれぞれ1点の作品について、関連作品と比較しながら、その様式的な検討を行い、さらに、オランダ社会の道徳観、価値観、画家による作品のマーケティング戦略などに着目して、その図像学的な解釈を試みる。</p>									
【履修要件】									
<p>少なくとも英語で書かれた専門文献を読みこなす語学力を有していること。また、あまり頻繁に欠席する学生の受講は難しい。芸術や歴史に関心のある学生を特に歓迎する。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
授業中に行った発表とレポートによる総合評価。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書) 美学美術史学研究室や文学部図書室所蔵のオランダ美術関連の書籍を参照すること。</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>おのこの受講生に、担当する作品あるいは論文が課題として与えられ、担当者の発表に基づきながら、出席者全員で議論するという形式で授業を行う。そのために、毎回、準備としてかなりの量の欧文文献を読んでおく必要がある。</p>									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	文献学研究								
【授業の概要・目的】									
<p>清朝の代表的な蔵書家である黄丕烈の讀書記『士禮居蔵書題跋記』を読みながら、清朝の文献学ならびに学術全般についての理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>黄丕烈の讀書記『士禮居蔵書題跋記』は、彼が購入したり譲り受けたりした書物に関して、そのテキストの来歴あるいは他のテキストとの校勘の記録、さらには購入時のさまざまな逸話的記録などが示されており、当時の蔵書家達の書物に対する意識を知るには格好の書物である。基本的に講者が読んでいくこととするが、出席者のメンバーから希望があれば、一部を学生諸氏に読んでもらうことも考えている。今年度は、潘祖蔭の序文から始めて、經部、史部と進む予定。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。(論述の内容について、使用した資料の読解、分析の仕方を含めて総合的に判断する。レポートが100%。)									
【教科書】									
こちらで『士禮居蔵書題跋記』のコピーを準備する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>中国の文献学を理解するためには、広く漢籍に対する理解と、唐本(中国刊線装本)に対する視覚、触覚等の感覚的な「慣れ」が必要となるので、授業外に出来る限り文学研究科図書館の書物を手に取ることが必要となる。中国哲学史と共通。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 篠原 資明				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	稲垣足穂と美学								
【授業の概要・目的】									
思想家としての稲垣足穂（1900～1977）を哲学的美学的観点から検討する。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり4～5週の授業をする予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> 1．フロイトと足穂 2．ドゥルーズの欲望論と足穂の快樂論 3．芸術作品の根源 ハイデガーとの関係 4．ベルクソンと足穂 5．未来派と未来仏 6．足穂と20世紀 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 准教授 岡田 暁生						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	西洋音楽史とモダン・ジャズ								
【授業の概要・目的】									
<p>モダン・ジャズがアメリカ音楽（とりわけポピュラー音楽）の文脈で語られることはあっても、西洋音楽の歴史との関連に言及されることはほとんどない。むしろジャズ批評の多くは「クラシック音楽」を仮想敵として設定することにより成立してきたところがあり、クラシックとの差異化をはかるべく、「アメリカ」「黒人」「大衆（民衆）」といった要素を強調することで、むしろ二〇世紀初頭の西洋音楽モダニズムからの連続性が見えなくなってきたとすらいえる。この講義では、1 西洋音楽にとってのジャズ（例えば一九二〇年代におけるラヴェルらのジャズ受容） 2．モダン・ジャズにとっての西洋モダニズム（和声などにおけるアナロジー） 3．「芸術音楽」としてのモダン・ジャズおよびクラシック双方の歴史の並行関係（とりわけ独創性の概念） に焦点を当てる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>とりあげる主要なテーマは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：調性音楽からの出口の模索：ドビュッシーとエクゾチズム 2：西洋モダニズムとしてのジャズ受容：ストラヴィンスキーとラヴェル 3：「自由」のシンボルとしてのスイング 4：実験的調性音楽としてのバップ 5：ヨーロッパ戦間期の前衛とモダン・ジャズの連続性 6：即興とは何か 7：ジャズにおける和声とヨーロッパ・モダニズム 8：旋法（モード）とフォルムの危機 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>油井正一『ジャズの歴史物語』（アルテス）</p> <p>音楽理論やジャズの歴史についての予備知識はなくともよい。二〇世紀モダニズムに何らかの関心をもつ者を歓迎する。マイルス・デイヴィスの歴史的な名盤『カインド・オブ・ブルー』だけは録音を聴いておくこと。</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者氏名	愛知教育大学 教育学部 准教授 安田 篤生						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	江戸の狩野派 狩野探幽を中心に、								
【授業の概要・目的】									
江戸時代の狩野派について、江戸前期を代表する絵師の一人である狩野探幽を中心に考察する。江戸時代に著された画史や画論などの記述と作品を対照させ、江戸時代における狩野派のあり方や探幽について理解を深めることを目指す。									
【授業計画と内容】									
室町時代後期から江戸時代、とりわけ江戸前期にかけて画壇の中心に位置し続けたのが狩野派である。従って、当該時期の日本における絵画制作のあり方を知るためには、狩野派についての理解が不可欠である。本講義では、まず、江戸前期に狩野派の絵師によって著された『画道要訣』や『本朝画史』、『画筌』などの画史・画伝、画論を精読し、作品と対照させつつ、江戸時代における狩野派の絵画観や絵画制作のあり方を明らかにする。それを踏まえた上で、江戸前期を代表する狩野派の絵師である探幽を取り上げ、時代を画したと評される画風の成立や変遷について作品に即して講述する予定。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（発表）及びレポート（作品や文献資料、社会的背景などに対する分析を踏まえた記述の論理性など、論述内容を総合的に評価する）による。									
【教科書】									
使用しない。必要な資料は適宜配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
配付資料についての予習が必要。また、附属図書館に配架されている美術全集や市販の書籍、展覧会などを通して、室町時代後期から江戸時代前期にかけての絵画史の展開などについて自習しておくことが望ましい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)		担当者氏名	名古屋大学 大学院文学研究科 准教授 伊藤 大輔					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	中世形成期における日本絵画の思想的深層								
【授業の概要・目的】									
<p>中世形成期としての院政期は絵巻物の制作が最高潮を迎えると同時に、肖像画が新たに発展した時期でもある。絵画の制作がこれほど活発になったのは、時代の変革期において、まがりなりにも社会との円満な調和を保っていた古代的な人々の生活感覚がいよいよ動揺し、新たな安定に向けて思想的な模索が行われたからであろう。言葉だけではなく、視覚的に対象化を試みることで、新たな思想はおぼろげであったものから確固たるものとなり、旧来の思想は新たな時代にふさわしいものへと作り直される。そして新旧の思想がぶつかり合い、お互いを鍛え合って新たな思想的段階へと上昇するのである。</p> <p>この講義では中世形成期における絵画に表れた思想的葛藤の軌跡をあとづけることを通して、変革期における絵画の思想的深層について分析的に理解することを目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、1～2回の授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 似絵の始まり 最勝光院御所障子絵の史料を読む 2. 藤原兼実の似絵忌避について 3. 赤松俊秀の呪詛論の検討 4. 呪詛と肖像の関係の検討 5. 平安時代の身体観について 6. 似絵の起源としての尚齒会図 7. 尚齒会図の実例についての様式的検討 8. 似絵制作の思想的背景としての「似絵詞」を読む 9. 似絵の時期区分の検討 九条道家の徳治思想を中心に 10. 徳治の思想と絵画の関係について 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>レポートにより評価します。</p> <p>中世形成期の美術について、自らが取り扱う具体的な作品を選定する選択眼、それを的確に記述する文章表現の能力、また選択した作品を歴史的な文脈に置くための作品比較の手腕、最終的に中世形成期美術に対する創見を提示しているか等の点を総合的に判断して評価いたします。</p>									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>伊藤大輔 『肖像画の時代』 (名古屋大学出版会) ISBN:9784815806828 (予習、復習に利用して下さい。)</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習Ⅰ) Aesthetics and Art History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 中村 俊春 文学研究科 教授 根立 研介 文学研究科 准教授 平川 佳世				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	演習
題目	美学美術史学の实地指導								
【授業の概要・目的】									
美術作品が所在する現場に実際に足を運び、美術作品に触れ、作品の分析等、美学美術史学の研究方法の实地指導を行う。									
【授業計画と内容】									
京都、大阪、奈良などに所在する美術館や博物館で開催される日本美術、西洋美術、現代美術等をテーマとした展覧会、あるいは優れた仏像や障壁画などの日本・東洋美術を所蔵する寺社が、指導の現場となる。見学の詳細については、美学美術史学研究室前に適宜掲示されるので、各々確認すること。作品に対する鑑定眼は美学美術史学研究の基礎であり、多くの作品を実際に目にすることによって養われる。そのため、出来るだけすべての見学会に参加することが望ましい。また、対象作品については各自事前に専門文献等を参照しつつ学習し、明確な目的意識をもって見学に参加できるよう、入念に準備すること。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
見学時における口頭発表およびレポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 大学の蔵書を適宜参照すること									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
作品保存の観点から、メモを取る際は鉛筆のみ使用可。また寺社見学に際しては、節度ある服装で参加すること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 中村 俊春 文学研究科 准教授 平川 佳世				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	演習
題目	諸芸術の優劣比較論争								
【授業の概要・目的】									
美術および諸芸術に関するドイツ語文献の講読を通じて、専門の研究書を読解する力を養うとともに、美術史および芸術学の諸問題について理解を深めることを目指す。今年度は、諸芸術の優劣比較論争に関する文献を読む。									
【授業計画と内容】									
Ekkehard Mai und Kurt Wettengl (hrsg.), Wettstreit der Künste: Malerei und Skulptur von Dürer bis Daumier, München, 2002をテキストに、15世紀以降のヨーロッパで行われた絵画と彫刻、音楽、文学等諸芸術の優劣比較論争について考察する。適時、取り上げられている作品について詳しい議論も行うので、受講生諸君は、毎回必ずテキストを予習しておき、授業に参加することを求めます。									
【履修要件】									
特になし。芸術や歴史に興味があり、意欲的に授業に参加する人の受講を歓迎します。									
【成績評価の方法・基準】									
前期と後期それぞれに、平常点および筆記試験により成績を評価し、これらの合算により最終的な成績評価を行う。									
【教科書】									
テキスト等は授業中に配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
ラジオやテレビ、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のドイツ語能力の向上にも努めて下さい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 平川 佳世				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	ルネサンスにおける芸術家と注文主								
【授業の概要・目的】									
美術史に関するイタリア語文献の講読を通じて、イタリア語の実践的読解力を養うとともに、美術史の諸問題について理解を深めることを目指す。									
【授業計画と内容】									
本年度は、Salvatore Settis, <i>Artisti e committenti fra Quattro e Cinquecento</i> , Torino, 2010の講読を通じて、ルネサンスの芸術制作において注文主が果たした役割について考察する。イタリア語の習得度や美術史の知識の有無は問いませんが、受講生の皆さんには毎回予習を行い、積極的に授業に参加することを希望します。									
【履修要件】									
特になし。芸術や歴史に興味ある人の受講を歓迎します。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と定期試験									
【教科書】									
講読テキストはプリントで配布します									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
ラジオやテレビ、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のイタリア語能力の向上にも努めて下さい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)			担当者氏名	京都工芸繊維大学院 永井 隆則 工学科学研究科 准教授				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	演習
題目	モダン・アートの社会学								
【授業の概要・目的】									
近年、再評価の高まっている、フランスの美術史家、ピエール・フランカステル(1900-1970)の以下の印象派論を講読しながら、芸術社会学の可能性を講じる。									
Pierre Francastel, L'Impressionnisme Manet・Monet・Cezanne・Renoir・Gauguin・Van Gogh・Degas・Seurat, Denoel/Gonthier, Paris, 1974									
【授業計画と内容】									
Pierre Francastel, L'Impressionnisme Manet・Monet・Cezanne・Renoir・Gauguin・Van Gogh・Degas・Seurat, Denoel/Gonthier, Paris, 1974 を毎回、逐語訳しながら、社会的印象派論の可能性を論じる。									
【履修要件】									
フランス語中級以上の知識を身につけている事。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートの総合評価。									
【教科書】									
永井隆則 『モダン・アート論再考 - 制作の論理から』 (思文閣出版、2004年) 永井隆則 『フランス近代美術史の現在』 (三元社、2007年)									
【参考書等】									
(参考書)									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
各自の専門に応じて、適宜、参考文献を紹介する。メールで適宜、質問に回答したり指示を出す。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 杉山 卓史				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木1	授業形態	演習
題目	英書講読：現代美学基本論文選読								
【授業の概要・目的】									
美学美術史学にかんする英語文献の講読を通じて、この分野の専門書を読解する能力を涵養する。併せて、この分野の研究を進める上で土台となる基礎知識の習得にも努めたい。									
【授業計画と内容】									
現代美学において評価の定着した英語論文を読みながら、美学の基本的な諸問題 「芸術」をどう定義するのか、「美的(aesthetic)」であるとはどういうことか、等を考えるための議論構成や道具立てを学ぶ。さしあたって以下の諸論文を読む予定。									
Morris Weitz, "The Role of Theory in Aesthetics" (1956) Frank Sibley, "Aesthetic Concept" (1959) Arthur C. Danto, "The Artworld" (1964) Kendall L. Walton, "Categories of Art" (1970) Joseph Margolis, "The Ontological Peculiarity of Works of Art" (1977)									
その後はJoseph Margolis ed., Philosophy Looks at the Arts (1987)およびPeter Lamarque & Stein Haugom Olsen ed., Aesthetics and the Philosophy of Art (2004)等の基礎論文集から受講者の興味関心を勘案しつつテキストを選定する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートによる。									
【教科書】									
テキストはコピーして配布する。なお、上で「さしあたって読む予定」として挙げた諸論文は、京大OPAC上の電子ジャーナルからも入手できる。その活用方法についても授業中に解説する予定。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
毎回、予習をして(日本語訳を作成して)授業に臨むこと。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習III) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者氏名	文学研究科 教授 中村 俊春 文学研究科 教授 根立 研介 文学研究科 教授 吉岡 洋 文学研究科 准教授 平川 佳世			
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	演習
題目	美学美術史学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
卒業論文の作成に向けて、受講者全員が各自設定した美学美術史学に関する問題について口頭発表を行い、研究を進展させることを目指す。									
【授業計画と内容】									
受講者各自が卒業論文を視野に研究テーマを設定し、作成した原稿に基づき、30分程度の発表を行う。発表に際しては、必要に応じて、パワーポイント等で画像資料を提示する、ビデオ等で映像資料を映写する等、各自工夫すること。発表後は全員で内容についての討論を行い、問題意識を共有することとする。各自の研究の根幹をなす重要な演習なので、出来るだけ早目にテーマを決定し、常時問題意識を念頭において研究を進め、充実した研究発表を行うことが求められる。また、関連する芸術作品に直接触れる機会を有するよう、常に努力してほしい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による評価									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
研究テーマの選定や参考書籍について疑問がある場合は、出来るだけ早目に教員に相談すること。また、画像資料、映像資料の処理法に関しては、美学美術史学研究室で常時相談を受け付けている。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(講読) Aesthetics and Art History (Seminars)			担当者氏名	大阪大谷大学文学部 専任講師 田中 健一 人文科学研究所 助教 高井 たかね				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	講読
題目	和漢書講読								
【授業の概要・目的】									
日本・東洋美術史学では、作品や作者を研究する際に様々な文献も読むことがしばしば要求され、時には活字に翻刻されていない史料にも目を通さなければならない。この授業では、変体仮名や漢文体で書かれた史料を読むための基礎的な能力を養うことを目的とする。									
【授業計画と内容】									
以下の内容に従い授業を進める。 〔前期〕 変体仮名および美術史学に関する基本図書の紹介 詞書読解練習・平安時代 詞書読解練習・鎌倉時代 毎回、参加者全員に少しずつ釈文を作成してもらう。 〔後期〕 清、李漁『閒情偶寄』「器玩部」をテキストとする。 語法の確認をしながら、漢文読解の訓練をおこなう。 出席者に訓読および現代語訳をしてもらう。担当者を決めないので、全員毎回の予習が必要。 毎回の進度は、初めは一葉足らずになるかと思われる。これを数回おこなったあとは、一回に読む分量は増える予定。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期は、毎回の授業における読解練習、ならびに学期末の試験により評価を行う。 後期は、授業時の訓読・現代語訳のほか、出席も考慮する。									
【教科書】									
前期：「字典 かな」笠間書院 後期：漢和字典（テキストはコピーを配付）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
毎回、かなりの量のテキストを読むので、参加者には相当程度の予習が要求される。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

《東洋文化学系》

授業科目名 <英訳>	国語学(講義) Japanese Language (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 大槻 信				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	講義
題目	国語学講義								
【授業の概要・目的】									
日本語を日本語たらしめているのは何であろうか。本講義では、日本語の様々な側面に注目しながら、日本語の歴史をたどる。今年度は、日本語の語彙を中心に概説しながら、関連する諸問題について考察を加える。日本語の特性とその歴史を知ることが目的とする。									
【授業計画と内容】									
講義を主体とするが、可能な範囲で発表や資料講読などを交える。授業では受講者からの積極的な発言を歓迎する。知識よりも思考を重視する。 主たる講義内容は以下の通り。前期は日本語における語彙の歴史を中心に、後期は辞書を中心に論じる予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 日本語の語彙 3. 日本語の語彙の歴史 4. 日本の古辞書 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
成績はレポートによって評価し、発表、課題への回答などを平常点として加味する。 レポート：平常点は80：20を基本とする。									
【教科書】									
使用しない 特定のテキストは使用しない。ハンドアウトを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国文学(講義) Japanese Literature (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 金光 桂子				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	講義
題目	源氏物語の受容と享受								
【授業の概要・目的】									
源氏物語は後世どのように享受され、後の文芸にどのような影響を与えてきたのか。さまざまな時代・ジャンルの文芸作品を取り上げ、そこに見られる源氏物語の影響を分析することによって、源氏物語への評価・理解が一様でなかったことを知るとともに、それぞれの時代の文学の特徴を考察する。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマについて、1課題あたり2～3週の授業をする予定。									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 源氏物語成立伝説 ・ 源氏を模倣する物語 ・ 和歌における源氏取り ・ 注釈のはじまりと展開 ・ 京と鎌倉の交流 ・ 狂言綺語観の克服 ・ 連歌師による受容と研究 ・ 室町物語の中の源氏物語 ・ 宣長の「もののあはれ」論 ・ 近世演劇と戯作 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学(講義) Chinese Language (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 木津 祐子				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	講義
題目	中国語学概説								
【授業の概要・目的】									
中国語の歴史を概観し、あわせて中国語学史についても基礎的知識を養う。									
【授業計画と内容】									
中国語は、書記言語として発展してきた長い歴史を有する。また、現代中国語に連続する口頭語も別に文献上にその変遷の歴史をたどることが可能である。中国語の歴史を学ぶために、授業は基本的に次のような方針で進めていく。 前期：伝統中国語学（小学）の方法論や著述を概観し、基本的な典籍（『説文解字』『爾雅』『切韻』等）の読み方について、実際の書物を手に取りながら学習する。その際には、中国典籍の扱い方について基本的な作法を学ぶ時間を設けることとする。 後期：現代中国語の音韻・文法を手がかりに、その成立の歴史を遡る。発音の歴史では、日本の漢字音や中国語方言音にも注意を払い、文法については、『水滸伝』など近代語小説と現代語の相違についても検討していきたい。									
【履修要件】									
初級中国語を履修していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点及びレポート									
【教科書】									
プリント等の配布									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国文学(講義) Chinese Literature (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 緑川 英樹				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	講義
題目	中国文学概論								
【授業の概要・目的】									
唐代の代表的な作家・作品とその文学史的意義を講述する。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について、一つの課題あたり2～3週の授業をおこなう予定。(1)唐詩の形式と時期区分、(2)「初唐四傑」と陳子昂、(3)田園詩人孟浩然と王維、(4)謫仙人李白、(5)詩聖杜甫、(6)辺塞詩と閨怨詩、(7)韓愈とその周辺、(8)中唐の流行詩人白居易、(9)唐代伝奇の世界、(10)唐五代の詞。一つの課題が終わるごとに、とりあげた作品に関する感想や疑問などを小レポートにして提出してもらうので、受講者の主体的な授業参加を望む。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業中の小レポート(50%)および期末試験(50%)の成績による。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
(参考書) 岩城秀夫 『中国文学概論』(朋友書店、1995年) 小川環樹 『唐詩概説』(岩波文庫、2005年) 村上哲見 『唐詩』(講談社学術文庫、1998年)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(講義) History of Chinese Philosophy (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	講義
題目	中国哲学史講義								
【授業の概要・目的】									
中国哲学史における、主要な概念、あるいは主要な学説を紹介しつつ、中国哲学の基本的な発想についての理解を深める。									
【授業計画と内容】									
以下の諸テーマについて、それぞれ一週～三週を使って講義を進める。 中国における「学問」観 / 「氣」とは何か / 「形而上」という発想 / 「神」の諸相 / 「人間の本性」についての諸説 / 「礼」とは何か / 「儒」と「法」 / 「経書」とは何か / 「春秋」と歴史思想 / 漢代経学の概観 / 合理主義思想の系譜 / 北宋四子の思想 / 朱子と理気二元論 / 王陽明と明代儒学 / 清朝考証学のめざしたもの / 「道」と「自然」 / 『老子』の思想 / 『莊子』の思想 / 「術数」と科学技術 / 中国における「宗教」 / 道教的世界 / 仏教の中国的展開									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期終了時にレポートを提出、後期末に筆記試験を行う（各50%）									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワーはとくに設けない。質問等があれば、授業後に受け付ける。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット語学サンスクリット文学(講義) History of Sanskrit Literature (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 横地 優子 人文科学研究所 教授 藤井 正人				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	講義
題目	サンスクリット文献史概説								
【授業の概要・目的】									
ヴェーダ期から12世紀頃までに作られた膨大なサンスクリット文献について、ジャンル別に内容・歴史を概説する。インド古代・中世の第一次資料に関する基礎知識を身につけるとともに、インドの社会・文化の基本的観念や特質をその形成史から学ぶことを目的とする。									
【授業計画と内容】									
前期（藤井担当）：ヴェーダからポスト・ヴェーダを対象とする。1．ヴェーダ文献とは何か 2．リグ・ヴェーダの神々、詩人、祭式 3．リグ・ヴェーダを読む 4．その他のヴェーダ 5．ヴェーダ祭式 6．ヴェーダ祭式の思想性 7．祭式と輪廻 8．ウパニシャッド 9．ポスト・ヴェーダ 10．ヴェーダと現代インド									
後期（横地担当）：叙事詩以降を対象とし、以下の項目を講義する。1．サンスクリット文献の概要 2．叙事詩の内容・形成史 3．ヒンドゥー社会のダルマと法典文献 4．ヒンドゥー教の形成 5．プラーナの創世論・世界誌 6．ヒンドゥー神話 7．説話 8．カーヴィヤ（詩・戯曲等）の特質と詩論 9．演劇と演劇論 10．カーヴィヤの形成から成熟期									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と学年末の筆記試験で評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に参考文献リストと必要資料のコピーを配布する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
一回生配当開講科目									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド哲学史(講義) History of Indian Philosophy (Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 ACHARYA, Diwakar Nat 次世代研究者育成センター 助教 志田 泰盛						
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	講義
題目	インド哲学史講義								
【授業の概要・目的】									
<p>This course aims at broadening the knowledge of Indian philosophy and knowledge systems. It will give a general view of the evolution of the Indian thought in the ancient and medieval times (i.e. from 6C B.C. to 12C A.D.), focusing on specific tenets of various schools, but with due attention to their reception in modern times.</p> <p>本講義では古代から中世にかけてのインドの思想史を概説する。また、それらの思想が現代においてどの程度受容されているかについても適宜解説する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>In the first term, a general view of the rise of Indian civilizations and the emergence of Indian philosophy will be presented. We will discuss historical development of Indian religions: Vedic religion, Buddhism, Jainism, Shaivism, Visnuism, and Popular Hinduism. There will also be a brief introduction to conventional schools of Indian philosophy: Sankhya, Yoga, Nyaya, Vaizeshika, Vedanta, and Mimamsa. In the second term, we will deal with epistemological, ontological, and linguistic issues. There will also be an introduction to the Indian philosophy of language and meaning, the theories about the self, socio-political thoughts, and Indian aesthetic theories.</p> <p>前期では、ヴェーダの宗教、仏教、ジャイナ教、から大衆的ヒンドゥー教に至るまでの、宗教思想の展開を概説する。インドの哲学学派の特徴的教義体系についても簡単に解説を加える。後期には、古代インドで議論された様々な哲学的トピックの中から、認識論、存在論、言語学の問題を適宜とりあげ、これを解説する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点およびレポート。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
一回生も受講することができる。 This class will be conducted in English and Japanese.									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	仏教学(講義) Buddhist Studies (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 宮崎 泉				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	講義
題目	インド・チベット仏教思想史								
[授業の概要・目的]									
インド・チベットの仏教哲学思想全般の概説。インド仏教については、原始仏教、部派仏教、大乘経典、中観学派、唯識学派、密教という思想史の流れを追う。チベット仏教は、国家仏教としての色彩の濃い前伝期の仏教と、後伝期に現れる諸宗派の特徴的な思想を概説する。									
[授業計画と内容]									
毎回の授業内容は、おおよそ以下の通りである。									
1-2: 序論、3-4: 近代仏教学に必要な言語、5-6: 仏伝、7-8: 原始仏教、9-10: 部派仏教、11-12: 説一切有部の思想、13-14: 経量部の思想、15-16: 大乘運動と大乘経典、17-18: 中観学派の思想、19-20: 唯識学派の思想、21-22: 仏教論理学派と密教、23-24: チベット仏教序論、25-26: 前伝期の仏教、27-28: 後伝期の仏教諸派の思想1 (ニンマ派、カダム派、サキャ派、カギユ派、ジョナン派)、29-30: 後伝期の仏教諸派の思想2 (ゲルク派)、宗派折衷運動、ボン教の歴史と思想									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
筆記試験 (100%、インド仏教とチベット仏教の思想の流れと、個々の思想に対する理解にしたがって評価する)									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

国語学国文学専修

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 木田 章義				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	国語音韻史								
【授業の概要・目的】									
奈良時代以降、現代に至る日本語の音韻、音声の変遷を検討する。 音声変化や音韻体系の構築、具体的音声の理解などを深める。									
【授業計画と内容】									
奈良時代には上代特殊仮名遣という現象があり、日本語の歴史の中でも特殊な音韻体系を持っていた。その体系の表す意味を探り、奈良時代の音韻体系を明らかにする。平安時代の音韻体系は奈良時代から大きく変容したが、その体系を再構し、その理由を考える。そして、鎌倉、室町、江戸、現代へとその変化をたどってゆく。 日本語は変化の少ない言語であるため、変化した現象を中心に論じることになる。 多くの資料があるが、それらをどのように処理すべきかという点もこの授業の眼目である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートの予定である。ときどき授業中に課題を出すこともある。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 大谷 雅夫				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	萬葉集研究								
【授業の概要・目的】									
萬葉集にかかわる諸問題、その訓詁、中国文学の受容と変容、また後世の和歌との比較など、さまざまな問題について考える。									
【授業計画と内容】									
以下の各課題について1～4週の授業をする予定。ただし、この順序で講義するかどうかは未定。 一、巻八の巻頭歌、志貴皇子の御歌「いはばしる垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりけるかも」と普通訓読されている歌を読解する。 二、志貴皇子の御歌を『和漢朗詠集』が「いはそそく垂氷の」の形で収録することを手がかりに、萬葉集と古今集以降の間の季節感の相違を考える。 三、萬葉集、書名の問題。 四、表記のさまざま。 五、誤写の問題。 六、萬葉集の歌の特色について考える。契沖、歌ははかなく詠む、歌人は色を愛すの言を手がかりにして。 七、相聞歌を読む。 八、挽歌を読む。 九、自死する女性の歌を読む。 十、柿本人麻呂の「古にありけむ人も我がごとか妹に恋ひつつ寝ねかてずけむ」。永遠をよむことについて、後世の和歌に及ぶ。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主として学期末に課するレポート試験による。授業の折々に小レポートを課することもあり、それをも参照する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 須田 千里				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	近代文学の注釈的研究								
【授業の概要・目的】									
<p>山田美妙・泉鏡花の小説を読むことを通じて、明治文学について理解を深めることを目標とする。</p> <p>山田美妙は言文一致の「です・ます」体を創出したことで著名だが、こうした初期以外の文学作品については研究が進んでいない。この講義では、本格的な時代小説や少年文学、滑稽小説が目立つ明治20年代後半の作品を中心に精読する。</p> <p>後期は、泉鏡花の作品中、あまり論文が書かれていない作品をいくつか取り上げて精読する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>下記の内容について1～3週で講義を行う予定。授業の進行に応じて、内容に若干出入りするところがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、山田美妙の経歴、文学的特徴。 2、『雪折竹（利休と太閤）』 3、『猿面冠者』 4、『雨の日くらし』 5、『千里駿馬之助（徳川初年時代小説）』 6、『兜菊』 7、『丸二ツ引新太平記』 8、『家庭教育 園の二葉』 9、『みゝずばれ』 10、泉鏡花の経歴、文学的特徴。 11、『化銀杏』 12、『錦帯記』 13、『柳小島』 14、『X 螻蛄鉄道』 15、『怪語』 16、『笈摺草紙』 17、『梟物語』 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期末・後期末の各レポートの点数の平均点。単位の数え間違いなどにより卒業が懸かっているも、締め切り後のレポートは受け取らない。									
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----									

国語学国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

積極的な授業参加、発言を希望する。

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院文学研究科 教授 岡島 昭浩				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	前期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	国語学史からみる国語史								
【授業の概要・目的】									
<p>日本語の研究史・意識史、日本における言語の研究史を通して、日本語の歴史をどのように見ることが出来るのか、ということについて、音韻研究史を中心に講じる。</p> <p>日本語を観察するとはどういうことか、言語はどのように研究されたか、そしてそれらはどのように発表・受容されたのかを見る。</p> <p>過去の日本語観察を後世の目で見ることを通して、現在の日本語観察についても、評価できるような目を養うことができるようになるはずである。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>下記の課題について、1課題あたり1～3週の授業をする予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 韻鏡研究と字音研究 ・ 韻鏡研究と日本語音研究 ・ 韻鏡研究と音図研究 ・ 韻鏡と通俗 姓名判断 ・ 韻鏡・音韻学と通俗 早口 ・ 韻鏡・音韻学と音声芸術と訛音 ・ 韻学・音韻学と辞書 ・ 辞書と語の収集・記述 ・ 和漢対照と韻学・字音 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末のレポートと、後期開始時まで提出してもらおう小レポートを中心に採点するが、随時のメールなどによるコメント・質問等を平常点として加味する。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----									

国語学国文学(特殊講義)(2)

(関連URL)

<http://kokugosi.g.hatena.ne.jp/> (雑多な情報だが、国語学史・国語史情報の手がかりとなる。)

(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))

聞きたいことなどは、メールでお聞きください。

スパムに紛れないように、きちんと題名をつけて (授業に関わるものであることがわかるような題名)、なるべく携帯ではないアドレスからお出してください。やむを得ず携帯から出す場合には、返事を拒否しないような設定にしてください。

私のメールアドレスは授業中に示します。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	京都府立大学 文学部 教授 母利 司朗				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	御伽草子と仮名草子								
【授業の概要・目的】									
<p>近世前期に流行した読み物としての物語草子は、文学史上、仮名草子と呼ばれることが一般です。しかし、それらはすべてが当時作られたものばかりというわけではなく、前代に作られたものと当代出来の草子がおおらかに混じり合っていたというのが実態に近いでしょう。</p> <p>本授業では、近世前期に流行した典型的な物語草子である『ふくろう』『小男の草子』『薄雪物語』『美人絵尽』などの作品を取り上げ、近世前期における物語草子研究をとりまく諸問題への理解を深めていきます。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、実際の作品を読み解く時間を適宜はさみながら、1課題あたり1～6週の授業をする予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近世前期の物語草子 御伽草子・仮名草子・浄瑠璃本・舞の本 2. 写本と版本 3. 上方と江戸 4. 『ふくろう』講読 5. 『小男の草子』講読 6. 『薄雪物語』講読 7. 『美人絵尽』講読 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末のレポートを基にして評価する。									
【教科書】									
授業時間内に適宜プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院文学研究科 教授 清水 康次				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	芥川龍之介の文学								
【授業の概要・目的】									
<p>近代文学の研究にはいくつかの方法があり、研究の目的やテーマによって行う作業も発想も異なってくる。芥川龍之介の作品を題材とし、1つ1つの方法にどのような手続きが必要で、何が明らかになってくるのかを理解し、それらの方法に習熟していくことが授業の目的の1つである。</p> <p>芥川は、日本近代文学において、短篇小説という形式を確立し、さまざまな実験を行った作家である。その緊密な作品世界の形成には、西洋文学、中国文学、日本古典文学、日本の同時代の文学が関わる。この大正期を代表する作家と作品にさまざまな方向から光を当て、芥川文学の特質を明らかにしていくことが、もう1つの授業の目的である。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業を行う。受講生の発表する授業も数回組み込みたい。なお、課題は状況に応じて、順序・内容を変更する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「羅生門」の構造と主題 2. 「羅生門」の形成過程 3. 「鼻」の構造と主題 4. 「芋粥」の形成過程と主題 5. 初期作品の創作方法 6. 文壇デビューまでの道のり 7. 「偷盗」という作品 8. 「戯作三昧」の世界 9. 語りの方法の採用 10. 「地獄変」の構造と主題 11. 「奉教人の死」の典拠と主題 12. 語りの方法によるさまざまな実験 13. 「藪の中」の問題 14. 書誌とテキストクリティック 15. 作品論とテキスト論 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
各期末のレポートに平常点を加味する。									
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----									

国語学国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業はプリントを配布して進めるが、ちくま文庫本『芥川龍之介全集』第1巻、第2巻を購入して、適宜授業に持参することが望ましい。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	名古屋大学 大学院文学研究科 教授 塩村 耕				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	西鶴研究								
【授業の概要・目的】									
<p>西鶴文学を、できるだけ同時代の文脈で読むことをめざす。特に、作家の伝記、書物や出版をめぐる状況を勘案する。</p> <p>概要は、1) 西鶴の俳諧師としての生涯を概観し、残された書簡の精読を通して、その人間像に迫る。</p> <p>2) 最後に発表した『世間胸算用』及び遺稿集を中心に、いくつかの作品を講読し、西鶴が文学史上、何を達成したのか、考える。</p> <p>3) 出版史及び書誌的研究がどのように西鶴研究に資するのか、具体的に考える。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1～4回：西鶴の伝記資料を読む。</p> <p>第5～10回：西鶴の主な作品の講読。</p> <p>第11～14回：出版史と書誌学を実習的に学ぶ。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポート(70%)・出席率と授業参加時の積極性(30%)									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 木田 章義				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	演習
題目	平安時代資料読解								
【授業の概要・目的】									
<p>平安時代の資料を丁寧に読解する。 一つの文章を、性格に当時の人々が理解したように、理解できるように、どういう作業が必要かを学ぶ。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>平安時代和文資料は丁寧に読まないと理解が難しい文章がある。そういう文章を丁寧に分析して、意味を探り、同時に語学的にどのように処理できるかを学ぶ。 また、注釈付きのテキストを用いて、その注釈の内容や正当性についての検討も行う。 一人、3頁くらいずつ担当して、一つの作品を読み続ける。どの作品にするのかは、授業参加者との相談で決定する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表かレポート									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する なし									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 大谷 雅夫				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	演習
題目	萬葉集巻十二								
【授業の概要・目的】									
<p>萬葉集巻十二は巻十一とともに「古今相聞往来歌」、すなわち恋の歌である。それらを正しく読みとくことによって、萬葉人の心の世界に近づきたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>まず萬葉集の訓誥の方法について解説する。その間、出席者は巻十二の三百首あまりの短歌を各自通読し、その中から注釈を担当したい二首の歌を選択すること。その後、全員で相談し、各自が担当する順番、および注釈する歌を決め、出席者の数によって各週一首になるか二首になるか未定だが、輪読を開始する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主として発表とレポートによる。									
【教科書】									
佐竹昭広・木下正俊・小島憲之 『補訂版 萬葉集 本文篇』（塙書房）									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 大槻 信				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	漢籍訓点資料の研究								
【授業の概要・目的】									
漢籍訓点資料をとりあげ、演習形式で研究を行う。訓点資料についての基礎知識を獲得し、訓点資料を日本語史の研究資料として使用するための方法・視点を学ぶことを目的とする。授業では、調べ、考える楽しさを重視する。									
【授業計画と内容】									
日本では、漢文を読解するための補助手段として、漢文本文に返点・仮名・ヲコト点などを記入することがあった。返点により語順を示し、仮名によって訓や音を表す。ヲコト点は字画の様々な位置に点や線を施すことで、助詞・助動詞のような助辞や活用語尾などを表示した。これらの注記・符号を「訓点」、訓点が施された文献を「訓点資料」と呼ぶ。 本演習では、唐代の伝奇小説『遊仙窟』の訓点本（陽明文庫本）をとりあげ、その研究を行う。具体的には、資料をもとに訓み下し文を作成し、その過程で、書誌・表記・音韻・文法・語彙といった種々の方面から検討を加える。日本語史、訓読語、古辞書、伝奇小説に興味がある人には面白いものとなる。年度はじめ数回をイントロダクションと訓点資料入門にあてる。その後、受講者による発表形式を進める。発表者は半丁分（洋本の1ページに相当）を担当する。授業では受講者からの積極的な発言を歓迎する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
成績は発表によって評価し、授業中の発言等を平常点として加味する。									
【教科書】									
資料のコピーを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 吉田金彦・築島裕・石塚晴通・月本雅幸編 『訓点語辞典』（東京堂出版、2001年） その他は授業時に指示する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
受講者全員が該当部分の訓み下し文を作成して授業にのぞむことが期待されている。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 金光 桂子				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	室町物語を読む								
【授業の概要・目的】									
室町物語のうち、伝説的歌人、小野小町の生涯を描いた作品を精読する。本文の正確な読解に基づきつつ、典拠との比較対照を通して、作品の独自性を解明する方法を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
受講者は一人ずつ担当部分を決め、テキストの翻字、語釈、現代語訳、典拠との比較を行う。その上で、疑問点や問題点を指摘し、調査・考察した結果をレジュメにまとめ、発表する。発表者以外の受講者もあらかじめ予習し、積極的に質問や意見を述べる事が望まれる。典拠として参照すべき文献は、和歌、漢籍、謡曲、古典注釈書など多岐にわたる。他の発表者と同じ文献を調べるだけでは済まないことも多いので、柔軟な発想と緊張感をもって取り組んでほしい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表と平常点（授業中の発言等）による。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
くずし字の文献を扱うため、「国語学国文学講読」を履修済み又は受講中であることが望ましい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	国際交流推進機構 教授 森 真理子				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	演習
題目	蕪村の連句								
【授業の概要・目的】									
蕪村を中心とした俳壇の連句（歌仙）を精読し、安永期の俳諧のあり方を、諸資料を通して明らかにしていく。また同時期の作者の俳文・俳論を講読し、俳諧関係の資料の扱い方や江戸期の俳諧の基礎的知識を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
蕪村の連句は蕉門連句に比べて数は少ないとされるが、俳諧史上見逃すことのできないものである。蕉風の復興を目指したと言われる蕪村とその一派の人々の、伝統の受容の方法とともに、安永期の俳諧の新しい展開のあり方と特徴を、連句及び俳論その他の資料を通して考えていくことを授業の眼目としたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
毎時間の発表と最終レポート提出を基準として、評価する。									
【教科書】									
コピー配布									
【参考書等】									
（参考書） 資料は多岐にわたるので、適宜講義中に指示する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
毎時間の発表内容を重視するので、担当箇所の文献調査を丁寧に行なうこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(卒論演習)				担当者氏名	文学研究科	教授	木田	章義
	Japanese Language and Literature (Seminars)					文学研究科	教授	大谷	雅夫
						文学研究科	准教授	大槻	信
						文学研究科	准教授	金光	桂子
配当学年	4回生のみ	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月1	授業形態	卒論演習
題目	卒業論文指導								
【授業の概要・目的】									
卒業論文の作成にむけての指導を行う。卒業論文を提出する予定の四回生は、かならず受講し、中間発表会で発表しなければならない。									
【授業計画と内容】									
最初の授業時に、全員、どのような卒論を書こうとしているか、概要を発表する。その後は個別の指導を行い、後期授業がはじまる頃に、二三日の日程をとって集中的に中間発表会を行う。									
【履修要件】									
今年度末に学部卒業見込みの者。									
【成績評価の方法・基準】									
中間発表による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 特になし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(講読) Japanese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 中村 健史				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3	授業形態	講読
題目	「永福門院百番御自歌合」講読								
[授業の概要・目的]									
<p>【概要】 鎌倉後期の女流歌人・永福門院の和歌を番えた「永福門院百番御自歌合」の講読を通して、国語学、国文学を学ぶ上で必要な知識、技術を習得する。</p> <p>【目的】 作品を注釈する上での基本的な知識・方法を習得する。 基本的な書籍（特に工具書）などの使い方を知る。 くずし字（ひらがな程度）を翻字できるようにする。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>【授業計画】 作品の解説、注釈にあたっての基礎知識（講義形式、1～5回程度を予定） 受講者による発表（演習形式、1時間2名程度、受講者数により回数を調整する）</p> <p>上記と併行して、受講者がくずし字に早く習熟できるよう、授業時に適宜翻字の小テストを行う（全20回程度）。</p> <p>【授業内容】 「受講者による発表」は下記の要領によって、演習形式で行う。各人の担当は1首を原則とする。発表者は、担当箇所について自分の解釈をまとめ、適切に説明できるよう、事前に入念な準備を行う必要がある。また、出席者は当日の講読箇所を予習し、指名されれば自分の解釈を述べられるよう、心がけてほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 発表者は担当箇所について、翻字・語釈・通釈を行った発表資料を作成する。 発表者はメーリングリストを利用して、授業の前日（水曜日）までに受講生全員に1.の発表資料を配布する。 受講生は配布された資料を確認し、そこで述べられている解釈が妥当なものであるか、挙げられている用例が適切であるか、一々について検討し、自分で用例を集めて、予習を行う。 授業当日は、まず、発表者が資料に基づいて20分ほどで発表を行う。 次に、受講生全員で、発表者の解釈について検討し、意見を述べあう。 発表者は5.の内容を受けて、さらに自分の注釈を再検討・改訂し、学年末にレポートとして提出する。 									
[履修要件]									
<p>毎回授業に参加する意欲のある人。 添付ファイルのあるeメールを送受信し、wordで作成されたファイルを閲覧・印刷できるインターネット環境にある人。</p>									
[成績評価の方法・基準]									
<p>授業における発表の内容、授業内での発言（出席そのものは評価の対象とならない）を平常点と</p>									
----- 国語学国文学(講読)(2)へ続く -----									

国語学国文学(講読)(2)

して評価し、「授業内容と計画」6.に挙げたレポート、および学年末に行うくずし字のテストとあわせて、総合的な成績を出す。三者の比率はおおむね三分の一ずつとする。

[教科書]

講読テキストはコピーして配布する。

[参考書等]

(参考書)

笠間影印叢刊刊行会 『字典かな 改訂版 出典明記』(笠間書院) ISBN:978-4305000002 (できれば各種くずし字字典の購入をすすめたいが、それが無理であれば、上記を準備してほしい。)

鈴木健一 『古典詩歌入門』(岩波書店) ISBN:978-4000280457 (「受講者による発表」がはじまるまでに読んでおくこと。)

鈴木健一・宏子 『和歌史を学ぶ人のために』(世界思想社) ISBN:978-4790715337 (「受講者による発表」がはじまるまでに読んでおくこと。)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

この授業は、国語学・国文学の研究を行う上での基本的な知識と方法を習得するためのものであるから、分からないことや疑問点があれば、積極的に講師に質問してほしい。

毎週、授業後の1時間程度をオフィスアワー(文学部新館7階国文学研究室)とするので、質問、相談のある人は気軽に訪ねてほしい。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

中国語学中国文学専修

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 平田 昌司				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	近代中国語文学の「京都」像								
【授業の概要・目的】									
中国語圏から日本に向けられた視線は、しばしば、軽侮と好奇のまじったものであった。そこからはあたかもオリエンタリズムのような問題がうかびあがってくる。とくに植民地化・抗日戦争・1949年前後における大陸から台湾への流寓・革命と伝統文化などの問題が重なりあうことで、問題はかなり複雑になりうる。この講義においては、特に近代の中国語文学の形成をたどりながら、日本「京都」の語られ方を検討し、都市をめぐる想像力のありかたに対する理解を深める。あわせて文学作品の原典読解能力を高める。後期のIIとあわせて履修するのが望ましい。									
【授業計画と内容】									
授業においては以下（予定）を含む大小さまざまなテキストをとりあげる。ひとつのテキストあたり1～2週の授業をする予定。 1．近代中国語文学の概観；2．章炳麟「旅西京記」；3．羅振玉と王国維；4．左京区吉田の沈尹默；5．1927年の胡適；6．左京区田中高原町の茅盾；7．卞之琳「尺八」；8．林文月『京都一年』；9．李銳「嵯峨，嵯峨……」；10．王安憶「寿岳家」									
【履修要件】									
全学共通科目で中国語中級を終えた程度の学力があり、正確な発音を心がけていること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席および予習（中国語の発音評価を含む）の状況50%、レポート50%。									
【教科書】									
宇野木洋・松浦恒雄『中国20世紀文学を学ぶ人のために』（世界思想社）									
【参考書等】									
（参考書） 川端康成『古都』（新潮文庫）（あらかじめ通読しておくこと。）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
原典講読を含むので、予習が必要。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 平田 昌司				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	近代中国語文学の「京都」像								
【授業の概要・目的】									
中国語圏から日本に向けられた視線は、しばしば、軽侮と好奇のまじったものであった。そこからはあたかもオリエンタリズムのような問題がうかびあがってくる。とくに植民地化・抗日戦争・1949年前後における大陸から台湾への流寓・革命と伝統文化などの問題が重なりあうことで、問題はかなり複雑になりうる。この講義においては、朱天心『古都』に重点を置き、日本「京都」の語られ方を検討し、あわせて原典読解能力を高める。前期のIとあわせて履修するのが望ましい。									
【授業計画と内容】									
授業においては、朱天心『古都』を中心にとりあげるが、随時、前期にあつかったテキストにおける「京都」の語り方との対比をおこなう。「京都」像のまとめをおこなったのち、『古都』原典を中心にした読解をすすめる。									
【履修要件】									
全学共通科目で中国語中級を終えた以上の学力があり、正確な発音を心がけていること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席および予習・発表（中国語の発音評価を含む）の状況50%、レポート50%。									
【教科書】									
朱天心『古都』（上海訳文出版社）（2012年の簡体字版。）									
【参考書等】									
（参考書） 朱天心著・清水賢一郎訳『古都』（国書刊行会） 川端康成『古都』（新潮文庫）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
原典講読を含むので、予習が必要。前期の「近代中国語文学の「京都」像」であつかわれた内容について知識をもつことがのぞましい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 木津 祐子				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	清代官話研究史：琉球								
【授業の概要・目的】									
<p>琉球の久米村通事が用いた通事書を題材に、官話学習がどのように行われていたかを探る。具体的には『人中画』『百姓』を取り上げ、その本文と、本文に通事が施した注記を読解する。注記に引用される文献からは、当時の中国書籍の流通状況や利用の実態が、また音注からは、彼らが運用した官話の地域性が浮かび上がることが予想されるが、それらを精読することにより、官話学習のシステムが清代琉球においてどのように成立・維持されていたか、そこにはどのような普遍性が潜むのかについて、理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>『人中画』は、京大所蔵本と天理大学所蔵本を用いる。講義と担当者による発表の二方式を採用する。講義部分は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：琉球通事の歴史 2：通事編纂の通事書 3：『人中画』の特徴 4：他の通事書との比較 <p>を主に論ずる。担当者の分担発表は、主に本文と注記部分について解読し、それを踏まえ、特に注記の意味と他本との関係について、全体で検討を行う。</p>									
【履修要件】									
中国語を履修していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点及びレポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 緑川 英樹				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	唐宋詩比較論の系譜								
【授業の概要・目的】									
「唐詩」と「宋詩」の比較をめぐるさまざまな言説を検討し、中国文学批評の特徴と歴史的展開について理解を深める。今年度は主に宋代の詩学文献をとりあげる。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について、一つの課題あたり3～4週の講義をおこなう予定。(1) 銭鍾書『談藝録』「詩分唐宋」、(2) 歐陽脩『六一詩話』、(3) 張戒『歲寒堂詩話』、(4) 江西詩派の唐詩観、(5) 嚴羽『滄浪詩話』、(6) 劉克莊『後村詩話』、(7) 方回『瀛奎律髓』。なお、受講者の人数や状況を見たとうえで、部分的に演習形式を交えることもある。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点40%、期末レポート60%で評価する。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 教授 高田 時雄						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	日本所蔵漢籍の歴史と現況								
【授業の概要・目的】									
<p>この講義では、日本における漢籍収蔵の歴史と現状を概観する。前近代の東アジアにおいて、漢籍（中国典籍）はあらゆる知的営為の源泉であった。日本には今日でも数多くの善本（古写本及び古刊本）が収蔵されており、その収蔵の歴史を跡づけることで、日中文化交渉の特質を明らかにする。到達目標は以下の二点。</p> <p>日本の漢籍収蔵の歴史的背景を理解する。</p> <p>日本の漢籍収蔵の現状について基本的知識を獲得する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>漢籍の概念及び域外所蔵漢籍の価値について解説する。</p> <p>日本所蔵の唐鈔本及び旧鈔本について解説する。</p> <p>金澤文庫と足利學校の果たした役割を論じる。</p> <p>日本所在の大蔵経と仏教典籍について概観する。</p> <p>徳川幕府の蔵書について、その歴史的沿革を解説する。</p> <p>徳川時代の諸藩の蔵書及びその変遷を概観する。</p> <p>近代以前の個人の蔵書と文庫について解説する。</p> <p>近代における学者の所蔵および大学研究機関の蔵書の特質を解説する。</p> <p>漢籍調査の方法を解説し、注意すべき点について述べる。</p> <p>漢籍目録と漢籍データベースの現状について解説する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末のレポートによる。									
【教科書】									
原則としてPPTを使用する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 教授 井波 陵一						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火1	授業形態	特殊講義
題目	目録法と分類法								
【授業の概要・目的】									
漢籍目録の作成要領および四部分類法を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。									
【授業計画と内容】									
『漢籍目録 カードのとりかた』に基づき、目録法について解説する。 1. 漢籍の定義 2. カード作成の目的 3. 書名 4. 巻数 5. 撰者 6. 鈔刻(出版事項) 『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』に基づき、分類法について解説する。 1. 経部 2. 史部 3. 子部 4. 集部 5. 叢書部									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年度末のレポート。									
【教科書】									
『漢籍目録 カードのとりかた』(朋友書店) 『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』 『漢籍目録 カードのとりかた』は各自で購入すること。『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』は分類法の講義を行う際に配布する。なお、授業では目録法の講義を先に行う。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
中国哲学史と共通。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 准教授 池田 巧						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木1	授業形態	特殊講義
題目	中国における記述言語学の黎明								
[授業の概要・目的]									
<p>現代言語学の方法論で中国語の歴史と諸方言、周辺諸語の記述研究に偉大な足跡を残した趙元任、羅常培、李方桂という三人の研究者を取り上げ、その生涯と時代背景を参照しながら、彼らの業績とその継承と発展を概観する。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>趙元任、羅常培、李方桂は、中国の記述言語学および歴史言語学の基礎を築いた三巨星である。彼らの事績を辿りつつ、彼らが近代言語学の方法論を如何に導入し、東洋の伝統的な言語学に新たな光をあて、いかなる研究上の発見と貢献をしたのかについて概観する。1テーマごとに2回の講義を目安とするが、テーマによっては講義回数に増減が生じる可能性がある（テーマは順不同）。</p> <p>(1) 中国音韻学研究の翻訳 (2) 趙元任の事績 (3) 中国語方言研究 (4) 中央研究院の活動 (5) 羅常培の事績 (6) 歴史言語学への貢献 (7) 李方桂の事績 (8) 上古音研究 (9) タイ諸語の研究 (10) チベット諸語の研究</p>									
[履修要件]									
中国語についての基礎的知識を有すること。									
[成績評価の方法・基準]									
平常点による。授業への出席と課題への取り組みを総合評価する。									
[教科書]									
必要な資料を授業時に配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 参考文献は多岐にわたるので、授業時に適宜指示する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	初唐駢文選読								
【授業の概要・目的】									
<p>駢文は中国語の特性と生かした文体である。内容空疎な美文とも批判されるが、古典世界の終焉まで作成され続けた。その完成期とされる六朝末期から初唐の作品を選読し、その特色やその文学性について考える。</p> <p>中国古典世界の一翼を担った散文文学の実態を理解する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>駢文とは何か。駢文と古文。駢文と韻文。六朝期の駢文。徐陵と信。初唐の各種ジャンルの作品から駢文の特色を探る。駢文批判。駢文と古文。以上のテーマを2回から3回の授業で行う。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートおよび、平常点									
【教科書】									
使用しない プリント配布									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 平田 昌司				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3	授業形態	演習
題目	清代詩文								
【授業の概要・目的】									
17～19世紀の古典詩文が正確に読解できるようになること、古典文語体と口語体との構造の差異を把握できることをめざす。Iでは、清代の『聊齋志異』など物語・史伝の文章、および清代前半の古典詩をとりあげる。									
【授業計画と内容】									
(1)明清古典詩文の概観（1回） (2)物語・史伝の文章（8回） (3)清代前半の古典詩（5回）									
【履修要件】									
全学共通科目で中国語中級を終えた程度の学力があり、正確な発音を心がけていること。中国の古典詩文の読解について基礎的な知識を有すること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席および予習・発表担当（中国語の発音評価を含む）の状況70%、試験30%。									
【教科書】									
福建師範大学『清詩選』（人民文学出版社） 陳平原『中国散文選』（百花文藝出版社）									
【参考書等】									
（参考書） 『古漢語常用字字典』（商務印書館）（現代中国語と古典中国語の対照のために。）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
後期開講の清代古典詩文 とあわせて履修することが望ましい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 平田 昌司				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水3	授業形態	演習
題目	清代詩文								
【授業の概要・目的】									
17～19世紀の古典詩文が正確に読解できるようになること、古典文語体と口語体との構造の差異を把握できることをめざす。前期のIが物語・史伝を中心としたのにつづき、論理的・学術的な文章を中心としながら、抒情的な文章なども含めた多様な文体をとりあげる。あわせて関連する詩歌をとりあげる。									
【授業計画と内容】									
『中国散文選』『袁枚全集』『古文辞類纂』『続古文辞類纂』等から明清代の作者による原典をとりあげて正確に読解をすすめていく。毎回訳注の作成を求める。									
【履修要件】									
全学共通科目で中国語中級を終えた程度の学力があり、正確な発音を心がけていること。中国の古典詩文読解について「明清古典詩文」既習程度の読解力を有すること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席および予習・発表担当（中国語の発音評価を含む）の状況70%、試験30%。									
【教科書】									
福建師範大学『清詩選』（人民文学出版社） 陳平原『中国散文選』（百花文藝出版社）									
【参考書等】									
（参考書） 『古漢語常用字字典』（商務印書館）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
前期開講の清代古典詩文 から連続して履修することが望ましい。とりあげる予定の作品については、後期開講以前に指示するので、第1回から予習のうえで出席すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 木津 祐子				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	演習
題目	呂叔湘『中国文法要略』								
【授業の概要・目的】									
現代中国語文法学の開拓者の一人である呂叔湘が1940年に出版した『中国文法要略』の1982年修訂本を読む。これは、現代中国語文法書としては古典的著述であるが、言語事象への多くの問いかけを含み、それは今も色あせない。また、著者の呂叔湘は、文筆家としても優れた作品を多く残しており、簡潔で美しい文章で綴られる本書を精読することを通して、現代中国語への総合的な理解を深めることを目指す。									
【授業計画と内容】									
序・題記・例言：2～3週間を予定 「字和詞」：約4～5週間を予定 「詞の種類と配合」：約3～4週間を予定 「起詞と止詞」：約3～4週間を予定 「補詞」：約3～4週間を予定 「表態句・判断句・有無句」：約4～5週間を予定 「句子と詞組的転換」：約5～6週間を予定									
【履修要件】									
中級中国語を履修済み、もしくは履修中であること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	非常勤講師 二宮 美那子						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	中国現代散文・論文選読								
【授業の概要・目的】									
<p>20世紀に書かれた散文・論文を精読し、現代中国語・学術的中国語に対する感覚を養う。同時に、中国語運用能力を高めることも目標とする。</p> <p>具体的には、前期は学者・作家である楊絳の『幹校六記』を中心とした散文作品を取り上げる。後期は、楊絳の論文「事実 故事 真実」を入り口として、事実と物語、事実と詩文創作の関係を論じた学術論文を選読する。古典文学を扱った論文を読むので、古典中国語の基礎的読解の訓練も兼ねる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期で取り上げる楊絳『幹校六記』は、文革期に「幹部学校」に下放された知識人の回想録である。激動の記録であるはずの本作品の筆致は、淡々として時にユーモラスでさえある。端正な文章を丁寧に読んでいくことで、文章のもつ「味わい」にまで迫りたい。</p> <p>後期で学術論文を取り上げる際には、内容の正確な理解のみならず、論文の語彙・文体・段落の構成にまで目配りし、中国語の学術的文章がいかに組み立てられるかを考察する。</p> <p>基本的には、毎回担当者が準備した日本語訳を、出席者全員で検討する形式を取る。音読も重視するので、きちんと練習してくる。出席者は、毎回日本語訳を準備することが求められる。また、一年を通して、数回中国語でのレポート(400字～800字程度の要旨のまとめなど)を課す。</p>									
【履修要件】									
中国語中級程度の知識・能力									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と、授業中に課す小レポートによる。									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(卒論演習) Chinese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 平田 昌司 文学研究科 教授 木津 祐子 文学研究科 准教授 緑川 英樹				
配当学年	4回生のみ	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水2 隔週2	授業形態	卒論演習
題目	中国語学中国文学の諸問題								
[授業の概要・目的]									
卒業論文提出予定者を対象とし、(1)研究題目選択および先行研究の調査方法、(2)論文の組み立てに関する指導をおこなう。あわせて、中国語による論文要旨の書きかたについて指導する。									
[授業計画と内容]									
<p>隔週で開講する。前期には、研究したい題目を各自で決めて、おおまかな着想を述べ、指導・助言を受ける。後期には、自らの卒業論文の内容について発表資料を準備して口頭発表をおこなったのち、指導・助言を受ける。</p> <p>後期の担当時には、(1)研究の主要論点・結論および引用原典を挙げた説明資料を配布し、出席者に分かりやすく説明し、それにするものとする。</p> <p>以上とあわせて、中国語による論文要旨の書きかたについての指導をおこなう。</p>									
[履修要件]									
中国語学中国文学専修学部学生に限る。(3回生も出席するのが望ましい。)									
[成績評価の方法・基準]									
平常点(卒業年度の口頭発表による)									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
後期に口頭発表を担当する際には、必ず(1)発表用資料を必要部数準備するとともに、(2)中国語論文要旨の下書きも作っておくこと。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(講読) Chinese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 平田 昌司				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金5	授業形態	講読
題目	中国古典詩入門								
[授業の概要・目的]									
中国古典詩を読むには、韻律に関する知識が不可欠である。この授業では、古典詩の最高峰である唐詩を素材としながら、押韻・平仄などに関する規則の概要をあつかい、中国の伝統的な詩歌を自力で読むための基礎知識を習得することをめざす。あわせて、現代中国語の音韻体系の形成についての理解を深める。									
[授業計画と内容]									
以下の課題についてあつかう。 (1)基礎的な用語・概念の解説、主要な工具書の解説(1週)。 (2)五言律詩の構造把握と読解(4週) (3)七言律詩の構造把握と読解(3週) (4)古詩の構造把握と読解(4週) (5)詞の構造把握と読解(2週)									
[履修要件]									
全学共通科目で中国語初級をすでに1年学習した程度の学力があり、正確な発音を心がけていること。									
[成績評価の方法・基準]									
出席および予習(中国語の発音評価を含む)の状況50%、レポート20%、定期試験30%。									
[教科書]									
小川環樹『唐詩概説』(岩波文庫)									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
昨年度開講の『唐詩三百首』との重複履修不可。テキスト読解の予習が毎回必要。授業ではあてられることを期待して欲しい。後期に開講する中国歴代口語文入門とあわせて履修するのが望ましい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(講読) Chinese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 平田 昌司				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金5	授業形態	講読
題目	中近世白話文入門								
[授業の概要・目的]									
現代中国語の母胎となった口語系の文体の読解を通じて、8～19世紀の中国語文献を自力で読めるようになるための基礎知識の獲得をめざす。あわせて、現代中国語の文法の形成過程に対する理解を深める。									
[授業計画と内容]									
以下の課題についてあつかう予定。 (1)19世紀以前の口語文(白話)と現代中国語の関係、主要な工具書の解説(1週)。 (2)明清代の小説の言語(4週) (3)口語を用いた詩歌(2週) (4)明清代の戯曲の言語(2週) (5)語録の言語(2週) (6)唐代までの口語文の概観(3週)									
[履修要件]									
全学共通科目で中国語中級をすでに半年学習した程度の学力があり、正確な発音を心がけていること。									
[成績評価の方法・基準]									
出席および予習(中国語の発音評価を含む)の状況50%、レポート20%、定期試験30%。									
[教科書]									
劉堅 『近代漢語読本(修訂版)』(上海教育出版社)									
[参考書等]									
(参考書) 太田辰夫 『中国歴代口語文』(朋友書店)(現在、入手は困難。) 太田辰夫 『中国語歴史文法』(朋友書店)(元版は江南書院刊行。現在、入手は困難。)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
テキスト読解の予習が毎回必要。前期に開講する中国古典詩入門とあわせて履修するのが望ましい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 〈英訳〉	中国語学中国文学外国人実習 Chinese Language and Literature(Seminars)				担当者氏名	南山大学 外国語学部 教授 蔡 毅			
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木3	授業形態	外人実習
題目	中文会話								
〔授業の概要・目的〕									
本課程为文学部本科生上级汉语会话练习。在多种多样的实际语言情景中练习和掌握得体的口语表达方式, 提高口头的交际能力。希望听讲者通过一年的学习, 能取得「中国語検定」2级或新HSK(汉语水平考试)4级的资格。									
〔授業計画と内容〕									
在多种多样的实际语言情景中练习和掌握得体的口语表达方式, 提高会话能力。从中国现在发行的报刊中选取文章作为教材, 听讲者在充分预习的基础上, 上课时与教师一起解读、讨论。课堂上完全使用汉语。									
〔履修要件〕									
听课学生应该获得两年以上正规的汉语训练。									
〔成績評価の方法・基準〕									
平常点および試験									
〔教科書〕									
プリントを配布。									
〔参考書等〕									
特になし									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
文学部3~4回生のみ対象とする。中国語学中国文学専修の学生を優先し、受講者数の上限は8名。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(語学) Chinese Language and Literature (Languages)			担当者氏名	文学研究科 教授 平田 昌司				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	語学
題目	中国語現地実習								
【授業の概要・目的】									
8月中旬～9月中旬の4週間、南京大学海外教育学院で実施する中国語研修を受講し、現代中国語の運用能力を高めるとともに、現代中国の状況に関する理解を実地で深める。									
【授業計画と内容】									
4月：履修登録前ガイダンス；5月～7月：事前ガイダンス（数回）；8月中旬～9月中旬：南京大学海外教育学院で4週間（月曜から金曜まで毎日午前2コマ、週10コマを受講）の中国語研修を受講。後期：到達度判定のためのテスト参加。									
【履修要件】									
原則として、全学共通科目の中国語中級を今年度前期に履修済みの文学部正規学生を対象とする。授業はすべて中国語でおこなわれるため、中国語の基礎学力があること。また、心身の健康・対社会性といった面で、4週間の海外渡航にたえられること。									
【成績評価の方法・基準】									
南京大学海外教育学院の研修出席状況・試験成績、帰国後の学力判定テストを総合して評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
滞在中の宿舎は2名で1室となる。現地渡航費用（未定であるが、総額20万円程度をみこんでいる）を負担できること、現地研修参加にあたって本人・親族の誓約書を提出できること、中国渡航等の諸手続きを自分でできること。4月に実施する事前ガイダンスに出席し、履修を許可された者以外は参加できない。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

中国哲学史専修

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	文献学研究								
【授業の概要・目的】									
<p>清朝の代表的な蔵書家である黄丕烈の讀書記『士禮居蔵書題跋記』を読みながら、清朝の文献学ならびに学術全般についての理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>黄丕烈の讀書記『士禮居蔵書題跋記』は、彼が購入したり譲り受けたりした書物に関して、そのテキストの来歴あるいは他のテキストとの校勘の記録、さらには購入時のさまざまな逸話的記録などが示されており、当時の蔵書家達の書物に対する意識を知るには格好の書物である。基本的に講者が読んでいくこととするが、出席者のメンバーから希望があれば、一部を学生諸氏に読んでもらうことも考えている。今年度は、潘祖蔭の序文から始めて、經部、史部と進む予定。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。(論述の内容について、使用した資料の読解、分析の仕方を含めて総合的に判断する。レポートが100%。)									
【教科書】									
こちらで『士禮居蔵書題跋記』のコピーを準備する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>中国の文献学を理解するためには、広く漢籍に対する理解と、唐本(中国刊線装本)に対する視覚、触覚等の感覚的な「慣れ」が必要となるので、授業外に出来る限り文学研究科図書館の書物を手に取ることが必要となる。美学美術史学と共通。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 武田 時昌				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	類書の思想史的考察								
【授業の概要・目的】									
<p>「教養ある人間」とは、どのような人物像であるのか。人格形成と社会的自立の過程で要求される「教養」が、文化的生活を豊かにする生活の知恵として有効に機能しているわけではない。学校教育において学び得た教養、あるいは達成した学問的成果が、就職試験においてすら十分な評価の対象となっていないことを考えれば、教養のあり方を再考すべき時期に来ているように思われる。そのような問題意識において、本授業では、類書と総称される書物群の内容的な考察を通して、中国的な「知」の構造を探り、漢籍が日本人の知識基盤を明確にし、文化形成に与えた影響を考える。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期は、類書の種類とその歴史を概観した後に、主要な著作を取り上げて、内容的な特色を窺い、それがどのように読まれたのかを考察することで、中国的教養の形成に類書が果たした役割を探る。</p> <p>後期は、日本にもたらされた類書が漢文学的な素養としてどのような作用を發揮したのかを、伝存する資料を読解しながら具体的に検討する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席よりも自主レポート等の学習意欲を重視する。レポート課題の総合テーマは「東アジア的教養の本質と二十一世紀展開に関する遡及的、複眼的考察」である）									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>旺盛な好奇心と豊かな発想による多種多様な読書活動を通して、文献読解と哲学的思索の界域を自由遊泳することを要望する。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)		担当者氏名	人文科学研究所 教授 井波 陵一					
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火1	授業形態	特殊講義
題目	目録法と分類法								
【授業の概要・目的】									
漢籍目録の作成要領および四部分類法を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。									
【授業計画と内容】									
『漢籍目録 カードのとりかた』に基づき、目録法について解説する。 1. 漢籍の定義 2. カード作成の目的 3. 書名 4. 巻数 5. 撰者 6. 鈔刻(出版事項) 『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』に基づき、分類法について解説する。 1. 経部 2. 史部 3. 子部 4. 集部 5. 叢書部									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年度末のレポート。									
【教科書】									
『漢籍目録 カードのとりかた』(朋友書店) 『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』『漢籍目録 カードのとりかた』は各自で購入すること。 『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』は分類法の講義を行う際に配布する。なお、授業では目録法の講義を先に行う。』 『漢籍目録 カードのとりかた』は各自で購入すること。『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』は分類法の講義を行う際に配布する。なお、授業では目録法の講義を先に行う。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
中国語学中国文学と共通。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 教授 船山 徹						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	注釈書に見る中国六朝時代の学術仏教								
【授業の概要・目的】									
<p>仏教教理学史形成の実態を知る上で注釈書は重要である。注釈は何ら個性のない単なる語句の注解である場合も皆無ではないが、多くの場合、注釈家は經典への注釈という形を借りて、仏教に対する自らの理解や他説との相違を様々に表現した。時に注釈は独立した著作よりも雄弁である。この授業は中国の六朝時代における仏教の注釈の特徴を扱う。仏典の様々な書物形式の中で注釈という形態にいかなる特徴があるか、インド仏教と比較して中国の注釈にはどのような特徴があるか、六朝時代の注釈書にはどのような特徴や制約が認められるかを考える。また注釈作成における学派と他説の採用、剽窃、個性の問題などもあわせて検討する。とりわけ五世紀から五世紀前半頃の南朝における『涅槃経』に対する一注釈を中心として具体的検討を試みる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業は以下の課題について具体的に検討を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教において注釈書を読むことはなぜ必要か ・ インド仏教における注釈書の概観と特徴 ・ 中国仏教における早期の注釈書をめぐって ・ 鳩摩羅什およびその弟子による注釈書 ・ 南朝仏教における注釈書の特徴（とくに『涅槃経』と『成実論』との関係） ・ 6世紀前半の注釈書『大般涅槃経集解』より知られる南朝の学術仏教（注釈の一部を精読する。内容的に関連する他の文献の記述も比較検討する。） ・ 中国仏教における注釈書の種類とその特徴 <p>上記各課題の説明と精読とを合わせて14回を予定。</p>									
【履修要件】									
漢訳仏典を読むための最低限度の基礎知識を有していること									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポート									
【教科書】									
<p>授業中に指示する 授業中にプリントを配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>仏教学と共通。授業に関係する事柄であれば質問等はいつでもどんなことでも歓迎します。授業初回到質問等の問い合わせ先メールアドレスを知らせます。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)		担当者氏名	東京大学 大学院人文社会系研究科 教授 川原 秀城					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	東アジア思想史概説								
【授業の概要・目的】									
東アジアの思想、特に朝鮮王朝期の思想を概観する。真の意味の東アジア思想の解明には、朝鮮思想の分析を欠くことができないとの認識にたつ。									
【授業計画と内容】									
1.朱子学の伝来 2.儒仏交代期の朱子学 3.朱子学の隆盛 4.退溪哲学 5.栗谷心学 6.宋時烈 7.朝鮮実学 8.朝鮮末期の思想									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート									
【教科書】									
使用しない 朝鮮思想史研究は日本にあっては絶学にちかい。したがってよい教科書はない。									
【参考書等】									
(参考書) 参考書としては 1.姜在彦『朝鮮儒教の二千年』(朝日選書), 2001 2.裴宗鎬著・川原他訳『朝鮮儒学史』知泉書館, 2007 3.川原・金光来編訳『高橋亨朝鮮儒学論集』知泉書館, 2011 などを紹介したい。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	日知録集釋								
【授業の概要・目的】									
<p>清朝考証学の代表的な著作、『日知録』を精読する。出典に細かく当たりながら読むことによって、中国古典学に対する理解を深めるとともに、漢文読解力を養成する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>顧炎武の代表的著作『日知録』に、黄汝成が注をつけた『日知録集釋』をテキストとして、注釈も含めて精読する。本年度は巻十四から始める。授業は、各条毎に、学生諸氏に訳注を準備してもらい、授業時に参加者全員で内容等について議論検討する、という形式を取る。出典に確実に当たることを重視し、本文の文章や語句のみならず、集釋を含めたすべての典拠について、もとの書物（紙で出来た書物）を調べる作業を重視する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。（漢文読解、典拠の調査等を総合的に判断する。訳注作成ならびに毎時間の発表が100%。）									
【教科書】									
テキストはコピーして配布する（道光版『日知録集釋』）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>内容の項目に書いたように、典拠については紙のテキストに必ず当たるという作業を重視するので、参加者には毎時間、相当程度の時間にわたる予習が要求される。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	演習
題目	『春秋左伝正義』								
【授業の概要・目的】									
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を精読する。漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。									
【授業計画と内容】									
昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による（発表の良否、出席状況などを総合的に評価する）。									
【教科書】									
テキストは担当者が準備する。									
【参考書等】									
（参考書） 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献（出典）の調査が不可欠である。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 菱谷 邦夫				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	道教思想資料								
【授業の概要・目的】									
六朝後半から隋・初唐にかけての時代は、道教が仏教教理の影響を受けつつも、自己の教理体系を形成・展開していった重要な時期にあたる。この時期の道教の思想・教理を理解するための基本的文献を選んで精読する。									
【授業計画と内容】									
前半は、昨年度に引き続き唐代の代表的道士のひとりである呉#31584;の『玄綱論』を読む。今年度は、「真精章」第三から始める。担当者が作成した詳細な訳注をもとに、参加者全員で討議するというかたちで精読するとともに、思想史的に重要なことごとについては、適宜解説を加えながら進めていく。中国古典文読解の基本にのっとり、担当者は、個々の語句の典拠を確実に調査するとともに、思想史的文脈にも配慮して訳注を作成することが求められる。一回に読み進める分量は多くても二葉程度であるので、担当者任せにせずに参加者全員がそれなりの下調べをしていくことが必要である。 後半は、六朝隋唐時代の道教教理のトピックを選んで関連資料を講読する。									
【履修要件】									
中国古典文の読解力を要する。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。(中国古典文読解力、典拠の調査等を総合的に判断する。毎時間の発表が100%)									
【教科書】									
正統道藏所収『玄綱論』の該当部分のコピーを用意すること。									
【参考書等】									
(参考書) 授業時に適宜指示する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
内容の項目に書いたように、詳細な訳注作成のため、担当者には相当程度の時間にわたる予習が要求される。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	総合地球環境学研究所 木下 鉄矢 特別客員教授				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	演習
題目	中庸章句・朱子語類								
【授業の概要・目的】									
朱熹の『中庸章句』第一章および『朱子語類』卷第六十二「中庸一」以下を精読します。朱熹の思索がいかなる活動であったのか、その語彙選択の深層、発想の現場、その理路の主軸と展開を「読み」の遂行の中で生き生きと発現せしめる「読みの現場」を自ら展開しうる能力を養う。									
【授業計画と内容】									
本授業の計画・内容は朱熹の思索テキストを精密に生き生きと読むことに尽きる。しかし、そのためには何が必要か、どのような点に注意しなければならないか、そのような「読みの現場」の展開を支える「読みの技法」についても述べる予定である。「読みの技法」を「テキスト内在」の技法と「テキスト外在」の技法に分け、内在的技法としては通常語彙にかかる語彙選択の地形図を実証的、意識的に掘り起こして行く方法意識が重要であり、外在的技法としては個人史、時代、歴史と重畳するテキストに外在的な大文脈にテキストを常に置いて眺めるといった心得が重要である。このことを具体的なテキストの「読みの現場」を展開するなかにおいて述べる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（積極的に下調べをしているか否か。50%）および注解レポート（通年4回程度。50%）による。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 木下鉄矢 『朱熹哲学の視軸 続朱熹再読』（研文出版）ISBN:ISBN978-4-87636-301-8（2009年） 木下鉄矢 『朱子－ はたらき と つとめ の哲学』（岩波書店）ISBN:ISBN978-4-00-028287-1（2009年）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
充分な下調べを行うことが必要である。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(講読) History of Chinese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 助教 キム ジヒョン				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	講読
題目	中国哲学史(講読)								
【授業の概要・目的】									
中国古典を読むための基礎知識を身に付け、漢文読解力の習得と向上を目的とする。テキストは中国哲学史に対する代表的な著作、馮友蘭の『中国哲学史』を用いる。中国哲学の重要問題に触れるとともに、主要な中国古典の原文に接することをめざす。									
【授業計画と内容】									
馮友蘭の『中国哲学史』(1934)は中国人の手になる最初の中国哲学の通史である。中国思想史の流れを「子学」と「経学」の時代とに区分した本書の区分法は今もなお尊重されている。序文から読み始め、本文で取り上げられている原文については、引用文献に当たりながら精読していく。原文の読解のために必要な調べものの仕方、および工具書の使い方を学び、漢文読解の基礎となる知識の習得をめざしたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(講読担当時の予習状況と毎時の受講状況)									
【教科書】									
馮友蘭『中国哲学史』(商務印書館、1934) テキストは毎回該当部分をコピーして配ります。									
【参考書等】									
(参考書) 狩野直喜『中国哲学史』(岩波書店、1953)									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

インド古典学専修

授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies(Special Lectures) (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 横地 優子				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木1	授業形態	特殊講義
題目	パーシュパタ・ヨーガ								
【授業の概要・目的】									
<p>最古のシヴァ教プラーナ文献の一つである『スカンダプラーナ』の最後の10章(174-183章)はパーシュパタ・ヨーガの記述にあてられている。パーシュパタ派はタントリズムが主流となる以前の初期のシヴァ教の修行者集団の一つであり、このパーシュパタ・ヨーガの記述にはタントラのヨーガの萌芽をみることができる。今回の授業では、181-182章を中心としてヨーガ経典やシヴァ教タントラ文献中の記述と比較検討することで、いわゆる古典的ヨーガからタントラのヨーガへの発展過程をより詳しく解明することを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>『スカンダプラーナ』内のパーシュパタ・ヨーガを述べる10章のうち、182章はヨーガ行者の自死のしかたを扱い、181章ではタントラのヨーガにおいてヨーガ的身体の重要な概念となる、氣息をめぐる管とそれをめぐる蛇の姿をした氣息に言及している。この二つの章を中心として、Patanjaliのヨーガ経典とその注釈、パーシュパタ経典とKaundinyaの注釈、Nisvasatantra、Malinivijayottaratantra等のシヴァ教タントラ文献の関連記述と比較検討する。このパーシュパタ・ヨーガを扱う部分は、ネパールに伝わる9世紀の写本2本のみ現存する部分であり、写本に基づきテキストを再校訂しながら読んでいくことになる。授業中に写本2本の当該部分の写真を渡すので、意欲のある学生は自分で写本を読み校訂を試みてほしい。</p>									
【履修要件】									
サンスクリット文法を履修済であることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点によって評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies(Special Lectures) (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 ACHARYA, Diwakar Nat						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	Origins of Indian Philosophies: Readings in early Upanishads								
【授業の概要・目的】									
Continuing with the last years ' theme, in this course we will analyse passages from the early Upanishads more critically, applying the method of higher criticism.									
【授業計画と内容】									
The Upanishadic texts are not so simple to interpret because we are far removed in time, so were the traditional commentators, and the semantic association of words is constantly shifting. So, once we begin to read them more carefully and critically, several problems and their possible solutions are revealed, which can have far-reaching implications. With this awareness in mind, we will read the fifth and sixth chapters of the Brhadaranya Upanishad.									
【履修要件】									
This course is designed for advanced students with good knowledge of Sanskrit.									
【成績評価の方法・基準】									
Evaluation of the course will be based on: 1)Attendance of classes; 2)Participation in class discussions.									
【教科書】									
その他 Handout will be distributed.									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する Eighteen Principal Upanisads Vol. 1. Ed. P. Limaye and R. D. Vadekar. Poona: Vaidika Samsodhana Mandala, 1958.									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Matters of higher criticism and logical precision, and complications involved in interpretation of archaic texts. オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies(Special Lectures) (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火5	授業形態	特殊講義
題目	Introduction to the scriptural and exegetical sources of non-dualist Shaivism								
【授業の概要・目的】									
The aim of this class is to provide an overview of scriptural and exegetical sources important to the evolution of doctrines and practices central to non-dualist Shaivism.									
【授業計画と内容】									
This class presents an overview of the historical development of some of the doctrines central to the mature system of non-dualist Shaivism. Source passages will be presented in edition and translation and recent secondary work will be looked at where relevant. Both the earlier scriptural works and the later exegetical works will be contrasted to come to a clearer understanding of the formative dynamics of the non-dualist schools of Shaivism.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance and participation in class.									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies(Special Lectures) (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 客員教授 SANDERSON Alexis				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火5	授業形態	特殊講義
題目	Shaivism and Brahmanism								
[授業の概要・目的]									
A detailed examination of the nature of the co-existence of the two dominant constituents of religious life in India during the early medieval period.									
[授業計画と内容]									
<p>In approximately the first third of the lectures I will outline my view of the development of Shaivism from its beginnings, proposing a new model of the relationship between its primary constituents. Thereafter I shall examine the following: (1) evidence of how the learned inside the Brahmanical and Shaiva traditions viewed each other, looking closely at the Shaiva position that Shaivas though following a system that transcends the brahmanical must nonetheless comply with its injunctions; (2) evidence of the extent of this compliance in practice; (3) textual and epigraphical evidence of royal backing for the Shaiva concept of a Shaiva-brahmanical socio-religious order, (4) evidence of the undermining of the learned Shaiva view of the nature of this order as a consequence of the Shaivas' success in promoting it, evidence, that is, of the weakening of the orthodox brahmanical rejection of Shaivism and of a commensurate adoption by Shaivas themselves of a view of their religion that surrendered the doctrine of its transcendence, and (5) a reading of the upsurge of Shakta-Shaivism among Shaiva intellectuals from the ninth century onwards as a reaction to this loss of transcendence in the Shaiva mainstream.</p> <p>My aim is to show that the key to a balanced perception of the dynamics of the history of Shaivism lies in seeing it in terms of two antithetical tendencies: on the one hand a drift towards loss of transcendence and on the other the effort of its fundamentalist theoreticians to counter this drift by constructing doctrinal positions and propagating systems of practice that were designed to immunize the Shaivas against acceptance of this loss of transcendence. Through this analysis I wish also to demonstrate that to work towards a full and balanced understanding of Shaivism, and indeed of any Indian religious tradition, we cannot restrict ourselves to the study of the views of its pre-eminent theoreticians. These works, fascinating though they may be, become much more so when it is recognized that they draw much of their meaning from their place in a process of historical change that encompasses several intersecting traditions in a state of flux that they are seeking to counteract and conceal. To see through to the processes that have given rise to the great and influential works we must be prepared to look at the much humbler evidence of ritual manuals, inscriptions, and material remains, at what non-adherents have reported of their views of these traditions, and at the growing body of ethnographic and socio-anthropological studies of descendants of these traditions down to modern times, notably in Tamilnadu, Kerala, and the Kathmandu valley. The lectures will be based on the examination of primary sources, textual and epigraphical, texts and translations of which will be given in the form of handouts accompanying the lectures.</p>									
[履修要件]									
It will be possible to follow the lectures without a knowledge of Sanskrit. The Sanskrit sources will be discussed and the texts circulated in handouts but they will not be read through word by word in the lectures.									
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----									

インド古典学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・基準]

Attendance and an essay to be submitted at the end of term.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 教授 藤井 正人						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	特殊講義
題目	ウパニシャッド講読 Chandogya-Upanisad								
【授業の概要・目的】									
ヴェーダ文献史の後期に成立し、インド哲学思想史の始まりの一つとなったウパニシャッドから重要な箇所を選んで講読する。今年度は昨年度に引き続き、最初期のウパニシャッドの一つである『チャンドーギヤ・ウパニシャッド』を読むことによって、ウパニシャッド文献とその思想を原典に基づいて理解するとともに、サンスクリット散文読解の基本的な技能を習得することをめざす。									
【授業計画と内容】									
ヴェーダ学派と直接的な関係をもつ初期ウパニシャッドのなかで、『ジャイミニヤ・ウパニシャッド・ブラーフマナ』『プリハッドアーラニヤカ・ウパニシャッド』『チャンドーギヤ・ウパニシャッド』は、成立の古さと内容の豊富さとともに、先行する祭式文献との関係や後続する諸文献への影響などの点で極めて重要な文献である。それらの中で『チャンドーギヤ』は比較的成立が遅く、もっとも古いと考えられる『ジャイミニヤ』から多くのものを借用し、作り変えるとともに、『ジャイミニヤ』にはない新しい思想を展開している。今年度の授業では、『ジャイミニヤ』の関係箇所をも読む比べることによって、『チャンドーギヤ』と『ジャイミニヤ』との文体、思想、背景の学派伝統などの違いについても考察する。授業の参加者にはテキストの正確な読解のために、各種の辞書、文法書、コンコーダンスなどの道具類に慣れ親しむように指導する。									
【履修要件】									
サンスクリット基礎文法の既習者									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。評価に際しては出席を重視し、理解度と積極性を加味する。									
【教科書】									
教材を授業時に配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
予習と復習のしかたについては初回の授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)	担当者氏名	大阪学院大学 企業情報学部 教授 八木 徹						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	特殊講義
題目	マハーバーシャ研究								
【授業の概要・目的】									
<p>1. 後の論書の範となったマハーバーシャを、カイヤタ及びナーゲーシャの注釈とともに、でき得る限り正確に読むこと。</p> <p>2. 文法学派の論法に習熟すること。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期：P.6.4.1 vt.1-11</p> <p>後期：P.6.4. 2, 3, 12-13, 14, 16</p>									
【履修要件】									
サンスクリット文法既習者									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
Vyakaranamahabhasya of Patanjali with the Commentary Bhasyapradipa of Kaiyata Upadhyaya & the Super Commentary Bhasyapradipoddyota of Nagesa Bhatta, Vol. V, edited with Notes and Variants by Shri Bhargava Shastri Joshi, Delhi 1988. (プリントを用意する。)									
【参考書等】									
(参考書)									
Toru Yagi, Le Mahabhasya ad Panini 6.4.1-19, Paris 1984									
James W. Benson, Patanjali 's Remarks on anga, Delhi 1990									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies(Special Lectures) (Special Lectures)	担当者氏名	大阪大学 大学院文学研究科 講師 堂山 英次郎						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	『リグヴェーダ』研究								
【授業の概要・目的】									
<p>インド最古の文献『リグヴェーダ』を読む。紀元前1200年頃の成立とされる『リグヴェーダ』は古代インド思想の源泉であると同時に、印欧語比較言語学の発展に決定的な役割を果たした文献でもある。また、その神話や儀礼の記述を通じて見えてくる古インド・アーリヤ人の社会・文化・歴史・世界観等は、人類史の理解という面でも重要な視座を与えてくれる。『リグヴェーダ』の内容の正しい理解には、ことばの厳密な理解が特に重要となる。この古代文献を材料として、語源・音韻・アクセント・統辞法・韻律等を綿密に分析・点検する技術を身につけることが、授業の目的である。それは古語文献の読解一般にとっても有効な訓練となるはずである。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>パニと呼ばれる敵により砦（Vala）に閉じ込められた牛を、インドラ、プリハスパティ、アンギラスたちが連携して略奪する話 いわゆる「Vala神話」 を取り上げる。同神話は『リグヴェーダ』の各所に散見されるが、その中から、詩人による一般的な讃歌の形式をとる第1巻第62歌と登場人物同士の会話で構成される第10巻第108歌という、スタイルの異なる二つの歌篇を順番に読んでゆく。</p> <p>授業は輪読形式で行い、参加者にはそれぞれテキストを音読・翻訳するとともに、一語一語を文法的に出来るだけ細かく分析・説明してもらおう。内容の解釈も含めて、参加者全体による積極的な議論を期待する。当該神話を扱う『リグヴェーダ』の他の箇所や、後のヴェーダ文献の記述も適宜参考にしつつ、また一方では、同神話に重ねられた太陽の解放などの異なる神話やシンボリズムにも注目しながら、丁寧に読み進めたい。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。予習・復習の程度、授業の理解度、発言の内容によって総合的に判断する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
参加者はサンスクリット語の基礎知識を有することが望ましい。予習を前提とするが、予習が無理な時でも授業に参加し、復習を心がけること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies(Special Lectures) (Special Lectures)	担当者氏名	ハンブルグ大学 アジア・アフリカ研究所 研究員 張本 研吾						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	Patanjalayogasastravivarana 研究								
【授業の概要・目的】									
『ヨーガバーシュヤ』に対する、高名な不二一元論学者シャンカラに帰せられる註釈『ヴィヴァラナ』を素材に、インド哲学史研究における諸問題に触れて行く。テーマとして、一次資料（写本）の評価、テキスト校訂の手法、テキストの思想史上の位置づけ、著者問題へのアプローチ、哲学学派ヨーガ派の歴史、などに焦点を当てる。									
【授業計画と内容】									
初回で素材となる『パタンジャラヨーガシャーストラヴィヴァラナ』の概要、現存写本、関連する先行研究等について紹介した後、同書より、適宜、講義のテーマに即した箇所を抜粋し、校訂テキストを読んで行く。									
取り扱う箇所は、									
1) 冒頭と結びの偈分（テキストの integrity と著作の意図、著者の背景に強い関わりを持つ）									
2) 知識根拠に関する議論（他学派あるいは他のシャンカラに帰せられる著作との関連の上で、著作の位置づけに有意義）									
3) 神の存在論証に関する議論（上と同様な意味で重要。特にこの部分は長大で、他の興味深いテーマ---ウパニシャッドの権威、ミーマーンサー学派への返答など---を含む）									
4) スポータに関する議論									
などを計画している。									
授業の一環として、受講者に写本資料を渡し、自らテキスト校訂を試みてもらい、それを発表、正当化した上で、他の受講者と共に議論検討するという場も想定している。									
【履修要件】									
サンスクリット語の最低限の知識が望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポート									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 横地 優子 文学研究科 准教授 ACHARYA, Diwakar Nat 人文科学研究所 教授 藤井 正人 文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火1	授業形態	演習
題目	インド学・サンスクリット学の諸問題（論文指導）								
【授業の概要・目的】									
インド学・サンスクリット学の分野における論文作成の技術を基礎から学び、自らテーマを選んで、資料を集め、分析し、その成果を発表する、さらに討論の場で批判を受けるといった訓練を重ねることで、本格的な論文を作成するためのノウハウを身につける。									
【授業計画と内容】									
論文の作成法について指導するとともに、学生各自が選んだテーマについて、毎回研究発表を行ってもらう。当該年度の卒論、修論提出予定者には、それぞれの論文にかかわるテーマやテキストに関する発表を行ってもらう。それ以外の学部生、院生は、それぞれの関心に従って、各自の研究発表を行ってもよいし、また近年に発表された重要論文についての研究発表を行ってもよい。例年、各学生には、2～3回程度の発表の機会が与えられる。									
【履修要件】									
インド古典学専修の学生であること（インド学に関連する分野の研究を行っている他専修の学生も履修可）。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（発表と討論への参加度により総合的に判断する）。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
自分の発表のときだけでなく、他者の発表のときにも必ず出席し、質問、討論に参加することが要求される。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 横地 優子						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	演習
題目	マハーラーシュトリー説話『悪党物語』								
【授業の概要・目的】									
<p>インド中世にジャイナ教徒は非常に多くの説話文献を残しており、その多くはサンスクリットではなく、中期インド・アリア語であるマハーラーシュトリーやアパブランシャで著されている。またマハーラーシュトリーはジャイナの説話だけではなく、詩・戯曲等の文芸作品に使われるもっとも重要なプラークリット（文学言語となった中期インド・アリア語）である。この授業ではまず語彙集を備えたリーダーを使ってマハーラーシュトリーの入門を行ったのち、Haribhadra作 Dhurtakhyana 『悪党物語』を読解する。授業の第一の目的はプラークリットを代表するマハーラーシュトリーの読解力を身につけることだが、同時に日本ではあまり研究されていないジャイナ教説話を通して、当時のインドの文化・社会に対する、仏教やヒンドゥー教徒とは異なる視点を学んでほしい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期の前半では、文法の簡単な解説と語彙集を含むマハーラーシュトリーのリーダーAusgewählte Erzählungen in Maharashtraから一編を選んで読み、この言語に関する基礎的な読解力を身につける。その後、8世紀のジャイナ教作家Haribhadraが著したDhurtakhyana 『悪党物語』をSingh Jain Seriesで出版されている版を底本として講読する。この版ではサンスクリットによる翻訳に近い翻案も含まれているので、それを参考にしながら読み進める。</p> <p>『悪党物語』は悪党たちが旅の宿りでたまたま一同に会し、ほらの吹きあいをして夜をすごすという筋であるが、さまざまなヒンドゥー教神話をほら話として語り笑い飛ばすことで、ジャイナ教からのヒンドゥー教批判になっている。授業では批判されているヒンドゥー神話をできるだけプラナ文献等で同定していき、ヒンドゥー文献で語られる神話と、この物語で語られるジャイナ教の視点からみた神話の比較検討も行う予定である。</p>									
【履修要件】									
サンスクリット文法既習者									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（毎回の授業中の読解等）で評価する。									
【教科書】									
<p>Jacobi, Hermann 『Ausgewählte Erzählungen in Maharashtra』（Wissenschaftliche Buchgesellschaft, Darmstadt, 1967）</p> <p>Haribhadrasuri 『Dhurtakhyana, edited by Jina Vijaya Muni』（Singh Jain Series, No.19, Bharatiya Vidya Bhavan, Bombay, 1944）（Reprint: Sarasvati Oriental Research Sanskrit Series No.15, Sarasvati Pustak Bhandar, Ahmedabad, 2002）</p>									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
受講者は毎回の授業で本文の翻訳が課せられるので、予習が必須である。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 ACHARYA, Diwakar Nat						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	演習
題目	Mandana Misra on the nature of brahman and its realisation								
[授業の概要・目的]									
<p>The general aim of this course is to provide the knowledge of the version of Vedanta as expounded in the Brahmasiddhi of Mandana Misra. Mandana 's version differs on crucial issues from that of the most popular Vedanta exponent Sankara (8C CE), a junior contemporary of the former. This year we will read the section on the nature of brahman and the means to realise it.</p>									
[授業計画と内容]									
<p>Mandana Misra has contributed to various branches of Indian Philosophy: Mimamsa, Vedanta, and also the philosophy of language. He received inspirations from Bhartrhari and Kumarila, and has deeply influenced Vacaspati Misra and other Indian philosophers of the following centuries. As for the Brahmasiddhi, it is not only Mandana's sole work on Vedanta but also the last work. This obviously implies that it contains his matured and revised views, and thus deserves proper attention.</p> <p>In the first term, we will read from the auto-commentary on the first verse of the first chapter. This portion contains elaborate discussion on certain aspects of brahman such as pure cognition and imperishability. In the second term, we cover the second verse and the auto-commentary which discusses the means to know brahman.</p> <p>We will make occasional use of all four classical commentaries, wherever available and whenever necessary.</p>									
[履修要件]									
<p>This course is designed for the students who have good knowledge of classical Sanskrit and philosophical inclination as well.</p>									
[成績評価の方法・基準]									
<p>Paper test will be scheduled in the last of the academic year.</p>									
[教科書]									
<p>Brahmasiddhi of Mandana Misra with Sankhapani's Commentary (vyakhya). Ed. S. Kuppaswami Sastri. Madras Government Oriental Series No. 4. Madras: Government Press, 1937. Photographic reprint, Delhi: Sri Satguru, 1984.</p>									
[参考書等]									
<p>(参考書)</p> <p>Vacaspatimisra 's Tattvasamiksa: The Earliest Commentary on Mandana-misra 's Brahmasiddhi. Critical Edition with an Introduction and Summary. NRC Publication Series 25. Stuttgart: Steiner Verlag, 2006.</p> <p>Two Commentaries on Brahmasiddhi: Bhavazuddhi of Anandapurna Muni and Abhiprayaprakazika of Citsukha Muni (Brahmasiddhi--vyakhye). Ed. N. S. Anantakrishna Sastri. Madras Government Oriental Series, No. 161. Madras: Government Oriental Manuscript Library, 1963.</p>									
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----									

インド古典学(演習)(2)

Allen Wright Thrasher 1993. The Advaita Vedānta of Brahmasiddhi. Delhi: Motilal Benarsidass.

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

Evolution of Vedānta thoughts around the early 8th century CE, matters of critical interpretation of ancient Sanskrit texts.

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 ACHARYA, Diwakar Nat				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	演習
題目	Basic Panini Grammar								
[授業の概要・目的]									
Largely following the method of late Brahmadata Jijnasu and Yudhishtira Mimamsaka, I will teach basic Sanskrit Grammar using Panini's Ashtadhyayi itself directly.									
[授業計画と内容]									
It will be an introduction to basic Sanskrit grammar, and at the same time, also to the text of Panini's Ashtadhyayi. We will study necessary portions of Panini's Ashtadhyayi directly, without resorting to its commentaries, and see how Sanskrit words are formed in Panini's system. In the first semester, the course will focus on introduction to Panini's terminologies, basic nominal declensions, euphonic combinations. In the second semester, it will focus on some simple verbal inflections, more of Panini's terminologies, and the basics of syntax.									
[履修要件]									
This course is designed for the beginners of Sanskrit, but is useful even for those who already know Sanskrit and want to study Panini.									
[成績評価の方法・基準]									
Evaluation of the course will be based on: 1)Attendance of classes; 2)Participation in class discussions.									
[教科書]									
Study material will be provided in the class.									
[参考書等]									
(参考書)									
1. Boehtlingk, Otto. Panini's Grammatik. Leipzig 1887. Reprint: Georg Olms, Hildesheim/New York 1977.									
2. Katre, Sumitra M. Ashtadhyayi of Panini. First edition. Delhi: Motilal Banarsidass, 1989.									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	演習
題目	The Rajendrakarnapura of Shambukavi								
【授業の概要・目的】									
The aim of this class is to read the 11th century Rajendrakarnapura of Shambhukavi, a royal panegyric in honor of King Harsha of Kashmir, in concert with the Kashmirian Rajatarangini chronicles, and to explore if it is possible to recognize features of a regional style of Sanskrit poetry.									
【授業計画と内容】									
Is the Rajendrakarnapura of Shambhukavi a recognizably Kashmirian work? What might be the criteria by which such a claim could be substantiated? To find answers to these questions, we will study the short Rajendrakarnapura together with other Kashmirian works which are either contemporaneous or bear directly on the content, style. or any other identifiable feature.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance and participation in class.									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4	授業形態	演習
題目	Academic English Writing in Indology and Buddhology								
【授業の概要・目的】									
The aim of this class is to improve English writing skills.									
【授業計画と内容】									
We will study exemplary articles and chapters of longer works, summarize them and discuss in class. Students will practice writing and rewriting short essays, outlines, and sections of their theses.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance, essays, participation in class.									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies(Seminars) (Seminars)			担当者氏名	(財)東方研究会 研究員 山口 周子				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3	授業形態	演習
題目	パーリ語入門								
【授業の概要・目的】									
『ジャータカ』（釈迦の前世譚）等、原典の精読を通してパーリ語の読解力を養う。文法事項については、テキストの講読演習と並行して解説する。									
【授業計画と内容】									
初回の授業は、サンスクリット語と比較しながら、パーリ語の基本的な文法事項、音韻について概説する。さらに、講読予定のテキスト（『ジャータカ』等）について解説を加える。 2回目以降は、各文法事項について解説の後、実際の講読演習に入る。毎時間とも輪読形式とする。文法事項に関しては、授業第2回目から5回目までは名詞活用、第6回目から9回目には動詞活用、10回目から最終回までは、連続体(Gerund)、不定体(Infinitive)等を重点的にとりあげる。									
【履修要件】									
サンスクリット文法を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
輪読形式のため、平常点評価とする。									
【教科書】									
購読用テキスト等のプリントを、授業にて配布する。									
【参考書等】									
（参考書） Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』（The Pali Text Society）ISBN:0 86013 315 水野 弘元 『パーリ語文法』（山喜房佛書林）ISBN:4-7963-0010-4									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies(Seminars) (Seminars)	担当者氏名	非常勤講師 八木 綾子						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	演習
題目	アルダ・マーガディー入門								
【授業の概要・目的】									
<p>現在もインド国内を中心に教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点も多い。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディーは、中期インド語の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。テキストを読みながら、辞書・参考書の使い方に慣れる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1 - 3週：アルダマーガディーを中心とした中期インド語の概説と辞書・参考書の紹介。A.M. Ghatage 「introduction to Ardha-Magadhi」の練習問題をしながら、名詞変化・動詞活用の確認をする。</p> <p>第4 - 5週：数詩節からなるAyaranga第2篇16章「vimukti」の読解とともに、ジャイナ聖典や教義の紹介を行い、適宜パーリ語との対応関係を確認する。</p> <p>第6 - 15週：選文講読 出席者の意見を参考にして以下の中から読むテキストを選びたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Kalpasutra Jinacarita:前年度に読んだAyaranga II.15より詳細なマハーヴィーラ伝。 ・ Kalpasutra Samacari等のジャイナの行動規定(律)に関するテキスト ・ Vasudevahindi, Paumacariu等の説話文献 									
【履修要件】									
サンスクリット文法を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平素の成績									
【教科書】									
テキストのコピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 横地 優子						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月4	授業形態	講読
題目	サンスクリット初級演習(古典サンスクリット)								
【授業の概要・目的】									
<p>サンスクリット文法を既習した学生を対象とする初級演習。語彙集を備えたリーダーを使って、易しい韻文・散文を読むことで文法知識を確実に身につけること、最終的に辞書を使いこなして自力で原典が読めるようになることを目的とする。</p> <p>この授業を履修する学生は、後期に開講される「サンスクリット初級演習(ヴェーダ語)」も履修することが望ましいが、どちらを先に履修してもかまわない。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>教科書のうち、古典サンスクリットで著された「ナラ王物語」「ヒトーパデーシャ」「カターサリットサーガラ」を主教材とする。毎回の進度は受講者の習熟度によるが、最初の数回は文法を確認しながらゆっくり読み、その後は毎回1～2頁程度の進度で読み進める予定である。辞書をはじめとする、原典を読むために有用なツールについては、授業の中で紹介する。</p>									
【履修要件】									
サンスクリット文法既習者									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験によって評価する。									
【教科書】									
Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』 (Motilal Banardidass) ISBN:978-81-208-1362-2 (インド学研究室にて購入できる。)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>受講者には毎回の予習・復習が必須である。デーヴァナーガリ文字を未習の者は、受講前に自習しておくことが望ましい。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)	担当者氏名	人文科学研究所 教授 藤井 正人						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月4	授業形態	講読
題目	サンスクリット初級演習(初期サンスクリット[ヴェーダ語])								
【授業の概要・目的】									
サンスクリット基礎文法の既習者を対象とする初級演習。比較的簡単なヴェーダ散文を読みながら、初期サンスクリット(ヴェーダ語)の文法と構文の基礎を習得するとともに、サンスクリット全般に共通する分析的な読解法を身につける。									
【授業計画と内容】									
サンスクリット基礎文法の知識である程度読むことのできる『シャタパタ・ブラーフマナ』を教材にして、ヴェーダ散文の手ほどきを行う。そのあと、代表的な初期ウパニシャッドである『プリハッド・アーラニヤカ・ウパニシャッド』の一節ないし数節を精読する。教科書とともに、アクセントを伴った校訂本のプリント(授業時に配布)を用いて、語句・構文・アクセントなど、テキストのすべての要素を分析して読解する方法を学ぶ。辞書については、初めのうちは教科書の語彙集を用いるが、徐々に本格的な辞書や語源辞典を使いこなすことを目指す。									
【履修要件】									
サンスクリット文法既習者。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(50%)と学期末筆記試験(50%)により評価する。									
【教科書】									
Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』(Motilal Banarsidass) ISBN:978-81-208-1363-2(インド学研究室にて購入できる。)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
毎回の予習・復習が必須である。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	講読
題目	German Reading in Indology and Buddhology								
【授業の概要・目的】									
The aim of this class is to read excerpts from the major works of German Indology.									
【授業計画と内容】									
We will read the following works: G. Buehler, "Ueber das Leben des Jainamoenches Hemachandra " , Denkschriften der Wiener Akademie, 1889. Selections from W. Schubring: Kleine Schriften. Hrsg. von Klaus Bruhn. Wiesbaden: Steiner 197; Selections from: Harry Falk, Schrift im alten Indien, Gunter Narr Verlag, 1993.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
単位取得の最低条件として8回以上の出席を要求する。 平常点により評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する コピーを配布する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する コピーを配布する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)	担当者氏名	宗教情報センター 研究員 佐藤 直実						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	講読
題目	仏語講読								
[授業の概要・目的]									
Etienne Lamotteの古典的名著 Histoire du Bouddhisme Indienの講読を通し、インド仏教史の基礎知識を確認すると共に、仏語の読解力を養成する。									
[授業計画と内容]									
1. 初回は文献及び授業の概説を行う。 2. 各回、講読を行う。和訳は事前に準備すること。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
授業時の発表及び平常点をもとに総合的に評価。 テストは行わない。									
[教科書]									
講読箇所については授業中に指示する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット(4時間前期コース)(語学) Sanskrit (4H)			担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月5,木5	授業形態	語学
題目	Sanskrit Grammar								
【授業の概要・目的】									
An introduction to the Sanskrit language for beginners. This class aims to cover the basics of Sanskrit Grammar in one term.									
【授業計画と内容】									
We will focus on covering the material taught in R. Goldman's Devavanipraveshika, reading all of the exercises and actively translating into Sanskrit. Supplementary materials and exercises will be provided as necessary.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance, participation, quizzes.									
【教科書】									
1) Devavanipravesika: An Introduction to the Sanskrit Language (Paperback) by Robert P. Goldman (Author), Sally J. Sutherland (Author), Paperback, Publisher: Center for South & Southeast; 2nd Rev edition (August 1987), ISBN-10: 0944613004, ISBN-13: 978-0944613009 Arthur A. MacDonell, A Sanskrit Grammar for Students (OUP, 1971)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット(4時間後期コース)(語学) Sanskrit (4H)			担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月5,木5	授業形態	語学
題目	Sanskrit Grammar								
【授業の概要・目的】									
An introduction to the Sanskrit language for beginners. This class aims to cover the basics of Sanskrit Grammar in one term.									
【授業計画と内容】									
We will focus on covering the material taught in R. Goldman's Devavanipraveshika, reading all of the exercises and actively translating into Sanskrit. Supplementary materials and exercises will be provided as necessary.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance, participation, quizzes.									
【教科書】									
1) Devavanipravesika: An Introduction to the Sanskrit Language (Paperback) by Robert P. Goldman (Author), Sally J. Sutherland (Author), Paperback, Publisher: Center for South & Southeast; 2nd Rev edition (August 1987), ISBN-10: 0944613004, ISBN-13: 978-0944613009 Arthur A. MacDonell, A Sanskrit Grammar for Students (OUP, 1971)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit (2H)			担当者氏名	文学研究科 准教授 横地 優子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	語学
題目	サンスクリット初級文法(2時間コース)								
[授業の概要・目的]									
<p>古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけさせることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>文法事項の解説と練習問題による読解演習とを平行して授業を進める。扱う主な文法事項は：</p> <p>サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3週) 名詞・形容詞曲用(第4-9週：母音語幹、第10-15週：子音語幹) 複合語、代名詞、数詞(第16-17週) 動詞現在活用(第18-19週：第1種活用、第20-23週：第2種活用) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞ほか(第24-28週) まとめ(第29-30週)</p> <p>授業の進行は学習の理解度に応じて調整する場合がある。</p>									
[履修要件]									
予備知識は必要ない。幅広い専攻からの受講を歓迎する。									
[成績評価の方法・基準]									
平素の成績と筆記試験による。特に平常点(出席率および宿題)を重視する。									
[教科書]									
上村勝彦・風間喜代三『サンスクリット語・その形と心』(三省堂)ISBN:978-4-385-36465-0									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
毎回宿題を課す。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代インド語（ヒンディー）（語学） Hindi	担当者氏名	北海道大学 スラブ研究員センター 研究員 小松 久恵						
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	語学
題目	現代インド語（ヒンディー語）								
【授業の概要・目的】									
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初頭文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。									
【授業計画と内容】									
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。幸い、ヒンディー語は文法が簡単で、日本語に極めてよく似ているので、日本人学習者にとり習得することはそれほど困難ではないであろう。教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（40％）と筆記試験（期末30％、年度末30％）によって評価する。									
【教科書】									
町田和彦 『ニューエクスプレス、ヒンディー語』（白水）ISBN:978-4-560-06791-8（同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）									
【参考書等】									
（参考書） 辞書については初回の授業で紹介する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

仏教学専修

授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 宮崎 泉				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	ツォンカパの中観思想とインド中観派の思想								
【授業の概要・目的】									
チベット仏教における大学者のひとりにも数えられる、ゲルク派の祖ツォンカパは、中観派を自立論証派と帰謬論証派に区分する際、独自の解釈を導入したことが知られている。本講義では、インドの諸論師の思想と対比しながら、ツォンカパの中観理解を検討する。									
【授業計画と内容】									
チベット仏教の中でも特に重要であるツォンカパが著した『了義未了義善説心髄』「帰謬論証派章」を通読する。ツォンカパについての研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、授業で扱う「帰謬論証派章」にも既に翻訳が存在する。そのため授業はツォンカパの思想とインド中観派の比較が重点となる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の思想も十分に把握しておくことが求められる。授業は、初回にインド中観思想の展開について概説し、二回目以降は、『了義未了義善説心髄』「帰謬論証派章」を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の後後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。									
【履修要件】									
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
テキストはコピーして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の準備をしておくことが求められる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 船山 徹				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	注釈書に見る中国六朝時代の学術仏教								
【授業の概要・目的】									
<p>仏教教理学史形成の実態を知る上で注釈書は重要である。注釈は何ら個性のない単なる語句の注解である場合も皆無ではないが、多くの場合、注釈家は經典への注釈という形を借りて、仏教に対する自らの理解や他説との相違を様々に表現した。時に注釈は独立した著作よりも雄弁である。この授業は中国の六朝時代における仏教の注釈の特徴を扱う。仏典の様々な書物形式の中で注釈という形態にいかなる特徴があるか、インド仏教と比較して中国の注釈にはどのような特徴があるか、六朝時代の注釈書にはどのような特徴や制約が認められるかを考える。また注釈作成における学派と他説の採用、剽窃、個性の問題などもあわせて検討する。とりわけ五世紀から五世紀前半頃の南朝における『涅槃経』に対する一注釈を中心として具体的検討を試みる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業は以下の課題について具体的に検討を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教において注釈書を読むことはなぜ必要か ・ インド仏教における注釈書の概観と特徴 ・ 中国仏教における早期の注釈書をめぐって ・ 鳩摩羅什およびその弟子による注釈書 ・ 南朝仏教における注釈書の特徴（とくに『涅槃経』と『成実論』との関係） ・ 6世紀前半の注釈書『大般涅槃経集解』より知られる南朝の学術仏教（注釈の一部を精読する。内容的に関連する他の文献の記述も比較検討する。） ・ 中国仏教における注釈書の種類とその特徴 <p>上記各課題の説明と精読とを合わせて14回を予定。</p>									
【履修要件】									
漢訳仏典を読むための最低限度の基礎知識を有していること									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポート									
【教科書】									
授業中に指示する 授業中にプリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>授業に関係する事柄であれば質問等はいつでもどんなことでも歓迎します。授業初回到質問等の問い合わせ先メールアドレスを知らせます。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)			担当者氏名	高野山大学 文学部 教授 室寺 義仁				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	仏教教義のアビダルマ的定義とヨーガーチャーラの解釈								
【授業の概要・目的】									
<p>釈尊（ゴータマ・ブッダ）が説き示した真理内容は、四諦説、五蘊説、そして縁起説として今に伝えられている。ブッダは覚醒体験後、その自覚内容を言葉化した時、有情／衆生の生存の本質は苦であるとの真実を説き示した。この説示方法は因果律に拠っており、縁起説の出発点でもある。生存する存在者一般は、無常なる縁起的存在として純然たる苦しみが集積した「五蘊」として捉えられた。このような視点を学び取ることを目的として、アビダルマ教義による定義と瑜伽行派の中で展開する解釈とを、ヴァスバンドゥ（西暦400年頃）作の『阿毘達磨俱舍論』と『五蘊論』、並びに、『瑜伽師地論』とヴァスバンドゥの兄・アサンガ作『大乘阿毘達磨集論』をテキストとして、サンスクリット原典を比較吟味しながら、文献学的な分析手法について理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>初回・第2回の授業では、アビダルマの諸論書、ヴァスバンドゥに帰せられる諸論書、特に『阿毘達磨俱舍論』と『五蘊論』、そして、『瑜伽師地論』と『大乘阿毘達磨集論』などの基本テキストについて概説する。その後、受講生が作成した、サンスクリット・テキストのワーキング・エディションを用いながら、『瑜伽師地論』「本地分」中の「意地」を、比較分析可能なアビダルマ、並びに、ヨーガーチャーラの諸テキスト箇所を参照しつつ、チベット語訳・漢訳・現代語（英独仏日）訳とも対比して、精密に解読して行く。</p>									
【履修要件】									
チベット語、サンスクリット語を履修済み、若しくは履修中。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。講読担当者を予め定め発表をしてもらいます。テキスト解読の緻密度・正確度をもって成績評価とします。									
【教科書】									
授業中に指示するテキストは、適宜、コピー配布します。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
質問などの連絡は、初回授業において周知するメールアドレスを活用して下さい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 宮崎 泉				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	演習
題目	大乘仏教における空性の意義								
【授業の概要・目的】									
<p>昨年度に引き続き、初期大乘経典と考えられる『三昧王経』（月燈三昧経）を通読し、仏教サンスクリットで書かれた仏教経典の基本的な読解力を習得するとともに、大乘仏教における空の意義と機能に対する理解を深めることを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>初回の授業では、大乘仏教における空に関連する問題点を解説し、二回目以降の授業では、『三昧王経』を通読しながら、空性の機能について考えていく。</p> <p>現存する『三昧王経』のサンスクリット本は40章からなり、各章は比較的独立している。そのため『三昧王経』から一章だけを取り上げるが、取り上げるのは、昨年度に引き続き、サンスクリット本では「持経利益品」というタイトルを持つ第32章である。この章は最初に導入の短い散文がある他は偈頌だけからなり難解であるため、チベット語訳と那連提耶舎による漢訳も併用しサンスクリットテキスト自体も慎重に検討しながら精読する。</p>									
【履修要件】									
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
テキストはコピーして配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の準備をしておくことが求められる。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies(Seminars) (Seminars)			担当者氏名	京都産業大学 文化学部 准教授 志賀 浄邦				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	ダルマキールティの論理学								
【授業の概要・目的】									
7世紀頃のインドにおいて活躍し、論理学・認識論の分野において後世に多大な影響を与えた学僧ダルマキールティの代表的著作の一つである『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第2章「自己のための推理」を講読する。当該テキストはチベット語訳のみが現存し、サンスクリット原典は散逸したと考えられていたが、近年そのサンスクリット写本が発見され、ウィーン大学のシュタインケルナー氏によって校訂テキストが出版された。本授業では、上記のテキストを精読することを通してダルマキールティの思考プロセスや彼の打ち立てた推理論の新体系、また7世紀インドの思想状況についての文献学的解明を試みたい。また、『プラマーナ・ヴァールティカ』をはじめとする同著者による他の論理学書と当該テキストの平行箇所を押さえた上で両テキスト間に見られる明示的な変更点を精査することにより、ダルマキールティの著作の成立過程および著作順序についても従来の研究を再考してみたい。									
【授業計画と内容】									
授業では、上記の『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第2章（昨年度の続きから）を講読する。近年新たに出版された校訂本に対するレビューや先行研究等を参考にしながら、シュタインケルナー氏によって校訂されたテキストを批判的に精読する。									
第1～2回 仏教論理学およびダルマキールティの諸著作についての概説 第3回以降 『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第2章講読									
【履修要件】									
サンスクリット、チベット語、ドイツ語の基本的な読解能力を必要とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。（毎時間の発表が100%）									
【教科書】									
Ernst Steinkellner 『Dharmakīrti's Pramāṇaviniśchaya Chapter 1 and 2』 (China Tibetology Research Center and Austrian Academy of Science) ISBN:978-7-80057-873-1 その他、授業中に適宜プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies(Seminars) (Seminars)			担当者氏名	宗教情報センター 研究員 佐藤 直実				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	大乘仏教經典の読解								
【授業の概要・目的】									
<p>如来蔵思想を含む中期大乘の代表的經典『大般涅槃經』の中から、金剛身品をとりあげ、そこに記されるAksobhyaとその仏国土の逸話を講読する。本經は六朝時代の仏教で重視され、また日本では道元、日蓮、親鸞などにも影響を与えている。釈尊入滅時における弟子との最後の問答を通し、如来常住、悉有仏性、闍提成仏、常樂我淨などを説く。本演習では、当該箇所を読解を通し、大乘仏教における護法のあり方を理解すると共に、大乘仏教及び大乘經典の基礎知識の習得を目的とする。また、仏教サンスクリット、仏教漢文、古典チベット語の読解力も養成する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1回 テキストの概説と資料配付 第2回以降 『大般涅槃經』金剛身品の講読</p>									
【履修要件】									
サンスクリット、古典チベット語、仏教漢文の基本的な読解能力を必要とする。									
【成績評価の方法・基準】									
<p>授業時の発表及び平常点をもとに総合的に評価。 テストは行わない。</p>									
【教科書】									
授業中に資料を配付する。									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)			担当者氏名	高野山大学 文学部 助教 加納 和雄				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	演習
題目	仏典のサンスクリット写本研究のための基礎知識								
【授業の概要・目的】									
<p>インド本土において衰退した大乘仏教を研究するために現在われわれの手元に残されているのは、インド周辺諸国において翻訳という形で伝承された仏典翻訳文献と、写本として伝来されている梵文原典とである。このうち写本資料は仏典原典の言語をダイレクトに今に伝える貴重な資料であり、近年その研究が飛躍的に進んできている。授業では梵文仏典写本研究の現状と課題について理解し、写本を実際に読解しながら基礎的な能力を養うことを目的とする。授業は基本的に演習形式とするが初心者も歓迎する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>まず最初の数回の授業においては、インドに由来する梵文仏典写本研究の現状について、特に、ネパール・チベット伝来の写本を中心に概観する。さらに写本解読のための基礎知識を養うために、これまでに刊行されてきた写本の文字表や、梵文写本独特の綴り字法などについて説明する。これらの基礎知識を習得した後は、実際に写本の解読を行ってゆく。素材としては、未解読の断片写本をサンプルとして数点とり上げる。特に、写本の読みに問題がある場合の対処法と有効な手続きについて詳しく論じる。</p>									
【履修要件】									
サンスクリットの基本的な読解能力を必要とするが、初心者も歓迎する。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。(毎時間の発表が100%)									
【教科書】									
授業中に指示する テキストはコピーして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies(Seminars) (Seminars)			担当者氏名	(財)東方研究会 研究員 山口 周子				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3	授業形態	演習
題目	パーリ語入門								
【授業の概要・目的】									
『ジャータカ』（釈迦の前世譚）等、原典の精読を通してパーリ語の読解力を養う。文法事項については、テキストの講読演習と並行して解説する。									
【授業計画と内容】									
初回の授業は、サンスクリット語と比較しながら、パーリ語の基本的な文法事項、音韻について概説する。さらに、講読予定のテキスト（『ジャータカ』等）について解説を加える。 2回目以降は、各文法事項について解説の後、実際の講読演習に入る。毎時間とも輪読形式とする。文法事項に関しては、授業第2回目から5回目までは名詞活用、第6回目から9回目には動詞活用、10回目から最終回までは、連続体(Gerund)、不定体(Infinitive)等を重点的にとりあげる。									
【履修要件】									
サンスクリット文法を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
輪読形式のため、平常点評価とする。									
【教科書】									
購読用テキスト等のプリントを、授業にて配布する。									
【参考書等】									
（参考書） Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』（The Pali Text Society）ISBN:0 86013 318 4 水野 弘元 『パーリ語文法』（山喜房佛書林）ISBN:4-7963-0010-4									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies(Seminars) (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 八木 綾子				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	演習
題目	アルダ・マーガディー入門								
【授業の概要・目的】									
<p>現在もインド国内を中心に教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点も多い。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディーは、中期インド語の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。テキストを読みながら、辞書・参考書の使い方に慣れる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1 - 3週：アルダマーガディーを中心とした中期インド語の概説と辞書・参考書の紹介。A.M. Ghatage 「introduction to Ardha-Magadhi」の練習問題をしながら、名詞変化・動詞活用の確認をする。</p> <p>第4 - 5週：数詩節からなるAyaranga第2篇16章「vimukti」の読解とともに、ジャイナ聖典や教義の紹介を行い、適宜パーリ語との対応関係を確認する。</p> <p>第6 - 15週：選文講読 出席者の意見を参考にして以下の中から読むテキストを選びたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Kalpasutra Jinacarita:前年度に読んだAyaranga II.15より詳細なマハーヴィーラ伝。 ・ Kalpasutra Samacari等のジャイナの行動規定(律)に関するテキスト ・ Vasudevahindi, Paumacariu等の説話文献 									
【履修要件】									
サンスクリット文法を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平素の成績									
【教科書】									
テキストのコピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	仏教学(講読Ⅰ) Buddhist Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	講読
題目	German Reading in Indology and Buddhology								
[授業の概要・目的]									
Reading of selections from major works of German Indology.									
[授業計画と内容]									
We will read the following works: G. Buhler, "Ueber das Leben des Jainamoennes Hemachandra " , Denkschriften der Wiener Akademie, 1889. Selections from W. Schubring: Kleine Schriften. Hrsg. von Klaus Bruhn. Wiesbaden: Steiner 197; Selections from: Harry Falk, Schrift im alten Indien, Gunter Narr Verlag, 1993.									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
単位取得の最低条件として、8回以上の出席を要求する。									
[教科書]									
授業中に指示する コピーを配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	仏教学(講読II) Buddhist Studies (Seminars)			担当者氏名	宗教情報センター 研究員 佐藤 直実				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	講読
題目	仏語講読								
[授業の概要・目的]									
Etienne Lamotteの古典的名著 Histoire du Bouddhisme Indienの講読を通し、インド仏教史の基礎知識を確認すると共に、仏語の読解力を養成する。									
[授業計画と内容]									
1. 初回は文献及び授業の概説を行う。 2. 各回、講読を行う。和訳は事前に準備すること。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
授業時の発表及び平常点をもとに総合的に評価。 テストは行わない。									
[教科書]									
授業中に指示する 講読箇所については授業中に指示する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
各回、予習の必要あり。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	チベット語（初級）（語学） Tibetan			担当者氏名	愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	月1	授業形態	語学
題目	チベット語初級								
【授業の概要・目的】									
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。</p> <p>受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。</p> <p>テキストは、プリントとして配布する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>成績は、出席点および学期末に行う試験によって決定する。 チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。</p>									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	チベット語（中級）（語学） Tibetan			担当者氏名	文学研究科 准教授 宮崎 泉				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	語学
題目	チベット語（中級）								
【授業の概要・目的】									
この授業は、チベット語初級を終えた学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めるためのものである。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中に使われているチベット語にも様々な種類があるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げ、どの分野の仏教文献にも対処できる基礎的な能力を身につけることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
授業では、偈頌だけからなる文献や注釈文献といったスタイルの違う文献も含め、古チベット語を含む仏教文献、サンスクリットからの翻訳文献、チベット撰述文献を取りあげる。それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴の解説と読解のために必要な内容の説明を行う。その後各文献を五週程度かけて輪読する。									
【履修要件】									
チベット語初級文法を終えていること。読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。出席と授業の中で発表の内容により評価する。									
【教科書】									
授業中にプリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット(4時間前期コース)(語学) Sanskrit (4H)			担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月5,木5	授業形態	語学
題目	Sanskrit Grammar								
【授業の概要・目的】									
An introduction to the Sanskrit language for beginners. This class aims to cover the basics of Sanskrit Grammar in one term.									
【授業計画と内容】									
We will focus on covering the material taught in R. Goldman's Devavanipraveshika, reading all of the exercises and actively translating into Sanskrit. Supplementary materials and exercises will be provided as necessary.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance, participation, quizzes.									
【教科書】									
1) Devavanipravesika: An Introduction to the Sanskrit Language (Paperback) by Robert P. Goldman (Author), Sally J. Sutherland (Author), Paperback, Publisher: Center for South & Southeast; 2nd Rev edition (August 1987), ISBN-10: 0944613004, ISBN-13: 978-0944613009 Arthur A. MacDonell, A Sanskrit Grammar for Students (OUP, 1971)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット(4時間後期コース)(語学) Sanskrit (4H)			担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月5,木5	授業形態	語学
題目	Sanskrit Grammar								
【授業の概要・目的】									
An introduction to the Sanskrit language for beginners. This class aims to cover the basics of Sanskrit Grammar in one term.									
【授業計画と内容】									
We will focus on covering the material taught in R. Goldman's Devavanipraveshika, reading all of the exercises and actively translating into Sanskrit. Supplementary materials and exercises will be provided as necessary.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance, participation, quizzes.									
【教科書】									
1) Devavanipravesika: An Introduction to the Sanskrit Language (Paperback) by Robert P. Goldman (Author), Sally J. Sutherland (Author), Paperback, Publisher: Center for South & Southeast; 2nd Rev edition (August 1987), ISBN-10: 0944613004, ISBN-13: 978-0944613009 Arthur A. MacDonell, A Sanskrit Grammar for Students (OUP, 1971)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

《西洋文化学系》

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講義) Greek and Latin Classics (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 マルティン チェシコ				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金5	授業形態	講義
題目	Greek mythology for the uninitiated I (in English)								
【授業の概要・目的】									
<p>When Europe dreams, it dreams in Greek. European civilization is nowadays united less through a particular language and more through her shared knowledge of Greek mythology. The very word for 'Europe' derives from the name of a heroine of one such myth. The vividness of Greek myths and the truths hidden in them do not cease to amaze. But how did these myths come to life? Who were their main protagonists and what were the most famous stories? And why does it still matter to know who Achilles, Sisyphus or Oedipus were?</p>									
【授業計画と内容】									
<p>This is an introductory course for those who wish to learn something about Greek gods and heroes, about their adventures and struggles. We shall touch upon the basic questions of humanism, meaning of life and the nature of heroism as reflected in these myths.</p> <p>Modern literature written in European languages and influenced by Greek mythology will also be introduced.</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>Attendance: 50 %.</p> <p>Short assignments throughout the term (these can be written either in English or Japanese): 50 %.</p>									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>授業中に紹介する</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講義) Greek and Latin Classics (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 マルティン チェッコ				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金5	授業形態	講義
題目	Greek mythology for the uninitiated II (in English)								
【授業の概要・目的】									
<p>This course is a continuation of 'Greek mythology for the uninitiated I'. Greek myths, their protagonists and their influence on modern European literature will all feature prominently, just as in the previous term.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>Please refer to the contents of 'Greek mythology for the uninitiated I'. Some keywords that will keep cropping up: gods, semi-gods, superhuman beings, heroes, monsters; fame and shame, struggle and revenge, bravery and cowardice, heroic code; true happiness, meaning of life and a constant search for answers.</p>									
【履修要件】									
You must have attended 'Greek mythology for the uninitiated I'.									
【成績評価の方法・基準】									
<p>Attendance: 50 %. Short assignments throughout the term (these can be written either in English or Japanese): 50 %.</p>									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講義) Slavic Languages and Literatures (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 佐藤 昭裕				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水5	授業形態	講義
題目	スラブ語学概説								
【授業の概要・目的】									
東はロシアから西はポーランドまで、また南は旧ユーゴスラヴィアの国々そしてブルガリアまで、広大な地域に分布するスラブ民族の言葉であるスラブ諸語の構造と歴史を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
スラブ語は、大きく東スラブ（ロシア語、ウクライナ語等）、西スラブ（ポーランド語、チェコ語、スロヴァキア語等）、南スラブ（セルビア語、クロアチア語、ブルガリア語等）の3つのグループに分かれる。キリル文字（ロシア文字）を用いる正教文化圏（ロシア、ウクライナ、セルビア、ブルガリア）、ラテン文字を用いるカトリック文化圏（ポーランド、チェコ、クロアチア）に分かれる。この「スラブ語学概説I」では、このようなスラブ諸語の初期の歴史と構造について概説する。はじめにスラブ世界の成立について述べたうえで、スラブ世界最古の書き言葉として9世紀末に成立した古教会スラブ語の構造を概観することによってスラブ語の仕組みを学ぶ。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加状況と学期末の試験の両方で評価する。									
【教科書】									
授業時にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
（参考書） とくにない。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
もし第2外国語でロシア語を勉強しはじめた人がいたら、是非出席してみてください。きっと役に立ちます。しかし、同時に、ロシア語の文字（キリル文字と言います）を読めない人にも配慮します。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講義) Slavic Languages and Literatures (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 佐藤 昭裕				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水5	授業形態	講義
題目	スラブ語学概説								
【授業の概要・目的】									
東はロシアから西はポーランドまで、また南は旧ユーゴスラヴィアの国々そしてブルガリアまで、広大な地域に分布するスラブ民族の言葉であるスラブ諸語の構造と歴史を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
スラブ語は、大きく東スラブ（ロシア語、ウクライナ語等）、西スラブ（ポーランド語、チェコ語、スロヴァキア語等）、南スラブ（セルビア語、クロアチア語、ブルガリア語等）の3つのグループに分かれる。キリル文字（ロシア文字）を用いる正教文化圏（ロシア、ウクライナ、セルビア、ブルガリア）、ラテン文字を用いるカトリック文化圏（ポーランド、チェコ、クロアチア）に分かれる。この授業では、このようなスラブ諸語の構造と歴史について概説する。この「スラブ語学概説II」では、「スラブ語学概説I」でその構造を学んだ9世紀の古教会スラブ語文法から出発して、実際に古教会スラブ語福音書のテキストを講読するとともに、現代スラブ諸語に翻訳された『星の王子様』を用いて、9世紀以降現代に至る東、西、南の各スラブ語の実際の姿と特徴に触れる。									
【履修要件】									
「スラブ語概説」を履修していることが望ましい。絶対的要件とはしないが、受講者自身にとっても有益である。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加状況と学期末の試験の両方で評価する。									
【教科書】									
授業時にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
（参考書） とくにない。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
もし第2外国語でロシア語を勉強しはじめた人がいたら、是非出席してみてください。きっと役に立ちます。しかし、同時に、ロシア語の文字（キリル文字と言います）を読めない人にも配慮します。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(講義) German Language and Literature (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 松村 朋彦				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金2	授業形態	講義
題目	映画になったドイツ文学								
【授業の概要・目的】									
映画化されたドイツ文学の作品を毎回1篇ずつ取り上げ、作品の背景や読みどころなどを紹介したうえで、映画のいくつかのシーンを鑑賞する。映像を通してドイツ文学のさまざまな作家や作品に親しむと同時に、文学作品の映画化をめぐる問題についても考えてみたい。									
【授業計画と内容】									
取り上げる予定の作家と作品は次の通り。 1 ハイน์リヒ・マン 『ウンラート教授』(1905) 2 トーマス・マン 『ヴェニスに死す』(1913) 3 カフカ 『変身』(1916) 4 カフカ 『審判』(1925) 5 シュニッツラー 『夢小説』(1926) 6 ヘッセ 『荒野の狼』(1927) 7 ケストナー 『飛ぶ教室』(1933) 8 グラス 『ブリキの太鼓』(1959) 9 プロイスラー 『クラバート』(1971) 10 エンデ 『モモ』(1973) 11 ジュースキント 『香水』(1985) 12 シュリンク 『朗読者』(1995)									
【履修要件】									
ドイツ語の知識は必要としない。									
【成績評価の方法・基準】									
毎回の授業時に感想や質問を書いて提出してもらい、平常点(50%)と期末レポート(50%)によって評価する。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業で取り上げる作品を、できるだけ自分で読んでほしい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(講義) German Language and Literature (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 松村 朋彦				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金2	授業形態	講義
題目	オペラになったドイツ文学								
【授業の概要・目的】									
オペラ化されたドイツ文学の作品を毎回1篇ずつ取り上げ、作品の背景や読みどころなどを紹介したうえで、オペラのいくつかのシーンを鑑賞する。映像と音楽を通してドイツ文学のさまざまな作家や作品に親しむとともに、文学とオペラとの関係についても考えてみたい。									
【授業計画と内容】									
取り上げる予定の作家と作品は次の通り。 1 ゲーテ 『若きヴェルテルの悩み』(1774) 2 シラー 『オルレアンの少女』(1801) 3 シラー 『ヴィルヘルム・テル』(1804) 4 クライスト 『こわれがめ』(1808) 5 ゲーテ 『ファウスト第一部』(1808) 6 グリム兄弟 『ヘンゼルとグレーテル』(1812) 7 ホフマン 『砂男』(1816) 8 ビューヒナー 『ヴォイツェク』(1836) 9 ヴァーグナー 『タンホイザー』(1845) 10 ケラー 『村のロメオとユリア』(1856) 11 ヴェデキント 『地霊/パンドラの箱』(1895/1902) 12 ホフマンスタール 『影のない女』(1919)									
【履修要件】									
ドイツ語の知識は必要としない。									
【成績評価の方法・基準】									
毎回の授業時に感想や質問を書いて提出してもらい、平常点(50%)と期末レポート(50%)によって評価する。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業で取り上げる作品を、できるだけ自分で読んでみてほしい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英文学(講義) English Literature (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 廣田 篤彦				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	講義
題目	英文学史								
【授業の概要・目的】									
本年度は演劇を扱う。英国演劇の代表的な作品のいくつかに触れながら、演劇の変遷についての理解を深める。									
【授業計画と内容】									
喜志哲雄著『英米演劇入門』の中から以下の作品を扱う。この教科書の記述に添ってそれぞれの作品について解説をした後で、実際に英文テキストを分析する。一作品あたり2-3週の授業をする。 1. 『エヴリマン』 2. 『ハムレット』 3. 『十二夜』 4. 『リチャード三世』 5. 『すべて愛のために』 6. 『田舎女房』 7. 『悪口学校』 8. 『真面目が大事』 9. 『ゴドーを待ちながら』 10. 『昔の日々』 11. 『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
夏休み後に提出するレポートならびに学年末試験により評価する。レポートが提出されていない場合は試験を受けても単位は認めない。レポートについての詳細は授業中に指示する。									
【教科書】									
喜志哲雄『英米演劇入門』（研究社）ISBN:432737511X あわせてプリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業で紹介した作品や教科書に載っていても授業では扱えない作品についてテキストを通読し、可能ならば上演を観に行してほしい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学(講義) English Language (Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 家入 葉子						
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	講義
題目	英語史								
【授業の概要・目的】									
<p>アングロ・サクソン人がブリテン島に移住してから現在に至るまでの英語の発達過程を学びます。また、英語史についての知識を活かしながら、現代英語をどのように理解し、分析することが可能であるかを考察します。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>英語史についての基本的な知識を学ぶために、『ベーシック英語史』を読み、同時に『古英語・中英語初歩』の中から選択した比較的易しい文献を講読することで、古英語・中英語の言語的特徴についてのイメージをつかみます。具体的には、文字の歴史、発音の歴史、意味の発達、語形の変化、統語上の発達など、を扱う予定です。</p> <p>また、英語史および現代英語に関するさまざまな論文をプレゼンテーションの形で相互に紹介し合いながら、英語史と現代英語の関係についての理解を深めます。(論文の入手方法等については、最初の授業でガイダンスを行います。)</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業中のプレゼンテーションおよび試験によって評価を行います。									
【教科書】									
<p>家入葉子 『ベーシック英語史』(ひつじ書房) 市河三喜・松浪有 『古英語・中英語初歩』(研究社)</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) 寺澤盾 『英語の歴史 過去から未来への物語』(中公新書) R. Hogg & D. Denison 『A History of the English Language』(CUP)</p>									
(関連URL)									
<p>http://homepage3.nifty.com/iyeiri/students/index.htm(このURLを定期的にチェックしてください。試験範囲もここに掲載しています。)</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>メールアドレスは、http://homepage3.nifty.com/iyeiri/students/index.htmにあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(講義) American Literature (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 森 慎一郎				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	講義
題目	アメリカ文学史								
【授業の概要・目的】									
植民地時代から現代にいたるまでのアメリカ文学史のおおまかな流れをたどる。各時代を代表する作家、作品を紹介するとともに、できるだけ具体的に個々の作家の文章に触れてもらうことを心がけたい。扱うジャンルは小説が中心。									
【授業計画と内容】									
以下の内容を順次扱う予定。1．植民地時代 2．独立期前後（Franklin他） 3．小説の始まり（Irving、Cooper他） 4．超越主義（Emerson, Thoreau他） 5．Poe, Hawthorne, Melville 6．WhitmanとDickinson 7．リアリズム（Twain, Howells, James他） 8．自然主義（Norris, Dreiser他） 9．モダニズム（Stein, Eliot他） 10．失われた世代（Fitzgerald, Hemingway他） 11．Faulknerと南部 12．演劇（Williams, Miller他） 13．アフリカ系（Wright, Ellison, Baldwin他） 14．ユダヤ系（Bellow, Malamud, Roth他） 15．南部作家（O'Connor, McCullers, Capote他） 16．ビート（Kerouac, Burroughs他） 17．New Yorker作家（Salinger, Updike他） 18．ポストモダン（Barth, Pynchon他）等									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末試験（60％）とレポート（40％）により評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 亀井俊介 『アメリカ文学史講義 1～3』（南雲堂）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業で紹介した作品を一つでも多く自分で読んでみてほしい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学(講義) French Language (Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 田口 紀子														
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	講義								
題目	フランス語学講義																
[授業の概要・目的]																	
フランス語の仕組みについて、文学テキストの抜粋を読みながら理解を深めることを目的とする。																	
[授業計画と内容]																	
はじめにフランス語の歴史を概説したあと、いくつかの言語学的トピックを取り上げ、フランス文学作品の抜粋を読みながらテキストでの具体的な用例を分析し、その機能を解説する。1課題に2～3回の授業を当てる。																	
<table border="0"> <tr> <td>1．フランス語の歴史</td> <td>2．発話と発話行為</td> </tr> <tr> <td>3．レシとディスクール</td> <td>4．直説法半過去と単純過去の違い</td> </tr> <tr> <td>5．話法と内的独白</td> <td>6．視点</td> </tr> <tr> <td>7．映し手と語り手</td> <td>8．冠詞と照応 など</td> </tr> </table>										1．フランス語の歴史	2．発話と発話行為	3．レシとディスクール	4．直説法半過去と単純過去の違い	5．話法と内的独白	6．視点	7．映し手と語り手	8．冠詞と照応 など
1．フランス語の歴史	2．発話と発話行為																
3．レシとディスクール	4．直説法半過去と単純過去の違い																
5．話法と内的独白	6．視点																
7．映し手と語り手	8．冠詞と照応 など																
[履修要件]																	
フランス語初級を習得していること。																	
[成績評価の方法・基準]																	
平常点と定期試験。																	
[教科書]																	
プリントを配布する。																	
[参考書等]																	
(参考書) 授業中に紹介する																	
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))																	
特になし																	
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。																	

授業科目名 <英訳>	フランス文学(講義) French Literature (Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 永盛 克也						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木2	授業形態	講義
題目	フランス文学講義(1)								
【授業の概要・目的】									
フランス演劇の代表的作品を時代の文化的・社会的状況に即して紹介していくとともに、それぞれの時代における演劇論(批評、創作論、演技論、受容論、さらには「反演劇」論も含む)にも言及する。時代や社会と密接に関わるジャンルとしてのフランス演劇の流れについて理解を深める。									
【授業計画と内容】									
以下のような問題について、それぞれ1～3週の授業をする予定である。									
<p>イントロダクション</p> <p>1 17世紀における演劇ジャンルの隆盛</p> <p>2 17世紀演劇の主要作品ーバロックから古典主義へ</p> <p>3 フランス古典演劇の完成</p> <p>4 18世紀の喜劇</p> <p>5 18世紀の演劇論</p> <p>6 ロマン主義と演劇</p> <p>7 19世紀の演劇</p> <p>8 20世紀の演劇</p> <p>まとめ フランス演劇の流れ</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポート									
【教科書】									
プリント等を配布する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス文学(講義) French Literature (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 増田 眞				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	講義
題目	フランス文学における政治 16世紀から20世紀まで								
【授業の概要・目的】									
フランス文学は緻密な心理分析の伝統が有名であるが、その一方で、作家たちが社会に対して積極的に発言したことも1つの特徴である。作家と政治との関わりは多様であり、思想家として著作を残した人もいれば、同時代の政治に対して働きかけようとした人もいる。この講義では、何人かの作家を取り上げ、その政治とのかかわりを考察する。扱う予定の作家は、モンテーニュ、パスカル、モンテスキュー、ヴォルテール、ルソー、ユゴー、ゾラ、サルトル、カミュなど。									
【授業計画と内容】									
全体的な紹介ののち、毎回1人の作家を取り上げ、その作品や政治との関連を論じ、その中で作品の抜粋を紹介する予定。									
【履修要件】									
初級フランス語をすでに履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
授業で取り上げられた作家、作品についてレポートを提出してもらう予定。									
【教科書】									
使用しない プリントを使用する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講義) Italian Language and Literature (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 天野 恵				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	講義
題目	イタリア文学史講義								
【授業の概要・目的】									
イタリア文学にアクセスするための準備と基礎を理解させると同時に、イタリア語学イタリア文学専修を選択する学生に対しては研究の道への導入を行なうことを目的とする。									
【授業計画と内容】									
<p>はなはだ当然ながら、イタリアの文学作品はわれわれ日本人読者を想定して創られてはいない。とりわけダンテをはじめとする古い時代の作品は、われわれ現代の日本人とは大きく常識を異にする人々によって、またそうした人々を念頭において産み出されており、従ってこれらにアクセスするためには単にイタリア語を習得するだけでは不十分である。本講義においては、外国文学の受容に潜むさまざまな問題点から目を逸らすことなく、一步一步イタリア文学の本質に近づいていくことをめざす。言語と文学の関係や作品成立の背景となった社会や文学形式、さらには研究方法などにも言及しながら、イタリア文学を包括的に解説していく予定。学生と教員のコミュニケーションを最も重要視し、質問や要望には可能な限り応じる。</p>									
【履修要件】									
基本的にイタリア語の知識は要求しないので、誰にでも履修可能。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点を基礎とするが、履修者数に応じて適切な方法を取る予定。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) なし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
なし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋文学入門(講義) Introduction to Western Literature (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 松村 朋彦	文学研究科 教授 高橋 宏幸	文学研究科 教授 佐藤 昭裕	文学研究科 教授 佐々木 徹	文学研究科 准教授 森 慎一郎	文学研究科 准教授 永盛 克也	文学研究科 教授 天野 恵
	配当学年	1回生のみ	単位数		2	開講期	前期	曜時限	木5	授業形態	講義
題目	西洋文学入門										
【授業の概要・目的】											
西洋文献文化学系に所属する教員7名によるリレー講義。西洋文学入門のために編集した「西洋文学この百冊」で取り上げられている作品から12冊を選び、各担当者がその魅力を語る。西洋文学に関する全般的な理解を深めることを目的とするが、それと同時に、さらに深く学びたい人を西洋文献文化学系へと誘う、動機付けの役割を果たすことも期待している。											
【授業計画と内容】											
第1週(松村):序論 第2~3週(高橋):ウェルギリウス『アエネーイス』 第4~5週(佐藤):著者不詳『ロシア原初年代記』、チューホフ『桜の園』 第6~7週(松村):リルケ『マルテの手記』、『カフカ短篇集』 第8~9週(佐々木):ディケンズ『大いなる遺産』、ブロンテ『嵐が丘』 第10~11週(森):フィッツジェラルド『偉大なるギャツビー』 第12~13週(永盛):ラシーヌ『フェードル』、ベケット『ゴドーを待ちながら』 第14~15週(天野):ダンテ『神曲』、マキアヴェリ『君主論』											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・基準】											
レポートにより評価する。											
【教科書】											
扱われる作品の邦訳がどこから出版されているかは、下記の「西洋文学この百冊」でそれぞれの解説のところに掲載しているので、そちらを参照すること。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
(関連URL)											
http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/wl/index.html (「西洋文学この百冊」)											
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))											
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。											

西洋古典学専修

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 高橋 宏幸				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	ウェルギリウス研究								
【授業の概要・目的】									
ラテン文学を代表する詩人ウェルギリウスの詩作について考究する。建国叙事詩『アエネーイス』を精読し、「ローマ建国」にともなう苦難の諸相がどのように表現されているか観察する。									
【授業計画と内容】									
<p>本年度は昨年度に引き続き、『アエネーイス』第10歌659行から始めて第11歌後半までを扱う。毎回、60行前後を読む。</p> <p>作品後半の主題である「戦争」がその実相を示すくだりに入り、過酷さと悲惨さを描く叙述を観察する。「戦争」の核にある「遅延」、「背信」、「犠牲」といったモチーフに着目し、それらに関わる表現を検討する。</p> <p>授業の進め方としては、古注を考察の手がかりとして紹介する一方、参照される先行作品との比較に重きを置く。</p>									
【履修要件】									
ラテン語文法を修得し、なんらか原典を読んだ経験があること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点、および、年度末に課すレポート。									
【教科書】									
R.A.B.Mynors(ed.) 『P.Vergili Maronis Opera.(OCT)』 (これを標準テキストとするが、各自用意できるものも可。)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
毎時間の該当箇所について下調べが必要になる。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 マルティン チェシコ				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	Human and divine passions in Greek literature and mythology (in English)								
【授業の概要・目的】									
<p>Passions are wide-ranging (from, say, wine, love or music to irrational behaviour, to heroism and intellectual curiosity). Greeks valued moderation in life and warned against succumbing to dark passions. We shall explore early and classical Greek literature (and mythology on which it is based) in search of their views on passions, human body and life itself.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>This class will develop in greater detail and with more attention to scholarly literature the contents of my Friday courses (4th and 5th period) on Eur. Hippolytus and an introduction to Greek mythology for the uninitiated. It would be ideal to take all three courses simultaneously (though it is not essential). Some keywords: dangerous women, dangerous sex, dangerous intellectual endeavours, humanism, heroism, politics of moderation, Dionysus vs. Apollo.</p>									
【履修要件】									
Students will have attained a certain level of proficiency in English.									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance 40% 2 presentations 60%									
【教科書】									
I will provide handouts.									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
Extensive reading of early and classical Greek literature as well as some secondary literature will be required. オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)			担当者氏名	神戸市外国語大学 外国語学部 教授 大西 英文				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	Seneca philosophusと後期ストア								
【授業の概要・目的】									
Seneca philosophusの、特にConsolatio ad Marciamを取り上げ、ストア思想の「創世論」、「情動論」などの問題を考察する。									
【授業計画と内容】									
前期はConsolatio ad Marciamの精読に充て、後期は、ストア思想の個別のテーマ（「創世論」、「情動論」、「宿命論」、「意志論」などの問題）を考察し、三期に別れるストア思想の変遷を跡づけるとともに、ローマに入って大きく変わったとされる後期ストアの在り方をSeneca philosophusの諸著作を通して確認する。 なお、使用するテキスト、文献等は授業で配布、または指示する。									
【履修要件】									
ラテン語文法を既修得のこと。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（授業での発表）及びレポート									
【教科書】									
Costa,C.D.N. 『Seneca ; Four Dialogues』 (Aris & Phillips,London,1995.)									
【参考書等】									
（参考書） Rist,J.M(ed) 『The Stoics』 (University of California Press,London,1978.)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)		担当者氏名	首都大学東京 都市教養学部 教授		大芝 芳弘	
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義
授業形態	特殊講義						
題目	ホラーティウス『エポーディ(イアンビー)』研究						
[授業の概要・目的]							
<p>ホラーティウスの『エポーディ(イアンビー)』の講読を中心としながら、併せてThesaurus linguae Latinae についての解説を行う。</p> <p>『エポーディ(イアンビー)』については、テキストを精読することを通じて、ホラーティウス初期作品としての特色と意義について考えたい。TLL に関しては、辞書編纂の経緯や手順等とともに、具体的な項目を例にその語義分類、用例提示の仕方などについても解説したい</p>							
[授業計画と内容]							
<p>集中講義期間中、一日のうち1時限を TLL の解説に充て、それ以外の時間で『エポーディ(イアンビー)』を講読する。具体的にどの作品を読むかについてはあらかじめ連絡する。</p>							
[履修要件]							
<p>ラテン語原典の講読を中心とするので、ラテン語既習者を対象とする。また、参加者には訳読の担当を求める。</p>							
[成績評価の方法・基準]							
<p>出席率、訳読の分担等の平常点評価を原則とするが、レポートの提出を求める場合もあり得る。</p>							
[教科書]							
<p>Q. Horatius Flaccus 『Opera (edidit D. R. Shackleton Bailey)』 (Teubner) Lindsay C. Watson 『A Commentary on Horace's Epodes』 (Oxford UP) ISBN:0-19-925324-2 David Mankin 『Horace, Epodes』 (Cambridge UP) ISBN:0-521-39774-X</p>							
[参考書等]							
(参考書)							
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))							
<p>訳読の担当に当たった出席者には、事前の予習を求める。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>							

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)		担当者氏名	千葉商科大学 商経学部 教授 師尾 晶子					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	古代ギリシアの碑文習慣とその周辺								
【授業の概要・目的】									
<p>文字を石やブロンズなど耐久性のある素材に刻むという習慣は、地域および時代による相違は顕著に存在したものの、総じて古代ギリシア世界に幅広く見られた文化現象であり、その文化的特徴の一つであった。碑文習慣は公私のさまざまな場で展開され、人々の生活とも深くかかわっていた。本講義では、碑文習慣をめぐる議論を整理するとともに、数多くの碑文を具体的に取り上げることから、古代ギリシアの碑文習慣の展開についての理解を深めたいと思う。</p> <p>アルカイック期からヘレニズム時代まで扱うが、古典期から前3世紀にかけてのアッティカ碑文にとくに焦点をあて、テキストにとどまらず建立された場(トポグラフィ)、モニュメンタリティにも注意を払いながら、碑文習慣と政治・社会・文化との関係をさぐりたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の話題について取り上げる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 碑文習慣 ・ アルファベットと方言 ・ 奉納碑 韻文碑と散文碑 神々にむけて言葉を書き記すこと ・ エヴェルジェティズムと碑文習慣 記念碑と奉納碑 ・ 建築碑文とエヴェルジェティズム ・ 権力の表現と碑文習慣 法と行政 ・ デロス同盟と碑文習慣 ・ 記憶・記録・再刻・再利用・偽作 歴史の創出 ・ 古典史料と碑文 ・ グラフィティと碑文 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業最終時の筆記試験もしくは初回時に指示するレポートによる。									
【教科書】									
教科書は使用しない。初回時に参考文献とあわせて必要な資料を配付する。									
【参考書等】									
(参考書)									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 高橋 宏幸				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	オウィディウス『変身物語』								
【授業の概要・目的】									
オウィディウスの神話叙事詩『変身物語』を精読して、物語構成の変化の妙、繊細な人物造形、それらの表現を支える巧みなウィットとユーモアを味わい、楽しむ。									
【授業計画と内容】									
『変身物語』はギリシア・ローマの神話伝承に取材した大小250あまりの物語が切れ目なく連なって、形式上は叙事詩の体裁を取る。しかし、そこには叙事詩の本質的な要素である統一的主題が見当たらない。詩人の執筆意図は物語が関わるあらゆるレベルで「変身」もしくは「変容」を表現することにある。本演習はその仕掛けを読み解くことを目指す。 本年度は第5巻より、毎回70行前後を読み進み、第6巻末まで読み終える予定で、「ムーサ女神とピーエロスの娘らの歌競べ」、「プロセルピナの略奪」、「ミネルウァ女神とアラクネーの機織り競べ」、「テーレスとプロクネーとピロメーラ」といった物語を味読する。									
【履修要件】									
ラテン語文法を修得していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。									
【教科書】									
W.S.Anderson 『Ovid's Metamorphoses Books 1-5.』 (Oklahoma 1998.) W.S.Anderson 『Ovid's Metamorphoses Books 6-10.』 (Oklahoma 1972.)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
原典の下調べの他、教科書に挙げた注釈書をよく読んで授業に望むこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 マルティン チェシコ				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	演習
題目	エウリーピデース『ヒッポリュトス』								
[授業の概要・目的]									
エウリーピデースの代表作の講読を通して、ギリシア語の読解力を養いながら、悲劇の構造、文学的モチーフやアッティカ、イオーニア、ドーリス地方の方言など分析していきたい。									
[授業計画と内容]									
コメンタリーを使用しながら劇を購読していく。literary languageやtextual criticismにも充分注意を払わなければならないことを具体的な例を挙げて示したい。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点。									
[教科書]									
Barrett, W. S. 『Euripides, Hippolytos, edited with Introduction and Commentary』 (Oxford: Clarendon Press)									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 山下 修一				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	演習
題目	ヘーロドトスの『歴史』								
【授業の概要・目的】									
ヘーロドトスの『歴史』を精読することで、古代ギリシア語の読解力を養成するとともに、誕生したばかりの歴史叙述がもつ特徴と問題を考察しながら、その豊かな作品世界に触れる。									
【授業計画と内容】									
この授業では、昨年に続き、『歴史』の第1巻60章から読みすすめる。 『歴史』の重要な主題部を形成する「クロイソス・ロゴス」に続いて、キューロスを大王に戴くペルシアの勃興の様子が描かれる。リュディア王クロイソスとキューロスの対決以後、『歴史』は、歴代ペルシア大王の事績を軸に記述されることとなる。ヘーロドトスの筆は、各地の自然や風習の特異な記述を含みながら、キューロスの生い立ち、ペルシアの興隆、小アジアやバビロニアの征服、さらに、エジプト史へと流れるように進む。 初回の授業では、テキストのコピーを配布し、参照すべきコメントリーを指示する。また、ヘーロドトスのテキストは、古代ギリシア語の授業で学習したアッティカ方言ではなく、イオニア方言で書かれているため、このイオニア方言についての解説をおこなう。毎回の授業では、出席者に訳読をしてもらいながら、約3～4ページの割合ですすむ予定である。									
【履修要件】									
古代ギリシア語の初級文法を既修のこと。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価。（必要に応じて学期末テストを行う予定である。）									
【教科書】									
Carolus Hude 『Herodoti Historiae Libri - 』 (OCT)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
出席者には、ある程度の予習が必要とされる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 早瀬 篤				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	演習
題目	プラトン『パイドロス』を読む								
【授業の概要・目的】									
プラトンの『パイドロス』の原典を精読する。古典ギリシャ語文献を日本語に訳読する能力、およびプラトンのテキストを明晰な仕方で分析し、議論する能力を身につけることを目指す。									
【授業計画と内容】									
<p>プラトンの『パイドロス』を冒頭から丁寧に読んでいく。この対話篇は、イデア論を神話の形で描写するソクラテスの恋(エロース)を主題とするスピーチ、真の技術を獲得するために必要な哲学的方法論など、プラトン哲学の要素が詰まっている。授業では、そのひとつひとつを丹念に読み解いていく。</p> <p>毎時間、3ページ程度のテキストを、事前に担当者を決めずに、参加者全員が少しずつ訳読するという形式をとる(ただし、ギリシャ語に慣れていない学生は、前期は毎回の範囲の最初の部分の訳を担当する)。そして、注釈書や論文を参照しながら、内容についても議論を行う。</p>									
【履修要件】									
必須ではないが、初級ギリシャ語を習得していることが望まれる。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
J. Burnet 『Platonis Opera』 (Oxford Classical Text) ISBN:9780198145417									
【参考書等】									
(参考書)									
H. Yunis 『Plato: Phaedrus』 (Cambridge University Press) ISBN:9780521612953									
Ch. Rowe 『Plato: Phaedrus』 (Aris & Phillips) ISBN:9780856683145									
藤沢令夫 『藤沢令夫著作集IVプラトン『パイドロス』註解』 (岩波書店) ISBN:4000924141									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業に参加するためにはかなりの予習が必要である。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 マルティン チェシコ				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水2	授業形態	講読
題目	ギリシア語中級講読 (Platon, Symposium III)								
【授業の概要・目的】									
ギリシア語初級文法習得者対象。プラトーン『饗宴』(200bから)の講読を通して、ギリシア語の読解力を養う。									
【授業計画と内容】									
プラトーンの著作はやや原文が難しいため、中級者対象ではあるが、文法の詳しい説明と、授業ごとの復習を重視し、初級者も中級文法の習得ができるよう目指す。毎週(Stephanusの)1-2頁を読み進める。また、時代的背景や、プラトーン哲学に触れながら、授業を行う。前期から後期まで、一貫して作品を読み進める。									
【履修要件】									
ギリシア語初級文法を習得済みであること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。									
【教科書】									
OCTテキストのコピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
K. Dover 『Plato, Symposium』(Cambridge, 1980)									
C. J. Rowe 『Plato, Symposium』(Aris & Phillips, 1998)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 マルティン チェシコ				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水2	授業形態	講読
題目	ギリシア語中級講読 (Platon, Symposium IV)								
【授業の概要・目的】									
ギリシア語初級文法習得者対象。プラトーン『饗宴』の講読を通して、ギリシア語の読解力を養う。									
【授業計画と内容】									
プラトーンの著作はやや原文が難しいため、中級者対象ではあるが、文法の詳しい説明と、授業ごとの復習を重視し、初級者も中級文法の習得ができるよう目指す。毎週(Stephanusの)1-2頁を読み進める。また、時代的背景や、プラトーン哲学に触れながら、授業を行う。前期から後期まで、一貫して作品を読み進める。									
【履修要件】									
ギリシア語初級文法を習得済みであること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。									
【教科書】									
OCTテキストのコピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
K. Dover 『Plato, Symposium』 (Cambridge, 1980)									
C. J. Rowe 『Plato, Symposium』 (Aris & Phillips, 1998)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 高橋 宏幸				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水4	授業形態	講読
題目	ラテン語中級講読								
[授業の概要・目的]									
ラテン語初級文法を終えた人を対象に、カエサル『ガリア戦記』を教材として、ラテン語の基礎力を養う機会を提供する。									
[授業計画と内容]									
カエサルの平明な文体の散文を読むことで、ラテン語の基本的な感覚を身につけることを目指す。そのため、初級文法のおさらいを行なう一方、初級者が見落としやすい意味の区別、よく使われる言い回し、構文の特徴などに注意を喚起しながら、原文を読む。 第5巻、ブリタンニア遠征を中心とした箇所を教材とし、毎回、2～3章を読み進む。 折に触れてカエサルの記述意図や歴史的背景などにも言及する。									
[履修要件]									
ラテン語初級文法を既習得であること。									
[成績評価の方法・基準]									
平常点。									
[教科書]									
プリントを配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 高橋 宏幸				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水4	授業形態	講読
題目	ラテン語中級講読								
[授業の概要・目的]									
ラテン語初級文法を終えた人を対象に、カエサル『ガリア戦記』を教材として、ラテン語の基礎力を養う機会を提供する。									
[授業計画と内容]									
カエサルの平明な文体の散文を読むことで、ラテン語の基本的な感覚を身につけることを目指す。そのため、初級文法のおさらいを行なう一方、初級者が見落としやすい意味の区別、よく使われる言い回し、構文の特徴などに注意を喚起しながら、原文を読む。 前期に引き続いて第5巻後半から始め、エブローネース族などガリア人の蜂起によるローマ軍の壊滅的敗北、また、危機の回避の個所を教材とし、毎回、2～3章を読み進める。 折に触れてカエサルの記述意図や歴史的背景などにも言及する。									
[履修要件]									
ラテン語初級文法を既習得であること。									
[成績評価の方法・基準]									
平常点。									
[教科書]									
プリントを配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ラテン語（4時間コース）（語学） Latin (4H)			担当者氏名	奈良県立大学 地域創造学部 教授 谷 栄一郎				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5,木5	授業形態	語学
題目	ラテン語（4時間コース）								
【授業の概要・目的】									
<p>紀元前1世紀、黄金時代のラテン語を学ぶ。 本講義では、ラテン語文法の基礎を終え、古典期のラテン語原典を読める力をつけることを目標とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>教科書は19課あるので、1週間で1課半やれば前期中にほぼ文法を消化できる。名詞、形容詞、動詞の変化はたくさん出てくるが、その都度、全部覚えるよう努力すること。特に格変化を覚えられるかどうかはラテン語習得の成否が懸かっている。 後期からはガリア戦記をはじめとするラテン語原典を読む。 なお教科書にラテン詩の例文が少ないので、プリントの練習で補う。 授業は前回の練習問題をやったあと新しい課の文法の説明をする。受講生は毎回の練習問題を必ずやってもらうこと。講義を聴いているだけでは語学はまったく身に付かない。 授業は必要に応じて多少延長することがあるので覚悟されたい。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期、後期末に筆記試験									
【教科書】									
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社）									
【参考書等】									
<p>（参考書） 大西英文 『はじめてのラテン語』（講談社（講談社現代新書）） 水谷智洋 『羅和辞典』（研究社）</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ギリシア語(2時間コース)(語学) Greek (2H)	担当者氏名	非常勤講師 堀川 宏						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	語学
題目	ギリシア語文法(2時間コース)								
【授業の概要・目的】									
<p>古代ギリシア語アッティカ方言の基本を習得することを目指す。 語形変化をはじめとする基本文法を逐一学ぶことによって、原典を読んでゆくための基礎を整える。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>1回の授業で、教科書を1～2課すすむ。教科書記載の文法事項を簡単に解説したあと、次回に練習問題を読解する。出席者に練習問題の和訳をしてもらいながら、文法事項の復習と解説をおこなう。</p> <p>また、古典ギリシア語は語形変化が極めて重要なので、毎回の授業時に小テストによる反復練習をおこなう。(したがって、授業時間外の練習がつよく求められる。)</p> <p>教科書を修めたあと、学年末の3,4回は、平易なテキストを講読する予定である。テキストは、参加者の希望を考慮するが、方言の少ない平易なものを選択する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と平常点(授業時に実施の小テストによる)を重視する。その他、必要に応じて年度末に筆記試験をおこなう。									
【教科書】									
水谷智洋『古典ギリシア初歩』(岩波書店) ISBN:4000008297									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
参加者には教科書の復習と練習問題の準備が要求される。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ギリシア語(4時間コース)(語学) Greek (4H)	担当者氏名	非常勤講師 広川 直幸						
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月1,木1	授業形態	語学
題目	ギリシャ語(4時間コース)								
【授業の概要・目的】									
古代ギリシャ語アッティカ方言の基礎を学ぶ。頻出語彙および基本的文法(特に屈折)を習得することによって、一年後には辞書等を参考にしながら独力で原典を読めるようになることを目指す。									
【授業計画と内容】									
全36課の教科書を一回に一課ずつ学習する。およそ三課進むごとに一回、復習の回を設ける。まず学ぶべき古代ギリシャ語の文法とは、要するに屈折(語形変化)のことなので、授業の際、希文和訳の練習問題を解くだけでなく、屈折の口頭練習を徹底的に行う。また、新しい文法事項を導入する際に、日本人にとって理解が難しいであろう事柄について、重点的に解説を行い、彼我の発想法の違いを明確にする。教科書終了後は、平易なテキストの講読を行い、教科書で学んだ知識の定着を図る。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点を重視する。必要に応じて年度末に試験を行う。									
【教科書】									
水谷智洋『古典ギリシア語初歩』(岩波書店) ISBN:4000008293									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ラテン語（2時間コース）（語学） Latin (2H)			担当者氏名	非常勤講師 仲川 章				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	語学
題目	ラテン語（2時間コース）								
【授業の概要・目的】									
ラテン語の基礎的読解能力を養成すること、それがこの授業の目的である。ラテン語の知識は西洋文化および西洋現代諸語の理解を深めるのに役立つ。									
【授業計画と内容】									
<p>基本的な文法事項を教科書の順序に従って漸進的に学習してゆく。教科書にはない解説も適宜加えるつもりである。</p> <p>初回は第一課のみ。あとは毎回二課ずつ進む（一つの課は平均すると五頁程度である）。各課の末尾に設定されている練習問題（ラテン文の和訳）は受講者にあてて答えていただく。</p> <p>基本的な文法事項の具体例を幾つか挙げると、動詞の活用変化（第一～第四変化）／名詞の活用変化（第一～第五変化）／名詞の格（主格、属格、与格、対格、奪格、呼格）の用法／動詞の法（直説法、不定法、命令法、接続法）・相（能動相、受動相）・時称（現在、未来、未完了過去、完了、未来完了、過去完了）／分詞・動名詞・動形容詞の用法／接続詞（関係詞を含む）とさまざまな従属文。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点および学年末定期試験（筆記）。									
【教科書】									
松平千秋・國原吉之助 『新ラテン文法』（東洋出版）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
予習・復習が必要。理屈ぬきの暗記という局面も多々あるので、忍耐強い学習態度が求められる（ちなみに、習得目標語彙は約2500である）。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

スラブ語学スラブ文学専修

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 佐藤 昭裕				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	古教会スラブ語研究								
【授業の概要・目的】									
スラブ世界最古の文字言語として9世紀末に成立した古教会スラブ語を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
9世紀末に、スラブ人にキリスト教を伝道するため、テッサロニケ出身のギリシア人、キュリロスとメトディオスの兄弟が聖書を翻訳したことにより成立したのが、古教会スラブ語である。新約聖書、旧約聖書の全巻が翻訳されたと伝えられるが、現在きちんとした形で残っているのは、そのうちの4福音書、使徒書簡、詩篇である。この授業ではその中から「詩篇」を講読することにより、この言語の基本的構造を学ぶ。出席者の顔ぶれを見、必要があれば開講に際して文法構造を概説したあとで、実際にテキストを読み始める。主たるテキストとしては「シナイ詩篇」を用いるが、「ポローニャ詩篇」「キエフ詩篇」テキスト、ならびに古教会スラブ語訳のもととなったギリシア語70人訳聖書を参照しつつ、読み進める。(前学年の続き。)									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と学期末のレポート。									
【教科書】									
授業中にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
(参考書) とくにない。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
最初の授業時に示す。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 佐藤 昭裕						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	古教会スラブ語研究								
【授業の概要・目的】									
スラブ世界最古の文字言語として9世紀末に成立した古教会スラブ語を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
9世紀末に、スラブ人にキリスト教を伝道するため、テッサロニケ出身のギリシア人、キュリロスとメトディオスの兄弟が聖書を翻訳したことにより成立したのが、古教会スラブ語である。新約聖書、旧約聖書の全巻が翻訳されたと伝えられるが、現在きちんとした形で残っているのは、そのうちの4福音書、使徒書簡、詩篇である。この授業ではその中から「詩篇」を講読することにより、この言語の基本的構造を学ぶ。出席者の顔ぶれを見、必要があれば開講に際して文法構造を概説したあとで、実際にテキストを読み始める。主たるテキストとしては「シナイ詩篇」を用いるが、「ポローニャ詩篇」「キエフ詩篇」テキスト、ならびに古教会スラブ語訳のもととなったギリシア語70人訳聖書を参照しつつ、読み進める。(前学期「古教会スラブ語研究」Iの続きから始める。)									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と学期末のレポート。									
【教科書】									
授業中にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
(参考書) とくにない。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
最初の授業時に示す。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 服部 文昭						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	ロシア語学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
現代ロシア語の構造を研究する上での基本的な諸問題につき、理解を深めてゆく。									
【授業計画と内容】									
動詞のアスペクト、名詞・形容詞の格、コピュラを含む構文といったテーマを中心に、取り組む予定である。 具体的に述べれば、古典的なヴェンドラーの分類をめぐる問題、借用語である動詞と両体動詞との関係の問題、否定とアスペクトとの問題、動詞のアスペクトと目的語（その格）の問題などである。さらにまた、コピュラを含む構文の述部での名詞・形容詞の格の選択の問題も当然扱うが、その際に、格とアスペクトとの関係、近隣のスラヴ諸語との対照といった点にも目配りをしてゆきたい。 単なる講義には終わらず、いくつかのカレントの論文を輪読する形式で進めてゆく。受講生諸君に割り当てる際には、本人の関心・興味と勉学・研究の進み具合を勘案の上、分担を決めようと考えているので、受講する諸君は積極的に参加して欲しい。									
【履修要件】									
ロシア語の読めることが望ましい（具体的には、少なくとも8単位は履修済みのレベルで）。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートなどの総合評価を原則とする。									
【教科書】									
佐藤純一 『ロシア語史入門』（大学書林）ISBN:4475018913									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業中に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)	担当者氏名	同志社大学 言語文化教育研究センター 教授 松本 賢一						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	特殊講義
題目	ドストエフスキイの『弱い心』から『罪と罰』へ								
【授業の概要・目的】									
<p>この授業では、19世紀ロシアの文豪ドストエフスキイの代表作『罪と罰』の鑑賞・研究を最終目標とし、『罪と罰』にいたるまでの初期作品のうち、最も『罪と罰』に関係の深い作品『弱い心』の読解から始めて、シベリア流刑期、執筆活動再開期のドストエフスキイの生活や作品から興味深いエピソードを拾っていく。そうすることによって、ドストエフスキイの長篇小説としては、一見形式的にまとまったように見える『罪と罰』がはらんでいる諸矛盾や強いダイナミズムを浮き上がらせていきたい。</p> <p>初めから大上段に構えることなく、作品の細部からドストエフスキイの創作活動の全体像や、近代ロシアが抱えていた諸問題を明らかにしていけることを願っている。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>いわゆる講読スタイルの授業ではない。受講者と一緒に割り当てを決め、その割り当てに従って家で読んできてもらったうえで、そのテキストがはらむ問題点について、発表、討議してもらう。受講者数にもよるが、前期最初の4回は『弱い心』について担当者が簡単に講義し、その中で受講者各自の問題意識に合ったテーマを選んでもらう。講義部分4回を除き、残りの10回ですべての受講者が最低2回は発表できるようにする予定である。後期は『罪と罰』を用いて同様の授業を繰り返す予定である。</p>									
【履修要件】									
できれば辞書を用いてもロシア語の原文を読み解く力がほしい。									
【成績評価の方法・基準】									
日常的な出席率と、授業への積極的な参加を主として成績評価を行うが、受講人数によっては、学期末にテーマを決めてレポートを作成してもらい、これを評価に加味することがある。									
【教科書】									
ロシア語の原文を含め、プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 佐藤 昭裕				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金3	授業形態	演習
題目	ポーランド文学演習								
[授業の概要・目的]									
Jaroslaw Iwaszkiewicz (1894-1980) の長編小説『栄光と称賛』Slawa i chwala (1956-1962)を読む。									
[授業計画と内容]									
Jaroslaw Iwaszkiewicz (1894-1980) は戦間期から戦後にかけて活躍した現代ポーランドを代表する作家の一人である。邦訳された作品として、中編小説「尼僧ヨアンナ」の他、いくつかの短編が紹介されている。この演習の授業では、彼の代表的な長編作品『栄光と称賛』Slawa i chwala (1956-1962)を精読する。この物語は1914年、第一次世界大戦前夜のオデッサの町を舞台にした1シーンから始まり、第二次大戦直後のポーランドで終わる。前学年の続き(第7部Osty nad katedra, Vより)から始めるが、これまでの出来事、また登場人物等については、最初の授業時に簡単に解説する予定である。									
[履修要件]									
ポーランド語の初級文法を修めていること(独習で構わない)が望ましい。									
[成績評価の方法・基準]									
授業への出席と学期末のレポートの両方で評価する。									
[教科書]									
授業時にプリントの形で配布する。									
[参考書等]									
(参考書) とくにない。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
最初の授業時に指示する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 佐藤 昭裕				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金3	授業形態	演習
題目	ポーランド文学演習								
【授業の概要・目的】									
Jaroslaw Iwaszkiewicz (1894-1980) の長編小説『栄光と称賛』Slawa i chwala を読む。									
【授業計画と内容】									
Jaroslaw Iwaszkiewicz (1894-1980) は戦間期から戦後にかけて活躍した現代ポーランドを代表する作家の一人である。邦訳された作品として、中編小説「尼僧ヨアンナ」の他、いくつかの短編が紹介されている。この演習の授業では、彼の代表的な長編作品『栄光と称賛』Slawa i chwala (1956-1962) を精読する。この物語は1914年、第一次世界大戦前夜のオデッサの町を舞台にした1シーンから始まり、第二次大戦直後のポーランドで終わる。前学期（「ポーランド文学演習I」）の続きから始める。									
【履修要件】									
ポーランド語の初級文法を修めていること（独習で構わない）が望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への出席と学期末のレポートの両方で評価する。									
【教科書】									
授業時にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
（参考書） とくになし。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
最初の授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 佐藤 昭裕						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	ロシア文学演習								
【授業の概要・目的】									
ドストエフスキーの『罪と罰』を読む。									
【授業計画と内容】									
誰でもが知っている . . . の長編小説『罪と罰』（ 、文字通りに訳せば『犯罪と処罰』を読む。テキストは6. 1973. を用いる。必要に応じて同全集 .7. 所載の3つの手稿版（第1 = 簡略版、第2 = 拡大版、第3 = 最終版）を参照する。									
【履修要件】									
初級文法を修めていること。ただし独習であっても構わない。自分の力に不安がある人は前もって教員に相談してください。									
【成績評価の方法・基準】									
出席の状況と学期末の試験の両方で評価する。									
【教科書】									
授業時にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
（参考書） とくになし。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
最初の授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 佐藤 昭裕						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	ロシア文学演習								
【授業の概要・目的】									
ドストエフスキーの『罪と罰』を読む。									
【授業計画と内容】									
誰でもが知っている . . . の長編小説『罪と罰』（ 、文字通りに訳せば『犯罪と処罰』を読む。テキストは6. 1973. を用いる。必要に応じて同全集 .7. 所載の3つの手稿版（第1 = 簡略版、第2 = 拡大版、第3 = 最終版）を参照する。（前学期「ロシア文学演習I」の続き）。									
【履修要件】									
初級文法を修めていること。ただし独習であっても構わない。自分の力に不安がある人は前もって教員に相談してください。									
【成績評価の方法・基準】									
出席の状況と学年末の試験の両方で評価する。									
【教科書】									
授業時にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 特になし。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
最初の授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者氏名	非常勤講師 Valerij Grecko						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	演習
題目	ロシア文化論研究								
[授業の概要・目的]									
19世紀から20世紀にかけて書かれたロシア文学の重要な作品と、文学・文化関係の論文をロシア語で読む。ロシア語の読解力を高め、比較的抽象度の高い意見をロシア語で述べる能力を養成することを目指す。									
[授業計画と内容]									
前期は文学作品（ブルガーコフ、プラトーフ、パウストフスキーなど）を読む。小説はなるべく短編を選ぶが、長編の場合はおもしろい箇所を絞る。ロシア語で書かれたテキストを精読し、それぞれの作家独自の文体や表現をじっくり味わいたい。また、作品が成立した時代背景と作品の内容との関連についても考察する。後期はロシア・フォルマリズムと構造主義の主要な論文（シクロフスキー、ヤーコプソン、ロートマン）を読む。文学研究にとって重要な概念や方法論についての知識を得るとともに、具体的な作品分析にどのように応用できるかを考える。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
成績は平常点（出席状況・課題への取り組み・討論への貢献度など）で評価する。									
[教科書]									
プリントを配布する。									
[参考書等]									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 佐藤 昭裕				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金2	授業形態	講読
題目	ロシア文学講読								
[授業の概要・目的]									
ロシア語の初級文法を終えた2回生以上の学生が、辞書を引き、自分で少しずつロシア語のテキストが読めるようになるのを手助けする。後期開講の「ロシア文学講読II」とあわせて毎回出席すれば、学年の終わりにはかなりよく読めるようになる筈である。									
[授業計画と内容]									
19世紀ロシア文学の中から、出席者の学習レベルにあわせ、適当な作品を選んで講読することを計画している。必要な文法事項の復習にも努めながら、できるだけ読みやすい文章を精確に、かつ多く読むことを目指す。出席者の学力を見たとうえで、アントン・チェーホフの短編ないしは戯曲を読むことになる。やさしい文章から始めて、読解力がつくのに応じて、スピードを上げていく。									
[履修要件]									
初級文法を修めていること。ただし独習であっても構わない。未修者は教員に予め相談してください。									
[成績評価の方法・基準]									
出席の状況と学期末の試験の両方で評価する。									
[教科書]									
授業時にプリントの形で配布する。									
[参考書等]									
(参考書) とくになし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
最初の授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 佐藤 昭裕						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金2	授業形態	講読
題目	ロシア文学講読								
【授業の概要・目的】									
ロシア語の初級文法を終えた2回生以上の学生が、辞書を引き、自分で少しずつロシア語のテキストが読めるようになるのを手助けする。前期開講の「ロシア文学講読I」とあわせて1年間毎回出席すれば、学年の終わりにはかなりよく読めるようになる筈である。									
【授業計画と内容】									
19世紀、20世紀ロシア文学の作品の中から、出席者の学習レベルにあわせ、適当な作品を選んで講読する。必要な文法事項の復習にも努めながら、できるだけ読みやすい文章を精確に、かつ多く読むことを目指す。前期に続いてアントン・チェーホフの短編ないしは戯曲、あるいは20世紀ソビエト時代の亡命作家セルゲイ・ドヴラートフの短編集(連作作品集)を読むことになろう。やさしい文章から始めて、読解力がつくのに応じて、スピードを上げ、また徐々に難しい文章にも挑戦する。									
【履修要件】									
初級文法を修めていること。ただし独習であっても構わない。未修者は教員に予め相談してください。									
【成績評価の方法・基準】									
出席の状況と学期末の試験の両方で評価する。									
【教科書】									
授業時にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
(参考書) とくになし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
最初の授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(外国人実習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者氏名	非常勤講師 VINOGRADOVA, Svetlan						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木4	授業形態	外人実習
題目	ロシア語実習								
[授業の概要・目的]									
文字言語、口頭言語の両面にわたって現代ロシア語の確実な知識の習得を目指す。基本的な日常表現から始めて、よく使われる語彙、熟語、文法的形式を身に付けることを目指す。									
[授業計画と内容]									
文法の授業で習ったことをネイティブ教員との対話によってひとつひとつ確認し、確実にロシア語の力を身に付けていくことを目指す。出席者の興味に応じて具体的なテーマを設定し、それによって授業を進める。それぞれのテーマはロシアにおける実際の生活の場を想定したテキストとそれを発展させる対話、さらに練習課題からなる。また日常的会話の場面だけでなく、知的な対話の場面を想定した訓練も行う。									
[履修要件]									
ロシア語初級文法を習得していることが望ましい。									
[成績評価の方法・基準]									
出席状況、授業時の参加状況、課題の提出状況と学年末の試験の結果を総合して評価する。									
[教科書]									
授業時にプリントの形で配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 映像資料、音声資料、ロシアで発行されている雑誌等を随時補助教材として用いる。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級Ⅰ）（語学） Polish	担当者氏名	神戸市外国語大学 森田 耕司 外国語学部 准教授						
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	語学
題目	ポーランド語初級Ⅰ								
【授業の概要・目的】									
ポーランド語の初級文法を習得する。									
【授業計画と内容】									
ポーランド語はスラブ諸語の一つとして、チェコ語、スロヴァキア語とともに、西スラブグループを構成する。文字は、ロシア語とは異なり、普通のローマ字に必要な改変記号をつけて使用する。この授業では、文字の読み方、母音と子音の発音から始めてポーランド語の初級文法を教科書に沿って学習する。概ね次のような文法項目を学習する。名詞の性の区別、単数形と複数形、男性名詞・女性名詞・中性名詞の格変化、人称代名詞の変化、形容詞的代名詞の変化、形容詞の変化、動詞の現在形・過去形・未来形、非人称文、動詞の体（アスペクト）、命令法、能動分詞と受動分詞の作り方、前置詞の用法、仮定法など。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況（50%）と定期試験（50%）の両方で評価する。									
【教科書】									
石井哲士朗・三井レナータ著 『ニューエクスプレス ポーランド語』（白水社）ISBN:978-4-560-06794-9									
【参考書等】									
（参考書） 木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正〔編〕 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書を中心に授業を行うので、毎回、各自予習・復習を怠らないこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（中級Ⅰ）（語学） Polish	担当者氏名	神戸市外国語大学 外国語学部 准教授 森田 耕司						
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	語学
題目	ポーランド語中級Ⅰ								
【授業の概要・目的】									
この授業では、「ポーランド語初級Ⅰ」を終えた学生がスムーズに中級へレベルアップできるようにすることを主な目的とする。ポーランド政府公認のポーランド語国家検定試験のB 1（初中級）に合格できる程度の運用能力養成をめざす。									
【授業計画と内容】									
初級時に学習した基礎的な文法事項（名詞・形容詞・形容詞的代名詞・人称代名詞の格変化、形容詞の比較変化、副詞とその比較変化、動詞の現在形・過去形・未来形、非人称文、動詞の体、仮定法、sie動詞、命令法など）の復習を豊富な練習問題を通して行いながら、文法への理解を深め、知識の安定化を図る。特に応用力の養成に重点を置く。									
【履修要件】									
「ポーランド語初級Ⅰ」を履修済みであるか、もしくはそれ同等の知識を有すること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況（50%）と定期試験（50%）の両方で評価する。									
【教科書】									
初回授業時に指示するので、履修希望者は必ず出席すること。									
【参考書等】									
（参考書） 木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正〔編〕『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3（授業時必携） 石井哲士朗・三井レナータ著『ニューエクスプレス ポーランド語』（白水社）ISBN:978-4-560-06794-9（授業時必携）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書を中心に授業を行うので、毎回、各自予習・復習を怠らないこと。そして、辞書を引く苦勞をいとわないこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級II）(語学) Polish			担当者氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	語学
題目	ポーランド語初級								
【授業の概要・目的】									
ポーランド語の学習を始めた人を対象にネイティブの教員が文法事項の復習をし、それぞれの表現が身に付くように練習して、ポーランド語能力試験に定義されるA2のレベルを目指します。									
【授業計画と内容】									
基本的な日常表現と文法の基礎を学び、丁寧な挨拶や自己紹介から始めて、ゆっくりと、簡単な言い回しを使いながら、家族、趣味、料理、仕事などのテーマについて簡単に話することができるように学んでいきます。 授業中は、聴解練習と会話練習をたくさん行います。									
【履修要件】									
とくにないが、「ポーランド語初級」と並行して出席することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と学年末の試験の両方で評価する。									
【教科書】									
授業中にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（中級II）（語学） Polish	担当者氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki						
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	語学
題目	ポーランド語中級								
【授業の概要・目的】									
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。自身の意見や観点を、より明確に伝えられるようになることを目指し、やや複雑な文章構造を学びます。ポーランド語能力試験に定義されるB1のレベルを目指します。									
【授業計画と内容】									
ポーランド語の文法の基礎と基本的な語彙力を持つ学生を対象に、会話、聴解、読み書き等の能力を高める練習を行います。 実際に日常生活でよく使われる表現を紹介し、実生活の場面で必要な会話能力の充実を目標とします。									
【履修要件】									
ポーランド語の文法の基礎を習得していること、および簡単に自己紹介したり家族・趣味等について話すことができるような語彙力を持っていることが要求される。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と学年末の試験の両方で評価する。									
【教科書】									
授業時にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

ドイツ語学ドイツ文学専修

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 尾野 照治				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	中世ドイツ再発見(12, 13世紀)								
[授業の概要・目的]									
ヨーロッパ中世の大きな一角を占めるドイツ語圏の文化と思想に関して、当時の様々なジャンルの原典を研究素材に、その形成と発展を考察する。									
[授業計画と内容]									
中世盛期(12, 13世紀)ドイツ語圏の社会の構造と文化を概観した後、物文化としての貴族・騎士の新しい生活様式と、貴族・騎士の社会文化の思想的基盤である宮廷的社会理想を、当時の法書・思想書・説教集・文芸作品等の研究素材によって、具体的に検討していく。本学期は特に、説教集、キリスト教的宮廷倫理の教育詩、法書、宮廷抒情詩、宮廷叙事詩、英雄叙事詩等の原典を読み解きながら、謎多いヨーロッパ中世の人々の生活像を炙り出す。更にその歴史的状況を把握しながら、中世の文化・思想の形成と発展に関わる諸問題を、総合的に考察する。									
[履修要件]									
ドイツ語初級の単位を取得していること。									
[成績評価の方法・基準]									
レポートと出席率による。									
[教科書]									
それぞれの原典の抜粋をコピーして配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは、毎週水曜日の12:00~13:00。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究所 教授 奥田 敏広				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	ニーベルング伝説をめぐるヘッベルとヴァーグナー								
【授業の概要・目的】									
<p>ニーベルング伝説を下敷きにした19世紀ドイツ近代戯曲を代表するふたつの大作、ヘッベルの『ニーベルンゲン』とヴァーグナーの『ニーベルングの指環』を取りあげ、それらを比較・対照することによってその相違点と共通点について考察する。</p> <p>また、ドイツ近代悲劇の代表作を具体的に知ることによって、近代悲劇の特徴について考察すると同時に、歴史悲劇と市民（家庭）悲劇、共同体と演劇（祝祭）について、およびニーベルング伝説をめぐる北欧神話と近代芸術について考察する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期は、フリードリヒ・ヘッベルの最後の大作『ニーベルンゲン』を取り上げ、注釈を参考にしながら、全体を読み通す。精読を中心に、速読も加味しながら作品を読み通す。授業参加者には、前者の場合は逐語訳を、後者の場合は要約を発表してもらい、それを全員で検討しながら進めていく。いずれの場合も発表者は、注釈を参照して、さまざまな解釈可能性を考慮しながらよく吟味しておくこと。</p> <p>後期は、ヘッベルとヴァーグナーの作品に関する評論を読むことが授業の中心となる。</p> <p>まずは、『ニーベルンゲン』受容史における転回点となった、ヴィルヘルム・エムリヒの『偶像と神々』（1974年）から始めるが、これは、それまでのナショナルでオプティミスティックな解釈を明確に拒否したもので、その後現在に至るまでの総じて「歴史を、恣意と裏切り、復讐と殺人の意味のない循環と捉える、根源的にペシミスティックな歴史観」の出発点となったものである。</p> <p>しかし一方、ヘッベルとヴァーグナーともに、来る2013年に生誕200年祭を迎えることになり、新しい研究や解説書の出版、および新演出による上演などが始まりつつある。これらの新しい研究が本授業の中心的な対象となる。</p> <p>また適宜、実際の上演例もDVDなどの映像資料で鑑賞し、演出に見られる作品解釈を参考にする。</p> <p>なお、上記のような解釈例に対する、授業参加者自身の評価や見方を、適宜、口頭で発表してもらおう。それらを踏まえて、各自が冬休み中にレポートをまとめ、1月はそれを発表してもらいながら、全員でその検討を行う。</p>									
【履修要件】									
ドイツ語の読解力があること									
【成績評価の方法・基準】									
上記で述べた授業中の発表とレポートを総合して評価する。									
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----									

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 河崎 靖				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	ドイツ・ゲルマン語学概論								
【授業の概要・目的】									
ゲルマン諸語を視野に収めながらドイツ語を中心に言語学の各レベル（音・文法・意味・語彙等）にわたって考察を行う。									
【授業計画と内容】									
印欧諸言語を対象に、ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とし、ことばの諸相を観察することによって、多様性の背後に見え隠れする言語の普遍的特質を追求する。言語体系の普遍的な法則性を探るべく考究を進める。言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。									
授業は、講義・演習の両形式とする。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
基本的に平常点による（口頭発表を含む）。									
【教科書】									
こちらでプリント教材を準備する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
木曜日（昼休み）									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	人間・環境学研究科 外国人教師 トラウデン,ディーター						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	Deutschsprachige "Phantastische Literatur"								
【授業の概要・目的】									
In diesem Kurs sprechen wir anhand von Texten aus mehreren Jahrhunderten über Theorie und Praxis der sog. "Phantastischen Literatur".									
【授業計画と内容】									
Was die Gattung "Phantastische Literatur" konstituiert, wie sie sich definieren lässt und was sie von anderen Gattungen abgrenzt, ist in der Forschung bereits seit dem 19. Jahrhundert bis in die neueste Zeit heftig umstritten. Wir lesen Texte insbesondere des 19. und 20. Jahrhunderts, z.B. von E.T.A. Hoffmann, Franz Kafka, Alfred Kubin, Gustav Meyrink sowie Leo Perutz, und versuchen uns auf dieser Textgrundlage eine eigene Meinung über die Tragfähigkeit der verschiedenen Theorieansätze zu bilden.									
【履修要件】									
Es wird erwartet, dass die Studenten die Texte jeweils vor dem Unterricht gut vorbereiten.									
【成績評価の方法・基準】									
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung.									
【教科書】									
Alle nötigen Materialien werden im Kurs verteilt.									
【参考書等】									
(参考書) Als Hilfsmittel sind Wörterbücher (auch elektronische) notwendig.									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 岡田 暁生				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	西洋音楽史とモダン・ジャズ								
【授業の概要・目的】									
<p>モダン・ジャズがアメリカ音楽（とりわけポピュラー音楽）の文脈で語られることはあっても、西洋音楽の歴史との関連に言及されることはほとんどない。むしろジャズ批評の多くは「クラシック音楽」を仮想敵として設定することにより成立してきたところがあり、クラシックとの差異化をはかるべく、「アメリカ」「黒人」「大衆（民衆）」といった要素を強調することで、むしろ二〇世紀初頭の西洋音楽モダニズムからの連続性が見えなくなってきたとすらいえる。この講義では、1 西洋音楽にとってのジャズ（例えば一九二〇年代におけるラヴェルらのジャズ受容） 2．モダン・ジャズにとっての西洋モダニズム（和声などにおけるアナロジー） 3．「芸術音楽」としてのモダン・ジャズおよびクラシック双方の歴史の並行関係（とりわけ独創性の概念） に焦点を当てる。</p>									
【授業計画と内容】									
<ol style="list-style-type: none"> 1：調性音楽からの出口の模索：ドビュッシーとエクゾチズム 2：西洋モダニズムとしてのジャズ受容：ストラヴィンスキーとラヴェル 3：「自由」のシンボルとしてのスイング 4：実験的調性音楽としてのバップ 5：ヨーロッパ戦間期の前衛とモダン・ジャズの連続性 6：即興とは何か 7：ジャズにおける和声とヨーロッパ・モダニズム 8：旋法（モード）とフォルムの危機 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>（参考書） 油井正一 『ジャズの歴史物語』（アルテス）</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>音楽理論やジャズの歴史についての予備知識はなくともよい。二〇世紀モダニズムに何らかの関心をもつ者を歓迎する。マイルス・デイヴィスの歴史的名盤『カインド・オブ・ブルー』だけは録音を聴いておくこと。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅰ) German Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	大谷大学 文学部 教授 加藤 丈雄				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木5	授業形態	演習
題目	Die dichterische Welt von Rose Ausländer und Hilde Domin								
【授業の概要・目的】									
<p>戦後ドイツ詩といえば、まずPaul Celanを抜きには語れないだろう。しかしながら、この巨大で質量の大きな星の暗い影に隠れがちではあるが、同じユダヤの黄色い星を背負いつつ、小さくとも確かな光を私たちに投げかけてくれる星々もある。Rose AusländerとHilde Domin。ふたりの詩作品は第二次大戦の悲惨をくぐりぬけ、より大きな普遍的人間の闇と、そしてその闇の深さ故に、よりいっそう明るく輝く光を私たちに示してくれる。</p> <p>彼女たちの戦争体験は、伝統的な美意識、従来 of 文飾や韻律などの規範さえ破壊してしまった。それゆえふたりの詩はやはり難解に見えたり、取っつきにくく思えるかもしれない。しかし、そこでは何よりもまず人間の相互理解こそが求められ、言葉への信頼こそが基本になっている。はじめは戸惑うかもしれないが、虚心に言葉と向き合うことで、詩の世界は開かれてくるはずである。</p> <p>受講生のみなさんにはドイツ語原文を読み、上記のことを実感してもらいたい。散文とは勝手が違うが、それによってドイツ語の読解能力が、またいっそう深まるだろう。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1回目は、著者たちについて、そして作品について大まかな紹介を行なう。</p> <p>2回目以降は、受講生のみなさんにそれぞれの作品の訳を発表してもらうことが中心。もちろん、訳にとどまらず、解釈の問題にも踏み込めればと思っている。</p> <p>ともかく、まずはこまめに辞書を引き、言葉そのものと向かい合ってもらいたい。既知の文法事項や語感を総動員しながら、詩という言葉芸術をじっくり味わおう。(場合によっては、彼女たちの簡単な評論文や解題なども読んでもらい、作品理解の便宜をはかることも考えている)</p>									
【履修要件】									
ドイツ語中級の授業を履修済みであることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(出席と発表)によって評価。									
【教科書】									
プリントを配布。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅰ) German Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 松村 朋彦				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水5	授業形態	演習
題目	Heinrich von Kleist: Die heilige Cäcilie oder die Gewalt der Musik								
【授業の概要・目的】									
19世紀初頭のドイツを代表する劇作家ハインリヒ・フォン・クライストの短篇小説『聖チェチーリエ』（1811）を読む。ドイツ語の読解力を高め、ドイツ文学への理解を深めるとともに、作品解釈の方法を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
ハインリヒ・フォン・クライスト（1777 - 1811）は、プロイセンの軍人の家系に生まれ、その短い生涯のあいだに、『こわれがめ』（1808）、『ペンテジレーア』（1810）、『公子ホンブルク』（1811）などのすぐれた戯曲をのこしたほか、『ミヒヤエル・コールハース』（1810）、『チリの地震』（1810）などの短篇小説の作者としても知られている。「音楽の（暴）力」という副題をもつこの作品は、人間に恩寵と同時に狂気をもたらす音楽の両義性を主題にしたものである。クライスト独特のドラマティックな文体を味わうと同時に、ドイツ・ロマン主義から19世紀をへて20世紀へといたる音楽・音楽家小説の系譜のなかにこの作品を位置づけてみたい。									
【履修要件】									
ドイツ語中級の授業を履修済みであることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（授業への出席と参加）によって評価する。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習II) German Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 松村 朋彦				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	演習
題目	ドイツ文学研究法								
[授業の概要・目的]									
卒業論文の作成に向けて、文献の探し方、辞書や事典類の使い方、文学テキストの読み方、論文の書き方など、ドイツ文学研究の方法を、具体的な作家や作品にそくして学ぶ。									
[授業計画と内容]									
前期は、4回生がそれぞれ卒論で取り上げる予定の作家、作品、テーマなどとかかわりのあるテキストを抜粋して読む。 後期は、3回生がそれぞれ関心をもっている作家、作品、テーマなどとかかわりのあるテキストを抜粋して読む。 前期と後期の最初の授業時に、どのようなテキストを取り上げるかを全員で協議して決定するので、受講者は、初回の授業には必ず出席すること。									
[履修要件]									
ドイツ語学ドイツ文学専修の学部学生は、できるだけ出席すること。									
[成績評価の方法・基準]									
平常点(授業への出席と参加)によって評価する。									
[教科書]									
プリント配布。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 松村 朋彦						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	ドイツ語学ドイツ文学の諸問題								
[授業の概要・目的]									
<p>受講者の発表と、それにもとづく討論を中心にして授業を進める。ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法に親しむとともに、研究発表とディスカッションの技法を学ぶ。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>前期は、博士後期課程1回生と修士課程1回生に、前年度に提出した修士論文と卒業論文の内容について、また、博士後期課程2・3回生と修士課程2回生に、博士論文と修士論文の進行状況について、それぞれ発表してもらう。</p> <p>後期は、修士課程2回生と学部4回生による修士論文と卒業論文の中間発表のほか、博士後期課程1回生、修士課程1回生、学部3回生にも、それぞれの研究テーマについて発表してもらう。</p> <p>受講者は、それぞれの発表について、少なくとも一度は発言すること。</p>									
[履修要件]									
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。									
[成績評価の方法・基準]									
平常点（授業への出席と参加）によって評価する。									
[教科書]									
発表者が、プリントを作成して配布する。									
[参考書等]									
<p>（参考書） 発表者が、必要に応じて紹介する。</p>									
<p>（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 発表者は、事前に予告篇を作成して、受講者に配布しておくこと。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 山崎 明日香				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3	授業形態	講読
題目	アドルフ・ムシュクの短編をよむ								
【授業の概要・目的】									
スイスの現代作家アドルフ・ムシュクの短編作品に親しむとともに、ドイツ語の基礎的な読解力を養う。									
【授業計画と内容】									
アドルフ・ムシュクは、「ゲオルク・ビュヒナー賞」を始めとする様々な文学賞を受賞し、マックス・フリッシュやフリードリヒ・デュレンマットと並ぶスイスを代表する現代作家として知られている。ムシュクは19世紀スイスの時代小説や社会小説に特徴的なリアリズム文学の伝統を踏襲しながら、理想と現実、公と私ので揺れる個人を分析的な方法で多く描いている。また知日家でもあるムシュクは、日本を舞台にした静謐で詩情あふれる様々な作品を執筆しているが、これらの作品は、戦後のスイス文学におけるエキゾチシズムの潮流に依拠している。本講読は、2008年に出版されたムシュクの短編作品集『もしそれが幸せであるのなら。過去40年間のなかから選んだ愛の物語』に収録された「とりあえずの一步」（1974）を中心に扱い、あわせて彼の短編作品集『コロンブスが発見しなかった島。日本の七つの顔』（1995）に収められた「ハンズィーとウメ、そして私」（1987）を取り上げる。									
【履修要件】									
ドイツ語初級を履修済みであることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（授業への出席と参加）での評価。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしてくること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	非常勤講師 山崎 明日香						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水3	授業形態	講読
題目	ポーター・シュトラウスにみる現代ドイツ								
【授業の概要・目的】									
ドイツの劇作家ポーター・シュトラウスの中編作品に親しむとともに、ドイツ語の基礎的な読解力を養う。									
【授業計画と内容】									
現代ドイツの劇作家ポーター・シュトラウスは、反啓蒙主義的な立場をとりながら、現代人の孤独や喪失感、錯綜する男女関係、さらに日常に潜む狂気を前衛的な手法で描いた作家である。彼の文学的また美学的な態度から発した右傾的な政治発言が、文学界で議論を巻き起こしたことは記憶に新しい。スキャンダラスな作家像をまといつつも、シュトラウスは、ペーター・ハントケやハイナー・ミュラーと並ぶ戦後ドイツの重要な劇作家として現在も活躍中である。1989年にはゲオルク・ビュヒナー賞を受賞した。本講読は、シュトラウスの作品のなかでもとりわけ高く評価された37の断片から成り立つ中編小説『住む、まどろむ、嘘をつく』（1994）を取り上げ、そこからいくつかを抜粋して読み進める。									
【履修要件】									
ドイツ語初級を履修済みであることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（授業への出席と参加）での評価。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしてくること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 加賀 ラビ				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4	授業形態	講読
題目	ホーフマンスタールの世界								
【授業の概要・目的】									
小説『ルツィドール』をはじめとするホーフマンスタールの短めの作品を読む。ホーフマンスタールの多様な作風に親しむと同時に、ドイツ語の基礎的読解力を養うことを目標とする。									
【授業計画と内容】									
19世紀末から1920年代にかけてのオーストリアで活躍したフーゴー・フォン・ホーフマンスタールは、いわゆる「若きウィーン派」を代表する作家として有名である。この授業では、詩や戯曲、エッセイなどさまざまなジャンルにおいて才能を発揮した彼の作品のうち、(のちにリヒャルト・シュトラウスのオペラ『アラベラ』の台本へと生まれかわった)短編小説『ルツィドール』を中心に、初期から中期に書かれた比較的短いものを扱うつもりである。									
【履修要件】									
ドイツ語の初級を既に履修していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(授業への参加)によって評価する。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業は輪読形式なので予習を必要とする。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(外国人実習) German Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	人間・環境学研究科 外国人教師 ト라우デン,ディーター						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	外人実習
題目	Kästner, Ende & Co.								
【授業の概要・目的】									
Thema dieses Kurses sind Erzählungen und Auszüge aus Romanen für Kinder und Jugendliche vor allem aus dem 20. Jahrhundert. Die behandelten Texte dienen als Grundlage für Gespräche, in denen die Teilnehmer ihr freies Sprechvermögen schulen sollen.									
【授業計画と内容】									
Wir lesen unter anderem Texte von Erich Kästner, Michael Ende und Otfried Preußler. Dabei sprechen wir über die kulturhistorischen Grundlagen und die pädagogischen Ziele, die diesen Texten zu Grunde liegen. Die Teilnehmer werden dazu angehalten, ihre Meinung im Gespräch frei zu äußern.									
【履修要件】									
Es wird erwartet, dass die Studenten die Texte jeweils vor dem Unterricht gut vorbereiten.									
【成績評価の方法・基準】									
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung und zweier kleiner Tests jeweils am Ende des Semesters.									
【教科書】									
Alle nötigen Materialien werden im Kurs verteilt.									
【参考書等】									
(参考書) Als Hilfsmittel sind Wörterbücher (auch elektronische) notwendig.									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

英語学英文学専修

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 佐々木 徹				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	ヴィクトリア朝小説研究								
【授業の概要・目的】									
<p>ヴィクトリア朝（1837-1901）は、ブロンテ姉妹、ディケンズ、サッカレー、エリオット、ハーディなどの優れた作家が輩出した、英国文学史における小説の黄金時代であった。この授業は、アメリカの著名な学者ジョージ・レヴィーンが著した入門書を手掛かりに、この時期の小説の主題や技法面における特徴を探り、理解を深めることを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>レヴィーンが詳しく扱っている小説は、順に、ディケンズ『ピックウィック・ペイパーズ』、サッカレー『虚栄の市』、ブロンテ『ジェイン・エア』、ディケンズ『デイヴィッド・コパフィールド』、コリンズ『白衣の女』、エリオット『ミドルマーチ』。</p> <p>毎回の授業でテキスト6頁ほどをカバーすれば最後まで目を通す計算になるので、その程度の予習が毎回必要になる。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>授業が5、6回進むごとに短いレポートを出してもらおう。提出されたレポートはコメントを付けて返却する。評価はこれらのレポートに基づいて行う。</p>									
【教科書】									
George Levine 『How to Read the Victorian Novel』（Wiley-Blackwell）ISBN:978-1405130561									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワーは毎週月曜14時15分～15時15分。 返却したレポートについての質問等を受けつけるので遠慮なく来室されたい。 教科書の予習はこの種の文章を読み慣れていないと手間がかかるかもしれないので、できるかぎり毎回予習のポイント等を授業時間内に示す。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 家入 葉子				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金5	授業形態	特殊講義
題目	中英語入門								
【授業の概要・目的】									
中英語についての基礎知識がないことを前提に、基礎から丁寧な授業を行います。									
【授業計画と内容】									
<p>Chaucer (1340?-1400)の作品の中から、The Canterbury Talesにおさめられた"The Wife of Bath's Prologue and Tale"の講読を行います。なお、講読に際しては、日本語および現代英語による訳を参照しながら授業の準備をしてください。特殊講義ですが、受講者参加型の授業形態になります。</p> <p>中英語についての理解を深めるとともに、英語が今日まで発達してきた過程についても考察します。中英語への入門的な授業ですので、中英語の特徴をある程度つかむことができれば、授業の目的を達成したということができます。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点およびレポートにより評価します。最初の授業でレポートについての説明を行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。									
【教科書】									
L. D. Benson, et al. (eds.) 『The Riverside Chaucer』 (OUP) ISBN:978-0-19-955209-2									
【参考書等】									
(参考書)									
Norman Davis, et al. 『A Chaucer Glossary』 (Clarendon) http://homepage3.nifty.com/iyeyiri/students/chaucer.htm にも参考情報を掲載しています。									
(関連URL)									
http://homepage3.nifty.com/iyeyiri/students/index.htm (このウェブサイトを定期的にチェックしてください。)									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 若島 正						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	アメリカの幻想小説を読む								
【授業の概要・目的】									
アメリカの幻想短篇小説を読むことにより、幻想小説というジャンルの特徴をつかみながら、アメリカ文学史のおおまかな知識を獲得するとともに、メインストリームからは傍流とみなされがちな大衆小説の分野に対する関心を喚起することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
第1回目の講義では、幻想小説のおおまかな特徴づけを、いくつかの定義の試みに従って概説する。第2回目以降は、授業の形態を変え、毎週1作ずつアメリカの幻想短篇小説を読む演習形式にする。扱う予定の作家は、Hawthorne, Poe, Bierce, Wharton, Malamudといった主流文学の作家たちから、Lovecraft, Barbury, Straubとったいわゆる「怪奇と幻想」の大衆小説作家たちまで。演習形式では、あらかじめ発表当番を指名しておき、その当番による発表をもとに授業を進める。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点80%（発表＋英文レポート3本以上）と期末のレポート20%（和文・英文どちらでも可）を合わせて評価する。									
【教科書】									
テキストはpdfファイル形式にして、受講者に一斉配信する。添付ファイルをダウンロードできるようなメールアドレスを登録すること。									
【参考書等】									
（参考書） 特になし。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 森 慎一郎						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	Ernest Hemingway, In Our Timeを読む								
【授業の概要・目的】									
20世紀アメリカ文学の重要作家の一人、Ernest Hemingway (1899-1961)の初期短篇集In Our Time (1925)を丹念に読みながら、散文彫琢の極致とも言われるHemingwayの文体についてあらためて考えてみたい。									
【授業計画と内容】									
1924年、in our timeと題された小文集をパリで出版して一部の作家・批評家の注目を集めたHemingwayは、翌1925年、そこに収められていたスケッチ群を再利用しつつ1冊の短篇集を纏め上げ、これが高い評価を得たことで新たな文学の担い手として広く認知されることになった。このIn Our TimeがHemingwayの最高傑作の一つであること、また彼のトレードマークとなる独特の文体がすでにここで完成されていたことは、つとに指摘されてきたとおりである。 この授業では、言葉の選択、配置、句読点の打ち方といった細かな点にも最大限の注意を払いつつ、In Our Time所収の短篇・スケッチを一つずつ丁寧に検討していくことで、Hemingwayの文学世界に親しむと同時に、その独特の研ぎ澄まされた文体のすごみを多少とも感得できるようになることを目指したい。各回、1～2篇の短編(+スケッチ)を扱うことにし、それぞれの作品について、受講者による発表をもとに授業を進める予定。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(授業への参加度)と学期末のレポートにより評価する。									
【教科書】									
Ernest Hemingway 『In Our Time』(Scribner) ISBN:978-0-684-82276-1									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
発表当番の回にかぎらず、毎回の綿密な予習と積極的な発言が求められる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 山梨 正明						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	言語と認知のメカニズム								
【授業の概要・目的】									
言語主体の認知能力からみた言葉の記述と分析を通して、日常言語の論理と伝達のメカニズム、異文化間の言葉と認識の違い、発想の違い等を考察していく。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業を行う。 言語学の基本的な考え方と分析の方法 認知科学からみた言語研究と関連領域の概観 認知言語学の基本的な枠組と研究の方法 一般的認知能力からみた言語能力の分析法 認知能力からみた言語現象の諸相の具体的分析									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験と平常点による評価									
【教科書】									
山梨正明 『認知言語学原理』（くろしお出版）									
【参考書等】									
（参考書） 山梨正明 『ことばの認知空間』（開拓社）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業中に指示されたテキストの予習をしておくこと オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 水野 尚之				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	都市とアメリカ的想像力								
【授業の概要・目的】									
都市とアメリカ的想像力について、アメリカ文学の作品を題材にして考察する。									
【授業計画と内容】									
<p>植民地時代以来、アメリカの諸都市の発達は文学的想像力と密接に関わりあってきた。Salem、Concord、Boston、New Yorkなど東部の都市の発達がアメリカの作家たちにどのような影響を与えてきたか、また都市が小説、劇、日記、回想記、映画などでどのように表象されてきたかを考察する。</p> <p>扱う作家は、Washington Irving、Nathaniel Hawthorne、Henry David Thoreau、Herman Melville、Horatio Alger、Henry James、Stephen Crane、Edith Wharton、J. D. Salinger、Paul Auster、Don DeLilloなどである。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席・授業への参加度 50%、筆記試験の成績 50%									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
火曜2時限、火・木・金曜12時～13時、ほか研究室在室時。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫						
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	古英詩入門(Introduction to Anglo-Saxon Poetry)								
【授業の概要・目的】									
古英語の基礎を学びながら、古英詩の豊かな世界に親しむことを目的とします。									
【授業計画と内容】									
<p>古英語に慣れるため、まずイギリス文学史に最初に名を遺す詩人キャドモンのエピソード（散文）を読んだ後、前期は『モールドンの戦い』『ベオウルフ』（抜粋）などの英雄叙事詩を、後期は『十字架の夢』などの宗教詩を取り上げる予定です。「特殊講義」ですが、基本的には講読の形態で授業を行いますので、受講者には事前の準備が求められます。</p> <p>ゲルマン的異教の価値観とキリスト教の価値観が交錯する世界に親しむには、グロッサリーや語形変化表を丹念に調べる根気に加えて、豊かな想像力が必要です。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点およびレポートで評価します。評価方法も含めて、授業の進め方を第1回目に説明しますので、受講を考えている人は必ず出席してください。									
【教科書】									
Bruce Mitchell and Fred C. Robinson 『A Guide to Old English 8th ed.』（WILEY-BLACKWELL）ISBN: 978-0-470-67107-8									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
受講にあたっては入念な下調べが要求されます。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	大阪大学大学院 文学研究科 教授	服部 典之					
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	パミラの恋愛とその顛末								
[授業の概要・目的]									
<p>1. イギリス小説成立の要となったりチャードソン作『パメラ』(1740年刊)の後半・第2部(小説最後まで)を検討し、小説というジャンルへの理解を深める。</p> <p>2. 貴族であるミスター・Bとヒロインであるパメラ(カントリー・ハウスの住み込み女中)のロマンスの結末を読み、近代的恋愛が可能になった人間的状況への洞察を深める。この英国近代初期の恋愛小説が結婚で終わらず、家庭の安定確保までも含むことの意味を探る。また近代的恋愛と近代小説ジャンル成立の関係性を考察する。</p> <p>3. 長編小説の全体を通読することで、英語の文学作品の読解力を涵養する。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>授業計画： 1年で、オックスフォード・ワールズ・クラシックス版(初版に準拠)のVol.2を読む。講義形式であり、受講者を指名して発表を求めることはない。ただ、毎回受講者はその回に感じた感想や質問などをコメントペーパーに書いて提出する義務を負う。教員はそのコメントペーパーへのレスポンスを行いながら講義を進める。</p> <p>講義の内容： 本講義では、当初はセクシュアル・ハラスメントに近い形で男女関係を進展させようとする主人と、彼への様々な対処を経て女主人公パメラが近代的恋愛を勝ち得る姿を、綿密に追う。特に書簡体小説で繰り広げられる様々な説得のレトリックの分析を行うことで、近代の心理小説の先駆けになった本作品の神髄に迫りたい。本作品は後世のジェイン・オースティンやヴァージニア・ウルフへ多大な影響を与えている。近代的小説成立と近代的恋愛の確立の関係への洞察を深めたい。本年はパメラとミスター・Bの結婚に至るクライマックスとその後の緊張と解決を辿る。</p>									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
出席とコメントペーパーによる日常点と学期末のレポートで総合的に判断する。出席重視。									
[教科書]									
Samuel Richardson 『PAMELA: or, Virtue Rewarded』(Oxford World's Classics) ISBN:019953649X (978-0199536498)									
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----									

英語学英文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業時に指示する。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

初めての受講者も歓迎します。初回のイントロダクションで前半の粗筋は紹介しますが、できれば前半は翻訳(研究社刊、原田範行訳)で読んでおいて下さい。授業中指名することはしませんが、コメントペーパーへのフィードバックを行いながら講義を組み立てていくので、出席は重視します。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	同志社大学 文学部 教授 林 以知郎						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	初期アメリカ文学研究								
【授業の概要・目的】									
<p>いわゆる大航海時代の新大陸航海紀行に始まる「アメリカ」をめぐる文学・文化言説群を、ニューイングランド・ピューリタン時代を経て独立・建国期に至る時期を対象に辿ってみる文化史的考察である。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>取り上げる題目と分析対象にするテキストは、北東部アングロ・アメリカ地域の男性中心的文化に偏ることは否めないが、ネイティブ・アメリカンや女性など、人種・文化的他者の声をすくいあげることにも努めてみたい。春・秋で取り上げる題目の主だったものを挙げておく。「文化記号としてのコロンブス」「丘の上の街というヴィジョンと異端」「ニューイングランドピューリタンの詩」「インディアン捕囚譚」「Salemの魔女裁判」「カルチャー・ヒーローとしてのフランクリン」「文化史の上での独立戦争」「アメリカ小説の誕生」等。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
それぞれの学期にレポートを課す。									
【教科書】									
プリントした教材を用意する									
【参考書等】									
<p>(参考書) 講義時に適宜紹介するが、北アメリカに関する通史に眼を通しておいてほしい。</p>									
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p>									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	神戸大学 大学院国際文化学研究科 教授 西谷 拓哉						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	英米小説研究と映画研究の接点								
【授業の概要・目的】									
小説と映画それぞれの表現媒体としての特徴を対比し、小説を語ることで映画の、映画を語ることで小説のリテラシー、すなわち「精読の技術」を高めることを目指す。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について、各々複数回にわたり講述する。適宜、学生諸君からの発表も取り入れ、双方向的に理解を深めたい。とりあげる作品は英米の小説と映画が主体となる。									
1．映画研究の基本的な方法とテーマ (1) 映画の基本的単位 (2) 映画の表現技法 (3) ジャンル映画 (4) 映画における人種、ジェンダーの表象 (5) 映画研究の実例 2．小説とその映画化 (1) 小説と映画におけるナレーション (2) 他の文学ジャンルと映画の関係 (3) アダプテーションの諸問題 (4) 小説家自身による映画化 (5) 比較研究の実例									
【履修要件】									
できればビデオ、DVD等が試聴できる環境にあることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(出席、発表、小レポート)(50%)、レポート(2回、50%)を総合して判断する。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	非常勤講師 マイケル・エドワード・ジャマンツ						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木1	授業形態	特殊講義
題目	Academic Writing in the Humanities								
【授業の概要・目的】									
This course is designed to assist students who wish to refine their English writing skills, particularly those skills that are needed to compose advanced-level academic papers and to create polished essays and literary criticism.									
【授業計画と内容】									
In addition to weekly exercises reviewing the basics skills required for effective writing in English, students will read examples of literary criticism and other writing on the arts which will then serve as models for student efforts. Students will gain experience fashioning sophisticated arguments that are well organized and cogently presented. As the class will often operate as a workshop, students are encouraged to share examples of work that have been previously submitted in other academic contexts. These works will be employed to hone and refine techniques of editing and revision. Students who have little experience in English composition will have an opportunity to build up a body of work over the course of the year.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Students will be evaluated on the quality of participation in classroom activities and written assignments.									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	非常勤講師 Gallimore, Daniel						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	The Poetry of Philip Larkin (1922-85)								
[授業の概要・目的]									
<p>The course introduces students to the poetry of Philip Larkin (1922-85), who is regarded as one of the greatest of contemporary British writers and even, in the words of one admirer, 'a modern British national cultural monument'. Larkin's small but highly select body of published verse presents a lasting insight into what it means to be British in the late 20th century, as well as attracting readers from around the world. Larkin's poetry is sometimes difficult but never dull!</p> <p>The aim of the course is that students should develop their ability to read a contemporary British poet, understanding him both in terms of his artistic development and his social and historical context.</p>									
[授業計画と内容]									
<p>The course takes a thematic approach to Larkin's poetry, as follows. Readings of Larkin's poems, which are mainly from the 1950s to 1970s, are supported by excerpts from his letters and diaries, a range of critical material, and original recordings.</p> <p>Week 1: course introduction Weeks 2 and 3: Larkin's voice ('The Trees', 'This Be The Verse', and 'Days') Weeks 4 and 5: work ('Toads' and 'Toads Revisited') Weeks 6 and 7: marriage ('The Whitsun Weddings') Week 8: mid-term presentations Weeks 9 and 10: religion ('Church Going' and 'Water') Weeks 11 and 12: place ('Here' and 'To the Sea') Weeks 13 and 14: the past ('An Arundel Tomb' and 'MCMXIV')</p>									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
<p>Students are assessed according to the following criteria:</p> <p>25% - course attendance (minimum two-thirds required)</p> <p>25% - mid-term oral presentation</p> <p>50% - final report (1,500 words)</p> <p>Further information on the mid-term presentation and final report will be given during the course.</p>									
[教科書]									
ed. Martin Amis 『Philip Larkin Poems』 (Faber and Faber) ISBN: 978-0571258109									
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----									

英語学英文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

児玉実用等訳 『フィリップ・ラーキン詩集』 (国文社) ISBN: 978-4772001441

(関連URL)

<http://www.philiplarkin.com>

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	非常勤講師 ラファエル ロンベール						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	特殊講義
題目	African American Women in Fiction								
[授業の概要・目的]									
<p>Through the study of two celebrated works of African American fiction, Ernest J. Gaines ' s The Autobiography of Miss Jane Pittman (1971) and Octavia Butler ' s Kindred (1979), students will explore the destiny of African American women from slavery to the civil rights movement and beyond.</p> <p>This course is based on close reading analysis, and its purpose is to help students hone their skills in both oral argumentation and response writing. Emphasis will be put on methodology.</p>									
[授業計画と内容]									
<p>Semester 1: Octavia Butler's Kindred (1979). Week 1: Introduction Rest of the semester: 25-30 pages a week.</p> <p>Semester 2: Ernest J. Gaines's The Autobiography of Miss Jane Pittman (1971) Week 1: Introduction Rest of the semester: 25-30 pages a week.</p>									
[履修要件]									
<p>Reading: an average of 25 to 30 pages a week. Assignments: 3 short response papers (300 words +) and one oral presentation per semester. Attendance Policy: 2 absences per semester, justified or not, are authorized. 3 to 4 absences will lower final grade drastically. 5 absences: Failure. Tardiness: Late twice = 1 absence.</p>									
[成績評価の方法・基準]									
<p>Responses: 50 % Oral Presentation: 20 % In-class Participation: 20 % Attendance and Punctuality: 10%</p>									
[教科書]									
<p>Octavia Butler 『Kindred』 (Beacon Press, 2004) ISBN:13: 978-0807083697 Ernest J. Gaines 『The Autobiography of Miss Jane Pittman』 (Dial Press, 2009) ISBN:978-0385342780</p>									
[参考書等]									
(参考書)									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>Office Hours: by appointment only</p> <p>Attendance: As this course is based in great part on in-class participation, absenteeism is not an option.</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	神戸市外国語大学 外国語学部 教授 Campana, Mark Robert						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	Speech and Gesture								
【授業の概要・目的】									
<p>This course will consider parallel streams of linguistic and non-linguistic communication, roughly, speech and gesture. Speech is composed of lexical units with semantic and referential values. Here gesture includes eye movement, body language, and prosody (vocal gestures), along with the more conventional notion of face and hand movement. Together, these two streams form the basis of human interactive potential.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>Spoken language is almost always accompanied by gesture--broadly defined. In its subtlest form, this would entail variations in prosody (e.g. loudness, pitch, rhythm, intonation), or more visibly through movements of the eyes/hands/face. The crux is in the timing, e.g. Why did the speaker raise her voice or tap her finger there? What did she communicate (intentionally or not) by looking upwards and to the left on uttering that? These are the kinds of questions we aim to answer. Initially, the course will concentrate on describing gesture as it is understood in the literature. Focus will then shift to analyzing videotaped recordings of natural conversation. Ultimately, the goal will be to explain how speech and gesture work together in a given context.</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
There will be short (daily) homework assignments, and a final exam (mainly short answer).									
【教科書】									
There is no textbook PER SE. Material to be handed out by the teacher.									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>G. Yule 『Pragmatics』 (Oxford University Press)</p> <p>A. Kendon 『Gesture: Visible Action as Utterance』 (Cambridge University Press)</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 外国人教師 Ramisch, Heinrich				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	English Dialectology								
[授業の概要・目的]									
<p>Description: English Dialectology</p> <p>Foreign learners on their first visit to an English-speaking country often find that the language that people use is very different from the English they have learnt at school, and consequently they may encounter problems when communicating with native speakers. The foreign learners' experience only underlines the fact that the English language is by no means homogeneous but varies according to certain factors (region, social class, style, etc.). The aim of this course is to study linguistic variation in more detail. We will first discuss the nature of variation in English and consider the notions of accent, dialect, RP and Standard English. We will also be concerned with individual linguistic varieties and examine their characteristic features. Moreover, there will be a discussion of methodological and theoretical aspects that are related to the study of linguistic variation.</p>									
[授業計画と内容]									
<p>Individual Sessions:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Variation in English: general aspects I (cf. Trudgill 1999: 1-10) 2. Variation in English: general aspects II (cf. Trudgill 1999: 10-19) 3. Phonological variation, RP (cf. Hughes et al. 2005: 1-11) 4. Grammatical and lexical variation, Standard English (cf. Hughes et al. 2005: 11-17) 5. Nonstandard grammatical features (cf. Hughes et al. 2005: 24-35) 6. English as a world language &#8211; basic notions (cf. Bauer 2002: 1-12) 7. English becomes a world language (cf. Bauer 2002: 13-29) 8. The vocabulary of international varieties of English (cf. Bauer 2002: 32-45) 9. The revenge of the colonised (cf. Bauer 2002: 84-92) 10. Varieties of American English I (cf. Wolfram/Schilling-Estes 2006: 103-118) 11. Varieties of American English II (cf. Wolfram/Schilling-Estes 2006: 118-133) 12. The BBC Voices Project (cf. http://www.bbc.co.uk/voices/recordings/) <p>References:</p> <p>Laurie Bauer. 2002. An Introduction to International Varieties of English. Edinburgh: Edinburgh University Press.</p> <p>Arthur Hughes et al. 2005. English Accents and Dialects. London: Hodder Arnold (4th edition).</p> <p>Peter Trudgill. 1999. The Dialects of England. Oxford: Blackwell (2nd edition).</p> <p>Walt Wolfram and Natalie Schilling-Estes. 2006. American English. Dialects and Variation. Malden: Blackwell (2nd edition).</p>									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
To get credit for this course:									
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----									

英語学英文学(特殊講義)(2)

short presentation and essay on a variety of English

[教科書]

The relevant texts for this course will be made available as pdf-files in spring 2012.

[参考書等]

(参考書)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院言語文化研究科 准教授 木原 善彦				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	現代英語小説を読む								
【授業の概要・目的】									
現代作家とその主要作品の紹介としていくつかの作品の冒頭部分（四ページ程度）を読みます。それぞれの作家・作品のスタイルに親しむとともに、今までに知らなかった作家や作風（娯楽的な小説もリストに入れる予定です）にふれることで、現代小説の多様性を知るきっかけになればと思います。取り上げる作品は授業計画欄記載のようなものになる予定ですが、一部入れ替わるか数が増減する可能性があります。									
【授業計画と内容】									
ここに挙げた作品を主に取り上げ、それぞれの作品を概観するとともに、その冒頭部を一緒に読みたいと思います。作品について事前に読んでいる、あるいは知っているというのは望ましいですが、授業参加の必要条件ではありません。必要な資料は授業時に教員が用意し、配布します。 Harry Mathews, _Cigarettes_ Thomas Pynchon, _Against the Day_ William Gaddis, _JR_ Victor LaValle, _Big Machine_ David Mitchell, _Cloud Atlas_ David Markson, _This Is Not a Novel_ Paul Auster, _City of Glass_ Adam Ross, _Mr Peanuts_ Sam Leith, _Coincidence Engine_ Richard Powers, _Generosity_									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業内での発言を中心に、授業参加度によって60パーセントを評価します。授業終了後1か月以内に現代の英語小説（授業で扱ったものでもそれ以外でも可）を取り上げたレポート（400字×10枚程度）を提出してください。それによって残りの40パーセントを評価します。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する 授業内では積極的な発言が求められます。難しいことを知っている必要はないので、臆することなく自分の意見を表明してください。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 谷口 一美				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目									
【授業の概要・目的】									
この授業では、認知言語学（認知意味論、認知文法、構文文法）の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
認知言語学の代表的な学術雑誌である Cognitive Linguistics や、近刊の論文集を中心とし、受講者各自の興味関心に応じ、英語論文を各回1本ずつ取り上げる。担当者が論文の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。論文の担当は、初回授業で割り当てる。1本の論文（20～30ページ程度）を1名ないし2名で担当する予定。									
【履修要件】									
認知言語学の基礎知識を備えていることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
演習の担当およびディスカッションへの参加状況、学期末のレポートから、総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学（特殊講義） English Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 客員教授 内田 充美					
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	授業形態	特殊講義
題目	オンラインコーパスを用いた現代英語研究							
【授業の概要・目的】								
現代英語の諸現象を記述する方法として、実際の言語資料を利用した観察と分析のもつ可能性と、注意すべき点についての理解を深める。								
【授業計画と内容】								
おもに教科書の流れに沿って、誰もが利用できるインターネット上に公開されている英語コーパスを利用した実習を行います。授業中のコンピュータを用いた演習、授業時間外での調査、その結果の発表などで構成していきます。								
【履修要件】								
特になし								
【成績評価の方法・基準】								
平常点（出席，小課題）とレポートで評価します。授業への積極的な参画を重視します。								
【教科書】								
Anderson, W. & J. Corbett 『Exploring English with Online Corpora』 (Palgrave Macmillan) ISBN:0-230-55140-8								
【参考書等】								
(参考書)								
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））								
受講を希望する人は必ず第1回目の授業に出席してください。								
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。								

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 廣田 篤彦						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	英詩演習								
【授業の概要・目的】									
現代英国を代表する詩人であるTed Hughesによって編まれた101編の英詩のアンソロジーの精読と暗誦を通じて英詩の特質に関する理解を深める。									
【授業計画と内容】									
By Heart: 101 Poems to Rememberは英詩というジャンルへの格好の入門書であるだけでなく、収録された詩を暗誦することで英詩のリズムや手法を身につけることをも目指している。本演習ではこの中から幾つかの詩を選んで精読し、内容を理解した上で暗誦を試みる。 授業では毎回以下の作業を行う。 1) 予め指定された詩について全員が訳と注釈を提出し、それを基に内容について議論する。 2) 上記を通じて内容を理解した詩を次の週に暗記して来る。暗誦した上で、筆記し提出する。 授業で扱う作品については受講者と相談のうえ決定する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
以下により評価する。 1) 授業中に提出する訳と注釈のレポート 2) 授業中に提出する暗誦した詩を筆記したもの 3) 授業中の議論における発言 2回欠席した場合、以後の履修を認めない。									
【教科書】									
Ted Hughes, ed. 『By Heart: 101 Poems to Remember』 (Faber & Faber) ISBN:0571192637									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
訳と注釈に関するレポートの作成を通じて各人が疑問点や問題となる点を把握した上で授業における議論に参加すること。訳す際には毎回丹念に辞書をひくことが求められる。暗誦においては特にリズムに注意を払うこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 森 慎一郎						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	演習
題目	Nathaniel Hawthorne, The House of the Seven Gablesを読む								
【授業の概要・目的】									
<p>19世紀アメリカ文学を代表する作家Nathaniel Hawthorne (1804-64)の長篇小説、The House of the Seven Gables (1851)を精読する。傑作として名高いThe Scarlet Letterの翌年に発表されたこの小説は、19世紀半ばのニューイングランドを舞台に、過去の呪いがPyncheon家にもたらす奇怪な出来事を描いたゴシック・ロマンスである。この作品を、一文一文の解釈にこだわりながら丁寧に読んでいく作業を通じて、文学テキストの読解能力を涵養するとともに、Hawthorneの文学世界への理解を深めることを目指したい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業では基本的にテキストを丁寧に訳読していく。ただし、全体で300ページほどの長篇小説を一年で読み終える予定なので、授業の中で直接扱えない範囲については受講者各自で読み進めてもらうことになる(そうした箇所に関しては、各回担当者を決めて、簡単な報告を求めるかもしれない)。現代の読者から見れば少々古めかしいHawthorneの文章に慣れるため、初めの数回はゆっくりとしたペースで読み進めていき、慣れてきたところで一回に一章(平均して15ページほど)程度にまで進度を上げれば、全21章からなるこの小説を学期内に通読できるはずである。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と学年末のレポートにより評価する。									
【教科書】									
Nathaniel Hawthorne 『The House of the Seven Gables』 (Penguin) ISBN:978-0140390056									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
毎回の綿密な予習と授業時の活発な発言を求めます。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(演習II) English Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 佐々木 徹						
配当学年	4回生のみ	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	演習
題目	第二次大戦後の英国文藝批評を読む								
【授業の概要・目的】									
この授業の目的は文学テキストの精密な読解能力（すなわち、丹念に辞書を引き一語一語丁寧に考えながら読む力）を養成することにある。また、卒業論文を作成するための基礎的な訓練もあわせて行う。									
【授業計画と内容】									
Frank Kermode, John Bayley, John Carey, Michael Woodといった、著名なイギリスの学者が文芸誌や新聞の書評欄によせた文章を精読する。いわゆるアカデミックな文学研究書とは異なり、一般読者を対象にして書かれたものを読むわけで、特に文学的な知識を必要とはしない。優れた批評とは何か、英語の文章のうまさとは何かを考えながら、卒業論文を作製するにあたっての批評的思考のトレーニングを行うことを目標とする。毎回3ページ程度のスロー・ペースで精読する。慣れてくれば、スピードを上げて読み進めたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点のみで評価する。									
【教科書】									
プリント配付、あるいはオンラインのテキストをダウンロードする。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業の目的はあくまでも精読であるから、毎回の授業のためには徹底的に辞書を引く、入念な予習が必要である。 オフィスアワーは月曜 14:15 ~ 15:15。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 家入 葉子				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	講読
題目	現代英語の諸問題								
【授業の概要・目的】									
現代英語を中心に、変容する英語の実態について学びます。									
【授業計画と内容】									
<p>授業は、以下の作業の組み合わせによって進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に指定した Weeds in the Garden of Words の講読。 ・英語の発達および変容に関する論文の講読。 ・学年末に提出するレポートの準備。(レポートは授業終了後に短期間で書きあげるのではなく、年間を通して授業の中で議論をしながら、徐々に書いていきます。) 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点およびレポートにより評価を行います。最初の授業でガイダンスを行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。									
【教科書】									
Kate Burridge 『Weeds in the Garden of Words』 (Cambridge University Press) ISBN:0-521-61823-1									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL)									
http://homepage3.nifty.com/iyeyiri/students/index.htm (このウェブサイトを定期的にチェックしてください。) http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/gakunaidb.html (京都大学図書館機構のデータベースのサイトです。)									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 若島 正						
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	講読
題目	John Updike, My Father's Tears & Other Storiesを読む								
【授業の概要・目的】									
<p>英文を丹念に読む訓練を行うことを授業の目的とする。John Updikeの文章は、その語彙の豊かさや選ばれる言葉の的確さ、そして繊細な細部の描写など、どれをとっても当代一流のものであり、それをじっくりと味読したい。また、扱う短篇集My Father's Tears & Other Stories (2009)はアップダイクの遺作となったものであり、授業中には彼の他の作品についても言及するので、アップダイクの作品世界についての全般的な理解を得ることも目的の一つにしたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>この短篇集の表題作をはじめとして、短篇をいくつか選んで授業で読むことにする。アップダイクの文章を読みこなすことは容易ではないので、1回の授業で進む分量はそう多くはない。授業の形式は、訳読と質疑応答である。前期と後期でそれぞれ1度ずつ、英文レポートを課す。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点20%、レポート80%（英文500語程度を2本）を合わせて評価する。									
【教科書】									
John Updike 『My Father's Tears & Other Stories』（Penguin）ISBN:978-0141042596									
【参考書等】									
（参考書） 特になし。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>精読が中心となるため、丹念に辞書を引くことが求められる。かなりの予習時間を確保してのぞむこと。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	高等教育研究開発推進センター 准教授 桂山 康司				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	講読
題目	英詩入門								
【授業の概要・目的】									
英詩における名作を味読することを通じて、英詩の特質全般についての基礎知識を身につけると同時に、特に、リズムのもつ意味について、理解を深める。									
【授業計画と内容】									
テキストに収められた作品を一つ一つ丹念に精読する。 本年度は特にエリザベス朝期の作品を中心に上げる。どの作品を読むかは、最初の授業において指示する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
夏期休暇中、並びに、冬期休暇中に課されるレポートと、年度末試験の成績に、日常の活動を加味して評価する。									
【教科書】									
Francis Turner Palgrave (ed.) 『The Golden Treasury』 (Oxford Univ. Press) ISBN:9780192803696									
【参考書等】									
(参考書) 小泉博一他(編) 『イギリス詩を学ぶ人のために』 (世界思想社) ISBN:4790707997									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
最初の授業において、英詩を読む上で必要な基礎的事実について解説をする予定なので、受講を希望するものは出席すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(外国人実習) English Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	非常勤講師 LUDVIK, Catherine						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	外人実習
題目	Kyoto's Cultural Heritage, in English								
【授業の概要・目的】									
This class aims to provide students with the necessary skills to explain in English various aspects of Kyoto's cultural heritage and how it is being preserved.									
【授業計画と内容】									
Students will be assigned weekly readings on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class. Topics will include Shinto shrines, Buddhist temples, the preservation of traditional architecture, festivals, visual and performing arts, traditional crafts, Japanese cuisine, and so on. Students will be required to make short class presentations on selected aspects of Kyoto's cultural heritage, and to participate actively in class discussion.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance, class participation, timely completion of required readings, short written assignments, class presentations, two in-class tests.									
【教科書】									
Dougill, John 『Kyoto: A Cultural History』 (Oxford University Press) ISBN:978-0195301380									
【参考書等】									
(参考書)									
Clancy, Judith 『Exploring Kyoto: On Foot in the Ancient Capital』 (Stone Bridge Press) ISBN:978-1-933330-64-8									
特になし									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英文学(外国人実習) English Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	非常勤講師 マイケル・エドワード・ジャマツ						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	外人実習
題目	The Art and Practice of Literary Translation								
[授業の概要・目的]									
This course is designed to help students become familiar with the art of literary translation through careful reading and analysis of translated texts and student translations from Japanese to English and English to Japanese.									
[授業計画と内容]									
The course will focus on the art and practice of translation through an examination of a series of English-language translations of modern Japanese short stories. Students will be required to read and analyze English translations of masterpieces of short fiction, compare them with the Japanese originals, and suggest alternative translations. As the course progresses, students will be expected to cover passages of increasing complexity and length. Students, in groups or as individuals, will attempt translations of short fiction from Japanese into English and vice versa.									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
Students will be evaluated on the quality of classroom participation and regular written assignments, which include a notebook containing analyses and responses to the readings.									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
(参考書)									
特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

アメリカ文学専修

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 若島 正				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	アメリカの幻想小説を読む								
【授業の概要・目的】									
アメリカの幻想短篇小説を読むことにより、幻想小説というジャンルの特徴をつかみながら、アメリカ文学史のおおまかな知識を獲得するとともに、メインストリームからは傍流とみなされがちな大衆小説の分野に対する関心を喚起することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
第1回目の講義では、幻想小説のおおまかな特徴づけを、いくつかの定義の試みに従って概説する。第2回目以降は、授業の形態を変え、毎週1作ずつアメリカの幻想短篇小説を読む演習形式にする。扱う予定の作家は、Hawthorne, Poe, Bierce, Wharton, Malamudといった主流文学の作家たちから、Lovecraft, Barbury, Straubとったいわゆる「怪奇と幻想」の大衆小説作家たちまで。演習形式では、あらかじめ発表当番を指名しておき、その当番による発表をもとに授業を進める。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点80%（発表+英文レポート3本以上）と期末のレポート20%（和文・英文どちらでも可）を合わせて評価する。									
【教科書】									
テキストはpdfファイル形式にして、受講者に一斉配信する。添付ファイルをダウンロードできるようなメールアドレスを登録すること。									
【参考書等】									
（参考書） 特になし。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 森 慎一郎				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	Ernest Hemingway, In Our Timeを読む								
【授業の概要・目的】									
20世紀アメリカ文学の重要作家の一人、Ernest Hemingway (1899-1961)の初期短篇集In Our Time (1925)を丹念に読みながら、散文彫琢の極致とも言われるHemingwayの文体についてあらためて考えてみたい。									
【授業計画と内容】									
1924年、in our timeと題された小文集をパリで出版して一部の作家・批評家の注目を集めたHemingwayは、翌1925年、そこに収められていたスケッチ群を再利用しつつ1冊の短篇集を纏め上げ、これが高い評価を得たことで新たな文学の担い手として広く認知されることになった。このIn Our TimeがHemingwayの最高傑作の一つであること、また彼のトレードマークとなる独特の文体がすでにここで完成されていたことは、つとに指摘されてきたとおりである。 この授業では、言葉の選択、配置、句読点の打ち方といった細かな点にも最大限の注意を払いつつ、In Our Time所収の短篇・スケッチを一つずつ丁寧に検討していくことで、Hemingwayの文学世界に親しむと同時に、その独特の研ぎ澄まされた文体のすごみを多少とも感得できるようになることを目指したい。各回、1～2篇の短編(+スケッチ)を扱うことにし、それぞれの作品について、受講者による発表をもとに授業を進める予定。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(授業への参加度)と学期末のレポートにより評価する。									
【教科書】									
Ernest Hemingway 『In Our Time』(Scribner) ISBN:978-0-684-82276-1									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
発表当番の回にかぎらず、毎回の綿密な予習と積極的な発言が求められる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 佐々木 徹				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	ヴィクトリア朝小説研究								
【授業の概要・目的】									
<p>ヴィクトリア朝(1837-1901)は、ブロンテ姉妹、ディケンズ、サッカレー、エリオット、ハーディなどの優れた作家が輩出した、英国文学史における小説の黄金時代であった。この授業は、アメリカの著名な学者ジョージ・レヴィーンが著した入門書を手掛かりに、この時期の小説の主題や技法面における特徴を探り、理解を深めることを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>レヴィーンが詳しく扱っている小説は、順に、ディケンズ『ピックウィック・ペイパーズ』、サッカレー『虚栄の市』、ブロンテ『ジェイン・エア』、ディケンズ『デイヴィッド・コパフィールド』、コリンズ『白衣の女』、エリオット『ミドルマーチ』。</p> <p>毎回の授業でテキスト6頁ほどをカバーすれば最後まで目を通す計算になるので、その程度の予習が毎回必要になる。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>授業が5、6回進むごとに短いレポートを出してもらおう。提出されたレポートはコメントを付けて返却する。評価はこれらのレポートに基づいて行う。</p>									
【教科書】									
George Levine 『How to Read the Victorian Novel』 (Wiley-Blackwell) ISBN:978-1405130561									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>オフィスアワーは毎週月曜14時15分～15時15分。 返却したレポートについての質問等を受けつけるので遠慮なく来室されたい。 教科書の予習はこの種の文章を読み慣れていないと手間がかかるかもしれないので、できるかぎり毎回予習のポイント等を授業時間内に示す。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 家入 葉子				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金5	授業形態	特殊講義
題目	中英語入門								
【授業の概要・目的】									
中英語についての基礎知識がないことを前提に、基礎から丁寧な授業を行います。									
【授業計画と内容】									
<p>Chaucer (1340?-1400)の作品の中から、The Canterbury Talesにおさめられた"The Wife of Bath's Prologue and Tale"の講読を行います。なお、講読に際しては、日本語および現代英語による訳を参照しながら授業の準備をしてください。特殊講義ですが、受講者参加型の授業形態になります。</p> <p>中英語についての理解を深めるとともに、英語が今日まで発達してきた過程についても考察します。中英語への入門的な授業ですので、中英語の特徴をある程度つかむことができれば、授業の目的を達成したということができます。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点およびレポートにより評価します。最初の授業でレポートについての説明を行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。									
【教科書】									
L. D. Benson, et al. (eds.) 『The Riverside Chaucer』 (OUP) ISBN:978-0-19-955209-2									
【参考書等】									
(参考書)									
Norman Davis, et al. 『A Chaucer Glossary』 (Clarendon) http://homepage3.nifty.com/iyeyiri/students/chaucer.htm にも参考情報を掲載しています。									
(関連URL)									
http://homepage3.nifty.com/iyeyiri/students/index.htm (このウェブサイトを定期的にチェックしてください。)									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 水野 尚之				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	都市とアメリカ的想像力								
【授業の概要・目的】									
都市とアメリカ的想像力について、アメリカ文学の作品を題材にして考察する。									
【授業計画と内容】									
<p>植民地時代以来、アメリカの諸都市の発達は文学的想像力と密接に関わりあってきた。Salem、Concord、Boston、New Yorkなど東部の都市の発達がアメリカの作家たちにどのような影響を与えてきたか、また都市が小説、劇、日記、回想記、映画などでどのように表象されてきたかを考察する。</p> <p>扱う作家は、Washington Irving、Nathaniel Hawthorne、Henry David Thoreau、Herman Melville、Horatio Alger、Henry James、Stephen Crane、Edith Wharton、J. D. Salinger、Paul Auster、Don DeLilloなどである。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席・授業への参加度 50%、筆記試験の成績 50%									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
火曜2時限、火・木・金曜12時～13時、ほか研究室在室時。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 山梨 正明				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	言語と認知のメカニズム								
【授業の概要・目的】									
言語主体の認知能力からみた言葉の記述と分析を通して、日常言語の論理と伝達のメカニズム、異文化間の言葉と認識の違い、発想の違い等を考察していく。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業を行う。 言語学の基本的な考え方と分析の方法 認知科学からみた言語研究と関連領域の概観 認知言語学の基本的な枠組と研究の方法 一般的認知能力からみた言語能力の分析法 認知能力からみた言語現象の諸相の具体的分析									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験と平常点による評価									
【教科書】									
山梨正明 『認知言語学原理』（くろしお出版）									
【参考書等】									
（参考書） 山梨正明 『ことばの認知空間』（開拓社）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業中に指示されたテキストの予習をしておくこと オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	同志社大学 文学部 教授 林 以知郎				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	初期アメリカ文学研究								
【授業の概要・目的】									
<p>いわゆる大航海時代の新大陸航海紀行に始まる「アメリカ」をめぐる文学・文化言説群を、ニューイングランド・ピューリタン時代を経て独立・建国期に至る時期を対象に辿ってみる文化史的考察である。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>取り上げる題目と分析対象にするテキストは、北東部アングロ・アメリカ地域の男性中心的文化に偏ることは否めないが、ネイティブ・アメリカンや女性など、人種・文化的他者の声をすくいあげることに努めてみたい。春・秋で取り上げる題目の主だったものを挙げておく。「文化記号としてのコロンブス」「丘の上の街というヴィジョンと異端」「ニューイングランドピューリタンの詩」「インディアン捕囚譚」「Salemの魔女裁判」「カルチャー・ヒーローとしてのフランクリン」「文化史の上での独立戦争」「アメリカ小説の誕生」等。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
それぞれの学期にレポートを課す。									
【教科書】									
プリントした教材を用意する。									
【参考書等】									
<p>(参考書) 講義時に適宜紹介するが、北アメリカに関する通史に眼を通しておいてほしい。</p>									
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p>									
特になし									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	神戸大学 大学院国際文化学研究科 教授 西谷 拓哉				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	英米小説研究と映画研究の接点								
【授業の概要・目的】									
小説と映画それぞれの表現媒体としての特徴を対比し、小説を語ることで映画の、映画を語ることで小説のリテラシー、すなわち「精読の技術」を高めることを目指す。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について、各々複数回にわたり講述する。適宜、学生諸君からの発表も取り入れ、双方向的に理解を深めたい。とりあげる作品は英米の小説と映画が主体となる。									
1．映画研究の基本的な方法とテーマ (1) 映画の基本的単位 (2) 映画の表現技法 (3) ジャンル映画 (4) 映画における人種、ジェンダーの表象 (5) 映画研究の実例 2．小説とその映画化 (1) 小説と映画におけるナレーション (2) 他の文学ジャンルと映画の関係 (3) アダプテーションの諸問題 (4) 小説家自身による映画化 (5) 比較研究の実例									
【履修要件】									
できればビデオ、DVD等が試聴できる環境にあることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(出席、発表、小レポート)(50%)、レポート(2回、50%)を総合して判断する。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	古英詩入門(Introduction to Anglo-Saxon Poetry)								
【授業の概要・目的】									
古英語の基礎を学びながら、古英詩の豊かな世界に親しむことを目的とします。									
【授業計画と内容】									
<p>古英語に慣れるため、まずイギリス文学史に最初に名を遺す詩人キャドモンのエピソード（散文）を読んだ後、前期は『モールドンの戦い』『ベオウルフ』（抜粋）などの英雄叙事詩を、後期は『十字架の夢』などの宗教詩を取り上げる予定です。「特殊講義」ですが、基本的には講読の形態で授業を行いますので、受講者には事前の準備が求められます。</p> <p>ゲルマン的異教の価値観とキリスト教の価値観が交錯する世界に親しむには、グロッサリーや語形変化表を丹念に調べる根気に加えて、豊かな想像力が必要です。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点およびレポートで評価します。評価方法も含めて、授業の進め方を第1回目に説明しますので、受講を考えている人は必ず出席してください。									
【教科書】									
Bruce Mitchell and Fred C. Robinson 『A Guide to Old English 8th ed.』（WILEY-BLACKWELL）ISBN: 978-0-470-67107-8									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
受講にあたっては入念な下調べが要求されます。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学大学院 文学研究科 教授		服部 典之
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2
授業形態	特殊講義						
題目	パミラの恋愛とその顛末						
[授業の概要・目的]							
<p>1. イギリス小説成立の要となったりチャードソン作『パメラ』(1740年刊)の後半・第2部(小説最後まで)を検討し、小説というジャンルへの理解を深める。</p> <p>2. 貴族であるミスター・Bとヒロインであるパメラ(カントリー・ハウスの住み込み女中)のロマンスの結末を読み、近代的恋愛が可能になった人間的状況への洞察を深める。この英国近代初期の恋愛小説が結婚で終わらず、家庭の安定確保までも含むことの意味を探る。また近代的恋愛と近代小説ジャンル成立の関係性を考察する。</p> <p>3. 長編小説の全体を通読することで、英語の文学作品の読解力を涵養する。</p>							
[授業計画と内容]							
<p>授業計画</p> <p>1年で、オックスフォード・ワールズ・クラシックス版(初版に準拠)のVol.2を読む。講義形式であり、受講者を指名して発表を求めることはない。ただ、毎回受講者はその回に感じた感想や質問などをコメントペーパーに書いて提出する義務を負う。教員はそのコメントペーパーへのレスポンスを行いながら講義を進める。</p> <p>講義の内容</p> <p>本講義では、当初はセクシュアル・ハラスメントに近い形で男女関係を進展させようとする主人公と、彼への様々な対処を経て女主人公パメラが近代的恋愛を勝ち得る姿を、綿密に追う。特に書簡体小説で繰り返られる様々な説得のレトリックの分析を行うことで、近代の心理小説の先駆けになった本作品の神髄に迫りたい。本作品は後世のジェイン・オースティンやヴァージニア・ウルフへ多大な影響を与えている。近代的小説成立と近代的恋愛の確立の関係への洞察を深めたい。本年はパメラとミスター・Bの結婚に至るクライマックスとその後の緊張と解決を辿る。</p>							
[履修要件]							
特になし							
[成績評価の方法・基準]							
出席とコメントペーパーによる日常点と学期末のレポートで総合的に判断する。出席重視。							
[教科書]							
Samuel Richardson 『PAMELA: or, Virtue Rewarded』(Oxford University Press) ISBN:019953649X (978-0199536498) (Oxford World's Classics版)							
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----							

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

初めての受講者も歓迎します。初回のイントロダクションで前半の粗筋は紹介しますが、できれば前半は翻訳(研究社刊、原田範行訳)で読んでおいて下さい。授業中指名することはしませんが、コメントペーパーへのフィードバックを行いながら講義を組み立てていくので、出席は重視します。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	非常勤講師 ラファエル ロンバル				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	特殊講義
題目	African American Women in Fiction								
[授業の概要・目的]									
<p>Through the study of two celebrated works of African American fiction, Ernest J. Gaines ' s The Autobiography of Miss Jane Pittman (1971) and Octavia Butler ' s Kindred (1979), students will explore the destiny of African American women from slavery to the civil rights movement and beyond.</p> <p>This course is based on close reading analysis, and its purpose is to help students hone their skills in both oral argumentation and response writing. Emphasis will be put on methodology.</p>									
[授業計画と内容]									
<p>Semester 1: Octavia Butler's Kindred (1979). Week 1: Introduction Rest of the semester: 25-30 pages a week.</p> <p>Semester 2: Ernest J. Gaines's The Autobiography of Miss Jane Pittman (1971) Week 1: Introduction Rest of the semester: 25-30 pages a week.</p>									
[履修要件]									
<p>Reading: an average of 25 to 30 pages a week. Assignments: 3 short response papers (300 words +) and one oral presentation per semester. Attendance Policy: 2 absences per semester, justified or not, are authorized. 3 to 4 absences will lower final grade drastically. 5 absences: Failure. Tardiness: Late twice = 1 absence.</p>									
[成績評価の方法・基準]									
<p>Responses: 50 % Oral Presentation: 20 % In-class Participation: 20 % Attendance and Punctuality: 10%</p>									
[教科書]									
<p>Octavia Butler 『Kindred』 (Beacon Press, 2004) ISBN:13: 978-0807083697 Ernest J. Gaines 『The Autobiography of Miss Jane Pittman』 (Dial Press, 2009) ISBN:978-0385342780</p>									
[参考書等]									
(参考書)									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>Office Hours: by appointment only</p> <p>Attendance: As this course is based in great part on in-class participation, absenteeism is not an option.</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	非常勤講師 マイケル・エドワード・ジャマンツ				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木1	授業形態	特殊講義
題目	Academic Writing in the Humanities								
[授業の概要・目的]									
This course is designed to assist students who wish to refine their English writing skills, particularly those skills that are needed to compose advanced-level academic papers and to create polished essays and literary criticism.									
[授業計画と内容]									
In addition to weekly exercises reviewing the basics skills required for effective writing in English, students will read examples of literary criticism and other writing on the arts which will then serve as models for student efforts. Students will gain experience fashioning sophisticated arguments that are well organized and cogently presented. As the class will often operate as a workshop, students are encouraged to share examples of work that have been previously submitted in other academic contexts. These works will be employed to hone and refine techniques of editing and revision. Students who have little experience in English composition will have an opportunity to build up a body of work over the course of the year.									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
Students will be evaluated on the quality of participation in classroom activities and written assignments.									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
(参考書)									
特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	非常勤講師 Gallimore, Daniel				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	The Poetry of Philip Larkin (1922-85)								
[授業の概要・目的]									
<p>The course introduces students to the poetry of Philip Larkin (1922-85), who is regarded as one of the greatest of contemporary British writers and even, in the words of one admirer, 'a modern British national cultural monument'. Larkin's small but highly select body of published verse presents a lasting insight into what it means to be British in the late 20th century, as well as attracting readers from around the world. Larkin's poetry is sometimes difficult but never dull!</p> <p>The aim of the course is that students should develop their ability to read a contemporary British poet, understanding him both in terms of his artistic development and his social and historical context.</p>									
[授業計画と内容]									
<p>The course takes a thematic approach to Larkin's poetry, as follows. Readings of Larkin's poems, which are mainly from the 1950s to 1970s, are supported by excerpts from his letters and diaries, a range of critical material, and original recordings.</p> <p>Weeks 1 and 2: solitude ('Self's the Man' and 'Vers de Societe')</p> <p>Weeks 3 and 4: the tragic moment ('Ambulances' and 'The Explosion')</p> <p>Weeks 5, 6 and 7: mortality ('Aubade' and 'Sad Steps')</p> <p>Week 8: mid-term presentations</p> <p>Weeks 9 and 10: Larkin's influences</p> <p>Weeks 11 and 12: Larkin and modernism</p> <p>Weeks 13 and 14: speaking true ('For Sidney Bechet' and 'Talking in Bed')</p>									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
<p>Students are assessed according to the following criteria:</p> <p>25% - course attendance (minimum two-thirds required)</p> <p>25% - mid-term oral presentation</p> <p>50% - final report (1,500 words)</p> <p>Further information on the mid-term presentation and final report will be given during the course.</p>									
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----									

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

ed. Martin Amis 『Philip Larkin Poems』 (Faber and Faber) ISBN: 978-0571258109

[参考書等]

(参考書)

児玉実用等訳 『フィリップ・ラーキン詩集』 (国文社) ISBN: 978-4772001441

(関連URL)

<http://www.philiplarkin.com>

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	神戸市外国語大学 外国語学部 教授 Campana, Mark Robert				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	Speech and Gesture								
【授業の概要・目的】									
<p>This course will consider parallel streams of linguistic and non-linguistic communication, roughly, speech and gesture. Speech is composed of lexical units with semantic and referential values. Here gesture includes eye movement, body language, and prosody (vocal gestures), along with the more conventional notion of face and hand movement. Together, these two streams form the basis of human interactive potential.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>Spoken language is almost always accompanied by gesture--broadly defined. In its subtlest form, this would entail variations in prosody (e.g. loudness, pitch, rhythm, intonation), or more visibly through movements of the eyes/hands/face. The crux is in the timing, e.g. Why did the speaker raise her voice or tap her finger there? What did she communicate (intentionally or not) by looking upwards and to the left on uttering that? These are the kinds of questions we aim to answer. Initially, the course will concentrate on describing gesture as it is understood in the literature. Focus will then shift to analyzing videotaped recordings of natural conversation. Ultimately, the goal will be to explain how speech and gesture work together in a given context.</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
There will be short (daily) homework assignments, and a final exam (mainly short answer).									
【教科書】									
There is no textbook PER SE. Material to be handed out by the teacher.									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>G. Yule 『Pragmatics』 (Oxford University Press)</p> <p>A. Kendon 『Gesture: Visible Action as Utterance』 (Cambridge University Press)</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 外国人教師 Ramisch, Heinrich				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	English Dialectology								
[授業の概要・目的]									
<p>Description: English Dialectology</p> <p>Foreign learners on their first visit to an English-speaking country often find that the language that people use is very different from the English they have learnt at school, and consequently they may encounter problems when communicating with native speakers. The foreign learners' experience only underlines the fact that the English language is by no means homogeneous but varies according to certain factors (region, social class, style, etc.). The aim of this course is to study linguistic variation in more detail. We will first discuss the nature of variation in English and consider the notions of accent, dialect, RP and Standard English. We will also be concerned with individual linguistic varieties and examine their characteristic features. Moreover, there will be a discussion of methodological and theoretical aspects that are related to the study of linguistic variation.</p>									
[授業計画と内容]									
<p>Individual Sessions:</p> <ol style="list-style-type: none"> Variation in English: general aspects I (cf. Trudgill 1999: 1-10) Variation in English: general aspects II (cf. Trudgill 1999: 10-19) Phonological variation, RP (cf. Hughes et al. 2005: 1-11) Grammatical and lexical variation, Standard English (cf. Hughes et al. 2005: 11-17) Nonstandard grammatical features (cf. Hughes et al. 2005: 24-35) English as a world language &#8211; basic notions (cf. Bauer 2002: 1-12) English becomes a world language (cf. Bauer 2002: 13-29) The vocabulary of international varieties of English (cf. Bauer 2002: 32-45) The revenge of the colonised (cf. Bauer 2002: 84-92) Varieties of American English I (cf. Wolfram/Schilling-Estes 2006: 103-118) Varieties of American English II (cf. Wolfram/Schilling-Estes 2006: 118-133) The BBC Voices Project (cf. http://www.bbc.co.uk/voices/recordings/) <p>References:</p> <p>Laurie Bauer. 2002. An Introduction to International Varieties of English. Edinburgh: Edinburgh University Press.</p> <p>Arthur Hughes et al. 2005. English Accents and Dialects. London: Hodder Arnold (4th edition).</p> <p>Peter Trudgill. 1999. The Dialects of England. Oxford: Blackwell (2nd edition).</p> <p>Walt Wolfram and Natalie Schilling-Estes. 2006. American English. Dialects and Variation. Malden: Blackwell (2nd edition).</p>									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
To get credit for this course:									
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----									

アメリカ文学(特殊講義)(2)

short presentation and essay on a variety of English

[教科書]

The relevant texts for this course will be made available as pdf-files in spring 2012.

[参考書等]

(参考書)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院言語文化研究科 准教授 木原 善彦				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	現代英語小説を読む								
【授業の概要・目的】									
現代作家とその主要作品の紹介としていくつかの作品の冒頭部分（四ページ程度）を読みます。それぞれの作家・作品のスタイルに親しむとともに、今までに知らなかった作家や作風（娯楽的な小説もリストに入れる予定です）にふれることで、現代小説の多様性を知るきっかけになればと思います。取り上げる作品は授業計画欄記載のようなものになる予定ですが、一部入れ替わるか数が増減する可能性があります。									
【授業計画と内容】									
ここに挙げた作品を主に取り上げ、それぞれの作品を概観するとともに、その冒頭部を一緒に読みたいと思います。作品について事前に読んでいる、あるいは知っているというのは望ましいですが、授業参加の必要条件ではありません。必要な資料は授業時に教員が用意し、配布します。 Harry Mathews, _Cigarettes_ Thomas Pynchon, _Against the Day_ William Gaddis, _JR_ Victor LaValle, _Big Machine_ David Mitchell, _Cloud Atlas_ David Markson, _This Is Not a Novel_ Paul Auster, _City of Glass_ Adam Ross, _Mr Peanuts_ Sam Leith, _Coincidence Engine_ Richard Powers, _Generosity_									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業内での発言を中心に、授業参加度によって60パーセントを評価します。授業終了後1か月以内に現代の英語小説（授業で扱ったものでもそれ以外でも可）を取り上げたレポート（400字×10枚程度）を提出してください。それによって残りの40パーセントを評価します。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する 授業内では積極的な発言が求められます。難しいことを知っている必要はないので、臆することなく自分の意見を表明してください。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 谷口 一美				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目									
【授業の概要・目的】									
この授業では、認知言語学（認知意味論、認知文法、構文文法）の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
認知言語学の代表的な学術雑誌である Cognitive Linguistics や、近刊の論文集を中心とし、受講者各自の興味関心に応じ、英語論文を各回1本ずつ取り上げる。担当者が論文の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。論文の担当は、初回授業で割り当てる。1本の論文（20～30ページ程度）を1名ないし2名で担当する予定。									
【履修要件】									
認知言語学の基礎知識を備えていることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
演習の担当およびディスカッションへの参加状況、学期末のレポートから、総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学（特殊講義） American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 客員教授 内田 充美				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	特殊講義
題目	オンラインコーパスを用いた現代英語研究								
【授業の概要・目的】									
現代英語の諸現象を記述する方法として、実際の言語資料を利用した観察と分析のもつ可能性と、注意すべき点についての理解を深める。									
【授業計画と内容】									
おもに教科書の流れに沿って、誰もが利用できるインターネット上に公開されている英語コーパスを利用した実習を行います。授業中のコンピュータを用いた演習、授業時間外での調査、その結果の発表などで構成していきます。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席，小課題）とレポートで評価します。授業への積極的な参画を重視します。									
【教科書】									
Anderson, W. & J. Corbett 『Exploring English with Online Corpora』 (Palgrave Macmillan) ISBN:0-230-55140-8									
【参考書等】									
(参考書)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
受講を希望する人は必ず第1回目の授業に出席してください。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 森 慎一郎				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	演習
題目	Nathaniel Hawthorne, The House of the Seven Gablesを読む								
【授業の概要・目的】									
<p>19世紀アメリカ文学を代表する作家Nathaniel Hawthorne (1804-64)の長篇小説、The House of the Seven Gables (1851)を精読する。傑作として名高いThe Scarlet Letterの翌年に発表されたこの小説は、19世紀半ばのニューイングランドを舞台に、過去の呪いがPyncheon家にもたらす奇怪な出来事を描いたゴシック・ロマンスである。この作品を、一文一文の解釈にこだわりながら丁寧に読んでいく作業を通じて、文学テキストの読解能力を涵養するとともに、Hawthorneの文学世界への理解を深めることを目指したい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業では基本的にテキストを丁寧に訳読していく。ただし、全体で300ページほどの長篇小説を一年で読み終える予定なので、授業の中で直接扱えない範囲については受講者各自で読み進めてもらうことになる(そうした箇所に関しては、各回担当を決めて、簡単な報告を求めるかもしれない)。現代の読者から見れば少々古めかしいHawthorneの文章に慣れるため、初めの数回はゆっくりとしたペースで読み進めていき、慣れてきたところで一回に一章(平均して15ページほど)程度にまで進度を上げれば、全21章からなるこの小説を学期内に通読できるはずである。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と学年末のレポートにより評価する。									
【教科書】									
Nathaniel Hawthorne 『The House of the Seven Gables』 (Penguin) ISBN:978-0140390056									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
毎回の綿密な予習と授業時の活発な発言を求めます。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 廣田 篤彦				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	英詩演習								
【授業の概要・目的】									
現代英国を代表する詩人であるTed Hughesによって編まれた101編の英詩のアンソロジーの精読と暗誦を通じて英詩の特質に関する理解を深める。									
【授業計画と内容】									
By Heart: 101 Poems to Rememberは英詩というジャンルへの格好の入門書であるだけでなく、収録された詩を暗誦することで英詩のリズムや手法を身につけることをも目指している。本演習ではこの中から幾つかの詩を選んで精読し、内容を理解した上で暗誦を試みる。 授業では毎回以下の作業を行う。 1) 予め指定された詩について全員が訳と注釈を提出し、それを基に内容について議論する。 2) 上記を通じて内容を理解した詩を次の週に暗記して来る。暗誦した上で、筆記し提出する。 授業で扱う作品については受講者と相談のうえ決定する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
以下により評価する。 1) 授業中に提出する訳と注釈のレポート 2) 授業中に提出する暗誦した詩を筆記したもの 3) 授業中の議論における発言 2回欠席した場合、以後の履修を認めない。									
【教科書】									
Ted Hughes, ed. 『By Heart: 101 Poems to Remember』 (Faber & Faber) ISBN:0571192637									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
訳と注釈に関するレポートの作成を通じて各人が疑問点や問題となる点を把握した上で授業における議論に参加すること。訳す際には毎回丹念に辞書をひくことが求められる。暗誦においては特にリズムに注意を払うこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(演習II) American Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 若島 正				
配当学年	4回生のみ	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	演習
題目	アメリカの短篇小説を読む								
【授業の概要・目的】									
アメリカの現代作家Joyce Carol Oatesが編んだアメリカ短篇小説のアンソロジーを読む。19世紀から20世紀にかけての、アメリカ文学の全体的なパースペクティブを獲得するのが、授業の主な目的である。なお、卒業論文作成のための指導も同時に行う。									
【授業計画と内容】									
授業においては、Joyce Carol Oatesが編集したアンソロジーをテキストとして、毎週1篇の短篇小説を読む。扱う作家は、Hawthorne, Poe, Twain, Wharton, Hemingway, Faulkner, Bowles, Malamud, Cheever, Updike, Carverなど。授業の形式としては、あらかじめ発表当番を決めておき、その当番の報告という形を取る。これと並行して、卒業論文作成のための指導を年間を通じて行う。卒業予定者は、卒業論文のドラフトを次のような段階を踏んで作成すること。(1)4月末まで、A4用紙1枚(和文でよい)。(2)6月末まで、5枚(英文、以下同じ)。(3)9月末まで、10枚。(4)11月末まで、15枚。なお、以上の4回のドラフト提出後、それぞれ個人面接による指導を行う。									
【履修要件】									
アメリカ文学専修4回生のみ受講可能。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点100%で評価する。									
【教科書】									
Joyce Carol Oates (ed.) 『The Oxford Book of American Short Stories』 (Oxford UP)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
卒業論文ドラフトについての面接指導の曜日・時間については、受講生と相談の上決定する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 若島 正				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	講読
題目	John Updike, My Father's Tears & Other Storiesを読む								
【授業の概要・目的】									
<p>英文を丹念に読む訓練を行うことを授業の目的とする。John Updikeの文章は、その語彙の豊かさや選ばれる言葉の的確さ、そして繊細な細部の描写など、どれをとっても当代一流のものであり、それをじっくりと味読したい。また、扱う短篇集My Father's Tears & Other Stories (2009)はアップダイクの遺作となったものであり、授業中には彼の他の作品についても言及するので、アップダイクの作品世界についての全般的な理解を得ることも目的の一つにしたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>この短篇集の表題作をはじめとして、短篇をいくつか選んで授業で読むことにする。アップダイクの文章を読みこなすことは容易ではないので、1回の授業で進む分量はそう多くはない。授業の形式は、訳読と質疑応答である。前期と後期でそれぞれ1度ずつ、英文レポートを課す。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点20%、レポート80%（英文500語程度を2本）を合わせて評価する。									
【教科書】									
John Updike 『My Father's Tears & Other Stories』（Penguin）ISBN:978-0141042596									
【参考書等】									
（参考書） 特になし。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>精読が中心となるため、丹念に辞書を引くことが求められる。かなりの予習時間を確保してのぞむこと。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 家入 葉子				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	講読
題目	現代英語の諸問題								
【授業の概要・目的】									
現代英語を中心に、変容する英語の実態について学びます。									
【授業計画と内容】									
<p>授業は、以下の作業の組み合わせによって進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に指定した Weeds in the Garden of Words の講読。 ・英語の発達および変容に関する論文の講読。 ・学年末に提出するレポートの準備。(レポートは授業終了後に短期間で書きあげるのではなく、年間を通して授業の中で議論をしながら、徐々に書いていきます。) 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点およびレポートにより評価を行います。最初の授業でガイダンスを行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。									
【教科書】									
Kate Burridge 『Weeds in the Garden of Words』 (Cambridge University Press) ISBN:0-521-61823-1									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL)									
http://homepage3.nifty.com/iyeyiri/students/index.htm (このウェブサイトを定期的にチェックしてください。) http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/gakunaidb.html (京都大学図書館機構のデータベースのサイトです。)									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)			担当者氏名	高等教育研究開発推進センター 准教授 桂山 康司				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	講読
題目	英詩入門								
【授業の概要・目的】									
英詩における名作を味読することを通じて、英詩の特質全般についての基礎知識を身につけると同時に、特に、リズムのもつ意味について、理解を深める。									
【授業計画と内容】									
テキストに収められた作品を一つ一つ丹念に精読する。 本年度は特にエリザベス朝期の作品を中心に上げる。どの作品を読むかは、最初の授業において指示する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
夏期休暇中、並びに、冬期休暇中に課されるレポートと、年度末試験の成績に、日常の活動を加味して評価する。									
【教科書】									
Francis Turner Palgrave (ed.) 『The Golden Treasury 』 (Oxford Univ. Press) ISBN:9780192803696									
【参考書等】									
(参考書) 小泉博一他(編) 『イギリス詩を学ぶ人のために』 (世界思想社) ISBN:4790707997									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
最初の授業において、英詩を読む上で必要な基礎的事実について解説をする予定なので、受講を希望するものは出席すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(外国人実習) American Literature (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 マイケル・エドワード・ジャマツ				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	外人実習
題目	The Art and Practice of Literary Translation								
【授業の概要・目的】									
This course is designed to help students become familiar with the art of literary translation through careful reading and analysis of translated texts and student translations from Japanese to English and English to Japanese.									
【授業計画と内容】									
The course will focus on the art and practice of translation through an examination of a series of English-language translations of modern Japanese short stories. Students will be required to read and analyze English translations of masterpieces of short fiction, compare them with the Japanese originals, and suggest alternative translations. As the course progresses, students will be expected to cover passages of increasing complexity and length. Students, in groups or as individuals, will attempt translations of short fiction from Japanese into English and vice versa.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Students will be evaluated on the quality of classroom participation and regular written assignments, which include a notebook containing analyses and responses to the readings.									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(外国人実習) American Literature (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 LUDVIK, Catherine				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	外人実習
題目	Kyoto's Cultural Heritage, in English								
【授業の概要・目的】									
This class aims to provide students with the necessary skills to explain in English various aspects of Kyoto's cultural heritage and how it is being preserved.									
【授業計画と内容】									
Students will be assigned weekly readings on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class. Topics will include Shinto shrines, Buddhist temples, the preservation of traditional architecture, festivals, visual and performing arts, traditional crafts, Japanese cuisine, and so on. Students will be required to make short class presentations on selected aspects of Kyoto's cultural heritage, and to participate actively in class discussion.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance, class participation, timely completion of required readings, short written assignments, class presentations, two in-class tests.									
【教科書】									
Dougill, John 『Kyoto: A Cultural History』 (Oxford University Press) ISBN:978-0195301380									
【参考書等】									
(参考書)									
Clancy, Judith 『Exploring Kyoto: On Foot in the Ancient Capital』 (Stone Bridge Press) ISBN:978-1-933330-64-8									
特になし									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

フランス語学フランス文学専修

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 田口 紀子						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	フランス文学における歴史叙述の問題 : スタンダール『イタリア年代記』を中心に								
【授業の概要・目的】									
1820年代フランスではロマン主義的歴史観の影響のもとに歴史小説が流行した。その影響のもと、スタンダールが1830年代に執筆した『イタリア年代記』に注目し、歴史記述が小説のエクリチュールに与えた影響を跡付け、三人称リアリズム小説誕生の経緯についての理解を深める。									
【授業計画と内容】									
スタンダールはロマン主義的テーマ設定と写実主義的叙述という、双方の特徴を併せ持っている。その意味で、その作品に歴史小説的要素が色濃く表れていることは興味深く、代表作『赤と黒』の副題も「19世紀年代記」とされている。授業ではもう一つの「年代記」である『イタリア年代記』を取り上げ、作家が「翻訳」したことになっている歴史的逸話が、どのように「作品」に書き換えられているのかに注目しながら、スタンダールにとっての「現実」とは何かを考察する。 取り上げられている歴史的逸話の特徴 登場人物の描写方法と人物造形 因果関係の記述をはじめとする語り手の解釈行為の表明 スタンダールの語りの「現在」と語られる「過去」の時間との交差 などの課題をを中心に、それぞれの課題に5～10週の授業をあてる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年度末のレポート									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 増田 眞						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	ルソー『エミール』研究								
【授業の概要・目的】									
<p>2012年はルソー（1712-1778）の生誕300周年に当たる。これを機に、ルソーの主著の1つである『エミール』を読み、その思想について考察する。</p> <p>この作品には「教育について」という副題がついていることはよく知られているが、実際には、実践的な教育書というよりは著者の人間論の集大成であり、教育、道徳、宗教などの問題もあくまでもその一環である。そして個々の主張だけでなく、作品全体の構成、ある主張の置かれている文脈、同時代の思想的文脈などを考慮に入れて理解することが求められる作品である。この授業では『エミール』全体の構成や論理を念頭に置きつつ、第4編を中心に読む予定。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>長大な作品なので、いくつかの部分を選んで読むことになる。作品を理解する上で重要な部分をいくつか取り上げて、その読解と分析を中心とする。前期は第1編から第3編の構成などの要点を抑え、なるべく早く第4編に入りたい。また、ルソーのほかの作品、同時代のほかの思想家たちとの関連についてもなるべく言及したい。</p> <p>何種類かの翻訳があるが、参加者は自分で原文を読む姿勢が求められる。</p>									
【履修要件】									
中級程度のフランス語の語学力が必要。（18世紀のフランス語は現代語とほぼ同じなので、特別な知識は必要としない。）									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポート。									
【教科書】									
開講時に指示する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 永盛 克也						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	フランス17世紀文学研究(1)								
【授業の概要・目的】									
フランス17世紀文学の特徴の一つである「社交性・趣味の洗練」について小説作品の読解を通して理解を深める。また、作者と読者が共有していた価値観、同時代の社会や政治と作品との関係、女性作家の地位、世紀を通して徐々に形成されていく古典主義美学などの問題について、回想録などの散文作品をも視野に入れて考察する。									
【授業計画と内容】									
以下のような問題について、それぞれ1～2週の授業をする予定である。									
イントロダクション 17世紀フランスの社会と文学									
1 田園小説『アストレ』の世界									
2 17世紀フランスのサロンについて									
3 トリスタン・レルミットの小説									
4 スカロンの小説									
5 スキュデリー嬢の小説									
6 「プレシオジテ」とは何か									
7 「フロンドの乱」の社会的・文化的影響									
8 ラ・ロシュフーコー『回想録』									
9 レ枢機卿『回想録』									
10 サン＝レアルの歴史小説									
11 ラファイエット夫人の小説									
まとめと展望 17世紀フランス小説の美学									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業での発表および期末レポート									
【教科書】									
プリント等を配布する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 永盛 克也						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	フランス17世紀文学研究(2)								
【授業の概要・目的】									
ラシーヌの『イフィジェニー』を中心にイピゲネイアをテーマとする悲劇を取り上げ、神話の受容と変遷を概観するとともに、詩学(すなわち悲劇の創作論)に関わる諸問題について考察する。文学的伝統の継承と新たな意匠の模索とのダイナミックな関係について理解を深める。									
【授業計画と内容】									
以下のような問題について、それぞれ1～3週の授業をする予定である。									
<p>イントロダクション 神話と悲劇</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 エウリピデス『アウリスのイピゲネイア』 2 エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』 3 アリストテレス『詩学』 - イピゲネイアの「認知」 4 ロトルー『イフィジェニー』 5 ラシーヌ『イフィジェニー』 6 ラシーヌ『タウリケのイフィジェニー』の自筆草稿 7 フランス古典悲劇と神話 8 古典悲劇からオペラへ 9 その後のイピゲネイア劇 <p>まとめ 比較文学的考察</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業における発表と期末レポート									
【教科書】									
プリント等を配布する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	Beaumarchais, Le Mariage de Figaro								
【授業の概要・目的】									
<p>On prete au chef revolutionnaire Danton le mot suivant, qu'il aurait prononce lors de la representation de la tragedie de Marie-Joseph Chenier, Charles IX, en 1789 : "Si Figaro a tue la noblesse, Charles IX tuera la royaute." C'est dire l'importance que les contemporains ont tres tot reconnue au drame de Beaumarchais, Le Mariage de Figaro : en 1784, cinq ans avant la Revolution, la bourgeoisie exasperee par le privilege nobiliaire y trouve le langage eloquent et vibrant apte a traduire ses aspirations reformatrices, et a capter l'energie qui bouillonne dans les veines de la nation. Mais la piece tire cette force politique avant tout de la force comique et esthetique qui la porte, et de la virtuosite que deploie, dans tous les aspects de la creation theatrale, un dramaturge au sommet de son art.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>Ce cours est concu pour former les etudiants aux methodes du commentaire de texte litteraire, et de l'etude d'une oeuvre complete a travers ses themes, sa structure, ses enjeux esthetiques, ideologiques, philosophiques. A cette fin, des exercices ecrits et des exposes oraux seront regulierement proposes, sur le modele des presentations faites par le professeur.</p>									
【履修要件】									
<p>Ce cours est ouvert aux etudiants de tous niveaux et de toutes specialites. De solides competences de lecture en francais, ainsi qu'un interet prononce pour les etudes litteraires, sont cependant souhaitables.</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>Une evaluation globale sera tiree de l'ensemble des travaux demandes aux eutdiants. Chacun d'entre eux devra presenter un expose pendant le semestre. Au terme du semestre, une composition longue sera demandee : les etudiants auront le choix entre le commentaire d'un extrait determine par leurs soins, et une dissertation sur l'oeuvre dont le theme sera discute avec le professeur.</p>									
【教科書】									
<p>使用しない pas de commentaire</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) 特になし</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>Le professeur n'assure pas de permanence fixe, mais est a la disposition des etudiants qui souhaitent prendre rendez-vous avec lui.</p> <p>NB : Due to improper settings, Kulasis is unable to enter up the special French graphic signs. I apologize about this regettable fact.</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	Marivaux, La fausse suivante								
【授業の概要・目的】									
<p>Une femme se deguise en homme pour approcher celui qu'elle envisage d'epouser et sonder son caractere. Le stratageme porte ses fruits, car la camaraderie qu'elle parvient a etablir avec son mari pressenti lui revele toute la bassesse d'un sinistre coureur de dot. Le deguisement va alors etre mis a profit pour forger une intrigue qui fera amerement payer ses turpitudes a l'indelicat...</p> <p>Marivaux n'est pas sans raison, parmi les dramaturge francais du XVIIIe siecle, celui qui a attire la predilection des metteurs en scene modernes : le motif du travestissement, central dans son theatre, a le triple interet de permettre des intrigues efficaces, etincelantes d'ingeniosite comique, d'accueillir la satire sociale la plus mordante, et d'ouvrir des perspectives vertigineuses a la reflexion du theatre sur lui-meme. Au confluent de l'esthetique, de la politique et de la philosophie, le theatre de Marivaux est l'un des plus eclatants emblemes de la civilisation des Lumieres en France.</p>									
【授業計画と内容】									
Ce cours est concu pour former les etudiants aux methodes du commentaire de texte litteraire. A cette fin, des exercices ecrits et des exposes oraux seront regulierement proposes, sur le modele des presentations faites par le professeur.									
【履修要件】									
Ce cours est ouvert aux etudiants de tous niveaux et de toutes specialites. De solides competences de lecture en francais, ainsi qu'un interet prononce pour les etudes litteraires, sont cependant souhaitables.									
【成績評価の方法・基準】									
Une evaluation globale sera tiree de l'ensemble des travaux demandes aux etudiants. Chacun d'entre eux devra presenter un expose pendant le semestre. Au terme du semestre, une composition longue sera demandee : les etudiants devront commenter un texte qu'ils auront choisi avec l'aide du professeur.									
【教科書】									
使用しない pas de commentaire									
【参考書等】									
(参考書) pas de commentaire									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Le professeur n'assure pas de permanence fixe, mais est a la disposition des etudiants qui souhaitent prendre rendez-vous avec lui.									
NB : Due to improper settings, KULASIS is unable to enter up the special French graphic signs. I apologize about this regettable fact.									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 教授 大浦 康介						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	特殊講義
題目	Roland Barthes, Fragments d'un discours amoureux を読む								
【授業の概要・目的】									
昨年度に引き続き、Fragments d'un discours amoureux からいくつかの断章を選んで精読する。本書を恋愛論の系譜のなかに位置づけ、恋愛というテーマの扱い方、とくにそれが要請する表現形式について考えることが本講義の目的である。									
【授業計画と内容】									
Fragments d'un discours amoureux は、ゲーテの『若きヴェルテルの悩み』、プラトンの『饗宴』などいくつかの intertextes によって織りなされている。適宜それらのテキストも参照しながら授業を進めてゆく予定である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポート									
【教科書】									
教科書はない。資料は適宜コピーして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 准教授 王寺 賢太						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	特殊講義
題目	ルソー 『人間不平等起源論』を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>今年、生誕三百年を迎えるジャン＝ジャック・ルソーの『人間不平等起源論』（正式な題名は『人間観の不平等の起源と基礎についての論考』1755）は、自然状態と社会状態の対比を通じて、人間の自己自身への関係（自己愛）、性関係（性愛、家族）、経済的関係（所有・労働・分業）、政治的関係（国家・統治・支配／被支配）の存在条件を問いただそうとする著作である。社会はどのように成立し、また社会のなかにあるとはどのような事態なのか。またその社会全体の変動としての歴史はどのように成立し、どこに向かうのか。そうした大きな問題設定のなかで、ルソーは、経済的・政治的な不平等を、社会状態と切り離せない問題として提起する。本講義では、この『人間不平等起源論』を精読し、まずこの著作を18世紀の思想史のなかで理解することを心がける。また、現代政治哲学におけるルソーの思想の受容も踏まえつつ、その現代的な意義についても議論したい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業では、ルソーの『人間不平等起源論』の叙述にそって、順時、以下のようなテーマをあつかう。 自然状態の仮説（ホップズ、プーフェンドルフ、ロック、モンテスキュー、ルソー） 動物と人間、人間の身体的な素質（自己保存、あわれみ、完成可能性）、情念と愛、家族の成立、自己愛の成立、道徳の成立、農業社会における労働の成立、所有権と利害の起源、戦争状態、社会の成立、国際関係、統治関係の成立、不平等の拡大。また、適宜、現代のルソー研究や、現代政治哲学（マルクス主義、全体主義批判、シュトラウス、ロールズ、共和主義、フランクフルト学派、フェミニズム）におけるルソー受容について紹介する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
評価は授業への出席と発表に基づいて行なう。									
【教科書】									
Jean-Jacques Rousseau 『Discours sur l'origine et les fondements de l'inegalite parmi les hommes』（GF Flammarion, 2008）（Blaise Bachofen et Bruno Bernardi (ed).）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 稲垣 直樹						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	近現代フランス文化社会と日本								
【授業の概要・目的】									
フランスおよび日本の19世紀・20世紀の基本的なパラダイム・価値観について概説しつつ、近現代フランス文化・社会・文学の諸現象と、それを支えてきた基本的なパラダイム・価値観との動的な関係を把握することを試みる。併せて、それらと日本との関連を探る。									
【授業計画と内容】									
19世紀・20世紀のフランス文化・社会・文学の諸現象と、それを支えてきた基本的なパラダイム・価値観との動的な関係を把握することを試み、それらと日本との関連を探るために、つぎのようなテーマを設定する。									
<p>近現代のパラダイムとパラダイム・チェンジ</p> <p>フランス・ファッションの歴史的変遷</p> <p>19世紀の消費社会とデパートの誕生</p> <p>「動き」の世紀としての20世紀</p> <p>川上貞奴のフランスでのインパクト</p> <p>フランス・ファッションにおけるジャポニスム</p> <p>着物とパリ・ファッション</p> <p>日本における大衆文化の開花と消費社会</p> <p>パリ・ファッションと日本の洋装</p> <p>オート・クチュールというシステム</p> <p>オート・クチュールの終焉としてのリアル・クローズ</p> <p>1900年～1940年のフランス・ファッションの動向</p> <p>Chanelのファッションと企業展開</p> <p>戦後フランス・ファッションの特質とその担い手たち</p> <p>「五月革命」とプレ=タ=ポルテ</p> <p>ファッションのメディア化と「空疎な天才」Yves Saint-Laurent</p> <p>Chanelの伝統とKarl Lagerfeld</p> <p>プレ=タ=ポルテの旗手としての高田賢三、山本耀司、川久保玲</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席をはじめ授業への参加、レポート等の総合的評価									
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----									

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[教科書]

資料・テキストのコピーを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	神戸大学 大学院人文学研究科 准教授 中畑 寛之						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	マラルメの「詩」作品精読								
【授業の概要・目的】									
ステファヌ・マラルメ(1842-98)の「詩」作品を年代順に精読することを通して、彼が提起する「詩」の問題のあり方とその変遷を理解することを目指す。「詩の危機」として捉えられた19世紀末フランス詩の問題だけでなく、同時に、「文学の進展」や「難解さ」といった同時代の文学場で提起され議論された幾つかの問題についても考察する。また、19世紀末ヨーロッパの文化的・社会的状況の理解を深めるとともに、象徴派のみならず、現代フランス詩の展望の一側面を拓くことができればと考えている。									
【授業計画と内容】									
マラルメの詩作品を制作年代順に選び、精読していく。まずはそれぞれの年代における詩人の問題意識・作品の特徴を概説したのち、実作をじっくり読み込み、議論を重ねながら、マラルメの「詩」について、19世紀末詩の状況について理解を即したい。前期は60年代、70年代の作品を、後期は80年代、90年代を扱う。「難解」と言われるマラルメ「詩」を実際にフランス語で読むよい機会になればと思う。									
【履修要件】									
少なくとも初級段階修了レベルのフランス語の知識を有していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
レポートおよび平常点などから総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する 授業中に読むテキストに関してはコピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
Bertrand MARCHAL 『Lecture de Mallarme』(Jose Corti) ステファヌ・マラルメ 『マラルメ全集 第1巻』(筑摩書房) ISBN:9784480790019 Pascal Durand 『Poesies de Mallarme』(Gallimard) ISBN:9782070389391 その他、授業中にも紹介します。									
(関連URL)									
http://www.geocities.jp/mal_archives/									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 質問等は遠慮なく。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	神戸大学 大学院国際文化学研究所 教授 吉田 典子						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	画家エドゥアール・マネと3人の文学者－ボードレール、ゾラ、マラルメ								
【授業の概要・目的】									
近代絵画の成立において大きな役割を果たしたエドゥアール・マネ（1832-1883）は、同時代の文学者たちときわめて親しい関係を持っていた画家である。なかでも、ボードレール、ゾラ、マラルメという、互いに相当異なる個性を持った文学者であり美術批評家でもあった作家たちとは、個人的にも、また創作活動上も、深い関わりを持っていた。この授業では、マネとそれぞれの作家の関わりはどのようなものであったか、作家たちはマネをどのように理解したのか、またマネは彼らとの親交から何を自得して自身の創作活動に活かしたのかについて考察する。本授業の目的は、フランスの19世紀中葉から後半にかけての「近代」成立期において、文学と絵画のあいだにどのような相関関係があったのかについて検討し、近代都市パリの歴史的・社会的・文化的な文脈を踏まえながら、文学と芸術における「モダニズム」についての理解を深めることである。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり、3～4回の授業をする予定である。関連する作家のテキストを読解するとともに、パワーポイントを利用してマネの絵画の具体的な分析を行う。 1．マネとボードレール（1860年代前半を中心に） 2．マネとゾラ（1860年代後半を中心に） 3．マネとマラルメ（1874年～1876年を中心に） 4．マネとゾラ（1870年代～1884年）									
【履修要件】									
フランス語の基礎が既習であること、美術に関心を持っていることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポート。									
【教科書】									
資料、テキストのコピーを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
夏期休暇に入る前に、授業で扱うフランス語テキストのコピーを仏文研究室に置いておくので、夏期休暇中にできるだけ予習をしておいて下さい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習Ⅰ) French Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 増田 眞 文学研究科 准教授 永盛 克也						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	演習
題目	Introduction a l'analyse des textes litteraires								
[授業の概要・目的]									
フランス語読解力の養成を主眼としつつ、explication de textesや批評的文章の和訳・要約などを通じてフランス文学の研究方法の入門指導をする。 フランス語学フランス文学専修の3回生にとっては必修の授業。									
[授業計画と内容]									
前期は増田が担当し、explication de textesやcommentaire composeへの入門を行う。これはフランスの学校教育で行われている基本的な課題であるが、その実例を読み、実際に書くことによってフランス文学研究の基本的な技法を身につけることをめざす。 後期は永盛が担当し、批評的文章や研究書・研究論文の読解への入門を行う。文学研究において重要となる概念や理論、あるいは文学史に関する論文を読解の対象とし、和訳や要約のプロセスを通して内容の理解を目指すとともに、アカデミックな文体のフランス語の読み方を学ぶ。卒業論文準備の過程でフランス語の研究文献を参照する際に、内容を正確に理解するための訓練ともなる。									
[履修要件]									
中級程度のフランス語の語学力が必要									
[成績評価の方法・基準]									
平常点が重視される。そのほかに、学期末のレポートが課されることもある。担当教員は途中で交代するが、通年講義なので必ず前期、後期ともに履修すること。									
[教科書]									
プリントを配布する									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習II) French Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 田口 紀子						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	演習
題目	Morceaux choisis								
【授業の概要・目的】									
批評文を読みながら、様々な文学批評の方法について理解を深めると同時に、卒業論文の準備や作成の方法を習得する。									
【授業計画と内容】									
前期は文学理論や批評のテキストの抜粋を読むことで、抽象的なテキストの読解力を高め、同時に様々な文学批評の方法について理解を深める。 後期は、主として卒論執筆予定者の発表にあてる。第1週は、全員に口頭で簡単に論文の計画を発表してもらおう。ついで第2週以降、それぞれA4用紙で2枚程度の引用文と参考文献一覧を用意したうえで論文概要を説明してもらおう。それについて専任教員4名が問題点を指摘して、改善を求める。それらの指摘を採りいれ、執筆者自身も考えなおしたうえで、各自に、さらに詳しい発表を求める。時間に余裕があれば、フランス文学にかんする批評文の抜粋などを講読する予定。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 増田 眞						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	演習
題目	基礎仏作文演習								
【授業の概要・目的】									
和文仏訳を中心とした中級程度の仏作文演習。秋頃までは基本的な文型や表現の習得をめざし、最後の数回はまとまった文章を書く練習をする。									
【授業計画と内容】									
<p>教材は、説明と練習問題からなる約25の単元によって構成され、原則として1回の授業で1課のペースで進む。まずは関係代名詞や間接疑問文の習得によって複文の基本的な構造に慣れ、それからさまざまな文型（否定、非人称構文など）を経て、時間、比較、条件など内容に応じた表現の習得へと進む。最後の数回では、個々の文章を書く練習を離れ、短い叙述文や論説文を書くことによって、フランス語らしい構成の初歩を学ぶ。</p> <p>授業中は、各課の練習問題を実際に黒板に書いてもらい、それを添削する作業が中心となる。（原則として1課につき12題なので、予習の負担はそれほど重くないはず。）1題1題について質問を受け、検討する時間もできるだけ確保する。</p>									
【履修要件】									
中級程度のフランス語の語学力が必要。 仏文以外の学生・院生も歓迎する。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。（授業の性質上、学生による積極的な参加が不可欠。）									
【教科書】									
使用しない プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
初回到授業の説明のほか、辞書、参考書等の紹介をする予定。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木4	授業形態	演習
題目	conversation et civilisation								
【授業の概要・目的】									
<p>Ce cours est oriente vers la pratique de la discussion libre, collective, raffinee et plaisante, agrementee d'humour, dans la grande tradition francaise des salons et de la conversation. Il s'agit de joindre l'utile a l'agreable, en faisant de cette conversation l'occasion d'une revision et d'un apprentissage, aussi ludique que possible, des finesses de la langue.</p> <p>Les supports (ou les pretextes) seront tres varies, et choisis parmi les plus stimulants possibles : chansons, films, textes sur le Japon ecrits par des francophones (pour placer les etudiants en position de critiques, voire de juges), textes litteraires et poetiques enfin, mais inspires par le gout de l'amusement. Les suggestions, demandes, propositions des etudiants, sont evidemment les bienvenues pour nourrir les discussions.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>Ce cours etant dedie a la liberte et au hasard des echanges, son deroulement n'est pas entierement previsible. Il est cependant fort probable que des exposes, voire de petits travaux ecrits, soient demandes a l'occasion, mais sous une forme tres libre.</p>									
【履修要件】									
<p>Ce cours est ouvert aux etudiants de tous niveaux et de toutes specialites. La plus grande diversite des profils est d'ailleurs vivement esperee par le professeur !</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>Pour ce cours, ce sont l'assiduite et la participation qui priment sur tout autre critere d'evaluation. Les exposes et les travaux ecrits etant volontaires, ils seront, par principe, valorises et recompenses.</p>									
【教科書】									
<p>使用しない pas de commentaire</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) pas de commentaire</p>									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>Le professeur n'assure pas de permanence, mais est a la disposition des etudiants qui souhaitent prendre rendez-vous.</p> <p>NB : Due to improper settings, Kulasis is unable to enter up the specific French graphic signs. I apologize about this regrettable fact.</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4	授業形態	演習
題目	conversation et civilisation								
【授業の概要・目的】									
<p>Ce cours est oriente vers la pratique de la discussion libre, collective, raffinee et plaisante, agrementee d'humour, dans la grande tradition francaise des salons et de la conversation. Il s'agit de joindre l'utile a l'agreable, en faisant de cette conversation l'occasion d'une revision et d'un apprentissage, aussi ludique que possible, des finesses de la langue.</p> <p>Les supports (ou les pretextes) seront tres varies, et choisis parmi les plus stimulants possibles : chansons, films, textes sur le Japon ecrits par des francophones (pour placer les etudiants en position de critiques, voire de juges), textes litteraires et poetiques enfin, mais inspires par le gout de l'amusement. Les suggestions, demandes, propositions des etudiants, sont evidemment les bienvenues pour nourrir les discussions.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>Ce cours etant dedie a la liberte et au hasard des echanges, son deroulement n'est pas entierement previsible. Il est cependant fort probable que des exposes, voire de petits travaux ecrits, soient demandes a l'occasion, mais sous une forme tres libre.</p>									
【履修要件】									
<p>Ce cours est ouvert aux etudiants de tous niveaux et de toutes specialites. La plus grande diversite des profils est d'ailleurs vivement esperee par le professeur !</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>Pour ce cours, ce sont l'assiduite et la participation qui priment sur tout autre critere d'evaluation. Les exposes et les travaux ecrits etant volontaires, ils seront, par principe, valorises et recompenses.</p>									
【教科書】									
<p>使用しない pas de commentaire</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) pas de commentaire</p>									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>Le professeur n'assure pas de permanence, mais est a la disposition des etudiants qui souhaitent prendre rendez-vous.</p> <p>NB : Due to improper settings, Kulasis is unable to enter up the specific French graphic signs. I apologize about this regrettable fact.</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 永盛 克也						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金4	授業形態	講読
題目	ラ・フォンテーヌ『寓話』を読む								
【授業の概要・目的】									
フランス文学の古典として現在でも広く親しまれている『寓話』を精読する。韻文作品を読むための基礎的な知識を確認しながら、ユーモアと批判精神にあふれたラ・フォンテーヌの世界への理解を深めていきたい。									
【授業計画と内容】									
フランス17世紀の詩人ラ・フォンテーヌ(Jean de La Fontaine, 1621-1695)は古代のジャンル(イソップ寓話)を翻案により復活させ、独自の技法によって『寓話』(Fables, 1668-1694)に結実させた。									
授業では毎回1~2篇の寓話を取り上げ、精読・分析を試みる。									
一見親しみやすいテキストの背後に隠された精緻な詩法と人文主義的教養、そして人間と社会に対する鋭い批判意識についても考察する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業での発表と期末レポート									
【教科書】									
プリントを配布する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 永盛 克也						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金4	授業形態	講読
題目	フランス・ロマン主義の詩を読む								
【授業の概要・目的】									
19世紀フランス・ロマン主義の詩人の作品を選び精読する。作詩法の基礎を確認しながら、定形詩の分析の仕方を学ぶことを主たる目的とするが、文学運動としてのロマン主義への理解を深める機会にもしたい。									
【授業計画と内容】									
授業では毎回以下のような19世紀の詩人の作品を1～2篇取り上げて、精読・分析する。									
ラマルチーヌ Lamartine (1790-1869) ユゴー Hugo (1802-1885) ヴィニー Vigny (1797-1863) ミュッセ Musset (1810-1857) ネルヴァル Nerval (1808-1855)									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業での発表と期末レポート									
【教科書】									
プリントを配布する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 多賀 茂						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火2	授業形態	講読
題目	哲学言語としてのフランス語								
【授業の概要・目的】									
<p>実際のテキストを日本語に訳す作業を通じて、フランス語がいかに哲学言語として機能してきたかを歴史的に振り返る。文体・用語法等の特徴に注目しながら、思想家の文章を講読することによって、将来の研究のための十分な基礎となるレベルまでフランス語の読解能力を高めることをめざす。前年度を受け、今年度は19世紀のフランス思想に関わるテキストを素材とする。</p>									
【授業計画と内容】									
第1週	導入：思想と文体、フランス語とフランス思想の歴史								
第2週	19世紀の思想家達 - 1 (イデオログの未裔)								
第3週	19世紀の思想家達 - 2 (講壇の思想家)								
第4週	19世紀の思想家達 - 3 (講壇の思想家)								
第5週	19世紀の思想家達 - 4 (実証主義者)								
第6週	19世紀の思想家達 - 5 (実証主義者)								
第7週	ドイツ哲学の影響 - 1 (カントの仏語訳)								
第8週	ドイツ哲学の影響 - 2 (カントの仏語訳)								
第9週	ドイツ哲学の影響 - 3 (ヘーゲルの仏語訳)								
第10週	ドイツ哲学の影響 - 4 (ヘーゲルの仏語訳)								
第11週	ドイツ哲学の影響 - 5 (ショーペンハウエルの仏語訳)								
第12週	世紀末の思想 - 1								
第13週	世紀末の思想 - 2								
第14週	世紀末の思想 - 3								
第15週	まとめ								
【履修要件】									
フランス語の初級文法以上知識を持っていること									
【成績評価の方法・基準】									
毎回の授業での発表にもとづく平常点と最終日に行う小テストを合わせて評価する									
【教科書】									
プリントを配布する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に指示する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	人文科学研究所 助教 久保 昭博						
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	講読
題目	フランス近代詩を読む								
【授業の概要・目的】									
十九世紀後半の近代詩を読む。ボードレーを筆頭とする詩人たちの作品に触れるだけでなく、彼らが提起した文学と社会の関係の問いにも留意することによって、文学における「近代性（モデルニテ）」について考察することを目標とする。									
【授業計画と内容】									
Jean-Pierre Bertrand, Pascal Durand, Les Poètes de la modernité - De Baudelaire à Apollinaire, Seuil, 2006.を教科書として、これを読み進めつつ、取り上げられている詩作品を個別に精読する。									
【履修要件】									
フランス語の基礎的な知識が要求される。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点、期末レポート									
【教科書】									
Jean-Pierre Bertrand, Pascal Durand 『Les Poètes de la modernité - De Baudelaire à Apollinaire』 (Seuil)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	非常勤講師 津森 圭一						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3	授業形態	講読
題目	マルセル・ブルーストの詩的散文を精読する								
【授業の概要・目的】									
<p>マルセル・ブルースト（1871-1922年）が『失われた時を求めて』（1913-1927年）の発刊に先立つ数年間に『ル・フィガロ』紙に発表した新聞記事を読む。これらの記事にはいわゆる「詩的散文」が織り込まれており、のちの小説美学の精髓を予見させるものである。これらのテキストを精読することで、ブルーストに特徴的な詩的文体についての理解を深めると同時に、新聞という媒体から読み取られる当時の社会的・文化的情勢を垣間見る。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>1907年に発表された記事「自動車旅行の印象」から読み始める。読解が順調にすすめば、作家が『ル・フィガロ』紙などに発表し、のちに『時評集』（1927年）の題名のもとにまとめられた選集からテキストを選び、講読を進める。これらの記事や時評テキストと呼応する『失われた時を求めて』中のテキストも適宜紹介していく。</p>									
【履修要件】									
中級程度のフランス語読解能力のあることが好ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
授業内でフランス語テキストを訳してもらい、それをもって出席点とする。場合によってはレポート試験を課す。									
【教科書】									
最初の授業でプリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	非常勤講師 橋本 知子						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	講読
題目	ネルヴァル 『シルヴィ』 (1853) を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>ロマン主義時代を生きたジェラルド・ド・ネルヴァルは、幻視の作家と称される。短編『シルヴィ』は、主人公「わたし」があこがれの舞台女優を見つめる場面ではじまり、やがて幼なじみシルヴィへの思慕へと移りゆくが、過去と現在、回想と現前、喪失と再生、此処と余所とを行きつ戻りつするテキストは、ネルヴァルの幻視をよく表しているといえるだろう。プーレストはそれを「青みがあった、あるいは深紅にそまった」「言いあらわしえない雰囲気」と評したが、授業ではその「雰囲気」を読むような言語感覚をやしなうことを目標とする。と同時に、幻視というロマン主義に特徴的な主題を、歴史的文脈にそって考えることで、19世紀フランス文学史への理解を深めるようにする。</p>									
【授業計画と内容】									
輪読形式。ひとり半頁ほどを担当する。訳読とあわせて文法復習および文学史の解説をおこなう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価。場合に応じてレポート。									
【教科書】									
Gérard de Nerval 『Les Filles du feu. Les Chimères.』 (Gallimard, collection "Folio classique")									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(外国人実習) French Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	外人実習
題目	Grammaire et expression. Initiation a l'analyse linguistique et stylistique.								
【授業の概要・目的】									
La grammaire, le lexique, la logique du discours, sont les objets de ce cours, qui débouchera sur une initiation à la stylistique. Les étudiants seront sensibilisés à l'idée que les faits de langue sont aussi des faits de style : le sens que l'on veut donner à un message passe par le choix d'une manière de s'exprimer. Le but de ce cours est d'aider les étudiants à utiliser les structures linguistiques les plus appropriées à leurs intentions de communication, et de leur apprendre à analyser le sens de tout type de texte (pas nécessairement littéraire) à partir de son organisation formelle.									
【授業計画と内容】									
Le cours se déroule sous la forme d'exercices variés : questionnaires, énoncés à compléter, rédaction de textes simples, transformations de phrases liées à des variations de points de vue. Les structures grammaticales, les champs lexicaux, les outils de l'énonciation, les catégories du récit et du discours, sont les objets de ces travaux pratiques et de cet apprentissage.									
【履修要件】									
Ce cours est destiné aux étudiants de troisième année qui se spécialisent en littérature française. Mais tous les étudiants souhaitant ou devant utiliser le français dans le cadre de leurs recherches peuvent y trouver un intérêt.									
【成績評価の方法・基準】									
Ce cours donnera lieu à deux contrôles effectués à la fin de chaque semestre (juillet et janvier). Mais la note obtenue lors de ces contrôles sera complétée et pondérée par une appréciation de l'assiduité et de la participation tout au long de l'année.									
【教科書】									
pas de commentaire									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Le professeur n'assure pas de permanence, mais est à la disposition de tous les étudiants qui souhaitent prendre rendez-vous. NB : Due to improper settings, KULASIS is unable to enter up the specific French graphic signs. I apologize about this regrettable fact. オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

イタリア語学イタリア文学専修

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)		担当者氏名	文学研究科 教授 天野 恵					
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	ピエトロ・ベンボ『俗語論』分析								
【授業の概要・目的】									
<p>イタリア文学の諸ジャンルの中でも最も重要かつ最も受容の困難な詩的言語の成立に当たって決定的とも言える重要性を果たした Pietro Bembo の <i>Prose della volgar lingua</i> の読解を通じて、イタリア文学の本質に迫る。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>活版印刷術の普及に伴って沸き起こった16世紀の《言語論争》に終止符を打つことに成功したベンボの『俗語論』<i>Prose della volgar lingua</i> の第3巻を講読しつつ、そこで扱われるイタリア語の詩に関する具体的な指針と、その成立過程を分析する。1525年の初版（Tacuino版）と1538年の第二版（Marcolini版）、1549年の決定版（Torrentino版）の他、残された唯一の手稿である Vaticano Latino 3210 を適宜参照する。高度な内容の授業であるが、学部学生のためにも懇切な解説を心掛けるのでイタリア文学の持つ精緻性に関心のある学生には奮って参加を呼び掛ける。また、こうした授業への参加により大学院生の先輩との間に学問的交流が生まれることをも期待する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 ダニエラ・ヴァガータ						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	Corso monografico di letteratura italiana								
[授業の概要・目的]									
Primo Semestre: Lettura della "Gerusalemme Liberata"									
Secondo semestre: "Vita d'un uomo"									
[授業計画と内容]									
Primo Semestre: Lettura della "Gerusalemme Liberata"									
In questo corso verra' affrontata la lettura integrale della "Gerusalemme Liberata" di Torquato Tasso. Agli studenti verra' richiesta settimanalmente la lettura e la parafrasi di un canto della "Gerusalemme Liberata", il quale verra' successivamente spiegato e commentato durante la lezione. Saranno consegnate delle pagine di critica da leggere come approfondimento.									
Secondo semestre: "Vita d ' un uomo"									
Corso monografico dedicato alla figura Giuseppe Ungaretti nella sua evoluzione poetica. In particolare verra' affrontato lo studio di Ungaretti in rapporto alle diverse esperienze e avanguardie letterarie, dando ampio spazio allo studio delle innovazioni metriche del poeta. Sono previsti degli ascolti della dizione del poeta. E' richiesto agli studenti del corso un intenso coinvolgimento nelle attivita' seminariali attraverso l ' approfondimento individuale o di gruppo di alcuni argomenti trattati.									
[履修要件]									
E' indispensabile un'ottima conoscenza della lingua italiana.									
[成績評価の方法・基準]									
E' ammessa una sola assenza.									
E' previsto un esame finale.									
[教科書]									
Dispense consegnate settimanalmente in classe.									
[参考書等]									
(参考書)									
特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Lezioni di tipo seminariale. E' prevista la partecipazione attiva degli studenti. Programma suscettibile di alcuni cambiamenti.									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 ダニエラ・ヴァガータ						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	特殊講義
題目	Storia della letteratura italiana								
【授業の概要・目的】									
Primo semestre: Storia della letteratura I Secondo semestre: Storia della letteratura II									
【授業計画と内容】									
Corso dedicato all' apprendimento della storia della letteratura italiana, dalle origini fino alla seconda meta' del Novecento. In questo corso e' prevista la lettura di estratti dalle opere maggiori degli autori piu' rappresentativi della letteratura italiana. Sara' dato spazio sia all' apprendimento di nozioni di storiografia, sia allo svolgimento ermeneutico del testo (parafraasi, commento, interpretazione). Sono previste alcune lezioni di introduzione alla storia della lingua italiana e all' analisi testuale. Durante l' arco dell' intero semestre a ciascuno studente verra' richiesta la lettura individuale di un' opera poetica o narrativa di uno degli autori presi in esame.									
【履修要件】									
Corso particolarmente impegnativo e destinato esclusivamente a studenti di lingua italiana di livello intermedio e superiore, e a coloro che affrontano per la prima volta lo studio della letteratura italiana.									
【成績評価の方法・基準】									
E' ammessa una sola assenza. E' previsto un esame finale.									
【教科書】									
Dispense consegnate settimanalmente in classe.									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Lezioni di tipo seminariale. オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	大阪大学 世界言語研究センター 村瀬 有司						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	Torquato Tassoの詩と詩論								
【授業の概要・目的】									
<p>前期の授業では、16世紀後半のイタリアを代表する詩人トルクァート・タッソの詩論を精読する。タッソは、十字軍による聖地解放を歌った傑作『エルサレム解放』("Gerusalemme liberata")の創作に当たって、英雄叙事詩の創作技法を研究し、その成果を数冊の著作にまとめ上げている。今期の授業では、彼の最初の詩論"Discorsi dell'arte poetica"を取り上げて、「模倣」や「本当らしさ」といった重要概念に着目しながら、タッソの問題意識並びに西洋の伝統的な創作概念についての理解を深めていく予定である。</p> <p>後期の授業では、前期で取り上げたタッソの創作理論を踏まえつつ、実際に『エルサレム解放』を精読する。</p> <p>どちらの授業でも、テキストの読解能力を養成することが大きな目的となる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期の授業では、タッソの"Discorsi dell'arte poetica"（全3巻）の第1巻冒頭から精読する。16世紀の散文なので読みづらいところもあるが、内容は明快な論理にしたがって展開されており、決して曖昧ではない。イタリア語の文法にしたがって、語句と語句、節と節の関係をきちんと把握しながら、正確にテキストを読解する能力を培って頂きたい。一回当たりの進度は1～1.5ページを予想している。</p> <p>後期の授業では"Gerusalemme liberata"の第2歌冒頭から精読する。こちらは韻文作品であるために少し難しいところがあるが、参加者は原文を読み込んで、自分なりに意味をつかみ取ることに努めてもらいたい。慣れないうちは予習に時間がかかるだろうが、この機会に是非ともイタリア語詩の読解力を培って頂きたい。授業では、当時の韻文に特有な表現を解説しながら、1回あたり12stanzeを目処に、丁寧に読み進めていく予定である。</p> <p>なお、前期・後期どちらの授業でも、簡単な小テストで予習確認を行う。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席点・小テストをもとに評価する。									
【教科書】									
使用しない プリント配布。 『詩学・詩論』(岩波文庫)									
【参考書等】									
(参考書) アリストテレス、ホラーティウス 『詩学・詩論(岩波文庫)』									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	東京大学 大学院人文社会系研究科 教授 長神 悟						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	近代イタリアの言語問題：マンゾーニの場合								
【授業の概要・目的】									
近代イタリアの文豪 A.マンゾーニ(1785-1873)は、「言語問題」にも深く関心を抱き、数多くの論考を著わしている。本集中講義ではそのうちの何点かを選んで精読し、マンゾーニの言語観を考察する。昨年度の集中講義で取り上げたG.I.アスコリ(1829-1907)の言語観との違いについても言及する。									
【授業計画と内容】									
以下のテキストに収められた論考を講読する。 Tutte le opere di Alessandro Manzoni, Scritti linguistici e letterari (3 tomi), a cura di L. Poma e A. Stella, Mondadori, 1974-91									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業出席状況、レポートによって総合的に評価する。									
【教科書】									
コピー配布									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 特になし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 天野 恵 文学研究科 特定准教授 ダニエラ・ヴァガータ				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3,4 隔週	授業形態	演習
題目	イタリア文学研究の諸問題								
【授業の概要・目的】									
研究論文執筆のための訓練と準備を目的とする演習である。《勉強》と《研究》の相違を明確に認識することから始めて、問題の設定と論証のプロセス、それらの表現方法、そして文献目録の作り方等の細部に至るまでを、学生が行なう実際の研究に沿って学習する。									
【授業計画と内容】									
学部生の場合は卒業論文、大学院生の場合は修士論文ないし研究報告や学術専門誌への投稿を念頭においた研究論文等の計画段階から、各自の研究テーマについて順次発表し、これに対して教員が具体的な指導を行なうと同時に、他の学生もまた自由に意見を述べつつ具体的な検討を加える。多くの場合、個人作業が中心となる文学研究においては、ともすると個々の学生・研究者が孤立しがちであるが、これは客観性を欠かすことのできない研究にとって決して好ましいことではない。また、他人の研究を適切に論評することは、自分の研究能力の向上にダイレクトにつながる。研究者を志す者ならば、学部学生からODまでキャリアの長短を問わず、誰もがそれぞれ得るところの多い演習である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席点および平常点。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) なし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
原則的には隔週開講の授業であるが、学生の希望があればこれに限定されることなく時間の許す限り開講する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 天野 恵				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	20世紀のイタリア文学(小説)								
【授業の概要・目的】									
<p>ジョルジョ・バッサーニの『フェラーラ物語』の講読を通じて、20世紀後半のイタリア文学が問題としたテーマの一つを認識し、かつ現代イタリア文学の読解に習熟することを目指す。単に「現代小説を読む」のではなく、われわれ現代の日本人のそれとは異なる価値観やメンタリティーを有する人々の問題意識を明確に認識することを授業の目標とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>形式的には、毎週の授業において現代小説を少しずつ読み進めるだけであるが、相手はわれわれ現代の日本人を读者として想定しているわけではないので、語学上の知識のみならず、ファシズム期から戦後にかけてのイタリア知識人の置かれた立場や、フェッラーラという北イタリアの地方都市の中の複雑な人間関係を把握することが要求される。ただし、こうした作業が困難なものであることは明らかであることから、授業においてはできるだけ平易な解説を行なうことにより、予習段階での学生の負担は少なくするよう最大限の努力を行なう予定。</p>									
【履修要件】									
改めて言うまでもないことではあるが、初級のイタリア語を習得していることが条件となる。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する 作品内容の理解は当然の前提となるが、難解な作品の場合、教員から説明を行なうので、この面において予習等に多大な時間を割く必要はない。</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 天野 恵						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	ダンテ『神曲』読解								
【授業の概要・目的】									
14世紀から現代に至るイタリア文学の、どこをどのように研究するに当たってもダンテの『神曲』を避けて通ることはできない。従って授業の目的はおのずから明らかであろう。《『神曲』の読み方》の習得である。									
【授業計画と内容】									
『神曲』地獄篇の中の特になし有名ないくつかのカント（歌）を、現代の注釈とともに読んでいく。韻文作品である以上、詩形やイタリア詩特有のリズムを捉えることは非常に重要であるが、まずは内容が理解できなくては話にならないので、その面における予習は必須である。授業においては、3行からなる単位(terzina)ごとに区切って、該当部分の注釈を参照しながら読解していく。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
コピー配布									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
難解な作品であり、予習の段階ですべてを理解しておこうとして多大な時間を割く必要はない。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 天野 恵				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	講読
題目	イタリア史概説講読								
【授業の概要・目的】									
<p>文学作品ではなく歴史書を講読することにより、イタリア文化研究をめざす学生に要求される知識を提供しながら、様々な専門分野の学術論文をはじめとする知識人向けに書かれたイタリア語文献を読解・理解する能力を育成する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>ルイジ・サルヴァトレッリによるイタリア史概説書から近代史の章のいずれかを選んで講読する。歴史書の場合、当然ながら日本人によって執筆されたものとは史観が異なるうえ、前提として読者に要求される知識や価値観もイタリア人を念頭に置いたものであることから、これを読むことは語学の訓練にとどまらず、イタリア文化そのものとダイレクトに接触することを意味する。従って、本講読の目的は学生の語学力を充実させることにあるものの、イタリアに関する文化的な興味を抱いていることが当然の前提となる。なお、具体的にどの時代についての記述を講読の対象とするかについては、実際に履修する学生の要望に応じて決定する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点を基準とする。出席および予習の精度により判定を下す。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
(参考書) なし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	神戸大学 留学生センター 教授 河合 成雄						
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	講読
題目	Luigi Pirandelloとその周辺の作品を読む								
[授業の概要・目的]									
イタリア現代文学での重要な作家ピランデッロとその周辺の作家の作品に親しむとともに、イタリア語の基礎的な読解力を習得すること									
[授業計画と内容]									
前期では、ピランデッロの2、3本の短篇小説を読む。 後期では、ピランデッロの戯曲をDVDでも鑑賞しながら読み、さらにはピランデッロに影響を与えた作家、またピランデッロから影響を受けた作家の作品から部分的に抜粋して精読する。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
年度末試験(60%)と通常の授業時の発表(40%)から評価する。									
[教科書]									
テキストはコピーして配布									
[参考書等]									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(外国人実習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 ダニエラ・ヴァガータ						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	外人実習
題目	Esercitazioni di lingua italiana								
【授業の概要・目的】									
Lettura e analisi testuale di alcuni brevi racconti, articoli o favole italiani									
【授業計画と内容】									
La scelta dei testi da leggere sarà attentamente valutata durante le prime lezioni dell'anno accademico in base al livello di conoscenza della lingua italiana da parte degli studenti. A secondo del livello complessivo della classe verranno svolte alcune lezioni di introduzione all'analisi del testo letterario (analisi narratologica e stilistico-retorica). In questo corso è prevista la partecipazione attiva dello studente al quale sarà chiesto di intervenire in sede di commento del testo. Tra gli argomenti di discussione saranno affrontati anche temi volti a far riflettere sulle differenze culturali tra l'Italia e il Giappone.									
【履修要件】									
E' ammessa una sola assenza. E' previsto un esame finale.									
【成績評価の方法・基準】									
Corso destinato a studenti che sono già in possesso di una conoscenza basilare della lingua italiana.									
【教科書】									
Verrà distribuita una dispensa settimanalmente.									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Si richiede una partecipazione attiva da parte dello studente attraverso lo svolgimento di esercizi e la composizione di un diario.									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スペイン語(初級)(語学) Spanish			担当者氏名	大阪大学 大学院言語文化研究科 准教授 長谷川 信弥				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	語学
題目	スペイン語(初級)								
【授業の概要・目的】									
スペイン語の初級文法を教科書に沿って学習する。授業は文法事項の解説と練習問題からなる。初級文法を一通り学習するので進度が速く、そのため予習は必須である。									
【授業計画と内容】									
第1週：オリエンテーション、文字と発音 第2 - 4週：第1 - 2課[名詞、冠詞、主語人称代名詞、動詞現在形など] 第5 - 7週：第3 - 4課[ser・estar・hay、所有詞、指示詞など] 第8 - 11週：第5 - 6課[目的格人称代名詞、gustar構文など] 第12 - 15週：第7 - 8課[点過去、比較表現、疑問詞、感嘆文など]と試験 第15 - 18週：第9 - 10課[線過去、時刻表現、現在完了、過去完了など] 第19 - 20週：第11 - 13課：[未来形、接続法の活用、使役の構文など] 第21 - 24週：第14課[命令形、接続法] 第25 - 26週：文法補遺の確認 第27 - 30週：復習および試験									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験(筆記、年2回、70%)、出席点(30%)									
【教科書】									
中岡省治・他著『スペイン語への架け橋』(白水社)ISBN:978-4-560-01673-2									
【参考書等】									
(参考書) 辞書：『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』(小学館) 辞書：『現代スペイン語辞典』(白水社) 上田博人『スペイン語文法ハンドブック』(研究社)ISBN:978-4-327-39420-2(中級まで対応した新しい文法解説書(3,200+税))									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スペイン語（中級）（語学） Spanish			担当者氏名	大阪大学 大学院言語文化研究科 准教授 長谷川 信弥				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	語学
題目	スペイン語（中級）								
【授業の概要・目的】									
<p>スペイン語の初級文法を終えた学生を対象とし、比較的容易なスペイン語のテキストを講読する。新聞記事や小説など様々な種類の文章を読み、読解力の向上を目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業では、まずスペイン語初級文法を復習するため、初級文法の参考書を参照しつつ、平易なスペイン語文を読み、これまでの文法知識を確認していく。 そのうえで、比較的容易なスペイン語テキストを講読していくが、履修者は毎回の授業で、与えられたテキストを日本語に訳すこととする。そのため、毎回の授業前の予習は必須である。 講読するテキストは受講者の希望も取り入れるが、容易なテキストから始め、新聞記事や短編小説を中心とした文学作品も講読の対象とし、さまざまな種類の文章に慣れるよう努力する。</p>									
【履修要件】									
<p>スペイン語の初級文法が修得済みであること。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>試験（年2回、筆記、70%）、平常点(出席点等、30%)</p>									
【教科書】									
<p>プリントを配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級までを対象とした新しい文法参考書(¥3,200+税)）</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>特になし</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	イタリア語（初級4時間コース）（語学） Italian (4H)			担当者氏名	非常勤講師 菅野 類				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3,金2	授業形態	語学
題目	イタリア語（初級）								
[授業の概要・目的]									
<p>イタリア語文法の基礎を学習し、読み書きに必要な知識の習得を目指す。授業の進め方としては、文法解説の後に練習問題を解いてもらい知識の定着を図るというオーソドックスなものを想定している。イタリア語に興味のある初心者を対象とするが、相応の努力は求められる。毎回予習を行い、自分が理解できる部分とそうでない部分を明らかにしたうえで授業に望むことが望ましい。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>第1週：オリエンテーションと発音 第2 - 3週：Lezione 1 [名詞、動詞 essereなど] 第4 - 5週：Lezione 2 [形容詞、規則動詞の直説法現在など] 第6 - 7週：Lezione 3 [動詞 avere、不規則動詞の直説法現在など] 第8 - 9週：Lezione 4 [補助動詞、補語人称代名詞など] 第10 - 11週：Lezione 5 [直説法近過去、再帰動詞など] 第12 - 13週：Lezione 6 [直説法未来、ジェルンディオなど] 第14 - 15週：Lezione 7 [直説法半過去、比較級など] 第16 - 18週：Lezione 8 [命令法、受動態、関係代名詞など] 第19 - 20週：Lezione 9 [接続法現在・過去など] 第21 - 22週：Lezione 10 [条件法現在・過去など] 第23 - 24週：Lezione 11 [接続法半過去・大過去など] 第25 - 26週：Lezione 12 [直説法遠過去など] 第27 - 30週：講読</p> <p>学習の理解度に応じて、変更される場合がある。</p>									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点 50% 試験 50%									
[教科書]									
東京大学イタリア語教材編集委員会 『イタリア語のスタート 文法と練習』（白水社）ISBN:978-4-560-01763-0									
[参考書等]									
（参考書） 郡史郎・池田廉 『ポケットプログレッシブ 伊和・和伊辞典』（小学館）ISBN:4-09-506121-9									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語会話（中級）（語学） Spoken Italian			担当者氏名	文学研究科 特定准教授 ダニエラ・ヴァガータ			
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態
題目	イタリア語会話（中級） Conversazione in italiano (livello intermedio)							
【授業の概要・目的】								
Il corso si propone lo sviluppo delle quattro abilità base della comunicazione (parlare, scrivere, leggere e ascoltare), con una particolare attenzione alla comunicazione orale.								
【授業計画と内容】								
Attraverso lo studio di alcuni temi vicini ai bisogni reali della vita in Italia, si applicano le nozioni grammaticali precedentemente studiate, e si acquisisce gradualmente il nuovo lessico rilevante ai fini del tema trattato. Sarà dato ampio spazio alla conoscenza di alcuni aspetti preponderanti della cultura italiana attraverso l'ascolto di canzoni, la visione di film, e la lettura di brevi articoli dai principali quotidiani italiani. E' inoltre previsto il ripasso e l'approfondimento di alcune nozioni di sintassi e di grammatica della lingua italiana attraverso lo svolgimento di alcune esercitazioni scritte e orali. Questo corso e' rivolto agli studenti di italiano elementare e intermedio di tutte le facolta'. E' richiesta una partecipazione attiva da parte dello studente.								
【履修要件】								
E' indispensabile una conoscenza basilare della lingua italiana.								
【成績評価の方法・基準】								
E' ammessa una sola assenza. E' previsto un esame finale.								
【教科書】								
Il materiale verra' distribuito in dispensa settimanalmente.								
【参考書等】								
（参考書） 特になし								
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））								
Si richiede una partecipazione attiva da parte dello studente anche attraverso lo svolgimento di esercizi e lo svolgimento di un diario settimanale.								
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。								

《歴史基礎文化学系》

授業科目名 <英訳>	日本史学(講義) Japanese History (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 勝山 清次				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	講義
題目	日本史学講義								
【授業の概要・目的】									
<p>皇祖神を祀る伊勢神宮は、律令国家の成立とともに最高神の地位を確立し、国家機関として国家守護の中心的な役割を果たした。やがて律令制が動揺すると、自立化の途を歩みはじめ、中世社会が成立するにともない、王権を守護する権門勢家に転生する。この最高神として王権・国家を守護する伊勢神宮の歴史をたどりながら、古代・中世の王権のあり方と神祇信仰の変化を考察する。あわせて中世史を中心に、日本史に関する基礎的事柄の説明を行い、その習得に資するようにする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の課題について、それぞれ2、3回、関連する史料を用いつつ、論じる予定である。伊勢神宮の起源、国家の守護神、神宮の祭祀、伊勢の遷宮、禰宜・権禰宜の台頭と御厨・御園の形成、祭主の神宮・神郡支配、神人強訴、神宮の託宣と天皇、怪異とト占、祭神の変容と伊勢信仰の広がり、権門勢家としての神宮。 講義のなかで、日本史研究の進め方や古代・中世史料の読み方にも触れる予定である。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験で筆記試験を行う。									
【教科書】									
使用しない 史料はその都度、配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 関連する重要な研究はその都度、紹介する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(講義) Oriental History (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 杉山 正明				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水1	授業形態	講義
題目	東洋史学講義： アジア史から次なる地平へ								
【授業の概要・目的】									
日本における歴史の教育・研究は、長く日本史・東洋史・西洋史の三分方式が続いてきたが、近年の世界の多極化とグローバル化により新たな展開が必然となりつつある。この講義では、アジア史から次なる地平を考える。									
【授業計画と内容】									
以下の各テーマのもとに、それぞれ1～3週の割合で授業をすすめる。 歴史から現在を眺める。「歴史とはなにか」を問うことと『歴史』・『世界史』を名乗る過去の東西の代表的な著作。日本の歴史学と世界のあり方。アジア史というスタンスとその実際。「東アジア」は一体いつからか。中国というかたまりとその変遷・現実。中央ユーラシアという括りとユーラシア。モンゴル時代とポスト・モンゴル時代。アジアから見たルネサンス。ロシアとはなにか。ユーラシアそして世界。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とその時々のレポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) とくにありません									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
とくにありません									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(講義) West Asian History (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 井谷 鋼造				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	講義
題目	西南アジア史学序説								
【授業の概要・目的】									
歴史学一般、特に西アジア史、中央アジア史に関心を持ち、この分野を学んで行こうとする学生に対して、現代人が学び、知る必要のある歴史とは何か、ということを中心に考慮しながら、入門・概説的な授業をおこなう。									
【授業計画と内容】									
授業は概ね次のような順序で行う予定である。 1．京都大学における西南アジア史研究の歴史 2．西南アジア、中央アジア地域の特性 3．歴史の概説 文明の発生と前3千年紀シュメール、アッカド時代 4．歴史の概説 前2千年紀の西アジア 5．歴史の概説 前1千年紀 大帝国の時代 アッシリアからローマ 6．歴史の概説 西アジアの諸宗教 7．歴史の概説 西暦紀元後の西アジア 8．歴史の概説 イスラームの開教と発展									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
履修者数によるが、受講者多数の場合(30名以上)は筆記試験を行ない、その点数によって評価する。受講者が少ない場合はレポートを提出させて評価する。									
【教科書】									
使用しない 必要な資料は適宜コピーして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(講義) European History (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 服部 良久				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火1	授業形態	講義
題目	西洋史学序説								
【授業の概要・目的】									
19世紀以来の近代歴史学においてヨーロッパの歴史研究者とヨーロッパ史研究、そして日本のヨーロッパ史研究が果たしてきた役割、意義と問題点をふまえ、今日の歴史学とヨーロッパ史研究の課題を考える。これをふまえて、たとえば国民国家の枠組みを相対化する、トランスナショナル、ポスターレスといった、いくつかの具体的なヨーロッパ史研究の動向や成果を紹介、検討する。									
【授業計画と内容】									
1 「ヨーロッパ」とは何か 2 19世紀～20世紀初頭のヨーロッパにおける歴史学 3 第二次大戦後のヨーロッパにおける歴史学の展開と日本の歴史学 4 1970年代以後の日欧におけるヨーロッパ史研究 5 EU時代、グローバル化時代のヨーロッパ史研究 6 トランスナショナルのヨーロッパ史 7 ヨーロッパ史における民族とアイデンティティ 8 ヨーロッパ史における地域と国家 各々3～4週の授業を行う予定。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
講義内容と、これに関連する事柄に関する知識や思考力を問う筆記試験を行う。									
【教科書】									
使用しない 随時、資料を配付する。									
【参考書等】									
(参考書) 服部良久他編著『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』(ミネルヴァ書房) ISBN:9784623045921(ヨーロッパ史に関する知識が不十分な受講生のための概説書) 小山哲他編著『大学で学ぶ西洋史[近現代]』(ミネルヴァ書房) ISBN:9784623059386(同上) その他の参考文献は講義中に指示する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	先史学(講義) Prehistoric Archaeology (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 泉 拓良				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火1	授業形態	講義
題目	先史学講義(系共通科目)								
【授業の概要・目的】									
先史学の基礎、特に研究方法を中心に講義し、その具体的な研究として日本の縄文時代研究を概説する。文字のない時代の歴史をどの様にして明らかにしていくのか、そしてその研究の限界はどこにあるのかを学び、考古学の基礎を習得することを目指す。									
【授業計画と内容】									
1 課題あたり 1 ~ 2 週の授業を予定する。前期は研究法を中心にすえ、先史考古学研究略史、先史考古学資料論、発掘調査法の変遷、考古年代決定法(層位学と型式学)、自然科学的年代決定法(放射性炭素年代決定法、年輪年代決定法)、文化伝播論(考古資料の空間論と考古学で扱う文化の問題)、人類進化と石器の発達、を講義する。 後期は、縄文時代研究概説を中心にすえ、東アジア・日本における土器の出現と定住的狩猟採集文化の成立、縄文時代の定義とその議論、初期縄文時代の停滞、縄文時代生業論(環境変化と生業の変遷)、縄文時代の集落と墓地、分業の問題、縄文時代の多様な交易、縄文時代の宗教と儀式、を講義する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業後に随時おこなう小試験と、前期末・学年末に行う試験の成績で評価する。									
【教科書】									
なし。パワーポイント授業。スライドのプリントは授業時に配付する。 配付する資料は、あくまでも補助教材であり、講義する内容が本体である。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
4 回生以上は考古学講義に読み替えることができる。先史学講義は、来年度は開講しない。質問は授業終了後に受け付ける。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

日本史学専修

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 横田 冬彦				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水1	授業形態	特殊講義
題目	近世書物文化史の研究								
【授業の概要・目的】									
近世の書物文化を、出版の側からだけでなく、読者の側から考察する。主として17世紀末～18世紀初の元禄・享保期を対象とする。									
【授業計画と内容】									
1、問題の所在 （出版・作者ではなく、読書・読者を問題にする意味を述べる） 2、民衆社会における読者と蔵書の形成 （村や町における読者の実態、書物の流通構造とその蔵書の形成過程を明らかにする） 3、書物と読書 （軍書・歴史書、医学・本草書、農書、仏書などをとりあげ、それらが読者によって読まれ、あらたな思想形成をうながす過程を明らかにする） 4、書物知と権力 （書物知が近世民衆社会に広がることの意味を考える）									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期・後期末のレポート。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉川 真司				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	律令体制史研究								
【授業の概要・目的】									
<p>7世紀中葉～10世紀中葉の日本(倭)王朝は、律令体制という中央集権的国家体制を形づくって列島社会に君臨し、400～500万の人民を強力に支配した。その統治システムは、前方後円墳体制下の伝統的制度に唐から直輸入された体系的法制を接ぎ木したもので、後世にも大きな影響を与えることになった。</p> <p>本授業では、研究史をトレースした上で、律令体制の特質と変遷について大観を試み、日本古代史全般に関する理解を深めたい。その際、硬直した「律令制」研究に絡めとられないためにも、列島内外の政治・社会の実態把握に力を注ぎ、国家体制との関わりを論じようと思う。遺跡見学・踏査を授業の一環としているのも、そのような意図に基づくものである。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>下記テーマについて、それぞれ3～4回の授業を行なう予定である。</p> <p>(1)律令体制の研究史 (2)律令体制の諸段階 (3)律令官僚制 (4)律令公民制 (5)律令租税制 (6)律令体制と国際関係</p> <p>これに加えて、前期・後期に1回ずつ、律令体制期の遺跡見学・踏査を実施する。</p>									
【履修要件】									
見学・踏査のため、学生教育研究災害傷害保険への加入が必要									
【成績評価の方法・基準】									
年度末レポートによる									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 谷川 穰				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	近代国家と仏教								
【授業の概要・目的】									
<p>日本近代史研究、そして仏教史の研究においても、近代仏教は圧倒的にマイナーな位置におかれてきた。しかし昨今、その研究状況が大きく変わりつつある。思想、社会事業などの面以外にも、政治権力との濃密な関係、教育制度への関与、戦争協力、そして学知や国際交流など、決して無視できない多様な側面を有している。本研究では、とりわけ明治期における浄土真宗の動向を中心に、神道やキリスト教との関連も視野にいれつつ、知られざる政治/社会史について論じる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のテーマについて論じる予定。 廃仏毀釈・上地/信教の自由と日本型政教分離/大遠忌と記念事業/皇室との関係/教団自治と議会制度/地域社会と寺院/東アジアへの開教/若者文化としての仏教/教育・医療・慈善/従軍布教と戦没者法要/女性と仏教/「仏教史学」の形成/万国宗教会議、など。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末のレポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 元木 泰雄				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	『吾妻鏡』文治元年を読む								
【授業の概要・目的】									
『吾妻鏡』の記述を中心に、源平争乱の実態を史料に即して解明する。 範頼の平氏追討、屋島・壇ノ浦合戦、義経と頼朝との対立、守護地頭問題などについて取り上げ、『玉葉』などの古記録や『平家物語』諸本と比較検討する。当該期の実態を理解するとともに、史料批判、読解能力を錬成する。									
【授業計画と内容】									
『吾妻鏡』の記述を読みながら、解釈するとともに、合戦や政治情勢の実態を解明する。 序論 源平合戦の概要 1. 範頼の平氏追討と頼朝書状。 2. 屋島合戦。義経出撃と合戦の実態。 3. 壇ノ浦合戦。合戦の実態と意味。 4. 頼朝と義経の対立。無断任官問題、梶原景時の讒言。 5. 義経の鎌倉下向。腰越状の真偽。 6. 義経に対する抑圧。 7. 義経の拳兵。 8. 地頭設置と実態。国地頭論。 9. 廟堂改革とその意味。 概ね以上のテーマを2, 3回に分けて説明する。 毎回、史料を配布し、出席者に読み下してもらう。									
【履修要件】									
ある程度の漢文読解力を前提とする。									
【成績評価の方法・基準】									
試験、平常点も加味する。									
【教科書】									
毎回プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 元木泰雄 『源義経』(吉川弘文館)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 岩城 卓二				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	畿内社会論								
【授業の概要・目的】									
<p>畿内社会からみた日本近世社会の特質について講義する。具体的には、まず大坂の政治・経済的位置、所領配置について講義し、次に畿内社会に生きた人びとの視点から、17世紀の経済成長と、18世紀以降の「安定」について考え、近世日本の「平和」と「安定」についての理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<ol style="list-style-type: none"> 1．幕府軍事拠点大坂の誕生と徳川大坂城 2．所領配置論 3．大坂町奉行所の広域支配 4．尼崎藩の領国支配 5．畿内農村と労働力移動 6．米穀流通 7．幕末期の畿内社会 <p>各テーマについて、4～5週の講義をする。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末のレポート。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	総合博物館 教授 岩崎 奈緒子				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	近世後期日本における世界認識の転換とその影響								
【授業の概要・目的】									
天明期から寛政期にかけての時期は、近世日本の世界認識が大きく変わる時期にあたる。世界認識の変化が何を契機として起こり、その転換が日本人の意識にどのような影響を与えたのかを、幕末のウェスタンインパクトとそれへの対応を視野に入れながら、考察する。									
【授業計画と内容】									
以下の各課題について、5～6週の授業をする予定である。									
1 世界認識の転換の契機 ロシアの出現 日本の国家意識の変化									
2 世界認識の転換の実相 新井白石『采覧異言』 山村才助『増訳采覧異言』									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる（論述の内容について、総合的に判断する）。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	佛教大学 歴史学部 教授 原田 敬一				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	日本近代都市史研究の再検討								
【授業の概要・目的】									
日本近代都市史研究は若い学問である。1980年代に始まり、ようやく30年の研究蓄積をもった。それらを振り返りながら、現代の研究課題に迫っていく。授業は資料プリントを多用して行うので、欠席者は自らプリント入手に努力してほしい。									
【授業計画と内容】									
授業計画と内容 1．日本近代都市史研究の現在 2．近世都市から近代都市へ、さらに現代都市へ 3．近代都市の政治史 4．近代都市社会について 5．近代都市の文化について 以上の各テーマにつき、5，6回程度の講義を行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末レポートによる。授業を踏まえた課題提出になる。その前提で自由に叙述したレポートを求める。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 近代都市史に関する研究書を読み、授業中に質問することを歓迎する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	関西大学 文学部 教授 原田 正俊				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	中世仏教の再編と東アジア								
【授業の概要・目的】									
<p>日本の中世社会において仏教・寺社勢力は大きな社会的影響力を持っており、これまで様々な角度から研究が進められてきた。しかし、中世仏教の展開は一国内での展開を中心に論じられてきた傾向があり、本講義では大陸仏教の影響も含めながら鎌倉時代末以降に顕著となる中世仏教の再編過程を論じていく。思想・儀礼・仏事法会・国家との関係・寺院組織・修道生活・寺院景観などの論点からこれを明らかにしていく。受講生には中世仏教と社会の関係性を理解してもらうことを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の課題について、1課題あたり3～4週の講義をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 中世仏教史研究の動向 2, 東福寺・泉涌寺と九条家 3, 渡来僧と鎌倉・京都の禅林 4, 女性と仏教の関係の変化 5, 死生観と禅宗 6, 南北朝期の寺社勢力と公武政権 7, 天龍寺・鹿王院文書に見る禅寺の展開 8, 五山官寺体制と大陸仏教 9, 禅宗の仏事法会と顕密仏教 10, 戦国・織豊期の寺社 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末のレポートで評価する。									
【教科書】									
参考資料は適宜コピーして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院文学研究科 教授 飯塚 一幸				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	自由民権運動の再検討								
【授業の概要・目的】									
自由民権運動は戦後日本近代史研究の中心的テーマの一つであった。その研究方法は、発展図式論から諸潮流の相互関係論へ、さらには政治文化の変容論へと変化してきたが、その過程で政治史からの自由民権運動研究は沈滞状況に陥って久しい。本講義では、自由民権運動史の原点である『自由党史』の文献批判を交えながら、主に政治史の視点から自由民権運動の再検討を行い、近代日本の政治史に関する基礎的知識を養うと同時に、研究史への批判的態度を身につけることをめざす。									
【授業計画と内容】									
1. 愛国公党と民撰議院設立建白書 2. 愛国社の創立と大阪会議 3. 地方官会議と地方民会 4. 都市民権派の成立と展開 5. 西南戦争と自由民権運動 6. 政府内の憲法構想 7. 国会期成同盟と私立国会論 8. 私擬憲法の諸相 9. 明治十四年の政変と自由党の成立 10. 自由党広域蜂起派と激化事件 11. 激化事件とモラル・エコノミー論 12. 大阪事件 以上のテーマについて講義を行う予定である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。具体的には授業で指示する。									
【教科書】									
教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 板垣退助監修 『自由党史・上』 (岩波書店) ISBN:4-00-331051-9 板垣退助監修 『自由党史・中』 (岩波書店) ISBN:4-00-331052-7									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)		担当者氏名	山口大学 人文学部 教授 橋本 義則					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	日本古代宮都をめぐる諸問題								
【授業の概要・目的】									
日本の古代宮都（宮室・都城）は、律令を基本とした日本における古代統一国家の「首都」である。その構造には古代国家の政治体制が直接的に反映していると考えられることから、宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都を概観するとともに、そこから生じる宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げ、古代宮都の実態をできる限り明らかにし、さらに日本の古代社会についても考えを及ぼしてみたい。また、日本の古代宮都を東アジアの都城と比較する試みについても考えてみたい。									
【授業計画と内容】									
主として以下のテーマについて、おのこの1～3回の授業を予定している。ただし授業の個別テーマは今後変更・追加の可能性があり、また授業の進行は以下の順によるとは限らない。 （1）日本古代宮都の研究史と研究法 （2）日本古代宮都展開（概要） （3）古代宮都と天皇制 （4）古代宮都と女性 （5）古代宮都と氏・家 （6）日本古代宮都と東アジアの都城 （番外）東アジア都城遺跡の現状（PPTによるスライドを予定）									
【履修要件】									
ノートパソコン必携。									
【成績評価の方法・基準】									
試験（授業内容の理解力を見るための試験）。									
【教科書】									
使用しない 必要なレジュメは電子ファイルで配布の予定。									
【参考書等】									
（参考書） 岸 俊男 『日本古代宮都の研究』（岩波書店）ISBN:4000016652（日本古代宮都研究の基本文献） 岸 俊男 『日本の古代宮都』（岩波書店）ISBN:400001698（日本古代宮都に関する基本的概説） 今泉隆雄 『古代宮都の研究』（吉川弘文館）ISBN:4642022716（日本古代宮都研究の基本文献） 橋本義則 『平安宮成立史の研究』（塙書房）ISBN:482731134X 橋本義則 『古代宮都の内裏構』（吉川弘文館）ISBN:4642024816 橋本義則（編） 『東アジア都城の比較研究』（京都大学学術出版会）ISBN:4876989907 ここに掲げたものは一例。授業中に随時紹介する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 高木 博志				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	近代古都論								
【授業の概要・目的】									
帝都東京に対して、古都として「歴史」「伝統」を体現する奈良・京都の歩みを、近代天皇制との関わりにおいて考察する。明治維新时期から1945年の敗戦までを見通したい。									
【授業計画と内容】									
奈良・京都といった古都の近代を中心としながら、東京遷都後の皇室の宗教や文化における近世との連続や断絶、天皇と「文明開化」をめぐるあらわれ方、博物館や文化財が持つ政治性、陵墓や正倉院御物のもつ天皇家の「財」としての役割、修学旅行や観光における歴史都市が果たす役割、皇室と古都の祭礼や年中行事との関係の変容、といった問題群を考察したい。近代天皇制をたんなる政治過程ではなく文化や社会から考察し、日本近代の普遍性や固有性を考えたい。前期と後期に、公家社会の痕跡を見る京都御苑、京都の周縁（六波羅・豊臣史跡・花街など）としての東山、古典文学と史跡復興の場としての嵯峨野、黒谷掃苔などの巡見も行いたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。									
【教科書】									
使用しない プリント等を配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 高木博志 『近代天皇制と古都』(岩波書店、2006年) 高木博志 『陵墓と文化財の近代』(山川出版社、2010年)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
レポートの内容について個別相談に応じる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(演習Ⅰ) Japanese History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 勝山 清次				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	演習
題目	鎌倉時代の法と社会								
【授業の概要・目的】									
<p>鎌倉幕府が発布した種々の法令には、中世社会の特質を解明するうえで手懸かりを与えてくれる興味深い素材が多数含まれている。本演習は、鎌倉幕府の追加法を精読しながら、この時代の法・裁判と社会に関する基礎知識の習得をめざす。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>出席者にそれぞれ追加法5～7条を割り当てる。出席者は担当する条文について、語句の意味、関連する条文、これまでの研究、歴史的な意義を調べ、報告し、それに基づき、質疑応答する。それを通じて、中世の法と社会に関する基礎的知識を身につけるだけでなく、中世史研究の進め方についても学ぶ。</p> <p>本年度は追加法665条（永仁5年）から始める。</p>									
【履修要件】									
鎌倉時代、ないしは中世に関する啓蒙書を読んでおくことが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年度末のレポート。									
【教科書】									
とりあげる追加法は配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
中世史全般に対して幅広い関心をもっている学生の受講を望む。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(演習Ⅰ) Japanese History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 横田 冬彦				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	演習
題目	江戸時代の裁判史料を読む								
【授業の概要・目的】									
17世紀後半の実際の裁判事例をもとに編纂された判例集「御仕置裁許帳」を読む。									
【授業計画と内容】									
今期は、「御仕置裁許帳」の中から女性に関わる史料を中心に読む。それぞれの事件と裁判の概要を明らかにするだけでなく、江戸という都市の社会史、法社会史、女性史として読み解く。あわせて、<史料を読む>とはどういうことなのかを考える。受講者には、あらかじめ分担した部分について調べ、レジュメを作成して報告させる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
個人報告(25%)、小テスト(25%)、レポート(50%)。									
【教科書】									
使用しない 使用する史料はプリントで配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(演習I) Japanese History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉川 真司				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	演習
題目	日本古代史総合演習								
【授業の概要・目的】									
日本古代史に関する基礎的素養を身につけるため、(1)『続日本紀』の精読、(2)基本論文の選読、の二つのことを毎週行なう。									
【授業計画と内容】									
『続日本紀』は六国史の第二にあたり、文武元年(697)～延暦十年(791)の歴史を記した書物である。政治・社会・文化に関するさまざまな記事が立てられ、奈良時代史のみならず日本前近代史の基本史料と言ってよい。本演習では毎週、輪読形式でその精読を行なう。出席者はテキストを各自用意し、割り当てられた担当部分について考証し、発表する。 それとともに、毎週一本ずつ日本古代史の基本論文を選読する。出席者は論文を入手して精読し、800字程度の要約文を作成、提出する。授業では各論文の視角・方法や研究史的意義などを解説する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年度末レポートによる									
【教科書】									
『新訂増補国史大系 続日本紀』（吉川弘文館）（ 前篇・後篇の2冊とも購入すること）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(演習Ⅰ) Japanese History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 谷川 穰				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	明治前期の社会史史料を読む								
【授業の概要・目的】									
幕末維新を生きの大和在住の知識人・高瀬道常（1820～1891）が残した、膨大な記録「大日記」を輪読する。幕末期から明治20年代までの、政治・社会・文化・風俗など多岐にわたる内容を読みこなし、他の史料も併読することを通じて、近代日本形成期の具体的様相に対する理解を深めることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
「大日記」のうち、特定の時期について数箇条ずつ読み進める。担当者を決め、レジュメにまとめて報告してもらおう。具体的な作業は「講読」と同様、史料の精読が基本である。それを起点に各自が問いを立て、公文書・個人文書・新聞・雑誌などを探索・検討し、関係する先行研究とともに、報告を組み立ててゆくことが求められる。そうした多様な史料に関する知識も共有していく。第1回はガイダンス、第2回以降は報告と討論。 また、日本近代史に関連する研究文献やくずし字史料を配布し、適宜その要約や翻刻を課す予定である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点およびレポート。									
【教科書】									
輪読史料はコピーして配布する（『大和国高瀬道常年代記』清文堂出版）。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(演習II) Japanese History (Seminars)				担当者氏名	文学研究科	教授	勝山	清次
						文学研究科	教授	横田	冬彦
						文学研究科	教授	吉川	真司
						文学研究科	准教授	谷川	穰
配当学年	4回生のみ	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木1	授業形態	演習
題目	日本史上の諸問題								
【授業の概要・目的】									
卒業論文提出予定者全員に対し、順次中間発表を行わせ、テーマの選定、史料の所在、立論や叙述の仕方等について、指導する。									
【授業計画と内容】									
春にとりあげるテーマを報告する。その後、夏と秋にあわせて2回、研究の成果を詳細なレジメを作成し、中間発表する。秋の発表では章立てができていたことが望ましい。									
【履修要件】									
卒業論文提出予定者。									
【成績評価の方法・基準】									
発表と卒業論文による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 特になし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(基礎演習) Japanese History (Seminars)				担当者氏名	文学研究科 教授 勝山 清次			
						文学研究科 教授 横田 冬彦			
						文学研究科 教授 吉川 真司			
						文学研究科 准教授 谷川 穰			
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	基礎演習
題目	日本史の古代から近代まで								
【授業の概要・目的】									
日本史研究の基本となる論考を教員4人が、古代から近代までリレー式に担当し、日本史の基礎的知識を培うことをめざす。									
【授業計画と内容】									
演習参加者は、予め用意された古代から近代までの論文のなかから、各希望にもとづき1本を選択する。そのうえで、その論文についてレジメを作成し、演習当日報告、全体で討論する。参加者全員、前もって該当論文を読んでおくこと。									
【履修要件】									
できる限り2回生時に履修すること。									
【成績評価の方法・基準】									
報告とレポート。									
【教科書】									
テキストは前もって配布する。									
【参考書等】									
(参考書) とくになし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
当該論文を評価し、批判するためにも、報告者は同時に、関連する文献を読むことが望ましい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(講読) Japanese History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉川 真司				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	講読
題目	平安時代政治社会史史料								
【授業の概要・目的】									
竹内理三編『伊賀国黒田荘史料』に収められた古文書を精読し、古代・中世日本人が書いた漢文史料の解釈法を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
伊賀国黒田荘は現在の三重県名張市にあった荘園である。領主東大寺から歩いて一日の距離にあり、中世を通じて寺院経済を支える重要な荘園であった。東大寺文書には多数の関係文書が含まれるが、『伊賀国黒田荘史料』は年代順にこれらを集成したものである。 本講読では、同書に収められた史料のうち、古代から中世の過渡期にあたる10～11世紀の古文書を精読する。出席者は割り当てられた担当部分について詳しく調べ、発表する。その際には文学部古文書室に架蔵される古文書写真帳・影写本に必ず当たり、釈文が正しいかどうかを確認する。古文書原本を読むための基礎トレーニングでもある。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点および年度末試験による									
【教科書】									
配付する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(講読) Japanese History (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 助教 黒岩 康博				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	講読
題目	『明六雑誌』を読む								
【授業の概要・目的】									
明治初頭の思想集団「明六社」社員の手になる論説を読み、文明開化の時代の思想と社会を考える。									
【授業計画と内容】									
『明六雑誌』の論説を史料として読み進めていく。各回の報告者は、担当する史料について要旨・語句・歴史的背景などの説明を行う。その後、報告内容についての質疑応答や討論を行う。 初回はガイダンスなので、必ず出席すること。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と定期試験。									
【教科書】									
テキストは初回に配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(講読) Japanese History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月4	授業形態	講読
題目	英書講読								
【授業の概要・目的】									
米国の歴史家 Peter Novick による THAT NOBLE DREAM: The 'Objectivity Question' and the American Historical Profession (高貴なる夢:"客観性問題"と米国の歴史学) を輪読することで、英語読解力を身につけていくことを目指す。									
【授業計画と内容】									
教科書の THAT NOBLE DREAM は米国歴史学会AHAの賞も受けた、評価の高い米国歴史学のヒストリオグラフィー(歴史学の歴史)である。授業では、この650頁近い大著のうち、欧州の客観主義的歴史学の米国への導入過程を描いた6章からなるパートIと、第一次世界大戦を契機とする客観主義指向の「空気の变化」をテーマとするパートII第6章 A changed climate までを読む。しかし、参加者の人数などにより、この目標は変化する。毎回数名の担当者を定め、1回にテキスト10ページ程度を読み進める。担当者は、担当した部分を全訳するのではなく要約して報告する。また、事前に担当部分を要約した資料を準備し林に提出し、これを林が参加者全員に講義のサイトを通して配布する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点により採点する。担当箇所について提出する資料と授業時の説明の様子が主な採点対象となる。ただし、授業中に担当者以外に質問や意見を求めるが、その様子も採点対象となる。(担当者とは別の解釈・翻訳の提示など。)									
【教科書】									
Peter Novick 『That Noble Dream: The 'Objectivity Question' and the American Historical Profession』(Cambridge Univ. Press) ISBN:0521357454									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
資料の配布、講義の連絡などは、主にKULASISや、別に作る予定の授業のサイトを通して行なう。また、月曜の12:00から3講時に1時間ほどオフィスアワーを設定する予定だが、これは参加者と相談の上決める。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(講読) Japanese History (Seminars)	担当者氏名	非常勤講師 佐藤 夏樹						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月4	授業形態	講読
題目	英書講読								
【授業の概要・目的】									
アメリカ移民史を専門とするDavid GutiérrezのWalls and Mirrorsを精読する。学術的に書かれた英語文献読解に必要な基礎力をつけることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
テキストとして使用するWalls and Mirrorsは、メキシコ系アメリカ人がメキシコ移民に対して感じる、異なる存在であるが親近感ももてるという複雑な感情を「壁と鏡」と表現し、彼らのそのような感情が歴史を通してどのように変化していったのかを通史的に論じている研究書である。単に英語の文章を読解するだけでなく、外国語の研究書の議論の立て方を授業を通して学んでほしい。授業は全員が予習をしてくることを前提とし、事前に報告者を決めない形で授業中に何人が指名し、段落ごとを目安として訳をしてもらう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席、報告）と期末試験の結果で総合的に評価する。									
【教科書】									
テキストを配布する（Gutiérrez, Walls and Mirrors）。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
講読の授業であるので、全員がテキストの予習をしてることが必須である。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(実習) Japanese History (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 勝山 清次 文学研究科 助教 山田 徹						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3,4	授業形態	実習
題目	古代・中世の古文書（初級）								
【授業の概要・目的】									
京都大学総合博物館所蔵の古代・中世文書を読み、古文書の基礎的な解読・読解力を習得する。									
【授業計画と内容】									
京都大学博物館所蔵の東大寺、宝積寺、淡輪、畑田、西山地蔵院、松尾月読社、祇園社などの文書を順次とりあげ、教員2名、ティーチングアシスタント1名がマンツーマン方式で指導する。									
【履修要件】									
日本史専攻者を対象としたものである。									
【成績評価の方法・基準】									
出席と実習終了時に行う試験による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(実習) Japanese History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 勝山 清次 文学研究科 助教 山田 徹				
配当学年	4回生のみ	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3,4	授業形態	実習
題目	古代・中世の古文書（中級以上）								
【授業の概要・目的】									
京都大学総合博物館所蔵の古代・中世文書を読み、古文書の基礎的な解読・読解力を習得する。									
【授業計画と内容】									
京都大学博物館所蔵の東大寺、宝積寺、淡輪、畑田、西山地蔵院、松尾月読社、祇園社などの文書を順次とりあげ、教員2名、ティーチングアシスタント1名がマンツーマン方式で指導する。									
【履修要件】									
日本史専攻者を対象としたものである。									
【成績評価の方法・基準】									
出席と実習終了時に行う試験による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(実習) Japanese History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 横田 冬彦 文学研究科 助教 山田 徹				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水3,4	授業形態	実習
題目	近世の古文書(初級)								
【授業の概要・目的】									
京都大学総合博物館所蔵の近世史料をもちい、古文書の基礎的な解読・読解力を養う。									
【授業計画と内容】									
京都大学総合博物館所蔵の近世史料のうち、河内国富田林村の庄屋杉山家の文書を主としてもちい、教員2名とティーチング・アシスタントの3名で、マンツーマン方式で指導する。									
【履修要件】									
日本史専攻者を対象としたものである。									
【成績評価の方法・基準】									
出席と実習終了時に行う試験による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 『くずし字解読辞典』『くずし字用例辞典』などは各自で用意すること。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(実習) Japanese History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 横田 冬彦 文学研究科 助教 山田 徹				
配当学年	4回生のみ	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水3,4	授業形態	実習
題目	近世の古文書(中級)								
【授業の概要・目的】									
京都大学総合博物館所蔵の近世史料をもちい、古文書の解読・読解力の一層の進展をめざす。									
【授業計画と内容】									
京都大学総合博物館所蔵の近世史料のなかから、力量に応じて多様な文書を選び、教員2名とティーチング・アシスタントの3名で、マンツーマン方式で指導する。									
【履修要件】									
日本史専攻者を対象としたものである。									
【成績評価の方法・基準】									
出席と実習終了時に行う試験による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

東洋史学専修

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 夫馬 進				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	中国明清時代における訴訟と社会								
【授業の概要・目的】									
<p>近年、前近代中国では訴訟が多かったとする議論がしばしば行われている。授業ではこれまでの数年間、「中国訴訟社会」と題して国家のどのような制度が訴訟を多発させてきたのかを論じたが、本年度はさらにとくに「社会」の面からこれを検証する。さらに訴訟の少ない社会についても取りあげ、全体として中国史における訴訟の特色を明確にする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業ではまず、国家の訴訟制度を税役の負担制度や司法制度との関連で概観する。さらに、主に官箴書と地方档案を中心資料として訴訟の実態を考察する。この場合、同じ制度のもとで、訴訟の比較的少ない社会と多い社会における実際の訴訟と裁判の流れを考察する。地方档案としては『巴県档案』『順天府档案』『淡新档案』『太湖庁档案』などを用い、全国地域間での比較を行う。さらに『巴県档案』『太湖庁档案』をもとに、時代的な比較を行う。官箴書をもとに、国家と地方官との訴訟に対する考え方と対処の仕方を考察する。以上をより明確にするため、しばしば日本江戸時代との比較を行う。</p>									
【履修要件】									
<p>多少なりとも、漢文（訓読でよい）が読める必要がある。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>レポートを中心とする。</p>									
【教科書】									
<p>使用しない</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 夫馬進『中国訴訟社会史の研究』（京都大抱く学術出版会）ISBN:978-4-87698-992-8 とくに夫馬進「中国訴訟社会史概論」</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 杉山 正明				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	特殊講義
題目	『集史』 「チンギス・ハン紀」の根本的検討								
【授業の概要・目的】									
13-14世紀のモンゴル世界帝国の時代に出現したペルシア語史書の『集史』 Jami' al-Tavarikhは文字通りの世界史であり、各地に蔵される複数の写本を利用しつつ、他の多言語史料とつきあわせて精読する。									
【授業計画と内容】									
モンゴル世界帝国を構成する四大部分のひとつ、西アジアに展開したフレグ・ウルスでは、第七代君主ガザンと宰相ラシードウッディーンのもと、かつてない世界史の編纂がおこなわれ、カザン没後も弟オルジェイトゥにひきつがれ、1310-11年に成った。その結果、ひとくちに『集史』とはいうものの、ガザン主導の「幸いなるガザンのモンゴル史」という前半と、それを踏まえつつ改訂・増補して「世界諸族志」もくわえたいわゆる『集史』という二段階の合成物となった。そこには、かなりの改文・修正が見られる。トプカプ・サライ蔵本を底本に、タシュケント蔵本、大英図書館蔵Or.2927、Or.7628などを参照しつつ、幾つかの東方史料ともひきくらべ検討する。									
【履修要件】									
できれば、初歩でもよいのでペルシア語を学習しておいてほしい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とその時々レポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	東北アジア古代中世史の研究								
【授業の概要・目的】									
10世紀以前の内蒙古・東北の諸民族につき、中国文献を主な素材として通時的に概観する。この時期の歴史的推移、中国文献の批判的分析の方法論、考古学的資料の利用法などを理解する。									
【授業計画と内容】									
10世紀以前の内蒙古・東北の諸民族は、基本的に自らの文字記録をもたず、かれらについての情報は、中国文献の記述から獲得するしかないが、記述の絶対量は零細で、かつ「華夷思想」に基づく偏見も少なくない。昨年度扱った3世紀以前の推移を整理したのち、4世紀以後の鮮卑ついで契丹の推移を概観しつつ、関連する正史四夷伝などの中国文献を、文献学的方法および考古学的資料を全面的に援用することによって批判的に分析し、この時期のユーラシア東部の歴史的推移を再構築する。韓半島・日本列島の状況をも見渡し、ナショナル・ヒストリーとしての「中国史」を相対化した「東洋史」的視点を再確認する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる（受講生は授業の感想を中心とした小レポートを毎回提出する。期末レポートと小レポートを総合的に評価する）。									
【教科書】									
講義資料は担当者が準備する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 中砂 明德				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	バタヴィア上空からアジアを俯瞰する								
【授業の概要・目的】									
<p>オランダ東インド会社の記録のうち、バタヴィア総督府から本社に送られた「一般報告」の1640年代後半の部分を読む。西はアラビアのモカから東は長崎に至るまでの各地の情報が船によってバタヴィアに集まり、それをもとに「一般報告」が作成されて本国に送られた。バタヴィア上空から船と情報の動きを俯瞰することで、この時代のアジアの全体図を浮かび上がらせたい。また、オランダ語以外の欧語史料を同時に紹介し、オランダ語史料の個性を浮き彫りにするとともに、欧語史料の可能性と限界性を提示する。授業冒頭では、関連図書を紹介する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期 まず、1640年代のアジア諸地域（ペルシア、インド亜大陸、東南アジア、中国、日本）の歴史を欧州諸国の進出状況とともに概観する（1～3回）。その後、とくにオランダの進出についてももう少し細かく見る（4、5回）。そして、1645年からの一般報告を読む（6回以降）。</p> <p>後期 1648年以降の一般報告を読む（1～9回）、その他の文書（各地の書簡、日誌など）を読み、いくつかの地域（中国・台湾・日本）に焦点を合わせる（10回以降）。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>ほぼ毎時間紹介する関連書籍の中から、欧語の場合は1冊、日本語の場合は2冊選んで書評を作成してもらい、それを評価する。</p>									
【教科書】									
プリントを配布									
【参考書等】									
<p>（参考書） なし</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>きれいにまとまった話ではできません。そのかわり、材料はたっぷり提供しますから、そこからそれぞれが問題系を発見してくれることを願っています。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 高嶋 航				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火1	授業形態	特殊講義
題目	軍隊とスポーツの比較社会史								
【授業の概要・目的】									
軍隊とスポーツの関係を、日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、中国、フィリピンの事例を比較しつつ明らかにする。									
【授業計画と内容】									
アジア・太平洋戦争中、日本国内で軍部は「外来スポーツ」を弾圧したといわれている。しかし一方で、日本軍内部では広くスポーツが行われていた。この矛盾をどう考えればよいのか。いち早く軍隊にスポーツを採り入れたイギリスやアメリカを中心に、他のヨーロッパ諸国や中国、フィリピンの軍隊におけるスポーツのあり方と比較するなかで、この問題に迫ってみたい。軍隊の性質、スポーツのあり方、男性性の観念などが軍隊スポーツを規定した要因として問題となるであろう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 高嶋航 『帝国日本とスポーツ』(塙書房) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 松浦 茂				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	特殊講義
題目	キャフタ条約交渉に関する研究								
【授業の概要・目的】									
1727年にロシアと清朝が締結したキャフタ条約は、その後100年以上にわたって両国の関係を安定させた。本年の講義においては、ヨーロッパ・キリスト教主義外交と中華主義外交の対立という観点から両国の外交交渉を説明する。またピョートル1世のアジア政策の観点から、キャフタ条約の意義を検討したい。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について講義する。									
<ul style="list-style-type: none"> 1726・27年のロシアと清朝の交渉とその問題点（7～8週） ロシアと清の文化交流・研究史（7～8週） 18世紀ロシアの東方政策（7～8週） ロシアと清の経済交流（7～8週） 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによって判定する。									
【教科書】									
使用しない 必要な資料は、プリントして配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
とくになし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 浅原 達郎				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	説文解字								
【授業の概要・目的】									
清代の学者による説文解字の注釈を読みながら、古文字学の基礎となるべき説文解字の読み方を探る。									
【授業計画と内容】									
ひたすらていねいに読むことを心がけるが、ただ、出土文字資料との関連には留意したい。説文解字のどの文字を読むかは、受講者の希望を聞いて決める。テキストには、段玉裁『説文解字注』（経韻楼本）を用いる。おのおの持参することが望ましいが、持ち合わせないひとは、無理に準備する必要はない。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） なし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
なし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 岩井 茂樹				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	東アジア近世の通商と外交								
【授業の概要・目的】									
1684年に清朝は海禁令を解除し、開放的な通商政策を採用した。官側と民間との協調を通じて、各地の貿易港市では安全を確保するとともに商務を規範化する制度がしだいに形成された。本年度は広州における「保商」制度成立の過程、いわゆる「公行」による貿易独占の問題について、先行研究を紹介しながら、基本的な資料を提示して講述する。同時代人が「互市」と呼んだ貿易の仕組みを、市舶司貿易、朝貢貿易、条約体制などの歴史理解の枠組みのなかに位置づけることを試みる。									
【授業計画と内容】									
1) 「保商」制度の導入 2) 「公行による独占」の問題 3) 海外華人と互市 4) 互市諸国と朝貢国 5) イギリス東インド会社と地方商人									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる									
【教科書】									
なし。資料を配付する。									
【参考書等】									
(参考書) 籠谷直人 / 脇村孝平編 『帝国とネットワーク』 (世界思想社 2009年)									
(関連URL)									
http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/zinbun/members/private/iwai_list.htm (岩井の研究業績一覧です)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 富谷 至				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	特殊講義
題目	中国古代・中世の法制史資料の講読								
【授業の概要・目的】									
秦漢時代から唐代にかけての研究に必要な漢文資料（とくに法制史）を紹介し、『通典』刑法典を読む。									
【授業計画と内容】									
昨今の漢文読解力の低下を鑑み、漢文資料を正確に理解するための手ほどきをおこなう。中国古代、中世史の研究を目指すもの、他に日本史専攻で漢文読解が必要なものは是非とも受講されたい。テキストはこちらで準備して、また様々な内容の資料を取り扱う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
演習形式をとり、平常点で評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 矢木 毅				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木1	授業形態	特殊講義
題目	朝鮮後期政治外交史の研究								
【授業の概要・目的】									
朝鮮後期（17～19世紀）における政治史・外交史を概観し、近世朝鮮社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高め、朝鮮と東アジア世界との連関についての理解を深めることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
<p>（前期）前期は清朝に服属して以降の朝鮮王朝の歴史、特に国内における党争の展開と、対清意識の変遷について考察する。主な話題は次のとおり（各テーマについて3～4週の授業をする予定）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・礼訟の展開 ・党争と土禍 ・蕩平政治 ・奎章閣 <p>（後期）後期は実学思想の展開、及び郷村社会の変動について考察する。主な話題は次のとおり（各テーマについて3～4週の授業をする予定）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西学と西教 ・黄嗣永帛書 ・勢道政治 ・三南の民乱 <p>なお、毎回の講義において典拠となる史料を例示し、講読・演習の要素を加味する。『朝鮮王朝実録』などの官撰史料、及び『我我録』などの野史史料が対象となる。</p>									
【履修要件】									
中国古典文（漢文）の基礎的な読解能力を身につけていることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
成績評価は平常点によって行う。平常点は出席状況、理解度、および小テスト（漢文読解）の成績によって評価する。									
【教科書】									
講読史料、レジュメ等のプリントを事前に配布する（一週間前の授業時に配布）。									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>武田幸男 『朝鮮史』（山川出版社）ISBN:9784634413207</p> <p>李成茂 『朝鮮王朝史 上』（日本評論社）ISBN:9784535582989</p> <p>李成茂 『朝鮮王朝史 下』（日本評論社）ISBN:9784535582996</p>									
（関連URL）									
http://sillok.history.go.kr/ (朝鮮王朝実録（電子版）)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 辻 正博				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	唐宋時代の法制								
【授業の概要・目的】									
<p>本年の講義は、前期の「唐代律令概論」、後期の「唐宋法制概論」の2部構成で行う。</p> <p>前期の概要・目的：唐律・唐令について知ることは、唐朝の官僚制度を理解する上できわめて重要である。この講義では、その概要を理解することを目的とする。中国古代～中世史のみならず、日本古代史に関心を持つ学生にとっても意義ある講義としたい。</p> <p>後期の概要・目的：8世紀から11世紀にかけての中国社会の激変は「唐宋変革」と呼ばれ、中国史上の画期として注目されてきた。この講義では、この変革期に行われた法制について概観し、唐宋変革に対する理解を法制史の面から深めることを目的とする。宋代以降の展開を知ることによって、日本古代国家が導入を試みた「律令制」がどのようなものであったかを感じ得ると思う。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のテーマについて、1テーマあたりおおむね2～3週を目途に講義を進める。 なお、初回の授業において、授業計画および講義で必要とされる事項について説明を行う。</p> <p>〔前期〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 0) ガイダンス 1) 「唐律」篇 <ol style="list-style-type: none"> a) 構成 b) テキスト c) 刑罰 d) 性格・特徴 2) 「唐令」篇 <ol style="list-style-type: none"> a) 構成 b) テキスト 「唐令」の復原について c) 内容紹介 3) まとめ <p>〔後期〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 唐後半期～五代の法制 2) 北宋時代の法制 3) 南宋時代の法制 4) まとめ 									
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----									

東洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・基準】

期末レポートによる評価。（前期末と後期末、2度の提出を求めます。）

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

滋賀秀三 『中国法制史論集 法典と刑罰』（創文社、2003年）

仁井田陞 『唐令拾遺』（東京大学出版会）（とくに「序説」の部分）

その他については、講義時に適宜指示する。

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

オフィス・アワーについては、特に曜日・時間を定めていません。授業時以外に直接話をしたい学生は、

tsuji.masahiro.4m@kyoto-u.ac.jp

まで連絡して日時を調整すること。（学生番号、氏名を明記してメールしてください。）

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	龍谷大学 文学部 教授 木田 知生				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	宋夏遼金時代の重要史籍について								
【授業の概要・目的】									
中国近世史の重要史籍について概説し、その内容の一部を講読する。とくに宋代と西夏・遼・金時代の重要史籍を対象とし、その内容の詳細と史料(版本)の現状を解説する。									
【授業計画と内容】									
1.前期は宋代の史料文献の解説と部分講読を行う。概説と導入を含め14回程度。 2.後期は西夏・遼・金の史料文献の解説と講読を行う。各時代の解説に各3回もしくは4回を予定。その他は補足解説に充てる。 3.各時代の重要史籍そのものの解説に加え、関連する史料文献、および各種工具書についても論述し、その運用能力を高める。 4.近十年程の史料文献の整理状況とデジタル化の動向に留意し、その解説を行うほか、関連資料文献を講読し、史料文献の現状を把握するように努める。 5.講義形式を導入とするものの、関連史料文献の講読が主軸となる。									
【履修要件】									
本特殊講義では史料文献の講読を伴う予定。その際には現代漢語による講読がもとめられる。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価									
【教科書】									
授業中に指示する 教材が必要となる場合は、当方で用意し配付する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	関西学院大学 文学部 教授 佐藤 達郎				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	漢六朝時代の官僚制と社会								
【授業の概要・目的】									
前年度に続き、漢代から六朝時代にかけての官僚制を支える規範意識の形成・展開を念頭に置きつつ、前半は当該時代における官僚支配と地域社会・社会通念との関係およびその展開を、後半は官僚制と身分制との関わりをめぐる諸問題を取り上げ、考察する。									
【授業計画と内容】									
以下の内容につき、それぞれ数回ずつに分け、史料読解を進めつつ解説する。 <ul style="list-style-type: none"> ・漢六朝期の教について ・漢六朝期の地方的規定について ・漢代の官秩制とその展開 ・漢代の軍事制度と儀礼 ・六朝の刑罰をめぐる意識と士庶区分 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席とレポートにより評価する予定。									
【教科書】									
当方でコピーして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)		担当者氏名	東京大学 大学院人文社会系研究科 准教授 吉澤 誠一郎					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	中国ナショナリズムの史的考察								
【授業の概要・目的】									
<p>中国のナショナリズムについて、歴史的に考察する視角を養うことをめざす。 主に清代・民国時代について議論する。それを通じて、中国の特殊な文化的背景によってナショナリズムを説明する論法や安易に何かの理論を適用してわかったつもりになる論法を両方とも批判していくことを意図している。 主に教員による講義の形式で進行させる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>主に次のような話題を扱う予定である。 (一課題あたり半日ほどをあてる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナショナリズムを論じる視角 ・清代の華夷観念はナショナリズムか ・清末における民族と国家をめぐる言説 ・対外ボイコット運動の展開 ・商品宣伝とナショナリズム ・近代中国におけるナショナリズムへの懐疑 ・歴史叙述とナショナリズム 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>授業の最後の部分で時間をとって試験を実施する。 講義の基本的な内容が把握できていることを単位認定の基本とし、加えて自分なりの観点がもてていけば良い評点となるように、設問を工夫するつもりである。</p>									
【教科書】									
<p>使用しない 授業中にプリントを配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) 吉澤誠一郎 『愛国主義の創成 ナショナリズムから近代中国をみる』(岩波書店) ISBN: 4000268430</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習I) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 夫馬 進				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	演習
題目	朴齊家『北学議』								
【授業の概要・目的】									
1766年に朝鮮の洪大容が北京で中国知識人と交際し、帰国するやただちに筆談記録『乾浄衕会友録』を公表すると、これは朝鮮知識人と朝鮮史の進展とに大きな影響を与えた。その影響下に書かれたのが、朴齊家『北学議』である。北学とは「北の方、中国に学べ」というスローガンであり、同じ学術グループを実学派の中でも「北学派」と呼ぶ。『北学議』はこの北学派による代表的著作である。『北学議』を訓読で読みながら、古典中国語を解読する訓練を行うとともに、当時の朝鮮知識人の東アジア認識について考える。									
【授業計画と内容】									
まず朴齊家と『北学議』について簡単な解説を加える。おおよそ当時の東アジア国際関係と朝鮮知識人の精神/思想状況を理解しえたところ、『北学議』のうち「通江南浙江商舶議」から始めて重要な議論を読む。もっぱら訓読を中心として読解能力の向上を目指し、時にハングル訳をも参考にする。履修者には、徹底して下調べをしてもらう。									
【履修要件】									
多少なりとも、漢文訓読ができる必要がある。ハングルはとりあえずできなくてもよい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 朝鮮史のみならず、東アジア学術交流史や朝鮮通信使に関心を持つ者の履修を歓迎する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 杉山 正明				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	演習
題目	アジア諸地域における碑刻・刻文の歴史文献学的研究								
【授業の概要・目的】									
アジア諸地域では、古代イラン・インド、漢代以後の中国などにおいて磨崖刻文や王柱・碑碣類が出現し、以後は中央ユーラシアや韓半島・日本でも見られる。研究室所蔵の拓本も含め、広く利用・解読をめざす。									
【授業計画と内容】									
以下の各テーマのもとに、それぞれ1～3週の割合で、演習方式を採りつつ進める。石に文を刻すという行為の意味とその発生。ヨーロッパを含めた碑刻・刻文・墓誌などの多様な展開と各地域・各時代の特性。東洋史学所蔵拓本の紹介・把握と実際の扱い方や利用・保存。関係する内外各機関とその所蔵拓本ないし拓影、および龐大な石刻目録類や石刻書研究史。中華地域における漢文でしるされた碑碣の類別と展開、とくに神道碑・墓誌銘などの違いや文集。代表的な漢文碑刻のうち、未解読ないし検討不十分のものについての解読・討論。チンギス・カン碑石をはじめ、モンゴル語および蒙漢合刻・複数語合刻碑の読解と習熟。いわゆるモンゴル命令文とその碑刻について。ペルシア語・シリア語・パスパ字碑刻の検討。									
【履修要件】									
未修の言語があるからといって、怖れる必要はありません。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とその時々レポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習III) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	演習
題目	『春秋左伝正義』								
【授業の概要・目的】									
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を精読する。漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。									
【授業計画と内容】									
昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による（発表の良否、出席状況などを総合的に評価する）。									
【教科書】									
テキストは担当者が準備する。									
【参考書等】									
（参考書） 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献（出典）の調査が不可欠である。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習IV) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 中砂 明德				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	演習
題目	『金石萃編』の唐・五代篇を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>清代の学者王昶(1725 - 1806)が編んだ『金石萃編』のうち、唐末・五代のものを数点選んで読む。『金石萃編』は歴代の金石拓本の文章とそれについての宋～清人のコメントを移録し、最後に編者のコメントをつけた本である。授業のねらいは3点。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、宋代以後の金石学の流れを把握する。 2、神道碑や墓誌銘など、石に刻まれた文章の性格について学ぶ。 3、碑文に使われる四六駢儷体に馴染む。 									
【授業計画と内容】									
<p>前期は碑文自身(初心者には難物です)そのものではなく、それに付されたコメントの部分(こちらはずっと読みやすいです)を読み、金石学の流れを把握する。まず、『金石萃編』について説明した後、唐代の有名な將軍や禅僧、韓愈の息子、五代十国時代の群雄に関する碑刻のコメントを読んでゆく。</p> <p>後期には、墓誌銘や政治家を称える碑文、城隍廟記や少数民族との盟誓文などを読む予定である。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。読解の程度に加えて、予習の深浅で評価する。									
【教科書】									
プリントしたものを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>データベースの利用も含めて、文献調査の方法を学ぶ場だと考えてください。どちらかといえば、院生中心の授業になることが予想されますから、彼らのフリを見て学ぶべきところは学んでください。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習V) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 高嶋 航				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	演習
題目	梁啓超『新民説』								
【授業の概要・目的】									
梁啓超の初期の代表作である『新民説』を精読する。梁啓超の文体は全体的に平易といえるが、近代的な文体・語彙が確立する過程にあるという時代背景のもと、梁啓超が依拠した日本の文献と比較しながら意味を捉えていく必要がある。まずは正確に意味を把握することを目標とするが、テキストから中国と日本、伝統と近代のせめぎあいをぜひ感じて欲しい。									
【授業計画と内容】									
テキストは広く用いられている『飲氷室合集』を採用するが、初出である『新民叢報』版も参照する。今年では四年目であるが、まだ読んでいない前半部（第一節から第九節くらいまで）を読んでいく。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
授業で配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 狭間直樹編『共同研究 梁啓超』（みすず書房）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
毎回二葉分ほど予習をすること。まずは文意を正確にとることを心がけ、さらに進んで言葉や思想の背景に関心を持ち、自ら探って欲しい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 水野 直樹				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	演習
題目	朝鮮近現代史関係資料の講読								
【授業の概要・目的】									
朝鮮近現代史を学ぶために必要な文献解読の方法を身につけるとともに、資料の探索・調査・収集のための情報・ツールなど（目録類、インターネットリソース）を解説する。									
【授業計画と内容】									
朝鮮近現代史に関わる朝鮮語資料を選んで解読する。後期には、受講者の関心に応じて新聞記事（植民地期から現代まで）を選び、それぞれが解読・解説する形式で進める。									
【履修要件】									
初級程度の朝鮮語を習得していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
プリントなどを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
http://wwwsoc.nii.ac.jp/chosenshi/link/ (朝鮮史研究のためのインターネット利用手引き（朝鮮史研究会）)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 村上 衛				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	演習
題目	在中国イギリス領事報告を読む								
【授業の概要・目的】									
中国近代の社会・経済に関する英文史料を精読する。英文史料を読むことによって外からの目を利用しつつ、中国近代社会経済史に対する理解を深める。さらに、英文史料の扱い方、長所・短所などを理解し、中国近代史を研究するにあたって利用する史料の可能性を広げ、また史料操作能力の向上を図る。									
【授業計画と内容】									
イギリス外交文書のうち、在中国イギリス領事の報告（FO228）を精読する。具体的には、商業紛争、海事関係・華人関係の紛争など、社会・経済に関わる紛争を取り上げる。必要に応じてFO228に含まれている英文史料に対応する漢文史料も読む。なお、史料の内容は非常に細かいものが多いため、講義形式の解説を加え、史料を中国近代史の中に位置づけていく。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
使用しない テキストはコピーして授業の際に配布									
【参考書等】									
（参考書） 坂野正高・田中正俊・衛藤藩吉編 『近代中国研究入門』（東京大学出版会） 岡本隆司 『近代中国と海関』（名古屋大学出版会） 本野英一 『伝統中国商業秩序の崩壊 不平等条約体制と「英語を話す中国人」』（名古屋大学出版会）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、手書き文書に慣れるまでは予習に時間を要することになるだろう。ただし、扱う英文は主に部下（領事）から上司（公使）への報告であり、特に難解なものではないから、積極的な参加を期待したい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 中砂 明德				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	人物論を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>歴史上の人物についてあれやこれや論じることは、洋の東西を問わずに行われているが、特に中国人が好む話題であることは否定できないと思う。この授業では明代末期に出版された人物論のアンソロジー『古今人物論』を読む。漢文の読解力を身につけることももちろんだが、中国人の人物評価の「型」を受講者それぞれが発見してくれればと思う。東洋史専修あるいは中国関係の教室以外の学生の受講も歓迎する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>まず、受講生に『史記』の世界がどの程度知られているのかを確認した後、とくに日本人がこの書物をどのように読んできたかを解説する。 前期は項羽と劉邦についての人物評を読む。 後期は劉邦の臣下たち（蕭何、張良、韓信、曹參、陳平ら）を取り上げる。 それぞれの評論を読む前提として、『史記』や『漢書』のテキストも参照する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点で評価する。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） なし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>漢文を読むための予習はむろん大切ですが、この機会に『史記』『漢書』に触れてもらえればこの授業の目標は八割方達成されたと言えます。だから、漢文が苦手な人も歓迎します。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 中砂 明德				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	講読
題目	『資治通鑑』漢紀を読む								
[授業の概要・目的]									
<p>長らく為政者の必読書とされてきた『資治通鑑』を読むことによって、漢文読解の力を養うだけでなく、中国の知識人が歴史から何を読み取ろうとしたかを考える機会を提供する。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>今年は後漢王朝の成立期の部分を取り上げる。おそらく、初代光武帝の三十年余りの治世の記述を読むだけで一年が終わると思う。 『資治通鑑』がいかにも読まれてきたかを紹介した後、本編にはいってゆく。 前期は群雄割拠の中から劉秀が台頭して天下を統一してゆく過程、後期は対匈奴関係の記事が中心になる。 テキストは標点本を使う。本文のみを読むが、胡三省の註も適宜参照する。</p>									
[履修要件]									
参加者には毎時間必ず1回は当てるので、予習は必須。									
[成績評価の方法・基準]									
平常点を重視する。出席だけでは評価しない。参加者には毎回当てるので、その時の読み、対応をもっぱら評価する。学年末の筆記試験の成績をこれに加味する。									
[教科書]									
プリントしたものを配布する。									
[参考書等]									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>この授業は東洋史学専修への一つの入り口であり、必修単位にもなっている。3回生以上に対してはそれにふさわしい演習の授業が用意されているので、この単位は2回生での修得が望まれるが、すでに東洋史学専修に進んだ人で未受講の場合は、他の演習と並行しながら、この授業の単位修得にも努めること。</p> <p>授業あるいはその予習だけでは、漢文読解力は身につかない。夏休みなどに、自分で択んだテキスト(対訳・注釈つきのものなど)に集中的に取り組んでほしい。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 高嶋 航				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月1	授業形態	講読
題目	英書講読								
[授業の概要・目的]									
中国史に関する英語の文献を読む。									
[授業計画と内容]									
テキストは受講者の関心を考慮して決める。対象は大学院進学予定の四回生とする。なお、本授業は東洋史学の必修科目ではないので注意していただきたい。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点									
[教科書]									
授業で配布する									
[参考書等]									
(参考書)									
特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(実習) Oriental History (Seminars)			担当者氏名		文学研究科	教授	夫馬	進
						文学研究科	教授	杉山	正明
						文学研究科	教授	吉本	道雅
						文学研究科	准教授	中砂	明德
						文学研究科	准教授	高嶋	航
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	実習
題目	東洋史学(実習)								
[授業の概要・目的]									
<p>全教員4人によるリレー担当。東洋史学研究のうち、特に中国史の全時代にわたって、先行研究をどのようにして探るか、古文書をどのようにあつかうか、コンピューターを研究にどのように用いるかなど実習させるとともに、自らテーマを選んで「小論文」を発表させる。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>主に三回生を対象とする。東洋史学専修の全教員が一年間にわたり、東洋史学を研究するにあたってのツール(工具)を教え、学生に実際に使わせる。先行研究の探し方を教えるとともに、優れた先行研究を選んで学生に読ませ、先人の達成したものを学びつつ、自らがおかれた研究状況を考えさせる。</p> <p>一ヶ月頃までにツールの修得や先行研究の選読を終え、自らの問題関心に即した研究テーマを選ばせる。それまでに修得した知識と方法をもとにして、自ら先行研究を探し、あるいは原典の一部を読むことによって、自らの問題に解答を与えさせる。一月中頃にこれを「小論文」として授業で発表させる。</p>									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点と「小論文」の発表を評価する。									
[教科書]									
授業中に指示する									
[参考書等]									
(参考書)									
授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業は各教員の研究室で行う									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

西南アジア史学専修

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉田 豊				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	文献言語学の方法と諸問題								
【授業の概要・目的】									
<p>言語についての記述的な研究の中でも、死語となり文献にだけ資料が残された言語を研究する際の手法や遭遇する問題などについて、講義担当者の日常の研究を例にしながら講義する。また書かれた時代や地域が異なる文献を使って言語の変化を辿る方法についても考察する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>文献にだけ資料が残された言語の記述的な研究では、残された文献から当該の言語が話されていたときの発音と意味を解明することが、出発点であると同時に到達点でもある。講義担当者が研究している中央アジア出土のイラン系の言語の文献（11世紀以前）を例にして、発音や意味の解明の手法と問題点を解説する。文献を扱う場合には、それが書かれた素材や製本方法、筆記用具や書体の変化に関する配慮も必要になるので、それらが文献の理解とどのようにからんでくるかもテーマになる。また内容を正確に把握するためには文書が書かれた時代の歴史や文化特に宗教に関する知識も必須であり、文書の内容の理解とどのように関わるかについても講義する。</p> <p>講義の中で扱う文献は、主に、ソグド語、コータン語、バクトリア語、中世ペルシア語、パルティア語などであるが、言語接触の問題を考察する場合など必要に応じて、中国語や古代チュルク語など周辺の言語との関係も見ることとする。</p>									
【履修要件】									
特になし。									
【成績評価の方法・基準】									
前期と後期に1回ずつレポートを提出してもらい、それによって評価する。									
【教科書】									
使用しない。									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>									
【その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）】									
<p>オフィスアワーは特に設けないが、質問があれば研究室で受け付ける。詳しくは授業のおりに知らせる。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 稲葉 穰				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	特殊講義
題目	初期イスラーム時代における王権とレジテマシー								
【授業の概要・目的】									
<p>信徒の共同体として出発したイスラーム教との集団がどのように変化を経験し、その過程で社会構成がいかに変質したのか。また社会の変質に伴いどのような階層化の理論があらわれ、それはイスラームの地域化とどのように関わるのかを、モンゴルの大征服以前の東方イスラーム世界を題材に、近年の研究成果を参照しつつ考える。その過程で、近現代のイスラーム主義のあり方を相対的に理解することを目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期は当該テーマに関連する事項について基礎知識を獲得することを目的として以下の内容を講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ウンマとカリフの誕生 2. カリフ位を巡る内戦とその結果 3. アッバース革命 4. 「ペルシア」の復権 5. 地方王朝と軍事政権の出現 <p>後期はP. Crone, God's Rule: Government and Islam. Six Centuries of Medieval Political Thought, Columbia University Press, 2004., L. Marlow, Hierarchy and Egalitarianism in Islamic Thought, Cambridge University Press, 2002.をテキストとし、これを会読しつつ、関連する問題について考える。</p>									
【履修要件】									
毎回テキストの予習をしていくことが要求される。									
【成績評価の方法・基準】									
簡単なレポートおよび平常点にて採点する。									
【教科書】									
<p>授業中に指示する 上記のテキストについて、関連箇所を配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する 授業時ハンドアウトを配布する。</p>									
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 特になし。</p>									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)			担当者氏名	京都女子大学 文学部 教授 谷口 淳一				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	前近代イスラーム社会における学者と学問								
【授業の概要・目的】									
<p>ウラマー（イスラーム学者）は、イスラーム社会において重要かつ多様な役割を果たしてきた。本講義では、彼らが従事した学問の手法や知識の継承方法および彼らが果たした社会的な役割について、主に16世紀以前の西アジアの事例を通して、理解を深めることを目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業をおこなう予定である。基本的には講義形式で進めるが、関連文献の読解なども適宜取り入れていきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究史 2. 基本史料 3. イスラーム文化の中の学問 4. ウラマーの起源 5. 学問伝承の方法 リワーヤとイジャーザ 6. マドラサをめぐる諸問題 7. 聴講会 マドラサ外の授業 8. 職業としてのウラマー 9. 地域社会におけるウラマー 10. 支配権力とウラマー 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点および年度末のレポートによって評価する。									
【教科書】									
使用しない 必要な資料は適宜配布する。									
【参考書等】									
<p>（参考書） 谷口淳一『聖なる学問、俗なる人生 中世のイスラーム学者』（山川出版社）ISBN: 9784634474628 上記以外の参考文献については、授業において随時紹介していく。</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)			担当者氏名	追手門学院大学 磯貝 健一 国際教養学部 准教授				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	中央アジア・イスラーム法廷文書の研究								
【授業の概要・目的】									
現在ウズベキスタン共和国の領域に含まれる中央アジア各地のイスラーム法廷で、主に19世紀前半～20世紀初頭にかけて作成されたペルシア語、ないし、チャガタイ語の法廷文書の書式と内容を検討する。									
【授業計画と内容】									
【授業の内容】 本講義で使用する文書は、ソ連崩壊後にウズベキスタン各地で収集された各種のイスラーム法廷文書であり、その多くは元々民間に所蔵されていたものを各地の博物館に移送したものである。文書の使用言語はペルシア語、ないし、チャガタイ語であり、一部の文書ではさらにアラビア語が併記される。また、種別の上ではこれらの文書は売買、譲渡担保、権利放棄、ワクフといった契約文書と、訴状、判決文、ファトワなどの裁判関連文書とに大別される。今年度は前期は譲渡担保文書、後期は金銭ワクフ文書、および、権利放棄文書をそれぞれ購読する。									
【授業の目標】 本講義の目標は、手書きの文書を読解する力を身に付けることである。									
【授業の方法】 文書の原文講読にあたっては、新たな種類の文書に取り掛かるたびに、まずは磯貝が活字体に翻刻した文書のテキストを受講生に示し、その書式と内容を説明する。そのうえで、次の週から同種の文書の手書きテキストを受講生に読解させるという方式を採用する。									
【授業計画】									
《前期》									
<ul style="list-style-type: none"> ・中央アジアのイスラーム法廷文書について(1週) ・譲渡担保文書の書式、内容の説明(1週) ・ブハラ、サマルカンドの譲渡担保文書(4週) ・フェルガナ盆地の譲渡担保文書(4週) ・ホラズムの譲渡担保文書(4週) 									
《後期》									
<ul style="list-style-type: none"> ・金銭ワクフ文書の書式、内容の説明(1週) ・ホラズムの金銭ワクフ文書(4週) ・権利放棄文書の書式、内容の説明(1週) ・ブハラ、サマルカンドの権利放棄文書(4週) ・ホラズムの権利放棄文書(4週) 									
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----									

西南アジア史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

文書の原文講読を主たる内容とするので、ペルシア語、チャガタイ語、アラビア語の内いずれか一つの基礎を身に付けていることが望ましい。但し、これらの言語を習得していなくとも、歴史文書に興味のある者であれば受講を歓迎する。特に、国史、東洋史、西洋史を専門とする受講生には、原文講読を担当させることはしないかわりに、各自の専門分野に即した意見を求めたい。

【成績評価の方法・基準】

通常の授業での講読担当回数、ないし、授業中の発言内容を勘案して平常点を決定する。さらに、毎学期末にレポートを課し、評価の決定材料とする。評価における平常点とレポートの比重は1:1とする。

【教科書】

授業中に配布するレジюмеを教科書とする。

【参考書等】

(参考書)

小杉泰・江川ひかり(編)『イスラーム 社会生活・思想・歴史』(新曜社) ISBN:4-7885-1005-7 (本書163-170頁にイスラーム法廷の裁判についての簡単な解説がある。)

柳橋博之(著)『イスラーム財産法の成立と変容』(創文社) ISBN:4-423-73087-1 (各種契約文書を購読する際、参考とすべき文献。)

Joseph Schacht 『An Introduction to Islamic Law』(Clarendon Press) ISBN:0-19-825473-3 (イスラーム法全般に関する古典的な教科書。)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

毎回の講読は担当者を決めて行うが、担当者はもとより、それ以外の者も自身の語学力に応じて予習をしておくこと。上記シラバスの内容からは相当に厳格な授業であるかのような印象を受けるかと思うが、実際の授業は楽しい雰囲気のもとで行いたい。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)			担当者氏名	京都女子大学 文学部 教授 川瀬 豊子				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	アカイメネス朝ペルシア帝国								
【授業の概要・目的】									
<p>前6世紀半ば古代オリエント世界を統一し、史上初の「世界帝国」を実現したアカイメネス朝ペルシア帝国を取り上げる。同時代のギリシア人は、この帝国を「自由の敵」と喧伝、その主張は以後も無批判にヨーロッパ世界で踏襲されてきた。本講義では、「世界帝国」としての統治システムの実態を明らかにするとともに、ギリシアとの「交流」も含め、「多文化共生」の可能性について考察する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1週：オリエンテーション&アカイメネス朝研究史料 第2週：オリエント史概観&文字の考案 第3週：アカイメネス朝ペルシア帝国の成立 第4～5週：ダレイオス1世の諸改革 1) 税制改革・サトラプ制 第6～7週： 2) コミュニケーション・システムの整備・拡充 第8週：スライド：ペルセポリス 第9～11週：王室管轄下の女性労働者 第12週：宮廷の女性～政治抗争の場としてのハーレム～ 第13～14週：ギリシア人とアカイメネス朝ペルシア帝国 第15週：定期試験</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験では、因果関係を正しく理解し、対象を比較・相対化することができるかを問う。定期試験80%、レポート20%。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)			担当者氏名	東海大学 文学部 教授 菟原 卓				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	ファーティマ朝史の研究								
【授業の概要・目的】									
<p>シーア派の一分派であるイスマーイール派が建設したファーティマ朝（909～1171年）の歴史を講述する。王朝初期の北アフリカ支配時代については、カリフ権力や宮廷に焦点をあて、エジプトに本拠を移して以後については、行政制度に焦点をあてる。これは、同王朝の歴史の主役が初期においてはカリフであり、エジプト時代は制度であったと見ることができるからである。</p> <p>従来のいわゆるイスラム世界史はスンナ派を中心に叙述されるため、受講生がファーティマ朝の歴史についての情報に接する機会は少ないと思われる。本授業を通じて受講生の知見の空白を埋めることを目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
第1回	ガイダンス								
第2回	シーア派とイスマーイール派について								
第3回	王朝成立直後の教宣の一齣								
第4回	カリフ=マフディーによるアブー・アブドッラーの粛清								
第5回	Al-Majalis wa al-Musayaratに見られるカリフ=ムイッズ								
第6回	ジャウザルの伝記に見るファーティマ朝宮廷の内情								
第7回	ファーティマ朝貴顕の商業活動								
第8回	エジプトにおけるファーティマ朝前半期のワズィール職								
第9回	エジプトにおけるファーティマ朝後半期のワズィール職								
第10回	ファーティマ朝のディーワーン 1								
第11回	ファーティマ朝のディーワーン 2								
第12回	ファーティマ朝前半期の書記規範								
第13回	ファーティマ朝時代の初期の分類と職掌								
第14回	ファーティマ朝国家論								
第15回	まとめ								
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習Ⅰ) West Asian History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 井谷 鋼造				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	西南アジア史に関する欧文文献講読								
【授業の概要・目的】									
学部学生に対する演習として、下記の英語文献を講読しながら、西南アジア史に関する基礎知識の習得を目的とする。									
【授業計画と内容】									
I.P.Petrushevsky, Islam in Iran, SUNY Press, 1985. 「イランのイスラーム」と題された書物であるが、元来はソ連時代の1966年にレニングラード大学での講義録として出版されたロシア語の作品を英訳したものである。この文献を精読することにより、西南アジア地域の歴史において大きな影響を有するイスラームの歴史や文化やその研究状況についての基礎知識を習得する。今年度は第3章「教義と儀礼」から講読を開始する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
参加者の出席状況と講読担当の内容によって評価する。									
【教科書】									
I.P.Petrushevsky 『Islam in Iran』 (SUNY Press, 1985.) 授業で必要なテキストは、プリントして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 必要な資料は適宜コピーして配布する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 井谷 鋼造				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	ペルシア語古典史料研究								
【授業の概要・目的】									
モンゴル帝国支配時代（1280年頃）にルーム（アナトリア）で書かれたペルシア語史料である、イブン・ビービーの作品を写本の写真版と校訂テキストを基にして精読・研究し、文献研究に基づく歴史研究を行なう。									
【授業計画と内容】									
Ibn Bîbî, al-Awâmir al-`Alâ'îya fî al-Umûr al-`Alâ'îya, Ankara, 1956. ルーム・セルジुक朝の宮廷で書かれた本書は、13世紀を中心としたアナトリアの歴史を研究するための最も重要な史料である。モンゴル支配時代の西アジアの歴史を正確に把握するためにも必ず参照しなければならない文献である。トルコ共和国イスタンブル市内の図書館に所蔵される、現存唯一の写本の写真版が50年以上前に出版されており、冒頭の約3分の1については校訂テキストが刊行されているので、これに基づいて文献講読と解説を行なう。この作品には韻文も多く、美文解読の能力が求められる。									
【履修要件】									
近世ペルシア語文法の基礎を習得していること。アラビア語についても基礎知識があることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
参加者の出席状況と講読担当の内容によって評価する。									
【教科書】									
Ibn Bîbî 『al-Awâmir al-`Alâ'îya fî al-Umûr al-`Alâ'îya』 (Ankara, 1956.) 授業で使用するテキストはプリントして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 特になし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 久保 一之				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	演習
題目	チャガタイ・トルコ語文献入門								
【授業の概要・目的】									
チャガタイ・トルコ語はティムール朝後期に確立された中央アジアの古典トルコ語であり、トルコ民族史を研究する上で、非常に重要な言語である。この言語の基礎を身につけ、著名な作品を講読することで、トルコ語文献やトルコ語語彙への対応をよくすることが目的である。									
【授業計画と内容】									
まずは、現代トルコ語との違いに注意しながら、文法を解説する。ついで著名なチャガタイ・トルコ語作品（バーブル著『バーブル・ナーマ』、ムハンマド・サーリフ著『シャイバーニー・ナーマ』、アブルガズイー著『トルコ族の系譜』、ナヴァーイーの散文作品など）の読み易い部分を講読する。最初はローマ字転写テキストも併用する。余裕があれば、オスマン・トルコ語文献との比較も行いたい。									
【履修要件】									
現代トルコ語の基礎的な知識を持ち合わせていること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と平常点による。									
【教科書】									
授業の際にプリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） J. Eckmann 『Chagatay Manual』（Indiana University, Bloomington）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)			担当者氏名	京都女子大学 文学部 教授 谷口 淳一				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	演習
題目	アラビア語古典史料演習								
[授業の概要・目的]									
本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。活字本校訂テキストだけでなく写本（写真版）を活用して史料を読む能力を養う。また、固有名詞や用語、引用について調査し、史料の記述内容を深く理解することを目指す。									
[授業計画と内容]									
Zayn al-Din al-Ma`bari al-Malibari（1583年以降没）著、Tuhfat al-mujahidin fi akhbar al-Ultghaliyinを読む。本書の内容の中心は、15世紀末のポルトガル人のインドへの到来とその後に生じた事件の1583年に至るアラビア語年代記であるが、マラバル地方へのイスラームの伝播に関する説話やヒンドゥー教徒の慣習についての記録も含まれる。テキストとしては、1898年にDavid Lopesが出版した校訂本を用い、写本の写真版を参照しながら読み進める。初回にテキストの解説をおこない、第2回より読解を進めていく。									
[履修要件]									
アラビア語（フスハー）文法を習得していること。									
[成績評価の方法・基準]									
平常点により評価する。									
[教科書]									
Zayn al-Din al-Ma`bari(Ed.David Lopes) 『Historia dos Portugueses no Malabar』（Lisboa:Imprensa nacional） 授業で直接扱う部分については、複写物を配布する。その他の部分については、受講生各自で適宜参照されたい。テキストに指定した文献は、下記のURLで参照することができる。 http://www.archive.org/details/historiadosport00lisbgoog									
[参考書等]									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
予習に際しては、テキストのアラビア語を日本語に訳すだけでなく、そこに含まれる固有名詞や用語、引用の出典についても調べてくること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉田 豊				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木1	授業形態	演習
題目	古代・中世イラン語文献演習								
【授業の概要・目的】									
<p>古代及び中世のイラン語文献を読みながら言語研究上の諸問題，および文献に書かれた内容（歴史宗教）について議論する．古代語としては主にアヴェスター，中世語としてはソグド語文献を読む文献言語学の手法を体得するとともに，イラン系の言語の構造と，イスラム化以前のイランの文化や歴史に触れることが本授業の目的である．</p>									
【授業計画と内容】									
<p>最初にイラン系の言語や文献の概要について解説する．その後は隔週で古代語と中世語を交互にとりあげる．アヴェスターでは，文法事項を確認するとともに，当該の文法事項を含む少し長めのパッセージを読んでいく．その際，宗教的な内容についても考察する．ソグド語文献では，8世紀から10世紀にかけて書かれたマニ教文献や仏教文献を，文法を確認しながら解読していく．これらの文献の内容を正しく理解するためには，この二つの宗教についての知識も不可欠であり，その点についても解説する．さらにこれらの文献を使った言語研究や歴史研究の方法についても論じる予定である．</p>									
【履修要件】									
<p>事前にこれらの言語について一定の知識を持っているか，授業とは別に独習しながらそれらの知識を補う用意のある学生を対象とする．</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>出席と授業への貢献など平常点で評価する．</p>									
【教科書】									
<p>教材はコピーして配布する．</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワーは特に設けませんが，質問があれば研究室で受け付ける．詳しくは授業のおりに知らせる．</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 井谷 鋼造				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	講読
題目	現代トルコ語文法・講読								
【授業の概要・目的】									
現代トルコ語文法の基礎を学び、その後現代トルコ語の文献の講読をおこなう。									
【授業計画と内容】									
トルコ語は、西暦8世紀以降現代までの長い歴史を有し、ウイグル語やウズベク語などユーラシアの広範囲で使用されるテュルク系諸語中の代表的で、最も話者数の多い言語である。この授業では単に現代トルコ語の文法を学ぶだけでなく、歴史資料としてのオスマン・トルコ語の文献を読解できる能力を身につけられるような講読をおこなう。歴史資料を扱う場合には、アラビア文字表記のトルコ語の知識が必要になるので、アラビア文字、ペルシア語、アラビア語の基礎知識があることが望ましい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
参加者の出席状況と講読担当の内容をもとに評価する。									
【教科書】									
勝田茂 『トルコ語文法読本』(大学書林)									
【参考書等】									
(参考書) 特になし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 久保 一之				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	講読
題目	ペルシア語講読								
【授業の概要・目的】									
現代ペルシア語文法を終えた者を対象に、中・上級のペルシア語講読能力をやしなう。現代ペルシア語だけでなく、様々な時代の近世ペルシア語テキストを取り上げ、時代による語彙・文体の違いを実感することも、重要な目的である。									
【授業計画と内容】									
現代ペルシア語ならびに近世ペルシア語のテキストを取り上げ、以下の講読を行う。 (1) 文法の復習をかねた初級現代ペルシア語講読 (2) 中・上級現代ペルシア語講読 (3) 近世ペルシア語(古典ペルシア語)選読 受講生は毎回予習が必要であるが、各人のペルシア語習得レベルを考慮する。									
【履修要件】									
現代ペルシア語文法の学習を終えていること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と平常点による。									
【教科書】									
授業の際にプリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) A.K.S. Lambton 『Persian Grammar』(Cambridge University Press) 黒柳恒男 『ペルシア語四週間』(大学書林)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)		担当者氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖					
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	講読
題目	アラビア語講読								
[授業の概要・目的]									
スーフィズム・タリーカ・聖者信仰を研究するには、さまざまなジャンルの資料が必要となる。本講義では、これらの資料の代表的なものを順次取り上げ、講読していく。									
[授業計画と内容]									
上記の研究のためには、理論書、列伝・徳行伝、参詣書、年代記、系譜書、用語集など、さまざまなスタイルの資料を扱えるようになる必要がある。本講義では、年に2～3点程度の資料を取り上げ、丹念に読み込む訓練を行う。 講読の対象としては、以下のような書目が挙げられる。 スラミー『スーフィー列伝』（著名なスーフィーの生涯を述べたもの） ガザリー『宗教諸学の再興』（代表的なスーフィズム理論書） アブドゥルカーヒル・スフラワルディー『修行者たちの作法』（スフラワルディー教団の修行規則を書いたもの） 1回目の講義において、こういった書籍のなかから何を選んで読むかを、相談して決める。									
[履修要件]									
アラビア語の初級文法を習得していること。									
[成績評価の方法・基準]									
平常点によって評価する。									
[教科書]									
テキストは当方で用意し、教室で配布する。									
[参考書等]									
（参考書） 佐藤次高編『イスラームの歴史1』（山川出版社）（（第5章 東長靖「スーフィズムの成立と発展」参照。）） 小杉泰編『イスラームの歴史2』（山川出版社）（（第3章 東長靖「スーフィー教団の革新と再生」参照。）） 山内昌之・大塚和夫編『『イスラームを学ぶ人のために』』（世界思想社）（（I-4 東長靖「スーフィーと教団」参照。絶版なので、図書館で借りて下さい。）） ティエリー・ザルコンヌ『スーフィー - イスラームの神秘主義者たち』（創元社）（（豊富な写真が特徴。東長靖監修。））									
（関連URL）									
http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/tonaga/ (東長靖のHP) http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/ (大学院アジア・アフリカ地域研究研究科はこちら) http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/exam/exam.html (アジア・アフリカ地域研究研究科入試情報ははこちら) http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kias/ (京都大学イスラーム地域研究センターはこちら)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
講義前には、十分な準備が必要である。資料中に出てくるクルアーン、ハディースの引用なども、必ず出典を確認してくること。また、詩が出てくる場合も、韻律を調べること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(実習) West Asian History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 久保 一之				
配当学年	3回生以上	単位数	1	開講期	前期	曜時限	金3	授業形態	実習
題目	西南アジア史学実習								
[授業の概要・目的]									
<p>イスラーム圏に関する歴史研究において、根本的かつ不可欠な文献・工具類とその利用法、および技術的な問題について解説し、適宜受講生に取り組ませる。共同研究室配架図書の利用をはじめ、実践的に研究を開始させることが目的である。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>以下の順に解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 入門書・事典・研究文献目録 (2) 史料言語の辞書・文法書・文献目録 (3) 歴史地図・暦表 (4) アラビア文字翻字(転写)法 (5) 文献表の作成(書誌学基礎) (6) コーラン・ハディース入門 (7) 史料研究入門(写本・文書・コイン・碑銘) <p>予習の必要はない。</p>									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
出席状況と平常点による。									
[教科書]									
授業の際にプリントを配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業は隔週を原則とし、初回に以後の予定を伝える。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(実習) West Asian History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 井谷 鋼造				
配当学年	3回生以上	単位数	1	開講期	後期	曜時限	水3	授業形態	実習
題目	西南アジア史学実習								
【授業の概要・目的】									
前期の実習（久保准教授担当）に引き続き、西南アジア史学の演習、講読、特殊講義などに参加して問題なく授業で講読などが担当できるように、基礎知識の伝授を行なう。参加者の都合が合えば、学外での見学や行事への参加を行なうこともある。									
【授業計画と内容】									
前期の実習では扱われなかった内容を補足したり、改めて説明するような授業とする。参加者からの積極的な質問や参加者の調査や発表を促す実習とすることを目指している。特に4年次における卒業論文作成の際の参考になるように、西南アジア史関係の代表的な日本語論文を講読し、内容について討議する授業も行なう。									
【履修要件】									
この授業を受講しようとする学生は、必ず前期に開講されている同名の科目を履修しておくこと。前・後期を総合して成績を評価する。									
【成績評価の方法・基準】									
出席の状況とレポートや発表の結果を評価して決定する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アラブ語（初級）（語学） Arabic			担当者氏名	国立民族学博物館 教授 西尾 哲夫				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	語学
題目	アラブ語								
【授業の概要・目的】									
現代アラビア語の初級程度の文法を習得することを目標にする。また基本的な会話ができることをめざす。									
【授業計画と内容】									
アラビア語の歴史やアラビア語を使用する社会ならびにイスラームとの関係について簡単にふれたのち、アラビア語を学習する上で必携すべき辞書等の参考文献について紹介する。アラビア文字の習得から初級文法について講義する。またアラビアンナイト等のアラブ文学についてもアラブ文化理解の一環として紹介する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況ならびに平常点による。									
【教科書】									
こちらで配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 西尾哲夫・師岡カリーマ・エルサムニー 『CD版エクスプレス エジプト・アラビア語』（白水社） 西尾哲夫 『アラビアンナイト 文明のはざまに生まれた物語（岩波新書）』（岩波書店） 西尾哲夫 『世界史の中のアラビアンナイト』（NHK出版）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イラン語（初級）（語学） Iranian			担当者氏名	大阪大学 大学院言語文化研究科 教授 森 茂男				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	語学
題目	イラン語（初級）								
【授業の概要・目的】									
現代ペルシア語の文法について学ぶ。基礎とはいえ、ペルシア語の読解に必要な十分な文法事項を習得する。後期の途中からは古典ペルシア語文献を含む平易なテキストを用いて読解力の基礎を身につける。									
【授業計画と内容】									
教科書にしたがって授業一回につき、一課半ほどのペースで進む。文法を終了すると（多分、10月半ば）平易なテキストを使って読解力の養成に努める。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
原則として、特に試験は行わず出席点と平常点によって総合的に評価する。									
【教科書】									
森茂男『ペルシア語初級文法』（最初の授業時に配布） 後期の途中から使用する読解用テキストは10月のはじめに配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 黒柳恒男『現代ペルシア語辞典』（大学書林） 参考書の詳細については初回の授業時に説明する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	シュメール語（初級）（語学） Sumer			担当者氏名	総合地球環境学研究所 森 若葉 上級研究員				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	語学
題目	シュメール語（初中級）								
【授業の概要・目的】									
<p>古代メソポタミアで話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末から三千年間にわたる数多くの資料を残している。この言語は、楔形文字で記され、複雑な接辞体系で知られている。本授業は、まだあきらかになっていない部分もあるシュメール語文法について概説をおこない、その古代の資料を実際に講読することを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期は、シュメール語文法の概説およびその書記体系である楔形文字の成立としくみについて解説を行う。その間、適宜簡単なシュメール語資料を読む予定である。</p> <p>後期は、シュメール語資料の講読を中心におこない、資料ごとに文法の解説、問題点の指摘を行う。また死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点、系統不明の古代のシュメール語の解読がどのようにおこなわれたのかについてもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキスト等である。なお、後期後半に楔形文字実習を予定している。</p>									
【履修要件】									
楔形文字の実習の際、粘土等を用意してもらう必要がある。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点および学年末レポートを予定。									
【教科書】									
なし。プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ヘブライ語(語学) Hebrew			担当者氏名	非常勤講師 手島 勲矢				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	古典ヘブライ語初級文法								
【授業の概要・目的】									
<p>聖書テキストおよびラビ文献を声に出して読むことができることを達成目標に初級ヘブライ語文法を概説する。声に出して読めるための基礎情報（文字と母音記号）および言葉の種類と形態認識の能力の獲得を目指す。テキストをベースに文法情報から意味を引き出す解釈基礎の習得にも努力する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前半は、アルファベットと母音記号などのマソラ記号を学ぶことから始めて、名詞、形容詞、前置詞、動詞の分詞形について学ぶ。次に、名詞や前置詞につく人称接尾辞の変化、規則動詞のカル形の人称変化、動詞の態などについて学ぶ。後半は復習から始めて、不規則動詞の形態変化を学びながら、聖書およびユダヤ教文献から選んだテキストをベースにして文法情報を確認しながら解釈の可能性の思考に慣れ親しむ。読解テキストは、創世記、出エジプト記、申命記、ヨシヤ記、詩篇、コヘレト等からのもの数節、またミシュナー・アボット他から選んだ数節。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点評価（前半小テスト(20%)と小クイズ（10%）と後半レポート（70%）の合計）狙いは、アレフベットと母音記号を組み合わせる能力、品詞を分類理解できる能力、辞書でテキストの言葉の意味を見つける能力、意味の可能性（複数）を見出す能力などの目標達成度を見るもの。</p>									
【教科書】									
<p>授業中に指示する 補助的プリントを配付する。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>特になし。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	現代インド語（ヒンディー）(語学) Hindi	担当者氏名	北海道大学 スラブ研究員センター 研究員 小松 久恵						
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	語学
題目	現代インド語（ヒンディー語）								
【授業の概要・目的】									
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初頭文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。									
【授業計画と内容】									
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。幸い、ヒンディー語は文法が簡単で、日本語に極めてよく似ているので、日本人学習者にとり習得することはそれほど困難ではないであろう。教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（40％）と筆記試験（期末30％、年度末30％）によって評価する。									
【教科書】									
町田和彦 『ニューエクスプレス、ヒンディー語』（白水）ISBN:978-4-560-06791-8（同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）									
【参考書等】									
（参考書） 辞書については初回の授業で紹介する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット（2時間コース）（語学） Sanskrit (2H)			担当者氏名	文学研究科 准教授 横地 優子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	語学
題目	サンスクリット初級文法（2時間コース）								
【授業の概要・目的】									
<p>古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけさせることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>文法事項の解説と練習問題による読解演習とを平行して授業を進める。扱う主な文法事項は：</p> <p>サンスクリット語概論、音論・連声（第1-3週） 名詞・形容詞曲用（第4-9週：母音語幹、第10-15週：子音語幹） 複合語、代名詞、数詞（第16-17週） 動詞現在活用（第18-19週：第1種活用、第20-23週：第2種活用） 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞ほか（第24-28週） まとめ（第29-30週）</p> <p>授業の進行は学習の理解度に応じて調整する場合がある。</p>									
【履修要件】									
予備知識は必要ない。幅広い専攻からの受講を歓迎する。									
【成績評価の方法・基準】									
平素の成績と筆記試験による。特に平常点（出席率および宿題）を重視する。									
【教科書】									
上村勝彦・風間喜代三 『サンスクリット語・その形と心』（三省堂）ISBN:978-4-385-36465-0									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
毎回宿題を課す。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 南川 高志				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	特殊講義
題目	ローマ帝国衰亡史の総合的研究								
[授業の概要・目的]									
<p>世界史上において、大国の興亡、とりわけその衰退について最もよく語られてきたのは古代のローマ帝国の場合であろう。ローマ帝国は後の西洋史上の帝国のモデルとされたと同時に、その衰亡をめぐって数多くの叙述や原因考察がおこなわれてきた。それらは、単に学者の見解にとどまらず、語る者の時代を反映した結果でもあった。この講義では、そうした各時代、とりわけ20世紀後半以降のローマ帝国衰亡史に関する叙述や見解を紹介・検討し、21世紀初めの現在における『衰亡史』を語る見地を確認することから始める。そして、帝国の最盛期に関する独自の分析を踏まえて、5世紀初めにおけるローマ帝国の西方支配の崩壊までを論じつつ、「ローマ帝国の衰亡」とは何であったのかという古くて新しい問題に解答を与えたい。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>本講義では、以下のテーマについて、2週～4週程度の講義をする予定である。</p> <p>(1) 「ローマ帝国衰亡史」論の歴史 (2) 21世紀の「ローマ帝国衰亡史」とは如何にあるべきか (3) 最盛期のローマ帝国 (4) 紀元3世紀のローマ帝国 (5) コンスタンティヌス大帝の時代 (6) 「背教者」ユリアヌスのローマ帝国 (7) テオドシウス大帝のローマ帝国 (8) ローマ帝国の西方支配の終焉</p> <p>本講義の担当者は、ローマ帝国を安易に地中海帝国と同一視する一般の見解を批判して、アルプスの北の広大な世界を重視しながらローマ帝国の歴史と本質を見直す研究を進めてきたが、その成果を生かした新しい「ローマ帝国衰亡史」を説明することが、本講義の第1の課題である。しかし、それにとどまらず、イタリアの事情の解説も組み込み、またヨーロッパ中世史との連関も説明できるように試みたい。</p>									
[履修要件]									
<p>受講生が古代ローマ史に関する専門的な知識や古典語の読解力を持っていることを受講の前提とはしていません。歴史の見方、語り方、解釈に関心のある方の受講を歓迎します</p>									
[成績評価の方法・基準]									
<p>定期試験(筆記)で評価します。</p> <p>ただし、筆記試験にレポート的な要素も組み込み、講義内容の理解度だけでなく、講義に基づいて受講生各自が調査検討した成果の報告の両方を評価の対象としたいと考えています。</p> <p>試験方法の詳細は授業で説明します。</p>									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
<p>(参考書)</p> <p>参考書については、授業中に随時紹介します。</p> <p>なお、ローマ帝国がどのような歴史的存在であったかを、近年の研究成果を踏まえて要点をごく簡</p>									
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----									

西洋史学(特殊講義)(2)

――に、しかしきわめて興味深く書いた下記の書物を、本講義の全体にわたる参考書としてあげておきます。

クリストファー・ケリー(藤井崇訳)『ローマ帝国』(1冊でわかるシリーズ)、岩波書店、2010年刊行。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

授業では、資料については、古代ギリシア語やラテン語の文書は和訳して紹介し、考古学的な遺物や遺跡の紹介のために適宜パワーポイントスライドを使用します。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 小山 哲				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木1	授業形態	特殊講義
題目	複合国家としての近世ポーランド・リトアニア共和国 ルブリン合同からポーランド分割まで								
[授業の概要・目的]									
<p>19世紀に国民国家が成立する以前のヨーロッパにおいては、歴史的背景や法・政治制度を異にする複数の地域が、それぞれの自立性を保ちながら、一人の君主または特定の王朝の権威のもとに結びついているような複合的な国家形態がむしろ一般的であった。近世のポーランド・リトアニア共和国もまた、ポーランド国王がリトアニア大公を兼ねる典型的な複合国家であったが、貴族の主導する議会が共和国全体を統合するうえで重要な役割を果たした点に特徴がある。</p> <p>本講義では、ルブリン合同（1569年）以降の時代を中心に、ポーランド・リトアニア合同にかんする研究史上の論点を整理し、制度と実態について解説する。本講義をつうじて、ヨーロッパ東部における国家形成にかんする歴史的な理解を深めることを目指す。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>本講義では、下記の内容について、2～4時限ずつ講述する。(1)複合国家論とポーランド・リトアニア史研究 研究史概観 (2)「両国民の共和国」 ルブリン合同（1569年）とその帰結 (3)リトアニア側からみた「合同」（その1） オジェホフスキ＝ロトウドゥス論争 (4)リトアニア側からみた「合同」（その2） A. S. ラジヴィウの日記から。(5)18世紀後半の国制改革における「合同」問題。前期には、ポーランド・リトアニア合同の研究史を整理し、「ルブリン合同」の成立の過程と、その前後の「合同」をめぐる議論について考察する。後期には、17世紀における「合同」の実態と、18世紀後半のポーランド・リトアニア関係の変化について解説する予定。</p>									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
講義内容の要点にかんする理解度を確認するために筆記試験を行ない、その結果によって評価する。									
[教科書]									
使用しない 授業中にプリントを配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 金澤 周作				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	特殊講義
題目	近代イギリスにおける海事史の諸問題								
【授業の概要・目的】									
近年、新たに研究が進んできた近代イギリスの海事史 (maritime history) の成果に学び、イギリスと海の関係を帝国史や経済史とは異なる視点からとらえ直す。									
【授業計画と内容】									
よく知られているように、16世紀以来、イギリスは海洋帝国として繁栄した。ところが、軍事的勝利や世界貿易、植民地獲得といった「栄光」のかけには、海と結びついたさまざまな難問と苦闘する人々がいた。この講義では、もうひとつの歴史を紡いできたかれらの営為とその意味を検討する。前々年度、前年度の講義の続編になるが、今年度から受講しても理解に支障はきたさないよう配慮する。前年度は海軍と私掠の問題に焦点を当ててきたが、今年度はとくに海難に着目していきたい。									
以下の諸論点について、それぞれ2～3回の講義を使って論じる。(1) 海事史研究の意味と射程 (2) 海軍 (3) 私掠 (4) 海運 (5) 海難 (6) 海難救助 (7) 海難予防 (8) 衝突回避 (9) 国際海難予防規定 (10) 海と港 (11) 海と科学 (12) まとめと展望									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点 (40%) と学年末の筆記試験 (60%) 。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
内容に関する質問は講義後の時間に受け付ける。別の日時に面談等を希望する者は講義の際に申し出てほしい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	グルジア人と戦争								
【授業の概要・目的】									
<p>19世紀後半から第一次世界大戦までの帝政ロシア支配下のザカフカス(トランスコーカサス)史を、グルジア中心に概観する。</p> <p>ロシア人がチェチェン人やグルジア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。ザカフカスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出し、それはグルジア人などの現地住民にもフィードバックされた。治安の悪さで悪名高いザカフカスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では戦争・反乱とグルジア人の関わりを主軸に、帝国統治と暴力について考えたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の内容について、各2-3回の講義を行う予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション：日露戦争と匪賊 ・クリミア戦争 ・ヴォロンツォフ改革 ・チェチェン反乱 ・住民移動 ・グルジア文学の興隆 ・露土戦争 ・社会主義運動の浸透 ・「ムスリム・グルジア人」 ・義賊から革命家へ ・1905年革命と民族衝突 ・イラン立憲革命と義勇軍 ・バルカン戦争の余波 ・第一次世界大戦 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポートおよび中間レポートによる。									
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----									

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワーは、金曜4限とする。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 王寺 賢太				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	特殊講義
題目	ルソー 『人間不平等起源論』を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>今年、生誕三百年を迎えるジャン＝ジャック・ルソーの『人間不平等起源論』（正式な題名は『人間観の不平等の起源と基礎についての論考』1755）は、自然状態と社会状態の対比を通じて、人間の自己自身への関係（自己愛）、性関係（性愛、家族）、経済的關係（所有・労働・分業）、政治的關係（国家・統治・支配/被支配）の存在条件を問いただそうとする著作である。社会はどのように成立し、また社会のなかにあるとはどのような事態なのか。またその社会全体の変動としての歴史はどのように成立し、どこに向かうのか。そうした大きな問題設定のなかで、ルソーは、経済的・政治的な不平等を、社会状態と切り離せない問題として提起する。本講義では、この『人間不平等起源論』を精読し、まずこの著作を18世紀の思想史のなかで理解することを心がける。また、現代政治哲学におけるルソーの思想の受容も踏まえつつ、その現代的な意義についても議論したい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業では、ルソーの『人間不平等起源論』の叙述にそって、順時、以下のようなテーマをあつかう。 自然状態の仮説（ホッブズ、プーフENDORF、ロック、モンテスキュー、ルソー） 動物と人間、人間の身体的な素質（自己保存、あわれみ、完成可能性）、情念と愛、家族の成立、自己愛の成立、道徳の成立、農業社会における労働の成立、所有権と利害の起源、戦争状態、社会の成立、国際関係、統治関係の成立、不平等の拡大。また、適宜、現代のルソー研究や、現代政治哲学（マルクス主義、全体主義批判、シュトラウス、ロールズ、共和主義、フランクフルト学派、フェミニズム）におけるルソー受容について紹介する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
評価は授業への出席と発表に基づいて行なう。									
【教科書】									
Jean-Jacques Rousseau 『Discours sur l'origine et les fondements de l'inegalite parmi les hommes』（GF Flammarion, 2008）（Blaise Bachofen et Bruno Bernardi (ed).）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	関西大学 文学部 朝治 啓三				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	中世英仏関係史								
【授業の概要・目的】									
<p>従来の一國完結史観やイングランド中心史観に基づいて、イングランドがガスコーニュを支配したために百年戦争が生じたと説明したり、そこを失ったために、却ってイングランドは身軽になり発展した、というような説明が我が国の教科書ではまかり通ってきた。本講義ではこのような説明の問題点を指摘し、欧米の研究成果に基づいて、より合理的な歴史像を描くことを目的とする。史料購読を含む。受講生は通説を疑うことの重要性を学ぶであろう。アンジュー帝国とその遺産が持つ歴史的意義、百年戦争の英仏関係史の中での意義を、史料に基づいて確認できる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>1. イングランド中世国制史を基軸にして、英仏関係史を、ノルマン征服から百年戦争終結まで概説する。</p> <p>2. ノルマン朝4代のノルマンディとイングランド統治の歴史的意義を史料に基づいて確認する。</p> <p>3. アンジュー帝国成立の例史的意義を、英仏関係史の視点から論点を抽出して詳述する。</p> <p>4. マグナ・カルタの成立がプランタジネット家によるイングランド統治を如何に基礎付けたかを、史料購読を通して詳述する。</p> <p>5. 13世紀前半の英仏関係を、カペー家とプランタジネット家による領有と統治の構造解明により解説する。</p> <p>6. ヘンリ3世時代の英仏関係を、1259年パリ条約の意義を中心に解明する。</p> <p>7. エドワード1世によるブリテン島統一事業を、英仏関係史の中で考察する。</p> <p>8. 百年戦争前半の英仏関係史を論点ごとに解説する。</p> <p>9. 百年戦争後半の英仏関係史を、ヘンリ6世による英仏王国統合問題を中心に論じる。</p> <p>10. 百年戦争終結の英仏関係史上における意義を論じる。</p> <p>各テーマ3回ずつ割り当てる。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業中に間欠的に実施する小レポート、および期末レポートによって成績評価する。英文史料を講読するので、出席して訳す作業が必須であり、その成績も加味する。									
【教科書】									
朝治啓三他編 『中世英仏関係史』（創元社）（2012年4月刊行予定） 川北稔編 『世界各国史 イギリス史』（山川出版社）（既刊 第9刷）									
【参考書等】									
（参考書） 朝治啓三他編 『西欧中世史 下』（ミネルヴァ書房） 朝治啓三 『シモン・ド・モンフォールの乱』（京都大学学術出版会）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
高校世界史を履修していなくても受講可。英語力必須。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 小関 隆				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	イギリス史における第一次大戦(その4) : 「未完の戦争」とアイルランド								
【授業の概要・目的】									
2008年度以来の継続となるが、今年度もイギリス史における第一次大戦について考える。第一次大戦は多くの意味で「未完の戦争」「うまく終わりそこなった戦争」であり、この戦争を理解するうえでは、戦間期や第二次大戦との連続性の視点がきわめて重要になる。大まかには、前期の授業で戦後の新しい国際秩序の構築過程を概説し、この概説を踏まえて、後期の授業で大戦中から1920年代にかけてのアイルランド問題の展開を検討する。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマについて、各々1～4回程度の授業を行う予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「未完の戦争」としての大戦 2. パリ講和会議 3. ヴェルサイユ条約 4. 国際連盟 5. ロカルノ条約 6. イースター蜂起 7. アイリッシュ・コンヴェンション 8. 独立戦争 9. アイルランド自由国と内戦 10. その他 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
試験ないしレポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
授業中に紹介する									
小関隆『徴兵制と良心的兵役拒否：イギリスの第一次世界大戦経験』（人文書院、2010年）をはじめ、人文書院刊のシリーズ「レクチャー：第一次世界大戦を考える」全6冊から、1冊でも2冊でも読むことが望ましい。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
予習よりも復習をお願いします。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	立命館大学 文学部 准教授 森永 貴子				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	近世・近代の商品と流通								
【授業の概要・目的】									
本講義では世界の市場が接近していった重要局面である近世から近代（16 - 19世紀）を対象とし、北ヨーロッパ、ロシアから清朝中国を含むユーラシア地域の商品流通と、それを担った商人たちが同時代の社会と国家に及ぼした影響を中心に解説する。具体的にはオランダの穀物貿易とバルト海貿易、ロシアと清朝中国の毛皮貿易、茶の世界商品化の過程を追い、貿易が果たした役割について考える。									
【授業計画と内容】									
第1週 オリエンテーション・導入 第2 - 3週 母なる貿易と近代経済（近世のオランダ） 第4 - 6週 「バルト海帝国」の形成（スウェーデンと軍事財政国家） 第7週 フランスの植民地物産（カリブ海と奴隷貿易） 第8-9週 英露貿易（白海とバルト海） 第10-11週 露清貿易（毛皮貿易の変化） 第12-14週 世界商品としての茶（アジア・ヨーロッパ間貿易） 第15週 帝国主義時代の英露市場競争（綿織物製品） 学生の要望によってはスケジュール変更もありうるが、テーマは基本的に変わらない。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験50%と平常点50%（出欠）で評価する。									
【教科書】									
使用しない 広い領域を扱うため、特定の教科書は使用しない。参考になる文献については授業中に適宜紹介する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者氏名	千葉商科大学 商経学部 教授 師尾 晶子					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	古代ギリシアの碑文習慣とその周辺								
【授業の概要・目的】									
<p>文字を石やブロンズなど耐久性のある素材に刻むという習慣は、地域および時代による相違は顕著に存在したものの、総じて古代ギリシア世界に幅広く見られた文化現象であり、その文化的特徴の一つであった。碑文習慣は公私のさまざまな場で展開され、人々の生活とも深くかかわっていた。本講義では、碑文習慣をめぐる議論を整理するとともに、数多くの碑文を具体的に取り上げることから、古代ギリシアの碑文習慣の展開についての理解を深めたいと思う。</p> <p>アルカイック期からヘレニズム時代まで扱うが、古典期から前3世紀にかけてのアッティカ碑文にとくに焦点をあて、テキストにとどまらず建立された場(トポグラフィ)、モニュメンタリティにも注意を払いながら、碑文習慣と政治・社会・文化との関係をさぐりたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の話題について取り上げる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 碑文習慣 ・ アルファベットと方言 ・ 奉納碑 韻文碑と散文碑 神々にむけて言葉を書き記すこと ・ エヴェルジェティズムと碑文習慣 記念碑と奉納碑 ・ 建築碑文とエヴェルジェティズム ・ 権力の表現と碑文習慣 法と行政 ・ デロス同盟と碑文習慣 ・ 記憶・記録・再刻・再利用・偽作 歴史の創出 ・ 古典史料と碑文 ・ グラフィティと碑文 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業最終時の筆記試験もしくは初回時に指示するレポートによる。									
【教科書】									
教科書は使用しない。初回時に参考文献とあわせて必要な資料を配付する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	非常勤講師 山下 修一				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	ヘーロドトスの『歴史』								
【授業の概要・目的】									
ヘーロドトスの『歴史』を精読することで、古代ギリシア語の読解力を養成するとともに、誕生したばかりの歴史叙述がもつ特徴と問題を考察しながら、その豊かな作品世界に触れる。									
【授業計画と内容】									
この授業では、昨年に続き、『歴史』の第1巻60章から読みすすめる。 『歴史』の重要な主題部を形成する「クロイソス・ロゴス」に続いて、キューロスを大王に戴くペルシアの勃興の様子が描かれる。リュディア王クロイソスとキューロスの対決以後、『歴史』は、歴代ペルシア大王の事績を軸に記述されることとなる。ヘーロドトスの筆は、各地の自然や風習の特異な記述を含みながら、キューロスの生い立ち、ペルシアの興隆、小アジアやバビロニアの征服、さらに、エジプト史へと流れるように進む。 初回の授業では、テキストのコピーを配布し、参照すべきコメントリーを指示する。また、ヘーロドトスのテキストは、古代ギリシア語の授業で学習したアッティカ方言ではなく、イオニア方言で書かれているため、このイオニア方言についての解説をおこなう。毎回の授業では、出席者に訳読をしてもらいながら、約3～4ページの割合ですすむ予定である。									
【履修要件】									
古代ギリシア語の初級文法を既修のこと。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価。（必要に応じて学期末テストを行う予定である。）									
【教科書】									
Carolus Hude 『Herodoti Historiae Libri - 』（OCT）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
出席者には、ある程度の予習が必要とされる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	同志社大学 法学部 教授 力久 昌幸				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	現代イギリス政治：歴代政権のリーダーシップに注目して								
【授業の概要・目的】									
この講義では、第二次世界大戦後から今日に至るまでのイギリスの歴代政権について、ヨーロッパ諸国との関係やEUに見られるような欧州統合への対応などに注目しながら、内政・外交のさまざまな側面から検討します。特に、戦後の衰退に歯止めをかけ、再び活力を取り戻すためにイギリスの歴代政権が実施したさまざまな改革について、首相の政治的リーダーシップのあり方に焦点をあてて検討します。戦後のイギリスが直面した内外の課題、および、それに対処するための首相のリーダーシップについて理解を深めてもらうことがこの授業の目的です。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマに関して、1テーマあたり1～2週の授業をする予定です。									
1 イントロダクション：イギリス現代政治の基本枠組 2 戦後政治の開幕：アトリー労働党政権 3 帝国後のイギリス：チャーチル保守党政権 4 スエズ危機：イーデン保守党政権 5 豊かな社会：マクミラン/ダグラス＝ヒューム保守党政権 6 現代化をめざして：ウィルソン労働党政権 7 Uターン：ヒース保守党政権 8 労働組合の時代：ウィルソン/キャラハン労働党政権 9 戦後コンセンサスの破壊：サッチャー保守党政権 10 新自由主義的改革の継続：メージャー保守党政権 11 「大統領型首相」とニュー・レイバー：ブレア/ブラウン労働党政権 12 連立の時代：キャメロン保守自民連立政権									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末レポート評価（80％）、平常点評価（20％） 平常点評価については、不定期（3～4回程度）に行う小テストにもとづいて行います。									
【教科書】									
梅川正美・阪野智一・力久昌幸（編）『イギリス現代政治史』（ミネルヴァ書房）ISBN:9784623056477									
【参考書等】									
（参考書） 細谷雄一（編）『イギリスとヨーロッパ：孤立と統合の二百年』（勁草書房）ISBN:9784326351442 力久昌幸『イギリスの選択』（木鐸社）ISBN:9784833222334 高安健将『首相の権力』（創文社）ISBN:9784423710708 その他、適宜授業中に紹介します。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	同志社大学 法学部 教授 力久 昌幸				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	現代イギリス政治：統治機構，政党，政策を中心に								
【授業の概要・目的】									
この授業では，1990年代以降，急速に変化しつつあるイギリス政治の現状について，議会や政府などの統治機構，スコットランド，ウェールズ，北アイルランドに対する分権改革，選挙制度と政党システム，そして，外交，経済，福祉など各種政策を取り上げて検討します。グローバル化や欧州統合の動きを受けて変化しているイギリス政治の現状に対する理解を深めることが，この授業の目的です。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業をする予定です。									
1 現代イギリス政治の概観 2 議会と君主制 3 政府：首相と内閣を中心に 4 行政機構 5 分権：スコットランド，ウェールズ，北アイルランド 6 外交政策 7 経済政策 8 福祉政策 9 選挙制度 10 保守党 11 労働党 12 自由民主党									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末レポート評価（80％），平常点評価（20％） 平常点評価については，不定期（3～4回程度）に行う小テストにもとづいて行います。									
【教科書】									
梅川正美, 阪野智一, 力久昌幸（編）『現代イギリス政治』（成文堂）ISBN:9784792332129									
【参考書等】									
（参考書） 梅川正美 『イギリス政治の構造』（成文堂）ISBN:4792331439 小堀眞裕 『サッチャリズムとブレア政治』（晃洋書房）ISBN:4771016399 近藤康史 『左派の挑戦』（木鐸社）ISBN:4833223147 その他，適宜授業中に紹介します。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	立命館大学 文学部 教授 高橋 秀寿				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	映像と記憶 - - 戦争・暴力・表象								
【授業の概要・目的】									
20世紀の歴史は、ドキュメンタリーであれ、フィクションとしての映画であれ、映像を通して深く現代人の脳裏に刻まれ、歴史的現実を作り上げ続けている。この講義では、20世紀、特に第二次世界大戦後に戦争と暴力の歴史がどのように映像を通して表象され、国民国家と国民を形成してきたのかを明らかにしていく。その際に、授業担当者の専門分野であるドイツ現代史を中心に講義を進めていくが、日本やほかの国々の映像・映画も取り上げていく。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業をする予定である。									
1．イントロダクション									
2．史料としての映像・映画									
3．映像・映画の歴史的機能と役割									
4．第二次世界大戦前における映画と記憶									
5．第二次世界大戦後における映画と記憶 - - 戦争の記憶									
6．第二次世界大戦後における映画と記憶 - - ホロコーストの記憶									
7．戦後の終わりとは映画と記憶									
8．総括									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートの内容によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
基本的に最小限度の基礎知識があれば理解できるような授業内容にするが、レポートでは欧米だけではなく、日本に関する戦後史と記憶の関係の叙述を求めるので、講義の流れとともに日本戦後史の自主的な学習が要求される。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(演習Ⅰ) European History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 南川 高志				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	西洋史学演習Ⅰ (西洋古代史演習)								
【授業の概要・目的】									
この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。外国語で書かれた研究文献を用いて、欧米学界の水準や史料の扱い方を学ぶとともに、欧米研究者の研究の問題点をも理解し、受講者自身の研究の深化に繋げることが第1の課題である。									
【授業計画と内容】									
本年度の西洋古代史演習の第1の課題は、古代ギリシア・ローマ時代とその社会の重要な点について、学界の最前線を踏まえた知識を獲得することであるが、さらに重要な問題点に関して学界の定説を塗り替えるような画期的解釈を提示した研究やその後の学説の変化を理解することも重視したい。演習参加者の関心あるテーマを勘案しながらも、古代ギリシア史とローマ史の分野における英語で書かれた重要な論文を主たるテキストとして、課題の検討をおこなう。初めて西洋古代史研究を開始する学部生に配慮して、まず第1～3週は日本人研究者が発表した研究論文を読んで、予備知識を得る。その上で、第4週から英語で書かれた論文を毎週1編ずつの検討する(参加者の人数により、1冊の書物を順次読む方式に変える可能性もある)。後期の後半からは、それまでの勉強の成果を踏まえて、受講者自身の研究報告とそれをめぐる討論に移る。これにより、4回生以上は卒論研究の深化を、3回生は卒論テーマの発見と研究の展望を得られることになる。									
【履修要件】									
古代ギリシア語やラテン語の読解能力、および西洋古代史の専門的知識を受講の前提とはしていない。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点で評価する(出席と報告、討論参加を重視する)。西洋古代史研究のための基本的な手続きと問題発見能力を身につけることができたかどうか、評価の目安である。									
【教科書】									
テキストとなる研究書や論文は、第1回の授業で紹介し、進行にあわせて準備する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に随時紹介する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
西洋史学専修の時代別演習はすべて、研究書や論文を精読して参加することが前提であり、相当量の予習をとまなうが、前期が終了する頃には、通常は英語の研究書・論文が楽に読めるようになっている。後期の個別研究報告・討論に際しても、報告者のテーマにあわせて、報告者以外の参加者も事前に関係文献に目を通すことが望まれる。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(演習II) European History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 服部 良久				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	西洋中世史演習 (西洋中世史演習)								
【授業の概要・目的】									
西洋中世史に関する新しい英語研究文献(研究書)を読み、中世史研究の最近の動向や問題点について学ぶ。専門研究文献を正確に読むための訓練でもある。									
【授業計画と内容】									
<p>第1回～4回は、予備的な知識を得るためにヨーロッパ中世史に関する邦語の参考文献を読む。</p> <p>第5回～22回は論文集、Why The Middle Ages Matter. Medieval Light on Modern Injustice, London/New York 2011 に所収の、今日の世界の具体的な問題関心から中世史にアプローチする諸論文を読む。毎回1人が一篇の論文について内容を要約し、論点を指摘、出席者で議論する。</p> <p>第23回～29回は、出席者の関心あるテーマについて個人報告を行い、議論する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
基本的には出席点。3回生にはレポートを課す。									
【教科書】									
Chazelle, C. etc.(eds.) 『Why the Middle Ages Matter』 (Routledge) ISBN:9780415780650 (出席者には教員が用意する(費用は自己負担))									
特になし									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
とくに3回生は、指示した参考文献を並行して読み進めることが、理解の前提となる。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(演習III) European History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 小山 哲				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	西洋史学演習 (西洋近世史演習)								
【授業の概要・目的】									
<p>近世(16～18世紀)のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献を読解し、また、個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>次の研究書を取りあげ、その内容を正確に理解するとともに、研究の視角や手法の特徴について議論する。</p> <p>Philip Benedict and Myron P. Gutmann (eds.), Early Modern Europe: From Crisis to Stability, Newark: University of Delaware Press, 2010.</p> <p>参加者全員による討論をつうじて、ヨーロッパ史における近世とはどのような時代か、近世史を研究する手がかりとなる史料にはどのような特徴があるか、この時代を理解するためにはどのような視点や研究の手法が有効か、といった問題を、さまざまな角度から検討する。なお、後期には、参加者がそれぞれ興味をもつテーマについて研究発表を行い、それにもとづいて全員で討論を行う機会を設ける予定である。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への出席、テキストの内容要約と論点の提示、研究発表、討論への参加の度合いなどを総合的に評価する。試験は行なわない。									
【教科書】									
使用するテキストの入手については、別途指示する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
とりあげたテキストをあらかじめ読んでくることが、授業に参加する前提である。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(演習IV) European History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 金澤 周作				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	西洋史学演習 (西洋近代史演習)								
【授業の概要・目的】									
この演習では、西洋の近代(18世紀半～20世紀初頭)を学び深める。欧米の研究文献の精読や個別の自由発表に立脚して、歴史学的な意識を持って考え、歴史学的な論点を理解することを主たる目的としている。									
【授業計画と内容】									
近代史研究は、対象とする場所(国や地域)と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、演習の前半では、大きくまた斬新なテーマを多方面から詳細に扱っている研究文献(英語)を、分担を決めて読んでいく。広い視野を学び、さまざまな方法論に触れ、同時に西洋史研究に不可欠な、英語文献を正確に読解する力を養う。さらに、内容について活発な議論がなされることを期待している。演習の後半では、各受講者に、日ごろの研究成果を報告してもらおう。ここでも、積極的に議論に参加してほしい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
演習内報告(回数は人数によって異なる)が80%、演習内での議論での貢献が20%。									
【教科書】									
テキストについては第1回の演習日に指定し、コピーして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
受講者に対するこの演習の効果は、文献を事前にどれだけしっかり読み込んだかに左右される。ただ読むだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(演習Ⅴ) European History (Seminars)				担当者氏名	文学研究科 教授 服部 良久			
						文学研究科 教授 南川 高志			
						文学研究科 教授 小山 哲			
						文学研究科 准教授 金澤 周作			
配当学年	4回生のみ	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	西洋史学演習 (卒論演習)								
【授業の概要・目的】									
卒業論文の研究テーマについて参加者が中間報告を行い、全員で討論する。研究報告と討論をつうじて研究テーマにかんする理解を深めるとともに、研究を進めるうえでの問題点を認識し、卒業論文の完成度を高めることを目標とする。4回生は必修。									
【授業計画と内容】									
参加者は、原則として2回(前期・後期に各1回)、研究の成果を発表する。前期の発表では、卒業論文の研究テーマを設定したうえで、そのテーマにかんする研究状況を調査して問題点を抽出し、今後の研究の課題を提示することを目標とする。後期の発表では、自ら設定した研究の課題について、史料や研究文献をふまえて検討し考察した内容について報告し、卒業論文の概要を提示することを目標とする。参加者には、互いの研究発表を聴くことをつうじて西洋史上のさまざまな研究テーマにかんする理解を深めると同時に、討論に積極的に参加し、各自の研究発表について疑問点や問題点を指摘し合うことによって、卒業論文の質を向上させていくことが求められる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への出席、討論への参加、2回(前期・後期各1回)の報告にもとづいて総合的に評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 特になし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
本演習は、卒業論文の準備のための授業である。したがって、卒業論文の執筆に向けて授業時間外に十分な学習を積み重ねることが、授業に参加する前提である。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(演習) European History (Seminars)				担当者氏名	文学研究科	教授	服部	良久
	文学研究科	教授	南川	高志					
	文学研究科	教授	小山	哲					
	文学研究科	准教授	金澤	周作					
配当学年	2回生のみ	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3	授業形態	演習
題目	2回生のための西洋史セミナー								
【授業の概要・目的】									
ヨーロッパの歴史と文化に関心を抱いている2回生に対して、その関心を歴史学的な問いに変えるための導入をおこなうとともに、西洋史学の世界を体験してもらう。									
【授業計画と内容】									
この授業は、西洋史学専修の専任教員4名がリレー式で担当する。授業は演習方式で行われ、参加者全員で議論しながら西洋史学の考え方について学ぶ。まず、半世紀以上にわたってたたかわされてきた「17世紀危機論争」に関するテキストを読んで、大きな論点の所在、そして論争の仕方を学ぶ(金澤)。つぎに、ナタリー・Z・デーヴィスの著書『帰ってきたマルタン・ゲール』と、彼女の監修した映画『マルタン・ゲールの帰還』を比較しながら、歴史を叙述する方法や媒体について考える(小山)。西洋史の基礎的な学術論文を読みながら、西洋史の勉強、あるいは西洋史の研究論文とはどういうものであるか、理解してもらう(南川)。西洋中世が近現代のヨーロッパに遺した歴史的遺産について考えさせる啓蒙的文献を読んで議論する(服部)。受講にあたって西洋史に関する知識は特に必要とはせず、自由な発想を歓迎する。									
【履修要件】									
西洋史への分属を志望していない学生も歓迎する。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価(演習での発言や報告など)。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書)									
参考文献については、各教員が随時紹介するが、西洋史学という学問全般にわたっては、次の書物が、勉強の実際から学会や研究会、留学やキャリアパスまで具体的な紹介をおこなっているため、参考になる。。 服部良久・南川高志・小山哲・金澤周作編『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』(京都大学学術出版会、2010年)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業の核は、事前に読んだり調べたりしたに基づいて活発な議論をすることである。主体的にとりくめば、将来、西洋史に進まないとしても大きな糧となるはずなので、がんばってほしい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 服部 良久 非常勤講師 園屋 心和				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	講読
題目	独書講読								
【授業の概要・目的】									
ドイツ語で著された歴史学の方法やドイツ史に関する最近の論文、著書を精読することにより、歴史研究に必要なドイツ語の語読解力を高める。文法に加えて初歩的な講読の授業をも履修していることが望ましい。									
【授業計画と内容】									
前期（服部担当）は、歴史学の方法や動向に関する最近の論文を読み、ドイツ語に固有の構文や表現の特徴など、ドイツ語専門論文を早く読むコツを習得する。後期（園屋担当）は、ドイツに関係する歴史上の人物や出来事などを記憶史の観点から論じた論文集『記憶の場』（E. François/H. Schulze (Hg.), Deutsche Erinnerungsorte, 3 Bde., München 2001）の中から、H・シュルツェの論文「ヴェルサイユ」を読む。ここでは、記憶史という歴史学上のテーマにふれてもらうと同時に、ドイツ語文法の基礎固めや、文の流れおよび文意の把握を重視しつつ、ドイツ語の読解力の向上を目指す。」									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
基本的には毎週、出席して訳すことが評価の基準になる。予習、出席、毎回全員が訳を行うことを前提とする。									
【教科書】									
テキストはコピーを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
予習を十分に行うこと、これが外国語上達の大前提である。ただしあらかじめ訳文をノートに記し、授業の時に読み上げるというやり方は、逆効果である。予習で考え、授業でもう一度考えることが必要である。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月4	授業形態	講読
題目	英書講読								
【授業の概要・目的】									
米国の歴史家 Peter Novick による THAT NOBLE DREAM: The 'Objectivity Question' and the American Historical Profession (高貴なる夢:"客観性問題"と米国の歴史学)を輪読することで、英語読解力を身につけていくことを目指す。									
【授業計画と内容】									
教科書の THAT NOBLE DREAM は米国歴史学会AHAの賞も受けた、評価の高い米国歴史学のヒストリオグラフィー(歴史学の歴史)である。授業では、この650頁近い大著のうち、欧州の客観主義的歴史学の米国への導入過程を描いた6章からなるパートIと、第一次世界大戦を契機とする客観主義指向の「空気の变化」をテーマとするパートII第6章 A changed climate までを読む。しかし、参加者の人数などにより、この目標は変化する。毎回数名の担当者を定め、1回にテキスト10ページ程度を読み進める。担当者は、担当した部分を全訳するのではなく要約して報告する。また、事前に担当部分を要約した資料を準備し林に提出し、これを林が参加者全員に講義のサイトを通して配布する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点により採点する。担当箇所について提出する資料と授業時の説明の様子が主な採点対象となる。ただし、授業中に担当者以外に質問や意見を求めるが、その様子も採点対象となる。(担当者とは別の解釈・翻訳の提示など。)									
【教科書】									
Peter Novick 『That Noble Dream: The 'Objectivity Question' and the American Historical Profession』(Cambridge Univ. Press) ISBN:0521357454									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
資料の配布、講義の連絡などは、主にKULASISや、別に作る予定の授業のサイトを通して行なう。また、月曜の12:00から3講時に1時間ほどオフィスアワーを設定する予定だが、これは参加者と相談の上決める。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 佐藤 夏樹				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月4	授業形態	講読
題目	英書講読								
【授業の概要・目的】									
アメリカ移民史を専門とするDavid GutiérrezのWalls and Mirrorsを精読する。学術的に書かれた英語文献読解に必要な基礎力をつけることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
テキストとして使用するWalls and Mirrorsは、メキシコ系アメリカ人がメキシコ移民に対して感じる、異なる存在であるが親近感ももてるという複雑な感情を「壁と鏡」と表現し、彼らのそのような感情が歴史を通してどのように変化していったのかを通史的に論じている研究書である。単に英語の文章を読解するだけでなく、外国語の研究書の議論の立て方を授業を通して学んでほしい。授業は全員が予習をしてくることを前提とし、事前に報告者を決めない形で授業中に何人が指名し、段落ごとを目安として訳をしてもらう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席、報告）と期末試験の結果で総合的に評価する。									
【教科書】									
テキストを配布する（Gutiérrez, Walls and Mirrors）。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
講読の授業であるので、全員がテキストの予習をしてることが必須である。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	講読
題目	露書購読								
【授業の概要・目的】									
文字改革以前のロシア語文献の講読を通じて、ロシア語の一般的読解力を向上させ、同時に旧字体のキリル文字にも習熟させる。									
【授業計画と内容】									
以下の書物をテキストとする予定である。									
<p>テキスト内容は20世紀初頭のザカフカス(トランスコーカサス)地域の主要民族に関する一ロシア人の概説的叙述。学生の希望により、「アルメニア人」「トルコ人」「グルジア人」「ペルシャ人」の4つの章のうちどれかを選んで読む予定。</p> <p>ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。</p> <p>受講人数にもよるが、毎回1頁程度、一人あたり数行ずつの割当てで進行する。</p>									
【履修要件】									
特にないが、ロシア語初級を習得していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
期末テストはおこなわない。出席と予習の精度による。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは、金曜3限とする。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 小山 哲				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水1	授業形態	講読
題目	仏書講読								
[授業の概要・目的]									
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、ヨーロッパ中・東部の近・現代史にかんする理解を深めることを目標とする。									
[授業計画と内容]									
テキストとしては、1990年以降の国際状況の変化をふまえて新しい角度から東中欧地域の歴史を通観する N. Aleksiun et al., Histoire de l'Europe du Centre-Est, PUF 2004 のなかから、19～20世紀の諸問題(ナショナリズム、全体主義、ホロコースト)を論じた諸章をとりあげる。 授業は、受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、ヨーロッパ近・現代史上の諸問題にかんする理解を深めることを目指す。									
[履修要件]									
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。									
[成績評価の方法・基準]									
平常点と学期末におこなう筆記試験によって評価する。									
[教科書]									
授業の進度に応じてテキストのコピーを配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 天野 恵				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	講読
題目	イタリア史概説講読								
【授業の概要・目的】									
<p>文学作品ではなく歴史書を講読することにより、イタリア文化研究をめざす学生に要求される知識を提供しながら、様々な専門分野の学術論文をはじめとする知識人向けに書かれたイタリア語文献を読解・理解する能力を育成する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>ルイジ・サルヴァトレッリによるイタリア史概説書から近代史の章のいずれかを選んで講読する。歴史書の場合、当然ながら日本人によって執筆されたものとは史観が異なるうえ、前提として読者に要求される知識や価値観もイタリア人を念頭に置いたものであることから、これを読むことは語学の訓練にとどまらず、イタリア文化そのものとダイレクトに接触することを意味する。従って、本講読の目的は学生の語学力を充実させることにあるものの、イタリアに関する文化的な興味を抱いていることが当然の前提となる。なお、具体的にどの時代についての記述を講読の対象とするかについては、実際に履修する学生の要望に応じて決定する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点を基準とする。出席および予習の精度により判定を下す。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
(参考書) なし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(実習) European History (Seminars)				担当者氏名	文学研究科 教授 服部 良久			
						文学研究科 教授 南川 高志			
						文学研究科 教授 小山 哲			
						文学研究科 准教授 金澤 周作			
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	実習
題目	西洋史学実習								
【授業の概要・目的】									
この授業は、学生が西洋史の卒業論文を作成するために必要となる研究能力を、知識と技術の両面から身につけることを目的に開講する。研究情報の収集から論文での議論のあり方、史料(外国語)の分析法、さらには西洋史研究の方法論や史学思想まで、具体的に学ぶ。									
【授業計画と内容】									
授業は、専任教員4名のリレー方式で実施される。次の(1)、(2)を前期に、(3)、(4)を後期に実施する。(1)図書館で西洋史の専門書や学術雑誌に触れることから始めて、研究の具体的な手順や論文の構成、議論のあり方などを学ぶ。(2)実証研究の入門として、外国語で書かれた史料に触れ、そこからどのようなことが読み取れるかを考える。(3)歴史学(または隣接分野)でしばしば用いられる基本的な概念や考え方について、テキストを読みながら学ぶ。(4)研究文献や史料に関する情報収集の方法をマスターすることをめざす。雑誌や文献要覧など冊子体の情報から、web上の様々な専門分野別の史資料サイトまで、実際に自分の仮の研究テーマとキーワードを設定して調査、検索し、有益な文献情報リストを一定のフォームに従って作成する。									
【履修要件】									
西洋史学専修学生の必修科目で、3回生で受講することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。出席と報告を重視し、レポートを課す場合もある。									
【教科書】									
各教員ごとに随時指示をする。									
【参考書等】									
(参考書) 各教員ごとに随時指示をする。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
この授業で習得する知識・技術は、学生各人の卒論研究に直結する。授業課題の研究論文・研究書を予習として読み、報告やレポート提出をこなすだけでなく、この授業で学んだ方法を自身の研究に適用し、4回生の卒論演習での報告を目標に、自らの専門研究を進めることが重要である。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

考古学専修

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 上原 真人						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	古代寺院資財帳の考古学								
【授業の概要・目的】									
<p>考古学的に日本古代寺院を研究する際には、建物跡・工房跡などの遺構、土器・瓦などの出土遺物が主な分析対象となる。しかし、そこから寺院の外見的な構造や、創建・再建・廃絶などの情報を獲得できても、古代寺院の中で何をしていたのかイメージするのは難しい。古代寺院資財帳には、建物施設や仏像・経典・墾田地や庄園などの基本財産ばかりでなく、官大寺ならば正倉院宝物に匹敵するような豊かな備品・消耗品が記録されている。建物施設に関わる記録は建築史が、仏像・経典に関わる記録は美術史や仏教史が、墾田・庄園に関わる記録は土地制度史が、それぞれの立場で研究を深化している。しかし、供養具・荘厳具をはじめとする備品や、銭貨・地金をはじめとする消耗品は、以外と看過されている。これらの備品や消耗品は古代寺院の宗教活動や社会活動、あるいは僧尼の日常生活を理解する上で見逃すことができない物的資料である。数は少ないながらも、各時代の各ランクの寺院の資財帳が残っている。それらを比較しつつ、正倉院宝物や出土遺物、絵画資料などを参照しつつ、古代寺院がどのように経営され、その中でどのような活動が行われていたのかを考えることは、ある程度まで可能である。本講義ではそうした試みを行う。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>いくつかの古代寺院資財帳を材料にして、記載内容を吟味する。</p> <p>具体的には、大安寺伽藍縁起並流記資財帳(747年)、法隆寺伽藍縁起並流記資財帳(747年)、法隆寺東院縁起資財帳(761年)、阿弥陀悔過料資財帳(767年)、西大寺資財流記帳(780年)、多度神宮寺伽藍縁起並流記資財帳(788年)、安祥寺資財帳(867年)、広隆寺縁起資財帳(873年)、観心寺縁起資財帳(883年)、広隆寺資財交替実録帳(890年)、観世音寺資財帳(905年)などがある。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末にレポートを提出すること									
【教科書】									
使用しない 適宜プリントを配付する									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>授業中に紹介する 聞いたこともない物品名が出てくるが、前後の文脈や、他の資財帳との対比から、その実体が判明したり、臆気ながら使い道が推測できたりするのが、お楽しみ。</p>									
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p> <p>オフィスアワーはとくに設けないが、講義内容に関わる質問は常時、受け付ける。電話やメールでアポをとること。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 泉 拓良				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	先史考古学								
【授業の概要・目的】									
縄文考古学通論。講義者がこれまでに発表してきた報告書や論文について、その背景を説明し、学史的な位置付けをおこない、今日のテーマへの見解を述べる。この講義は、西日本縄文時代研究の展開と個人史とを重ねて表現するもので、西日本縄文時代研究史の基礎となる。									
【授業計画と内容】									
1 課題あたり、1～3週の授業を予定している。 縄文時代への興味(泉靖一・芹沢長介：多元的文明起源論) 様式論と縄文土器(小林行雄：一乗寺向畑遺跡の整理：土器への興味) 京都大学構内遺跡の発掘調査(北白川上層式と北白川C式) 岡山県福田遺跡の整理(後期) 鹿児島県武貝塚の発掘調査(後期、災害と考古学) 滋賀県粟津湖底遺跡の整理(粟津SZ1群、船元式の細分) 滋賀県安土遺跡の整理(前期) 押型文土器研究(矢野健一) 滋賀県相谷熊原遺跡(縄文開始期の停滞) 和歌山県瀬戸遺跡の発掘調査(家根祥多：縄文から弥生) 石川県真脇遺跡(後晩期西日本集落) 奈良県観音寺・本馬遺跡(平地住居) 京都市上里遺跡(縄文晩期農耕) 南米・中東に於ける発掘調査 発掘調査と考古学									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験(レポート)。授業内容を理解し、それを研究に生かせるかをレポート採点の基準とする。									
【教科書】									
授業中に配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
質問は授業終了後に受ける。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 吉井 秀夫				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	朝鮮考古学の諸問題(2)								
【授業の概要・目的】									
中国や日本との関係に留意しつつ、朝鮮半島における考古学的研究の現状を概観し、いくつかの具体的な問題について検討をおこなう。									
【授業計画と内容】									
今年度は、三国時代を中心とする墓制の比較研究を大きなテーマとする。具体的には、概ね以下の順で講義を進めていく予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> 1 研究史と時期区分論 2 考古学からみた墓制・葬制の再検討 3 墳丘と埋葬施設の構築パターン 4 棺・槨・室をめぐる諸問題 5 墓制からみた朝鮮半島の地域性ととの変遷 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況および年度末のレポートにより成績を評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
韓国考古学会 『韓国考古学講義(改訂新版)(韓国語)』(社会評論)									
吉井秀夫 『古代朝鮮 墳墓にみる国家形成』(京都大学学術出版会) ISBN:9784876988471									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
講義で紹介・検討した文献について、可能な限り目を通すように努力して欲しい。特別にオフィスアワーは設けないが、質問などは適宜受け付ける。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)			担当者氏名	文化財総合研究センター 准教授 清水 芳裕				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	古代窯業技術の諸問題								
【授業の概要・目的】									
古代の土器や陶器などの窯業製品における装飾技術について、考古資料から復元されてきた成果を解説し、資料の材質調査や技術の復元方法についての理解を深めることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
窯業製品の要素のひとつである装飾には、先史時代から顔料の使用、焼成による着色などがおこなわれ、のちには施釉の技術によってさまざまな陶器や磁器が生み出された。講義では、古代の土器や陶器の装飾技術について、顔料や釉の材質調査によって明らかにされてきた成果を、ガラスの技術と比較しながら紹介するとともに、その復元過程における問題点などを考察する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末のレポートによる。									
【教科書】									
使用しない。適宜プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 教授 岡村 秀典						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	漢鏡の研究(7)								
【授業の概要・目的】									
漢代の中国鏡について、考古学の型式学的研究法、図像や銘文の研究法、鏡にたいする観念、銅鏡の鑄造方法、銅鏡の理化学的分析などをめぐる研究の現状をふまえ、今年度はおもに後漢鏡の変遷と文化史的背景、日本列島への漢鏡の流入と国家形成について論じる。									
【授業計画と内容】									
前期は宋代以来一千年におよぶ古鏡の研究史を回顧し、研究の課題と展望を示す。後期は後漢中後期の銅鏡をおもな対象として、以下の内容について講述する。 古鏡研究一千年 中国・日本・欧米におけるパラダイム 型式学とその問題点 考古学的研究法と美術史的研究法 分布論とその問題点 作家論の構築 後漢鏡の図像について 後漢鏡の銘文について 後漢時代の社会と文化 日本列島から出土する漢鏡 鏡からみた日本の国家形成									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末試験。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
京都大学総合博物館をはじめ、各地の博物館や美術館に展示されている銅鏡の図像文様をよく観察しておくこと。また、漢鏡の図像や銘文を理解するには、中国古代史はもとより、文学や言語学、思想史などにかんする幅広い知識が必要であるから、あわせて関連する講義を履修することが望ましい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者氏名	理学研究科 教授 山極 壽一						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	人類学 第1部								
【授業の概要・目的】									
「自然におけるヒトの位置」を知るために、霊長類と人類の自然生活からその進化史を比較検討する。講義の中心テーマは、霊長類学と生態人類学の方法論と視点、とくに霊長類の社会性の基礎となる生態学的要因、社会の進化について解説し、最近論議されている説を検討する。									
【授業計画と内容】									
1. 霊長類学の発想、2.日本の霊長類学、3.人類誕生の舞台、4.霊長類の進化、5.食と社会、6.霊長類の生活史、7.霊長類の性と進化、8.インセストの回避、9.子殺しと社会、10.暴力の進化、11.平等社会と不平等社会、12.対面交渉と食物分配、13.道具使用と文化、14.文化のビッグバン、15.認知と感情の進化									
【履修要件】									
人類学第2部も受講することが望ましい									
【成績評価の方法・基準】									
小論文試験									
【教科書】									
山極寿一 『人類進化論 霊長類学からの展開』 (裳華房) ISBN:978-4-7853-5217-2 (この本の内容に沿いながら新しい発見を解説する)									
【参考書等】									
(参考書)									
Boyd R & Silk JB 『How Human Evolved』 (University of California) ISBN:0-393-97854-0 (アメリカの霊長類学・人類学を比較参照する)									
Campbell CJ et al 『Primates in Perspectives』 (Oxford University Press) ISBN:978-0-19-517133-4 (イギリスの霊長類学・人類学を比較参照する)									
その他、映像資料等を随時用いて講義を行う。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーはとくに設けていません。いつでも研究室に来てください。メールアドレスは、yamagiwa@jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者氏名	理学研究科 教授 中務 真人						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	人類学 第2部								
【授業の概要・目的】									
霊長類の進化及びヒトの起源，ヒトの自然史について，古人類学や形態人類学の立場から解説し，ヒトの生物学的基盤の理解を深めることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
形質人類学，霊長類学の立場から，人類を含む霊長類の進化について，特に人類の起源と進化，現生人類の形成過程に重点をおきながら概論する。内容は以下の通りである。各項目について1～3回行う。 分類学 霊長類の誕生から中新世ヒト上科の進化 猿人の進化 更新世人類の進化と生存戦略 汎地球種としてのヒトの進化									
【履修要件】									
人類学第1部もあわせて履修することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
筆記試験あるいはレポート課題により、基礎的理解が得られているかを評価する。(100%)									
【教科書】									
使用しないが，適宜資料を配付する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィス・アワーは特に定めない。必要があれば講義後，尋ねること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者氏名	生存圏研究所 教授 杉山 淳司						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	木のかげらの分析法とそれから知る用材観や歴史								
【授業の概要・目的】									
遺跡出土木材、木彫像、伝統建築などの文化的に貴重な木製品についての理解を深め、樹種を識別するための木材の解剖学的な専門知識を学習し、調査に必要な具体的な手法を習得することを目的とする。実際の木材の観察に加えて、樹木の観察も行う予定である。									
【授業計画と内容】									
1.木材って？ 2.暮らしの中の木材 3.歴史の中の木材 4.樹木の分類 5.針葉樹の巨視的特徴 6.広葉樹の巨視的特徴 7.針葉樹の解剖学的特徴 8.広葉樹の解剖学的特徴 9.樹種識別の手法について 10.データベースの構築と利用 11.木材に関する諸データの見方 それぞれのトピックで完結するのではなく相互に関連させながら講義をすすめる予定である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートおよび出席状況により評価するが、講義の中での積極的な姿勢も考慮に入れる									
【教科書】									
プリント等を適宜配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
佐伯 浩 この木なんの木 海青社									
尼川大録、長田武正、検索入門 樹木 、樹木 、保育社									
中川重年 検索入門 針葉樹、保育社									
山崎隆之 一度は拝したい京都の仏像 学研新書									
鈴木三男 日本人と木の文化、八坂書房									
小原二郎 木の文化 鹿島出版会									
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----									

考古学(特殊講義)(2)

(関連URL)

<http://f030091.ffpri.affrc.go.jp/index.html>(森林総合研究所木材データベース)

<http://database.rish.kyoto-u.ac.jp/arch/bmi/> (京都大学生存圏研究所木材データベース)

(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者氏名	立命館大学 文学部 教授 矢野 健一						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	縄文社会のしくみ								
【授業の概要・目的】									
<p>縄文時代の社会とはどのような社会であるのか？この課題に対して、(1)縄文土器型式分布圏、(2)縄文集落、という2つの側面から縄文社会特有の性格を描き出し、縄文社会の特質を明らかにしたい。最終的には、この縄文社会の特質を日本の歴史、および人類の歴史の中に位置づけることを目的とする。</p> <p>(1)の縄文土器型式分布圏については、西日本の縄文草創期～晩期に関する矢野の土器編年の成果に基づき、分布圏の流動性と通時的变化を指摘する。(2)の縄文集落、については、特に近年の西日本縄文集落に関する議論をふまえ、東日本縄文集落に関する議論との関連を指摘し、集落の小規模性と継続性および通時的变化を指摘する。さらに、土器型式分布圏と集落を関係させて理解することで、縄文社会の諸現象が統合的に理解できることを述べる。</p>									
【授業計画と内容】									
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の概要説明 2 西日本縄文土器編年の概要 3 縄文草創・早期土器分布圏変化 4 縄文前・中期土器分布圏変化 5 縄文後・晩期土器分布圏変化 6 縄文土器分布圏変化のまとめと補足 7 縄文集落論の研究史と論点 8 住居・墓・貯蔵穴からみた縄文集落の規模 9 小規模集落の継続性 10 縄文時代の人口変化 11 人口・集落・土器分布圏 12 農耕社会への変化 13 (補足)日本文化論における縄文文化論 14 試験 <p>* 各テーマは必ずしも1回の授業に対応するわけではない。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
最終講義日に試験を行い、その成績で評価する。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>小杉康ほか編 『縄文時代の考古学』(同成社)(全12巻。第1・2・8・12巻が講義と関係する。)</p> <p>『縄文土器総覧』(アム・プロモーション)(土器型式についての参考図書)</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者氏名	九州大学 総合研究博物館 教授 岩永 省三						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	青銅器から見た弥生時代の諸問題								
【授業の概要・目的】									
弥生時代は、稲作農耕および金属器生産・使用の定着に伴い、社会の複雑化・階層化が進行した時代である。青銅器に関する様々な問題を概観したうえで、当該期における社会変動の様相を青銅器を中心素材として検討する。									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような項目で授業を構成する予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 弥生時代社会像の成立と金属器 弥生時代青銅器概説 - 時間的变化・空間的変異 <ul style="list-style-type: none"> 分類・編年 分布とその評価 対外交渉の展開と青銅器 青銅器の生産 <ul style="list-style-type: none"> 製作技術 原料論 青銅器から見た弥生時代の時間的位置 青銅器から見た弥生時代社会の動態 <ul style="list-style-type: none"> 青銅器の機能とその変容 集団の階層分化と青銅器 集団祭祀の変容と首長の成長 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業終了後のレポートで評価する。									
【教科書】									
適宜プリントを配布する。									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>授業中に紹介する 弥生時代・青銅器関係はもちろん、それ以外の関連分野の参考図書も多く紹介する。</p> <p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p> <p>授業後に質問等を受け付ける。集中講義終了後は勤務先へのメールも可。 授業中に紹介した遺跡や遺物を、自分の目と足で確認してほしい。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者氏名	地球環境学堂 教授 小方 登						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	地理情報処理の考古学への応用								
【授業の概要・目的】									
地形データ（DEM）や空中写真・衛星画像の遺跡探査や歴史景観復原などへの応用事例を取り上げ、説明する。									
【授業計画と内容】									
1) 1995年に公開された米国偵察衛星写真の仕様について説明し、応用可能性を検討する。 2) 中東地域に典型的にみられるテル（遺丘）の景観について検討する。 3) 地中海地域におけるフェニキア・ポエニ文化に基づく都市の立地とプランについて検討する。 4) 中央アジアのオアシス周辺に見られる灌漑施設（用水路）の痕跡のあり方について検討する。 5) 渤海国の都城を事例として、7～9世紀の東アジア都城に見られる共通の特徴について検討する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
http://www.hgeo.h.kyoto-u.ac.jp/ogata/ （小方研究室ホームページ）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	考古学(演習Ⅰ) Archaeology (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 上原 真人						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	演習
題目	三回生演習								
[授業の概要・目的]									
<p>考古学の方法論や基礎知識を身につけることを目的とする。授業では、近年公表されたおもに日本考古学に関わる論文を熟読し、その内容や論理構成を分析・紹介し、現在の考古学における主題や方法論を批判的に摂取する。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>発表者は与えられた課題論文や自ら選択した論文の内容を、基礎となる考古資料とあわせて紹介し、論文の論理構造や問題点を指摘する。出席者は発表内容に関して質問し、異論を提示する。授業参加者の人数によって変動するが、年間を通じて、5回内外の発表の機会があるはずだ。</p>									
[履修要件]									
<p>授業に出席し発表を担当することが前提となる。</p>									
[成績評価の方法・基準]									
<p>授業の最初に紹介する考古学の方法論に関する入門書を読破し、自分が熟読した論文において、その「方法論」がどのような形で駆使されているか、レポートを提出する。</p>									
[教科書]									
<p>使用しない 発表に際しては、各自レジュメを準備すること。</p>									
[参考書等]									
<p>(参考書) 発表内容に関する参考書は、発表者が検索すること。教員も随時紹介する。</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	考古学(演習II) Archaeology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 吉井 秀夫				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	演習								
【授業の概要・目的】									
<p>考古学の主たる研究材料である過去の人類が製作して使用した「モノ」は、その製作時期・地域や材料、使用目的などにより多様な形状を示す。本演習では、考古資料を実際に観察・記録する中で有益な情報を引き出すための基本的な手法と知識を身につける。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期は、担当教員が提示する考古資料を、受講者が観察・記録した上で、その考古資料についてどのような研究がなされてきたのかを調べて、講義中に報告し、その内容を他の受講者と検討することで進めていく。また、1回～2回程度、大学から近距離にある遺跡の踏査をおこなう予定である。後期は、受講者が各自の関心に合わせてテーマを設定し、それに対する研究報告をおこなう。また、受講者の人数次第によっては、前期と同様に、考古資料についての検討を引き続きおこなう。</p>									
【履修要件】									
考古学実習を履修したか、履修予定の学生であることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、課題に対する取り組み方、および演習での報告内容により評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>課題を報告するために、できるだけ多くの文献に当たって知識を深める努力をしていただきたい。また、遺跡踏査は週末に別途おこなう場合がある。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	考古学(演習III) Archaeology (Seminars)				担当者氏名	文学研究科 教授 上原 真人			
						文学研究科 教授 泉 拓良			
						文学研究科 准教授 吉井 秀夫			
						文学研究科 助教 阪口 英毅			
配当学年	4回生のみ	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月1	授業形態	演習
題目	卒業論文指導								
【授業の概要・目的】									
卒業論文作成を目的とした研究の、中間発表を行い、教員や他の出席者からの批評を受け、よりよい論文の完成をめざす。各人が、研究の進捗状況に従って、段階的に成果を発表する。									
【授業計画と内容】									
年間で3回程度の発表を行う。5月の連休頃までに研究テーマを確定し、前期末までの発表で、そのテーマに関わる研究史や問題点を整理し、その後の作業・研究計画を提示する。後期の前半に、おもに夏期休暇中に行った資料収集成果・分析成果を整理・発表し、後期後半には研究成果を総括する。									
【履修要件】									
卒業論文の作成・提出が前提となる									
【成績評価の方法・基準】									
演習時の発表内容と卒業論文を合わせて評価する									
【教科書】									
使用しない 発表に際しては、各自レジュメを準備し、定められた時間内で要領よく話すこと。プレゼンテーションの訓練でもある。									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーはとくに設けないが、卒業論文作成に関する相談は常時、対応する。電話やメールなどで、教員にあらかじめアポを取ることを。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	考古学(講読) Archaeology (Seminars)	担当者氏名	文化財総合研究センター 助教 富井 眞						
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水1	授業形態	講読
題目	英書講読								
【授業の概要・目的】									
<p>欧州の中石器時代・新石器時代についての近年の研究における、考古資料等の認識と解釈の仕方に親しむ作業を通じ、当該文化期の実態、諸外国の考古学研究者との意見交換に備えるべく術語の用法、解釈の枠組みをめぐる理論的背景、といったものを理解する。</p> <p>考古学の基礎的な概念や方法を理解していないと、履修に困難を来す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>下記のテキストを読み進める。</p> <p>段落ごとに和訳担当者を決める1人1段落方式。担当者指名は当日。前期は構文把握を重視した全文訳。後期は段落の要約を重視。進行読量は、内容如何で変動幅が大きい、1日で10段落を超えることもある。</p> <p>そのほか、読解力維持と上記の理解向上とを目的として、理論考古学に関する作業を題材にした小テストを、2週間に1度程度おこなう。小テストは、指定時間内は下線部訳のみだが、下線部を含めた全文訳を翌週までの課題とする。</p> <p>なお、前期の最初の4回程度は、下記のテキストではなく、考古学の基本原理に関する英文書籍の抜粋プリントを配布してそれを読み進めていく。</p>									
【履修要件】									
テキスト予読や課題提出等が必須。									
【成績評価の方法・基準】									
総合評価。 学年末試験。 夏季の英文和訳課題（英語論文一本の全訳）。 小テスト(当回分及び翌週提出分)。 テキスト訳。 術語解説。 なお、欠席数は、直接的には評価に反映されないが、夏季論文課題や学年末試験問題の量に反映される場合がある。									
【教科書】									
Alasdair Whittle 『Europe in the Neolithic: The Creation of New Worlds』 (Cambridge University Press) ISBN:0521449200									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>テキストの予習を強く勧める。(テキスト訳の評価では、内容理解も加味します。)日本語訳にした後に、内容的に理解できていることが大切なので、テキストの内容について下調べも必要になるでしょう。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	考古学(実習) Archaeology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授	上原 真人			
	文学研究科 教授	泉 拓良	文学研究科 准教授		吉井 秀夫				
文学研究科 助教	阪口 英毅	文化財総合研究センター 助教	千葉 豊	文化財総合研究センター 助教	伊藤 淳史	文化財総合研究センター 助教	富井 眞		
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3,4	授業形態	実習
題目	考古学実習								
【授業の概要・目的】									
考古資料を実測図で表現し、その特徴を論述することは、考古学の基礎作業であり、研究者間で資料を共有するための手段でもある。授業は実測図の書き方や表現法などを取得することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
須恵器・弥生土器・縄文土器・瓦・青銅器・鉄器・石器など、遺物ごとに実測法、表現法、記述法の基礎を学ぶ。毎回、課題が変わるので、すべての授業に出席する必要がある。									
【履修要件】									
実測・製図道具の数やスペースの関係で、受講可能な人数は15人まで。									
【成績評価の方法・基準】									
すべての授業に出席することを前提とし、授業の節目に提出した実測図やレポートを評価対象とする。									
【教科書】									
特になし(適宜、プリントを配付する)									
【参考書等】									
(参考書) 作業の基本となる実測道具の一部は、受講生の実費負担となる									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは設けない。各課題を消化しないと次のステップに進めないので、規定時間外の授業にも教員は対応する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

《行動・環境文化学系》

授業科目名 <英訳>	心理学(講義 I) Psychology (Lectures)				担当者氏名	文学研究科	教授	藤田	和生
	文学研究科	教授	櫻井	芳雄					
	文学研究科	教授	板倉	昭二					
	文学研究科	准教授	蘆田	宏					
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	講義
題目	心理学講義I：実験心理学概論								
【授業の概要・目的】									
実験心理学の概論。行動の科学としての心理学の目的、問題、手法、考え方などを学ぶとともに、最新の成果を知る。									
【授業計画と内容】									
ヒトや動物の行動を解明するための実験心理学的手法とその成果について、最新のトピックやデモを織り込みながら、講座の教員全員によるリレー形式で講じる。内容は、実験心理学の研究分野と研究方法、実験心理学の歴史、脳の構造と機能、神経回路の情報処理、学習の諸原理、記憶のメカニズム、思考の特性、言語の機能、発達の諸特徴、情動と動機づけのメカニズムと諸理論、感覚・知覚の基礎と心理物理学、注意と意識、知能の測定と人工知能、等である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末筆記試験による									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
心理学専修を希望する者(あるいは希望する可能性がある者)は、2回生で履修することが望ましい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(講義IIb) Psychology (Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 藤田 和生						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月2	授業形態	講義
題目	心理学講義IIb：知性と感情の系統発生論								
【授業の概要・目的】									
多様な動物種の知性と感情の機能を学び、その多様性を知り、それらがいかに進化したのか、ヒトの心の働きは其中でいかに位置づけられるのかを考察する									
【授業計画と内容】									
ヒトの心の機能は数十億年にわたる進化の所産である。化石種の心が直接的に調べられない以上、他の現生動物種の心の働きを分析し、相互に比較することが、その過程を跡づけるための可能な唯一の方法である。講義では、学習の原理について復習したあと、比較心理学的観点から、多様な動物種の感覚や知覚、記憶、言語、概念形成、感情、社会的知性、意識などについて現在までに得られた諸事実を紹介し、心の多様性とその進化について論じるとともに、ヒトの心を動物たちの心の中にどのように位置づければよいかを考える。									
【履修要件】									
心理学の基礎を学んでいることが望ましいが必須ではない									
【成績評価の方法・基準】									
出席、討論、及びレポートによる									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
藤田著 『比較認知科学への招待』(ナカニシヤ出版、1998)(主要参考書)									
藤田著 『動物たちのゆたかな心』(京都大学学術出版会、2007)									
藤田著 『比較行動学 - ヒト観の再構築 - 』(放送大学教育振興、,2010)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(講義IIc) Psychology (Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 櫻井 芳雄						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月2	授業形態	講義
題目	心理学講義IIc：脳の情報処理								
【授業の概要・目的】									
心を理解する上で、脳の解明は必要かつ不可欠である。本講義では、心理学的機能を担う脳内メカニズムについて、基礎的事項から最新の研究成果まで広範に解説する。目標は、心理学と神経科学の関係を正しく捉え、神経科学の現状と問題点を正確に理解することである。									
【授業計画と内容】									
毎回個別のテーマを取り上げ解説する。独自に作成した資料を配付し、映像など視覚教材も用いる。予定する主なテーマは下記のとおりである。									
<ul style="list-style-type: none"> ・心と脳の情報表現 ・脳の構造と神経細胞 ・視覚情報処理 ・記憶情報処理 ・脳と精神疾患 ・脳の進化 ・脳とは何か 									
【履修要件】									
心理学の基礎を学んでいることが望ましいが必須ではない。									
【成績評価の方法・基準】									
講義の最終日に実施するテスト（全て持ち込可）で評価する。									
【教科書】									
使用しない 毎回資料（プリント）を配付する。									
【参考書等】									
（参考書） 櫻井芳雄 『脳の情報表現を見る』（京都大学学術出版会、2008）ISBN:978-4-87698-830-3（講義以前あるいは講義と平行して通読しておくことが望ましい。）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワーは特に設けていない。質問は随時受け付ける。研究内容については次のウェブサイト参照のこと。 http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/sakurai/									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(講義IId) Psychology (Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 板倉 昭二						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火2	授業形態	講義
題目	心理学講義IId：社会的認知発生論								
【授業の概要・目的】									
社会的認知の発生および発達を、最新の研究成果をもとに、新生児期から乳幼児期にわたって概説する。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について講述する。 1) 発達研究法：選好注視や馴化・脱馴化法などの乳児研究の方法論。 2) 乳児の能力：乳児の視聴覚世界やコミュニケーション能力について。 3) 乳幼児の自己意識・自己概念について。 4) 社会的基盤を支える言語の発達。 5) 共同注意：二項関係から三項関係への発達、移行のメカニズム。 6) 他者の意図理解・目標帰属の能力について。 7) エージェントに対する反応の発達：ロボティクスから 8) 心の理論：誤信念課題、Theory of mindの尺度について。									
【履修要件】									
心理学の基礎を学んでいることが望ましいが必須ではない。									
【成績評価の方法・基準】									
出席、討論、時間内での課題により評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 板倉著 『心を発見する心の発達』(京大学術出版会、2007)(主要参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(講義IIe) Psychology (Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 蘆田 宏						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3	授業形態	講義
題目	心理学講義IIe (知覚心理学)								
【授業の概要・目的】									
人間の感覚・知覚について，視知覚を中心に概説する．心理物理学，解剖学，神経生理学などの知見をあわせて感覚・知覚の諸機能とそのメカニズムについて理解を深めることを目的とする．									
【授業計画と内容】									
次に挙げるトピックについて各1，2週ずつ講義を行う．									
<ul style="list-style-type: none"> ・眼と脳 ・錯視と恒常性 ・色覚 ・明るさの知覚 ・運動視 ・立体視 ・顔の知覚 ・眼球運動 ・聴覚 ・味覚と嗅覚 ・多感覚相互作用 ・時間知覚と注意 ・美の知覚 									
なお，順序，内容は変更する可能性がある．									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験の成績（授業内容の理解と発展的検討を総合的に判断する）による．授業への積極的な関与（質問など）を加味することがある．									
【教科書】									
北岡明佳編 『知覚心理学』（ミネルヴァ書房）ISBN:978-4-623-05769-6									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業中に質問の時間を設けるので積極的に発言してください．									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(講義 I) Linguistics (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 田窪 行則 文学研究科 教授 吉田 和彦 文学研究科 教授 吉田 豊				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	講義
題目	言語学講義I								
【授業の概要・目的】									
言語学の目標は、言葉の分析を通して人間をより深く理解することにある。この授業では、言語学の基礎的理論と方法を分かりやすく解説することによって、言葉の世界の楽しさと奥深さを同時に体験する。									
【授業計画と内容】									
言葉を通して、人間理解にいたる道程は実に多様である。この授業では現代言語学の主要領域をカバーし、具体的で興味深い事例をあげながら解説する。主なトピックとして、前期は音声学、音韻論、形態論、歴史比較言語学を対象にし、後期は統語論、意味論、語用論を対象にする。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
試験									
【教科書】									
授業時にプリントを配布する									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(講義II) Linguistics (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 田窪 行則 文学研究科 教授 吉田 和彦 文学研究科 教授 吉田 豊				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	講義
題目	言語学講義								
【授業の概要・目的】									
古代から現代までの言語研究の歴史を概観することによって、今日までの言語研究の発展やその背景について考えるとともに、言語学の基本的な概念や研究法を学ぶことを目的とする。									
【授業計画と内容】									
現代の言語学の主要な分野の成立の歴史を理解し、現在我々が利用している術語や研究方法が確立した背景を知るために、古代から現代にいたるまでの言語に関する研究の歴史を概観する。まず最初に言語及び言語学とは何かから初め、次に前近代の言語研究を、ヨーロッパ、インド、中国などの地域ごとに見ていく。その後は19世紀後半の歴史・比較言語学、言語地理学および音声学の成立20世紀前半の構造主義言語学の時代、20世紀後半に現れた変形生成文法や社会言語学、類型論などの問題意識や研究方法を通覧する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期と後期に行う試験によって評価する。									
【教科書】									
授業時に適宜プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(講義) Sociology (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 公雄				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	講義
題目	近現代の社会・文化現象の社会学								
【授業の概要・目的】									
社会学の学説の流れと基礎概念について学習するとともに、社会学的な視点を身につけることを目的とする。小説、流行、自殺といった具体的な社会現象・文化現象を入り口に、社会学の古典理論を解説し、現代社会を社会的に考察するための方法について講義を行なう。									
【授業計画と内容】									
1 オリエンテーション 2 小説の社会学（コント、スペンサー、マルクスの社会理論） 3 宗教の社会学（ウエーバー、デュルケームの視点） 4 自殺の社会学（デュルケームの方法） 5 流行の社会学（タルド、ジンメル） 6 システムと社会（パレート、パーソンズ、ハバーマス） 7 社会的格差と社会的再生産の社会学（ブルデューを中心に） 8 ジェンダーの社会学 9 メディアの社会学 10 ポピュラーカルチャー研究の方法 11 自白の社会学（エスノメソドロジーを中心に） 12 現代社会の諸課題と社会学の可能性									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前後期それぞれのレポート試験および授業中のミニレポート等による。									
【教科書】									
伊藤公雄・橋本満編 『はじめて出会う社会学』（有斐閣）									
【参考書等】									
（参考書） 適宜配布します									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(講義) Geography (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 小林 致広 文学研究科 教授 石川 義孝				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	講義
題目	人文地理学概説								
【授業の概要・目的】									
<p>人文地理学の視点と方法論について、具体的な研究事例や学史的背景に触れながら概説する。とりわけ、地理的知識・環境、そして空間・立地といった基礎的な概念について、理解を深めることを目的とする。地理学専修への分属志望者にとっては入門的な講義となる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のようなテーマで、それぞれ1～3週の授業をする予定である。</p> <p>前期（小林担当） 1．地理的知識の多様性，2．世界観と空間認知，3．世界の図像化と地図，4．環境問題と地理学，5．開発計画と地理学，6．文化と領域</p> <p>後期（石川担当） 7．農業立地論 8．工業立地論、9．中心地論、10．都市システム、11．都市内部構造モデル、12．因子生態学研究</p>									
【履修要件】									
高校地理の履修の程度は問わない。									
【成績評価の方法・基準】									
前期・後期、それぞれにおいて試験を行う。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

心理学専修

授業科目名 <英訳>	心理学(講義Ka) Psychology (Lectures)			担当者氏名	教育学研究科 准教授 野村 理朗 教育学研究科 准教授 齊藤 智 教育学研究科 教授 子安 増生				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木1	授業形態	講義
題目	メディア教育概論								
【授業の概要・目的】									
本講義は現代社会におけるメディア・人間・教育の諸側面について、3人の教員がオムニバス方式により講義を行う。受講者がメディア教育に関する基本的考え方についての理解を深めることを目標とする。具体的には、下記の内容を含む予定である。1回目の授業では、3人の教員がイントロダクションの授業を行う。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について1~2週の授業時間をあてる予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> 1) イントロダクション(齊藤・子安・野村) 2) 人の認知の特徴とマルチメディア(齊藤) 3) 視聴覚情報の認知過程(齊藤) 4) マルチメディアとヴァーチャル・リアリティ(齊藤) 5) メディアと人間の記憶(齊藤) 6) 情報リテラシー教育論(子安) 7) 映像文法論(1): 絵画・写真の表現と認知(子安) 8) 映像文法論(2): 映画・ビデオの表現と認知(子安) 9) メディアと子ども(子安) 10) 感情とコミュニケーション(野村) 11) 視聴覚情報の処理と脳(野村) 12) マルチメディアと思考(野村) 13) マルチメディアと社会的規範(野村) 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業で説明するメディア教育の基本的考え方が理解されたかどうかを評価の基準とし、期末テストによって評価する。なお、成績評価に平常点や授業時の課題を加味する場合がある。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業外学習は授業中に指示する場合がある。『便覧』オフィスアワーの欄を参照 授業責任者連絡先E-mailアドレス nomura@educ.kyoto-u.ac.jp									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(講義K b) Psychology (Lectures)	担当者氏名	教育学研究科 准教授 野村 理朗						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	講義
題目	認知心理学概論I								
【授業の概要・目的】									
認知心理学の主な理論とモデルを中心に据えて、システム神経科学、遺伝子学等の領域を横断的に俯瞰することを通じて、認知の基本特性についての多角的で深い知識を得ることを目標とします。あわせて、認知機能の支援や介入に向けた応用可能性についても議論します。									
【授業計画と内容】									
1. 序論 2. 認知心理学の研究史 3. 知覚 4. 記憶 5. 感情I 6. 感情II 7. 認知と脳 8. 認知と遺伝子 9. 認知と疾患 10. 実行機能I 11. 実行機能II 12. 認知と物理的環境 13. 認知と社会的環境 14. 認知と文化 15. まとめ									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(出席点・発表)50%、筆記テスト、小レポート50%									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
後期開講の「認知心理学概論」とあわせて、認知心理学の主要なトピックスをカバーするが、相互に独立して受講可能である。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(講義Kc) Psychology (Lectures)	担当者氏名	立命館大学文学部 教授 服部 雅史						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月2	授業形態	講義
題目	認知心理学概論II								
【授業の概要・目的】									
<p>認知心理学とは、1950年代にはじまった比較的新しい心理学で、生物、特に人間の認知機能（知識の獲得、蓄積、利用、生成など）のしくみについて、情報処理の概念や方法論を活用しながら、実験や観察のデータに基づいて実証的に解明していこうとする学際的な学問である。特に、人間の高次認知過程の基本的特性に焦点を当て、実際に自分の頭を使って考える訓練をしながら、認知心理学の基礎的な知見と最新のトピックについて習得することを目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のテーマについて、1テーマ当たり1～2週の講義を行う予定である。ただし、テーマとその順序は、理解度に応じて変更される可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記憶と思考 ・注意と思考 ・無意識と思考 ・言語と思考 ・知識と思考 ・直観と思考 ・確率と思考 ・因果と思考 ・進化と思考 ・ゲームと思考 ・社会と思考 ・知性と思考 									
【履修要件】									
心理学の入門的な授業を履修していることを前提に授業を進める。									
【成績評価の方法・基準】									
<p>レポート成績（60%）と平常点（40%）の合計点で評価する。平常点評価には、毎回の出席と授業内で不定期に課す小レポートの評価以外に、授業内での質問やコメントなどの授業に対する積極的・創造的な関与、授業内で募集する心理学実験への参加などが加味されることがある。</p>									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	教育学研究科 教授 桑原 知子						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	人格心理学概論Ⅰ								
【授業の概要・目的】									
<p>「人格」とはなにか。これを知ることが、自分を知り、人間のこころを知ることにつながる。前半は、「人格」と呼ばれるものの、不可解さを実感するとともに、それを理解しようと試みた先人たちの理論を紹介する。後半は、自分を知るための心理テストを紹介し、実際に自分について知ることを試みる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のようなテーマについて、それぞれ1回から2回の講義・実習をおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.人格とはなにか 3.多重人格の例 4.人格理論（概論） 5.人格理論（フロイト） 6.人格理論（ユング） 7.人格測定（心理テスト） 8.人格測定（質問紙） 9.人格測定（投影法） 10.まとめとフィードバック 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点（各回のレポート提出）と最終レポートを総合して評価する。 特に、各回のレポートを重視する。</p>									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	教育学研究科 准教授 大山 泰宏						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	人格心理学概論II								
【授業の概要・目的】									
この授業では、人格という心理学概念がどのように考えられ、これまでどのような研究や理論化がなされてきたかを、その当時の社会・文化的背景との関わりにも言及しつつ概観する。また人格という概念自体に対しても批判的な考察を行う。そのうえで私たちの日常生活、あるいは私たちが素朴にもっている人間に対する理解や表象の仕方と心理学との関わりについて、理解を深めることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
第1週：オリエンテーション、人格という概念について 第2～3週：類型論と特性論の社会・文化的背景 第4～5週：精神分析前夜 -ヒステリーの「発明」とジェンダー 第6～7週：フロイト -力動的人格理論の誕生と発展 第8～9週：フロイト以降 -ユング、アドラー- 第10～11週：言語と人格 -発話、シンボル 第12～13週：サリヴァン -関係性からみる人格 第14週：人格の査定・理解から心理療法へ 第15週：現代社会と人格									
【履修要件】									
高校で履修される世界史、現代社会に関する知識が前提となる。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(コメント用紙の記入等)と期末試験による									
【教科書】									
大山泰宏 『新版・人格心理学』(放送大学教育振興会)(指定教科書ではないが、授業に関連の深い参考書として推奨する)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
教育学部『便覧』のオフィスアワーを参照のこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	神戸学院大学 人文学部 清水 寛之						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月1	授業形態	特殊講義
題目	人間の記憶の諸相								
【授業の概要・目的】									
認知心理学の立場から、人間の認知過程に関する諸問題のうち、とくに記憶に関連した基本的テーマを取り上げ、これまでの主要な研究成果を概説する。また、記憶の発達の側面および文化・社会的側面についても言及する。授業を通して、人間の記憶に関する認知心理学的研究への理解を深める。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業を行う予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> 1．認知心理学的記憶研究の概観（研究史、研究対象、研究方法論） 2．人間の記憶の諸側面（記憶の構造とプロセス） 3．刺激情報の一時的保持（感覚記憶、ワーキングメモリ） 4．刺激情報の永続的保持（エピソード記憶、意味記憶） 5．記憶方略の諸相（リハーサル、体制化、精緻化） 6．記憶と意識（顕在記憶と潜在記憶） 7．個人的経験の記憶（日常認知、日常記憶、目撃証言） 8．将来のための記憶（展望記憶、予定の記憶） 9．記憶能力の個人差（写真的記憶、超記憶力者） 10．メタ認知とメタ記憶 11．記憶の生涯発達 12．記憶と社会・文化 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と試験									
【教科書】									
使用しない 教科書はとくに用いない。授業内容（概要）については毎回プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 清水寛之（編著）『メタ記憶』（北大路書房）ISBN:9784762826276 J.ダンロスキー&J.メトカルフェ『メタ認知』（北大路書房）ISBN:9784762827143 太田信夫・多鹿秀継（編著）『記憶の生涯発達心理学』（北大路書房）ISBN:9784762825910 金児暁嗣・結城雅樹（編）『文化行動の社会心理学』（北大路書房）ISBN:4762824305 このほかにも授業中に適宜指示する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
本講義のテーマについて自分自身の研究課題との関連性を意識しながら積極的に授業に参加してもらいたい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	カリフォルニア州立大学サンバールディーン校 心理学部 教授 越野 英哉						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火5	授業形態	特殊講義
題目	認知神経科学								
【授業の概要・目的】									
<p>認知神経科学は脳と認知機能の関係を理解することを目的とする。つまり、脳のどのような領域がどのように機能することで我々の認知機能が実現されているかということである。この授業では、知覚、注意、記憶、言語、思考、社会的認知などの機能の神経基盤を脳機能画像法(主にfMRI)を中心とした研究に基づいて検討する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前半は認知神経科学の基礎について下記のような課題について講義をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．イントロダクション 2．認知神経科学の方法 3．知覚 4．空間認知 5．運動・行為 6．記憶 7．思考・実行系 8．社会的認知と感情 <p>後半はそれに基づいてセミナー形式の授業をする。そこにおいては学生は論文を選んで発表し、論文についての討論をリードする。発表する論文は配布される論文のリストから選んでもいいし、自分で選択することもできる。</p>									
【履修要件】									
認知心理学の基礎知識と脳の構造に関する基礎知識									
【成績評価の方法・基準】									
論文発表、討論への参加、および学期末のレポート									
【教科書】									
講義の資料は毎回配布する。発表のための論文のリストは第一回に配布する。									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>Jamie Ward 『The student ' s guide to Cognitive Neuroscience (2nd Ed.)』 (Psychology Press) ISBN:978-1848720039</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
<p>オフィスアワーは火曜日18時 - 19時</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	NTTコミュニケーション科学基礎研究所 協創情報研究部 研究主任 小林 哲生						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金1	授業形態	特殊講義
題目									
[授業の概要・目的]									
本講義では、乳幼児期に焦点を当てて人間の言語および認知の発達について解説する。特に、語彙/文法の発達および数認識の精緻化に関するプロセスとメカニズムについて考究する。									
[授業計画と内容]									
<p>具体的には、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達研究の方法論（選好注視法、馴化・脱馴化法、期待背反法など）を実例に基づいて解説する。 ・前述の方法により得られた知見から、乳幼児期における言語および認知の発達について論じる。 ・乳幼児期の認知発達/コア知識（物理法則、数、空間、社会性）について詳しく論じる。中でも、数認識についてはその発達（個体発生）と進化（系統発生）を深く掘り下げて論じる。 ・乳幼児期の言語発達（初語、育児語、語彙爆発、名詞バイアス、統語的ブートストラッピング）について解説し、言語を学習する仕組みを深く掘り下げて論じる。 ・これらの発達科学研究の知見をふまえた応用可能性（特に育児/教育支援の可能性）を議論し、実際の社会的問題につなげるトレーニングも行う。 									
[履修要件]									
発達心理学の基礎を学んでいることが望ましいが必須ではない。									
[成績評価の方法・基準]									
出席、討論、時間内に行う課題で評価。									
[教科書]									
特に用いない。必要な資料は準備する。									
[参考書等]									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	生理学研究所 感覚認知情報研究部門 教授 小松 英彦						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	視覚と質感の脳内メカニズム								
【授業の概要・目的】									
視覚の神経機構の基本原則として受け入れられている概念を学び、視覚と質感の脳内メカニズムについての研究の最先端に触れる									
【授業計画と内容】									
認知神経科学の重要な目的は、外界で起こる物理現象と知覚を結びつける生体の働きとして脳内の情報処理過程を理解することである。本講義ではそのような試みがうまくいった例である色覚を中心にすえて、視覚の脳内メカニズムについての研究を概観する。一方視覚は他の感覚とも密接に関係している。我々は物を見ただけで、その素材や表面の状態を知ることができ、更に触った時の手触りや温度すら想像することができる。このような知覚は物の質感の基礎となる認知機能である。この講義では近年活発に研究が進められている質感認知の研究の現状も紹介したい。									
【履修要件】									
中枢神経系（特に視覚神経系）の構成について基本的な知識を持つことが望ましい									
【成績評価の方法・基準】									
レポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 視覚情報処理の概要については下記URLも参照してください									
（関連URL） http://www.nips.ac.jp/scinfo/kaisetsu.htm									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	大阪大学社会経済研究所 田中 沙織 特任准教授						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	脳神経科学特論								
【授業の概要・目的】									
<p>脳の複雑な機能を解明するには、脳の構造だけではなく、分子、細胞、回路レベルでの働きをシステムとして理解する「システム神経科学」のアプローチが必須となる。本授業の目的は、神経科学の基礎を理解したうえで、システム神経科学の分野で近年特に研究が進んでいる「意思決定」および「社会性」に関わる神経機構について学び、これらの分野で用いられている、医学、生物学、心理学、工学、さらには経済学といった様々な分野からの複合的なアプローチについて理解を深めることである。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のようなテーマについて、各テーマ1～2週の授業を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 神経科学の基礎 <ol style="list-style-type: none"> 1.1 脳の構造を知る 2 システムとしての脳 <ol style="list-style-type: none"> 2.1 脳の機能を知る 2.2 脳の機能を測る 2.3 脳の数理モデル 3 意思決定の神経科学 <ol style="list-style-type: none"> 3.1 報酬に基づく意思決定の神経機構 3.2 脳の数理モデルとしての強化学習 3.3 神経経済学: 経済行動を神経科学で記述する試み 4 社会性の神経科学 <ol style="list-style-type: none"> 4.1 社会効用の神経機構 4.2 社会的感情の神経機構 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況および期末レポート。									
【教科書】									
毎回資料を配布する									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>Paul W. Glimcher, Colin F. Camerer, Ernst Fehr, and Russell A. Poldrack 『Neuroeconomics: Decision Making and the Brain』 (Academic Press)</p> <p>サンドラ・アーモット, サム・ワン 『最新脳科学で読み解く 脳のしくみ』 (東洋経済新報社)</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	大阪大学大学院人間科学研究科 足立 浩平 教授						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	心理・教育測定特論								
【授業の概要・目的】									
心理学の研究で必要となる多変量解析の諸方法をのエッセンスをできるだけ平易に講義する。時間に余裕があれば多変量解析の基礎になる線形代数や目的関数の最適化，そして，項目反応理論のようにサイコメトリックス特有の統計解析法に言及する。									
【授業計画と内容】									
1：基本統計法 【キーワード】多変量データ行列・共分散・標準化 2：クラスター分析 【キーワード】距離・分類・階層的クラスター分析・非階層的クラスター分析 3：主成分分析(その1) 【キーワード】主軸・主成分得点・多次元の世界を鏡に映す・重み付け合計 4：重回帰分析 【キーワード】分散説明率・偏回帰係数・多重共線性 5：パス解析 【キーワード】因果モデル・構造方程式モデル・共分散構造・モデル間比較 6：確認的因子分析 【キーワード】潜在変数・測定方程式・モデルの識別性・パラメータの制約 7：構造方程式モデリング 【キーワード】測定・構造方程式モデル・共分散構造分析の体系 8：探索的因子分析(その1) 【キーワード】直交解・古い方法から新しい方法へ 9：探索的因子分析(その2) 【キーワード】単純構造・回転・主成分分析と因子分析は似て非なる方法 10：数量化分析 【キーワード】カテゴリカルデータ・多重対応分析・等質性分析・対応分析 11：多次元尺度法 【キーワード】距離から地図を描く・多次元尺度法・多次元展開法 12：判別分析 【キーワード】多変量正規分布・線形判別分析・交差検証法・正準判別分析 13: 線形代数 【キーワード】行列・ベクトル・特異値分解 14: 目的関数の最適化 【キーワード】最小二乗法・最尤法・反復計算 15: サイコメトリックス 【キーワード】尺度構成論・古典的テスト理論・項目反応理論									
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----									

心理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・基準】

レポート 約50% , 平常点 約50%

【教科書】

足立浩平 『多変量データ解析法 - 心理・教育・社会系のための入門 - 』（ナカニシヤ出版）ISBN: 4-7795-0057-5

【参考書等】

（参考書）

足立浩平・村上隆 『非計量多変量解析法 主成分分析から多重対応分析へ 』（朝倉書店）ISBN: 978-4-254-12829-1

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	慶応義塾大学文学部 教授 山本 淳一						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	発達心理学特論								
【授業の概要・目的】									
<p>自閉症スペクトラム障害（乳幼児から青年まで）について、「診断基準」、「発達と障害のアセスメント方法」、「発達と障害のメカニズムを明らかにするための実験的研究」、「発達支援の効果評価のための介入研究（無作為対照化研究）」、「発達支援の実際」などについて、包括的に概説する。自閉症スペクトラム障害研究における実験心理学的手法（知覚・認知・コミュニケーション評価など）、エビデンスレベルの高い事例研究法の詳細な解説も行う。また、実際の発達支援の様子のビデオ視聴を通じて、アセスメントから発達支援につなげていく発達臨床の実践を具体的に学ぶ。基礎研究、臨床研究とも、受講生の興味に応じて、授業内容を多方面に発展させていく。本授業を通して、最先端の研究トピックス、研究方法、支援方法を修得する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>(1) 神経科学的基盤と可塑性：脳の過剰発育（brain overgrowth）をめぐって (2) 早期発達アセスメント：1歳からの早期スクリーニングは可能か？ (3) 発達メカニズム研究：発達領域ごとの特徴と最新の研究成果 運動発達、知覚発達、認知発達、言語発達、社会性発達、情緒発達 (4) 発達支援研究：エビデンス・ベース研究 応用行動分析学モデル、発達モデル、環境整備モデル、統合モデル (5) エビデンスにもとづいた発達支援の実際：新しいサービスモデルの提案 (6) 他の発達障害との関係 （精神遅滞、発達性協調運動障害、学習障害、注意欠陥・多動性障害など）</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートにより評価する。									
【教科書】									
プリントなどを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	一橋大学大学院社会学研究科 村田 光二 教授						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	社会認知論								
【授業の概要・目的】									
<p>主として社会心理学の分野で行われてきた社会認知 (social cognition) 研究の基本的考え方と近年の発展について講義する。特に、他者の心的状態の推論、自己に関わる将来の推論、自己認知と他者認知との関連、認知と感情のダイナミズム、選択に伴う感情プロセス、認知過程の自動性と意識的プロセス、ステレオタイプの判断の功罪などの話題を取り上げたい。可能であれば、社会的認知が社会的行動を引き起こしたり、制御したりするプロセスの問題にもふれたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>集中講義で実施するので、1コマずつの区分けを明確にするよりも、あるまとまった話題を順次お話しすることを考えている。当面は以下のような話題群をお話しするつもりであるが、受講生についての情報を得ながら、今後内容を精選するつもりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対人認知の古典的研究 2. 帰属という推論の考え方 3. ステレオタイプ化研究 4. 二過程モデルの考え方 5. 他者の心的状態の推論 6. 自己の感情予測 7. 社会的推論を支える自己知識と自尊感情 8. 自己と動機づけ 9. 自己制御過程の諸問題 									
【履修要件】									
社会的認知研究に関心を持っていること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席点と最終試験。試験は授業の最終回にいくつかのテーマについて論述をしてもらう予定。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>村田光二(編)『『社会と感情』(日本認知心理学会(監修)「現代の認知心理学」第6巻)』(北大路書房)(翻訳文献の中によいものがあるので、授業内で紹介する。)</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>暑い時期の3日間の集中講義ですので、実験をデモンストレーションするなど工夫して実施することを考えています。(2012.1.13.記)</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 杉万 俊夫(Toshio Sugiman)						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	グループ・ダイナミックス								
【授業の概要・目的】									
<p>グループ・ダイナミックスとは、さまざまな集合体（小集団、組織、群集、コミュニティ、社会等）の全体的性質（集合性）の動態を研究する人間科学である。研究者が現場に飛び込み、当事者と協同的实践を展開することを特徴とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>本講では、人間科学の基本的立場、グループ・ダイナミックスの基礎的な概念や理論、フィールド研究の実例について、わかりやすく説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間科学 2. グループ・ダイナミックス 3. フィールド研究の実例 4. 規範の理論 5. 活動の理論 6. グループ・ダイナミックスの数理 									
【履修要件】									
定員は教室収容定員。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席すること。									
【成績評価の方法・基準】									
学期末試験									
【教科書】									
杉万俊夫 『コミュニティのグループ・ダイナミックス』									
【参考書等】									
（参考書） 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 杉万 俊夫(Toshio Sugiman)						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	グループ・ダイナミックス								
【授業の概要・目的】									
<p>グループ・ダイナミックスとは、さまざまな集合体（小集団、組織、群集、コミュニティ、社会等）の全体的性質（集合性）の動態を研究する人間科学である。研究者が現場に飛び込み、当事者と協同的实践を展開することを特徴とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>本講では、人間科学の基本的立場、グループ・ダイナミックスの基礎的な概念や理論、フィールド研究の実例について、わかりやすく説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間科学 2. グループ・ダイナミックス 3. フィールド研究の実例 4. 規範の理論 5. 活動の理論 6. グループ・ダイナミックスの数理 									
【履修要件】									
定員は教室収容定員。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席すること。									
【成績評価の方法・基準】									
学期末試験									
【教科書】									
杉万俊夫 『コミュニティのグループ・ダイナミックス』									
【参考書等】									
（参考書） 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 齋木 潤						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	視覚科学 A								
【授業の概要・目的】									
「視覚科学」と呼ばれる認知科学の一分野の概説を行なう。視覚科学Aでは視覚科学のうち、「よく見てわかる(vision with scrutiny)」プロセスに焦点を当てる。									
【授業計画と内容】									
多くのトピックを網羅的に概説するのではなく、いくつかの重要で興味深いトピックを「視覚科学」の特徴が浮き彫りになるように解説したい。 以下のトピックを取り上げる イントロダクション 視覚システムの基礎 3次元構造の知覚 物体認識 視覚記憶 視覚的注意									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への出席、及び期末試験									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 齋木 潤						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	視覚科学 B								
【授業の概要・目的】									
「視覚科学」と呼ばれる認知科学の一分野の概説を行なう。視覚科学Bでは視覚科学のうち、「一目見てわかる（vision at a glance）」プロセスに焦点を当てる。									
【授業計画と内容】									
多くのトピックを網羅的に概説するのではなく、いくつかの重要で興味深いトピックを「視覚科学」の特徴が浮き彫りになるように解説したい。 以下のトピックを取り上げる。 イントロダクション 視覚システムの基礎 明るさ知覚と恒常性 テクスチャの知覚 シーンの知覚 視覚探索 眼球運動									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への出席と期末試験。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 月浦 崇				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	認知神経心理学A								
【授業の概要・目的】									
<p>脳の様々な疾患によって、ヒトの脳が損傷されると、その損傷した領域の違いによって、言語や行為、記憶などの様々なタイプの高次脳機能障害が起こる。本講義では、これらの高次脳機能障害を理解することによって、脳を媒介とした心理メカニズムを理解することを目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体としているが、脳が様々な疾患（脳梗塞・脳出血・変性疾患等）によって（局所的に）損傷されると、その損傷領域の違いによって様々なタイプの高次脳機能障害が起こる。その事実は、損傷した領域と障害を受けた脳機能との間の相関関係を我々に示し、そこから脳を媒体とした認知機能のメカニズムを推測することができるようになる。本講義では、様々な高次脳機能障害を解説することによって、ヒトの高次な認知機能の基盤となる脳内メカニズムを理解することを目指す。</p> <p>講義で扱う内容は以下のとおり。以下のテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業を行う。順番や番号は目安であり、多少変更する可能性もあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．神経心理学の方法 2．基本的脳解剖 3．視覚の障害 4．行為の障害 5．言語の障害 6．言語の障害 7．記憶の障害 8．記憶の障害 9．感情と情動の障害 10．前頭葉機能の障害 11．神経心理学的検査 12．「知・情・意」の神経心理学 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と試験（筆記）によって評価する。									
-----心理学(特殊講義)(2)へ続く-----									

心理学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

石合純夫 『高次脳機能障害学』 (医歯薬出版)

山鳥 重 『神経心理学入門』 (医学書院)

河村満・高橋伸佳 『高次脳機能障害の症候辞典』 (医歯薬出版)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 月浦 崇				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	認知神経心理学B								
【授業の概要・目的】									
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体として制御されている。近年、機能的磁気共鳴画像法（fMRI）などの脳機能イメージング法の発展により、ヒトの高次な認知過程に関連する脳の神経活動のパターンを可視化することが可能になってきている。本講義では、ヒトの高次脳機能に関連する脳機能イメージング研究を解説し、その基盤となる脳内機構を理解することを目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体として制御されている。ヒト認知機能の脳内メカニズムに関しては、伝統的に脳損傷患者を対象として損傷領域と特定の認知機能の障害パターンから研究が行われてきた。しかし、近年の脳機能イメージング技術の発達により、健常者を対象として認知機能に関する脳内機構を可視化することが可能になってきた。本講義では、脳機能イメージング法から得られた様々な高次な認知機能を媒介する脳内機構の研究を概説し、ヒトの高次な認知機能の基盤となる脳内機構を理解することを目指す。</p> <p>講義で扱う内容は以下のとおり。以下のテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業を行う。順番や番号は目安であり、多少変更する可能性もあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．脳機能イメージングの方法 2．基本的脳解剖 3．五感の脳機能イメージング 4．空間認知，物体認知，異種感覚統合，行為の脳機能イメージング 5．エピソード記憶，意味記憶，作業記憶の脳機能イメージング 6．手続き記憶の脳機能イメージング 7．言語的コミュニケーションの脳機能イメージング 8．非言語的コミュニケーションの脳機能イメージング 9．社会的認知と情動の脳機能イメージング 10．「知・情・意」の心の枠組みと脳機能イメージング 11．脳機能イメージングの応用可能性 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と試験（筆記）によって評価する。									
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----									

心理学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

川島隆太 『高次機能のブレインイメージング』(医学書院)

月本洋他 『脳機能画像解析入門』(医歯薬出版)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 山梨 正明						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	言語と認知のメカニズム								
[授業の概要・目的]									
言語主体の認知能力からみた言葉の記述と分析を通して、日常言語の論理と伝達のメカニズム、異文化間の言葉と認識の違い、発想の違い等を考察していく。									
[授業計画と内容]									
以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業を行う。 言語学の基本的な考え方と分析の方法 認知科学からみた言語研究と関連領域の概観 認知言語学の基本的な枠組と研究の方法 一般的認知能力からみた言語能力の分析法 認知能力からみた言語現象の諸相の具体的分析									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
レポート試験と平常点による評価									
[教科書]									
山梨正明 『認知言語学原理』（くろしお出版）									
[参考書等]									
（参考書） 山梨正明 『ことばの認知空間』（開拓社）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業中に指示されたテキストの予習をしておくこと オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	非常勤講師 浅田 晃祐 非常勤講師 田邊 亜澄 非常勤講師 大塚 結喜 非常勤講師 勝原 摩耶 非常勤講師 高岡 祥子 非常勤講師 源 健宏 非常勤講師 鹿子木 康弘						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	心理学研究法特論								
【授業の概要・目的】									
心理学はヒトや動物の行動から、対象の「こころ」を推測する学問である。「こころ」は直接測ることができないため、理論的に妥当な方法論を用いて実験を計画し検証を行わなくてはならない。この講義では、知覚・認知・発達・動物の具体的な研究例から、要因計画の立て方、刺激の作成方法、および、実施方法、そこから導出される結果の統計処理の方法を例示しながら、心理学の研究方法を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について1課題あたり1～2週の講義を実施する予定である。									
視覚情報処理：視覚情報認知（特に記憶）に関する心理学・神経科学のモデルとそれに伴う議論を紹介し、日常生活における視覚情報処理がどのようなものかを考察する。									
選択的注意：選択的注意に関する実験心理学研究と脳科学研究を紹介し、刺激の選定や実験デザインの組み方、そして、データの分析方法と結果の解釈の仕方を講義する。									
言語性ワーキングメモリ：言語性の情報を一時的に保ちながら操作する過程とそこに影響を与える要因について事例をあげつつ講義を行う。									
発達：子どもの社会性を調べた先行研究を紹介し、実際にどのように課題を実施し、データを解析し、結論を導き出すかについて講義を行う。									
乳児研究：初めに乳児研究における基本的な方法論を説明し、具体的な実験例を紹介しながら、乳児研究に対する理解を深めるための講義を行う。									
学習：ヒトを含む動物が経験を通して行動を変容させていく過程について学ぶ。代表的な学習である、古典的条件付けとオペラント条件付けについて、実験方法を取り上げながら紹介する。									
比較認知科学：動物が研究対象となる比較認知科学の回では、実験室場面での研究や自然場面での研究方法、そこから得られたデータの解析方法に関する講義を行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験									
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----									

心理学(特殊講義)(2)

[教科書]

関連資料を授業時に配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

内容を状況に応じて変更する場合があります。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	心理学(演習 I) Psychology (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 藤田 和生 文学研究科 教授 板倉 昭二						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	心理学演習I								
【授業の概要・目的】									
<p>3回生対象の演習。 受講者の研究発表とそれを題材とした討論をおこなう。 オリジナル研究を開始するための基盤を形成し、卒業研究への足がかりを作る。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>各人が自由に選定した内容について研究発表し、その内容及びそれに関連した事柄について全員で討論する。 前期後期、それぞれ1回ずつの研究発表を課す。 発表者は発表内容に関するレジュメを配布する。 発表はコンピュータを使用したプレゼンテーションが望ましい。 討論への積極的な参加が期待される。</p>									
【履修要件】									
<p>原則として、心理学専修に所属するものであること。 心理学実習I、講義Iを履修済みであることが望ましいが、必須ではない。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(演習II) Psychology (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 櫻井 芳雄 文学研究科 准教授 蘆田 宏						
配当学年	4回生のみ	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	心理学演習II								
【授業の概要・目的】									
4回生対象の演習。 主に卒業研究に関する受講者の研究発表とそれを題材とした討論をおこない、卒業研究の遂行を支援する。									
【授業計画と内容】									
主に卒業研究の進捗状況あるいはそれに関連する事項に関して受講者が研究発表し、その内容をもとにして全員で討論する。 前期と後期に、それぞれ1回ずつの研究発表を課す。 発表者は発表内容に関するレジюмеを配布する。発表はコンピュータを使用したプレゼンテーションが望ましい。 討論への積極的な参加が期待される。									
【履修要件】									
心理学専修に所属する者であること。 原則として心理学演習Iを履修済みであることが必要。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(講読) Psychology (Seminars)	担当者氏名	非常勤講師 源 健宏						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3	授業形態	講読
題目	心理学英語文献講読								
【授業の概要・目的】									
<p>英文で書かれた心理学の専門文献に触れることで、心理学の理論や諸概念への理解を深めるとともに、専門的な研究論文を読みこなす力を養うことを目指す。原文の逐語的正確さも担保しながら内容を要約する練習を行う。参加者には通年で数回の発表が求められる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>【前期】 Baddeley, A., Eysenck, M. W., & Anderson, M. C.の「MEMORY」(psychology press)を輪読する。 以下のような課題について1課題あたり1～2週の講義を実施する予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. What is memory? 2. Short-term memory 3. Working memory 4. Learning 5. Episodic memory 6. Semantic memory and stored knowledge 7. Autobiographical memory 8. Retrieval 9. Incidental forgetting 10. Motivated forgetting <p>【後期】各人が興味がある心理学関連の実験論文を読む。また、実験論文の検索方法を学ぶ。</p> <p>主な課題は、前期・後期ともに、内容を要約してレジюмеを作成し、発表することである。発表回数は、前期は3回(3-5ページ/回)・後期で1回(約10ページ)の予定。その他、発表担当でない回でも、内容に関する質問をし、積極的にディスカッションに参加することが求められる。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点で評価する。評価対象となるのは、レジюмеでの発表内容+その他の項目(質問等)とする。									
【教科書】									
使用しない(必要な箇所のコピーを配布する)									
【参考書等】									
(参考書)									
特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
自分の担当範囲は、前もってきちんと発表等の準備をしておくこと。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(実習Ⅰ) Psychology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 藤田 和生 文学研究科 教授 櫻井 芳雄 文学研究科 教授 板倉 昭二 文学研究科 准教授 蘆田 宏				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4,5	授業形態	実習
題目	心理学実習Ⅰ：心理学基礎実験								
【授業の概要・目的】									
心理学実験の基礎についての実習。心理学の多様な研究手法を、具体的作業を通じて学ぶ。									
【授業計画と内容】									
簡単な心理学実験を自ら実施し、データを集め、分析し、レポートにまとめる。前期は心理学連合共通科目として実施され、文学部、教育学部及び総合人間学部で提供される実習項目を選択する。内容は、レポート(論文)の書き方、知覚や記憶の研究法、動物研究法、発達研究法、神経科学の基礎、質問紙法、調査法等が予定されているが、変更の可能性もある。初回に内容の紹介と実習項目の選択のためのオリエンテーションがあるので、必ず出席すること(集合場所は掲示を参照)。後期は文学部のみで実施する。内容は、知覚、記憶、神経科学、比較認知、認知発達などの発展的実習を実施する予定であるが、内容は変更される場合もある。心理学専修を希望する者(あるいは希望する可能性がある者)は、2回生で履修することが望ましい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。出席と毎回のレポートによる									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
心理学専修希望者は必ず文学部で心理学実習Ⅰとして登録すること(前期のみの全学共通科目として登録しないこと)。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(実習II) Psychology (Seminars)	担当者氏名	こころの未来研究センター 特定助教 森崎 礼子						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	実習
題目	心理学統計の基礎								
【授業の概要・目的】									
<p>心理・教育学系学部学生を想定した統計教育を講義形式で行う。 記述統計法の理解に加えて、統計的推論の考え方を習得する。 分散分析の基本的な理解、標本の大きさに関わる問題、可能ならば更に発展させた話題にまで言及することを目標とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>各話題の解説を中心に講義し、これに関する課題を随時課す。内容は、平均と分散・標準偏差、相関、正規分布などのさまざまな確率分布、統計的検定の考え方、2項検定、カイ2乗検定、t検定、分散分析などを扱う。因子分析、共分散構造分析までできれば進みたい。授業の理解については、授業を聞き流すだけでは不可能なので、高校の数学や物理のように、自分で実際に課題を解き実感として身につけよう。一見、無味乾燥な内容に思われるかもしれないが、心理学の知見は統計的検定を経て得られるものが多いことからわかるように、統計・検定の考え方は、心理学的知識の根本をなしており、単なる手段ではない。心理統計学の美しさとその限界について学ぼう。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポート									
【教科書】									
山田剛司・村井潤一郎 2004 『よくわかる心理統計』（ミネルヴァ書房）									
【参考書等】									
（参考書） 芝・南風原 1990 『行動科学における統計解析法』（東京大学出版会）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(実習III) Psychology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 藤田 和生 文学研究科 教授 櫻井 芳雄 文学研究科 教授 板倉 昭二 文学研究科 准教授 蘆田 宏				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	実習
題目	心理学実習III：心理学特殊実験								
【授業の概要・目的】									
3回生対象の実験実習。 各自が研究テーマを設定し、具体的研究を通じて、卒業研究への足がかりを得る。									
【授業計画と内容】									
受講者がそれぞれオリジナルの研究テーマを設定し、研究計画の策定から研究の実施、分析、まとめを、年間を通しておこなう。 年間数回、進捗状況の報告が求められる。 初めて自分で計画した実験をおこなうことになるので、履修にあたっては、計画立案の段階からデータのまとめに至るまで、教員、大学院生を始め、関連研究室の諸先輩に積極的に相談し、アドバイスを受けることが重要である。									
【履修要件】									
原則として心理学専修に所属するものであること。 心理学実習I、講義Iを履修済みであることが望ましいが、必須ではない。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。最終成果の研究発表が必須要件である。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

言語学専修

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉田 和彦				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	印欧語史的形態論研究								
【授業の概要・目的】									
インド・ヨーロッパ系諸言語がさまざまに分岐する以前の共通基語であるインド・ヨーロッパ祖語は紀元前4,000年ごろにさかのぼると考えられている。本年度は、インド・ヨーロッパ祖語に再建される形態組織がどのようなものであるのか、またその体系が分派諸言語においてどのような変化を遂げたのかという問題について考える。									
【授業計画と内容】									
取り扱うトピックは以下のとおりである。 1) イントロダクション 2) 語形成の概要 3) 名詞の母音交替をめぐる諸問題 4) 名詞語尾をめぐる諸問題 5) 動詞形態論の概要 6) 各語派にみられる諸特徴 7) 動詞範疇にみられる諸問題									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
アサインメント、授業時の発表などで総合的に評価する。									
【教科書】									
教科書は使用しないが、参考書や参考文献を授業時に随時指示する。									
【参考書等】									
(参考書) Benjamin W. Fortson IV 『Indo-European Language and Culture: An Introduction』 (Blackwell) ISBN: 9781405188951 吉田和彦 『比較言語学の視点』 (大修館書店) ISBN:4469212954									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉田 豊				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	文献言語学の方法と諸問題								
【授業の概要・目的】									
<p>言語についての記述的な研究の中でも、死語となり文献にだけ資料が残された言語を研究する際の手法や遭遇する問題などについて、講義担当者の日常の研究を例にしながら講義する。また書かれた時代や地域が異なる文献を使って言語の変化を辿る方法についても考察する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>文献にだけ資料が残された言語の記述的な研究では、残された文献から当該の言語が話されていたときの発音と意味を解明することが、出発点であると同時に到達点でもある。講義担当者が研究している中央アジア出土のイラン系の言語の文献（11世紀以前）を例にして、発音や意味の解明の手法と問題点を解説する。文献を扱う場合には、それが書かれた素材や製本方法、筆記用具や書体の変化に関する配慮も必要になるので、それらが文献の理解とどのようにからんでくるかもテーマになる。また内容を正確に把握するためには文書が書かれた時代の歴史や文化特に宗教に関する知識も必須であり、文書の内容の理解とどのように関わるかについても講義する。</p> <p>講義の中で扱う文献は、主に、ソグド語、コータン語、バクトリア語、中世ペルシア語、パルティア語などであるが、言語接触の問題を考察する場合など必要に応じて、中国語や古代チュルク語など周辺の言語との関係も見ることにする。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期と後期に1回ずつレポートを提出してもらい、それによって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワーは特に設けませんが、質問があれば研究室で受け付ける。詳しくは授業のおりに知らせる。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 山梨 正明				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	言語と認知のメカニズム								
[授業の概要・目的]									
言語主体の認知能力からみた言葉の記述と分析を通して、日常言語の論理と伝達のメカニズム、異文化間の言葉と認識の違い、発想の違い等を考察していく。									
[授業計画と内容]									
以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業を行う。 言語学の基本的な考え方と分析の方法 認知科学からみた言語研究と関連領域の概観 認知言語学の基本的な枠組と研究の方法 一般的認知能力からみた言語能力の分析法 認知能力からみた言語現象の諸相の具体的分析									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
レポート試験と平常点による評価									
[教科書]									
山梨正明 『認知言語学原理』（くろしお出版）									
[参考書等]									
（参考書） 山梨正明 『ことばの認知空間』（開拓社）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業中に指示されたテキストの予習をしておくこと オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)			担当者氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 梶 茂樹				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	バンツー諸語研究								
[授業の概要・目的]									
アフリカに話されるバンツー系諸語を例に、現地調査法、分析法、比較研究のあり方などを解説する。									
[授業計画と内容]									
前期は、現地録音データを用い、聞き取りの練習をしつつデータの分析を行う。後期は、Field Linguistics入門書の講読を行う。									
[履修要件]									
言語学の基本を学んでおくことが望ましい。									
[成績評価の方法・基準]									
出席点とレポート評価で成績を決める。									
[教科書]									
by Claire Bower, Palgrave Macmillan, 2008. 『Linguistic Fieldwork : A Practical Guide』									
[参考書等]									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業外での質問は随時受け付けるが、前もってアポを取っておくこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者氏名	神戸松蔭女子学院大学 郡司 隆男 言語科学研究所 教授						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	現代統語論入門								
【授業の概要・目的】									
<p>現代統語論の分析方法の基本を演習問題を解くことによって身につけることをめざす。新しい現象に対して仮説を立て検証していくという近代科学の方法論にのっとり、英語をはじめとして数多くの言語の実例を分析していく。</p> <p>あらかじめ統語論の既存の知識をもっている必要はなく、必要な概念は、そのつど説明されていく。</p> <p>統語理論の枠組としてミニマリズムだけでなく、語彙機能文法、主辞駆動句構造文法もとりあつかう。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下は大体の日程。学生の理解度に応じて調整することがある。</p> <p>第1-4週: 統語論の基本的な概念---統語論とは、統語論のデータ、仮説 第5-11週: 統語範疇と下位範疇化---品詞と語彙範疇、機能範疇、下位範疇化、 時制・アスペクト・態・法、助動詞の下位範疇 第12-19週: 構成素、併合と句構造木---構成素、補語、指定部、併合、句構造木 第20-25週: 移動とコントロール---受動文、不定詞、コントロール、繰り上げ、主要部間移動 第26-28週: まとめ--次のステップ</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>教科書中の練習問題は、授業中に解くものと、宿題にするものに分ける。単位取得には宿題の提出は必須。 成績評価は、授業中不定期に課せられるこれらの課題（および学年末のレポート）による。</p>									
【教科書】									
Andrew Carnie 『Modern Syntax: A Coursebook』 (Cambridge University Press, 2011) ISBN:978-0-521-68204-6									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>Andrew Carnie 『Syntax, 2nd ed.』 (Blackwell, 2007) ISBN:978-1-4051-3384-5 Andrew Carnie 『Constituent Structure, 2nd ed.』 (Oxford University Press, 2010) ISBN:978-0-19-958346-1 Bas Aarts 『English Syntax and Argumentation, 3rd ed.』 (Palgrave, 2008) ISBN:978-0-230-55121-3 その他、授業中に適宜紹介する。</p>									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
教科書は各自入手し、あらかじめ読んでおくこと。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院言語文化研究科 教授 上田 功				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	音韻論研究								
【授業の概要・目的】									
音韻論の入門コース。音韻分析の基本的な考え方を修得する。諸言語のデータの分析により、事象の一般化、規則性の発見、複数の仮説間での妥当性の判断など、経験科学としての言語学の思考法を培う。音韻理論の発展を辿りつつ、分節音、音節、フット等の音韻単位がどのように分析されてきたかを概観する。									
【授業計画と内容】									
講義に演習を織り交ぜた形式で授業をすすめていく。扱うトピックは、構造主義音素論、初期生成音韻論、非線状音韻論、依存音韻論、素性未指定理論、素性階層論、語彙音韻論等であり、最新の最適性理論は、最後に垣間見るにとどめる。									
【履修要件】									
概論程度の言語学・音声学の知識をもっていることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への貢献度や課題等の平常点と期末のproblem-solving形式のレポート等で総合的に評価する。									
【教科書】									
使用しない ハンドアウトを用意する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業中指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者氏名	奈良教育大学 教育学部 教授 前田 広幸						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	言語理論と日本語音韻史研究								

[授業の概要・目的]

日本語音韻の史的研究をおこなうに際し、次のo)~iv)のような諸方面に関するごく基礎的な知識をそなえ、それらを適所でいかしながら、各自が興味を持つテーマについて、データ分析をすすめられるようになることが本授業の目標である。

o) 内外における日本語音韻史分野の主要先行研究。i) 発話の音声化と関連する、音韻論・形態論・統語論等、諸部門における言語理論。ii) 日本語音韻史にかかわる資料の文献学的処置。iii) 日本語諸方言発話の音響音声学的分析。iv) 歴史コーパス言語学研究。

ただし一授業でo)~iv)の広範な領域をカバーすることはもちろん無理であり、本授業ではそれぞれ次のような下位領域を中心にとりあげ、o)、ii) '、iv) ' を主として前期、o)、i) '、iii) ' を主として後期にとりあつかう予定である。

i) ' 言語部門間の相互作用、最適性理論。ii) ' 平曲譜本、近松浄瑠璃譜本。iii) ' 各種音韻単位への発話のセグメンテーション、F0曲線。iv) ' 対応分析、分散分析。

なお本授業は、講義に演習を織り交ぜた形式で進めていく。

[授業計画と内容]

それぞれ約3週をかけ、以下のトピックを順次とりあつかう予定である。ただし、受講者の関心・理解度により、あつかう内容や進度について調整をおこなうことがある。

- ・アクセントの地理的変異と歴史的変遷
- ・平曲譜本における発音注記と節博士
- ・分節的、超分節的側面からみた近松浄瑠璃譜本における掛詞の表記と胡麻章
- ・各種音韻単位の構造仮説と字余り句分布
- ・連濁、連声濁の生起語彙と日本語音韻レキシコンの層別化
- ・各種“音便”をめぐる音韻論的解釈
- ・上代語母音体系をめぐる諸論
- ・音変化、借用、および最適化を通じた文法化と類推の分析

[履修要件]

特になし。「授業の概要・目的」のi)~iv)にあげた諸方面を網羅的に取り扱うわけではなく、授業を理解する上で必要と思われる事項については、授業中に解説し必要に応じ参考書を紹介する。ただし、授業で出す課題の一部に関しては、手順について授業中に説明をおこない、PCを用いて各自で授業外に作業をおこなうことが前提となっている。PC利用環境を持たない受講生が万一あれば手だてを考えますので相談ください。

言語学(特殊講義)(2)へ続く

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・基準]

授業における貢献度（30%）、学期中に数回課す課題（30%）、および期末レポート（40%）をもとに成績評価をおこなう。

[教科書]

授業中に必要な指示をおこない、プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

学外非常勤ですが、質問、相談に応じることが可能です。日時は相談して決めたいと思います。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者氏名	神戸大学 大学院国際文化学研究所 教授 定延 利之						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	特殊講義
題目	言語コミュニケーション研究								
【授業の概要・目的】									
日常のことばや音声コミュニケーションを主たる題材として、「伝達一辺倒のコミュニケーション観」「目的論的な発話観」「道具的な言語観」という相互につながる3つの前提の効果とその問題点を考え、言語とコミュニケーションの研究枠組みについて理解を深めたい。									
【授業計画と内容】									
具体的には、言語とコミュニケーションのつながりについて、そして、文と発話の関係について、私自身の比較的最近の研究から例を挙げて考えてみたいと思います。必要に応じて他言語の例を挙げますが、なただけ現代日本語の自然会話の実データ(音声映像データ)をとりあげるつもりです。具体的にとりあげるのは、たとえば「えーと」「あー」「さー」のようなことば、「さ、坂本さんですか」のようなつかえ、「これ1個で百万円」と言われて「はあー」と感心してみせるようになりきんだ声、「なにとぞよろしく願いいたします、スー」のような空気すすり、あるいは「ウソだよぴょーん」の「ぴょーん」のようなことばなど、さまざまな「話しことば」的な現象です。昨年度に行った類似の授業よりも、若干理論的な色彩を強める予定です。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートを考えていますが、受講者数や理解度(授業中に適宜、理解度や授業の進め方について意向を問う調査をおこなう予定)によっては試験にするかもしれません。授業への貢献はもちろん考慮します。									
【教科書】									
授業中にプリントを配布する予定です。									
【参考書等】									
(参考書) 定延利之(2005)『ささやく恋人、りきむレポーター：口の中の文化』(岩波書店) 定延利之(2008)『煩惱の文法』(ちくま新書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
学外非常勤ですが、予約をとってもらえば相談に乗ることは可能です。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者氏名	広島大学 大学院文学研究科 准教授 五十嵐 陽介						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	実験音韻論入門								
【授業の概要・目的】									
<p>文字に書かれた言語データだけではなく、録音された音声データの分析ができれば、言語研究の可能性は大きく開ける。近年の分析機器の技術的な発展のおかげで、音声の音響分析は従来考えられてきたほど敷居の高いものではなくなっている。</p> <p>この授業の目的は、実験音声学的手法を用いて音韻論上の仮説を検証していく手法（実験音韻論的手法）を習得することにある。具体的には、実験音韻論の理論的背景を学び、必要最低限の音響音声学の知識を得るとともに、音響分析ソフトウェアの基本操作を覚え、録音された言語データの分析ができるようになることを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1-2回. 実験音韻論とは何か 第3-4回. 音波形を記述するための諸概念 第5-6回. 演習: 分節音長・ポーズ長の計測 第7-8回. 演習: フォルマントの計測 第9-10回. 演習: 発声開始時間(VOT)の計測 第11-12回. 演習: 基本周波数（アクセント・イントネーション）の分析 第13-15回. 演習: 総合問題</p> <p>学習の理解度に応じて変更される場合がある。</p>									
【履修要件】									
調音音声学（IPAの体系）の基礎的な知識があることを前提とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席・授業での発言）40%、演習問題（授業中の課題、および宿題）60%									
【教科書】									
適宜プリント等を配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 音声データ（.WAV）等を配布する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>学生ひとりひとりがPCを使える環境を確保してください。（すべての学生にPCが提供されない教室で授業が行われる場合は、個人のPCを授業に持参してください。） 初回授業までに個人PCに音声分析ソフトPraat（無料）をインストールしておいてください。Praatのダウンロードは http://www.fon.hum.uva.nl/praat/ からできます。 また、下記サイトでPraatの基本操作について解説しているので、初回授業までに必ずひととおり目を通しておいてください。 http://www009.upp.so-net.ne.jp/y_igarashi/praatmaster/</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	言語学（特殊講義） Linguistics (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 齋藤 治之				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	トカラ語入門								
【授業の概要・目的】									
<p>トカラ語とは現在の中国新疆ウイグル自治区でかつて使用されていた言語で、系統的にはインド・ヨーロッパ語族に属し、しかも多くの点で同じケントゥム語群に分類される西方のケルト語やラテン語との類似性を示している。東の端に位置するトカラ語がケントゥム語群に属する理由として、この言語の話者たちが西ヨーロッパから中央アジアに至る長い道のりを移動したことが考えられる。トカラ語の言語資料は西暦6世紀から8世紀頃にかけて書かれた仏教の経典の翻訳を主とし、それらの文書は20世紀初頭ドイツ、フランス等の国々が派遣した中央アジア探検隊の発掘調査によりもたらされた。その出土地はシルクロード天山南路に沿った東からトルファン、カラシャル、クチャ等のオアシス諸都市で、東トカラ語（トカラ語A）と西トカラ語（トカラ語B）の2つの方言に区別され、6世紀から8世紀にかけての主に仏典の翻訳を中心とした写本が残されている。トカラ語は10世紀にはウイグル族に征服され死語になったと考えられている。</p> <p>本講義ではインド・ヨーロッパ比較言語学の方法に基づいて、トカラ語の発音から始めて、形態、統語、そしてトカラ語Aおよびトカラ語Bのテキストを講読するレベルまで力をつけることを目指している。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1回授業から第3回授業：トカラ語について。トカラ語の発音について。</p> <p>第4回授業から第6回授業：トカラ語の名詞の格変化について。</p> <p>第7回授業から第9回授業：トカラ語の形容詞および分詞の変化について。</p> <p>第10回授業から第12回授業：トカラ語の代名詞の変化について。</p> <p>第13回授業から第17回授業：トカラ語の動詞の変化について。</p> <p>第18回授業から第23回授業：トカラ語Aによるテキスト講読。</p> <p>第24回授業から第28回授業：トカラ語Bによるテキスト講読。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期・後期学期末レポートと出席点に基づいて評価する。									
【教科書】									
<p>Krause, Wolfgang/ Thomas, Werner 『Tocharisches Elementarbuch』 (Carl Winter) 1960年出版でISBNはありません。</p> <p>上記教科書のプリントをこちらで準備して授業中に配布。</p>									
【参考書等】									
(参考書)									
【その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 外国人教師 VINE, Brent Harmon				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	Introduction to Mycenaean Greek								
【授業の概要・目的】									
The course will introduce the Linear B writing system and the grammar and vocabulary of Mycenaean Greek.									
【授業計画と内容】									
The course has two main goals: (1) to explore the contribution of Mycenaean Greek to our understanding of first-millennium Greek and its dialects (including the language of Homer) (2) to read a broad range of texts in Mycenaean Greek, thereby illuminating the interest of the Linear B documents for Greek cultural history and enabling students to make use of this material on their own.									
【履修要件】									
Knowledge of Classical Greek grammar and vocabulary is a prerequisite.									
【成績評価の方法・基準】									
Regular attendance and oral presentation; details provided later.									
【教科書】									
J. T. Hooker 『Linear B: An Introduction』 (Bristol) ISBN:0-906515-62-0									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Office hour is available by appointment. オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(基礎演習) Linguistics (Seminars)			担当者氏名	次世代研究者育成センター 助教 西村 周浩				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	基礎演習
題目	言語学の方法								
【授業の概要・目的】									
<p>日常何気なく使っている言語。その言語が一体どのような構造や規則に基づいて機能しているのか詳しく考える。その一方で、言語は必ずしも十全で完璧な仕組みをもつわけではなく、実際のコミュニケーションの場で全てを語らずとも意思が伝わることもあるし、多くの言語は歴史とともにわざわざ変化してしまう。このように多角的な面から言語を考察し、様々な言語現象に対する学問的理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>まず、言語構造の主要部である「形態」、「音」（「音声」・「音韻」）、「統語」、「意味」の各部門に重点を置き、これらを個別に考えるとともに相互の関連性についても随時概観する。次に、言語構造の（流）動的側面、具体的な言語活動状況に関する領域をいくつか取り上げる（「語用論」、「言語変化」、「社会と言語」、）。以上のようなテーマに対して、2回～4回分の授業を割り当てる。この授業では、知識の単なる提供だけでなく、具体的なデータと向き合うことを積極的に推し進めていく。分析という実体験を参加者間で共有し、知識の運用とその方法について議論を深める。また、いわゆる先行研究にも目を配り、まずは研究者の意図を正しく理解し、その上でそこに加えられるべき要件や指摘すべき問題点などについても論じる予定である。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業参加、数回の課題、小テスト、およびレポートによって総合的に評価します。詳しくは第1回目の授業で。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワーは特定の時間を確保する予定です（+アポイントメント）。詳しくは第1回目の授業で。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉田 豊				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木1	授業形態	演習
題目	古代・中世イラン語文献演習								
【授業の概要・目的】									
古代及び中世のイラン語文献を読みながら言語研究上の諸問題，および文献に書かれた内容（歴史宗教）について議論する．古代語としては主にアヴェスター，中世語としてはソグド語文献を読む文献言語学の手法を体得するとともに，イラン系の言語の構造と，イスラム化以前のイランの文化や歴史に触れることが本授業の目的である．									
【授業計画と内容】									
最初にイラン系の言語や文献の概要について解説する．その後は隔週で古代語と中世語を交互にとりあげる．アヴェスターでは，文法事項を確認するとともに，当該の文法事項を含む少し長めのパッセージを読んでいく．その際，宗教的な内容についても考察する．ソグド語文献では，マニ教文献や仏教文献を，文法を確認しながら解説していく．これらは8世紀から10世紀にかけて書かれた文献であるが，内容の理解にはマニ教や仏教についての知識も必要になってくるので，その方面についても解説する．さらに文献を使った言語研究の方法についても論じる予定である．									
【履修要件】									
事前にこれらの言語について一定の知識を持っているか，授業とは別に独習しながらそれらの知識を補う用意のある学生を対象とする．									
【成績評価の方法・基準】									
出席と授業への貢献など平常点で評価する．									
【教科書】									
授業中に指示する 教材は随時授業中にプリントを配布する．									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワーは特に設けないが，質問があれば研究室で受け付ける．詳しくは授業のおりに知らせる． オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 田窪 行則						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	演習
題目	琉球諸語概説：宮古池間方言を中心に								
【授業の概要・目的】									
琉球宮古語池間方言の単語、文章の聞き取りなどを行い、未知の言語を調査記述する方法を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
日本語の姉妹語である琉球諸語に関する知識を深め、ひいては日本語の歴史に関する知識を深める。記述言語学の基本的な知識を身につける。									
授業計画と内容									
琉球宮古池間方言を中心に、未知の言語を記述する方法を学ぶ。琉球列島で話されている言葉は、日本語の姉妹語であり、唯一、同じ祖語を有する姉妹語であることが証明されている。しかし、両者の差は大きく、互いに意思疎通は不可能である。また、琉球諸語は5つの言語に分類される（奄美、沖縄、宮古、石垣、与那国）が、これらの言語間でも意思疎通が不可能なほど違っている。琉球諸語はいわゆる危機言語（消滅の危機に瀕した言語）であり、宮古語もその例外ではない。母語話者は60代であり、すでに次の世代への継承を行っていない。宮古語池間方言はそのなかでも比較的若い世代でもよく使われており40代の話者でも流暢に話す。しかしこの方言でも次世代への継承はほぼ途絶えており、30年後には消滅する可能性が高い。そこで、この授業では、同時に消滅の危機に瀕した言語を記録、保存する方法についても学ぶ。									
前期予定									
1回目：導入 琉球諸語、危機言語、言語の記述と記録									
2回目～4回目：池間方言の概説、語彙調査による音素の設定									
5回目～6回目：主題の形式、対格形式の形態音素論									
7～9回目：基本的な例文の書き取りと動詞形態論の基礎									
10～14回目：談話の書き取り 書き取りソフト、映像記録ソフトの使い方									
後期予定									
1回目～2回目：アクセントの弁別									
2回目～4回目：談話の書き取りと動詞、形容詞形態論の整理									
5回目～10回目：談話の書き取りと接続語尾の整理、文法体系の整理									
11回目～14回目：琉球の他の言語、方言の概説、									
【履修要件】									
その解答例、講義資料はWikiのページに挙げるのでネットに接続できることが必要である。音声学の基本的な知識がある方が望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席40%、課題の提出40%、授業内での発言20% 池間方言の書き取りができるようになることが最終的な目的であり、課題、授業内での発言はその書き取り能力、聞き取り能力によって評価する。									
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----									

言語学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

プリント類、書き取り用音声はすべてWikiのページにアップする。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

他の方言に関する記述も適宜紹介する。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

課題があるので必ず締め切り前に提出すること、課題の解答で授業が進行する場合も多い

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)			担当者氏名	大阪学院大学 情報学部 准教授 笹間 史子				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	演習
題目	調音音声学								
【授業の概要・目的】									
言語音産出のしくみを理解するとともに、実習をとおしてさまざまな言語音の発音および聞き取り・表記を習得することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
前期は、音声器官について紹介したのち、IPAの表を用いて子音・母音の発音練習をおこなう。後期は、録音を用いて皆でいくつかの言語における子音・母音の聞き取り・表記の練習をしたのち、さまざまな言語の音声について担当者を決めて発表をしてもらう。発表にあたっては、短い録音資料を選び、そこで観察される音声をIPAを用いて表記、ハンドアウトを配布して解説してもらい、それについて皆で議論する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と授業の準備状況、発表、発音・聞き取りテスト、年度末に提出してもらう小レポートによって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 田窪 行則						
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
題目	韓国語韓国社会実地研修								
【授業の概要・目的】									
ソウル大学において、ソウル大学言語教育研究所（LEI）および国際研究大学院（GSIS）の協力を得て実施する。韓国語の習得および韓国の社会と文化の概要を学ぶことを目的とする。授業は原則として英語により実施する。									
【授業計画と内容】									
<p>(1) 文学部で渡航前のオリエンテーション（昨年度参加者の体験報告など）</p> <p>(2) 8月6～24日 ソウル大学言語教育研究所（LEI）において、3週間、週5日間、毎日午前9時から午後1時まで（1日あたり4時間）、韓国語の授業を受講。クラス分けテストにより、各人の能力に応じたクラスに所属。初心者も可。詳細は以下を参照。 http://lei.snu.ac.kr/site/jp/klec/3Week-Intensive/course.jsp 国際研究大学院（GSIS）において、韓国の社会と文化についての講義を受講（12時間）。および各人テーマを決めてソウル市内においてフィールドワークを行う（約18時間）。</p> <p>(3) 帰国後、韓国語能力試験と韓国社会研究の成果発表を実施する。</p>									
【履修要件】									
履修志望者はTOEFL・IELTS等による語学能力証明書を提出すること。英語での受講に十分な学力をそなえていることが求められる。その他費用負担等、詳細については1回目のガイダンスで説明する。									
【成績評価の方法・基準】									
ソウル大学言語教育研究所（LEI）が発行する修了証および成績証明書と、帰国後に実施する韓国語能力試験および研究成果発表の結果を総合して担当教員が評価し、単位を認定する。									
【教科書】									
ソウル大学で購入する。									
【参考書等】									
<p>（参考書） ソウル大学で購入する。</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(卒論演習) Linguistics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 田窪 行則 文学研究科 教授 吉田 和彦 文学研究科 教授 吉田 豊				
配当学年	4回生のみ	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水5	授業形態	卒論演習
題目	言語学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
卒業論文の質の向上を目的とする。卒業予定者が自らが準備している論文について報告を行い、それに対する質疑応答、討論を通して、言語現象に関する観察力や思考力を培うとともに、言語を分析する能力を高める機会にする。									
【授業計画と内容】									
卒業予定者は、各自が取り組んでいる卒業論文について、少なくとも2回の中間発表を行う。発表者はハンドアウトを用意し、当該のテーマを着想するに至った経緯、当該のテーマに関する研究史と研究史上の問題点、各自の研究の進捗状況などを説明する。発表の後に、質疑・討論を行い、さまざまな言語学的問題についての理解を深める。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業時での発表と出席状況など、平常点で評価する。									
【教科書】									
発表者が準備するハンドアウトを使用する。									
【参考書等】									
(参考書) 特になし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
卒業予定者以外(3年生、院生)の出席も歓迎する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	オランダ語（初級）（語学） Dutch			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 河崎 靖				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	語学
題目	オランダ語 初中級								
【授業の概要・目的】									
オランダ語の総合的な語学力を養成することを目標とする。									
【授業計画と内容】									
入門レベルの文法解説から始め、話す・聴く能力を高めるドリルも行き、後期には専門的なテキストにもチャレンジできるくらいのレベルを目指す。併せて、ランデスクンデ的な情報を盛り込み、ゲルマン語の中でも低地諸国 (Low Countries)における言語事情がいかなるものなのか講義する。専門分野を問わず熱心な参加を期待する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
基本的に平常点による。積極的な授業参加が望まれる。									
【教科書】									
こちらでプリント教材を準備する。									
【参考書等】									
（参考書） 河崎 他 『オランダ語の基礎』（白水社） 河崎 他 『低地諸国の言語事情』（大学書林）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	モンゴル語（初級）（語学） Mongolian	担当者氏名	大阪大学 世界言語研究センター 教授 塩谷 茂樹						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	語学
題目	モンゴル語初級								
【授業の概要・目的】									
キリル文字による現代モンゴル語（モンゴル国の標準語、モンゴル語・ハルハ方言を指す）の初級レベルの基礎文法の総合的習得を目標とします。									
【授業計画と内容】									
文字と発音を最初に学習します。特に、日本語と異なる発音を徹底的に学びます。その後第1課～第20課からなるテキスト（会話を含む）を教科書として用い、各課の文法説明、練習問題、テキストの解説、発音練習の順で授業を進めます。必要に応じ、モンゴルの文化習慣にも触れ、皆さんをモンゴルの世界にいざないます。									
【履修要件】									
語学に興味のある人なら誰でも歓迎します。									
【成績評価の方法・基準】									
評価は出席を最重要視し、残りは授業態度・授業の積極的参加によって、総合的に判断します。									
【教科書】									
塩谷茂樹、E・プレブジャブ著『初級モンゴル語』（大学書林2001）									
【参考書等】									
（参考書） 塩谷茂樹、Ya・バダムハンド『初級モンゴル語練習問題集』（大学書林2011）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業は教科書（『初級モンゴル語』大学書林2001）に沿って行いますので、出席者は事前に教科書を購入しておいて下さい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	シュメール語（初級）（語学） Sumer			担当者氏名	総合地球環境学研究所 森 若葉 上級研究員				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	語学
題目	シュメール語（初中級）								
【授業の概要・目的】									
<p>古代メソポタミアで話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末から三千年間にわたる数多くの資料を残している。この言語は、楔形文字で記され、複雑な接辞体系で知られている。本授業は、まだあきらかになっていない部分もあるシュメール語文法について概説をおこない、その古代の資料を実際に講読することを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期は、シュメール語文法の概説およびその書記体系である楔形文字の成立としくみについて解説を行う。その間、適宜簡単なシュメール語資料を読む予定である。</p> <p>後期は、シュメール語資料の講読を中心におこない、資料ごとに文法の解説、問題点の指摘を行う。また死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点、系統不明の古代のシュメール語の解読がどのようにおこなわれたのかについてもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキスト等である。なお、後期後半に楔形文字実習を予定している。</p>									
【履修要件】									
楔形文字の実習の際、粘土等を用意してもらう必要がある。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点および学年末レポートを予定。									
【教科書】									
なし。プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（初級）（語学） Swahili	担当者氏名	非常勤講師 井戸根 綾子						
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	スワヒリ語（初級）								
【授業の概要・目的】									
スワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。名詞クラスなどスワヒリ語の初級文法の理解を基本とし、語彙、基本文型、実際の会話表現なども学ぶことで、初級に相当する読解力の習得を目指す。									
【授業計画と内容】									
第1週はオリエンテーションを行なう。 第2週より、以下の項目について学習する。 あいさつ表現、自己紹介、動詞を使わない文（コピュラ・存在・所有）、現在時制・過去時制・未来時制・完了時制の表現、名詞クラスなど。 なお、学習の進度は適宜調整する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、平常点、定期試験の結果により、総合的に判断する。 なお、3分の2以上の出席を必須とする。									
【教科書】									
竹村景子 『ニューエクスプレス スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08527-1									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
http://el.osaka-gaidai.ac.jp/flc/swa/index.html (スワヒリ語独習コンテンツ)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。 各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（中級）（語学） Swahili	担当者氏名	非常勤講師 井戸根 綾子						
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講期	後期	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	スワヒリ語（中級）								
【授業の概要・目的】									
スワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。スワヒリ語の標準文法の理解をさらに深め、新たな語彙や慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力の習得を目指す。									
【授業計画と内容】									
第1週は初級で学習した文法の復習を行なう。 第2週より、以下の項目について学習する。 接続形、動詞の派生形（受身形・相互形・使役形・状態形など）、指示詞、条件節、関係節、ことわざ・格言など。 なお、学習の進度は適宜調整する。									
【履修要件】									
「スワヒリ語初級」受講者に限る。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、平常点、定期試験の結果により、総合的に判断する。 なお、3分の2以上の出席を必須とする。									
【教科書】									
竹村景子『ニューエクスプレス スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08527-1									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
http://el.osaka-gaidai.ac.jp/flc/swa/index.html (スワヒリ語独習コンテンツ)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。 各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(実習) Geography (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 杉浦 和子 文学研究科 准教授 米家 泰作				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3,4	授業形態	実習
題目	地理学実習								
【授業の概要・目的】									
本実習の目的は、地理学の基礎的な技能を習得することや現地調査と報告書作成を体験することにより、卒業論文作成など、地理学の調査分析を行うための基礎的スキルを身につけることである。									
【授業計画と内容】									
<前期> 1. 地形図などの読図と分析 2. GIS (地理情報システム) ソフトの操作練習 <後期> 3. 基礎的な空間データについて統計分析の基礎についての解説 4. 多変量解析手法の紹介 5. グラフや主題図の製図練習 10月～11月には、実習旅行(3泊4日)として、地方の自治体でフィールドワークを行い、実習報告書を作成する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(出席、授業への参加態度)ならびに提出物を総合的に勘案して評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
地理学専修の専攻を希望する学生は、2回生または3回生のうちに本実習を履修することが望ましい。 製図用具および実習旅行の費用は、受講生の負担となる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

社会学専修

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 公雄				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	特殊講義
題目	現代社会とジャーナリズム								
[授業の概要・目的]									
ジャーナリズムの現場からの生の声を聞くとともに、実際に自分たちで取材活動を行い、記事の作成を実践することで、ジャーナリズムの世界を体験してもらうことを目的とする。									
[授業計画と内容]									
京都新聞総合研究所との協力により授業を進める。前期は、新聞、テレビ、雑誌など、現場のジャーナリストやディレクター、編集者などによる講義形式の授業を行なう。後期は、いくつかのグループに分かれそれぞれのテーマを設定した上で、実際に、新聞の紙面や雑誌の記事を作成する。授業計画の詳細は、最初の授業時に提示する。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
通常の授業態度（適宜レポートを書いてもらう）および最終的に作成する記事によって評価を行う。									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
（参考書） 適宜配布します									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 落合 恵美子				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	東アジア社会研究								
【授業の概要・目的】									
<p>京都大学、国立台湾大学、ソウル大学の社会学科・社会学専修が共同で実施する授業である。今年度は台湾大学で実施する。東アジア社会についての理解を深めると共に、英語での研究発表を経験することを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>(1) 渡航前に東アジア社会に関する講義および学生の研究発表指導を数回実施。 (2) 9月中旬 国立台湾大学にて5日間のプログラムを実施。1～3日目は、参加3大学教員による講義（英語）とフィールドワーク。4・5日目は3大学学生による研究発表（英語）。</p>									
【履修要件】									
<p>履修志望者はTOEFL・IELTS等による語学能力証明書を提出すること。英語での受講と研究発表に十分な学力をそなえていることが求められる。その他費用負担等、詳細については1回目のガイダンスで説明する。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>3大学の教員が合議して、平常点50%・研究発表50%で成績を評価し、それを参考にして京都大学の担当教員が京都大学の学生の単位を認定する。</p>									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 落合 恵美子				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	社会調査入門 (社会調査士科目A)								
【授業の概要・目的】									
本講義では、社会学的実証研究すなわち社会調査の意義と限界、さまざまな方法、およびそれらに関する基本的事項を学ぶ。質的調査と量的調査の両方を含む。									
【授業計画と内容】									
1.社会調査とは何か 2.社会調査と調査倫理 3.質的調査と量的調査 4.インタビュー調査とその事例(1) 5.インタビュー調査とその事例(2) 6.画像・映像分析による調査とその事例(1) 7.画像・映像分析による調査とその事例(2) 8.歴史史料分析による調査とその事例(1) 9.歴史史料分析による調査とその事例(2) 10.既存統計の利用法とその事例(1) 11.既存統計の利用法とその事例(2) 12.質問紙調査とその事例(1) 13.質問紙調査とその事例(2) 14.社会調査の設計(1) 15.社会調査の設計(2)									
【履修要件】									
2回生で受講するのが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
各自の問題関心に応じて簡単な社会調査を実施して、レポートを提出する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 適宜配布します。									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 田中 紀行				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	支配の社会学								
【授業の概要・目的】									
<p>Andrea Maurer, "Herrschaftssoziologie. Eine Einführung" (2004) の精読を通して、社会学のドイツ語文献の読解力を習得するとともに、マックス・ヴェーバーによって基礎づけられた「支配の社会学」の基礎概念と支配の類型論、支配の正当化などについての基本的な考え方を学ぶ。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>テキストを冒頭から毎回2~3ページ程度ずつ読み進める予定である（ただしペースは受講者の学力を考慮して調整する）。毎回報告者をあらかじめ決めておき、報告者の作成したテキストの日本語訳を検討しながら内容について討論する。報告者は正確な訳文を作成するのみならず、テキストに登場する学説や用語、人名等について必要に応じて注釈することが求められる。</p>									
【履修要件】									
原則として、前年度までにドイツ語を中級まで履修しているか同程度のドイツ語の知識があること									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
Andrea Maurer 『Herrschaftssoziologie. Eine Einführung』 (Campus Verlag) ISBN:3-593-37240-1 (コピーを配布する。)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 太郎丸 博				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	基本的な資料とデータの分析 (社会調査士資格認定科目 C)								
【授業の概要・目的】									
<p>官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるようになることをが、この授業の目的である。基礎的な計算法やテクニックについて講義する。また、それとあわせて、実際のモノグラフや調査報告書も講読していく。</p>									
【授業計画と内容】									
1課題あたり1～2週の授業をする予定									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 単純集計表・クロス集計表の作成と読み方 2. 代表値の計算と使い方・読み方 3. 分散・標準偏差 4. 分位点、ジニ係数 5. グラフの作り方と読み方 6. 順位相関係数 7. 因果関係と相関関係 8. 多重クロス表と疑似相関 9. 質的データの読み方とまとめ方 10. 文献購読 									
【履修要件】									
四則演算と平方根(ルート)の計算ができること									
【成績評価の方法・基準】									
出席(15%)・宿題(15%)・試験+レポート(70%)									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書)									
盛山和夫『社会調査法入門』(有斐閣) ISBN:978-4641183056 (読み物としてもおもしろい) 轟亮・杉野勇『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社) ISBN:978-4589032577 (最近の調査環境をふまえた新しいタイプのテキスト)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
練習問題を解くなどの授業外学習が必要。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 太郎丸 博				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	社会階層と不平等								
【授業の概要・目的】									
<p>社会の中には、生まれ育ちや性別、人種、階級などによってさまざまな不平等がある。このような不平等の実態はどのようなもので、それは歴史的にどのように変化してきたものなのか、あるいは国や地域によってどのように異なるのか、そして、そのような不平等の生じるメカニズムはどのようなものか、といった問題についての理解を深めることがこの授業の目的である。</p>									
【授業計画と内容】									
1 課題あたり1～2週の授業を予定									
1 社会階層とは？ 2 マルクス主義階級理論 3 世界システム理論 4 分析的マルクス主義 5 ヴェーバー派階級理論 6 学歴と不平等 7 ジェンダーと不平等 8 人種・エスニシティと不平等 9 階層構造の歴史的変容 10 階層構造の国際比較									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点30%、筆記試験70%（ただし受講人数や受講者の状況を勘案して若干修正する可能性あり。詳細は初回の授業時に決定する）									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
KULASISの「オフィスアワー」を参照せよ。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 富永 茂樹				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	公共性と親密性の弁証法								
【授業の概要・目的】									
18世紀における家族の規模の縮小と内部の関係の親密化の過程を検討したPh.アリエスは最後に「家族の感情と社交性とは相容れないもので、一方が他方を犠牲にしてでしか発達しないのではないかと、深刻な問題を提起する。この命題が正しければ、近代社会で成長したとハバーマスのいう「公共圏」にかかわる議論には全面的な疑問が付されなくてはならなくなるであろう。他方で同じ時期における「公共人の衰退=親密性の暴政」に注目するセネットは、アリエスと軌を一にし、ハバーマスと対立するかに見えるが、しかしその議論もまた必ずしも説得力をもつとはいえない。この授業では、こうした親密性と公共性の複雑な絡まりを解きほぐすことによって、現代の家族社会学にとってもコミュニケーション論にとっても基本的な概念の整理と総合とを試みる。									
【授業計画と内容】									
前期ではまず問題のありかの確定と基本的な概念の整理を行ったうえで(1-5)、サロン、クラブ、フランス革命期の民衆協会など、社会のさまざまな局面での社交や公共空間の展開と挫折の過程を検討する(6-14)。 後期に入ってから、前期で検討した中間的諸集団の衰退と並行して進む活字メディアの拡大と近代的主体の関係に目を向け(1-5)、さらに前期に見てきた諸集団を取り囲むかたちで都市に成長する「群集」の姿をとおして、自己と社会集団いずれもの困難ないし不可能性を見たうえで(6-10)、それが現代社会にまで持ち込まれることで生じるいくつかの問題を確認する(11-14)。 以上の過程を経過するうえで、社会と主体とを見るための基本的視点を提供してくれるのは、文学作品をはじめとするさまざまなテキストであり、これらがたんなる材料というよりは、われわれ自身の思考そのものをかたちづくることになるであろう。									
【履修要件】									
特別な知識は必要ではないが、18世紀以後今日にいたるまでのコミュニケーションや社交、家族をめぐる問題、広くは公共性と親密性という主題に関心があることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
学年末に試験を実施して、1年間の授業内容をどれだけ理解しているかを判定して、これにもとづいて成績評価を行う。									
【教科書】									
使用しない 授業で解読するテキストについては、適宜コピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 富永茂樹『理性の使用 ひとはいかにして市民となるのか』(みすず書房) Ph・アリエス『子どもの誕生』(みすず書房) J・ハバーマス『公共性の構造転換』(未来社) R・セネット『公共人の衰退』(晶文社) その他必要と思われるものについては、適宜授業中に紹介する予定。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 高橋 由典				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	行為論と社会分析								
【授業の概要・目的】									
<p>体験選択概念を社会分析のツールとして精練する可能性を探る。今年度は「動機としての体験選択について考えることを通して、体験選択概念の経験的事象への応用可能性を見極めたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>最初に体験選択概念の意味を確定したのち、この概念を用いた現実分析の可能性を探る。体験選択は人間の経験の動性に注目した概念だが、この動性への着目は、遊びや芸術、宗教といった現象の分析に大きな寄与をなす。本講義では動機カテゴリーとしての体験選択について考察を進めることを通して、この概念が、遊びについての社会学的研究や宗教社会学あるいは戦後日本社会論に対してどのような貢献を果たしうるかを考えてみたい。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期中のレポートおよび期末のレポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書) 高橋由典 『行為論的思考 - 体験選択と社会学』 (ミネルヴァ書房、2007年)</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
人間・環境学研究科、総合人間学部と共通									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者氏名	高等教育研究開発推進センター 教授 吉田 純						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	情報ネットワーク社会論								
【授業の概要・目的】									
ハーバーマス、ギデنز、ベックらの社会理論を基本的な枠組として、インターネット空間を中心とした情報ネットワーク社会の諸問題について考察する。									
【授業計画と内容】									
以下の順序で、各項目について1～3回の講義をおこなう。									
<ol style="list-style-type: none"> 1 情報ネットワーク社会への視点 2 日本社会/アメリカ社会における 情報化 3 CMC (Computer Mediated Communication) 空間の展開 4 生活世界のリアリティの再編成 5 再帰的近代化としての 情報化 6 監視社会論 7 リスク社会論 8 社会空間の再編成 9 親密圏・公共圏の再編成 									
【履修要件】									
社会学関係の全学共通科目または学部での概論科目を履修していることが望ましい									
【成績評価の方法・基準】									
中間・期末の2回のレポートによる（配点は中間30点・期末70点）									
【教科書】									
使用しない プリントを配布する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
https://socio.k.kyoto-u.ac.jp/sis (授業専用サイトで、資料配付、レポート提出、質問受付、その他の各種連絡をおこなう(ログインパスワードは初回の授業で通知する))									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	教育学研究科 准教授 佐藤 卓己				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木1	授業形態	特殊講義
題目	メディア文化論								
【授業の概要・目的】									
<p>メディア論を中心に、現代社会のなりたちを世界システムとの関連で考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」</p> <p>マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 都市基盤の上に成立した大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
第1-3回 メディア社会とは何か 第4回 メディア史としてのコミュニケーション研究 第5回 メディア都市の成立 第6章 出版資本主義と近代精神 第7回 大衆新聞の成立 第8回 視覚人間の国民化 第9回 宣伝のシステム化と動員のメディア 第10回 ラジオとファシスト的公共性 第11回 トーキー映画と総力戦体制 第12回 テレビによるシステム統合 第13回 情報化の未来史 第14回 脱・情報化社会へ 第15回 試験									
【履修要件】									
メディアに関心があり、情報への感度が高いこと。									
【成績評価の方法・基準】									
試験を行う。評価基準については、講義中に説明する。									
【教科書】									
佐藤卓己『現代メディア史』（岩波テキストブックス・1998）									
【参考書等】									
（参考書）									
佐藤卓己『現代史のリテラシー 書物の宇宙』（岩波書店・2012）（本講義に関連する読書案内。）									
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----									

社会学(特殊講義)(2)

佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店・2009年）（メディア史＝メディア論の発想法について、参照のこと。）

佐藤卓己『輿論と世論 日本的民意の系譜学』（新潮選書・2008年）（「ヨロン」と「セロン」の区別について、参照のこと。）

（関連URL）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>（メディア文化論研究室HP）

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

メディア論の初学者は、佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』（岩波新書・2006年）を、歴史学の初学者は、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波新書・2009年）を、事前に読んでおくことが望ましい。

なお、テキストの中国語訳に佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学経典教材中文版）北京大学出版社2004年がある。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	教育学研究科 教授 岩井 八郎				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	社会調査の意義と作法 (社会調査士資格認定科目 B)								
【授業の概要・目的】									
社会学における実証研究の作法を概説する。各種の方法を用いた代表的な実証研究例を紹介しながら、社会調査の意義、量的データと質的データの収集、整理、分析などの基本的な考え方と方法を説明する。									
【授業計画と内容】									
序論：データのタイプ、議論のタイプ 1．質的調査と量的調査：研究例の紹介 2．調査のタイプと研究課題 3．調査票の構成 4．質問文の作成(1)：より質問、悪い質問 5．質問文の作成(2)：作成の実習 6．サンプルの選び方：全数調査と標本調査 7．サンプリングの方法 8．サンプル数と標本誤差 9．量的調査の実施方法とデータの整理 10．コーディングの実際 11．基本統計量を読む 12．推定と検定 13．相関と回帰 14．調査データの分析入門 15．まとめ									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
中間でレポート + 最終のレポート試験 + 出席									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 社会調査関係の多くの教科書が出版されている。授業中に紹介する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
表計算ソフトを利用する。マニュアルを配布するので各自で実習をする予定。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	教育学研究科 教授 岩井 八郎				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	社会調査における多変量解析の利用 (社会調査士資格認定科目 E)								
【授業の概要・目的】									
量的な社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、考え方とその利用方法について学習する。3変数の関係について、3次元のクロス表と2元配置の分散分析を理解することからスタートし、重回帰分析と一般線形モデルが利用できるように説明する予定。									
【授業計画と内容】									
1. 社会調査データの多様性と分析手法 2. 3変数の関係の分析(1): 3次元のクロス表 3. 3変数の関係の分析(2): 分散分析の考え方(1次元と2次元) 4. 3変数の関係の分析(3): 交互作用について 5. 調査データの分析実習(1): 3次元のクロス表と2元配置の分散分析 6. 重回帰分析の考え方 7. 重回帰分析の利用(1): 研究例 8. 重回帰分析の利用(2): ダミー変数の利用 9. 調査データの分析実習(2): 重回帰分析 10. 一般線形モデルの考え方: 分散分析と重回帰分析の関係 11. 一般線形モデルの利用: 研究例 12. 主成分分析と因子分析の考え方 13. 主成分分析と因子分析の利用: 研究例 14. 調査データの分析実習(3): 一般線形モデル 15. 分析モデルとレポートの作成について									
【履修要件】									
社会調査士科目 A B C D を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
中間レポート + 最終レポート + 出席									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 岩井紀子・保田時男 『調査データ分析の基礎』(有斐閣)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業で調査データの分析実習を行い、課題を出す予定。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	法学研究科 教授 新川 敏光				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	前期	曜時限	月4,水4	授業形態	特殊講義
題目	福祉国家の政治経済学								
【授業の概要・目的】									
本講義では、福祉国家発展の成立・危機・変容について、資本主義経済と民主主義政治のダイナミズム、相互作用から理解し、今日の社会保障をめぐる問題を、日本を中心に歴史的比較論的理論的に考察する。									
【授業計画と内容】									
<p>第一部 福祉国家の理論 福祉国家の前提 福祉国家の成立条件 福祉国家の発展理論 福祉国家の類型論 福祉国家の危機論 福祉国家の新しい政治：歴史的制度論 福祉国家再編の政治：福祉レジーム論の射程</p> <p style="text-align: center;">第二部 比較の中の日本型福祉レジーム</p> <p>戦前日本の福祉レジーム 占領下の政治過程 55年体制下の家族主義福祉レジーム 家族主義福祉レジームの強化：福祉見直しI 家族主義レジームのゆらぎ：福祉見直しII 構造改革以後の福祉レジーム：労働と福祉の見直し</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
試験による									
【教科書】									
新川敏光 『日本型福祉レジームの発展と変容』（法律文化社） 新川敏光 『幻視のなかの社会民主主義』（法律文化社）									
【参考書等】									
（参考書） 新川・井戸・宮本・眞柄 『比較政治経済学』（有斐閣）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	経営管理大学院 教授 若林 直樹				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	経営組織論								
【授業の概要・目的】									
<p>日本企業は、組織として活動している。その組織の経営管理を考えていく上では、組織のメカニズムを理解する必要がある。組織論は、経営学の中で組織管理についての基本的な考え方を提供しようとするものである。組織とは、専門的には、企業という人的組織の協働活動システムとしての側面を持っている。人的組織としての独自のメカニズムがあり、意思決定、動機付け、リーダーシップ、組織文化、企業間協力、組織改革において、経済的な面だけではなく、社会的な面、心理的な面を含めての動き方をする。この点を理解したい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>この授業では、特に企業組織についてその全体構造や企業間ネットワークというマクロな次元に焦点を絞り、経営環境と組織構造の相互作用、官僚制組織とネットワーク組織、イノベーションと学習を行う組織能力、日本的経営の組織特性などについてふれて行きたい。こうした点を通じて、日本企業の意思決定、知識管理、イノベーションなどの活動での人的組織としての特性が明らかになる。さらに、日本企業は、グローバル化、情報化、高齢化という経営環境変化で、組織自体も大きく変容しつつある。</p> <p>下記の項目について1～2週間で講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．組織論の視点 2．意思決定 3．動機付けと成果主義 4．経営環境と組織構造 5．基本的な組織デザイン 6．ネットワーク組織 7．組織デザインに影響する要因 8．組織文化 9．イノベーションと組織学習を行う組織能力 10．戦略的な組織変革 11．日本的経営の組織特性と現代の経営環境 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>組織論の諸概念についての理解ができているかを基準に成績評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間レポート(40%) ・最終試験(55%) ・小テスト(5%) 									
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----									

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

田尾雅夫他 『はじめて経営学を学ぶ』(ナカニシヤ出版) ISBN:9784888489942
若林直樹 『ネットワーク組織』(有斐閣) ISBN:9784641163423

[参考書等]

(参考書)

そのほかに下記の参考書は有用である。

(1) 図書

リチャード・L・ダフト 『組織の経営学』ダイヤモンド社、2002年
田尾雅夫・桑田耕太郎 『組織論』有斐閣、1998年

(2) 辞典

金森久雄ほか編 『有斐閣経済辞典』(第3版)、有斐閣、1999年。
岡本康雄編著 『現代経営学辞典』(改訂増補版)、有斐閣、1998年。

(2) 経営雑誌

『日経ビジネス』日経BP社、『週刊ダイヤモンド』ダイヤモンド社。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

ぜひ履修すべき科目としては経済学部経営学原理、経営学入門がある。また、履修が望ましいもの経営戦略がある。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	農学研究科 准教授 秋津 元輝				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	農村と農業の社会学								
【授業の概要・目的】									
国内および国外を対象として、農村社会および農業世界は現在どのように変化し、それをどのように研究すればよいのかについて考える。日本の農村・農業については、その分析のための基礎概念を紹介するとともに、自らの調査経験をふまえた研究例を解説する。写真・ビデオなどを利用し、できるかぎり具体的に解説したい。									
【授業計画と内容】									
< 現代農村研究の最前線 > 1. 現代農村を学ぶ意義 2. 現代における農村の社会的構築 3. Iターン農業とIターン移住 4. 集落の存続問題と地域再生 5. 先進国の農村社会論 6. 農村ジェンダー研究 7. 都市農村交流の現在 < 日本農村研究の理論 > 8. 家(いえ)の理論 9. 村(むら)の理論 - 集団からの接近 - 10. むらと領域 - 保全との接続 - < 現代的農村・農業研究のひろがり > 11. GMOの社会学 12. 生き物消費の倫理学 13~14. 予備日									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験によって100%評価する。									
【教科書】									
使用しない。資料を毎回配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 日本村落研究学会編 『『むらの社会を研究する』『むらの資源を研究する』』(農山漁村文化協会2007年) 小池・新山・秋津編 『キーワードで読みとく現代農業と食料・環境』(昭和堂、2011年) 秋津・藤井・渋谷・大石・柏尾 『農村ジェンダー 女性と地域への新しいまなざし』(昭和堂、2007年)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 助教 小野寺 史郎				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	中国語講読								
【授業の概要・目的】									
近現代中国の歴史・社会に関する中国語の新聞や雑誌記事、インターネット上の論説・論文などをテキストとして講読する。中国語の読解能力を養うとともに、現在の中国における質の高い議論を取り上げ、その内容を検討する。									
【授業計画と内容】									
中国においては、一流の思想家・歴史家や各方面の研究者でありつつ、現在の問題に対しても積極的な発言を行っている知識人たちがいる。彼らは自らの専門領域に立脚しつつ、民族・環境・都市農村格差・歴史認識など幅広いテーマについて新聞・雑誌・ブログなどのメディアを通じて論考を発表しており、それが支持・批判を含む広範な読者を獲得している。これらの文章について、出席者に順番に2-3段落程度を目安に音読・日本語訳してもらった形式で講読を行う。ただ、これらの文章は問題の文脈を知らない者には分かりにくい表現で書かれている場合も多い。従ってこれらの文章を正確に理解するには、中国語読解能力とともに、近現代中国の歴史と社会に対する一定の知識も必要となる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
講読という授業の形式上、平常点を重視する。また、年度末に簡単な筆記試験（辞書持込可）を行う。									
【教科書】									
テキストはコピーして配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
講読という授業の形式上、授業出席者全員に予習を要求する。オフィスアワー等については、授業内で指示する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 小山 哲				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水1	授業形態	特殊講義
題目	仏書講読								
【授業の概要・目的】									
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、ヨーロッパ中・東部の近・現代史にかんする理解を深めることを目標とする。									
【授業計画と内容】									
<p>テキストとしては、1990年以降の国際状況の変化をふまえて新しい角度から東中欧地域の歴史を通観する N. Aleksiu et al., Histoire de l'Europe du Centre-Est, PUF 2004 のなかから、19～20世紀の諸問題（ナショナリズム、全体主義、ホロコースト）を論じた諸章をとりあげる。</p> <p>授業は、受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、ヨーロッパ近・現代史上の諸問題にかんする理解を深めることを目指す。</p>									
【履修要件】									
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と学期末におこなう筆記試験によって評価する。									
【教科書】									
授業の進度に応じてテキストのコピーを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 森本 一彦						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	質的調査法の可能性 (社会調査士資格認定科目 F)								
【授業の概要・目的】									
質的調査を概説することを通して、データの収集能力を涵養することをめざす。状況によっては質的調査を実体験し、それを報告してもらうこともある。									
【授業計画と内容】									
1 質的調査法とは何か 2～3 報告書を読む 4～5 面接法 6～7 参与観察 8～9 ライフヒストリーを書く 10～11 文献資料を読む 11～12 フィールドワークのすすめ 13～14 質的分析と量的分析の交流 15 まとめ									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート提出と平常点によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 適宜配布する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 安里 和晃				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	グローバリゼーションと人の国際移動								
【授業の概要・目的】									
この講義ではアジアや欧州の人の国際移動について取り上げ、グローバリゼーションや少子化・高齢化・人口減少といった人口構成の変化が及ぼす人の国際移動の再編に焦点をあてる。そこでは構造変化を受け、受け入れ国の出入国管理政策・定住者に対する社会統合政策・送り出し国における送り出し政策が大きく変化していることを具体的に明らかにする。その際、人の国際移動が国内の労働政策、女性政策、人口政策にも大きく影響を受けているという諸政策の関連についても留意する。									
【授業計画と内容】									
講義ではグローバリゼーションや人口構成の変化に関連する概念や現象について確認し、それが人の国際移動に及ぼす影響について検討する。主に以下の諸点について論じることとする。									
<ol style="list-style-type: none"> 1．人口構成の変化 2．経済成長戦略と移民政策 3．労働政策と移民 4．人口政策と移民 5．福祉政策と移民 6．結婚移民 7．各国の事例 8．定住者の社会統合(教育、就労、福祉) 9．ダイバーシティと移住者 10．地域統合 11．シチズンシップ 									
人は国境を超えるとどういったことが起きるのか。そういったことが具体的にわかるように授業を進めていきたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席、講義毎に書いてもらう感想文とレポート。レポートのウエイトは50%となります。									
【教科書】									
使用しない テキストは指定しませんが、授業で適宜論文を配布します。									
【参考書等】									
(参考書) 授業で適宜論文を配布します。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)		担当者氏名	関西学院大学 社会学部 教授 中野 康人					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	社会調査データ分析のための基礎統計学(社会調査士資格認定科目D)								
【授業の概要・目的】									
社会調査によって得られたデータを分析するために必要となる統計手法について、その原理と利用方法を修得することが本講義の目的である。基本的な統計量(一変量の記述、二変量間の関係)、確率論の基礎(確率と分布)、推測統計(推定と検定)を中心に概説する。									
【授業計画と内容】									
<p>・1週～5週：基本的な統計量(5) 調査結果をまとめ、調査者の問題関心を把握するのに必要な基礎的な統計量について、その考え方と計算方法を概説する。具体的には、一変量の記述(代表値、分散、標準偏差)、二変量の関係の記述(各種相関係数、オッズ比、クロス表とモザイクプロット、回帰分析)、第三変数の導入(偏相関、三重クロス表)などを取り上げる。</p> <p>・6週～8週：確率論の基礎(3) 推測統計の基盤となる、確率と分布の概念について社会調査データの実例をふまえて概説する。確率や確率変数と分布の意味、社会調査における推測統計の必要性、標本抽出と中心極限定理などを取り上げる。</p> <p>・9週～11週：推定(3) 標本統計量から母集団の統計量を推定する手法について、その考え方と計算方法を概説する。具体的には、母平均の点推定ならびに区間推定を取り上げる。</p> <p>・12週～15週：検定(4) 統計的検定、つまりは調査者の問題関心(仮説)の正しさを統計的に判定する方法について、その考え方と計算方法を概説する。具体的には、平均値の差の検定、比率の差の検定、独立性の検定、無相関の検定などを取り上げる。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験									
【教科書】									
授業中に指示する 毎回資料を配布する。参考文献はその都度指示する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	立命館大学 大学院先端総合学術研究科 准教授 天田 城介				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	老いの現代史								
【授業の概要・目的】									
<p>本年度の講義は、主に時代を明治期～昭和初期まで、戦時体制～終戦まで、被占領下～1950年代まで、1950年代以降～1970年代まで、1980年代～現在までの5つに区分したうえで、それぞれの時代における労働雇用システムと社会保障システムがどのように形成されてきたのか、それはいかなる歴史的ダイナミズムのもとで形成されてきたのかについて考える。特に、本講義では戦前/戦後の体制的連続性に照準した上で、戦時体制～被占領下の労働システムと社会保障システムがいかにして形作られてきたのか、それらがその後の戦後日本型労働・雇用システムと社会保障システムをいかにして形作ってきたのかに絞って検討していくものとする。</p> <p>ただし、本講義では、最初にいくつかの事例を紹介・参照していく中で、上記のような歴史的・時代的な見取り図が描けるように授業を展開していくことにしたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業の形式は、受講生による報告と全体討議を中心に進める予定である。</p> <p>授業計画は以下のとおりである（ただし、受講生の人数や問題関心を踏まえながら、一部変更することもありうる）。</p> <p>第1回 ガイダンス、文献紹介、全体概要の説明 第2回～第4回 老いの現代史の講義（5つの時代ごとの歴史的ダイナミズムを概説） 第5回～第12回 老いの現代史に関連する文献の輪読と講評 第13回～第15回 戦後日本社会における老いの現代史の分析（事例分析も含む）</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点評価。</p> <p>講義における報告（60%）と学期末レポート（40%）などによって評価する。</p>									
【教科書】									
授業中に指示する									
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----									

社会学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

天田城介 『老い衰えゆくことの発見』 (角川学芸出版) ISBN:4047034959

天田城介・北村健太郎・堀田義太郎編 『老いを治める 老いをめぐる政策と歴史』 (生活書院)
ISBN:4903690733

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

講義と参加者による報告・討議。参加者の希望に応じて研究会などの形式にて発表・報告を行うことも検討する。また、必要があれば、個別面談による指導などで受講生の授業・研究をサポートする。

講義に関して不明な点などがあれば、気軽に天田のメールアドレス (josuke.amada@nifty.com) まで連絡をしてください。

なお、オフィスアワーについては講義中に指示します。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	非常勤講師 ジャンクリーヌ・ベルント				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4,5 隔週	授業形態	特殊講義
題目	マンガ論								
【授業の概要・目的】									
<p>近年、日本マンガは主にグローバル化とローカル化、さらにオタクと腐女子などの情動的共同体といった観点から、つまり、二重の意味で「社会」から逸脱する文化として注目を浴びつつある。それを念頭に、本講義は、マンガを改めて「社会」と関連づけることによって、マンガが受ける社会的影響というよりも、マンガおよびマンガ研究が果たしうる社会的役割に焦点を当てる。社会学者でない者の視野から、マンガ文化を手がかりに「社会」とは何かを追究しながら、日本国内外におけるマンガ言説についての基礎知識を身につけると同時に（表現に限らない）マンガの特質に注目することの可能性と限界を検討する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>(1-2)はじめに：ドイツにおけるマンガ、マンガにおける「ドイツ」（パロディ論を含む） (3-4) 日本国内外における「マンガ」の諸定義；日本マンガ論の動向：「社会反映論」と「表現論」；「社会」の彼方としての「サブカルチャー」という視点？ (5-6) 「社会」の彼方としての日本マンガのグローバル化？（欧米とアジアの相違、翻訳版と外国人マンガ家、プロの制作とファン・アート、新種のメジャーとマイナー） (7-8) 「女性マンガ」（少女/マンガ論、非実在青少年問題；マンガ・スタイルを採用しない女性作家；「女性的エクリチュール[文体]」の問題） (9-10) 「社会」とマンガを媒介するミュージアム（正当化、起源説、マンガ芸術論；国内外の相違；フランスでの「第9の芸術」） (11-12) アンダーグラウンド・コミックス、オールタナティブ・コミック、グラフィック・ノベル：社会的批評力から見た北米における主流と個性派 (13-14) マンガの歴史、マンガと「歴史」</p>									
【履修要件】									
隔週の講義であるため、全7回となる。									
【成績評価の方法・基準】									
<p>（講義の70%への）出席・積極的参加 40%、 小レポート 60%； 課題 選択肢1：2012年に初めて単行本化されたマンガ作品を推薦する。その際、「サブカルチャー」に限らない読者層を想定して「社会」の観点を重視する。さらに、参考文献を活かす。 選択肢2:京都国際マンガミュージアムを「マンガと社会」の観点から分析する。 2000字程度、横書き、活字、A4（脚注、引用元の出典、作品の書誌的データの表記、論証の明確な根拠などにご注意） 提出：最終講義時；教室にて、直接ベルント宛</p>									
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----									

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

表智之他共著 『マンガとミュージアムが会うとき』(臨川書店、2009)

大城房美他編 『マンガは越境する』(世界思想社、2010)

J・ベルント編 『世界のコミックスとコミックスの世界/Comics Worlds and the World of Comics』(和英2巻)』(国際マンガ研究センター、2010)(<http://imrc.jp/lecture/2009/12/comics-in-the-world.html>)

J・ベルント編 『『美術フォーラム21』24号、特集「漫画とマンガ、そして芸術」』(醍醐書房、2011)

オーレ・フラーム 『「不気味な記号 コミックのパロディ的表現特性について」、『東北ドイツ文学研究』、第48号、2004年、pp.143-160』

T・グルンステン 『マンガのシステム：コマはなぜ物語になるのか』(青土社、2009)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワーを開かないが、メールの形で対応する予定。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	立教大学 大学院21世紀社会デザイン研究科 教授 内山 節				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	ローカリズムと共同体								
【授業の概要・目的】									
コミュニティ、共同体とは何かを多様な視点から考察し、これからの社会のかたちとローカリズムの可能性を探る									
【授業計画と内容】									
1. コミュニティのとらえ方について 2. 日本と欧米の伝統的な社会観について 3. 個人と共同性の関係について 4. 多層的共同体について 5. 日本の近代化と共同体 6. 資本制市場経済、国民国家、市民社会 7. 風土論について 8. 主体と関係 9. 存在とき何か 10. 社会デザインとは何か									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
最終日の授業時間内にレポートを執筆し、提出する。評価はレポート100パーセント。評価基準は、自分の意見で書かれているか、それにどの程度の説得力があるか、です。									
【教科書】									
内山 節 『『ローカリズム原論』』(農文協)(2012年2月末刊行予定) 参考文献として、内山 節著 『共同体の基礎理論』(農文協)									
【参考書等】									
(参考書) 授業は講義と討論でおこないます									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	同志社大学 社会学部 教授 立木 茂雄				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	災害社会学								
【授業の概要・目的】									
<p>災害は理学や工学の研究対象と思われがちである。しかしながら地震や津波，あるいは洪水・土砂の崩落などの自然現象に対して社会の防災力が万全に対応できれば被害は発生しない。言い換えるなら，被害の発生を抑止するための予防的な備え，被害が万一発生してもそれを最小限にとどめるための事前の備え，それにも関わらず災害が発生した場合の効果的な緊急対応，そして被害が拡大した後に社会を復元させていくための努力，といった社会の側の対応（防災力）いかにによって災害の規模は大きく左右されるのである。つまり，災害因は理学・工学的現象であるのに対し，災害は社会的現象として考えることができる。災害が社会的現象であるならば，社会の側の対応によってその被害を合理的に制御することもできる。災害による生命や財産の被害を軽減するために社会学者はどのような問題に取り組んでいるのかについて、東日本大震災における新たな知見を交えて講じる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>学生が，社会現象としての災害を理解し，災害による被害を軽減するために求められる知識や技能を習得し，それらを実践できる態度を身につけられるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.災害とは何か：これまでの災害研究を俯瞰し社会現象としての災害理解の系譜を理解する。 2.リスク社会，災害因，災害脆弱性について知る 3.災害過程を知る（1）：発災から復旧期までの社会の動きを学ぶ 4.災害過程を知る（2）：復興期における社会の動きを学ぶ 5.災害と組織（1）：災害対応組織論（DRCモデル）について学ぶ 6.災害と組織（2）：災害ボランティア組織・活動の諸相について学ぶ 7.災害と組織（3）：行政とボランティア・NPO組織との協働について学ぶ 8.災害と組織（4）：防災マネジメントサイクルと緊急対応組織について学ぶ 9.災害と人間行動（1）：災害ストレス・トラウマについて学ぶ 10.災害と人間行動（2）：災害と家族について学ぶ 11.災害と人間行動（3）：災害スキーマと被害抑止・軽減行動の関係について学ぶ 12.災害とコミュニティ（1）：生活再建の諸課題を学ぶ 13.災害とコミュニティ（2）：災害復興におけるソーシャルキャピタルの重要性について学ぶ 14.災害とコミュニティ（3）：災害時要援護者問題とその解決策について学ぶ 15.全体のまとめ 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>授業について毎回フィードバックシートを提出する。 平常点、中間・期末試験によって評価する。</p>									
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----									

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

課題文献を読み、まとめる。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	非常勤講師 Koikari Mire 非常勤講師 Lan Pei-Chia				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3,4 不定期	授業形態	特殊講義
題目	Reconstruction of the Intimate and Public Spheres								
【授業の概要・目的】									
この講義は、2人の海外からの招聘教員による英語のリレー講義です。「親密圏と公共圏の再編成」に関する理論的実証的な検討を各国の事例をもとに行います。									
【授業計画と内容】									
Mile Koikari(University of Hawaii, Associate Professor) 【Title】 Rethinking Nation,Culture and Domesticity in Asia and the Pacific 【Description of Lecture (strictly within 40 words)】 Lectures will explore historical, cultural and geographical dimensions of domesticity in order to deepen our understandings of the public vs. private spheres. Taking Japan as a starting point, lectures will explore transnational dynamics of domesticity in the Asia-Pacific region more generally. Pei-Chia Lan (National Taiwan Universtiy・Professor) 【Title】 Parenthood and Childhood in the Context of Globalization 【Description of Lecture】 This lecture series will discuss three major topics in the domains of parenthood and childhood to highlight the changing family dynamics under the impacts of globalization, immigration and transnationalism. We will use important Western literature to compare with the Asian experience; I will discuss my research findings based on the case of Taiwan and class participants are encouraged to compare with the situations in Japan.									
【履修要件】									
英語による授業。									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
日程、詳細については適宜掲示します。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	非常勤講師 Korhonen Ari Pekka 南京大学 社会学院 准教授 Yang Der-Ruey				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3,4 不定期	授業形態	特殊講義
題目	Reconstruction of the Intimate and Public Spheres								
【授業の概要・目的】									
この講義は、2人の海外からの招聘教員による英語のリレー講義です。「親密圏と公共圏の再編成」に関する理論的実証的な検討を各国の事例をもとに行います。									
【授業計画と内容】									
Ari Pekka Korhonen (University of Jyväskylä ・ Professor) 【 Title 】 The Concept of Asia 【 Description of Lecture 】 History of the concept of Asia during the past 2500 years from classical Greek to contemporary East Asian conceptions, from the point of view of geopolitics, name theory and narrative theory. Der-Ruey YANG (Nanjing University ・ Associate Professor) 【 Title 】 Re-Configuring Public and Intimate Space via Religion: Four Cases from Rural China 【 Description of Lecture 】 This lecture aims to illustrate how humble villagers may strive to reconfigure public and intimate space by means of folk religions in against to the State ' s authority. It ' s based on the fieldworks of the lecturer during the past three years.									
【履修要件】									
英語による授業。									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
日程、詳細については、適宜掲示します。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 公雄				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	GCOE提供科目 親密圏と公共圏の再編成								
【授業の概要・目的】									
この講義は、リレー講義です。親密圏と公共圏の変容に関する理論的実証的な検討をそれぞれゲストスピーカーが最新の研究成果をもとに行います。									
【授業計画と内容】									
1回目 オリエンテーション（伊藤公雄） 各回の内容の紹介とともに授業の進め方をガイダンスする。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業内で配布します。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 公雄				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	GCOE提供科目 親密圏と公共圏の再編成								
[授業の概要・目的]									
この講義は、リレー講義です。「親密圏と公共圏の再編成」に関する理論的実証的な検討をそれぞれゲストスピーカーが最新の研究成果をもとに行います。									
[授業計画と内容]									
1回目 オリエンテーション(伊藤公雄) 各回の内容の紹介とともに授業の進め方をガイダンスする。									
[履修要件]									
とくになし									
[成績評価の方法・基準]									
レポート									
[教科書]									
授業中に指示する									
[参考書等]									
(参考書) 授業内で配布します。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 小林 致広				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	生物・文化資源利用の地理学								
【授業の概要・目的】									
<p>生物多様性と文化の多様性は相関関係にあるといわれることがある。 新自由主義的なグローバル化はそのような多様性を破壊するともいわれる。 先進国は自然を資源として微分化し、略奪的に開発しているのに対し、先住民族は自然と調和的に生活しているという神話、あるいは言説がある。 この授業では、「自然」と共生しながら生きてきたとされる先住民族の資源利用の在り方を事例にして、従来の枠組みとは違った資源利用の地理学が構築できるか、考えてみたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のテーマについて、4～5回程度、取り上げる予定です</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．自然・文化の多様性 2．自然・文化の資源化 3．自然と調和した？生活様式 4．環境保全、保護、利用 5．掠奪的な自然開発 6．代替的な自然利用 									
【履修要件】									
特にありません									
【成績評価の方法・基準】									
<p>基本的には、授業における平常点（80%）を尊重します。適宜課すかもしれないレポートや発表報告（20%）も考慮する。</p>									
【教科書】									
特になし。適宜教材をコピーして配布します。									
【参考書等】									
<p>（参考書） 特になし。</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィス・アワー：火曜日12時～12時30分、水曜日11時30分～12時30分</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 客員准教授 福間 良明				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	後期	曜時限	水4,5	授業形態	特殊講義
題目	「戦争の記憶」のメディア史								
【授業の概要・目的】									
戦後日本のメディアにおける「戦争の語り」を検証しながら、戦後の戦争観の変容プロセスやその社会背景について考察する。授業では、研究紹介や戦後思想を適宜扱うほか、メディア（映画・ドラマ・ドキュメンタリー・新聞・戦記・マンガ・観光・博覧会・博物館等）の分析・批評に重点を置く。									
【授業計画と内容】									
授業の形式は、受講者による発表とディスカッションを主とする予定である。 授業計画は以下の通り（ただし、履修者の数や要望も踏まえながら、一部変更の可能性もある）。 第1回：ガイダンス，文献・映像資料の紹介 第2回：事例紹介と分析視角の紹介（映像資料等を用いながら） 第3～5回：「記憶のメディア学」に関連する文献紹介の批評（輪読） 第6～14回：メディア資料（映画・新聞・雑誌等々）の分析・批評									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表と期末レポートで評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 野上元・福間良明編 『戦争社会学ブックガイド』（創元社）（2012年3月刊行予定） 福間良明 『焦土の記憶：沖縄・広島・長崎に映る戦後』（新曜社）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
・ 関連する文献や映画等については、初回授業時に紹介するので、自学自習に努めること。 ・ 特定の時間帯にオフィスアワーを設けることはしませんが、申し出があれば、授業後の時間に質問・相談等々に対応します。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	国立民族学博物館 池谷 和信 民族社会研究部 教授				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	後期	曜時限	木1,2	授業形態	特殊講義
題目	アフリカ地域と地球								
【授業の概要・目的】									
<p>授業では、アフリカ地域を自然、社会、文化などから総合的に捉えるとともに、アフリカ地域の研究をとおりて地球の歴史や地球環境問題の根源について考えることを目的とする。地理学は、フンボルトやダイヤモンドの研究にみられるように、地球全体をくまなく対象にした学問である。ここでは、アフリカを中心とした世界のフィールドワークの経験を通して、地域と地球とのかかわり方、21世紀における「地球学」への地理学からの貢献のあり方について言及する。この授業から、地球的視野と特定地域の理解の仕方を同時に習得することができるであろう。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業は、自らが撮影に関与した映像や写真を使用しておこない、以下の3部から構成される。毎週、1課題あたりの授業をする予定である。</p> <p>第1部 どうして、アフリカ地域研究が必要であるか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地球的な視野からの位置づけ：地理・歴史・社会 2) 「地球学」の系譜 3) 野外科学の方法 <p>第2部 アフリカでのフィールドワーク</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ドレミとは異なる音文化 2) 多様なビーズ細工からみた社会 3) スイカの来た道：アフリカから日本へ 4) アフリカの動物保護区と社会 5) アフリカの岩絵と動物観 6) ソマリ社会とディアスポラ 7) アフリカの都市：ケープタウンとキンシャサ 8) アフリカの地域的多様性 <p>第3部 アフリカから世界へ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 狩猟採集民からみた人類環境史 2) 自然保護思想のグローバル化と地域社会 3) 先住民運動の展開と国家 4) 途上国と先進国とのかかわり方：東日本大震災とアフリカ <p>以上のような授業を通して、特定の地域の理解を深め、地域間比較の研究を併用する方法を習得することから地球的視野でものごとを考えることができるようになるであろう。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年度末のレポート。									
【教科書】									
授業中に指示する									
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----									

社会学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)		担当者氏名	慶應義塾大学経済学部 准教授 ノッター デビッド					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	教育社会学特論Ⅰ								
【授業の概要・目的】									
<p>「近代家族」と呼ばれる家族形態とはいかなるものなのか、そして、それはいわゆる「伝統家族」とどのように異なるのか。さらには、欧米の事情と比較した場合、日本の「近代家族」の特性として浮かび上がるのはいかなるものなのか。この授業ではこれらの問題をふまえながら、近代という時代における家族の特徴とあり方に対する理解を深めることを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の課題について授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近代家族の誕生 2. 近代における子ども期の特性と子どもイメージの歴史的変容 3. 近代家族と「青年期」というライフ・ステージ 4. 近代家族とジェンダーおよび性別役割分業の制度化 5. 配偶者選択・コートシップ 6. 結婚・離婚 7. ロマンティック・ラブ・イデオロギー 8. 近代家族と親密性およびセクシュアリティ 9. 近代家族の崩壊および「脱近代」という時代がもたらす家族・結婚・親密性の新たなあり方 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、討論への積極的な参加、小テスト、出席状況により評価する。									
【教科書】									
ノッター デビッド 『純潔の近代：近代家族と親密性の比較社会学』（慶應義塾大学出版会） ISBN:9784766414233									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業前の予習として、教科書を読んでくること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(卒論演習) Sociology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 公雄				
					文学研究科 教授 松田 素二				
					文学研究科 教授 落合 恵美子				
					文学研究科 准教授 田中 紀行				
					文学研究科 准教授 太郎丸 博				
配当学年	4回生のみ	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	卒論演習
題目	卒業論文演習								
【授業の概要・目的】									
本年度に社会学専修に卒業論文を提出する予定の学生を対象にして、卒業論文作成に関する指導をおこなう。									
【授業計画と内容】									
卒業論文提出予定者は、前期においては、専修専任教員全員で実施し、テーマの絞り込みのための報告を行う。後期においては、担当教員に分かれ、卒論の要旨や分析結果、進捗状況などを報告する									
【履修要件】									
本年度に社会学専修に卒業論文を提出する予定のもの									
【成績評価の方法・基準】									
前期1回の報告と9月初旬に序論 / 要旨の提出。後期数回の報告および出席により成績評価をおこなう。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(演習Ⅰ) Sociology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 田中 紀行				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	演習
題目	社会学の基礎理論								
【授業の概要・目的】									
<p>社会学理論は、社会調査法と並んで社会学を学習するうえで最も基本的な科目である。社会現象を説明/解釈するためには基本的な分析枠組の習得が欠かせないからである。また、社会学の文献を読むためには基礎的な社会学用語に関する知識を一通り身につけておく必要がある。こうした観点から、この授業では、英文テキストの精読を通して代表的な古典社会学理論および現代社会学理論を体系的・総合的に学習するとともに、社会学の英語文献を読むための基本的スキルを習得することを目標とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>英文テキストを毎回十数ページ程度ずつ読み進める予定である。毎回報告者をあらかじめ決めておき、報告者の作成したテキストの要約を検討しながら内容について討論する。報告者は正確な要約を作成するのみならず、関連する文献をできるだけ読んでおき、テキストに登場する用語、人名等について必要に応じて注釈することが求められる。受講者には前期・後期各1回ずつ報告を担当してもらう。</p> <p>前期はマルクスからパーソンズまでの古典理論、後期はパーソンズ以降の理論を主として扱う予定である。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点およびレポートによる（出席率25%、授業での報告25%、レポート50%）。									
【教科書】									
Austin Harrington (ed.) 『Modern Social Theory: An Introduction』（Oxford University Press）ISBN: 0199255709									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>新睦人ほか 『社会学のあゆみ』（有斐閣）ISBN:4-641-08857-8</p> <p>新睦人（編） 『新しい社会学のあゆみ』（有斐閣）ISBN:4-641-12302-0</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>社会学専修3回生の必修科目。受講者には定期的出席のみならず予習と授業中の積極的発言が求められる。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	社会学(演習II) Sociology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 松田 素二				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	演習
題目	社会学的想像力と応用力								
【授業の概要・目的】									
この授業の目的は、対象を「社会学的に考察する」ことの意味と方法を身につけることにある。そのため、受講生の個人的関心にしたがって、テーマを選択し、そのテーマを「社会学する」ことを共同作業でおこなう。									
【授業計画と内容】									
授業は、前期は、受講生の自由報告を中心に行い、後期は、統一テーマを定めて受講生がそれについての報告と討論を行う形式で実施する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
評価は、報告と討論への参加によっておこなう。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(演習II) Sociology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 田窪 行則				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
題目	韓国語韓国社会実地研修								
【授業の概要・目的】									
ソウル大学において、ソウル大学言語教育研究所（LEI）および国際研究大学院（GSIS）の協力を得て実施する。韓国語の習得および韓国の社会と文化の概要を学ぶことを目的とする。授業は原則として英語により実施する。									
【授業計画と内容】									
<p>(1) 文学部で渡航前のオリエンテーション（昨年度参加者の体験報告など）</p> <p>(2) 8月6～24日 ソウル大学言語教育研究所（LEI）において、3週間、週5日間、毎日午前9時から午後1時まで（1日あたり4時間）、韓国語の授業を受講。クラス分けテストにより、各人の能力に応じたクラスに所属。初心者も可。詳細は以下を参照。 http://lei.snu.ac.kr/site/jp/klec/3Week-Intensive/course.jsp 国際研究大学院（GSIS）において、韓国の社会と文化についての講義を受講（12時間）。および各人テーマを決めてソウル市内においてフィールドワークを行う（約18時間）。</p> <p>(3) 帰国後、韓国語能力試験と韓国社会研究の成果発表を実施する。</p>									
【履修要件】									
履修志望者はTOEFL・IELTS等による語学能力証明書を提出すること。英語での受講に十分な学力をそなえていることが求められる。その他費用負担等、詳細については1回目のガイダンスで説明する。									
【成績評価の方法・基準】									
ソウル大学言語教育研究所（LEI）が発行する修了証および成績証明書と、帰国後に実施する韓国語能力試験および研究成果発表の結果を総合して担当教員が評価し、単位を認定する。									
【教科書】									
ソウル大学で購入する。									
【参考書等】									
<p>（参考書） ソウル大学で購入する。</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(講読) Sociology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 安里 和晃				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	講読
題目	親密圏と公共圏の再編成								
【授業の概要・目的】									
ケアとグローバル化に関する論文の読解を通して、親密圏と公共圏の再編成について理解を深め、現代社会の喫緊の課題について検討する。また英語の発音・プレゼンテーション・文章力といった基礎的な能力を身につけるとともに、最終的には個人の関心に沿ってパワーポイントでプレゼンテーションを行ってもらう。									
【授業計画と内容】									
ケアとグローバル化に関する論文を読む。読解を通じてケアレジームや人の国際移動、高齢化・少子化・人口減少といった人口構成の変化、非正規化・格差など現代の諸問題についての理解を深める。前期は音読を通して英語の発音を確認し、発表やディスカッションを行う。個々の関心に従い、パワーポイントのプレゼンテーションを課題とし、国際ワークショップで発表できるようになることを目標とする。後期は読解を中心としつつアジアの英字新聞も取り上げ要約してもらうと同時に、特定の事象が異なる新聞でどのように報じられているのかについても検討したい。積極的な参加を期待します。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席、発表、提出物、レポートなどを勘案して評価する。									
【教科書】									
適宜論文・記事を授業で配布します。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業前後の時間を利用するか、メールを用いること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(実習) Sociology (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 松田 素二						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	実習
題目	フィールドワーク調査の実際								
【授業の概要・目的】									
<p>本授業は、フィールドワークの手法を用いて、社会調査を企画・実行することにある。調査地は、本研究室が13年間地域調査を継続している、三重県南部東紀州地域である。熊野灘沿いの漁村、吉野山系の山村に独自の文化と社会組織を育み、今日の過疎化・高齢化のなかで新たな実験を試みているこの地域の人々の実践に学びながら、地域社会に対してどのような貢献が行えるのかを問う授業でもある。とくに今年度は、東海東南海、南海地震による甚大な被害が想定される地域が、それに対処するためにどのように過去の災害を記憶し将来にそなえる知恵を作りだしているかについて考察する</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第一期（1回～4回） フィールドワークの手法を学ぶ 第二期（5～8回） 日本の地域社会学の枠組を学ぶ 予備調査を行う 第三期（9～12回） 調査地の概要と研究史を整理する 第四期（13～16回） 現地調査のデザインを行う 本調査を実施する 第五期（17～20回） 現地調査データの整理を行う 第六期（21～24回） 比較すべき他地域の現況について調査する 第七期（25～30回） 報告書を作成し現地に成果を還元する</p>									
【履修要件】									
9月下旬のフィールドワークに参加できること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と報告書によって評価します。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(実習) Sociology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 太郎丸 博				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	実習
題目	社会調査の実際								
[授業の概要・目的]									
社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひととおり体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。									
[授業計画と内容]									
1課題あたり1~2週の授業をする予定									
前期									
1. データの入力・読み込み									
2. 単純集計表、ヒストグラムの作成									
3. 変数の操作									
4. クロス集計表、帯グラフの作成									
5. 散布図、箱ヒゲ図の作成									
6. データセットの分割・結合									
7. 独立性の検定									
8. 平均値の差の検定									
9. 多重クロス表分析									
10. 回帰分析									
後期									
1. 調査の企画と仮説構成									
2. 調査項目の設定・質問文・調査票の作成									
3. プリテストと調査票の修正									
4. 対象者・地域の選定とサンプリング									
5. 調査の実施(調査票の配布・回収、面接)									
6. エディティング									
7. 集計、分析									
8. データの視覚化									
9. 仮説検証									
10. 報告書の作成									
[履修要件]									
社会調査士科目A~Eをあわせて受講すること。この科目は、社会調査士科目A~Eの知識を基礎として、それらを総合・実践する科目なので、これらの科目もあわせて受講すること									
[成績評価の方法・基準]									
出席(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)									
[教科書]									
授業中に指示する									
----- 社会学(実習)(2)へ続く -----									

社会学(実習)(2)

[参考書等]

(参考書)

盛山 和夫 『社会調査法入門』 (有斐閣) ISBN:978-4641183056 (社会調査のテキストとしては珍しく読み物としてもおもしろい)

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』 (法律文化社) ISBN:978-4589032577 (最近の調査環境をふまえた新しいタイプのテキスト)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 客員教授 鷓飼 孝造				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	資本主義の社会学								

[授業の概要・目的]

2011年に世界各地に広がったArab SpringやOccupy Wall Streetの抗議行動は、グローバル化した資本主義がもたらす不平等や不公正を告発するものであったが、同時に資本主義の原点回帰を訴えるTea Partyなど草の根保守主義運動も根強く続いている。この演習では、あらためて各時代の社会運動に注目しながら、特に20世紀におけるアメリカ資本主義の変容(爛熟)に、社会学がどのように取り組んだかを検討する。

前半は、社会主義の台頭に重大な関心を示したデュルケム、ジンメル、ヴェーバーら近代社会学の創始者の議論をまず概観する。20世紀に入って資本主義の中心はヨーロッパからアメリカに移るが、ユダヤ系を中心とするニューヨーク知識人が社会主義の実現を模索してNew Deal政策やGreat Society政策に積極的に関わった。当時の社会学者の研究にそれがどのような影響を与えたのかを次に分析する。

20世紀後半の公民権運動やベトナム反戦運動を受けて、社会学の焦点は階級より資本主義における多文化主義やグローバリゼーションの問題に移り、新保守主義や新自由主義からの反批判も強まった。これに対して新しい世代の歴史社会学者は国家と資本主義の関係を問い直し、あるいは階層に異質性の次元を取り込む社会構造論やネットワーク論が構想された。演習の後半ではこれらアメリカ社会学の展開について考察する。

演習を通じて資本主義への社会学的視点について基本的かつ包括的な理解を深めるとともに、日本の事例への適用を試みるなど、各自の比較社会学的研究への刺激となることも目標とする。

[授業計画と内容]

下記の各テーマについて調整しながら1～2週ずつを目処に進める。

I 資本主義の社会学を考える

- 1) 出発点としての『共産党宣言』
- 2) デュルケムとサンシモン主義
- 3) ジンメルの社会圏と『貨幣の哲学』
- 4) ヴェーバー『社会主義』から『根本概念』へ

II ニューヨーク知識人の資本主義との葛藤

- 5) アメリカにおける社会主義の模索
- 6) 冷戦下の社会科学の脱イデオロギー化
- 7) 大衆社会および多文化主義との対立
- 8) 新保守主義の台頭と「民主主義の輸出」

III 歴史社会学のグローバリゼーション

- 9) 近代化の比較社会学
- 10) 民主化と国家化の逆説
- 11) 第三世界研究から世界システム論へ
- 12) 1968年革命の比較社会学

IV 社会構造研究とネットワーク理論

----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----

社会学(特殊講義)(2)

- 13) 近代経済学と機能主義社会学
- 14) 不平等と異質性の構造
- 15) 情報資本主義とネットワーク理論
- 16) まとめ：「2011年」は歴史の終わりか始まりか

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・基準】

- ・前期と後期にレポートを1回ずつ提出すること。(各50%)
- ・レポートは、授業中に言及した文献の中から各自が選択し(複数でも可)、その内容の要約60%と自分の考察40%の割合で作成することを基本とする。
- ・レポートの分量と締切は授業中に指示するが、教員に直接手渡すこと。
- ・提出されたレポートには評価とコメントをつけて返却する。また早めに提出されたものには再提出を認める。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

授業では各項目の詳しい内容まですべて紹介できないので、各自が興味のある文献をできるだけ直接読んでほしい。また、読んだ内容をレポート(小論文)にまとめる方法も身につけていただきたい。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

地理学専修

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 小林 致広				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	生物・文化資源利用の地理学								
【授業の概要・目的】									
<p>生物多様性と文化の多様性は相関関係にあるといわれることがある。 新自由主義的なグローバル化はそのような多様性を破壊するともいわれる。 先進国は自然を資源として微分化し、略奪的に開発しているのに対し、先住民族は自然と調和的に生活しているという神話、あるいは言説がある。 この授業では、「自然」と共生しながら生きてきたとされる先住民族の資源利用の在り方を事例にして、従来の枠組みとは違った資源利用の地理学が構築できるか、考えてみたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のテーマについて、4～5回程度取り上げる予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．自然・文化の多様性 2．自然・文化の資源化 3．自然と調和した？生活様式 4．環境保全、保護、利用 5．掠奪的な自然開発 6．代替的な自然利用 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>基本的には、授業における平常点（80％）を尊重します。適宜、課すかもしれないレポートや発表報告（20％）も考慮する。</p>									
【教科書】									
特になし。適宜教材をコピーして配布します。									
【参考書等】									
（参考書） 特になし。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィス・アワー：火曜日12時～12時30分、水曜日11時30分～12時30分</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 石川 義孝				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	特殊講義
題目	現代日本における外国人定住化の検討								
【授業の概要・目的】									
<p>本授業では、日本在住の外国人住民の定住化に焦点をあて、関連する各種のトピックについての現状についての講述を踏まえ、外国人関連の諸施策について検討することを目的とする。2005年から日本の総人口の減少が始まったため、この問題は今世紀の日本にとって、きわめて重要な政策課題でもある。公的統計に基づいて、関連する動向について概観した後、諸外国や日本政府、さらに地方自治体によって導入されている様々な施策を紹介し、その意義と問題点について、地理学的視角を念頭に置きつつ論じる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の各トピックあたり、数週の授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国人定住化の動向 2. 諸外国における事例 3. 日本政府による施策 4. 地方自治体による施策 5. 受講生による発表 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（30％）、発表(30%)、レポート（40％）による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 米家 泰作				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	地理的「知」の歴史地理学								
【授業の概要・目的】									
<p>近世～近代の日本とその周辺を対象として、地理的な表象や言説が果たしてきた政治的・経済的・社会的な役割を、批判的に検討する講義である。</p> <p>近年の歴史・文化地理学における議論を踏まえて、地図・地誌・土地調査・旅行記・史蹟景観といった地理的「知」の諸相と、その受容や理解の具体例を分析する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のようなテーマで、それぞれ1～3週の授業をする予定である。</p> <p>I. 地理的「知」の歴史地理：(1)はじめに、(2)オリエンタリズム論と地理学、(3)近代国民国家と地理学、(4)帝国主義と地理学</p> <p>II. 近世日本の地理的「知」：(1)地図と探険にみる領土の表象、(2)検地と国土空間の計量化、(3)地方行政と村の地理、(4)地誌という文化統治、(5)史蹟空間の創出と経験、(6)旅の経験と紀行文、(7)村と地域の自画像</p> <p>III. 近代日本の植民地と地理的「知」：(1)「近代」概念の空間的含意、(2)近代日本の朝鮮像、(3)植民地の測量と可視化、(4)近代朝鮮と植民地的環境論、(5)近代朝鮮と「知的征服」の諸相、(6)史蹟とコロニアルツーリズム</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期・後期それぞれにおいて小論文試験を行う。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>B・グレアム, C・ナッシュ 『モダニティの歴史地理』(古今書院) ISBN:4772214704</p> <p>米家泰作 『中・近世山村の景観と構造』(校倉書房) ISBN:4751733508</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)			担当者氏名	理学研究科 准教授 堤 浩之				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	地形学								
【授業の概要・目的】									
<p>地形学は、地形の成因・発達史などを探求する学問であり、環境問題・自然災害など人間社会に関係の深い課題の解決に重要な役割を演じている。本講義では、地形学の基礎的な概念・用語を理解し、野外観察や室内作業を通じて地形を「読む」能力の習得を目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>地形の形成要因ごとに、地形の分類・構成物質・形成過程について解説する。講義は、地形図・空中写真・現地写真・地形学図などの具体例を示しながら進める。講義に関連して、地形図判読などの課題を不定期に課す予定である。以下のような内容について、それぞれ3～4回ずつ講義をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第四紀の地形形成環境（地形形成作用，第四紀気候変動，年代測定法） 2. 湿潤温帯の地形（風化作用，マスマーブメント，河川地形，海岸地形） 3. 様々な気候帯の地形（サンゴ礁地形，氷河・周氷河地形，風成地形） 4. 内的営力の作る地形（海底地形，断層・褶曲地形，火山地形） 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
試験および不定期に課すレポートに基づき評価する									
【教科書】									
<p>使用しない 必要な資料は授業中に配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 貝塚爽平ほか『写真と図でみる地形学』（東京大学出版会） 鈴木隆介『建設技術者のための地形図読図入門1～4』（古今書院） 貝塚爽平『発達史地形学』（東京大学出版会） 米倉伸之ほか『日本の地形1 総説』（東京大学出版会） 松倉公憲『地形変化の科学 - 風化と侵食 - 』（朝倉書店）</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワーは特に定めないが、授業終了後に質問を受け付ける。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 小島 泰雄				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	中国における生活空間の展開								
【授業の概要・目的】									
<p>中国における生活空間の展開を考えることを通して、地域地理学的アプローチについての理解を深めることをめざす。</p> <p>前期は、中国農村における空間と社会が、どのような関係を形成してきたのかをめぐって、江蘇、河南、四川などで行ってきたフィールド調査に基づいて、実態的に検討を加えてゆく。</p> <p>後期は、現代中国における都市と農村の関係について、截然と分けられてきた歴史とその変容について、具体的に検討してゆく。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のテーマをめぐって授業を行う。</p> <p>一つのテーマについて、2 - 3週の授業をする予定である。</p> <p>前期：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．生活空間論 2．中国農村における村落 3．定期市と市場圏 4．通婚圏 5．集落形態の多様性 <p>後期：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．都市と農村 2．戸籍制度 3．都市内部構造 4．農村変革 5．郷鎮企業と出稼ぎ 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主に前期と後期の2回の期末レポートにより評価を行い、授業への参加度を加味する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)			担当者氏名	地球環境学堂 教授 小方 登				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	地理情報・衛星画像の処理・分析の基礎								
【授業の概要・目的】									
地理情報をコンピュータで処理・表示するためのモデル化についてその原理を講じ，地理情報処理の実例として衛星画像の処理・分析を主に取り上げる。コンピュータを利用した実習も含む。									
【授業計画と内容】									
1) 地理情報のモデル化 地表の現実ないし地図の内容をコンピュータで扱うためのモデルとして，ベクトルモデルとラスタモデルの2つを取り上げ，それぞれの特質について説明する。 2) ラスタモデルに基づく地理データの例として，衛星画像を取り上げ，リモートセンシングの原理と応用について説明する。 3) 衛星による地球観測 以前からある地球観測衛星の光学センサー，合成開口レーダーについて説明し，さらに近年利用可能になった高解像度衛星の性能について紹介する。 4) 衛星画像の分析と表示 コンピュータを利用して，衛星画像の複数バンドを用いた合成色表示，植生分布の指標化，最尤法に基づく土地被覆分類を実習する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL)									
http://www.hgeo.h.kyoto-u.ac.jp/ogata/ (小方研究室ホームページ)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)		担当者氏名	首都大学東京 大学院都市環境科学研究科 教授 若林 芳樹					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	人間・社会との関わりでみた地理情報科学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
<p>地図をはじめとする地理空間情報のデジタル化にともなって、地理情報システム（GIS）および関連技術はめざましい発達を遂げてきたが、それらの基礎となる地理情報科学(GIScience)では、数理工学的・技術的問題だけでなく、人間や社会との関わりでみた様々な問題が議論されてきた。この授業では、これまで日本のGIS研究ではあまり目が向けられてこなかった、人間や社会との接点で浮上する地理情報科学の諸問題を紹介する。これによって、地理空間情報の分析手法やツールの開発と応用にとどまらないGISの可能性と課題について理解を深めてもらうことを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<ol style="list-style-type: none"> 1．地理空間の概念と地理空間情報の特質 2．地理空間のオントロジー 3．NCGIAのワレニウス・プロジェクトとその成果 4．空間認知とGIS（1）：空間認知モデルとしてのGIS 5．空間認知とGIS（2）：空間的知識の情報源としてのGIS 6．空間認知とGIS（3）：空間認知研究を応用したGISの改善 7．クリティカルGISの問題提起 8．参加型GISの実践 9．質的GISの方法 10．犯罪・監視とGIS 11．GISと空間的思考 12．まとめ 									
【履修要件】									
GISの利用は前提としないが、GISについて基礎的な理解をもっていることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
レポートの成績（80％）および授業内での発言などを含めた平常点（20％）によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>岡部篤行 『空間情報科学の挑戦』（岩波書店）ISBN:4-00-006581-5</p> <p>村越 真・若林芳樹編 『GISと空間認知』（古今書院）ISBN:978-4-7722-4115-1</p> <p>村山祐司・柴崎亮介編 『GISの理論』（朝倉書店）ISBN:978-4-254-16831-0</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)		担当者氏名	名城大学 都市情報学部 准教授 杉浦 真一郎					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	現代日本における高齢者福祉サービスの需給空間と介護保険行財政								
【授業の概要・目的】									
<p>本講義は、人口高齢化の進む現代日本が抱える課題の一つである高齢者福祉サービスを主たる対象として、その需要と供給とが結びつくことで形成される地理的構造を「需給空間」として捉え、制度論的側面を重視しつつ、その構造と変容について考察する。また、2000年代以降の日本における高齢者福祉行政の基本的枠組みとなった介護保険制度をめぐり、その運営枠組みとしての広域行政の問題点について、市町村合併とも比較しながら考察し、さらに、最近の同制度が重視するローカルな事業運営との関わりをみていく。本講義では、高齢者向け介護サービスの制度的概要を理解するだけでなく、サービスの供給と利用に関する検討を通して、大都市/郊外/農村部の差異や距離の制約、地域間の結びつき等の地理的な視点を養うことを大きな目標とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、1課題あたり1～2回の授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者福祉政策とその地理的特質 2. 地域的公正と在宅福祉サービスの地域差 3. 施設福祉サービスの立地展開とその地域差 4. 施設福祉サービスの利用をめぐる理想と現実 5. 介護保険運営の広域化をめぐる問題点：負担と給付の不均衡 6. 平成の大合併と介護保険領域の再編：規模拡大と域内格差 7. 介護保険運営の空間スケール：ローカル化，地域包括ケア 8. まとめ 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験の成績（70％） 平常点(出席状況，授業内での発言等) 評価（30％）									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>杉浦真一郎 『『地域と高齢者福祉 介護サービスの需給空間』（古今書院,2005）</p> <p>神谷浩夫ほか編 『地方行財政の地域的文脈(仮称)』（古今書院,2012）</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)			担当者氏名	大阪教育大学 教育学部 准教授 今里 悟之				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	農村地理学の基礎								
【授業の概要・目的】									
日本農村を対象とした地理学的研究について、広く漁村や山村も含めた形で、これまでの研究史、主な研究テーマ、基礎的文献の批判的な読解方法、調査技法とその諸問題、などについて講義を行い、農村地理学の基礎について理解を深める。集中講義という形式を最大限に生かして、文献の読解演習や野外巡検も適宜取り入れる予定である。									
【授業計画と内容】									
<p>1. 農村地理学の研究史と研究テーマについては、形態論、土地利用研究、資源論、社会空間論、社会-空間弁証法、民俗空間論、過疎・廃村研究、混住化研究などを取り上げる。</p> <p>2. 文献の読解方法については、基礎的事項について教員が解説した後、代表的な論文数編を受講生が分担して読解し、レジュメにまとめて発表したうえで、全員で検討を加える。</p> <p>3. 調査技法については、農業集落カード、地籍図・土地台帳、区有文書、現地調査などについて基礎的事項を解説したうえで、京都市近郊農村にて巡検を行う。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験（講義内容および野外巡検に関するもの）60％，文献読解演習における発表および討論40％									
【教科書】									
プリントおよび資料を適宜配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
講義題目は「基礎」となっているが、あくまで地理学の専門科目であるため、受講者が高校や大学教養基礎で地理学関係科目を履修していない場合があっても、授業の水準を下げる予定はない。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者氏名	奈良女子大学 文学部 准教授 吉田 容子						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	人文地理学におけるジェンダー研究								
【授業の概要・目的】									
1970年代前半、英語圏の人文地理学の領域に「女性」の視点が導入されるようになり、私的空間（家庭）における女性の再生産活動が研究の対象とされるようになった。その後1980年代になると、単なる男女の性差ではないジェンダー関係への着目が、いかに重要か議論されてゆく。こうした議論をつうじて、英語圏を中心に海外の人文地理学研究は、ジェンダーのみならずエイジ、エスニシティ、ディスアビリティ、セクシュアリティなどの多様な差異軸から、空間や場所に埋め込まれた権力、不平等、アイデンティティに焦点を当ててきた。日本の人文地理学においても、1990年代以降ジェンダーへの関心が持たれるようになった。授業では、国内外の人文地理学におけるジェンダー研究の動向、および担当教員が取り組んできた研究を紹介しながら、空間や場所の理解にジェンダーの視点を導入する有効性について理解を深める。									
【授業計画と内容】									
「通年」の授業で、以下の課題について1課題あたり2～3週間の授業を行う予定。 1.ジェンダーの視点は必要なのか 2.海外におけるジェンダー研究の系譜 3.国内の研究動向 4.公共空間における女性へのまなざし 5.建造環境と女性 6.都市/郊外とジェンダー 7.経済のグローバル化と女性労働力 8.観光産業と女性 9.米軍基地周辺遊興街の形成とジェンダー、権力 10.高齢者の「生きられた経験」とジェンダー 11.最小空間としての身体 12.質的調査とジェンダー 13.これからのジェンダー研究に必要な視点とは									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
「通年」2回のレポート課題（70%）、毎回の授業の最後に提出してもらおうリアクションペーパー（30%）から評価する。									
【教科書】									
プリント等適宜配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)			担当者氏名	国立民族学博物館 池谷 和信 民族社会研究部 教授				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	後期	曜時限	木1,2	授業形態	特殊講義
題目	アフリカ地域と地球								
【授業の概要・目的】									
<p>授業では、アフリカ地域を自然、社会、文化などから総合的に捉えるとともに、アフリカ地域の研究をとおり地球の歴史や地球環境問題の根源について考えることを目的とする。地理学は、フンボルトやダイヤモンドの研究にみられるように、地球全体をくまなく対象にした学問である。ここでは、アフリカを中心とした世界のフィールドワークの経験を通して、地域と地球とのかかわり方、21世紀における「地球学」への地理学からの貢献のあり方について言及する。この授業から、地球的視野と特定地域の理解の仕方を同時に習得することができるであろう。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業は、自らが撮影に関与した映像や写真を使用しておこない、以下の3部から構成される。毎週、1課題あたりの授業をする予定である。</p> <p>第1部 どうして、アフリカ地域研究が必要であるか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地球的な視野からの位置づけ：地理・歴史・社会 2) 「地球学」の系譜 3) 野外科学の方法 <p>第2部 アフリカでのフィールドワーク</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ドレミとは異なる音文化 2) 多様なビーズ細工からみた社会 3) スイカの来た道：アフリカから日本へ 4) アフリカの動物保護区と社会 5) アフリカの岩絵と動物観 6) ソマリ社会とディアスポラ 7) アフリカの都市：ケープタウンとキンシャサ 8) アフリカの地域的多様性 <p>第3部 アフリカから世界へ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 狩猟採集民からみた人類環境史 2) 自然保護思想のグローバル化と地域社会 3) 先住民運動の展開と国家 4) 途上国と先進国とのかかわり方：東日本大震災とアフリカ <p>以上のような授業を通して、特定の地域の理解を深め、地域間比較の研究を併用する方法を習得することから地球的視野でものごとを考えることができるようになるであろう。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年度末のレポート。									
【教科書】									
授業中に指示する									
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----									

地理学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)	担当者氏名	独立行政法人森林総合研究所 関西支所森林生態研究グループ主任研究員 大住 克博						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	人との相互関係から理解する森林景観								
【授業の概要・目的】									
日本列島で最も広い地被である森林について、それがどのような仕組みで形成され、景観を構成しているかを、いくつかの事例を通して学ぶ。森林の分布やその構造は、自然環境要因との関連で整理され理解されることが多いが、実際には歴史的過程における人の活動も大きく深い影響を与えている。本講義では、特にこの点に注目し、日本列島における森林と人の相互関係の諸相を考える。内容は生態学・林学・景観生態学・植生史学などにまたがるものとなるが、それらの分野の基礎的な知識もあわせて紹介する。									
【授業計画と内容】									
以下の各テーマについて1-2回程度の授業を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内の森林植生の生態学的な解説 ・ 森林植生に与える人為影響の概観 ・ 種レベルでの人為影響 ・ 群集レベルでの人為影響 ・ 里山の成立と変遷 ・ 西日本における温帯性針葉樹の消長 ・ 人工林と林業 ・ 文化的景観としての森林の理解 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年度末のレポート。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(演習Ⅰ) Geography (Seminars)				担当者氏名	文学研究科 教授 小林 致広			
						文学研究科 教授 石川 義孝			
						文学研究科 教授 杉浦 和子			
						文学研究科 准教授 米家 泰作			
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	演習
題目	地理学研究法								
【授業の概要・目的】									
<p>地理学の様々な領域に関する基礎的研究方法や諸概念、最新の研究課題などについて理解を深めながら、受講生が自らの研究関心を明確にし、卒業研究へと結びつけてゆくことを目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>地理学専修における基礎的研究方法を学ぶことを目的とする。受講生は、最初に人文地理学会編『地理学文献目録』の利用をはじめとする文献検索の方法を習得する。年度初めに決めた発表スケジュールにしたがい、受講生は、以下の要領で発表を行う。各自の関心にしたがって関連する文献を探し、問題意識を持って読み、不明箇所を調べ、内容をまとめてレジュメを作成し、発表する。発表後は、受講生全員で当該の発表内容に関する討議を行う。他に、前期と後期に各1回、担当教員が各自の専門領域でのトピックス紹介を行う場を設け、受講生に多様な分野での問題意識や研究方法、最新の議論に目を向ける機会を提供する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
演習への参加と発表に基づく平常点で評価する									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(演習II) Geography (Seminars)				担当者氏名	文学研究科 教授 小林 致広 文学研究科 教授 石川 義孝 文学研究科 教授 杉浦 和子 文学研究科 准教授 米家 泰作			
配当学年	4回生のみ	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	演習
題目	4回生演習								
【授業の概要・目的】									
受講生それぞれが遂行する卒業研究のプロセス（テーマ設定、既往研究のレビュー、史資料収集、調査・分析、考察と意義付け、執筆という一連の過程）に沿って報告を行い、互いに議論を重ねながら研究を深め、卒業論文の完成を目指す。									
【授業計画と内容】									
4月から夏休み前までに、受講生は、各自の関心にしたがってテーマを設定し、関連する既往文献を読み、調査・分析方法の検討をしたり、適切な調査地や史資料を吟味する。その後、現地調査や史資料収集を実施する。後期には、分析を行い、結果を図表にまとめ、論文の章節構成を練り、執筆する。受講生は、こうした卒業論文の完成に至る階階ごとに、年間を通じて数回の発表で研究の進捗状況を報告し、批判や助言を得る。前期・後期を通じて、3回程度は合同発表会とし、3回生も参加し、卒論作成のプロセスを学ぶ。受講生には、討議で出されたコメントを十分活かして、卒論作成にあたることを求められる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
演習への参加と発表に基づく平常点で評価する									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(講読) Geography (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 小林 致広 文学研究科 教授 石川 義孝				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	講読
題目	英語地理書講読								
【授業の概要・目的】									
世界における地理学研究のフロンティアの動向を知るために、英語文献を熟読することが重要である。本授業では、国内外を代表する地理学雑誌に掲載された英語論文を取り上げ、講読する。									
【授業計画と内容】									
以下の英語論文などを講読する。前期は石川、後期は小林担当。									
1 . Hanibuchi. T., et al(2011): Neighborhood environment and body mass index among Japanese older adults. International Journal of Health Geographies, 10.									
2 . Black, R., et al.(2011): Migration and climate change, Environment and Planning A.43:431-450.									
3 . Andrew Herod(2011):What does the 2022 Japanese tsunami tell us about the nature of the global economy? Social and Cultural Geography,12(8)829-837.									
4 . Mary Finley Brook(2007): Green Neoliberal Space: The Mesoamerican Biological Corridor, Journal of Latin American Geography,6(1):101-124.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（100%）による。									
【教科書】									
授業中に講読するテキストは配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
受講生は、事前に綿密な予習をして授業に臨むこと。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(講読) Geography (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 杉浦 和子				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月1	授業形態	講読
題目	ドイツ地理書講読								
【授業の概要・目的】									
ドイツ語による地理学のテキストの読解力を養うことと合わせて、記載内容に関連したさまざまなドイツ語資料を調査し、参照しながら、テキスト内容の理解を深める手法を身につけることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
19世紀後半、近代地理学成立期頃の東アジア地誌・旅行記をテキストとする。今年度は、昨年度に引き続き、以下のテキストを取り上げるが、これに関連する新聞、雑誌、単行本、統計書、手稿、手紙など、できるだけ多様なタイプの文献を取り上げる。テキストおよび関連資料の読解を通して、近代期の東アジアの諸状況に関する理解を深める。 Kreitner, G.: Im fernen Osten-Reisen des Grafen Bela Szechenyi in Indien, Japan, China, Tibet und Birma in den Jaren 1877-1880, Wien, 1881.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席および授業への参加態度）および課題提出をもとに、総合的に評価する。									
【教科書】									
授業時に配布する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(講読) Geography (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 小山 哲				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水1	授業形態	講読
題目	仏書講読								
【授業の概要・目的】									
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、ヨーロッパ中・東部の近・現代史にかんする理解を深めることを目標とする。									
【授業計画と内容】									
<p>テキストとしては、1990年以降の国際状況の変化をふまえて新しい角度から東中欧地域の歴史を通観する N. Aleksiu et al., Histoire de l'Europe du Centre-Est, PUF 2004 のなかから、19～20世紀の諸問題(ナショナリズム、全体主義、ホロコースト)を論じた諸章をとりあげる。</p> <p>授業は、受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、ヨーロッパ近・現代史上の諸問題にかんする理解を深めることを目指す。</p>									
【履修要件】									
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と学期末におこなう筆記試験によって評価する。									
【教科書】									
授業の進度に応じてテキストのコピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(講読) Geography (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 助教 小野寺 史郎				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	講読
題目	中国語講読								
【授業の概要・目的】									
近現代中国の歴史・社会に関する中国語の新聞や雑誌記事、インターネット上の論説・論文などをテキストとして講読する。中国語の読解能力を養うとともに、現在の中国における質の高い議論を取り上げ、その内容を検討する。									
【授業計画と内容】									
中国においては、一流の思想家・歴史家や各方面の研究者でありつつ、現在の問題に対しても積極的な発言を行っている知識人たちがいる。彼らは自らの専門領域に立脚しつつ、民族・環境・都市農村格差・歴史認識など幅広いテーマについて新聞・雑誌・ブログなどのメディアを通じて論考を発表しており、それが支持・批判を含む広範な読者を獲得している。これらの文章について、出席者に順番に2-3段落程度を目安に音読・日本語訳してもらおう形式で講読を行う。ただ、これらの文章は問題の文脈を知らない者には分かりにくい表現で書かれている場合も多い。従ってこれらの文章を正確に理解するには、中国語読解能力とともに、近現代中国の歴史と社会に対する一定の知識も必要となる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
講読という授業の形式上、平常点を重視する。また、年度末に簡単な筆記試験（辞書持込可）を行う。									
【教科書】									
テキストはコピーして配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
講読という授業の形式上、授業出席者全員に予習を要求する。オフィスアワー等については、授業内で指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

《基礎現代文化学系》

授業科目名 <英訳>	科学史(講義) History of Science (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 和行				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	講義
題目	科学史入門								
【授業の概要・目的】									
<p>科学とは時間や空間を超えた普遍的なものと考えられているが、人間の営みである以上、それが誕生し発展してきた過程は歴史的な文脈によって規定されている。本講義では科学とは何かという問題を歴史的視点から考察する。</p> <p>前期は古代から17世紀学革命までを、後期は19世紀末から20世紀前半までを中心として検討する</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期は、近代西欧科学が誕生した17世紀科学革命の核心である力学の誕生について古代から17世紀までの天文学と運動論の展開を辿って検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古代の天文学と運動論 地球中心説とアリストテレス自然学 2. 近代の天文学と運動論 太陽中心説とガリレオの運動論 3. 「科学革命」 ニュートンの力学的総合 <p>後期は、19末から20世紀の科学について生物学と物理学の革命を中心に論じる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物学の革命 遺伝学（集団遺伝学，分子遺伝学など） 2. 物理学の革命 原子物理学（原子や量子の発見，原子核分裂など） 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期と後期に、レポート形式の試験を行う。 (両方とも受験することが必要である)									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学(講義) Philosophy of Science (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	講義
題目	科学哲学入門								
【授業の概要・目的】									
科学哲学は「哲学」という視点から「科学」に切り込む分野である。本講義では、多様化のすすむ科学哲学のさまざまな研究領域を紹介し、受講者が自分の関心に応じて今後掘り下げていけるような「入り口」を提供する。									
【授業計画と内容】									
1 科学とは何か 2 科学的推論 3 個別科学における科学的推論 4 科学的説明 5 個別科学における科学的説明 6 実在論と反実在論 7 個別科学における実在論問題 8 科学の変化と科学革命 9 個別科学における変化の問題 10 科学と価値									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
4回のレポートで評価を行う。2回以上レポートをさぼると不可となるので注意されたい。									
【教科書】									
サミール・オカーシャ 『科学哲学』（岩波書店）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワーは設ける予定であるが、現時点で確定していないので授業内で指示する オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(講義) Humanistic Informatics (Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水5	授業形態	講義
題目	情報歴史社会学入門：歴史社会学で情報社会を分析する								
【授業の概要・目的】									
<p>ヴェーバー・ギデنز社会学を理論的背景とし、現代の情報社会、特にGoogleが象徴するWeb2.0以後の情報社会の"来歴,現在,未来"を考える。社会のマクドナルド化・ディズニーランド化,感情労働などの最近の社会学の話題も紹介し、情報社会理解のために必要な社会学の知識を習得してもらう。「歴史社会学」の歴史部分では、21世紀現在の情報技術は、電気電子技術史ではなく、アダム・スミスやマルクスの分業論などの、資本主義の歴史の上に置く方がより深く分析できることを理解してもらう。そのために、産業経済学史家ネイサン・ローゼンバーグのチャールズ・バベッジ研究を紹介する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>次の項目を、1項目あたり1から2回講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代情報社会：Google, Amazonで起きていること 2. 現代の情報社会の見方：Web2.0論 3. M. ヴェーバーの近代化理論：官僚制システムと合理性理論 4. 社会のマクドナルド化とディズニーランド化：再魔術化とIT 5. 知能資本主義社会としての情報社会 6. チャールズ・バベッジの蒸気コンピュータと経済・経営学 7. アダム・スミス, バベッジ, マルクス：分業論の系譜 8. 筋肉労働, 知能労働, 感情労働：感情装置化するIT <p>他に時事的項目を追加する。今年度は、東北大震災とIT, アラブの春とケータイ・ソーシャルメディア, の2件の予定。また、毎回最後の5分程度に質問票を書いてもらう時間をとる。次回に、その主なものに答える。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポートによる。									
【教科書】									
資料を配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL)									
http://www.shayashi.jp (林のサイト)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>講義のWEBサイトに講義資料などを掲示する。講義開始以前にも掲示するので、履修を考えている人は、そちらも閲覧して欲しい。林のサイトに行けば、講義のページへ行く方法が分かる。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(講義) Humanistic Informatics (Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月5	授業形態	講義
題目	論理学の歴史：アリストテレスから情報論理学まで								
【授業の概要・目的】									
アリストテレス以来の西洋論理学の歴史に就いて、現代の記号論理学に繋がる系譜と日本における論理学受容の系譜の二つに焦点を当てて解説する。現在は論理学のすべてを現代記号論理学の立場から理解しようとする傾向が支配的だ。論理学史も例外ではない。記号論理学の教科書などで語られる、その様な「ホイッグ史観」が、歴史的客観性を欠くものであることを理解してもらい、論理学の歴史のより正しい姿を理解してもらうことを講義の目的とする。そのために、情報論理学についても論じる。消え去ったかのように見える伝統論理学は形を変えて、情報技術というハイテク分野で、繁栄しているのである。									
【授業計画と内容】									
以下の項目を、それぞれ1から3回程度講義する。ただし、順番は、この通りではない。 1. アリストテレス論理学：伝統論理学 2. 明治日本の論理学：経国の道具としての伝統論理学 3. 記号論理学の誕生：伝統論理学との違いを中心に 4. 新カント派の論理学：現代論理学へのミッシングリンク 5. 京都学派の論理：西田幾多郎・田辺元の論理（学） 6. 伝統論理学と情報技術・人工知能									
毎回最後の5分程度に質問票を書いてもらう時間をとる。次回に、その主なものに答える。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
小レポートを数回出題しそれにより採点する。									
【教科書】									
資料を配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
講義のWEBサイトを作り、講義資料などを掲示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(講義) Twentieth Century Studies (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3,4 隔週	授業形態	講義
題目	二十世紀学研究入門								
[授業の概要・目的]									
二十世紀を特徴づける民衆文化（映画、大衆小説、アニメ・マンガ、TV番組など）をおもに取り上げ、カルチュラル・スタディーズの多様な方法論を考察する									
[授業計画と内容]									
各授業の前半で方法論（分析理論）を紹介し、後半で、その方法論を用いて資料（映画、アニメ・マンガ、小説、TV番組など）を分析する。 * イントロダクション：映画学事始め * オリエンタリズム研究 * ナショナリズム研究（国民映画論） * インターミッション：映像ドキュメンタリーを考える * 植民地主義・帝国主義研究 * ポスト・コロニアル研究 * 記憶の歴史学									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点による。ディスカッションへの積極的参加を重視する。									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
（参考書） 上野俊哉・毛利嘉孝 『カルチュラル・スタディーズ入門』（ちくま新書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワーは火曜14時～16時。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本現代史(講義) Contemporary History (Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 永井 和				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	講義
題目	日本近現代史概説								
【授業の概要・目的】									
開国からサンフランシスコ講和・日米安全保障条約締結までの日本の近現代史を概観する。日本の近現代史を、内部に閉じたものとしてではなく、常にそれが世界史の一部であることを念頭において、考察する。									
【授業計画と内容】									
第一部（前期）では「日本の近代はいつからはじまるのか」との問を入口に、「世界史の成立」について考察する。第二部（後期）では、20世紀前半の日本の対外関係の変化を世界史の中に位置づけながら概観する。									
第1章 近代とはどのような時代か（世界史の成立）									
第2章 近代以前の東アジアの国際体制									
第3章 東アジア世界の解体と日本の近代（以上前期）									
第4章 近代帝国主義体制と東アジア									
第5章 二つの世界戦争と日本									
第6章 敗戦・占領と日米同盟									
第7章 現代世界と東アジアの20世紀史（以上後期）									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
成績は、前期と後期に試験をおこない、その成績によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
通常の概説のように、個々の歴史事実については詳しく説明しないので、授業の最初に提示する通史や概説書を読んで、自学自習してください。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学(基礎演習Ⅰ) Basic course of Modern Culture & History (Seminars)			担当者氏名	産業技術総合研究所 システム検証研究センター 特別研究員 矢田部 俊介				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	基礎演習
題目	論理学 (最小論理の自然演繹)								
【授業の概要・目的】									
<p>我々は「論理的」という言葉をよく使う。哲学においても、もちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。これは、現代の哲学の大きな問題である。というのも、古典論理の体系以外にも、20世紀以降、多くの異なる論理体系が提案されているからである。それらの非古典的な体系が論理と呼ばれるなら、ある体系が「論理」と呼ばれるためには、どんな性質を満たしていることが必要だろうか。</p> <p>本演習では、数学における定理の証明がシミュレートできる、「論理」と呼ばれうるような、記号を処理する体系（「形式的体系」）を紹介する。具体的には、最小述語論理の自然演繹の体系の解説から始め、最小論理・直観主義論理・古典論理での論理式の証明とそのモデルを使った議論が出来るようにすることを目的とする。その中で、単なる記号の処理を行なう体系が「論理」と呼ばれるにはどんな性質を満たす必要があるかを考察する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>最小述語論理は、論理結合子の導入規則と除去規則のみを持つ、基本的な論理体系の一つである。前期の前半は、まず最小述語論理の自然演繹の体系を紹介する。問題演習を通じ、各自が自然演繹の証明が出来るようになることが目標である。</p> <p>また、前期の後半には、最小論理上で算術の体系「最小算術Q」を例に、数学における多くの証明が最小論理で遂行可能であることを示す。同時に、原始再帰法など計算の基本概念を紹介する。</p> <p>後期の前半では、論理結合子の意味とは何かを、「証明論的意味論」と呼ばれる立場から考察する。具体的には、ベルナップの「トンク」の例を題材に、論理結合子の条件とは何かを考え、保存拡大性や証明の正規化といった論理学の基本概念を理解することを目指す。</p> <p>後期の後半では、最小論理に論理規則を付加し拡張した論理体系を紹介する。つまり、最小論理に矛盾律、排中律と論理規則を加え、直観主義論理、古典論理の体系を得る。これらの例により、論理規則が加わるにつれて、論理式の証明は難しくなるものの、そのモデルは簡単になることを示す。また、その考察により、健全性や完全性といった記号とモデルの関係に関する基本概念の理解を目指す。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う。									
----- 基礎現代文化学(基礎演習Ⅰ)(2)へ続く -----									

基礎現代文化学(基礎演習Ⅰ)(2)

[教科書]

毎回ハンドアウトを配布する。

[参考書等]

(参考書)

小野寛晰 『情報科学における論理』 (日本評論社) ISBN:4535608148

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』 (Dover Publications) ISBN:0486446557

(関連URL)

http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic/

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。～とは何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学(基礎演習II) Basic course of Modern Culture & History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 小野澤 透 文学研究科 教授 永井 和				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	基礎演習
題目	二十世紀学・現代史学研究入門								
【授業の概要・目的】									
二十世紀学と現代史学研究に関連する基礎的なテキストを輪読し、現代社会の文化、歴史に関する主要な問題につき理解を深め、あわせて基礎的な研究の方法を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
前期は、現代史学および二十世紀学に関連する新書や選書を選読し、基礎的な研究方法を学ぶとともに、現代の主要問題について考察する。取り上げる文献の一部は、下記のとおり。 ジョセフ・S・ナイ, D・A・ウェルチ 『国際紛争：理論と歴史』 [原書第8版] (有斐閣) ベネディクト・アンダーソン 『定本 想像の共同体』 (書籍工房早山) トーマス・フリードマン 『フラット化する世界』 (日本経済新聞出版社)									
後期は、アメリカ在住のトニー・ジャッド (Tony Judt) の『ヨーロッパ戦後史 上 1945-1971』 (みすず書房, 2005年) (POSTWAR: A History of Europe since 1945, William Heinmann, 2005)を輪読する。									
【履修要件】									
二十世紀学,現代史学専修志望の学生は2回生時にこの授業を受講すること。履修しない場合には,両専修の演習 いずれかで単位を代替可。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加態度など平常点と各期末のレポートによって総合的に評価する。									
【教科書】									
初回授業で文献リストを配布する。文献は、各自準備すること。									
【参考書等】									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
初回に文献リストを配布し、報告者を決定する。ディスカッション中心の授業なので、毎回、全受講者が当該文献を読んでおくことが必須条件になる。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学(情報技術演習Ⅰ) Humanistic Informatics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	演習
題目	情報技術演習								
【授業の概要・目的】									
IT技術の普及以後、史学・古典学などでの文献／資料研究の方法が大きく変り始めている．本演習では図書館の検索システムであるOPACや、デジタル・ライブラリ、デジタル・アーカイブなどによるネット上での情報収集の方法の習得から始め、IT技術を文献研究に活用するための方法を実践的に学ぶ．									
【授業計画と内容】									
OPAC, 電子アーカイブ(ライブラリ), Wikipedia などによるWEB上情報収集の技術から始め, デジカメ, スキャナ等を利用しての文献資料の収集・整理の方法. そして, 論文, ブログなどの「作品」にまとめて発表するまでの方法を, 実際の作業を通して学ぶ. 基本を学んだ後, 個人あるいはグループでテーマを決め, それについての「作品」を完成することを目標とする. 「作品」は特に希望がなければブログの形で作成してもらおう. なるべく各自の能力・知識に配慮した個別指導を行う. たとえば希望する上級者には個別にプログラミングの指導を行うことも可能.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常の課題, および学期末の作品により採点する. 配点は, 平常点80%, 作品20%が目安である.									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
必ず「教育用コンピュータシステム利用コードECS-IDとパスワード」を第一回目に用意してくること. これがないと演習ができない.									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学(情報技術演習II) Humanistic Informatics (Seminars)			担当者氏名	関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3	授業形態	演習
題目	情報技術演習II								
【授業の概要・目的】									
研究には、「材料を集める」、「分析する」、「考察を加える」、「まとめる」、「発表する」というステップがあります。この演習では「材料を集める」ひとつの技法としてのインタビューについて学びます。									
【授業計画と内容】									
インタビューとは、基本的には「発話から意味のある情報を得る」技法であり、文系・理工系を問わず「人間」に関わるあらゆる研究領域で用いられる、質的社会調査法の一つです。授業では、まず、「社会学」「文化人類学」「歴史学」「コンピュータサイエンス」「心理学」等の学術的インタビューから、ジャーナリスティックなインタビューまで様々な分野の技法について、基礎的な文献から学び、インタビュー技法についての俯瞰を得ます。そして次に、具体的なテクニックの確認と練習を経て、個々にインタビュープロジェクトを実施して報告を行います。									
授業概要									
オリエンテーション									
インタビューの基礎（講義形式）									
基本文献についてのレジюме発表（人数に合わせて数回：発表形式）									
インタビュー技法のポイントについてまとめ（ワークショップ形式）									
インタビュープロジェクト企画会議（ワークショップ形式）									
分析手法の紹介（講義形式およびワークショップ形式）									
インタビュー練習（ワークショップ形式）									
プロジェクト報告（人数に合わせて数回：発表形式）									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価（出席点の他、基礎文献レジюмеの制作と発表、インタビュープロジェクトの企画書・報告書などを含む）									
【教科書】									
随時、ウェブサイトを通じての文献配布や、授業内でのプリント配布を行う。									
-----基礎現代文化学(情報技術演習II)(2)へ続く-----									

基礎現代文化学(情報技術演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

基礎的な文献については、代表的なものの一覧を授業内で配布する。

(関連URL)

<http://www.res.kutc.kansai-u.ac.jp/~ckita/KyotoUnivSeminar2011/>(詳しい講義計画、参考サイトへのリンク、一部配付資料のアーカイブ等)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

インタビュープロジェクトについては、それぞれの論文作成等に合わせて、自由テーマで実施してもらいます。プロジェクトの成果物の様態も、内容に合わせて自由に設定できます。(例: インタビューを分析した結果のモデルを示した考察内容の報告、オーラルヒストリのトランスクリプト、聞き取りによって作成したユーザの要件定義、読み物としてまとめたインタビュー記事、インタビュー記事を載せたウェブサイトなど)

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学(講読Ⅰ) Basic course of Modern Culture & History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月4	授業形態	講読
題目	英書講読								
【授業の概要・目的】									
米国の歴史家 Peter Novick による THAT NOBLE DREAM: The 'Objectivity Question' and the American Historical Profession (高貴なる夢:"客観性問題"と米国の歴史学)を輪読することで、英語読解力を身につけていくことを目指す。									
【授業計画と内容】									
教科書の THAT NOBLE DREAM は米国歴史学会AHAの賞も受けた、評価の高い米国歴史学のヒストリオグラフィー(歴史学の歴史)である。授業では、この650頁近い大著のうち、欧州の客観主義的歴史学の米国への導入過程を描いた6章からなるパートⅠと、第一次世界大戦を契機とする客観主義指向の「空気の変化」をテーマとするパートⅡ第6章 A changed climate までを読む。しかし、参加者の人数などにより、この目標は変化する。毎回数名の担当者を定め、1回にテキスト10ページ程度を読み進める。担当者は、担当した部分を全訳するのではなく要約して報告する。また、事前に担当部分を要約した資料を準備し林に提出し、これを林が参加者全員に講義のサイトを通して配布する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点により採点する。担当箇所について提出する資料と授業時の説明の様子が主な採点対象となる。ただし、授業中に担当者以外に質問や意見を求めるが、その様子も採点対象となる。(担当者とは別の解釈・翻訳の提示など。)									
【教科書】									
Peter Novick 『That Noble Dream: The 'Objectivity Question' and the American Historical Profession』(Cambridge Univ. Press) ISBN:0521357454									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
資料の配布、講義の連絡などは、主にKULASISや、別に作る予定の授業のサイトを通して行なう。また、月曜の12:00から3講時に1時間ほどオフィスアワーを設定する予定だが、これは参加者と相談の上決める。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学(講読Ⅰ) Basic course of Modern Culture & History (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 佐藤 夏樹				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月4	授業形態	講読
題目	英書講読								
【授業の概要・目的】									
アメリカ移民史を専門とするDavid GutiérrezのWalls and Mirrorsを精読する。学術的に書かれた英語文献読解に必要な基礎力をつけることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
テキストとして使用するWalls and Mirrorsは、メキシコ系アメリカ人がメキシコ移民に対して感じる、異なる存在であるが親近感ももてるという複雑な感情を「壁と鏡」と表現し、彼らのそのような感情が歴史を通してどのように変化していったのかを通史的に論じている研究書である。単に英語の文章を読解するだけでなく、外国語の研究書の議論の立て方を授業を通して学んでほしい。授業は全員が予習をしてくることを前提とし、事前に報告者を決めない形で授業中に何人が指名し、段落ごとを目安として訳をしてもらう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席、報告）と期末試験の結果で総合的に評価する。									
【教科書】									
テキストを配布する（Gutiérrez, Walls and Mirrors）。									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
講読の授業であるので、全員がテキストの予習をしてることが必須である。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学(講読II) Basic course of Modern Culture & History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 服部 良久 非常勤講師 園屋 心和				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	講読
題目	独書講読								
【授業の概要・目的】									
ドイツ語で著された歴史学の方法やドイツ史に関する最近の論文、著書を精読することにより、歴史研究に必要なドイツ語の語読解力を高める。文法に加えて初歩的な講読の授業をも履修していることが望ましい。									
【授業計画と内容】									
前期（服部担当）は、歴史学の方法や動向に関する最近の論文を読み、ドイツ語に固有の構文や表現の特徴など、ドイツ語専門論文を早く読むコツを習得する。後期（園屋担当）は、ドイツに関係する歴史上の人物や出来事などを記憶史の観点から論じた論文集『記憶の場』（E. François/H. Schulze (Hg.), Deutsche Erinnerungsorte, 3 Bde., München 2001）の中から、H・シュルツェの論文「ヴェルサイユ」を読む。ここでは、記憶史という歴史学上のテーマにふれてもらうと同時に、ドイツ語文法の基礎固めや、文の流れおよび文意の把握を重視しつつ、ドイツ語の読解力の向上を目指す。」									
【履修要件】									
ドイツ語の初級文法をひと通り学んでいることが受講の前提となる。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と筆記試験を合わせて評価するが、出席して訳読を担当することを重視する。									
【教科書】									
授業で使用するテキストは、担当教員が準備して配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
予習を十分に行うこと、これが外国語上達の大前提である。ただしあらかじめ訳文をノートに記し、授業の時に読み上げるというやり方は、逆効果である。予習で考え、授業でもう一度考えることが必要である。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学(講読III) Basic course of Modern Culture & History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 小山 哲				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水1	授業形態	講読
題目	仏書講読								
【授業の概要・目的】									
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、ヨーロッパ中・東部の近・現代史にかんする理解を深めることを目標とする。									
【授業計画と内容】									
<p>テキストとしては、1990年以降の国際状況の変化をふまえて新しい角度から東中欧地域の歴史を通観する N. Aleksiu et al., Histoire de l'Europe du Centre-Est, PUF 2004 のなかから、19～20世紀の諸問題（ナショナリズム、全体主義、ホロコースト）を論じた諸章をとりあげる。</p> <p>授業は、受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、ヨーロッパ近・現代史上の諸問題にかんする理解を深めることを目指す。</p>									
【履修要件】									
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と学期末におこなう筆記試験によって評価する。									
【教科書】									
授業の進度に応じてテキストのコピーを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学(講読Ⅴ) Basic course of Modern Culture & History (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 助教 小野寺 史郎				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	講読
題目	中国語講読								
【授業の概要・目的】									
近現代中国の歴史・社会に関する中国語の新聞や雑誌記事、インターネット上の論説・論文などをテキストとして講読する。中国語の読解能力を養うとともに、現在の中国における質の高い議論を取り上げ、その内容を検討する。									
【授業計画と内容】									
中国においては、一流の思想家・歴史家や各方面の研究者でありつつ、現在の問題に対しても積極的な発言を行っている知識人たちがいる。彼らは自らの専門領域に立脚しつつ、民族・環境・都市農村格差・歴史認識など幅広いテーマについて新聞・雑誌・ブログなどのメディアを通じて論考を発表しており、それが支持・批判を含む広範な読者を獲得している。これらの文章について、出席者に順番に2-3段落程度を目安に音読・日本語訳してもらった形式で講読を行う。ただ、これらの文章は問題の文脈を知らない者には分かりにくい表現で書かれている場合も多い。従ってこれらの文章を正確に理解するには、中国語読解能力とともに、近現代中国の歴史と社会に対する一定の知識も必要となる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
講読という授業の形式上、平常点を重視する。また、年度末に簡単な筆記試験（辞書持込可）を行う。									
【教科書】									
テキストはコピーして配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
講読という授業の形式上、授業出席者全員に予習を要求する。オフィスアワー等については、授業内で指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学(講読VI) Basic course of Modern Culture & History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 天野 恵				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	講読
題目	イタリア史概説講読								
【授業の概要・目的】									
文学作品ではなく歴史書を講読することにより、イタリア文化研究をめざす学生に要求される知識を提供しながら、様々な専門分野の学術論文をはじめとする知識人向けに書かれたイタリア語文献を読解・理解する能力を育成する。									
【授業計画と内容】									
ルイジ・サルヴァトレリによるイタリア史概説書から近代史の章のいずれかを選んで講読する。歴史書の場合、当然ながら日本人によって執筆されたものとは史観が異なるうえ、前提として読者に要求される知識や価値観もイタリア人を念頭に置いたものであることから、これを読むことは語学の訓練にとどまらず、イタリア文化そのものとダイレクトに接触することを意味する。従って、本講読の目的は学生の語学力を充実させることにあるものの、イタリアに関する文化的な興味を抱いていることが当然の前提となる。なお、具体的にどの時代についての記述を講読の対象とするかについては、実際に履修する学生の要望に応じて決定する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点を基準とする。出席および予習の精度により判定を下す。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
(参考書) なし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

科学哲学科学史専修

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 和行				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	ニュートンの自然哲学的考察								
【授業の概要・目的】									
<p>アイザック・ニュートンは17世紀科学革命を担った科学者である。彼は「我仮説を作らず」という言葉で知られているように、『プリンキピア』の中では自然哲学的な議論を避けていたが、『光学』の末部にある「疑問」においては、物質粒子や研究方法について論じていた。本講義では「疑問」を講読しながら、彼の物質観や方法論を検討する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>17世紀科学革命，ニュートンの業績について概観してから，ニュートンの「疑問」(Queries) (英語) を講読する。「疑問」は『光学』の新しい版が出版されるたびに改訂増補されており，その変遷についても合わせて検討する</p> <p>テキスト：Newton, Opticks . 英語版：第1版(1704)，第2版(1718)，第3版(1721)，第4版(1730) ラテン語版(1706) ・KULINEから電子ブックをダウンロードできます。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(出席および発表)とレポートによって総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 和行						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	科学随筆 寺田寅彦と中谷宇吉郎								
【授業の概要・目的】									
<p>現在では「科学随筆」という分野はほとんど消滅してしまったと言えようが、大正から昭和にかけて一つの文学領域を形成していた。大正と昭和における科学随筆の代表者である寺田寅彦と中谷宇吉郎を取り上げ、科学随筆と彼らの科学的活動について検討する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のトピックにかんして文献を読み、出席者に発表を行なってもらう、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大正から昭和初期における日本の科学（物理学を中心に） ・科学随筆の歩み ・寺田寅彦 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯と業績・物理学者としての活動・随筆家としての活動 ・中谷宇吉郎 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯と業績・物理学者としての活動・随筆家としての活動 ・現代における科学随筆の行方 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席および発表）とレポートによって総合的に評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	因果性と確率 (causality and probability)								
【授業の概要・目的】									
因果性の概念は科学哲学においてさまざまな方面から論じられてきた。今回の授業では、その中でも特に確率の概念を使った因果の分析に焦点をあてる。テキストにそった解説とディスカッションを通して、因果性の分析について確率がどのような役割を果たすのかの理解を深めていくことを目的とする。									
【授業計画と内容】									
本授業では具体的にはサモンの因果の分析とパールのグラフを使った因果的推論の分析を、それぞれのテキストにそって解説していく。 取り上げる内容としては以下のようなものを考えている。									
<ul style="list-style-type: none"> - 決定論と非決定論 - at-at理論 - 因果的傾向性 - 確率的因果 - 因果的ベイジアンネットワーク - グラフを使った因果的推論 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
2回のレポート									
【教科書】									
Wesley C. Salmon 『Causality and Explanation』 (Oxford University Press) Judea Pearl 『Causality: Models, Reasoning, and Inference』 (Cambridge University Press)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは水曜 15:00-16:30 を予定									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	曖昧性の哲学と論理 (philosophy and logic of vagueness)								
【授業の概要・目的】									
われわれの使う概念は多かれ少なかれ曖昧さを持つ。これは科学においても例外ではない。他方、「砂山のパラドックス」など、曖昧な概念をめぐるパラドックスが存在することが古来知られている。現代においても、曖昧述語をどのように理解するのか、曖昧性にどのように対処するのかについては、哲学と論理学の双方でさまざまな考察や試みがなされている。本講義を通して、曖昧性について何が問題となっているのか、どのような解決が提案されているのかを理解してほしい。									
【授業計画と内容】									
テキストとして指定しているスミスは多値論理を使った解決を提唱しているが、自分の立場を含めたさまざまな提案を体系的に整理している。その論述を手がかりに曖昧述語の解釈の見取り図を構成していくとともに、スミスの立場（ファジー複付値主義）の批判的な検討も行う。									
<ul style="list-style-type: none"> - 認識主義 - 多値論理を使った解決 - 真理値ギャップを使った解決 - 重付値主義 - 文脈主義 - 直観主義 - ファジー複付値主義 									
【履修要件】									
議論についていくには様相論理、多値論理などについての知識が必要となるが、この授業に必要な範囲での導入は授業内で行うので、事前の知識は要求しない。									
【成績評価の方法・基準】									
二回のレポートで評価を行う。									
【教科書】									
Nicholas Smith 『Vagueness and Degree of Truth』 (Oxford University Press)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
水曜 15:00 -16:30の時間をオフィスアワーとする予定。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 特定助教 白井 哲哉						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	生命科学と社会								
【授業の概要・目的】									
<p>近年急速に発展し続けている生命科学では、動物・植物から微生物まで、多数の生物のゲノム（全ての遺伝情報）が研究され、ヒトにおいても個々人のゲノムが解析できるようになった。その成果は医療だけでなく食品、農業、工業そして一般社会にまで及んでいる。一方、生命科学に関するE L S I（倫理的・法的・社会的課題）も増えており、課題に取り組むためには、科学者だけでなく様々な専門家・関係者ととも問題を考える必要がある。本授業では最新の生命科学をトピックに、科学者以外の人々が科学技術をめぐる議論に参加する意義を考察する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>講義で取り上げる主なトピックは以下のものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人ゲノムの解読 ・ オーダーメイド医療 ・ iPS細胞研究 ・ 再生医療 ・ 合成生物学 <p>生命科学の研究が営まれている現状及び、その研究成果を紹介する。またそれらが社会に及ぼす影響について講義し、研究の進め方、技術の利用の在り方についての議論を行う。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席および発表）とレポートによって総合的に判断する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>生命科学に関する興味・関心や予備知識は必用ありません。授業及びレポートでは、新たな知識を得るだけでなく、自分の意見・考えをアウトプットするよう努めて下さい。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者氏名	京都精華大学 人文学部 教授 斎藤 光						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	日本における分子遺伝学・分子生物学・ライフサイエンスの学的展開と社会的展開								
【授業の概要・目的】									
<p>分子遺伝学・分子生物学は、重要な前史はあるものの、1953年の二重らせんモデルの提唱から本格的な展開が開始された。当時日本では、ルイセンコ論争が、遺伝理解をめくり展開されており、この論争が一つの要素となり、日本の研究者の分子生物学研究前線への寄与は、大きいものとはいえなかった。しかし、1970年代以降、遺伝子組み換え技術の移入や科学政策レベルでの支持・介入とともに、日本の分子生物学も、世界的研究前線の一角を担うようになっていった。その後、ヒトゲノム計画の出現や、医療分野への分子生物学の応用の具体化などをへながら、<法>分野や経済・経営分野との連結や、生命倫理という社会装置の設定など、多重な形態で社会と接触しつつ、政策的誘導を受けながら展開している。ただ、その学的展開と社会的展開に関して見取り図が提示されているとはいえない。この講義では、日本語文化圏の科学者と社会に主な場を限定しつつ、その場で、分子遺伝学・分子生物学・ライフサイエンスがどのように展開して来たか、その展開を理解する図式を考えつつ、整理していく予定である。</p> <p>この科目の狙いは、第一に、生命科学の19世紀以来の展開の概要を理解する、第二に、その日本の展開を理解する、そして第三に、現代における科学と社会の関係構造を理解する、ことにある。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のようないくつかのまとまりを論じて行く予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 二重らせんモデル提示以前の遺伝学の特質とおもな内容の確認。 分子遺伝学成立に向けた前史の整理と確認。 日本の状況と日本におけるルイセンコ論争の内容と意味。 60年代の日本における遺伝の分子的理解。 70年代における日本と世界の状況について。 ヒトゲノム計画の提示と、計画実現までの道。 「科学技術基本法」体制下での分子生物学・ライフサイエンス。 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、またはノおよび、試験で評価する予定。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>授業中に紹介する 資料はコピーして配布予定。</p>									
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者氏名	関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	「人間とコンピュータとの共生」を考える								
【授業の概要・目的】									
この講義では、コンピューティング史において、システムと人間の関係がどのようにとらえられてきたのかについて考察する。歴史的には、人間はまず人間機械混成系（man-machine system）の一部の要素（human factor）とみなされ、やがて人間による処理への介入（human intervention）の研究を経て、「人間とコンピュータとの共生」概念が提示された後、現在のように、人間はシステムのユーザとみなされるようになっていった。そうした黎明期の概念の変遷を踏まえて、人間とコンピュータの関わりについて考える学問領域（Human Computer Interaction, HCI）の成立と発展の歴史について、当該分野における重要基本文献などを通じて検討する。									
【授業計画と内容】									
授業は基本的には歴史学的方法論で進めるが、必要に応じて、科学技術社会論の論点についても言及する。									
授業概要（各項目について1～3回程度の授業を行う）									
<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション 人間機械混成系（man-machine system）からHuman Factor研究へ 入出力装置の開発とシステム概念の変化 サイバネティクスとHCI分野の関係 HCI基本文献の検討 HCI分野黎明期の社会的背景 まとめ 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主レポートによる（ただし、レポートの内容が不十分な場合には平常点評価（出席時の態度等）も加味する）。									
【教科書】									
適宜、授業内にプリント配布、およびウェブサイトに資料をアップロードなどする。									
【参考書等】									
（参考書） 喜多千草 『インターネットの思想史』（青土社）ISBN:4-7917-6021-2									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者氏名	北海道大学 大学院文学研究科 教授 中戸川 孝治
---------------	---	-------	-----------------------------

配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
------	-------	-----	---	-----	------	-----	------	------	------

題目	集合、論理、圏：基礎の哲学
----	---------------

[授業の概要・目的]

数、図形、集合、対応といった、時空のなかで位置を指定できない対象はどのような意味で在る、といえるのか(いえないのか)。論理学の法則(排中律、推移律、分配法則、交換法則など)や数学の基本法則(平行線公理、選択公理、外延性公理、置換公理など)は、改訂の可能性があるのか。このような問は、哲学の伝統のなかで形を変えながら繰り返し取り上げられてきました。この講義では、これらの問へ答える手がかりを、集合論、第1階述語論理、圏論の創造・発展に寄与した研究者達の方法態度の選択の中に求めます。すなわち、上述の三分野の発展(とその応用)が、伝統的な哲学の諸問題を考察するうえで、何らかの手がかりや示唆をあたえるのであれば、それらがどのような解決を志向していると考えられるか、これを本講義の基本となる問とします。

数理思想史の面では、19世紀中葉以降のリーマンとデデキント、ガウス以降の展開に注目する。(とりわけ、ガウス曲率が曲面の等長変換で不変であるという「注目すべき定理」(Theorema egregium, merkwuerlige Lehrsatz)から瞥見される、「曲面を立体の境界としてではなく、それ自身1次元下がった個体として考える」(佐竹一郎、現代数学の源流(下)朝倉書店、p.21)新しい着想が、その後さらに多様体へと展開される経緯を検討する。19世紀末から20世紀初頭にかけての位相数学の展開がかならずしもカントール集合論の枠内で発生したのではないことを(Hausdorff等を手掛かりに)確認した後、Mannichfaltigkeitと判断における統一作用の関係を、フレーゲ及び同時代の西南学派における判断論の展開等を参照しながら探究する。さらに、これらの哲学の流れと、いわゆるフレーゲ以降の分析哲学(およびタルスキー意味論)とがどのように関係するかを理解するために必要な範囲で、20世紀後半における多様体研究の展開を追い、層の圏、前層の応用、クリプケ・フレーム等について考察する。その後で、田邊元の「数理の歴史主義展開 数学基礎論覚書」(とりわけ、9節以降および後期)における議論を、F.W.Lawvereによるトポスの意味の探究、及び、層の哲学(Philosophy of Sheaves)への探究のなかで理解しようと試みる。

[授業計画と内容]

授業は、大きく三つに分けられる。第一部では、カントール素朴集合論、デーデキントの貢献、公理的集合論の形成過程をとりあげる。構成的宇宙、巨大基数の幾つかに言及し、それらの仮定からえられる帰結・応用について言及する。抽象的実体としての集合の存在はどのような条件のもとで受け入れ可能となるのか、検討する。

第二部では、G.フレーゲ以降の論理学の形成の過程をとりあげる。新しい論理学の創出にあたり、論理学の基礎に横たわる諸問題を彼がどのように切り分けて行ったのか、分析する。ここでは、とりわけ、述語の指示するものがいったいどのような在り方をするのか、関数(function)の在り方を手がかりにしながら、比較・検討を進める。証明可能性と論理的導出関係という概念の定式化において想定されていた方法論における両者の相違を押さえた後で、証明論とモデル理論の方法態度の違いが何処に由来するのか、両者の指向する哲学の相違まで敷衍し考察する。

第三部では、全射、単射、半順序、モノイドを例にとり、圏論と集合論による表現の相違を比較する。functionの機能、操作といった側面に注目し、集合とどのように在り方が異なるか、探求する。そのうえで、非標準論理(とりわけ、部分構造論理)が非集合論的、非タルスキー意味論を志向しているか、議論する。

さらに、2006年に、G.Hellmannが提起した問題「圏論は数学的構造主義のための枠組みを提供するか」という問いをめぐって、S.Awoodey, C.McLarty, E.Landryr等の反応を概観したあと、圏論はそのような枠組みを提供できないというA.Rodinの否定的見解を検討する。数理思想史の面では、ガウス以降の展開を近・現代数学のメインストリームを形成する数理思想史的背景として採ったとき、

科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

リーマンから (Lawvere を介しての) グロタンディーク、(代数的多様体を含む) 多様体研究の展開のなかで、集合論 (巨大基数にかんする諸公理もふくむ) と論理 (とりわけ、ヒルベルト証明論、タルスキー意味論) がどのような位置をしめるようになるか、検討する予定である。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・基準]

出席とレポート

[教科書]

使用しない

講義のなかで導入する諸概念は、できる限り講義のなかで定義し、説明するよう心がける。本講義により、集合論、論理学、圏論への入り口が幾分でも入りやすくなることを願っている。また、これらの理論が応用される諸分野の方法論的基礎についても、各自が自分なりの見地から批判的に考察できるようなる手がかりをいくらかでも提供できれば、とも思われる。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))

議論への積極的な参加を期待する。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 和行						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	演習
題目	アインシュタイン「物理学と実在」								
【授業の概要・目的】									
アインシュタインは相対性理論の提唱者として知られるが、同時に量子論の誕生期に重要な役割を果たしたことで知られる。彼が今世紀前半の物理学革命について述べた論考を読む。									
【授業計画と内容】									
最初にアインシュタインと量子力学の誕生に関して概括し、それからアインシュタインの次の論文（独語）を読む。 "Physik und Realitat", Journal of the Franklin Institute, Vol. 221, 1936, pp. 313-347.									
【履修要件】									
テキストには英語および日本語訳もあるが、演習では独語原典を講読するので、ドイツ語の読解力が必要である。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席および発表）とレポートによって総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 和行				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火3	授業形態	演習
題目	オイラー 『ドイツ皇女への手紙』								
【授業の概要・目的】									
18世紀を代表する数理科学者レオンハルト・オイラーが、書簡の形式で書いた『ドイツ皇女への手紙』は一般向けの自然科学および哲学の概説書として広く流布した。その読解を、当時の一級の科学者の自然当時の科学観および自然観を検討する。									
【授業計画と内容】									
オイラーの業績について概括した後、原著（フランス語）を講読する。著作は各テーマに関する234通の書簡からなるので、数編の書簡を選んで読む予定である。 テキストは次のものである。 Lettres a une Princesse d'Allemagne, 2 tomes, 1768, 1772.									
【履修要件】									
テキストには英語訳があるが、演習では仏語原典を講読するので、フランス語の読解力が必要である。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席および発表）とレポートによって総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する その他必要に応じて、参考書・論文等を紹介する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3	授業形態	演習
題目	科学的实在論論争と自然主義的形而上学								
【授業の概要・目的】									
<p>本授業では、Ladyman and Ross のEvery Thing Must Goを読む。この本は、科学的实在論論争の一つの到達点として、形而上学そのものを自然化するというプログラムを打ち出したレイディーマンらの共著論文をあつめたものである。この本を読み進めていくことで、实在論論争の現状を彼らの議論をとおして理解すると共に、この議論がどこに向かっているのか、一緒に考えていきたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業は基本的に一回の授業でテキスト15ページ程度を読み、それについてディスカッションする形です。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。すべてを読むわけではないが、テキストの章立ては以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> -科学主義の擁護 -科学的实在論、構成的経験主義、構造主義 -存在論的構造实在論と物理学の哲学 -熱帯雨林实在論と科学の統一 -構造的な世界における因果 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表の担当と期末のレポート									
【教科書】									
James Ladyman and Don Ross 『Every Thing Must Go』 (Oxford University Press)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
水曜 15:00 -16:30の時間をオフィスアワーとする予定。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水3	授業形態	演習
題目	心理学と認知科学の哲学								
【授業の概要・目的】									
この演習では、心理学と認知科学の哲学についてのアンソロジーからいくつかの論文を読むことで、哲学的テキストの読解力を身につけるとともに、この分野についての理解を深めることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
授業は基本的に一回の授業でテキスト20ページ程度を読み、それについてディスカッションする形です。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。取り上げる話題としては以下のようなもののうちいくつかを最初の授業で選択することを考えている。									
<ul style="list-style-type: none"> -表象 -心理学的説明 -知覚 -感情 -認知神経科学の理論的基礎 -計算論的神経科学 -進化心理学 -人工知能 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表の担当と期末のレポート									
【教科書】									
Paul Thagard ed. 『Philosophy of Psychology and Cognitive Science』 (Elsevier)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
水曜 15:00 -16:30の時間をオフィスアワーとする予定。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(卒論演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 和行 文学研究科 准教授 伊勢田 哲治						
配当学年	4回生のみ	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	卒論演習
題目	科学哲学科学史セミナー								
【授業の概要・目的】									
発表演習。四回生必修。卒論作成に向けて、卒論のプランや途中経過などの研究発表をしてもらいます。									
【授業計画と内容】									
欠席が多い学生には、発表しただけでは単位を与えないことがあるので注意してください。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と発表による									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
なし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

情報・史料学専修

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)		担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月5	授業形態	特殊講義
題目	形式と内容の思想史								
【授業の概要・目的】									
<p>社会学におけるマックス・ウェーバーの形式合理性と実質合理性，数学基礎論におけるダーフィット・ヒルベルトの形式的数学と実質的数学（有限の立場），この二つは，ほぼ同世代のドイツの思想家により提示された社会科学思想と数学思想の対立項である．一見無関連の，この二つの思想を「近代性の思想史」の二つの顕れとして関連付ける．この二つを中心とするが，数学史家 J. Gray のモダニズムとしての現代数学という視点（芸術のモダニズムと現代数学）や，同時代のドイツ語圏における哲学における形式と実質の問題（マックス・シェーラー倫理学）などにも言及する．</p>									
【授業計画と内容】									
<p>次のテーマについて，それぞれ1 - 3回講義する．</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．問題意識の発端：クルト・ゲーデルの歴史観 2．社会学における形式と実質：ウェーバーの合理性の分類と官僚制理論 3．数学における形式と内容：ヒルベルトの人工数学計画と内容的数学 4．ウェーバーの背景：新カント派の哲学 5．ヒルベルトと新カント派？：ミッシングリンクを求めて 6．数学史家ジェレミー・グレイのモダニズム数学論 7．シェーラーの実質的倫理学 8．ドイツ語圏の教育における形式と実質 <p>毎回最後の5分程度に質問票を書いてもらう時間をとる．次回に，その主なものに答える．</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
小レポートを数回出題し，それにより採点する．									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>（参考書） この講義の一部の一般向けに解説である．林晋「ゲーデルと数学の近代」（仮題），岩波新書，を執筆している．これが易しい参考書となるだろう．希望者には，出版前でも試読用原稿を渡す．</p>									
<p>（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水5	授業形態	特殊講義
題目	パーティシペーションの思想								
【授業の概要・目的】									
<p>田辺元の種の論理における「種と個の関係性」の発想の源泉は、フランスの思想家、リュシアン・レビ＝ブリュールの分有（participation mystique）の概念と、それに関連するマックス・シェーラーの知識社会学における teilhaben（参加）の概念であったことが、最近の田辺史料研究により明らかになっている。シェーラーとブリュールの親密性をもったパーティシペーションを、田辺は絶対弁証法的葛藤関係に置き換えた。それが種の論理の誕生をもたらしたのである。</p> <p>これらの社会思想から、約一世紀を経た現在、それに極めて類似した思想がネットの世界を、そして実世界の動かしている。WEB 2.0 の中心概念「パーティシペーション」である。Facebook や Twitter は、すべてこのパーティシペーションの思想を基にしており、それは政治体制にさえ影響を持つまでになっている。</p> <p>なぜ、そして、どの様に一世紀前の社会思想は、現代のネット・ヴァーチャル社会の思想に「生まれ変わった」のだろうか。それを解明する。</p>									
【授業計画と内容】									
次の項目を、それぞれ 1 - 2 回講義する。									
A. 導入部									
A1. ビル・オライリーの「参加」：集合知、Yahoo知恵袋、SNS、ジャスミン革命...									
A2. 個がネットに飲み込まれ「融即」する時代									
B. 20世紀初頭の思想群									
B1. 田辺元の類・種・個 種の論理									
B2. レビ＝ブリュールの participation 融即									
B3. シェーラーの teilhaben 参加と社会哲学									
C. 21世紀の「融即」									
C1. ビル・オライリーのWeb2.0の思想と「参加」									
C2. 参加型エンタープライズの登場									
C3. 参加型エンタープライズとネット社会									
C4. 再魔術化の時代のリアリティとしての「融即」									
毎回最後の 5 分程度に質問票を書いてもらう時間をとる。次回に、その主なものに答える。									
【履修要件】									
特になし									
----- 情報・史料学(特殊講義)(2)へ続く -----									

情報・史料学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・基準]

数回の小レポートを実施し、それにより採点する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

その他

パートBについては、田辺元「種の論理」(岩波文庫)、レビ=ブリュール「未開社会の思惟」(岩波文庫、現在版切れ、古書として手に入る)、シェーラー全集(白水社)などが参考となる。

パートCは、関連する文書の殆どがWEB上の文書や最近の論文である。WEBのものは、適宜URLを紹介する。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

KULASIS以外に講義用のサイトを開設し、講義資料、特にパートCの参考文献などを掲示する。そのサイトのURLは最初の講義の際に伝える。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)	担当者氏名	高等教育研究開発推進センター 教授 吉田 純						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	情報ネットワーク社会論								
【授業の概要・目的】									
ハーバーマス、ギデنز、ベックらの社会理論を基本的な枠組として、インターネット空間を中心とした情報ネットワーク社会の諸問題について考察する。									
【授業計画と内容】									
以下の順序で、各項目について1～3回の講義をおこなう。									
<ol style="list-style-type: none"> 1 情報ネットワーク社会への視点 2 日本社会/アメリカ社会における 情報化 3 CMC (Computer Mediated Communication) 空間の展開 4 生活世界のリアリティの再編成 5 再帰的近代化としての 情報化 6 監視社会論 7 リスク社会論 8 社会空間の再編成 9 親密圏・公共圏の再編成 									
【履修要件】									
社会学関係の全学共通科目または学部での概論科目を履修していることが望ましい									
【成績評価の方法・基準】									
中間・期末の2回のレポートによる（配点は中間30点・期末70点とする）									
【教科書】									
使用しない プリントを配布する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
https://socio.k.kyoto-u.ac.jp/sis (授業専用サイトで、資料配付、レポート提出、質問受付、その他の各種連絡をおこなう(ログインパスワードは初回の授業で通知する))									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)	担当者氏名	京都産業大学 経済学部 教授 小田 宗兵衛						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	社会科学における実験								
【授業の概要・目的】									
<p>実験経済学を講義する。目的は、(1)実験を通じて現代の経済と経済学について基礎的理解を得ることと、(2)経済学に限らず人文社会科学における新たな実験研究の可能性を考察することである。</p> <p>(1)経済は多くの意思決定主体からなる体系で、各主体の意思決定は複雑な自己言及を含む。受講者は、経済実験に参加して以上のことを体験し、経済学の基礎的知識と基本的方法を学ぶ。</p> <p>(2)経済実験は、人間の意思決定と人間を要素とする体系の挙動を知るための有力な方法であり、他の分野の研究にも応用可能である。英語圏で近年さかんになりつつある哲学実験に言及しつつ、人文社会科学における新たな実験研究の可能性を考える。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>受講者が10人程度いれば、競争市場実験や複占市場実験など合計5種類の実験を行う。これらの解説を含めて10回の授業を予定する。これによって受講者は、体験的に経済学と経済実験を学ぶ。</p> <p>残りの授業では、実験哲学の実験と講義をする予定である。ただし受講者から希望があれば、進化ゲーム理論、行動経済学、神経経済学、現代古典派経済学などから主題を選んで、講義をする。いずれの論題も、理論だけでなく実験による検証を意識して講義を進める。</p> <p>受講者は、経済学の視点と方法を、各自の専攻する分野における理論の役割や実験の方法と比較考察することを期待されている。受講者の積極的な提案や議論を期待する。</p>									
【履修要件】									
なし（経済学の知識を前提にしない）									
【成績評価の方法・基準】									
レポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>経済実験に興味のある受講生には、京都産業大学の経済実験室での実験の便宜をはかる。（受講すべきかどうかも含めて）相談があれば、何でも気楽にoda@cc.kyoto-su.ac.jpに。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)	担当者氏名	関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	「人間とコンピュータとの共生」を考える								
【授業の概要・目的】									
この講義では、コンピューティング史において、システムと人間の関係がどのようにとらえられてきたのかについて考察する。歴史的には、人間はまず人間機械混成系（man-machine system）の一部の要素（human factor）とみなされ、やがて人間による処理への介入（human intervention）の研究を経て、「人間とコンピュータとの共生」概念が提示された後、現在のように、人間はシステムのユーザとみなされるようになっていった。そうした黎明期の概念の変遷を踏まえて、人間とコンピュータの関わりについて考える学問領域（Human Computer Interaction, HCI）の成立と発展の歴史について、当該分野における重要基本文献などを通じて検討する。									
【授業計画と内容】									
授業は基本的には歴史学的方法論で進めるが、必要に応じて、科学技術社会論の論点についても言及する。									
授業概要（各項目について1～3回程度の授業を行う）									
<p>オリエンテーション</p> <p>人間機械混成系（man-machine system）からHuman Factor研究へ</p> <p>入出力装置の開発とシステム概念の変化</p> <p>サイバネティクスとHCI分野の関係</p> <p>HCI基本文献の検討</p> <p>HCI分野黎明期の社会的背景</p> <p>まとめ</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主レポートによる（ただし、レポートの内容が不十分な場合には平常点評価（出席時の態度等）も加味する）。									
【教科書】									
適宜、授業内にプリント配布、およびウェブサイトにて資料をアップロードなどする。									
【参考書等】									
（参考書） 喜多千草 『インターネットの思想史』（青土社）ISBN: ISBN:4-7917-6021-2									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)	担当者氏名	情報学研究科 教授 奥乃 博						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	アルゴリズムとデータ構造入門								
【授業の概要・目的】									
<p>プログラムはデータ構造とアルゴリズムから構成される。本講義では、プログラミングについてコンピュータサイエンスの立場から論じる。プログラミング言語 Schemeによりプログラミングの基本概念について学ぶとともに、実際にプログラミングを経験する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>教科書第2章まですべての練習問題も含めて理解することを目指す。http://winnie.kuis.kyoto-u.ac.jp/~okuno/Lecture/ 参照。また、次の項目を講義する。</p> <p>(A) 教科書1章 手続きによる抽象化</p> <p>(B) 教科書2章 データによる抽象化</p> <p>(C) ソーティング(整列)アルゴリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 整列アルゴリズムの設計と解析 ・ 挿入ソート・選択ソート・シェルソート ・ クイックソートとピボットの選択法 ・ ヒープソート・マージソート ・ 辞書式順序・バケットソート・基数ソート 									
【履修要件】									
<p>学術情報メディアセンターで、演習する意欲があること。 タイプができ、タイプミスを発見する能力があれば、十分に授業にはついて行くことができます。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>試験70点、レポート30点(随意課題提出者は+)。中間試験を行うことがある。いずれも一切持ち込みはできない。レポートの必修課題は毎週の宿題、および、図形言語である。</p>									
【教科書】									
<p>ジェラルド・サスマン他著(和田英一訳)『計算機プログラムの構造と解釈』(ピアソン・エデュケーション) ISBN:489471163X Gerald Sussman et al 『Structure and Interpretation of Computer Programs』(MIT Press) ISBN: 0262510871 (http://mitpress.mit.edu/sicp/ に無料本があります) 英語の教科書はWebで公開されています。 教科書としては訳本より原著"Structure and Interpretation of Computer Programs"(MIT Press)を薦めます。本講義では教科書の前半の話題を取り上げ、後半は「プログラミング言語」(湯浅担当,前期)で取り上げます。</p>									
----- 情報・史料学(特殊講義)(2)へ続く -----									

情報・史料学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

なし

(関連URL)

<http://winnie.kuis.kyoto-u.ac.jp/members/okuno/Lecture/11/IntroAlgDs/>(平成23年度の本講義のHP)
<http://winnie.kuis.kyoto-u.ac.jp/members/okuno/Lecture/>(担当者の講義資料全体のHP(過去の情報あり))
<http://mitpress.mit.edu/sicp/>(オンライン版教科書(無料))
<http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/0262510871/photoinfo-22>(英語版教科書)
<http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/489471163X/photoinfo-22>(日本語訳の教科書)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

宿題を必ず行ってください。実力が付くことは間違いありません。
教員は夜24時までにはほぼ確実におりますので、面談が必要な場合にはメールで予約をお願いします。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	情報・史科学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)	担当者氏名	龍谷大学 理工学部 教授 岡田 至弘						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火5	授業形態	特殊講義
題目	文化資源デジタルアーカイブ								
【授業の概要・目的】									
デジタルアーカイブを活用した文化資料・史料解析方法を論じる。シルクロード文化資料（唐代の敦煌文書、トルファン文書）および、元・明代のアジア古地図アーカイブ、現代の文化資料として黒澤明デジタルアーカイブを用いて、新たな資料・史料解析の実際を学ぶ。ここから現在のデジタルアーカイブの機能とデジタルアーカイブシステムの限界を考察し、文化資料・史料研究に必要とされるデジタルアーカイブの新たな機能・方法を見出していくことを目的とする。									
【授業計画と内容】									
1：オリエンテーション＝デジタルアーカイブ実例による講義目的の説明 2：シルクロード資料DBに基づく漢文文書解析からの文化伝播 3：文化伝播を課題としてのワークショップ 4：古地図アーカイブ実例による空間アーカイブ構成 5：黒澤明デジタルアーカイブによるクロスメディアアーカイブ 6：デジタルアーカイブとミュージアム連携の紹介 7：デジタルアーカイブ活用課題としてグループに分かれて取り組む 8：グループ発表 9：まとめ									
【履修要件】									
知識があるに越したことはないが、積極的に発言し、考える態度が欲しい									
【成績評価の方法・基準】									
基本的にレポートの内容による。ごく常識的に、主張の独自性、有用性、説得性を評価する									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)	担当者氏名	花園大学 文学部 講師 師 茂樹						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	コンピュータとナラティブ								
【授業の概要・目的】									
Digital Humanitiesの下位領域のひとつとして、Multivariant NarrativeやDigital Poetryなどと呼ばれる、コンピュータやインターネットを前提とした文学（コンピュータゲームを含む）の創作活動や批評理論などについての研究がある。この領域は、日本の同種の学界ではほとんど関心が持たれていないが、フィクション論やメディア論など、人文学と情報学が交錯する研究分野の方法論全般にかかわる重要な問題をはらんでいると思われる。この講義では、この研究領域に関する入門的な論文をいくつか通読することで、Digital Humanities全般についての理解を深めることができればと思う。									
【授業計画と内容】									
A Companion to Digital Humanities (Blackwell, 2004) や A Companion to Digital Literary Studies (Blackwell, 2008) などに収録された論文をピックアップし、担当者を決めて読んでいく。1論文あたり1～2週で読んでいきたい。									
とりあげる論文は受講生と相談のうえ決めたいが、以下のようなテーマのものを予定している。 Multivariant Narratives Fictional Worlds in the Digital Age Interactive Fiction and Storyspace Hypertext Computer Games as Narrative Digital Poetry Robotic Poetics									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
読解担当および出席状況により評価するが、授業中での積極的な姿勢も考慮に入れる。									
【教科書】									
プリントを配布する予定。									
【参考書等】									
(参考書) Susan Schreibman他 『A Companion to Digital Humanities』 (Blackwell) ISBN:1405168069 Ray Siemens他 『A Companion to Digital Literary Studies』 (Blackwell) ISBN:1405148640 Marie-Laure Ryan 『Avatars of Story』 (University of Minnesota Press) ISBN:0816646864									
(関連URL)									
http://www.digitalhumanities.org/companion/ (A Companion to Digital Humanitiesのオンライン版) http://www.digitalhumanities.org/companionDLS/ (A Companion to Digital Literary Studiesのオンライン版)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)	担当者氏名	北海道大学 大学院文学研究科 教授 中戸川 孝治
---------------	---	-------	-----------------------------

配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
------	-------	-----	---	-----	------	-----	------	------	------

題目	集合、論理、圏：基礎の哲学
----	---------------

[授業の概要・目的]

数、図形、集合、対応といった、時空のなかで位置を指定できない対象はどのような意味で在る、といえるのか(いえないのか)。論理学の法則(排中律、推移律、分配法則、交換法則など)や数学の基本法則(平行線公理、選択公理、外延性公理、置換公理など)は、改訂の可能性があるのか。このような問は、哲学の伝統のなかで形を変えながら繰り返し取り上げられてきました。この講義では、これらの問へ答える手がかりを、集合論、第1階述語論理、圏論の創造・発展に寄与した研究者達の方法態度の選択の中に求めます。すなわち、上述の三分野の発展(とその応用)が、伝統的な哲学の諸問題を考察するうえで、何らかの手がかりや示唆をあたえるのであれば、それらがどのような解決を志向していると考えられるか、これを本講義の基本となる問とします。

数理思想史の面では、19世紀中葉以降のリーマンとデデキント、ガウス以降の展開に注目する。(とりわけ、ガウス曲率が曲面の等長変換で不変であるという「注目すべき定理」(Theorema egregium, merkwuertige Lehrsatz)から瞥見される、「曲面を立体の境界としてではなく、それ自身1次元下がった個体として考える」(佐竹一郎、現代数学の源流(下)朝倉書店、p.21)新しい着想が、その後さらに多様体へと展開される経緯を検討する。19世紀末から20世紀初頭にかけての位相数学の展開がかならずしもカントール集合論の枠内で発生したのではないことを(Hausdorff等を手掛かりに)確認した後、Mannichfaltigkeitと判断における統一作用の関係を、フレーゲ及び同時代の西南学派における判断論の展開等を参照しながら探究する。さらに、これらの哲学の流れと、いわゆるフレーゲ以降の分析哲学(およびタルスキー意味論)とがどのように関係するかを理解するために必要な範囲で、20世紀後半における多様体研究の展開を追い、層の圏、前層の応用、クリプケ・フレーム等について考察する。その後で、田邊元の「数理の歴史主義展開 数学基礎論覚書」(とりわけ、9節以降および後期)における議論を、F.W.Lawvereによるトポスの意味の探究、及び、層の哲学(Philosophy of Sheaves)への探究のなかで理解しようと試みる。

[授業計画と内容]

授業は、大きく三つに分けられる。第一部では、カントール素朴集合論、デーデキントの貢献、公理的集合論の形成過程をとりあげる。構成的宇宙、巨大基数の幾つかに言及し、それらの仮定からえられる帰結・応用について言及する。抽象的実体としての集合の存在はどのような条件のもとで受け入れ可能となるのか、検討する。

第二部では、G.フレーゲ以降の論理学の形成の過程をとりあげる。新しい論理学の創出にあたり、論理学の基礎に横たわる諸問題を彼がどのように切り分けて行ったのか、分析する。ここでは、とりわけ、述語の指示するものがいったいどのような在り方をするのか、関数(function)の在り方を手がかりにしながら、比較・検討を進める。証明可能性と論理的導出関係という概念の定式化において想定されていた方法論における両者の相違を押さえた後で、証明論とモデル理論の方法態度の違いが何処に由来するのか、両者の指向する哲学の相違まで敷衍し考察する。

第三部では、全射、単射、半順序、モノイドを例にとり、圏論と集合論による表現の相違を比較する。functionの機能、操作といった側面に注目し、集合とどのように在り方が異なるか、探求する。そのうえで、非標準論理(とりわけ、部分構造論理)が非集合論的、非タルスキー意味論を志向しているか、議論する。

さらに、2006年に、G.Hellmannが提起した問題「圏論は数学的構造主義のための枠組みを提供するか」という問いをめぐって、S.Awoodey, C.McLarty, E.Landryr等の反応を概観したあと、圏論はそのような枠組みを提供できないというA.Rodinの否定的見解を検討する。数理思想史の面では、ガウス以降の展開を近・現代数学のメインストリームを形成する数理思想史的背景として採ったとき、

情報・史料学(特殊講義)(2)へ続く

情報・史料学(特殊講義)(2)

リーマンから (Lawvere を介しての) グロタンディーク、(代数的多様体を含む) 多様体研究の展開のなかで、集合論 (巨大基数にかんする諸公理もふくむ) と論理 (とりわけ、ヒルベルト証明論、タルスキー意味論) がどのような位置をしめるようになるか、検討する予定である。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・基準]

出席とレポート

[教科書]

使用しない

講義のなかで導入する諸概念は、できる限り講義のなかで定義し、説明するよう心がける。本講義により、集合論、論理学、圏論への入り口が幾分でも入りやすくなることを願っている。また、これらの理論が応用される諸分野の方法論的基礎についても、各自が自分なりの見地から批判的に考察できるようなる手がかりをいくらかでも提供できれば、とも思われる。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))

議論への積極的な参加を期待する。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(演習) Humanistic Informatics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	田辺元を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>手稿・日記などの一次資料を通して過去の偉大な思索者の思想を読み解く。今年度の対象は、哲学者田辺元の種の論理が誕生した昭和9年の特殊講義「認識の形而上学」の講義準備ノートである。これは田辺の読みにくい筆跡のため、田辺元没後約50年間、哲学の専門家にも読めなかった史料だが、史料分析用ITツールを利用することにより、田辺哲学を理解していない学部学生でも十分解読ができている。演習を通して、まだ誰も読んでいない史料を始めて読むことの面白さを経験してもらう。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>まず史料の背景を説明する講義を行い、その準備のもとで演習を行う。史料読みの演習では、史料のオリジナルではなく、その電子画像を使ひ、難解な崩し字を読むために、歴史史料研究用のツール SMART-GS を使う。出席者の知識や能力に応じて、講義と演習の比重は変化する。史料2枚（原稿用紙2枚）程度を、2名のチームで担当し、1チームが2、3週を担当することを計画しているが、参加者の人数などで変化する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
担当箇所の報告資料と発表の様子で評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
<p>手稿分析などに史料分析用ソフトウェアSMART-GSを多用する。講義参加者用のノートPCを数台用意しているが、自習などを考慮し自分のPCを持ってくるとよい。データなどは、外付けハードディスクに入れて貸与する。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	情報・史科学(演習) Humanistic Informatics (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	合理性・近代性とその反転								
【授業の概要・目的】									
<p>ウェーバー社会学の合理性の理論、近代化、脱魔術化は古典的であるが、これに関連する基本的文書をいくつか読む。テーマは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マクドナルド化とディズニーランド化 2. 色々なモダニティ：リキッド・モダニティ、ポストモダン、再帰的近代、など 3. ウェーバーの近代化理論の古典 									
【授業計画と内容】									
<p>読む文書は参加者のレベルに合わせて決める。初級レベルでは、リッツアのマクドナルド化やプライマンのディズニーランド化の書籍の和訳を使う。語学に自信のある上級者はマックス・ウェーバーのドイツ語原著を是非一度読んでみて欲しい。</p> <p>毎回担当者を決め、報告資料を作成・提出して、それをもとに報告してもらう。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。特に発表や議論の内容・仕方により採点する。									
【教科書】									
<p>参加者のレベルや希望により決めるが、一番の基本（初級）の教科書は次の三つ： ジョージ・リッツア，マクドナルド化した社会 果てしなき合理化のゆくえ 21世紀新版, 早稲田大学出版部, 2008 ジョージ・リッツア，消費社会の魔術的体系, 明石書店, 2009 アラン・プライマン，ディズニー化する社会, 明石書店, 2008</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	情報・史科学(卒論演習) Humanistic Informatics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋				
配当学年	4回生のみ	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火1	授業形態	卒論演習
題目	卒論演習								
【授業の概要・目的】									
卒業論文執筆を目的とする研究についての演習を行う。卒業論文提出予定の4回生は必ず履修しなくてはならない。									
【授業計画と内容】									
卒業論文執筆を目的とする研究を指導教員の下で行う演習である。演習の内容は、当初は研究の方向の妥当性、研究の方針(計画)、そして、研究の方法などの指導となる。最初の時期は、これらの相談や、調査・研究結果の報告が演習の主な内容となる。通常の演習では、報告は断片的・部分的なものとなる。しかし、前期の終わりか後期の最初までの時期を目処の中間報告会を開催するので、その際には、論文執筆の最終段階に向けて、まとまった内容の報告を行わねばならない。また受講生各自の研究の進捗状況などを個別に考慮して、11から12月を目処に、何度か中間報告会の形式の包括的報告を行うように指示する。									
【履修要件】									
卒業の見込みがあること。									
【成績評価の方法・基準】									
途中経過の発表等で評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
卒業論文提出予定の4回生は必ず履修しなくてはならない。卒業論文だけでなく、この演習にも合格しないと卒業ができないので注意すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

二十世紀学専修

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 小野澤 透				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	冷戦とアメリカ外交								
【授業の概要・目的】									
アメリカ外交文書の具体的な分析に即して、冷戦史の諸問題を考察することにより、アメリカ外交史研究の学説史や方法論を修得する。									
【授業計画と内容】									
冷戦を歴史的に理解しようとするとき、それを米ソ対立を基調とする国際政治の枠組みと捉えるだけでは不十分である。冷戦とは、米ソ間の対立・競争の契機と、東西それぞれの陣営内における超大国を頂点とする政治的・経済的・軍事的統合およびシステムを創造・維持・改変しようとする契機が、国際政治のみならず、多くの国々の政治・経済・社会のあり方をも大きく規定する世界秩序の枠組みであった。 以上のような問題意識に立ち、本年度は、昨年度に引き続き、1950年代における、米・中東関係にかかわる諸問題を検討する。おおまかな内容は以下のとおり。									
<ol style="list-style-type: none"> 1．アメリカと中東（概観） 2．英国の帝國的秩序とアメリカ 3．地域的秩序構想の形成（1950-52） 4．地域的秩序の追求（1953-1957） 5．西側陣営統合政策の挫折（1957-1958） 6．新たな地域的政策の枠組み（1958-1963） 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末のレポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 五十嵐武士編 『アメリカ外交と21世紀の世界』（昭和堂）ISBN:4-8122-0623-5									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 HAYASHI,Brian				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	近代アメリカ史								
[授業の概要・目的]									
his course will cover the political, diplomatic, social, and cultural history of the United States, from the Civil War to the present. It is designed to provide you with a working knowledge of American history.									
[授業計画と内容]									
The course covers a broad range of topics, but in general we will cover the political and diplomatic in one class and alternate with the social and cultural history of the United States in the following class. The lectures are in English but the class discussions, for which I expect all students to participate in, can be done in Japanese or English, depending on the individual student's preference. Assigned readings are to be done before class and some videos/DVDs related to a particular week's lecture topic will be assigned for viewing prior to class. The first half of the course will cover up to the 1930s and the second half will reach the present day.									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
Your grade is based on three things--a written report (English or Japanese), an oral report (English or Japanese), and in-class discussions.									
[教科書]									
紀平英作 『アメリカ史』 (山川出版社) (printed handouts, and some video/DVDs to watch.)									
[参考書等]									
(参考書) Mary Beth Norton 『A People and a Nation』									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Office hours: Fridays, 15:00-16:30 and immediately after class Location: F407 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 准教授 石川 禎浩						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	中国革命史・中国共産党史の諸問題								
【授業の概要・目的】									
<p>中国革命史をもって中国近現代史に代えるような歴史観は、すでにそれ自体が過去の遺物になっている。しかし、だからといって、中国革命や中国共産党の歩みが歴史的分析の対象から除かれるということはありません。本授業においては、なお未解明の史実の多い中国革命史や中国共産党史の重要問題を、歴史学的手法により再検討する。そのさい、第一次資料を重視し、歴史の現場に立ち返ることを重視するのにもさることながら、革命叙述や歴史の通説が如何にして形成されてきたのか、という点にも十分な検討を加える。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、1課題あたり3-4週の授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マルクス主義の伝播と中国共産党の結成 2. 国共合作と中国国民革命の展開（ソ連・コミンテルンの動向） 3. 孫文の死去とその遺書をめぐる確執 4. 中国共産党の農村根拠地における活動 5. 延安整風運動と毛沢東の権力掌握、そして歴史叙述の書き換え 6. 中国共産党における歴史文献・政治文献の編纂 7. 政治と文学のせめぎ合い（小説『劉志丹』事件を例に） 8. 「建国以来の党の若干の歴史問題についての決議」の問題点 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末のレポート									
【教科書】									
関連資料・プリントを授業にあわせて適宜配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 須田 千里				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	日本近代文学の注釈的研究								
【授業の概要・目的】									
<p>山田美妙・泉鏡花の小説を読むことを通じて、明治文学について理解を深めることを目標とする。</p> <p>山田美妙は言文一致の「です・ます」体を創出したことで著名だが、こうした初期以外の文学作品については研究が進んでいない。この講義では、本格的な時代小説や少年文学、滑稽小説が目立つ明治20年代後半の作品を中心に精読する。</p> <p>後期は、泉鏡花の作品中、あまり論文が書かれていない作品をいくつか取り上げて精読する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>下記の内容について1～3週で講義を行う予定。授業の進行に応じて、内容に若干出入りするところがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、山田美妙の経歴、文学的特徴。 2、『雪折竹（利休と太閤）』 3、『猿面冠者』 4、『雨の日くらし』 5、『千里駿馬之助（徳川初年時代小説）』 6、『兜菊』 7、『丸二ツ引新太平記』 8、『家庭教育 園の二葉』 9、『みゝずばれ』 10、泉鏡花の経歴、文学的特徴。 11、『化銀杏』 12、『錦帯記』 13、『柳小島』 14、『X 螻螂鯁鉄道』 15、『怪語』 16、『笈摺草紙』 17、『梟物語』 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期末・後期末の各レポートの点数の平均点。単位の数え間違いなどにより卒業が懸かっているも、締め切り後のレポートは受け取らない。									
----- 二十世紀学(特殊講義)(2)へ続く -----									

二十世紀学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

積極的な授業参加、発言を希望する。
オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	二十世紀学（特殊講義） Twentieth Century Studies (Special Lectures)	担当者氏名	教育学研究科 准教授 佐藤 卓己						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木1	授業形態	特殊講義
題目	メディア文化論								
【授業の概要・目的】									
<p>メディア論を中心に、現代社会のなりたちを世界システムとの関連で考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」</p> <p>マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 都市基盤の上に成立した大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
第1-3回 メディア社会とは何か 第4回 メディア史としてのコミュニケーション研究 第5回 メディア都市の成立 第6章 出版資本主義と近代精神 第7回 大衆新聞の成立 第8回 視覚人間の国民化 第9回 宣伝のシステム化と動員のメディア 第10回 ラジオとファシスト的公共性 第11回 トーキー映画と総力戦体制 第12回 テレビによるシステム統合 第13回 情報化の未来史 第14回 脱・情報化社会へ 第15回 試験									
【履修要件】									
メディアに関心があり、情報への感度が高いこと。									
【成績評価の方法・基準】									
試験を行う。評価基準については、講義中に説明する。									
【教科書】									
佐藤卓己『現代メディア史』（岩波テキストブックス・1998）									
【参考書等】									
（参考書） 佐藤卓己『現代史のリテラシー 書物の宇宙』（岩波書店・2012）（本講義に関連する読書案内。）									
----- 二十世紀学（特殊講義）(2)へ続く -----									

二十世紀学（特殊講義）(2)

佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店・2009年）（メディア史＝メディア論の発想法について、参照のこと。）

佐藤卓己『輿論と世論 日本的民意の系譜学』（新潮選書・2008年）（「ヨロン」と「セロン」の区別について、参照のこと。）

（関連URL）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>（メディア文化論研究室HP）

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

メディア論の初学者は、佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』（岩波新書・2006年）を、歴史学の初学者は、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波新書・2009年）を、事前に読んでおくことが望ましい。

なお、テキストの中国語訳に佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学経典教材中文版）北京大学出版社2004年がある。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院文学研究科 教授 清水 康次				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	芥川龍之介の文学								
【授業の概要・目的】									
<p>近代文学の研究にはいくつかの方法があり、研究の目的やテーマによって行う作業も発想も異なってくる。芥川龍之介の作品を題材とし、1つ1つの方法にどのような手続きが必要で、何が明らかになってくるのかを理解し、それらの方法に習熟していくことが授業の目的の1つである。</p> <p>芥川は、日本近代文学において、短篇小説という形式を確立し、さまざまな実験を行った作家である。その緊密な作品世界の形成には、西洋文学、中国文学、日本古典文学、日本の同時代の文学が関わる。この大正期を代表する作家と作品にさまざまな方向から光を当て、芥川文学の特質を明らかにしていくことが、もう1つの授業の目的である。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業を行う。受講生の発表する授業も数回組み込みたい。なお、課題は状況に応じて、順序・内容を変更する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「羅生門」の構造と主題 2. 「羅生門」の形成過程 3. 「鼻」の構造と主題 4. 「芋粥」の形成過程と主題 5. 初期作品の創作方法 6. 文壇デビューまでの道のり 7. 「偷盗」という作品 8. 「戯作三昧」の世界 9. 語りの方法の採用 10. 「地獄変」の構造と主題 11. 「奉教人の死」の典拠と主題 12. 語りの方法によるさまざまな実験 13. 「藪の中」の問題 14. 書誌とテキストクリティック 15. 作品論とテキスト論 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
各期末のレポートに平常点を加味する。									
----- 二十世紀学(特殊講義)(2)へ続く -----									

二十世紀学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業はプリントを配布して進めるが、ちくま文庫本『芥川龍之介全集』第1巻、第2巻を購入して、適宜授業に持参することが望ましい。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	同志社大学 法学部 教授 力久 昌幸				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	現代イギリス政治：歴代政権のリーダーシップに注目して								
【授業の概要・目的】									
この講義では、第二次世界大戦後から今日に至るまでのイギリスの歴代政権について、ヨーロッパ諸国との関係やEUに見られるような欧州統合への対応などに注目しながら、内政・外交のさまざまな側面から検討します。特に、戦後の衰退に歯止めをかけ、再び活力を取り戻すためにイギリスの歴代政権が実施したさまざまな改革について、首相の政治的リーダーシップのあり方に焦点をあてて検討します。戦後のイギリスが直面した内外の課題、および、それに対処するための首相のリーダーシップについて理解を深めてもらうことがこの授業の目的です。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマに関して、1テーマあたり1～2週の授業をする予定です。									
1 イントロダクション：イギリス現代政治の基本枠組 2 戦後政治の開幕：アトリー労働党政権 3 帝国後のイギリス：チャーチル保守党政権 4 スエズ危機：イーデン保守党政権 5 豊かな社会：マクミラン/ダグラス＝ヒューム保守党政権 6 現代化をめざして：ウィルソン労働党政権 7 Uターン：ヒース保守党政権 8 労働組合の時代：ウィルソン/キャラハン労働党政権 9 戦後コンセンサスの破壊：サッチャー保守党政権 10 新自由主義的改革の継続：メージャー保守党政権 11 「大統領型首相」とニュー・レイバー：ブレア/ブラウン労働党政権 12 連立の時代：キャメロン保守自民連立政権									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末レポート評価（80％）、平常点評価（20％） 平常点評価については、不定期（3～4回程度）に行う小テストにもとづいて行います。									
【教科書】									
梅川正美・阪野智一・力久昌幸（編）『イギリス現代政治史』（ミネルヴァ書房）ISBN: 9784623056477									
【参考書等】									
（参考書） 細谷雄一（編）『イギリスとヨーロッパ：孤立と統合の二百年』（勁草書房）ISBN:9784326351442 力久昌幸『イギリスの選択』（木鐸社）ISBN:9784833222334 高安健将『首相の権力』（創文社）ISBN:9784423710708 その他、適宜授業中に紹介します。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	同志社大学 法学部 教授 力久 昌幸				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	現代イギリス政治：統治機構，政党，政策を中心に								
【授業の概要・目的】									
この授業では，1990年代以降，急速に変化しつつあるイギリス政治の現状について，議会や政府などの統治機構，スコットランド，ウェールズ，北アイルランドに対する分権改革，選挙制度と政党システム，そして，外交，経済，福祉など各種政策を取り上げて検討します。グローバル化や欧州統合の動きを受けて変化しているイギリス政治の現状に対する理解を深めることが，この授業の目的です。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業をする予定です。									
1 現代イギリス政治の概観									
2 議会と君主制									
3 政府：首相と内閣を中心に									
4 行政機構									
5 分権：スコットランド，ウェールズ，北アイルランド									
6 外交政策									
7 経済政策									
8 福祉政策									
9 選挙制度									
10 保守党									
11 労働党									
12 自由民主党									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末レポート評価（80％），平常点評価（20％） 平常点評価については，不定期（3～4回程度）に行う小テストにもとづいて行います。									
【教科書】									
梅川正美, 阪野智一, 力久昌幸（編）『現代イギリス政治』（成文堂）ISBN:9784792332129									
【参考書等】									
（参考書）									
梅川正美 『イギリス政治の構造』（成文堂）ISBN:4792331439									
小堀眞裕 『サッチャリズムとブレア政治』（晃洋書房）ISBN:4771016399									
近藤康史 『左派の挑戦』（木鐸社）ISBN:4833223147									
その他，適宜授業中に紹介します。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	立命館大学 文学部 教授 高橋 秀寿				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	映像と記憶 - - 戦争・暴力・表象								
【授業の概要・目的】									
20世紀の歴史は、ドキュメンタリーであれ、フィクションとしての映画であれ、映像を通して深く現代人の脳裏に刻まれ、歴史的現実を作り上げ続けている。この講義では、20世紀、特に第二次世界大戦後に戦争と暴力の歴史がどのように映像を通して表象され、国民国家と国民を形成してきたのかを明らかにしていく。その際に、授業担当者の専門分野であるドイツ現代史を中心に講義を進めていくが、日本やほかの国々の映像・映画も取り上げていく。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業をする予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> 1．イントロダクション 2．史料としての映像・映画 3．映像・映画の歴史的機能と役割 4．第二次世界大戦前における映画と記憶 5．第二次世界大戦後における映画と記憶 - - 戦争の記憶 6．第二次世界大戦後における映画と記憶 - - ホロコーストの記憶 7．戦後の終わりとは映画と記憶 8．総括 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートの内容によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
基本的に最小限度の基礎知識があれば理解できるような授業内容にするが、レポートでは欧米だけではなく、日本に関する戦後史と記憶の関係の叙述を求めるので、講義の流れとともに日本戦後史の自主的な学習が要求される。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	金沢大学 国際学類 教授 梶川 伸一				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	レーニン時代の民衆支配								
【授業の概要・目的】									
<p>いわゆる「ロシア革命」の時代から100年近くが過ぎようとしている。アーカイブが開放されて20年が経ち、様々な革命神話からの解放が求められている。この授業では「赤色テロル」をキーワードに、1917-22年に至るレーニン時代の民衆支配の現実を明らかにする。同時に、ネップ成立についての新しい解釈を提示し、ボリシェヴィキ権力の本質に触れようと思う。全体的構造の中から、どのように歴史を解釈するかという方法を学んでほしい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1週 包括的説明 2～4週 「十月革命」は存在したか 5～7週 穀物戦争 8～10週 戦時共産主義からネップへ 11～14週 レーニン支配の意味するもの 学生との対応の中で、このスケジュールは変更する可能性がある。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期筆記試験による									
【教科書】									
未定									
【参考書等】									
<p>(参考書) メリグーノフ 『ソヴェト=ロシアにおける赤色テロル』(社会評論社)(訳者による「解説」を参照してほしい。) 梶川伸一 『幻想の革命』(京都大学学術出版会) 梶川伸一 『ボリシェヴィキ権力とロシア農民』(ミネルヴァ書房)</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	佛教大学 歴史学部 教授 原田 敬一				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	日本近代都市史研究の再検討								
【授業の概要・目的】									
日本近代都市史研究は若い学問である。1980年代に始まり、ようやく30年の研究蓄積をもった。それらを振り返りながら、現代の研究課題に迫っていく。授業は資料プリントを多用して行うので、欠席者は自らプリント入手に努力してほしい。									
【授業計画と内容】									
授業計画と内容 1．日本近代都市史研究の現在 2．近世都市から近代都市へ、さらに現代都市へ 3．近代都市の政治史 4．近代都市社会について 5．近代都市の文化について 以上の各テーマにつき、5，6回程度の講義を行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末レポートによる。授業を踏まえた課題提出になる。その前提で自由に叙述したレポートを求める。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 近代都市史に関する研究書を読み、授業中に質問することを歓迎する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)		担当者氏名	関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	「人間とコンピュータとの共生」を考える								
【授業の概要・目的】									
この講義では、コンピューティング史において、システムと人間の関係がどのようにとらえられてきたのかについて考察する。歴史的には、人間はまず人間機械混成系（man-machine system）の一部の要素（human factor）とみなされ、やがて人間による処理への介入（human intervention）の研究を経て、「人間とコンピュータとの共生」概念が提示された後、現在のように、人間はシステムのユーザとみなされるようになっていった。そうした黎明期の概念の変遷を踏まえて、人間とコンピュータの関わりについて考える学問領域（Human Computer Interaction, HCI）の成立と発展の歴史について、当該分野における重要基本文献などを通じて検討する。									
【授業計画と内容】									
授業は基本的には歴史学的方法論で進めるが、必要に応じて、科学技術社会論の論点についても言及する。									
授業概要（各項目について1～3回程度の授業を行う）									
<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション 人間機械混成系（man-machine system）からHuman Factor研究へ 入出力装置の開発とシステム概念の変化 サイバネティクスとHCI分野の関係 HCI基本文献の検討 HCI分野黎明期の社会的背景 まとめ 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主レポートによる（ただし、レポートの内容が不十分な場合には平常点評価（出席時の態度等）も加味する）。									
【教科書】									
適宜、授業内にプリント配布、およびウェブサイトに資料をアップロードなどする。									
【参考書等】									
（参考書） 喜多千草 『インターネットの思想史』（青土社）ISBN:ISBN:4-7917-6021-2									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 小関 隆				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	イギリス史における第一次大戦(その4) : 「未完の戦争」とアイルランド								
【授業の概要・目的】									
2008年度以来の継続となるが、今年度もイギリス史における第一次大戦について考える。第一次大戦は多くの意味で「未完の戦争」「うまく終わりそこなった戦争」であり、この戦争を理解するうえでは、戦間期や第二次大戦との連続性の視点がきわめて重要になる。大まかには、前期の授業で戦後の新しい国際秩序の構築過程を概説し、この概説を踏まえて、後期の授業で大戦中から1920年代にかけてのアイルランド問題の展開を検討する。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマについて、各々1～4回程度の授業を行う予定である。									
1. 「未完の戦争」としての大戦									
2. パリ講和会議									
3. ヴェルサイユ条約									
4. 国際連盟									
5. ロカルノ条約									
6. イースター蜂起									
7. アイリッシュ・コンヴェンション									
8. 独立戦争									
9. アイルランド自由国と内戦									
10. その他									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
試験ないしレポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
授業中に紹介する									
小関隆『徴兵制と良心的兵役拒否：イギリスの第一次世界大戦経験』（人文書院、2010年）をはじめ、人文書院刊のシリーズ「レクチャー：第一次世界大戦を考える」全6冊から、1冊でも2冊でも読むことが望ましい。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
予習よりも復習をお願いします。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習 I) Twentieth Century Studies (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水4	授業形態	演習
題目	現代文化の諸問題 A								
【授業の概要・目的】									
各自が現代文化に関する研究文献（学術書ないし学術論文）を任意で選び、その内容を報告する。その後、全員によるディスカッションをおこなう。現代文化の諸問題を幅広く学ぶことが目的である。									
【授業計画と内容】									
1回目：テーマの選び方、および、文献調査方法について講述する 2回目以降：各回とも、1名ないし2名の受講生が、任意で選んだ文献について、著者の経歴、内容、評価、当該テーマの関連文献、について紹介する。そのうえで、全員によるディスカッションをおこなう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） なし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワーは火曜14時～16時。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習 I) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水4	授業形態	演習
題目	現代文化の諸問題 B								
【授業の概要・目的】									
各自が現代文化に関するテーマを任意で選び、それについてのリサーチ結果を報告する。その後、全員によるディスカッションをおこなう。現代文化に関する研究テーマの幅広い学習と、研究論文執筆につながりうるテーマの選択眼涵養を目的とする。									
【授業計画と内容】									
1 回目：テーマの選び方について講述する 2 回目以降：各回とも、1 名ないし 2 名の受講生が、任意で選んだテーマについて、研究意義、研究史の整理、論旨、関連文献を報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、報告の問題点を洗い出し、研究論文執筆のうえで今後取り組むべき課題を考える。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは火曜 14 時～16 時。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 水野 直樹				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	演習
題目	朝鮮近現代史関係資料の講読								
【授業の概要・目的】									
朝鮮近現代史を学ぶために必要な文献解読の方法を身につけるとともに、資料の探索・調査・収集のための情報・ツールなど（目録類、インターネットリソース）を解説する。									
【授業計画と内容】									
朝鮮近現代史に関わる朝鮮語資料を選んで解読する。後期には、受講者の関心に応じて新聞記事（植民地期から現代まで）を選び、それぞれが解読・解説する形式で進める。									
【履修要件】									
初級程度の朝鮮語を習得していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
プリントなどを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
http://wwwsoc.nii.ac.jp/chosenshi/link/ (朝鮮史研究のためのインターネット利用手引き（朝鮮史研究会）)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦				
配当学年	2,3回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3	授業形態	演習
題目	マンガ・アニメ学入門								
【授業の概要・目的】									
マンガおよびアニメに関する内外の研究文献を輪読する。マンガ学およびアニメ学の諸テーマを幅広く学び、さらに、その方法論に通暁することをめざす。									
【授業計画と内容】									
1 回目：マンガ・アニメ学の研究文献の紹介と、レジユメの作り方などの詳しい説明、研究発表の一例を示す									
2 回目～5 回目：伊藤剛『テヅカ・イズ・デッド ひらかれたマンガ表現論へ』の輪読・ディスカッション									
6 回目以降：各回とも、2 名ないし3 名の受講生が、任意で選んだ研究文献について、内容の紹介と評価をおこなう。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該文献の問題点を洗い出し、さらに研究を進める場合の課題を考える。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
伊藤剛『テヅカ・イズ・デッド』（NTT出版）ISBN: 4757141297									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワーは火曜14時～16時									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 客員准教授 福間 良明				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	後期	曜時限	水4,5	授業形態	演習
題目	「戦争の記憶」のメディア史								
【授業の概要・目的】									
戦後日本のメディアにおける「戦争の語り」を検証しながら、戦後の戦争観の変容プロセスやその社会背景について考察する。授業では、研究紹介や戦後思想を適宜扱うほか、メディア（映画・ドラマ・ドキュメンタリー・新聞・戦記・マンガ・観光・博覧会・博物館等）の分析・批評に重点を置く。									
【授業計画と内容】									
授業の形式は、受講者による発表とディスカッションを主とする予定である。 授業計画は以下の通り（ただし、履修者の数や要望も踏まえながら、一部変更の可能性もある）。 第1回：ガイダンス，文献・映像資料の紹介 第2回：事例紹介と分析視角の紹介（映像資料等を用いながら） 第3～5回：「記憶のメディア学」に関連する文献紹介の批評（輪読） 第6～14回：メディア資料（映画・新聞・雑誌等々）の分析・批評									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表と期末レポートで評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 野上元・福間良明編 『戦争社会学ブックガイド』（創元社）（2012年3月刊行予定） 福間良明 『焦土の記憶：沖縄・広島・長崎に映る戦後』（新曜社）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<ul style="list-style-type: none"> ・関連する文献や映画等については、初回授業時に紹介するので、自学自習に努めること。 ・特定の時間帯にオフィスアワーを設けることはしませんが、申し出があれば、授業後の時間に質問・相談等々に対応します。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	NHKエンタープライズ エグゼクティブプロデューサー 山登 義明				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3,4,金3,4 月末週	授業形態	演習
題目	映像メディア論 A								
【授業の概要・目的】									
映像メディアの手法というものをドキュメンタリー番組制作の視点から捉える。本演習では、企画、取材、編集、発表を実際に体験しながら番組を一本作り上げ、それを通して映像の構造や意味を考察する。									
【授業計画と内容】									
<ol style="list-style-type: none"> 1、オリエンテーション：多メディア時代における映像メディア 2、企画研究：主題論、時代をどう読むか 3、企画の立て方：ヒト・ウゴキ・ジダイというテレビ的発想法 4、取材の技法：取材者の姿を消す（透明人間化）、シネマヴェリテ 5、リサーチと取材：本番前に十全な調査。主人公のキャラクターなど 6、映像編集の技法：モンタージュ、ナラティブ（語り口） 7、映像編集：いくつもバージョンを作り変え、他者に見せる 8、ポスト＝プロダクション：ナレーション、音響効果、テロップなど 9、作品発表と評価：他者は作品（テキスト）をどう見るか 									
【履修要件】									
テレビドキュメンタリー、特にNHKスペシャルの視聴。									
【成績評価の方法・基準】									
ドキュメンタリー制作は一見遊びに似ている。授業に出席しようとしまいと作品が出来ればいい。だが、授業で毎回教示するのはテレビの現場の智恵であり最新の技法だ。									
【教科書】									
山登義明 『ドキュメンタリーを作る』（京大学術出版会）									
【参考書等】									
（参考書） エリック・バーナウ 『世界ドキュメンタリー史』（日本映像記録センター）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
さまざまなメディアが跋扈するなか、映像メディアの基本は同床。ここでの手法は応用展開が可。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	NHKエンタープライズ エグゼクティブプロデューサー 山登 義明				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
題目	映像メディア論 B								
【授業の概要・目的】									
映像は現代の暮らしに大きな影響を与えている。作為であれ不作為であれ映像は操作されて視聴者に届けられる。ドキュメンタリーの過去の作品10本余を取り上げて、作り手の意図、視点を読み解いていく。									
【授業計画と内容】									
1、オリエンテーション：テレビという文化の歴史 2、ドキュメンタリーとは何か：虚構と事実の関係 3、番組のジャンル：フィクション、エンターテインメントと並存する事実番組 4、ヒューマンドキュメンタリー：ヒトを描く、ウゴキ、時代を掴む 5、主題としての戦争：亀井文夫の映画と比べながら 6、戦争の記憶：8・15をめぐって編成された作品群 7、ドキュメンタリーの演出とは何か：ヤラセの構造と風土 8、他のメディアと融合する：マンガ、アニメ、CG、ネットを活用する									
【履修要件】									
藤子不二雄Aの『まんが道』か『愛 しりぞめし頃』を読むこと									
【成績評価の方法・基準】									
受講後のレポート									
【教科書】									
山登義明 『テレビ制作入門』（平凡社） 河島伸子 『コンテンツ産業論』（ミネルヴァ書房）ISBN:4623055620									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
なるべく、同一教員の「映像メディア論A」を受講しておくこと。 集中講義なので「オフィスアワー」はとくに設けません。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 村上 衛				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	演習
題目	在中国イギリス領事報告を読む								
【授業の概要・目的】									
中国近代の社会・経済に関する英文史料を精読する。英文史料を読むことによって外からの目を利用しつつ、中国近代社会経済史に対する理解を深める。さらに、英文史料の扱い方、長所・短所などを理解し、中国近代史を研究するにあたって利用する史料の可能性を広げ、また史料操作能力の向上を図る。									
【授業計画と内容】									
イギリス外交文書のうち、在中国イギリス領事の報告（FO228）を精読する。具体的には、商業紛争、海事関係・華人関係の紛争など、社会・経済に関わる紛争を取り上げる。必要に応じてFO228に含まれている英文史料に対応する漢文史料も読む。なお、史料の内容は非常に細かいものが多いため、講義形式の解説を加え、史料を中国近代史の中に位置づけていく。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
テキストはコピーして授業の際に配布									
【参考書等】									
（参考書） 坂野正高・田中正俊・衛藤藩吉編 『近代中国研究入門』（東京大学出版会） 岡本隆司 『近代中国と海関』（名古屋大学出版会） 本野英一 『伝統中国商業秩序の崩壊 不平等条約体制と「英語を話す中国人」』（名古屋大学出版会）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、手書き文書に慣れるまでは予習に時間を要することになるだろう。ただし、扱う英文は主に部下（領事）から上司（公使）への報告であり、特に難解なものではないから、積極的な参加を期待したい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	高等教育研究開発推進センター 坂本 尚志				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	二十世紀思想史の諸相								
【授業の概要・目的】									
二十世紀の思想史において重要なテキストの読解を通じて、思想史的方法の基礎を学ぶ。対象は広義の思想であり、哲学、文学、歴史学などの諸分野を、思想史のアプローチから分析することを目的とする。受講生は講師の提案する文献リスト、あるいは各自が興味を持つ分野からテキストを選択し、それについてまとめ、報告する。読解の作業と討論を通じて思想史に固有の視座についての理解を深め、分析の基礎を修得することを目指す。									
【授業計画と内容】									
1回目：オリエンテーション 2回目：思想史の方法（二十世紀フランス思想を例に） 3回目以降：文献報告（各回1～2人の報告を予定）									
【履修要件】									
本演習は各自の積極的な参加、発言によって授業を進めていくこととしたい。受講希望者多数の場合は、二十世紀学、現代史学両専修所属の学生を優先し、発表担当を決定する。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（50点）とレポート（50点）									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)	担当者氏名	京都精華大学 マンガ学部 准教授	吉村 和真					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	現代日本のマンガ環境について考える マンガ雑誌を手がかりに								
【授業の概要・目的】									
<p>現代日本に居住する私たちの身の回りには、ひとりでは到底網羅できないほど、多種多様なマンガの雑誌・単行本があふれている。二十世紀、とりわけ戦後の日本社会を考察するうえで、マンガは避けて通れない視覚表現・メディアであると言える。</p> <p>本講義では、そうしたマンガ環境の一側面を具体的に考察するために、マンガ雑誌を資料とした演習を行う。掲載された作品・作家論はもとより、そのメディア的特徴、各誌の出版戦略、マンガ誌の文化的意義、「マンガ読者」という共同体の有様など、複眼的な考察を行い、「マンガの現在」を体系的に把握することをねらいとする。</p> <p>形式は、受講者による発表が基本。これに受講者全体でのディスカッション、担当者のコメントを加える。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1回：ガイダンス、発表順・日程の調整</p> <p>第2回：担当者による講義 現在のマンガ雑誌に関する情報と視点の提供</p> <p>第3回～最終回：受講者による発表。1回につき2人の発表予定。 最低2冊のマンガ雑誌を取り上げ、それを比較検討する。 雑誌候補は基本的に自由。例えば、以下のようなマンガ誌など。</p> <p>『週刊少年ジャンプ』、『週刊少年マガジン』、『週刊少年サンデー』、『週刊少年チャンピオン』、『ちゃお』、『なかよし』、『りぼん』、『コロコロコミック』、『モーニング』、『イブニング』、『マーガレット』、『別冊マーガレット』、『KISS』、『ビッグコミック』、『月刊マガジン』、『アフタヌーン』、『IKKI』、『ヤングアニマル』、『ヤングキング』、『チャンピオンRED』、『ガンダムA』、『漫画サンデー』、『漫画ゴラク』、『週刊漫画TIMES』、『FEEL』、『Cookie』、『デザート』、『SiLKY』、『アックス』、『コミック乱』、『ウルトラジャンプ』、『漫画アクション』…。</p>									
【履修要件】									
「なぜ大学でわざわざマンガを扱うのか」と思う人も歓迎する。									
【成績評価の方法・基準】									
出席点30点、報告の内容・議論への貢献度：40点、レポート30点									
【教科書】									
夏目房之介・竹内オサム編著 『マンガ学入門』（ミネルヴァ書房、2009）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	関西大学 社会学部 准教授 山口 誠				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4	授業形態	演習
題目	観光社会学～観光の社会的意味を通時分析する～								
【授業の概要・目的】									
<p>近代社会における観光は、労働と対置される余暇のジャンルに留まらず、さまざまな社会的過程が交錯する場(アリーナ)として捉えることができる。観光によって地理や他者のイメージが構築され、観光者のアイデンティティが再編され、そして受け入れ側の「文化」や「伝統」が「発見」されるなど、観光をめぐる社会学のテーマは枚挙にいとまがない。</p> <p>これまで日本における観光研究では、関連産業の振興を図る経済学的アプローチと、観光者の動機をめぐる社会心理学的アプローチが主流であった。これらの成果を視野に入れつつ、この演習では「観光の社会的意味」に着目して、社会学のアプローチから近代日本社会における観光を考えてみたい。</p> <p>この演習の担当者は、20世紀の日本人の海外旅行を、主に観光ガイドブックや紀行書籍の変遷から通時分析するメディア研究を専門としているが、日本人の国内観光や諸外国の観光の歴史など、さまざまな興味関心を持つ受講生の参加を期待する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>まず「観光社会学の現在」と「日本型マス・ツーリズムの現在形」について担当者が講義形式で解説し、この演習の基本的なキーワードとアプローチを整理し共有した後、受講生による自由テーマ発表と討論を行いたい。</p> <p>いわゆる狭義の「観光」に限らず、たとえばアニメやマンガにおける「聖地巡礼」や、文学作品や映画作品に描かれた旅のかたち、「戦国武将ブーム」や「パワースポットブーム」などに見られる歴史/記憶の消費、海外の観光ガイドブックに描かれた「京都」比較など、様々な興味と関心を持つ受講生の積極的な参加を期待する。</p> <p>第1回：観光社会学の事例：『グアムと日本人』（2007年）を中心に 第2回：観光社会学の視座：『ニッポンの海外旅行』（2010年）から 第3回：日本型マス・ツーリズムの現在形：スケルトン・ツアーを事例に 第4回：テーマパーク化する社会：テーマ型観光の特性 第5回～最終回：受講生による自由テーマ発表と文献輪読を組み合わせ、議論を行う。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
自由テーマ発表を主とする平常点で評価する。									
----- 二十世紀学(演習II)(2)へ続く -----									

二十世紀学(演習II)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

山口誠 『グアムと日本人』 (岩波新書)

山口誠 『ニッポンの海外旅行』 (ちくま新書)

山口さやか・山口誠 『「地球の歩き方」の歩き方』 (新潮社)

安村克己ほか 『よくわかる観光社会学』 (ミネルヴァ書房)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	国立オーストラリア大学 文学部 准教授 STEGEWERNS, Dick				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
題目	戦争映画の系譜								
【授業の概要・目的】									
<p>戦争映画というジャンルを分析する。特に戦後から現在にいたる日本の戦争映画に集中する。主に英語での先行研究を踏まえて、アメリカ・ヨーロッパ・アジアの戦争映画および戦時中日本が制作したプロパガンダ映画に比較しながら、日本の戦争映画の系譜と特徴を探っていく。できれば、戦争文学・漫画・アニメとの比較も行おう。</p> <p>英語も交えた講義、輪読、発表、議論、とレポートによって総合的英語力を向上させる。</p>									
【授業計画と内容】									
<ul style="list-style-type: none"> － ガイダンス － 戦争映画に関する先行研究を分析 － ハリウッドによる戦争映画の代表作を鑑賞・分析 － 戦争映画の系譜・分類をおこなう － 戦時中の日本国策映画・プロパガンダ映画に関する先行研究を分析 － ハリウッドによる戦争映画の代表作を鑑賞・分析 － 戦後から現在に至る日本の戦争映画を年代別に分析 － 最近のアメリカ・アジア・ヨーロッパの戦争映画と比較 － 日本の戦争文学・漫画・アニメと比較 － 学生による発表 － 日本の戦争映画の系譜・分類・時期区分を行なってみる 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、発表、論文と授業参加の総合評価。									
【教科書】									
適宜に配布する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
とくになし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学（演習Ⅱ） (Seminars)			担当者氏名	高等教育研究開発推進センター 坂本 尚志				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金4	授業形態	演習
題目	フランス語コミュニケーション入門								
【授業の概要・目的】									
フランス語で書かれた哲学に関する子供向けの文章を題材に、フランス語のコミュニケーション能力の向上を目指す。単なる読解、翻訳の授業ではなく、フランス語での文章執筆、あるいは口頭発表の際に有用な語彙、表現を修得することを重要な目的として授業を行う。									
【授業計画と内容】									
1回目：オリエンテーション 2回目：テキストの読解、参加者との質疑によって授業を進行する									
【履修要件】									
フランス語初級を履修し、単位を取得していること。課題とする文献が、平易なフランス語で書かれた哲学のテキストであるため、フランス語、あるいは哲学に興味を持つ二十世紀学・現代史学以外の学生の参加も歓迎する。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
Guillaume Le Blanc 『Gagner sa vie, est-ce la perdre ?』 (Paris, Gallimard Jeunesse/Giboulées, 2008.) Christophe Bouton 『J ' ai pas le temps !』 (Paris, Gallimard Jeunesse/Giboulées, 2010.) Céline Spector 『C ' est pas juste!, Paris』 (Gallimard Jeunesse/Giboulées, 2009.)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(卒論演習) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦				
配当学年	4回生のみ	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3,4 隔週	授業形態	卒論演習
題目	卒業論文作成演習								
【授業の概要・目的】									
卒業論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、議論構築、文献調査、聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代文化に関わる多様な研究テーマに対する学知を深める。									
【授業計画と内容】									
1回目：卒論予定テーマについて全員が、その要略を説明する。 2回目以降：各回とも、1名の受講生が、卒論予定テーマについて、研究の意義、先行研究、論旨、文献について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、さらに研究を進める場合の課題を考える。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（60点）と、卒論中間レポート（40点）									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） なし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワーは火曜14時～16時 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

現代史学専修

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 小野澤 透				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	冷戦とアメリカ外交								
【授業の概要・目的】									
アメリカ外交文書の具体的な分析に即して、冷戦史の諸問題を考察することにより、アメリカ外交史研究の学説史や方法論を修得する。									
【授業計画と内容】									
冷戦を歴史的に理解しようとするとき、それを米ソ対立を基調とする国際政治の枠組みと捉えるだけでは不十分である。冷戦とは、米ソ間の対立・競争の契機と、東西それぞれの陣営内における超大国を頂点とする政治的・経済的・軍事的統合およびシステムを創造・維持・改変しようとする契機が、国際政治のみならず、多くの国々の政治・経済・社会のあり方をも大きく規定する世界秩序の枠組みであった。 以上のような問題意識に立ち、本年度は、昨年度に引き続き、1950年代における、米・中東関係にかかわる諸問題を検討する。おおまかな内容は以下のとおり。									
<ol style="list-style-type: none"> 1．アメリカと中東（概観） 2．英国の帝國的秩序とアメリカ 3．地域的秩序構想の形成（1950-52） 4．地域的秩序の追求（1953-1957） 5．西側陣営統合政策の挫折（1957-1958） 6．新たな地域的政策の枠組み（1958-1963） 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末のレポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 五十嵐武士編 『アメリカ外交と21世紀の世界』（昭和堂）ISBN:4-8122-0623-5									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 HAYASHI,Brian				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	近代アメリカ史								
【授業の概要・目的】									
This course will cover the political, diplomatic, social, and cultural history of the United States, from the Civil War to the present. It is designed to provide you with a working knowledge of American history.									
【授業計画と内容】									
The course covers a broad range of topics, but in general we will cover the political and diplomatic in one class and alternate with the social and cultural history of the United States in the following class. The lectures are in English but the class discussions, for which I expect all students to participate in, can be done in Japanese or English, depending on the individual student's preference. Assigned readings are to be done before class and some videos/DVDs related to a particular week's lecture topic will be assigned for viewing prior to class. The first half of the course will cover up to the 1930s and the second half will reach the present day.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Your grade is based on three things--a written report (English or Japanese), an oral report (English or Japanese), and in-class discussions.									
【教科書】									
紀平英作 『アメリカ史』 (山川出版社) printed handouts, and some video/DVDs to watch.									
【参考書等】									
(参考書) Mary Beth Norton 『A People and a Nation』									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Office hours: Fridays, 15:00-16:30 and immediately after class Location: F407 Yoshida Minami Dai 3 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 准教授 石川 禎浩						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	中国革命史・中国共産党史の諸問題								
【授業の概要・目的】									
<p>中国革命史をもって中国近現代史に代えるような歴史観は、すでにそれ自体が過去の遺物になっている。しかし、だからといって、中国革命や中国共産党の歩みが歴史的分析の対象から除かれるということはありません。本授業においては、なお未解明の史実の多い中国革命史や中国共産党史の重要問題を、歴史学的手法により再検討する。そのさい、第一次資料を重視し、歴史の現場に立ち返ることを重視するのにもさることながら、革命叙述や歴史の通説が如何にして形成されてきたのか、という点にも十分な検討を加える。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、1課題あたり3-4週の授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マルクス主義の伝播と中国共産党の結成 2. 国共合作と中国国民革命の展開（ソ連・コミンテルンの動向） 3. 孫文の死去とその遺書をめぐる確執 4. 中国共産党の農村根拠地における活動 5. 延安整風運動と毛沢東の権力掌握、そして歴史叙述の書き換え 6. 中国共産党における歴史文献・政治文献の編纂 7. 政治と文学のせめぎ合い（小説『劉志丹』事件を例に） 8. 「建国以来の党の若干の歴史問題についての決議」の問題点 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末のレポート									
【教科書】									
関連資料・プリントを授業にあわせて適宜配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 高木 博志				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	近代古都論								
【授業の概要・目的】									
帝都東京に対して、古都として「歴史」「伝統」を体現する奈良・京都の歩みを、近代天皇制との関わりにおいて考察する。明治維新时期から1945年の敗戦までを見通したい。									
【授業計画と内容】									
奈良・京都といった古都の近代を中心としながら、東京遷都後の皇室の宗教や文化における近世との連続や断絶、天皇と「文明開化」をめぐるあらわれ方、博物館や文化財が持つ政治性、陵墓や正倉院御物のもつ天皇家の「財」としての役割、修学旅行や観光における歴史都市がはたす役割、皇室と古都の祭礼や年中行事との関係の変容、といった問題群を考察したい。近代天皇制をたんなる政治過程ではなく文化や社会から考察し、日本近代の普遍性や固有性を考えたい。前期と後期に、公家社会の痕跡を見る京都御苑、京都の周縁（六波羅・豊臣史跡・花街など）としての東山、古典文学と史跡復興の場としての嵯峨野、黒谷掃苔などの巡見も行いたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。									
【教科書】									
使用しない プリント等を配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年） 高木博志 『陵墓と文化財の近代』（山川出版社、2010年）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
レポートの内容について個別相談に応じる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者氏名	同志社大学 法学部 教授 力久 昌幸						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	現代イギリス政治：歴代政権のリーダーシップに注目して								
【授業の概要・目的】									
この講義では、第二次世界大戦後から今日に至るまでのイギリスの歴代政権について、ヨーロッパ諸国との関係やEUに見られるような欧州統合への対応などに注目しながら、内政・外交のさまざまな側面から検討します。特に、戦後の衰退に歯止めをかけ、再び活力を取り戻すためにイギリスの歴代政権が実施したさまざまな改革について、首相の政治的リーダーシップのあり方に焦点をあてて検討します。戦後のイギリスが直面した内外の課題、および、それに対処するための首相のリーダーシップについて理解を深めてもらうことがこの授業の目的です。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマに関して、1テーマあたり1～2週の授業をする予定です。									
1 イントロダクション：イギリス現代政治の基本枠組									
2 戦後政治の開幕：アトリー労働党政権									
3 帝国後のイギリス：チャーチル保守党政権									
4 スエズ危機：イーデン保守党政権									
5 豊かな社会：マクミラン/ダグラス＝ヒューム保守党政権									
6 現代化をめざして：ウィルソン労働党政権									
7 Uターン：ヒース保守党政権									
8 労働組合の時代：ウィルソン/キャラハン労働党政権									
9 戦後コンセンサスの破壊：サッチャー保守党政権									
10 新自由主義的改革の継続：メージャー保守党政権									
11 「大統領型首相」とニュー・レイバー：ブレア/ブラウン労働党政権									
12 連立の時代：キャメロン保守自民連立政権									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末レポート評価（80％）、平常点評価（20％） 平常点評価については、不定期（3～4回程度）に行う小テストにもとづいて行います。									
【教科書】									
梅川正美・阪野智一・力久昌幸（編）『イギリス現代政治史』（ミネルヴァ書房）ISBN: 9784623056477									
【参考書等】									
（参考書） 細谷雄一（編）『イギリスとヨーロッパ：孤立と統合の二百年』（勁草書房）ISBN:9784326351442 力久昌幸『イギリスの選択』（木鐸社）ISBN:9784833222334 高安健将『首相の権力』（創文社）ISBN:9784423710708 その他、適宜授業中に紹介します。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)		担当者氏名	同志社大学 法学部 教授 力久 昌幸					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	現代イギリス政治：統治機構，政党，政策を中心に								
【授業の概要・目的】									
この授業では，1990年代以降，急速に変化しつつあるイギリス政治の現状について，議会や政府などの統治機構，スコットランド，ウェールズ，北アイルランドに対する分権改革，選挙制度と政党システム，そして，外交，経済，福祉など各種政策を取り上げて検討します。グローバル化や欧州統合の動きを受けて変化しているイギリス政治の現状に対する理解を深めることが，この授業の目的です。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業をする予定です。									
1 現代イギリス政治の概観									
2 議会と君主制									
3 政府：首相と内閣を中心に									
4 行政機構									
5 分権：スコットランド，ウェールズ，北アイルランド									
6 外交政策									
7 経済政策									
8 福祉政策									
9 選挙制度									
10 保守党									
11 労働党									
12 自由民主党									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末レポート評価（80％），平常点評価（20％） 平常点評価については，不定期（3～4回程度）に行う小テストにもとづいて行います。									
【教科書】									
梅川正美, 阪野智一, 力久昌幸（編）『現代イギリス政治』（成文堂）ISBN:9784792332129									
【参考書等】									
（参考書）									
梅川正美 『イギリス政治の構造』（成文堂）ISBN:4792331439									
小堀眞裕 『サッチャリズムとブレア政治』（晃洋書房）ISBN:4771016399									
近藤康史 『左派の挑戦』（木鐸社）ISBN:4833223147									
その他，適宜授業中に紹介します。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)		担当者氏名	立命館大学 文学部 教授 高橋 秀寿					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	映像と記憶 - - 戦争・暴力・表象								
【授業の概要・目的】									
20世紀の歴史は、ドキュメンタリーであれ、フィクションとしての映画であれ、映像を通して深く現代人の脳裏に刻まれ、歴史的現実を作り上げ続けている。この講義では、20世紀、特に第二次世界大戦後に戦争と暴力の歴史がどのように映像を通して表象され、国民国家と国民を形成してきたのかを明らかにしていく。その際に、授業担当者の専門分野であるドイツ現代史を中心に講義を進めていくが、日本やほかの国々の映像・映画も取り上げていく。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業をする予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> 1．イントロダクション 2．史料としての映像・映画 3．映像・映画の歴史的機能と役割 4．第二次世界大戦前における映画と記憶 5．第二次世界大戦後における映画と記憶 - - 戦争の記憶 6．第二次世界大戦後における映画と記憶 - - ホロコーストの記憶 7．戦後の終わりとは映画と記憶 8．総括 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートの内容によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
基本的に最小限度の基礎知識があれば理解できるような授業内容にするが、レポートでは欧米だけではなく、日本に関する戦後史と記憶の関係の叙述を求めるので、講義の流れとともに日本戦後史の自主的な学習が要求される。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)		担当者氏名	金沢大学 国際学類 教授 梶川 伸一					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	レーニン時代の民衆支配								
【授業の概要・目的】									
<p>いわゆる「ロシア革命」の時代から100年近くが過ぎようとしている。アーカイブが開放されて20年が経ち、様々な革命神話からの解放が求められている。この授業では「赤色テロル」をキーワードに、1917-22年に至るレーニン時代の民衆支配の現実を明らかにする。同時に、ネップ成立についての新しい解釈を提示し、ボリシェヴィキ権力の本質に触れようと思う。全体的構造の中から、どのように歴史を解釈するかという方法を学んでほしい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1週 包括的説明 2～4週 「十月革命」は存在したか 5～7週 穀物戦争 8～10週 戦時共産主義からネップへ 11～14週 レーニン支配の意味するもの 学生との対応の中で、このスケジュールは変更する可能性がある。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期筆記試験による									
【教科書】									
未定									
【参考書等】									
<p>(参考書) メリグーノフ 『ソヴェト=ロシアにおける赤色テロル』(社会評論社)(訳者による「解説」を参照してほしい。) 梶川伸一 『幻想の革命』(京都大学学術出版会) 梶川伸一 『ボリシェヴィキ権力とロシア農民』(ミネルヴァ書房)</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	グルジア人と戦争								
【授業の概要・目的】									
<p>19世紀後半から第一次世界大戦までの帝政ロシア支配下のザカフカス（トランスコーカサス）史を、グルジア中心に概観する。</p> <p>ロシア人がチェチェン人やグルジア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。ザカフカスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出し、それはグルジア人などの現地住民にもフィードバックされた。治安の悪さで悪名高いザカフカスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では戦争・反乱とグルジア人の関わりを主軸に、帝国統治と暴力について考えたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の内容について、各2-3回の講義を行う予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション：日露戦争と匪賊 ・クリミア戦争 ・ヴォロンツォフ改革 ・チェチェン反乱 ・住民移動 ・グルジア文学の興隆 ・露土戦争 ・社会主義運動の浸透 ・「ムスリム・グルジア人」 ・義賊から革命家へ ・1905年革命と民族衝突 ・イラン立憲革命と義勇軍 ・バルカン戦争の余波 ・第一次世界大戦 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポートおよび中間レポートによる。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する 特になし。</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワーは、金曜4限とする。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者氏名	教育学研究科 准教授 佐藤 卓己						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木1	授業形態	特殊講義
題目	メディア文化論								
【授業の概要・目的】									
<p>メディア論を中心に、現代社会のなりたちを世界システムとの関連で考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会学的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」</p> <p>マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 都市基盤の上に成立した大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
第1-3回 メディア社会とは何か 第4回 メディア史としてのコミュニケーション研究 第5回 メディア都市の成立 第6章 出版資本主義と近代精神 第7回 大衆新聞の成立 第8回 視覚人間の国民化 第9回 宣伝のシステム化と動員のメディア 第10回 ラジオとファシスト的公共性 第11回 トーキー映画と総力戦体制 第12回 テレビによるシステム統合 第13回 情報化の未来史 第14回 脱・情報化社会へ 第15回 試験									
【履修要件】									
メディアに関心があり、情報への感度が高いこと。									
【成績評価の方法・基準】									
試験を行う。評価基準については、講義中に説明する。									
【教科書】									
佐藤卓己『現代メディア史』（岩波テキストブックス・1998）									
【参考書等】									
（参考書）									
佐藤卓己『現代史のリテラシー 書物の宇宙』（岩波書店・2012）（本講義に関連する読書案内。）									
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----									

現代史学(特殊講義)(2)

佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店・2009年）（メディア史＝メディア論の発想法について、参照のこと。）

佐藤卓己『『輿論と世論 日本的民意の系譜学』』（新潮選書・2008年）（「ヨロン」と「セロン」の区別について、参照のこと。）

（関連URL）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>(メディア文化論研究室HP)

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

メディア論の初学者は、佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』（岩波新書・2006年）を、歴史学の初学者は、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波新書・2009年）を、事前に読んでおくことが望ましい。

なお、テキストの中国語訳に佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学経典教材中文版）北京大学出版社2004年がある。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院文学研究科 教授 飯塚 一幸				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	自由民権運動の再検討								
【授業の概要・目的】									
自由民権運動は戦後日本近代史研究の中心的テーマの一つであった。その研究方法は、発展図式論から諸潮流の相互関係論へ、さらには政治文化の変容論へと変化してきたが、その過程で政治史からの自由民権運動研究は沈滞状況に陥って久しい。本講義では、自由民権運動史の原点である『自由党史』の文献批判を交えながら、主に政治史の視点から自由民権運動の再検討を行い、近代日本の政治史・社会史に関する基礎的知識を養うと同時に、研究史への批判的態度を身につけることをめざす。									
【授業計画と内容】									
1. 愛国公党と民撰議院設立建白書 2. 愛国社の創立と大阪会議 3. 地方官会議と地方民会 4. 都市民権派の成立と展開 5. 西南戦争と自由民権運動 6. 政府内の憲法構想 7. 国会期成同盟と私立国会論 8. 私擬憲法の諸相 9. 明治十四年の政変と自由党の成立 10. 自由党広域蜂起派と激化事件 11. 激化事件とモラル・エコノミー論 12. 大阪事件 以上のテーマについて講義を行う予定である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。具体的には授業で指示する。									
【教科書】									
教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
板垣退助監修 『『自由党史・上』』 (岩波書店) ISBN:ISBN:4-00-331051-9									
板垣退助監修 『『自由党史・中』』 (岩波書店) ISBN:ISBN:4-00-331052-7									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 小関 隆				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	イギリス史における第一次大戦(その4) : 「未完の戦争」とアイルランド								
【授業の概要・目的】									
2008年度以来の継続となるが、今年度もイギリス史における第一次大戦について考える。第一次大戦は多くの意味で「未完の戦争」「うまく終わりそこなった戦争」であり、この戦争を理解するうえでは、戦間期や第二次大戦との連続性の視点がきわめて重要になる。大まかには、前期の授業で戦後の新しい国際秩序の構築過程を概説し、この概説を踏まえて、後期の授業で大戦中から1920年代にかけてのアイルランド問題の展開を検討する。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマについて、各々1～4回程度の授業を行う予定である。									
1. 「未完の戦争」としての大戦									
2. パリ講和会議									
3. ヴェルサイユ条約									
4. 国際連盟									
5. ロカルノ条約									
6. イースター蜂起									
7. アイリッシュ・コンヴェンション									
8. 独立戦争									
9. アイルランド自由国と内戦									
10. その他									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
試験ないしレポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
授業中に紹介する									
小関隆『徴兵制と良心的兵役拒否：イギリスの第一次世界大戦経験』（人文書院、2010年）をはじめ、人文書院刊のシリーズ「レクチャー：第一次世界大戦を考える」全6冊から、1冊でも2冊でも読むことが望ましい。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
予習よりも復習をお願いします。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	佛教大学 歴史学部 教授 原田 敬一				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	日本近代都市史研究の再検討								
【授業の概要・目的】									
日本近代都市史研究は若い学問である。1980年代に始まり、ようやく30年の研究蓄積をもった。それらを振り返りながら、現代の研究課題に迫っていく。授業は資料プリントを多用して行うので、欠席者は自らプリント入手に努力してほしい。									
【授業計画と内容】									
授業計画と内容 1．日本近代都市史研究の現在 2．近世都市から近代都市へ、さらに現代都市へ 3．近代都市の政治史 4．近代都市社会について 5．近代都市の文化について 以上の各テーマにつき、5，6回程度の講義を行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末レポートによる。授業を踏まえた課題提出になる。その前提で自由に叙述したレポートを求める。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 近代都市史に関する研究書を読み、授業中に質問することを歓迎する。									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)		担当者氏名	東京大学 大学院人文社会系研究科 准教授 吉澤 誠一郎					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	中国ナショナリズムの史的考察								
【授業の概要・目的】									
<p>中国のナショナリズムについて、歴史的に考察する視角を養うことをめざす。 主に清代・民国時代について議論する。それを通じて、中国の特殊な文化的背景によってナショナリズムを説明する論法や安易に何かの理論を適用してわかったつもりになる論法を両方とも批判していくことを意図している。 主に教員による講義の形式で進行させる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>主に次のような話題を扱う予定である。 (一課題あたり半日ほどをあてる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナショナリズムを論じる視角 ・清代の華夷観念はナショナリズムか ・清末における民族と国家をめぐる言説 ・対外ボイコット運動の展開 ・商品宣伝とナショナリズム ・近代中国におけるナショナリズムへの懐疑 ・歴史叙述とナショナリズム 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>授業の最後の部分で時間をとって試験を実施する。 講義の基本的な内容が把握できていることを単位認定の基本とし、加えて自分なりの観点がもてていけば良い評点となるように、設問を工夫するつもりである。</p>									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書) 吉澤誠一郎 『愛国主義の創成 ナショナリズムから近代中国をみる』(岩波書店) ISBN: 4000268430</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者氏名	関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	「人間とコンピュータとの共生」を考える								
【授業の概要・目的】									
この講義では、コンピューティング史において、システムと人間の関係がどのようにとらえられてきたのかについて考察する。歴史的には、人間はまず人間機械混成系（man-machine system）の一部の要素（human factor）とみなされ、やがて人間による処理への介入（human intervention）の研究を経て、「人間とコンピュータとの共生」概念が提示された後、現在のように、人間はシステムのユーザとみなされるようになっていった。そうした黎明期の概念の変遷を踏まえて、人間とコンピュータの関わりについて考える学問領域（Human Computer Interaction, HCI）の成立と発展の歴史について、当該分野における重要基本文献などを通じて検討する。									
【授業計画と内容】									
授業は基本的には歴史学的方法論で進めるが、必要に応じて、科学技術社会論の論点についても言及する。									
授業概要（各項目について1～3回程度の授業を行う）									
<p>オリエンテーション</p> <p>人間機械混成系（man-machine system）からHuman Factor研究へ</p> <p>入出力装置の開発とシステム概念の変化</p> <p>サイバネティクスとHCI分野の関係</p> <p>HCI基本文献の検討</p> <p>HCI分野黎明期の社会的背景</p> <p>まとめ</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主レポートによる（ただし、レポートの内容が不十分な場合には平常点評価（出席時の態度等）も加味する）。									
【教科書】									
適宜、授業内にプリント配布、およびウェブサイトには資料をアップロードなどする。									
【参考書等】									
（参考書） 喜多千草『インターネットの思想史』（青土社）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	高等教育研究開発推進センター 坂本 尚志				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	二十世紀思想史の諸相								
【授業の概要・目的】									
二十世紀の思想史において重要なテキストの読解を通じて、思想史的方法の基礎を学ぶ。対象は広義の思想であり、哲学、文学、歴史学などの諸分野を、思想史のアプローチから分析することを目的とする。受講生は講師の提案する文献リスト、あるいは各自が興味を持つ分野からテキストを選択し、それについてまとめ、報告する。読解の作業と討論を通じて思想史に固有の視座についての理解を深め、分析の基礎を修得することを目指す。									
【授業計画と内容】									
1回目：オリエンテーション 2回目：思想史の方法（二十世紀フランス思想を例に） 3回目以降：文献報告（各回1～2人の報告を予定）									
【履修要件】									
本演習は各自の積極的な参加、発言によって授業を進めていくこととしたい。受講希望者多数の場合は、二十世紀学、現代史学両専修所属の学生を優先し、発表担当を決定する。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（50点）とレポート（50点）									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(卒論演習) Contemporary History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 永井 和 文学研究科 准教授 小野澤 透				
配当学年	4回生のみ	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	卒論演習
題目	卒業論文作成にむけて								
【授業の概要・目的】									
4年間の大学生生活の総決算となる卒業論文の作成を目的に演習をおこなう。									
【授業計画と内容】									
受講生は自分が選んだ卒業論文のテーマに即して、研究の目的と問題関心、研究文献と関連資料についての調査結果、先行研究の読破とそれにもとづいた問題点の整理作業、自己の研究の到達点等について授業で報告し、指導教員からアドバイスを受ける。報告は、前期に1回、後期に1回、あわせて2回おこなう。前期には論題の提示、問題関心（なぜこのテーマをとりあげるのか、このテーマで何を明かにしたいのか）の説明、主要先行研究についてその概要を報告し、後期には先行研究の整理とそのうえに立っての問題設定をおこなうとともに、自分自身の独自の調査・研究の結果とそれによって得られる結論もしくは研究上のみとおしについて報告する。卒業論文を提出する予定の4回生以上の学生は、必ず受講しなければいけない。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加態度などの平常点によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) なし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
教員の連絡先 永井：nagai.kazu.5s@kyoto-u.ac.jp 小野澤：tonozawa@bun.kyoto-u.ac.jp オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習Ⅰ) Contemporary History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 永井 和 文学研究科 准教授 小野澤 透				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	演習
題目	現代史学演習 : 現代史の諸問題								
【授業の概要・目的】									
<p>実際に研究文献や史料を読むことによって、現代史学の研究方法を身につける。前期ではすぐれた歴史家の著作を読み込み、大きなパースペクティブで歴史をみるとはどういうことを学ぶ。後期では現代史学研究の基礎となる史料の読解と分析の方法を学ぶ。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>参加者は、テキストの割り当てられた部分につきレジュメを作成・配布した上で、内容を要約し、ポイントや問題点を指摘する。その報告に基づいて、出席者全員で討議をおこなう。前期は、最近刊行された岩波講座『東アジア近現代通史』の第7巻から第10巻および別巻から論文をいくつか選んで輪読する。後期は、第二次世界大戦後のアメリカ外交における対ソ「封じ込め」政策の形成と変容を、アメリカ外交文書の分析に即して考察する。テキストは下記を使用する。Thomas H. Etzold, John Lewis Gaddis, eds., Containment: Documents on American Policy and Strategy, 1945-1950 (Columbia U.P., 1978)</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加態度などの平常点と各期末のレポートによって総合的に評価する。									
【教科書】									
上記参照のこと。なお、テキストの準備については授業の最初に指示する。									
【参考書等】									
(参考書) なし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>初回到報告者を決定する。報告者だけでなく、全受講者が文献・史料を事前に読んでおくことが必須条件になる。この授業は卒業必修科目であるので、現代史学専修の3回生は必ず履修すること。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 村上 衛				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	演習
題目	在中国イギリス領事報告を読む								
【授業の概要・目的】									
中国近代の社会・経済に関する英文史料を精読する。英文史料を読むことによって外からの目を利用しつつ、中国近代社会経済史に対する理解を深める。さらに、英文史料の扱い方、長所・短所などを理解し、中国近代史を研究するにあたって利用する史料の可能性を広げ、また史料操作能力の向上を図る。									
【授業計画と内容】									
イギリス外交文書のうち、在中国イギリス領事の報告（FO228）を精読する。具体的には、商業紛争、海事関係・華人関係の紛争など、社会・経済に関わる紛争を取り上げる。必要に応じてFO228に含まれている英文史料に対応する漢文史料も読む。なお、史料の内容は非常に細かいものが多いため、講義形式の解説を加え、史料を中国近代史の中に位置づけていく。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
テキストはコピーして授業の際に配布									
【参考書等】									
（参考書） 坂野正高・田中正俊・衛藤藩吉編 『近代中国研究入門』（東京大学出版会） 岡本隆司 『近代中国と海関』（名古屋大学出版会） 本野英一 『伝統中国商業秩序の崩壊 不平等条約体制と「英語を話す中国人」』（名古屋大学出版会）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、手書き文書に慣れるまでは予習に時間を要することになるだろう。ただし、扱う英文は主に部下（領事）から上司（公使）への報告であり、特に難解なものではないから、積極的な参加を期待したい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)	担当者氏名	人文科学研究所 教授 水野 直樹						
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	演習
題目	朝鮮近現代史関係資料の講読								
【授業の概要・目的】									
朝鮮近現代史を学ぶために必要な文献解読の方法を身につけるとともに、資料の探索・調査・収集のための情報・ツールなど（目録類、インターネットリソース）を解説する。									
【授業計画と内容】									
朝鮮近現代史に関わる朝鮮語文献を選んで講読する。後期には、受講者の関心に応じて新聞記事（植民地期から現代まで）を選び、それぞれが解読・解説する形式で進める。									
【履修要件】									
初級程度の朝鮮語を習得していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
プリントなどを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
http://wwwsoc.nii.ac.jp/chosenshi/link/ （朝鮮史研究のためのインターネット利用手引き（朝鮮史研究会））									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 永井 和				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	演習
題目	倉富勇三郎日記を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>くずし字で書かれた近現代の文書を読む訓練をおこなう。具体的には、国立国会図書館所蔵の倉富勇三郎日記を解読し、その翻刻テキストを作成しながら、手書き文書の史料になれる。解読、翻刻にはデジタル化時代の文献・史料研究ツールであるSMART-GSの協働翻刻システムを使用するのでITツールを使った史料の操作の方法も学ぶ。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業で読むのは、倉富勇三郎の東京控訴院検事長時代の日記「充紳」である。日比谷焼打事件の訴訟指揮をめぐり、弁護士協会やジャーナリズムからその責任を追求された倉富と、彼の進退をめぐっての内閣・司法省・検察当局の動向が日記の記述から明らかとなる。日記は罫紙に筆で書かれているが、それほど難しいくずし字ではない。筆書きの史料に慣れることができれば、読めるようになるのに、それほど時間はかからない。</p> <p>なお、倉富日記の解読・翻刻については、情報・史料学専修で開発中の文献解読・翻刻ツールであるSMART-GSを利用し、オンラインでの共同翻刻作業を実地におこなう。SMART-GSの使用法を学び、自分の研究に役立てることも、この授業の目的でもある。</p> <p>開講時に倉富日記のデジタル画像とSMART-GSのシステムを配布する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価。割り当てられた日記の一部を翻刻して、授業中に報告し、さらに翻刻を完成させて、提出する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
児玉幸多編 『くずし字用例辞典(普及版)』(東京堂出版) ISBN:4490103336									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
なし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦				
配当学年	2,3回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3	授業形態	演習
題目	マンガ・アニメ学入門								
【授業の概要・目的】									
マンガおよびアニメに関する内外の研究文献を輪読する。マンガ学およびアニメ学の諸テーマを幅広く学び、さらに、その方法論に通暁することをめざす。									
【授業計画と内容】									
1 回目：マンガ・アニメ学の研究文献の紹介と、レジユメの作り方などの詳しい説明、研究発表の一例を示す									
2 回目～5 回目：伊藤剛『テヅカ・イズ・デッド ひらかれたマンガ表現論へ』の輪読・ディスカッション									
6 回目以降：各回とも、2 名ないし3 名の受講生が、任意で選んだ研究文献について、内容の紹介と評価をおこなう。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該文献の問題点を洗い出し、さらに研究を進める場合の課題を考える。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
伊藤剛『テヅカ・イズ・デッド』（NTT出版）ISBN:4757141297									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワーは火曜14時～16時									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 客員准教授 福間 良明				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	後期	曜時限	水4,5	授業形態	演習
題目	「戦争の記憶」のメディア史								
【授業の概要・目的】									
戦後日本のメディアにおける「戦争の語り」を検証しながら、戦後の戦争観の変容プロセスやその社会背景について考察する。授業では、研究紹介や戦後思想を適宜扱うほか、メディア（映画・ドラマ・ドキュメンタリー・新聞・戦記・マンガ・観光・博覧会・博物館等）の分析・批評に重点を置く。									
【授業計画と内容】									
<p>授業の形式は、受講者による発表とディスカッションを主とする予定である。</p> <p>授業計画は以下の通り（ただし、履修者の数や要望も踏まえながら、一部変更の可能性もある）。</p> <p>第1回：ガイダンス，文献・映像資料の紹介</p> <p>第2回：事例紹介と分析視角の紹介（映像資料等を用いながら）</p> <p>第3～5回：「記憶のメディア学」に関連する文献紹介の批評（輪読）</p> <p>第6～14回：メディア資料（映画・新聞・雑誌等々）の分析・批評</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表と期末レポートで評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>野上元・福間良明編 『戦争社会学ブックガイド』（創元社）（2012年3月刊行予定）</p> <p>福間良明 『焦土の記憶：沖縄・広島・長崎に映る戦後』（新曜社）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連する文献や映画等については、初回授業時に紹介するので、自学自習に努めること。 ・特定の時間帯にオフィスアワーを設けることはしませんが、申し出があれば、授業後の時間に質問・相談等々に対応します。 									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)		担当者氏名	NHKエンタープライズ エグゼクティブプロデューサー 山登 義明					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3,4,金3,4 月末週	授業形態	演習
題目	映像メディア論 A								
【授業の概要・目的】									
映像メディアの手法というものをドキュメンタリー番組制作の視点から捉える。本演習では、企画、取材、編集、発表を実際に体験しながら番組を一本作り上げ、それを通して映像の構造や意味を考察する。									
【授業計画と内容】									
<p>、オリエンテーション：多メディア時代における映像メディア</p> <p>2、企画研究：主題論、時代をどう読むか</p> <p>3、企画の立て方：ヒト・ウゴキ・ジダイというテレビ的発想法</p> <p>4、取材の技法：取材者の姿を消す（透明人間化）、シネマヴェリテ</p> <p>5、リサーチと取材：本番前に十全な調査。主人公のキャラクターなど</p> <p>6、映像編集の技法：モンタージュ、ナラティブ（語り口）</p> <p>7、映像編集：いくつもバージョンを作り変え、他者に見せる</p> <p>8、ポスト＝プロダクション：ナレーション、音響効果、テロップなど</p> <p>9、作品発表と評価：他者は作品（テキスト）をどう見るか</p>									
【履修要件】									
テレビドキュメンタリー、特にNHKスペシャルの視聴。									
【成績評価の方法・基準】									
ドキュメンタリー制作は一見遊びに似ている。授業に出席しようとしまいと作品が出来ればいい。だが、授業で毎回教示するのはテレビの現場の智恵であり最新の技法だ。									
【教科書】									
山登義明著 『ドキュメンタリーを作る』（京大学術出版会）									
【参考書等】									
（参考書） エリック・バーナウ著 『世界ドキュメンタリー史』（日本映像記録センター）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
さまざまなメディアが跋扈するなか、映像メディアの基本は同床。ここでの手法は応用展開が可。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)		担当者氏名	NHKエンタープライズ エグゼクティブプロデューサー 山登 義明					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
題目	映像メディア論 B								
【授業の概要・目的】									
映像は現代の暮らしに大きな影響を与えている。作為であれ不作為であれ映像は操作されて視聴者に届けられる。ドキュメンタリーの過去の作品10本余を取り上げて、作り手の意図、視点を読み解いていく。									
【授業計画と内容】									
1、オリエンテーション：テレビという文化の歴史 2、ドキュメンタリーとは何か：虚構と事実の関係 3、番組のジャンル：フィクション、エンターテインメントと並存する事実番組 4、ヒューマンドキュメンタリー：ヒトを描く、ウゴキ、時代を掴む 5、主題としての戦争：亀井文夫の映画と比べながら 6、戦争の記憶：8・15をめぐって編成された作品群 7、ドキュメンタリーの演出とは何か：ヤラセの構造と風土 8、他のメディアと融合する：マンガ、アニメ、CG、ネットを活用する									
【履修要件】									
藤子不二雄Aの『まんが道』か『愛 しりそめし頃』を読むこと									
【成績評価の方法・基準】									
受講後のレポート									
【教科書】									
山登義明 『テレビ制作入門』（平凡社） 河島伸子 『コンテンツ産業論』（ミネルヴァ書房）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
なるべく、同一教員の「映像メディア論A」を受講しておくこと。 集中講義なので「オフィスアワー」はとくに設けません。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)	担当者氏名	京都精華大学 マンガ学部 准教授	吉村 和真					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	現代日本のマンガ環境について考える マンガ雑誌を手がかりに								
【授業の概要・目的】									
<p>現代日本に居住する私たちの身の回りには、ひとりでは到底網羅できないほど、多種多様なマンガの雑誌・単行本があふれている。二十世紀、とりわけ戦後の日本社会を考察するうえで、マンガは避けて通れない視覚表現・メディアであると言える。</p> <p>本講義では、そうしたマンガ環境の一側面を具体的に考察するために、マンガ雑誌を資料とした演習を行う。掲載された作品・作家論はもとより、そのメディア的特徴、各誌の出版戦略、マンガ誌の文化的意義、「マンガ読者」という共同体の有様など、複眼的な考察を行い、「マンガの現在」を体系的に把握することをねらいとする。</p> <p>形式は、受講者による発表が基本。これに受講者全体でのディスカッション、担当者のコメントを加える。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1回：ガイダンス、発表順・日程の調整</p> <p>第2回：担当者による講義 現在のマンガ雑誌に関する情報と視点の提供</p> <p>第3回～最終回：受講者による発表。1回につき2人の発表予定。 最低2冊のマンガ雑誌を取り上げ、それを比較検討する。 雑誌候補は基本的に自由。例えば、以下のようなマンガ誌など。</p> <p>『週刊少年ジャンプ』、『週刊少年マガジン』、『週刊少年サンデー』、『週刊少年チャンピオン』、『ちゃお』、『なかよし』、『りぼん』、『コロコロコミック』、『モーニング』、『イブニング』、『マーガレット』、『別冊マーガレット』、『KISS』、『ビッグコミック』、『月刊マガジン』、『アフタヌーン』、『IKKI』、『ヤングアニマル』、『ヤングキング』、『チャンピオンRED』、『ガンダムA』、『漫画サンデー』、『漫画ゴラク』、『週刊漫画TIMES』、『FEEL』、『Cookie』、『デザート』、『SiLKY』、『アックス』、『コミック乱』、『ウルトラジャンプ』、『漫画アクション』…。</p>									
【履修要件】									
「なぜ大学でわざわざマンガを扱うのか」と思う人も歓迎する。									
【成績評価の方法・基準】									
出席点30点、発表内容・ディスカッションへの貢献度：40点、レポート30点									
【教科書】									
夏目房之介・竹内オサム編著 『マンガ学入門』（ミネルヴァ書房、2009）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)	担当者氏名	関西大学 社会学部 准教授 山口 誠						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4	授業形態	演習
題目	観光社会学～観光の社会的意味を通時分析する～								
【授業の概要・目的】									
<p>近代社会における観光は、労働と対置される余暇のジャンルに留まらず、さまざまな社会的過程が交錯する場（アリーナ）として捉えることができる。観光によって地理や他者のイメージが構築され、観光者のアイデンティティが再編され、そして受け入れ側の「文化」や「伝統」が「発見」されるなど、観光をめぐる社会学のテーマは枚挙にいとまがない。</p> <p>これまで日本における観光研究では、関連産業の振興を図る経済学的アプローチと、観光者の動機をめぐる社会心理学的アプローチが主流であった。これらの成果を視野に入れつつ、この演習では「観光の社会的意味」に着目して、社会学のアプローチから近代日本社会における観光を考えてみたい。</p> <p>この演習の担当者は、20世紀の日本人の海外旅行を、主に観光ガイドブックや紀行書籍の変遷から通時分析するメディア研究を専門としているが、日本人の国内観光や諸外国の観光の歴史など、さまざまな興味関心を持つ受講生の参加を期待する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>まず「観光社会学の現在」と「日本型マス・ツーリズムの現在形」について担当者が講義形式で解説し、この演習の基本的なキーワードとアプローチを整理し共有した後、受講生による自由テーマ発表と討論を行いたい。</p> <p>いわゆる狭義の「観光」に限らず、たとえばアニメやマンガにおける「聖地巡礼」や、文学作品や映画作品に描かれた旅のかたち、「戦国武将ブーム」や「パワースポットブーム」などに見られる歴史／記憶の消費、海外の観光ガイドブックに描かれた「京都」比較など、様々な興味と関心を持つ受講生の積極的な参加を期待する。</p> <p>第1回：観光社会学の事例：『グアムと日本人』（2007年）を中心に 第2回：観光社会学の視座：『ニッポンの海外旅行』（2010年）から 第3回：日本型マス・ツーリズムの現在形：スケルトン・ツアーを事例に 第4回：テーマパーク化する社会：テーマ型観光の特性 第5回～最終回：受講生による自由テーマ発表と文献輪読を組み合わせ、議論を行う。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
自由テーマ発表を主とする平常点で評価する。									
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----									

現代史学(演習II)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

山口誠 『グアムと日本人』 (岩波新書)

山口誠 『ニッポンの海外旅行』 (ちくま新書)

山口さやか・山口誠 『「地球の歩き方」の歩き方』 (新潮社)

安村克己ほか 『よくわかる観光社会学』 (ミネルヴァ書房)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)		担当者氏名	国立オーストラリア大学 文学部 准教授 STEGEWERNS, Dick					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
題目	戦争映画の系譜								
【授業の概要・目的】									
<p>戦争映画というジャンルを分析する。特に戦後から現在にいたる日本の戦争映画に集中する。アメリカ・ヨーロッパ・アジアの戦争映画および戦時中日本が制作したプロパガンダ映画に比較しながら、戦後から現在に至る日本の戦争映画の系譜と特徴を探っていく。できれば、戦争文学・漫画・アニメとの比較も行う。</p> <p>英語も交えた講義、輪読、発表、議論、とレポートによって総合的英語力を向上させる。</p>									
【授業計画と内容】									
<ul style="list-style-type: none"> － ガイダンス － 戦争映画に関する先行研究を分析 － ハリウッドによる戦争映画の代表作を鑑賞・分析 － 戦争映画の系譜・分類をおこなう － 戦時中の日本国策映画・プロパガンダ映画に関する先行研究を分析 － ハリウッドによる戦争映画の代表作を鑑賞・分析 － 戦後から現在に至る日本の戦争映画を年代別に分析 － 最近のアメリカ・アジア・ヨーロッパの戦争映画と比較 － 日本の戦争文学・漫画・アニメと比較 － 学生による発表 － 日本の戦争映画の系譜・分類・時期区分を行なってみる 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、発表、論文と授業参加の総合評価。									
【教科書】									
適宜に配布する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
とくになし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学（演習II） (Seminars)			担当者氏名	高等教育研究開発推進センター 坂本 尚志				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金4	授業形態	演習
題目	フランス語コミュニケーション入門								
【授業の概要・目的】									
フランス語で書かれた哲学に関する子供向けの文章を題材に、フランス語のコミュニケーション能力の向上を目指す。単なる読解、翻訳の授業ではなく、フランス語での文章執筆、あるいは口頭発表の際に有用な語彙、表現を修得することを重要な目的として授業を行う。									
【授業計画と内容】									
1回目：オリエンテーション 2回目：テキストの読解、参加者との質疑によって授業を進行する									
【履修要件】									
フランス語初級を履修し、単位を取得していること。課題とする文献が、平易なフランス語で書かれた哲学のテキストであるため、フランス語、あるいは哲学に興味を持つ二十世紀学・現代史学以外の学生の参加も歓迎する。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
Guillaume Le Blanc 『Gagner sa vie, est-ce la perdre ?』 (Paris, Gallimard Jeunesse/Giboulées, 2008.) Christophe Bouton 『J ' ai pas le temps !』 (Paris, Gallimard Jeunesse/Giboulées, 2010.) Céline Spector 『C ' est pas juste!』 (Paris, Gallimard Jeunesse/Giboulées, 2009.)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

【学部共通科目】

授業科目名 <英訳>	哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 永守 伸年 非常勤講師 中嶋 優太 非常勤講師 濱崎 雅孝 非常勤講師 田鍋 良臣 非常勤講師 薄井 尚樹				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木2	授業形態	ゼミナール
題目	哲学基礎文化学入門								
【授業の概要・目的】									
<p>哲学的な諸問題について研究するとはどのようなことなのか、若手研究者たちの講義を通して知ること、そして受動的に知識を得るだけでなくみずから質問し議論に参加する態度を養成することが、本授業の目的です。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>哲学基礎文化学系各専修の大学院で学んだ若手研究者によるリレー講義。それぞれのイキのいい研究テーマについて、学部学生向けに、分りやすく、そして楽しく語ってもらいます。テーマはさまざまですが、結果的には前期・後期ともに哲学史を時代に沿って学べるように配列してあります。この授業の特色として、毎回、質問の時間を用意しています。その日の講義の内容はもちろんのこと、学生生活や研究生生活の相談や、進路相談など、経験豊富な先輩にどしどしぶつけてみましょう。皆さんにとって学問の最前線に触れるとともに、研究室の先輩と早い目から交流する場となることもこの授業の目的のひとつです。</p> <p>なお受講者には担当者が代わるたびに授業アンケートに答えていただきます。これからあちこちの大学で教鞭を取る若手教員を育てるつもりになって、参考にも励みにもなる回答をお寄せください。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>授業に際しては、毎回出席をとります。全講義の8割以上に出席することが、単位認定の条件です。成績評価は学期末レポートで行います。提出要領その他は授業時に伝達します。</p>									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>									
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 授業中に適宜指示します。</p>									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	哲学基礎文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 杉本 俊介 非常勤講師 千葉 清史 非常勤講師 矢頭 英理子 非常勤講師 古荘 匡義 非常勤講師 田中 一孝					
	配当学年	1回生以上	単位数		2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態
題目	哲学基礎文化学入門									
【授業の概要・目的】										
<p>哲学的な諸問題について研究するとはどのようなことなのか、若手研究者たちの講義を通して知ること、そして受動的に知識を得るだけでなくみずから質問し議論に参加する態度を養成することが、本授業の目的です。</p>										
【授業計画と内容】										
<p>哲学基礎文化学系各専修の大学院で学んだ若手研究者によるリレー講義。それぞれのイキのいい研究テーマについて、学部学生向けに、分りやすく、そして楽しく語ってもらいます。テーマはさまざまですが、結果的には前期・後期ともに哲学史を時代に沿って学べるように配列してあります。この授業の特色として、毎回、質問の時間を用意しています。その日の講義の内容はもちろんのこと、学生生活や研究生生活の相談や、進路相談など、経験豊富な先輩にどしどしぶつけてみましょう。皆さんにとって学問の最前線に触れるとともに、研究室の先輩と早い目から交流する場となることもこの授業の目的のひとつです。</p> <p>なお受講者には担当者が代わるたびに授業アンケートに答えていただきます。これからあちこちの大学で教鞭を取る若手教員を育てるつもりになって、参考にも励みにもなる回答をお寄せください。</p>										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
<p>授業に際しては、毎回出席をとります。全講義の8割以上に出席することが、単位認定の条件です。成績評価は学期末レポートで行います。提出要領その他は授業時に伝達します。</p>										
【教科書】										
使用しない										
【参考書等】										
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>										
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p>										
<p>授業中に適宜指示します。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>										

授業科目名 <英訳>	東洋文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 小鹿原 敏夫 非常勤講師 呉 英玉 非常勤講師 白方 佳果 非常勤講師 山下 文 非常勤講師 山中 延之 非常勤講師 成田 健太郎 非常勤講師 八木 堅二				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木5	授業形態	ゼミナール
題目	東洋の文学と思想 (国語学国文学・中国語学中国文学)								
【授業の概要・目的】									
各担当者がそれぞれの研究内容について、国語学国文学、中国語学中国文学の研究が具体的にどのようなものであるかを受講者に紹介する。東洋の文学を読むための基本的な知識を身につけることを目標とする。									
【授業計画と内容】									
<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・講義体資料の日本語史的研究(山中) ・キリシタン語学・文学の再評価(小鹿原) ・平安時代の和歌集 - 異本を読む(山下) ・近代文学における同時代性と前近代性の問題(白方) ・正しい文字とは何か? - 漢字規範意識の変遷(成田) ・中国の言語・方言史と東アジア(八木) ・日本漢字音について(呉) ・まとめ 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(20%)と学期末のレポート(80%)。									
【教科書】									
配布資料による。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
質問等は授業後に受け付ける。なお、緊急のことがあれば、文学部七階にある国文学研究室(075-753-2824)、中国文学研究室(075-753-2825)に電話のこと。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 佐藤 礼子 非常勤講師 池田 恭哉 非常勤講師 鄭 宰相 非常勤講師 東川 祥丈 非常勤講師 池端 惟人 (財)東方研究会 研究員 山口 周子 非常勤講師 安田 章紀					
	配当学年	1回生以上	単位数		2	開講期	後期	曜時限	木5	授業形態
題目	東洋の文学と思想 (中国哲学・インド古典学・仏教学)									
【授業の概要・目的】										
各担当者が、中国・インド・チベットの思想・宗教・文化について、現代の研究成果を踏まえた上で概説する。専修の枠のみにとどまらない幅広い知識の獲得を目標とする。										
【授業計画と内容】										
<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・東アジアにおける人性論の形成と展開(鄭) ・魏晋の論壇で語られていたもの(東川) ・中国における家訓とその思想内容の特徴 - 魏晋南北朝時代を中心に(池田) ・ウパニシャッドは梵我一如か?(池端) ・インド・チベット仏教の思想と歴史(安田) ・天竺伝来の神々(山口) ・六朝志怪の世界 - 中国古典小説の源流を知ろう(佐藤) ・まとめ 										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
平常点(20%)と学期末のレポート(80%)。										
【教科書】										
配布資料による。										
【参考書等】										
(参考書) 授業中に紹介する										
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))										
質問等は授業後に受け付ける。なお、緊急のことがあれば、文学部新館六階の中国哲学史研究室(075-753-2755)、同五階のインド古典学・仏教学共同研究室(075-753-2756)に電話のこと。										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	西洋文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		担当者氏名			非常勤講師 堀川 宏	非常勤講師 西井 奨	非常勤講師 西谷 茉莉子	非常勤講師 内田 健一	非常勤講師 渋谷 陽子	非常勤講師 永畑 紗織	非常勤講師 田中 大	非常勤講師 大内 真一郎
	配当学年	1回生以上				単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	ゼミナール
題目	西洋文学の世界												
【授業の概要・目的】													
<p>本研究科西洋文献文化学専攻出身の若手研究者 8 名によるリレー講義。西洋文化学系で学ぼうと考えている 1・2 回生をおもな対象として、西洋文学にかんする入門的な授業をおこなう。西洋古典文学、アイルランド文学、イタリア文学、ドイツ文学、チェコ文学、アメリカ文学の作家や作品を通して、西洋文学の多面的な魅力にふれるとともに、文学研究のさまざまなテーマや方法を学ぶことを目的とする。授業は講義形式を基本とするが、必要に応じて演習形式を取り入れることもある。</p>													
【授業計画と内容】													
<p>取り上げるテーマと担当者は次の通り。 一つのテーマについて、2 コマないしは 1 コマの授業時間をあてる。 1：はじめに（担当者全員） 2：ギリシア悲劇をどう読むか（堀川宏） 3：古代ローマの書簡文学 オウィディウス『名高き女たちの手紙』の世界（西井奨） 4：アイルランドの現代詩 W.B.イェイツとシェイマス・ヒーニーを中心に（西谷茉莉子） 5：イタリア・デカダンスの詩 パスコリとダヌンツィオ（内田健一） 6：第一次大戦とイタリアの詩人 ガブリエレ・ダンヌンツィオの場合（渋谷陽子） 7：第二次世界大戦とヨハネス・ボプロフスキー（永畑紗織） 8：第二次大戦後のチェコ文学をよむ（田中大） 9：リチャード・パワーズ『黄金虫変奏曲』を読む（大内真一郎）</p> <p>集中講義の日程は、9月10日（月）から14日（金）まで。</p>													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・基準】													
平常点（授業への出席と参加）とレポートによって評価する。													
----- 西洋文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----													

西洋文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

あまり関心のないテーマにかんする授業でも、きっと新しい発見があるはずなので、ぜひ出席してみてください。

コーディネーター：若島正

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	西洋文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		担当者氏名	非常勤講師 山下 修一 非常勤講師 土屋 京子 非常勤講師 藤原 美沙 非常勤講師 山下 大吾 非常勤講師 平光 文乃 非常勤講師 村上 祐二 非常勤講師 木島 菜菜子						
	配当学年	1回生以上		単位数	2	開講期	後期	曜時限	水5	授業形態
題目	西洋文学の諸相									
【授業の概要・目的】										
本研究科西洋文献文化学専攻出身の若手研究者7名によるリレー講義。西洋文化学系で学ぼうと考えている1・2回生をおもな対象として、西洋文学にかんする入門的な授業をおこなう。西洋古典文学、ドイツ文学、ロシア文学、フランス文学、イギリス文学のさまざまなジャンルの作品を通して、西洋文学の多面的な魅力にふれるとともに、文学研究のテーマや方法への理解を深めることを目的とする。授業は講義形式を基本とするが、必要に応じて演習形式を取り入れることもある。										
【授業計画と内容】										
取り上げるテーマと担当者は次の通り。 初回を除き、一つのテーマについて2週の授業時間をあてる。 1：はじめに（担当者全員） 2：歴史と文学　ヘーロドトスの『歴史』を読む（山下修一） 3：「詩」と「真実」　自伝文学について考える（土屋京子） 4：ドイツのメルヒェンについて（藤原美沙） 5：詩人の散文　プーシキンの『スペードの女王』を読む（山下大吾） 6：世紀転換期フランスの文化と文学　ブルーストにおける「部屋」（平光文乃） 7：ブルースト作品におけるドレフェス事件（村上祐二） 8：19世紀イギリスの文学と絵画　ディケンズとジョージ・エリオットを中心に（木島菜菜子）										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
平常点（授業への出席と参加）とレポートによって評価する。										
【教科書】										
プリント配布。										
【参考書等】										
（参考書） 授業中に紹介する										
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））										
あまり関心のないテーマにかんする授業でも、きっと新しい発見があるはずなので、ぜひ出席してみてください。 コーディネーター：若島正 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ)	担当者氏名	非常勤講師 土口 史記
	Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		非常勤講師 横内 吾朗 非常勤講師 松本 涼 非常勤講師 藤井 翔太 非常勤講師 西村 昌洋 非常勤講師 福嶋 千穂 非常勤講師 佐藤 公美 非常勤講師 梶 さやか 非常勤講師 太田 麻衣子 非常勤講師 森谷 一樹 非常勤講師 保科 季子 非常勤講師 毛利 英介 非常勤講師 増田 知之 非常勤講師 和田 郁子

配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木1	授業形態	ゼミナール
------	-------	-----	---	-----	----	-----	----	------	-------

題目	歴史学研究の最前線(1) 東洋史学・西南アジア史学・西洋史学のフロンティア
----	---------------------------------------

【授業の概要・目的】

歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、自らの研究の体験をふまえながら、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。前期の授業では、東洋史学と西南アジア史学、西洋史学を中心に、新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得ることを目的とする。

【授業計画と内容】

14名のゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。次のような内容を予定している。

- (1)中国先秦時代における「郡」「県」の誕生と「郡県制」の形成過程
- (2)越の琅邪遷都について 中国古代史における伝説と史実の境界線
- (3)漢代における河西回廊の開発
- (4)漢代「儒教国教化」問題について
- (5)淵の盟から見る契丹(遼)と北宋の関係について
- (6)「書」を通してみる清朝皇帝の文化政策
- (7)近世南インドの港町における政治・社会・経済的変容
- (8)初期イスラーム時代史の一部としてのウマイヤ朝史
- (9)アイスランド・サガと歴史研究：「血の復讐」の解釈をめぐって
- (10)20世紀イギリスにおけるスポーツ政策の歴史
- (11)キリスト教公認後の異教とキリスト教
- (12)近世ポーランド・リトアニアにおける東方教会の問題
- (13)中世後期北イタリア及びアルプス山岳地域社会における紛争・平和形成と文書
- (14)19世紀前半旧ポーランド=リトアニア領における社会と文化 ヴィルノ教育管区を例に
*コーディネーター：井谷鋼造

【履修要件】

特になし

歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く

歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

[成績評価の方法・基準]

講義の感想を中心とする毎回の小レポートと、学期末のレポートにもとづいて総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		担当者氏名	非常勤講師 藤井 崇 非常勤講師 亀田 俊和 非常勤講師 伊藤 啓介 非常勤講師 石田 俊 非常勤講師 鍛冶 宏介 非常勤講師 鄭 賢珠 非常勤講師 村上 由美子 非常勤講師 東村 純子 非常勤講師 南雲 泰輔 非常勤講師 竹内 亮 非常勤講師 加藤 麻子 非常勤講師 告井 幸男 非常勤講師 中町 美香子 非常勤講師 淵原 智幸						
	配当学年	1回生以上		単位数	2	開講期	後期	曜時限	木1	授業形態
題目	歴史学研究の最前線(2) 西洋史学・日本史学・考古学のフロンティア									
【授業の概要・目的】										
歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。後期の授業では、西洋史学・日本史学・考古学を中心に、新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得ることを目的とする。										
【授業計画と内容】										
14名のゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。次のような内容を予定している。										
(1)古代ギリシア史における感情論の現在 (2)ローマ帝国の東西分裂：395年？ (3)出土文字資料研究の方法について (4)律令制度研究～公式令と文書行政～ (5)官人社会から見る古代・中世過渡期としての10世紀 (6)平安宮・平安京の変容 (7)平安時代の東北支配 (8)南北朝時代の室町幕府政治史研究 (9)日本中世の貨幣経済について (10)近世の天皇・朝廷と江戸幕府 (11)江戸時代の書物文化と知識・教養の伝播 (12)明治期における文部省直轄学校関係者の海外派遣 (13)弥生時代の木材利用と環境 (14)古代日本の織物と紡織技術 *コーディネーター：井谷鋼造										
【履修要件】										
特になし										
----- 歴史基礎文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----										

歴史基礎文化学系(ゼミナールII)(2)

[成績評価の方法・基準]

講義の感想を中心とする毎回の小レポートと、学期末のレポートにもとづいて総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	行動・環境文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 林 由華 非常勤講師 勝原 摩耶 非常勤講師 李 洪章 非常勤講師 佐々木 祐 非常勤講師 金 兌恩 非常勤講師 森田 次朗 非常勤講師 山本 理子 非常勤講師 柴田 陽一 非常勤講師 田村 早苗 非常勤講師 川田 拓也 非常勤講師 金 京愛					
	配当学年	1回生以上	単位数		2	開講期	前期	曜時限	木1	授業形態
題目	行動文化学への招待									
【授業の概要・目的】										
行動文化系の分野で研究している新進気鋭の研究者たちが、この分野で研究する事の意義や楽しさを紹介し、あわせて研究の始め方や、基本となる入門書、当初に遭遇する困難など、学生に近い立場から具体的に語りかけるとともに、学生の相談にも応えます。										
【授業計画と内容】										
(林)世界の言語の多様性、(田村)理論言語学の考え方、(川田)日本語の非りゅうちょう性、(金)論文について 日本語の発見、(勝原)言語性ワーキングメモリにおける加齢の影響、(李)マイノリティ研究の意義、(佐々木)「先住民」の歴史的・社会的編成、(金)多文化主義と多文化教育論、(森田)オルタナティブ・スクールの社会学、(山本)近代家族成立以降の日本の主婦と家事労働、(柴田)空間認知研究入門										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
出席および期末に提出してもらうレポートによって評価します。										
【教科書】										
ありません。教材は授業中に配布します。										
【参考書等】										
(参考書) 授業中に紹介する										
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))										
オフィスアワーは特に設けませんが、授業の後で担当の講師と話し合ってください。また各講師ごとに授業に関するアンケートをします。										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	行動・環境文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 石井 和也 非常勤講師 富田 愛佳 非常勤講師 山崎 瑤子 非常勤講師 田邊 亜澄 非常勤講師 翁 和美 非常勤講師 江南 健志					
	配当学年	1回生以上	単位数		2	開講期	後期	曜時限	木1	授業形態
題目	行動文化学への招待									
【授業の概要・目的】										
行動文化系の分野で研究している新進気鋭の研究者たちが、この分野で研究する事の意義や楽しさを紹介し、あわせて研究の始め方や、基本となる入門書、当初に遭遇する困難など、学生に近い立場から具体的に語りかけるとともに、学生の相談にも応えます。										
【授業計画と内容】										
(石井)「地域づくり」 大都市と地方都市、(富田)フィールド言語学入門、(山崎)歴史言語学入門、(田邊)視覚認知の情報処理、(翁)介護老人保健施設における参与観察から分析へ、(江南)日本山村の現状と生活										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
出席および期末に提出してもらうレポートによって評価します。										
【教科書】										
ありません。教材は授業中に配布します。										
【参考書等】										
(参考書) 授業中に紹介する										
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))										
オフィスアワーは特に設けませんが、授業の後で担当の講師と話し合ってください。また各講師ごとに授業に関するアンケートをします。										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 小野 容照 非常勤講師 佐藤 夏樹 非常勤講師 稲葉 肇 非常勤講師 網谷 祐一 非常勤講師 坂 堅太 非常勤講師 吹戸 真実				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木5	授業形態	ゼミナール
題目	現代文化学への招待								
【授業の概要・目的】									
現代文化学専攻の博士課程を修了した若手研究者が、現代文化学系を志す後輩達に、自分たちの最新の研究成果をふまえて、現代文化学系の学問についてわかりやすく講義する。									
【授業計画と内容】									
以下の予定で授業を進める（括弧内は担当者名）。									
1週目：オリエンテーション 1-2週目：「野球」を通して考える朝鮮半島の近代（小野容照） 3-4週目：ラティーノ像の形成（佐藤夏樹） 5-7週目：原子の存在をめぐって（稲葉肇） 8-9週目：理性と進化（網谷祐一） 10-12週目：戦後日本における文学と政治の関係について（坂堅太） 13-15週目：冷戦期アメリカ合衆国の中台政策と東アジア（吹戸真実）									
【履修要件】									
とくになし。授業は主として1，2回生を受講者に想定しておこなうが、3，4回生の受講も可。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への参加態度と試験によって総合的に成績を評価する。試験は、各授業担当者が与える課題についてレポートの提出を求める。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
この授業は、若手研究者のためのプレFDプログラムに参加しています。そのために毎回授業終了後に、授業について感想や意見を書いもらうアンケートを実施します。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 中尾 央 非常勤講師 川崎 陽 非常勤講師 富永 望 非常勤講師 大西 勇喜謙 非常勤講師 山本 昭宏					
	配当学年	1回生以上	単位数		2	開講期	後期	曜時限	木5	授業形態
題目	現代文化学への招待									
【授業の概要・目的】										
現代文化学専攻の博士課程を修了した若手研究者が、現代文化学系を志す後輩達に、自分たちの最新の研究成果をふまえつつ、現代文化学系の学問についてわかりやすく講義する。										
【授業計画と内容】										
1 週目：オリエンテーション 1－3 週目：進化発生生物学の哲学（中尾） 4－6 週目：朝鮮における「皇民化」政策と朝鮮（川崎） 7－9 週目：イギリスから見た戦後天皇制（富永） 10－12週目：科学的实在論論争入門（大西） 13－15週目；戦後日本の核エネルギー認識の構築とその変容（山本）										
【履修要件】										
とくになし。授業は主として1，2回生を受講者に想定しておこなうが、3、4回生の受講も可。										
【成績評価の方法・基準】										
授業への参加態度と試験によって総合的に成績を評価する。試験は、各授業担当者が与える課題についてレポートの提出を求める。										
【教科書】										
使用しない										
【参考書等】										
（参考書） 授業中に紹介する										
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））										
この授業は、若手研究者のためのプレFDプログラムに参加しています。そのために毎回授業終了後に、授業について感想や意見を書いもらうアンケートを実施します。										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	博物館学 I (講義) Museum Science I			担当者氏名	非常勤講師 佐々木 進				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月5	授業形態	講義
題目	博物館概論								
【授業の概要・目的】									
近代日本での博物館のはじまりから博物館法の成立まで、及び博物館法の成立以後の変遷をとおして博物館の今日的課題を探り、博物館の専門的職員である学芸員の職務と博物館に関する基礎的事項の理解を図る。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について授業します。1 課題あたり 1 ~ 2 週の授業をする予定 1．博物館の現状 2．近代以前における博物館の濫觴 3．博覧会から博物館の誕生へ 4．博物館法成立までの博物館のあゆみ 5．博物館法の制定 6．博物館の定義と国際博物館会議（ICOM）規約 7．博物館の事業 8．館長と学芸員の役割 9．博物館の設置及び運営上の望ましい基準 10．博物館法と私立博物館 11．博物館登録制度の問題点について									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業に基づいたレポート試験（80％）、博物館見学レポート（20％）									
【教科書】									
授業時に参照する「博物館法」及び「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」を各自用意すること。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
様々な分野の博物館をできるだけ多く見学すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	博物館学II(講義) Museum Science II			担当者氏名	非常勤講師 佐々木 進				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月5	授業形態	講義
題目	博物館経営論								
【授業の概要・目的】									
市民参画型社会での多様化する需要にたいして博物館はどこまで応えているのか，入館者数や経費の効率性だけでは測れない新しい時代の博物館のマネジメントについて考える。特に博物館の使命・評価への取り組み，経営基盤，施設管理，だれにたいしても優しい博物館づくりについて考える。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について授業します。1課題あたり1～2週の授業をする予定									
<ol style="list-style-type: none"> 1．新しい需要に応えるミュージアムマネジメントとは 2．博物館の望ましい姿を目指して 3．博物館の使命・目標 4．博物館の評価 5．指定管理者制度と博物館 6．市民参画社会における博物館 7．博物館と地域連携 8．多様化する博物館像 9．博物館における危機管理 10．高齢化社会における博物館の役割 11．博物館の施設管理 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験（授業に基づく課題レポート80％と博物館見学レポート20％）									
【教科書】									
必要に応じて随時資料を配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
様々な分野の博物館をできるだけ多く見学すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	博物館学III(講義) Museum Science III			担当者氏名	京都国立博物館 考古室長 宮川 禎一				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水2	授業形態	講義
題目	博物館学 (博物館資料論)								
【授業の概要・目的】									
博物館・美術館の学芸員の仕事を博物館業務の実態をもとに具体的に講義する。特に作品・資料の取り扱い方法や収蔵庫や展示場での保存方法を中心に講義を進める。また展覧会の企画や運営の実際を述べて博物館・美術館学芸員の役割の理解を深める。さらに実際の展覧会・展示場の見学もあわせて博物館美術館業務への認識を向上させることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
1 博物館・美術館の成り立ち。 2 作品の種類にはどんなものがあるか 3 資料の収集の方法とは 4 資料の保管について 5 資料の保存処理 6 収蔵庫のこと 7 展覧会の作り方 8 展覧会図録の作り方 9 良い展覧会とは何か 10 博物館・美術館の未来 11 世界の博物館・美術館 12 ディスカッション									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業態度およびレポートの成績									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
学芸員資格を得るための授業であるので、自主的・積極的に博物館・美術館等の見学を行うことが望ましい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語（中級）（語学） French			担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric				
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講期	前期	曜時限	月4	授業形態	語学
題目	Intermediate French								
【授業の概要・目的】									
<p>This class is aimed to those who wish to improve their reading, writing, and oral skills, in order to prepare a stay in a french-speaking country, or to get in touch with French-speaking people.</p> <p>The content and method will be focused on the preparation for the DELF, the proficiency exam designed by the French Ministry of Education. We shall start with the level A2 this semester (it is the second level, for almost beginners : the purpose is to develop the skills for any kind of basic situation of the daily life).</p>									
【授業計画と内容】									
<p>The class consists of various exercices, fitting the schemes of the exam : oral and written comprehension, oral and written production.</p> <p>The class will be held in French.</p>									
【履修要件】									
All the students are welcome from the second academic year on, as soon as they have already studied French.									
【成績評価の方法・基準】									
There shall be, at the end of the semester, a final in the proper conditions of the DELF-A2. However, the final grade will be given in consideration of the attendance and activity during the whole semester.									
【教科書】									
No comment									
【参考書等】									
（参考書） 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>There is no office hour. Please discuss any appointment with the teacher.</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	フランス語（中級）（語学） French	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric						
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講期	後期	曜時限	月4	授業形態	語学
題目	Intermediate French								
【授業の概要・目的】									
<p>This class is aimed to those who wish to improve their reading, writing, and oral skills, in order to prepare a stay in a french-speaking country, or to get in touch with French-speaking people.</p> <p>The content and method will be focused on the preparation for the DELF, the proficiency exam designed by the French Ministry of Education. During the autumn semester, we shall procede with the level B1 (elementary level, dealing with expressing oneself's opinion on a practical topic, with role playing in a common situation with, achieving a simple task).</p>									
【授業計画と内容】									
<p>The class consists of various exercices, fitting the schemes of the exam : oral and written comprehension, oral and written production.</p> <p>The class will be held in French.</p>									
【履修要件】									
All the students are welcome from the second academic year on, as soon as they have already studied French.									
【成績評価の方法・基準】									
There shall be, at the end of the semester, a final in the proper conditions of the DELF-B1. However, the final grade will be given in consideration of the attendance and activity during the whole semester.									
【教科書】									
使用しない no comment									
【参考書等】									
（参考書） no comment									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>There is no office hour. Please discuss any appointment with the teacher.</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	フランス語（上級）（語学） French	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric						
配当学年	3回生以上	単位数	1	開講期	前期	曜時限	月5	授業形態	語学
題目	Francais avance								
【授業の概要・目的】									
<p>Ce cours s'adresse a des etudiants possedant deja une assez bonne maitrise du francais. Il offre une preparation aux examens organises par le Ministere francais de l'Education Nationale pour certifier les competences linguistiques et permettre l'acces aux etudes superieures en France, dans le systeme universitaire francais : le Diplome d'etudes en langue francaise (DELF) et le Diplome approfondi de langue francaise (DALF).</p> <p>Le semestre de printemps est consacre a la preparation du DELF B2, exige par de nombreuses universites francaises. Dans cette perspective, le cours comporte une initiation aux methodes de la synthese et de l'argumentation, a partir de la lecture de dossiers de presse documentaires portant sur la societe francaise.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>On travaillera sur les quatre types d'exercice de l'examen : comprehension et production ecrites, avec lectures de textes et redaction de courts essais ; comprehension orale, avec audition d'enregistrements publicitaires, radiophoniques, etc. ; production orale, avec des exposes et des debats sur des themes de societe.</p>									
【履修要件】									
<p>Pour suivre ce cours, un assez bon niveau de francais est souhaitable. Ce niveau correspond a un minimum de deux annees d'apprentissage du francais, ou a une annee de cours intensifs.</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>La note finale resultera d'une appreciation globale fondee sur les criteres suivants :</p> <ul style="list-style-type: none"> - assidueite - participation orale - travaux ecrits demandes deux ou trois fois pendant le semestre - examen final : entrainement a une epreuve complete du DELF B2, a la fin du semestre (sous la forme d'un test d'1h30, et d'une composition a faire chez soi). 									
【教科書】									
pas de commentaire									
【参考書等】									
<p>（参考書） 特になし</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>Pas de permanence : prendre rendez-vous avec l'enseignant.</p> <p>NB : Due to improper settings, KULASIS is unable to enter up the specific French graphic signs. I apologize about this regrettable fact.</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	フランス語（上級）（語学） French	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric						
配当学年	3回生以上	単位数	1	開講期	後期	曜時限	月5	授業形態	語学
題目	Francais avance								
【授業の概要・目的】									
<p>Ce cours s'adresse a des etudiants possedant deja une assez bonne maitrise du francais. Il offre une preparation aux examens organises par le Ministere francais de l'Education Nationale pour certifier les competences linguistiques et permettre l'acces aux etudes superieures en France, dans le systeme universitaire francais : le Diplome d'etudes en langue francaise (DELFF) et le Diplome approfondi de langue francaise (DALF).</p> <p>Le semestre d'automne est consacre a la preparation du DALF C1, necessaire pour etre admis dans certaines grandes ecoles. Dans cette perspective, le cours comporte une initiation aux methodes de la synthese et de l'argumentation, a partir de la lecture de dossiers de presse documentaires portant sur la societe francaise.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>On travaillera de maniere systematique sur les quatre types d'exercice de l'examen : comprehension et production ecrites, avec lectures de textes et redaction de courts essais ; comprehension orale, avec audition d'enregistrements publicitaires, radiophoniques, etc. ; production orale, avec des exposes et des debats sur des themes de societe.</p>									
【履修要件】									
<p>Pour suivre ce cours, un assez bon niveau de francais est souhaitable. Ce niveau correspond a un minimum de deux annees d'apprentissage du francais, ou a une annee de cours intensifs.</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>La note finale resultera d'une appreciation globale fondee sur les criteres suivants :</p> <ul style="list-style-type: none"> - assiduite - participation orale - travaux ecrits demandes deux ou trois fois pendant le semestre - examen final : entrainement a une epreuve complete du DELFF B2, a la fin du semestre (sous la forme d'un test d'1h30, et d'une composition a faire chez soi). 									
【教科書】									
<p>使用しない pas de commentaire</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） pas de commentaire</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>Pas de permanence : prendre rendez-vous avec l'enseignant.</p> <p>NB : Due to improper settings, KULASIS is unable to enter up the specific French graphic signs. I apologize about this regrettable fact.</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	シュメール語（初級）（語学） Sumer			担当者氏名	総合地球環境学研究所 森 若葉 上級研究員				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	語学
題目	シュメール語（初中級）								
【授業の概要・目的】									
<p>古代メソポタミアで話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末から三千年間にわたる数多くの資料を残している。この言語は、楔形文字で記され、複雑な接辞体系で知られている。本授業は、まだあきらかになっていない部分もあるシュメール語文法について概説をおこない、その古代の資料を実際に講読することを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期は、シュメール語文法の概説およびその書記体系である楔形文字の成立としくみについて解説を行う。その間、適宜簡単なシュメール語資料を読む予定である。</p> <p>後期は、シュメール語資料の講読を中心におこない、資料ごとに文法の解説、問題点の指摘を行う。また死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点、系統不明の古代のシュメール語の解読がどのようにおこなわれたのかについてもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキスト等である。なお、後期後半に楔形文字実習を予定している。</p>									
【履修要件】									
楔形文字の実習の際、粘土等を用意してもらう必要がある。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点および学年末レポートを予定。									
【教科書】									
なし。プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（初級）（語学） Swahili			担当者氏名	非常勤講師 井戸根 綾子				
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	スワヒリ語（初級）								
【授業の概要・目的】									
スワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。名詞クラスなどスワヒリ語の初級文法の理解を基本とし、語彙、基本文型、実際の会話表現なども学ぶことで、初級に相当する読解力の習得を目指す。									
【授業計画と内容】									
第1週はオリエンテーションを行なう。 第2週より、以下の項目について学習する。 あいさつ表現、自己紹介、動詞を使わない文（コピュラ・存在・所有）、現在時制・過去時制・未来時制・完了時制の表現、名詞クラスなど。 なお、学習の進度は適宜調整する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、平常点、定期試験の結果により、総合的に判断する。 なお、3分の2以上の出席を必須とする。									
【教科書】									
竹村景子 『ニューエクスプレス スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08527-1									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
http://el.osaka-gaidai.ac.jp/flc/swa/index.html (スワヒリ語独習コンテンツ)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。 各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（中級）（語学） Swahili	担当者氏名	非常勤講師 井戸根 綾子						
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講期	後期	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	スワヒリ語（中級）								
【授業の概要・目的】									
スワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。スワヒリ語の標準文法の理解をさらに深め、新たな語彙や慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力の習得を目指す。									
【授業計画と内容】									
第1週は初級で学習した文法の復習を行なう。 第2週より、以下の項目について学習する。 接続形、動詞の派生形（受身形・相互形・使役形・状態形など）、指示詞、条件節、関係節、ことわざ・格言など。 なお、学習の進度は適宜調整する。									
【履修要件】									
「スワヒリ語初級」受講者に限る。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、平常点、定期試験の結果により、総合的に判断する。 なお、3分の2以上の出席を必須とする。									
【教科書】									
竹村景子『ニューエクスプレス スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08527-1									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
http://el.osaka-gaidai.ac.jp/flc/swa/index.html (スワヒリ語独習コンテンツ)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。 各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ギリシア語(2時間コース)(語学) Greek (2H)	担当者氏名	非常勤講師 堀川 宏						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	語学
題目	ギリシア語文法(2時間コース)								
【授業の概要・目的】									
<p>古代ギリシア語アッティカ方言の基本を習得することを目指す。 語形変化をはじめとする基本文法を逐一学ぶことによって、原典を読んでゆくための基礎を整える。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>1回の授業で、教科書を1～2課すすむ。教科書記載の文法事項を簡単に解説したあと、次回に練習問題を読解する。出席者に練習問題の和訳をしてもらいながら、文法事項の復習と解説をおこなう。</p> <p>また、古典ギリシア語は語形変化が極めて重要なので、毎回の授業時に小テストによる反復練習をおこなう。(したがって、授業時間外の練習がつよく求められる。)</p> <p>教科書を修めたあと、学年末の3,4回は、平易なテキストを講読する予定である。テキストは、参加者の希望を考慮するが、方言の少ない平易なものを選択する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と平常点(授業時に実施の小テストによる)を重視する。その他、必要に応じて年度末に筆記試験をおこなう。									
【教科書】									
水谷智洋『古典ギリシア初歩』(岩波書店)ISBN:4000008297									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
参加者には教科書の復習と練習問題の準備が要求される。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ギリシア語（4時間コース）（語学） Greek (4H)	担当者氏名	非常勤講師 広川 直幸						
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月1,木1	授業形態	語学
題目	ギリシャ語（4時間コース）								
【授業の概要・目的】									
古代ギリシャ語アッティカ方言の基礎を学ぶ。頻出語彙および基本的文法（特に屈折）を習得することによって、一年後には辞書等を参考にしながら独力で原典を読めるようになることを目指す。									
【授業計画と内容】									
全36課の教科書を一回に一課ずつ学習する。およそ三課進むごとに一回、復習の回を設ける。まず学ぶべき古代ギリシャ語の文法とは、要するに屈折（語形変化）のことなので、授業の際、希文和訳の練習問題を解くだけでなく、屈折の口頭練習を徹底的に行う。また、新しい文法事項を導入する際に、日本人にとって理解が難しいであろう事柄について、重点的に解説を行い、彼我の発想法の違いを明確にする。教科書終了後は、平易なテキストの講読を行い、教科書で学んだ知識の定着を図る。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点を重視する。必要に応じて年度末に試験を行う。									
【教科書】									
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）ISBN:4000008293									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ラテン語（2時間コース）（語学） Latin (2H)			担当者氏名	非常勤講師 仲川 章				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	語学
題目	ラテン語（2時間コース）								
【授業の概要・目的】									
ラテン語の基礎的読解能力を養成すること、それがこの授業の目的である。ラテン語の知識は西洋文化および西洋現代諸語の理解を深めるのに役立つ。									
【授業計画と内容】									
<p>基本的な文法事項を教科書の順序に従って漸進的に学習してゆく。教科書にはない解説も適宜加えるつもりである。</p> <p>初回は第一課のみ。あとは毎回二課ずつ進む（一つの課は平均すると五頁程度である）。各課の末尾に設定されている練習問題（ラテン文の和訳）は受講者にあてて答えていただく。</p> <p>基本的な文法事項の具体例を幾つか挙げると、動詞の活用変化（第一～第四変化）／名詞の活用変化（第一～第五変化）／名詞の格（主格、属格、与格、対格、奪格、呼格）の用法／動詞の法（直説法、不定法、命令法、接続法）・相（能動相、受動相）・時称（現在、未来、未完了過去、完了、未来完了、過去完了）／分詞・動名詞・動形容詞の用法／接続詞（関係詞を含む）とさまざまな従属文。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点および学年末定期試験（筆記）。									
【教科書】									
松平千秋・國原吉之助 『新ラテン文法』（東洋出版）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
予習・復習が必要。理屈ぬきの暗記という局面も多々あるので、忍耐強い学習態度が求められる（ちなみに、習得目標語彙は約2500である）。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ラテン語（4時間コース）（語学） Latin (4H)			担当者氏名	奈良県立大学 地域創造学部 教授 谷 栄一郎				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5,木5	授業形態	語学
題目	ラテン語（4時間コース）								
【授業の概要・目的】									
<p>紀元前1世紀、黄金時代のラテン語を学ぶ。 本講義では、ラテン語文法の基礎を終え、古典期のラテン語原典を読める力をつけることを目標とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>教科書は19課あるので、1週間で1課半やれば前期中にほぼ文法を消化できる。名詞、形容詞、動詞の変化はたくさん出てくるが、その都度、全部覚えるよう努力すること。特に格変化を覚えられるかどうかはラテン語習得の成否が懸かっている。 後期からはガリア戦記をはじめとするラテン語原典を読む。 なお教科書にラテン詩の例文が少ないので、プリントの練習で補う。 授業は前回の練習問題をやったあと新しい課の文法の説明をする。受講生は毎回の練習問題を必ずやってこること。講義を聴いているだけでは語学はまったく身に付かない。 授業は必要に応じて多少延長することがあるので覚悟されたい。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期、後期末に筆記試験									
【教科書】									
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社）									
【参考書等】									
<p>（参考書） 大西英文 『はじめてのラテン語』（講談社（講談社現代新書）） 水谷智洋 『羅和辞典』（研究社）</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スペイン語(初級)(語学) Spanish			担当者氏名	大阪大学 大学院言語文化研究科 准教授 長谷川 信弥				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	語学
題目	スペイン語(初級)								
【授業の概要・目的】									
スペイン語の初級文法を教科書に沿って学習する。授業は文法事項の解説と練習問題からなる。初級文法を一通り学習するので進度が速く、そのため予習は必須である。									
【授業計画と内容】									
第1週：オリエンテーション、文字と発音 第2 - 4週：第1 - 2課[名詞、冠詞、主語人称代名詞、動詞現在形など] 第5 - 7週：第3 - 4課[ser・estar・hay、所有詞、指示詞など] 第8 - 11週：第5 - 6課[目的格人称代名詞、gustar構文など] 第12 - 15週：第7 - 8課[点過去、比較表現、疑問詞、感嘆文など]と試験 第15 - 18週：第9 - 10課[線過去、時刻表現、現在完了、過去完了など] 第19 - 20週：第11 - 13課：[未来形、接続法の活用、使役の構文など] 第21 - 24週：第14課[命令形、接続法] 第25 - 26週：文法補遺の確認 第27 - 30週：復習および試験									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験(筆記、年2回、70%)、出席点(30%)									
【教科書】									
中岡省治・他著『スペイン語への架け橋』(白水社) ISBN:978-4-560-01673-2									
【参考書等】									
(参考書) 辞書：『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』(小学館) 辞書：『現代スペイン語辞典』(白水社) 上田博人『スペイン語文法ハンドブック』(研究社) ISBN:978-4-327-39420-2(中級まで対応した新しい文法解説書(3,200+税))									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スペイン語（中級）（語学） Spanish			担当者氏名	大阪大学 大学院言語文化研究科 准教授 長谷川 信弥				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	語学
題目	スペイン語（中級）								
【授業の概要・目的】									
<p>スペイン語の初級文法を終えた学生を対象とし、比較的容易なスペイン語のテキストを講読する。新聞記事や小説など様々な種類の文章を読み、読解力の向上を目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業では、まずスペイン語初級文法を復習するため、初級文法の参考書を参照しつつ、平易なスペイン語文を読み、これまでの文法知識を確認していく。 そのうえで、比較的容易なスペイン語テキストを講読していくが、履修者は毎回の授業で、与えられたテキストを日本語に訳すこととする。そのため、毎回の授業前の予習は必須である。 講読するテキストは受講者の希望も取り入れるが、容易なテキストから始め、新聞記事や短編小説を中心とした文学作品も講読の対象とし、さまざまな種類の文章に慣れるよう努力する。</p>									
【履修要件】									
<p>スペイン語の初級文法が修得済みであること。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>試験（年2回、筆記、70%）、平常点(出席点等、30%)</p>									
【教科書】									
<p>プリントを配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級までを対象とした新しい文法参考書(¥3,200+税)）</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>特になし</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	イタリア語（初級4時間コース）（語学） Italian (4H)			担当者氏名	非常勤講師 菅野 類				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3,金2	授業形態	語学
題目	イタリア語（初級）								
[授業の概要・目的]									
<p>イタリア語文法の基礎を学習し、読み書きに必要な知識の習得を目指す。授業の進め方としては、文法解説の後に練習問題を解いてもらい知識の定着を図るというオーソドックスなものを想定している。イタリア語に興味のある初心者を対象とするが、相応の努力は求められる。毎回予習を行い、自分が理解できる部分とそうでない部分を明らかにしたうえで授業に望むことが望ましい。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>第1週：オリエンテーションと発音 第2 - 3週：Lezione 1 [名詞、動詞 essereなど] 第4 - 5週：Lezione 2 [形容詞、規則動詞の直説法現在など] 第6 - 7週：Lezione 3 [動詞 avere、不規則動詞の直説法現在など] 第8 - 9週：Lezione 4 [補助動詞、補語人称代名詞など] 第10 - 11週：Lezione 5 [直説法近過去、再帰動詞など] 第12 - 13週：Lezione 6 [直説法未来、ジェルンディオなど] 第14 - 15週：Lezione 7 [直説法半過去、比較級など] 第16 - 18週：Lezione 8 [命令法、受動態、関係代名詞など] 第19 - 20週：Lezione 9 [接続法現在・過去など] 第21 - 22週：Lezione 10 [条件法現在・過去など] 第23 - 24週：Lezione 11 [接続法半過去・大過去など] 第25 - 26週：Lezione 12 [直説法遠過去など] 第27 - 30週：講読</p> <p>学習の理解度に応じて、変更される場合がある。</p>									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点 50% 試験 50%									
[教科書]									
東京大学イタリア語教材編集委員会 『イタリア語のスタート 文法と練習』（白水社）ISBN:978-4-560-01763-0									
[参考書等]									
（参考書） 郡史郎・池田廉 『ポケットプログレッシブ 伊和・和伊辞典』（小学館）ISBN:4-09-506121-9									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語会話（中級）（語学） Spoken Italian			担当者氏名	文学研究科 特定准教授 ダニエラ・ヴァガータ			
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態
題目	イタリア語会話（中級） Conversazione in italiano (livello intermedio)							
【授業の概要・目的】								
Il corso si propone lo sviluppo delle quattro abilità base della comunicazione (parlare, scrivere, leggere e ascoltare), con una particolare attenzione alla comunicazione orale.								
【授業計画と内容】								
Attraverso lo studio di alcuni temi vicini ai bisogni reali della vita in Italia, si applicano le nozioni grammaticali precedentemente studiate, e si acquisisce gradualmente il nuovo lessico rilevante ai fini del tema trattato. Sarà dato ampio spazio alla conoscenza di alcuni aspetti preponderanti della cultura italiana attraverso l'ascolto di canzoni, la visione di film, e la lettura di brevi articoli dai principali quotidiani italiani. E' inoltre previsto il ripasso e l'approfondimento di alcune nozioni di sintassi e di grammatica della lingua italiana attraverso lo svolgimento di alcune esercitazioni scritte e orali. Questo corso e' rivolto agli studenti di italiano elementare e intermedio di tutte le facoltà. E' richiesta una partecipazione attiva da parte dello studente.								
【履修要件】								
E' indispensabile una conoscenza basilare della lingua italiana.								
【成績評価の方法・基準】								
E' ammessa una sola assenza. E' previsto un esame finale.								
【教科書】								
Il materiale verra' distribuito in dispensa settimanalmente.								
【参考書等】								
（参考書） 特になし								
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））								
Si richiede una partecipazione attiva da parte dello studente anche attraverso lo svolgimento di esercizi e lo svolgimento di un diario settimanale.								
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。								

授業科目名 <英訳>	朝鮮語(初級)(語学) Korean			担当者氏名	京都産業大学 文化学部 助教 朴 真完				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	語学
題目	朝鮮語(初級)								
【授業の概要・目的】									
文字と発音の解説からはじめて、用言の活用、助詞の用法、接続語尾にいたるまで、初級文法を一 通り解説する。各課の内容は以下の文法事項のほか、簡単な会話を含む。また、適宜文化、歴史の 話題を折り込み韓国・朝鮮についての理解も深めてゆきたい。									
【授業計画と内容】									
学習する主要な文法項目は以下の通りである(順不同)。									
1) 文字と発音、2) 音変化、3) 丁寧語尾二種(平叙、疑問)、4) 尊敬、5) 基本的な接続語尾、6) 時 制(過去・未来)、7) 連体形、8) 否定・禁止、9) 数詞と助数詞、10) 助詞の形式と用法、11) 変則活 用									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席点10%、小テスト30%、期末試験60%									
【教科書】									
熊谷明泰(2011) 『(初級韓国朝鮮語教材)アリラン』(朝日出版社) 教科書のほか、適宜プリント教材を使用する。									
【参考書等】									
(参考書) 油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編(1993) 『朝鮮語辞典』(小学館)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業は教科書に沿って行いますので、事前に教科書を購入して下さい。 授業時に指示する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	朝鮮語（中級）（語学） Korean			担当者氏名	人文科学研究所 教授 金 文京				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	語学
題目	朝鮮語(中級)								
【授業の概要・目的】									
初級修了者を対象として、中級程度の文法の習得、会話、読解能力の養成を目的とする。具体的には新聞が読め、日常の会話ができる程度を目指したい。また韓国・朝鮮に関する研究を志す者に対しては、その分野の専門論文が読めるよう関連する知識を教授する。									
【授業計画と内容】									
前期は最近の韓国の新聞記事を教材とし、演習形式で出席者にそれらを読んでもらい、必要な文法事項、関連知識について説明する。あわせて韓国映画、ドラマなどを使用して、聞きとり、会話能力を習得させる。後期は出席者の希望をも勘案して、雑誌論文、小説、テレビドラマなどを教材として、前期同様の方法で授業を行い、最終的に通常の文章が読め、日常会話ができるレベルを目指す。また作文能力向上のため、随時作文の宿題を課する。									
【履修要件】									
朝鮮語の初級を履修したか、それと同等のレベルの学習者であること									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価（出席と宿題による）									
【教科書】									
プリント教材を使用する									
【参考書等】									
（参考書） 菅野裕臣監修(1987)『朝鮮語を学ぼう』（三修社） 生越直樹(2009)『ことばの架け橋 中級表現編』（白帝社）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業時に指示する									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット（2時間コース）（語学） Sanskrit (2H)			担当者氏名	文学研究科 准教授 横地 優子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	語学
題目	サンスクリット初級文法（2時間コース）								
【授業の概要・目的】									
<p>古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけさせることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>文法事項の解説と練習問題による読解演習とを平行して授業を進める。扱う主な文法事項は：</p> <p>サンスクリット語概論、音論・連声（第1-3週） 名詞・形容詞曲用（第4-9週：母音語幹、第10-15週：子音語幹） 複合語、代名詞、数詞（第16-17週） 動詞現在活用（第18-19週：第1種活用、第20-23週：第2種活用） 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞ほか（第24-28週） まとめ（第29-30週）</p> <p>授業の進行は学習の理解度に応じて調整する場合がある。</p>									
【履修要件】									
予備知識は必要ない。幅広い専攻からの受講を歓迎する。									
【成績評価の方法・基準】									
平素の成績と筆記試験による。特に平常点（出席率および宿題）を重視する。									
【教科書】									
上村勝彦・風間喜代三 『サンスクリット語・その形と心』（三省堂）ISBN:978-4-385-36465-0									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
毎回宿題を課す。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット(4時間前期コース)(語学) Sanskrit (4H)			担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月5,木5	授業形態	語学
題目	Sanskrit Grammar								
【授業の概要・目的】									
An introduction to the Sanskrit language for beginners. This class aims to cover the basics of Sanskrit Grammar in one term.									
【授業計画と内容】									
We will focus on covering the material taught in R. Goldman's Devavanipraveshika, reading all of the exercises and actively translating into Sanskrit. Supplementary materials and exercises will be provided as necessary.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance, participation, quizzes.									
【教科書】									
1) Devavanipravesika: An Introduction to the Sanskrit Language (Paperback) by Robert P. Goldman (Author), Sally J. Sutherland (Author), Paperback, Publisher: Center for South & Southeast; 2nd Rev edition (August 1987), ISBN-10: 0944613004, ISBN-13: 978-0944613009 Arthur A. MacDonell, A Sanskrit Grammar for Students (OUP, 1971)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット(4時間後期コース)(語学) Sanskrit (4H)			担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月5,木5	授業形態	語学
題目	Sanskrit Grammar								
【授業の概要・目的】									
An introduction to the Sanskrit language for beginners. This class aims to cover the basics of Sanskrit Grammar in one term.									
【授業計画と内容】									
We will focus on covering the material taught in R. Goldman's Devavanipraveshika, reading all of the exercises and actively translating into Sanskrit. Supplementary materials and exercises will be provided as necessary.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance, participation, quizzes.									
【教科書】									
1) Devavanipravesika: An Introduction to the Sanskrit Language (Paperback) by Robert P. Goldman (Author), Sally J. Sutherland (Author), Paperback, Publisher: Center for South & Southeast; 2nd Rev edition (August 1987), ISBN-10: 0944613004, ISBN-13: 978-0944613009 Arthur A. MacDonell, A Sanskrit Grammar for Students (OUP, 1971)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ヘブライ語(語学) Hebrew		担当者氏名	非常勤講師 手島 勲矢					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	古典ヘブライ語初級文法								
【授業の概要・目的】									
<p>聖書テキストおよびラビ文献を声に出して読むことができることを達成目標に初級ヘブライ語文法を概説する。声に出して読めるための基礎情報(文字と母音記号)および言葉の種類と形態認識の能力の獲得を目指す。テキストをベースに文法情報から意味を引き出す解釈基礎の習得にも努力する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前半は、アルファベットと母音記号などのマソラ記号を学ぶことから始めて、名詞、形容詞、前置詞、動詞の分詞形について学ぶ。次に、名詞や前置詞につく人称接尾辞の変化、規則動詞のカル形の人称変化、動詞の態などについて学ぶ。後半は復習から始めて、不規則動詞の形態変化を学びながら、聖書およびユダヤ教文献から選んだテキストをベースにして文法情報を確認しながら解釈の可能性の思考に慣れ親しむ。読解テキストは、創世記、出エジプト記、申命記、ヨシヤ記、詩篇、コヘレト等からのもの数節、またミシュナー・アボット他から選んだ数節。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点評価(前半小テスト(20%)と小クイズ(10%)と後半レポート(70%)の合計)狙いは、アレフベットと母音記号を組み合わせて読める能力、品詞を分類理解できる能力、辞書でテキストの言葉の意味を見つける能力、意味の可能性(複数)を見出す能力などの目標達成度を見るもの。</p>									
【教科書】									
<p>授業中に指示する 補助的プリントを配付する。</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	イラン語（初級）（語学） Iranian			担当者氏名	大阪大学 大学院言語文化研究科 教授 森 茂男				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	語学
題目	イラン語（初級）								
【授業の概要・目的】									
現代ペルシア語の文法について学ぶ。基礎とはいえ、ペルシア語の読解に必要な十分な文法事項を習得する。後期の途中からは古典ペルシア語文献を含む平易なテキストを用いて読解力の基礎を身につける。									
【授業計画と内容】									
教科書にしたがって授業一回につき、一課半ほどのペースで進む。文法を終了すると（多分、10月半ば）平易なテキストを使って読解力の養成に努める。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
原則として、特に試験は行わず出席点と平常点によって総合的に評価する。									
【教科書】									
森茂男『ペルシア語初級文法』（最初の授業時に配布） 後期の途中から使用する読解用テキストは10月のはじめに配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 黒柳恒男『現代ペルシア語辞典』（大学書林） 参考書の詳細については初回の授業時に説明する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	チベット語（初級）（語学） Tibetan	担当者氏名	愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	月1	授業形態	語学
題目	チベット語初級								
【授業の概要・目的】									
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。</p> <p>受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。</p> <p>テキストは、プリントとして配布する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>成績は、出席点および学期末に行う試験によって決定する。 チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。</p>									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	チベット語（中級）（語学） Tibetan			担当者氏名	文学研究科 准教授 宮崎 泉				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	語学
題目	チベット語（中級）								
【授業の概要・目的】									
この授業は、チベット語初級を終えた学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めるためのものである。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中に使われているチベット語にも様々な種類があるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げ、どの分野の仏教文献にも対処できる基礎的な能力を身につけることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
授業では、偈頌だけからなる文献や注釈文献といったスタイルの違う文献も含め、古チベット語を含む仏教文献、サンスクリットからの翻訳文献、チベット撰述文献を取りあげる。それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴の解説と読解のために必要な内容の説明を行う。その後各文献を五週程度かけて輪読する。									
【履修要件】									
チベット語初級文法を終えていること。読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。出席と授業の中で発表の内容により評価する。									
【教科書】									
授業中にプリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アラブ語（初級）（語学） Arabic	担当者氏名	国立民族学博物館 教授 西尾 哲夫						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	語学
題目	アラブ語								
【授業の概要・目的】									
現代アラビア語の初級程度の文法を習得することを目標にする。また基本的な会話ができることをめざす。									
【授業計画と内容】									
アラビア語の歴史やアラビア語を使用する社会ならびにイスラームとの関係について簡単にふれたのち、アラビア語を学習する上で必携すべき辞書等の参考文献について紹介する。アラビア文字の習得から初級文法について講義する。またアラビアンナイト等のアラブ文学についてもアラブ文化理解の一環として紹介する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況ならびに平常点による。									
【教科書】									
こちらで配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 西尾哲夫・師岡カリマ・エルサムニー 『CD版エクスプレス エジプト・アラビア語』（白水社） 西尾哲夫 『アラビアンナイト 文明のはざまに生まれた物語（岩波新書）』（岩波書店） 西尾哲夫 『世界史の中のアラビアンナイト』（NHK出版）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級Ⅰ）（語学） Polish	担当者氏名	神戸市外国語大学 森田 耕司 外国語学部 准教授						
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	語学
題目	ポーランド語初級Ⅰ								
【授業の概要・目的】									
ポーランド語の初級文法を習得する。									
【授業計画と内容】									
ポーランド語はスラブ諸語の一つとして、チェコ語、スロヴァキア語とともに、西スラブグループを構成する。文字は、ロシア語とは異なり、普通のローマ字に必要な改変記号をつけて使用する。この授業では、文字の読み方、母音と子音の発音から始めてポーランド語の初級文法を教科書に沿って学習する。概ね次のような文法項目を学習する。名詞の性の区別、単数形と複数形、男性名詞・女性名詞・中性名詞の格変化、人称代名詞の変化、形容詞的代名詞の変化、形容詞の変化、動詞の現在形・過去形・未来形、非人称文、動詞の体（アスペクト）、命令法、能動分詞と受動分詞の作り方、前置詞の用法、仮定法など。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況（50%）と定期試験（50%）の両方で評価する。									
【教科書】									
石井哲士朗・三井レナータ著 『ニューエクスプレス ポーランド語』（白水社）ISBN:978-4-560-06794-9									
【参考書等】									
（参考書） 木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正〔編〕 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書を中心に授業を行うので、毎回、各自予習・復習を怠らないこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（中級Ⅰ）（語学） Polish	担当者氏名	神戸市外国語大学 外国語学部 准教授 森田 耕司						
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	語学
題目	ポーランド語中級Ⅰ								
【授業の概要・目的】									
この授業では、「ポーランド語初級Ⅰ」を終えた学生がスムーズに中級へレベルアップできるようにすることを主な目的とする。ポーランド政府公認のポーランド語国家検定試験のB 1（初中級）に合格できる程度の運用能力養成をめざす。									
【授業計画と内容】									
初級時に学習した基礎的な文法事項（名詞・形容詞・形容詞的代名詞・人称代名詞の格変化、形容詞の比較変化、副詞とその比較変化、動詞の現在形・過去形・未来形、非人称文、動詞の体、仮定法、sie動詞、命令法など）の復習を豊富な練習問題を通して行いながら、文法への理解を深め、知識の安定化を図る。特に応用力の養成に重点を置く。									
【履修要件】									
「ポーランド語初級Ⅰ」を履修済みであるか、もしくはそれ同等の知識を有すること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況（50%）と定期試験（50%）の両方で評価する。									
【教科書】									
初回授業時に指示するので、履修希望者は必ず出席すること。									
【参考書等】									
（参考書） 木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正〔編〕『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3（授業時必携） 石井哲士朗・三井レナータ著『ニューエクスプレス ポーランド語』（白水社）ISBN:978-4-560-06794-9（授業時必携）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書を中心に授業を行うので、毎回、各自予習・復習を怠らないこと。そして、辞書を引く苦勞をいとわないこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級II）(語学) Polish	担当者氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki						
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	語学
題目	ポーランド語初級								
【授業の概要・目的】									
ポーランド語の学習を始めた人を対象にネイティブの教員が文法事項の復習をし、それぞれの表現が身に付くように練習して、ポーランド語能力試験に定義されるA2のレベルを目指します。									
【授業計画と内容】									
基本的な日常表現と文法の基礎を学び、丁寧な挨拶や自己紹介から始めて、ゆっくりと、簡単な言い回しを使いながら、家族、趣味、料理、仕事などのテーマについて簡単に話すことができるように学んでいきます。 授業中は、聴解練習と会話練習をたくさん行います。									
【履修要件】									
とくにないが、「ポーランド語初級」と並行して出席することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と学年末の試験の両方で評価する。									
【教科書】									
授業中にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（中級II）(語学) Polish	担当者氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki						
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	語学
題目	ポーランド語中級								
【授業の概要・目的】									
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。自身の意見や観点を、より明確に伝えられるようになることを目指し、やや複雑な文章構造を学びます。ポーランド語能力試験に定義されるB1のレベルを目指します。									
【授業計画と内容】									
ポーランド語の文法の基礎と基本的な語彙力を持つ学生を対象に、会話、聴解、読み書き等の能力を高める練習を行います。 実際に日常生活でよく使われる表現を紹介し、実生活の場面で必要な会話能力の充実を目標とします。									
【履修要件】									
ポーランド語の文法の基礎を習得していること、および簡単に自己紹介したり家族・趣味等について話すことができるような語彙力を持っていることが要求される。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と学年末の試験の両方で評価する。									
【教科書】									
授業時にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	モンゴル語（初級）（語学） Mongolian	担当者氏名	大阪大学 世界言語研究センター 教授 塩谷 茂樹						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	語学
題目	モンゴル語初級								
【授業の概要・目的】									
キリル文字による現代モンゴル語（モンゴル国の標準語、モンゴル語・ハルハ方言を指す）の初級レベルの基礎文法の総合的習得を目標とします。									
【授業計画と内容】									
文字と発音を最初に学習します。特に、日本語と異なる発音を徹底的に学びます。その後第1課～第20課からなるテキスト（会話を含む）を教科書として用い、各課の文法説明、練習問題、テキストの解説、発音練習の順で授業を進めます。必要に応じ、モンゴルの文化習慣にも触れ、皆さんをモンゴルの世界にいざないます。									
【履修要件】									
語学に興味のある人なら誰でも歓迎します。									
【成績評価の方法・基準】									
評価は出席を最重要視し、残りは授業態度・授業の積極的参加によって、総合的に判断します。									
【教科書】									
塩谷茂樹、E・プレブジャブ著『初級モンゴル語』（大学書林2001）									
【参考書等】									
（参考書） 塩谷茂樹、Y a・バダムハンド『初級モンゴル語練習問題集』（大学書林2011）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業は教科書（『初級モンゴル語』大学書林2001）に沿って行いますので、出席者は事前に教科書を購入しておいて下さい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代インド語（ヒンディー）（語学） Hindi	担当者氏名	北海道大学 スラブ研究員センター 研究員 小松 久恵						
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	語学
題目	現代インド語（ヒンディー語）								
【授業の概要・目的】									
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初頭文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。									
【授業計画と内容】									
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。幸い、ヒンディー語は文法が簡単で、日本語に極めてよく似ているので、日本人学習者にとり習得することはそれほど困難ではないであろう。教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（40％）と筆記試験（期末30％、年度末30％）によって評価する。									
【教科書】									
町田和彦 『ニューエクスプレス、ヒンディー語』（白水）ISBN:978-4-560-06791-8（同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）									
【参考書等】									
（参考書） 辞書については初回の授業で紹介する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	オランダ語（初級）（語学） Dutch			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 河崎 靖				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	語学
題目	オランダ語 初中級								
【授業の概要・目的】									
オランダ語の総合的な語学力を養成することを目標とする。									
【授業計画と内容】									
入門レベルの文法解説から始め、話す・聴く能力を高めるドリルも行き、後期には専門的なテキストにもチャレンジできるくらいのレベルを目指す。併せて、ランデスクンデ的な情報を盛り込み、ゲルマン語の中でも低地諸国 (Low Countries)における言語事情がいかなるものなのか講義する。専門分野を問わず熱心な参加を期待する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
基本的に平常点による。積極的な授業参加が望まれる。									
【教科書】									
こちらでプリント教材を準備する。									
【参考書等】									
（参考書） 河崎 他 『オランダ語の基礎』（白水社） 河崎 他 『低地諸国の言語事情』（大学書林）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語(語学) English	担当者氏名	高等教育研究開発推進機構 特定外国語担当講師 服部 美樹						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	語学
題目	英文インタビューを読む								
【授業の概要・目的】									
<p>英文のインタビュー記事を読む。質疑応答という流動的な形態の中で、論点をつかむ読解力を訓練する。また、踏み込んだ議論をする際の質疑応答のパターンを知りそれに慣れること、さらには当該話題について簡単な議論ができるレベルに到達することを目指して学習する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>教科書として、日本の様々な分野で活躍する著名人が、自然や環境問題に関して論じているインタビュー集を用いる。英文は平易で、注釈も付いているので読みやすい教材である。1課から順に取り上げていく予定。</p> <p>授業では、まず英文を精読したうえで、練習問題で論点の確認などをしながら内容を振り返りたい。前もって担当者を決めることはせず、出席者に少しずつ音読と訳を担当してもらう予定である。従って、全員全範囲に目を通してることが求められる。インタビューを断片的、部分的に理解して終わるのではなく、ひとつひとつの発言がどのような文脈の中でなされているのか、ということを確認しながら読んでいきたい。またグループでのインタビュー練習、音読練習なども随時行う。</p> <p>さらに、上記教科書のほかに、応用練習として、異なる分野の英文インタビューも読む予定である(その場合には教材をプリントで用意する)。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(授業への参加状況)と英文レポート(前期1回、後期1回)で総合的に評価する。									
【教科書】									
ASLE-Japan/文学・環境学会 『Echoes of the Environment』(鶴見書店) ISBN:4-7553-0322-2 上記教科書以外に、プリントも使用する予定									
【参考書等】									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業時に適宜指示する									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語(語学) English	担当者氏名	高等教育研究開発推進機構 特定外国語担当講師 N . リー						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水1	授業形態	語学
題目	Global understanding through on-line publishing								
[授業の概要・目的]									
<p>This course aims to develop students' awareness and understanding of the global society by concentrating on problems occurring in their local surroundings. The motive of this course originated from the Miniature Earth concept (Donella Meadows, 1990) where the world population was reduced to a community of 100 people in order to highlight global inequalities and differences.</p> <p>While many world problems have repeatedly been reported such as hunger, poverty, disease, education, war, pollution, religious beliefs and political regimes in the less privileged countries, there are also problems that exist in Japan. "What if Japan is a village of 100 people?" In this course, students will be led into a thought-provoking process where the Japanese population is reduced to a community of 100 people to highlight Japanese social inequalities and differences. Students will work in groups and choose one critical issue of society which they relate to or are interested in. Topics need to be current and crucial for the student generation. Students will collaboratively research, analyze, discuss and organize information and then propose feasible solutions. The following 5W1H questions provide the foundation for students to begin their research:</p> <p>What is the problem? Why should people care about this problem? Who is affected by this problem? (Who benefits/ loses? What are the causes?) Where is the problem? When did the problem occur? How can the problem be solved?</p> <p>This course develops students' ability to research, analyze, understand and to make judgment of inequalities and problems hidden in their local surroundings. Students will convey research findings to the global audience by web publishing. It is believed that this bottom-up learning model of local issues will enable students to become sensitive and critical toward understanding global problems.</p> <p>Specific objectives:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Gain a better understanding of current local and global problems 2) Develop research, discussion, analysis and organization skills in English 3) Publish research findings in English online (Using Wikispaces) 4) Collaboratively present research findings in front of audience 									
[授業計画と内容]									
<p>Students will work in groups and create information for the global society about the "unheard voices" in Japan. Students will collaboratively publish and edit information on class website: http://miniaturejapan.wikispaces.com.</p> <p>Besides transmitting research findings to the global audience via web publishing, students will also convey their findings to other students in the form of group presentations at the end of the semester. Presentations can</p>									
----- 英語(語学)(2)へ続く -----									

英語(語学)(2)

be prepared in any format ranging from poster presentations, songs, plays, photo exhibits to other creative formats designed by students. All group members need to participate actively and equally before and during the presentation.

【履修要件】

This class will be conducted in English and students are expected to use 100% English in class.

【成績評価の方法・基準】

Weekly attendance is required. However, evaluation will not be based on attendance. Students will be evaluated on small tests, homework, participation and final presentation.

【教科書】

To be announced later.

【参考書等】

(参考書)

To be announced later.

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

特になし

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing	担当者氏名	非常勤講師 大崎 紀子						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	アカデミック・ライティング(1)								
【授業の概要・目的】									
<p>学術論文やエッセイ(小論文)などの論理的な文章を英語で書く能力を養成する。前期では、パラグラフの構造を学び、英文を読むことを通じて論理的な文章構成への理解を深め、自らの視点を反映した論理的な文章を英語で書く活動を行う。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>1 アカデミック・ライティングについての説明 2-4 パラグラフの構造の理解 5 句読法 6-9 パラグラフ・ライティングの演習 10 つなぎ言葉(transition words) 11-14 小論文作成演習:受講者の作文に基づく内容・構成の検討を含む 15 まとめ</p>									
【履修要件】									
受講者20人まで									
【成績評価の方法・基準】									
授業参加(30%)、アサインメント(70%)									
【教科書】									
プリント教材を配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
Alice Oshima and Ann Hogue 『Writing Academic English, Fourth Edition』(Pearson Longman,2006.)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>課題の提出は、原則として電子メールを利用し、メールによる教員とのやり取りを英語で行うこと によって、英文メールの書き方についても学ぶ。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing	担当者氏名	非常勤講師 大崎 紀子						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	アカデミック・ライティング(2)								
【授業の概要・目的】									
英文アブストラクト、要約、引用、文献目録の書き方など、英語論文を書くための基本的な方法論を学び、英語で学術論文を書く能力を養う。									
【授業計画と内容】									
1 アカデミック・ライティングの説明 2-5 要約の書き方と演習 6-8 引用の方法と演習 9 スタイル(MLA、APA、Chicagoスタイル等) 10 文献目録の書き方と演習 11-14 小論文作成演習：受講者の作文に基づく議論、検討を含む 15 まとめ									
【履修要件】									
前期を受講していることが望ましい。(受講者20人まで)									
【成績評価の方法・基準】									
授業参加(30%)、アサインメント(70%)									
【教科書】									
プリント教材を配布する。									
【参考書等】									
(参考書) Alice Oshima and Ann Hogue 『Writing Academic English, Fourth Edition』(Pearson Longman,2006.)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
課題の提出は、原則として電子メールを利用し、メールによる教員とのやり取りを英語で行うこと によって、英文メールの書き方も学ぶ。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	書道(演習) Calligraphy	担当者氏名	非常勤講師 日比野 実						
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	演習
題目	書道								
【授業の概要・目的】									
この講義は、東洋文化の根幹である「漢字」と日本文化の根幹である「かな」の歴史的な変遷を時系列に概観しながら、各書体の代表的な姿を実際に教室で書写し、特徴を会得していくことに重きを置いている。									
【授業計画と内容】									
(前期)									
1 週目 . ガイダンス・書とはなにか?									
2 ~ 5 . 今から約3700年前の甲骨文・金文に始まる篆書									
6 ~ 9 . 漢代に花開き今なお輝きをもつ隷書									
10 ~ 15. 唐代に完成をみて、以後の標準書体となった楷書。									
(後期)									
1 ~ 6 . 文字の動きの中に書き手個人の生き様が出ている行書・草書									
7 ~ 12. 仮名の書・万葉仮名や草仮名を経て平安古筆にいたる日本人の表記の変遷と美的感覚の推移。									
13 ~ 15 . 現代の書・生活の書									
授業では、まずスクリーンでのプレゼンテーションやビデオで、書体の歴史的な側面や技法の特徴を理解した上で、実技を行い、清書を仕上げしていく。									
現在、日常生活の中で、毛筆を使うことの歴史的な使命はすでに終わっているが、文字そのものの芸術性は、今後も途絶えることなく保たなくてはならないものだ、思い至るはずだ。									
【履修要件】									
実技科目であるため、毎回書道道具の携帯が必要となる。									
【成績評価の方法・基準】									
清書の完成度 4 : レポート 3 : 平常点 3 程度を考えている。 定期試験は実施しない。									
【教科書】									
テキストは用いず、毎回プリント教材を配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
時系列で書を概観する授業なので、欠席した場合、その日の課題を後日自宅等で仕上げ提出することを推奨している。									
質問や連絡は、 m-hibino@mbox.kyoto-inet.or.jp まで。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									